一般財団法人米子市文化財団
埋蔵文化財発掘調査報告書 6

一般国道180号（南部バイパス）道路改良工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ

鳥取県西伯郡南部町

境矢石（さかいやいし）遺跡

第２分冊

理化学的分析
総　　括
遺物観察表
写真図版編

2015

一般財団法人　米子市文化財団

目　　次

（第２分冊）
第５章　理化学的分析
　第１節　境矢石遺跡における自然科学分析……（株式会社　古環境研究所）１
　第２節　境矢石遺跡３区SD11における花粉分析……（株式会社　古環境研究所）９
　第３節　境矢石遺跡２・３区における樹種同定……（株式会社　古環境研究所）13
　第４節　境矢石遺跡４・６区における樹種同定……（株式会社　古環境研究所）16
　第５節　境矢石遺跡出土炭化材の放射性炭素年代測定
　　……（パリノ・サーヴェイ株式会社）20
　第６節　境矢石遺跡４区SK４出土炭化材の樹種同定と放射性炭素年代測定
　　……（株式会社　古環境研究所）22
　第７節　境矢石遺跡におけるリン・炭素分析……（パリノ・サーヴェイ株式会社）26
　第８節　境矢石遺跡５区SK４・12の赤色顔料の分析
　　……（パリノ・サーヴェイ株式会社）29
　第９節　境矢石遺跡における種実同定……（株式会社　古環境研究所）32
　第10節　境矢石遺跡出土鉄器の非破壊分析
　　……（独立行政法人　日本原子力研究開発機構　三ツ井誠一郎）35
　第11節　境矢石遺跡出土ガラス管玉の自然科学的調査
　　……（独立行政法人　国立文化財機構　奈良文化財研究所　田村朋美）49

第６章　総　　括
　第１節　境矢石遺跡の弥生時代墳墓について……（小原）55
　第２節　境矢石遺跡出土の石器について……（高橋）70
　第３節　境矢石遺跡のまとめ……（高橋）81

遺物観察表……89
写真図版

（第１分冊）
序
例言
凡例
目次

第１章　調査の経緯と経過
　第１節　調査に至る経緯……（高橋）１
　第２節　調査の経過……（高橋）２

第３節　整理作業の経過……（高橋）３
第４節　調査体制……（高橋）４

第２章　位置と環境
第１節　地理的環境……（高橋）７
第２節　歴史的環境……（高橋）７

第３章　調査の概要
第１節　調査区の名称と調査の方法……（高橋）12
１．調査区の名称……12
２．調査の方法……13
第２節　遺跡の立地と調査区の層序……（高橋）14
１．遺跡の立地……14
２．調査区の層序……14
(1) １区・５区の層序……14
(2) ２区・３区の層序……17
(3) ４区の層序……21
(4) ６区の層序……24

第４章　検出した遺構と遺物
第１節　縄文時代……（高橋）33
１．概　　要……33
２．陥　　穴……33
第２節　弥生時代前期～中期……51
１．概　　要……（高橋）51
２．土壙墓、木棺墓……（高橋）51
３．溝状土壙、弧状溝、土壙……（高橋　濵野）120
４．段状遺構……（濵野）162
５．溝状遺構……（高橋）162
６．石　　列……（高橋　濵野）163
７．貯 蔵 穴……（高橋）175
８．土　　坑……（高橋）181
９．土 器 溜……（高橋）189
第３節　弥生時代後期……191
１．概　　要……（高橋）191
２．竪穴建物……（高橋　濵野）191
３．段状遺構……（高橋　濵野）318
４．木 棺 墓……（高橋）355
５．土　　坑……（高橋）355

６．溝状遺構……（高橋　濵野）359
第４節　古墳時代前期……364
１．概　　要……（高橋）364
２．竪穴建物……（高橋）364
３．段状遺構……（高橋）390
４．竈……（高橋）392
第５節　古墳時代中期……403
１．概　　要……（高橋）403
２．竪穴建物……（高橋　濵野）403
３．竪穴状遺構……（高橋）437
４．段状遺構……（高橋　濵野）439
５．土　　坑……（濵野）442
６．溝状遺構……（高橋）443
第６節　古墳時代後期……445
１．概　　要……（高橋）445
２．竪穴建物……（濵野）445
３．土壙墓、木棺墓……（高橋）447
４．横 穴 墓……（佐伯）450
５．版築状遺構……（高橋）452
第７節　古　　代……465
１．概　　要……（高橋）465
２．段状遺構……（高橋　濵野）465
３．掘立柱建物……（高橋　濵野）518
４．柵　　列……（高橋　濵野）523
５．土　　坑……（高橋　濵野）524
６．溝状遺構……（高橋）526
第８節　中・近世……537
１．概　　要……（高橋）537
２．段状遺構……（高橋　濵野）537
３．溝状遺構……（高橋　濵野）545
第９節　ピット出土遺物……（高橋）551
第10節　遺構内包含層出土遺物……（高橋）553
第11節　突帯文土器……（濵野）560
第12節　遺構外出土遺物……（高橋）567
第13節　表土出土遺物……（高橋）611

挿図目次

第718図　境矢石遺跡におけるプラント・オパール分析結果 …… 4
第719図　境矢石遺跡における花粉ダイアグラム … 7
第720図　境矢石遺跡３区SD11における花粉ダイアグラム …… 11
第721図　暦年較正結果 …… 25
第722図　試料採取位置 …… 26
第723図　腐植含量とリン酸含量の相関 …… 28
第724図　５区SK４の赤色物質のＸ線回析図…… 30
第725図　５区SK12の赤色物質のＸ線回析図…… 30
第726図　試料①の外観写真 …… 35
第727図　試料②の外観写真 …… 36
第728図　試料③の外観写真 …… 36
第729図　XRDF分析時の試料の設置状況 …… 37
第730図　Ｘ線CT分析時の試料の設置状況…… 38
第731図　ハイブリッド方式Ｘ線CT断面撮像位置… 39
第732図　ハイブリッド方式Ｘ線CT断面撮像位置… 39
第733図　試料①のXRF分析結果 …… 40
第734図　試料①のXRD分析結果 …… 40
第735図　試料②のXRF分析結果 …… 41
第736図　試料②のXRD分析結果 …… 41
第737図　試料①のＸ線CT３次元画像…… 42
第738図　試料②のＸ線CT３次元画像…… 43
第739図　試料③のＸ線CT３次元画像…… 43
第740図　試料①のＸ線CT断面…… 45
第741図　試料②のＸ線CT断面…… 46
第742図　試料③のＸ線CT断面…… 47
第743図　境矢石遺跡出土ガラス管玉 …… 51
第744図　長砂第３遺跡出土ガラス管玉 …… 51
第745図　CR画像…… 51
第746図　AR画像…… 51
第747図　境矢石遺跡出土ガラス管玉の蛍光Ｘ線スペクトル …… 52
第748図　長砂第３遺跡出土ガラス管玉の蛍光Ｘ線スペクトル …… 52
第749図　境矢石遺跡出土ガラス管玉の可視分光スペクトル …… 52
第750図　長砂第３遺跡出土ガラス管玉の可視分光スペクトル …… 52
第751図　器種組成 …… 72
第752図　砥石、磨石・敲石類、台石の石材組成 … 73
第753図　石材組成及び石材別器種組成 …… 73
第754図　境矢石遺跡と清水川六反田遺跡における剥片石器の器種組成 …… 74
第755図　各遺跡における石鏃の石材組成 …… 75
第756図　各遺跡における石鏃の型式組成 …… 76
第757図　各遺跡における石鏃の長さ（黒曜石）…… 77
第758図　各遺跡における石鏃の長さ（サヌカイト） 78
第759図　境矢石遺跡と清水谷遺跡における石鏃の型式組成 …… 79
第760図　境矢石遺跡と清水谷遺跡における石鏃の長さ …… 79

挿表目次

第１表　境矢石遺跡におけるプラント･オパール分析結果…… 3
第２表　境矢石遺跡における花粉分析結果 …… 7
第３表　境矢石遺跡３区SD11における花粉分析結果 10
第４表　境矢石遺跡２・３区における樹種同定結果 13
第５表　境矢石遺跡４・６区における樹種同定結果 19
第６表　放射性炭素年代測定結果…… 21
第７表　暦年較正結果…… 21
第８表　測定試料及び処理…… 23
第９表　測定結果…… 24
第10表　土壌理化学分析結果…… 27
第11表　境矢石遺跡における種実同定結果 …… 33
第12表　XRF分析条件 …… 37
第13表　XRD分析条件 …… 37
第14表　XRF分析結果 …… 42
第15表　蛍光Ｘ線分析結果…… 53
第16表　米子平野弥生時代墳墓一覧…… 67
第17表　境矢石遺跡弥生時代墳墓関係遺構一覧…… 68
第18表　石器石材別組成表…… 71
第19表　６区SK22出土石器観察表 …… 89
第20表　３区SK11出土土器観察表 …… 89
第21表　３区SK16出土土器観察表 …… 89
第22表　３区SK16出土石器観察表 …… 89
第23表　３区SK17出土土器観察表 …… 89
第24表　３区SK59出土土器観察表 …… 89
第25表　５区SK２出土土器観察表 …… 89
第26表　５区SK12出土土器観察表 …… 89
第27表　５区SK12出土石器観察表 …… 89
第28表　５区SK13出土土器観察表 …… 89
第29表　５区SK14出土石器観察表 …… 90
第30表　５区SK16出土土器観察表 …… 90
第31表　５区SK17出土石器観察表 …… 90
第32表　５区SK26出土土器観察表 …… 90
第33表　５区SK29出土土器観察表 …… 90
第34表　５区SK30出土土器観察表 …… 90
第35表　５区SK36出土土器観察表 …… 90
第36表　５区SK36出土石製品観察表 …… 90
第37表　５区SK41出土土器観察表 …… 90
第38表　６区SS18出土石器観察表 …… 90
第39表　６区SK32出土土器観察表 …… 91
第40表　６区SK37出土石器、石製品観察表 …… 91
第41表　６区SK42出土石器観察表 …… 91
第42表　６区SK62出土管玉観察表 …… 91
第43表　６区SK65出土土器観察表 …… 91
第44表　２区SK６出土土器観察表 …… 91
第45表　２区SK６出土石器観察表 …… 91
第46表　３区SD４出土土器観察表 …… 92
第47表　３区SD４出土石器観察表 …… 92
第48表　３区SD11出土土器、土製品観察表 …… 92
第49表　３区SD11出土石器観察表 …… 92
第50表　３区SK47出土土器観察表 …… 93
第51表　３区SK56出土土器観察表 …… 93
第52表　３区SK50出土石器観察表 …… 93
第53表　３区SK33出土土器観察表 …… 93
第54表　３区SK34出土土器観察表 …… 93
第55表　３区SK34出土石器観察表 …… 93
第56表　３区SD12出土土器観察表 …… 93
第57表　３区SD13出土土器観察表 …… 93
第58表　３区SD14出土土器観察表 …… 94
第59表　３区SD14出土石器観察表 …… 94
第60表　３区SK25出土土器観察表 …… 94
第61表　３区SD15出土土器観察表 …… 94
第62表　３区SD16出土土器観察表 …… 94
第63表　３区SD16出土石器観察表 …… 94
第64表　３区SK44出土土器観察表 …… 94
第65表　３区SK45出土石器観察表 …… 94
第66表　３区SD18出土土器観察表 …… 94
第67表　３区SD19出土土器観察表 …… 95
第68表　３区SD19出土石器観察表 …… 95
第69表　３区SD20出土土器観察表 …… 95
第70表　３区SK42出土土器観察表 …… 95
第71表　６区SD24出土土器観察表 …… 95
第72表　６区SK36-２出土土器観察表 …… 95
第73表　６区SD18出土土器観察表 …… 95
第74表　６区SD18出土石器観察表 …… 96
第75表　６区SI27出土土器観察表…… 96
第76表　６区SI27出土石器観察表…… 96
第77表　２区SK７出土土器観察表 …… 96
第78表　３区SK９出土土器観察表 …… 96
第79表　３区SK９出土石器観察表 …… 96
第80表　３区SK10出土土器観察表 …… 96
第81表　３区SK10出土石器観察表 …… 96

第82表　３区SK12出土土器観察表 …… 96
第83表　３区SK40出土土器観察表 …… 96
第84表　３区SK58出土土器観察表 …… 97
第85表　５区SK31出土石器、石製品観察表 …… 97
第86表　６区SD30出土土器観察表 …… 97
第87表　６区SK51出土土器観察表 …… 97
第88表　３区土器溜１出土土器観察表…… 97
第89表　３区土器溜２出土土器観察表…… 97
第90表　２区SI２出土土器観察表…… 97
第91表　２区SI２出土石器観察表…… 97
第92表　２区SI７出土土器観察表…… 97
第93表　２区SI７出土石器観察表…… 98
第94表　２区SI16出土土器観察表…… 98
第95表　２区SI16出土石器観察表…… 98
第96表　２区SI17出土土器観察表…… 98
第97表　２区SI17出土石器、石製品観察表…… 98
第98表　２区SI21出土土器観察表…… 98
第99表　３区SI14出土土器観察表…… 98
第100表　４区SS18出土土器観察表 …… 98
第101表　４区SS18出土金属製品観察表 …… 99
第102表　４区SS19出土土器観察表 …… 99
第103表　４区SS19出土石器観察表 …… 99
第104表　４区SS13出土土器観察表 …… 99
第105表　４区SS13出土金属製品観察表 …… 100
第106表　４区SS13出土石器観察表 …… 100
第107表　４区SS32出土土器観察表 …… 100
第108表　４区SS32出土金属製品観察表 …… 100
第109表　４区SS28出土土器観察表 …… 100
第110表　４区SS21出土土器観察表 …… 101
第111表　５区SI２出土土器観察表 …… 101
第112表　６区SI13出土土器観察表 …… 101
第113表　６区SI13出土金属製品観察表 …… 101
第114表　６区SI13出土石器観察表 …… 101
第115表　６区SI14出土土器観察表 …… 101
第116表　６区SI14出土金属製品観察表 …… 102
第117表　６区SS11出土土器観察表 …… 102
第118表　６区SS11出土金属製品観察表 …… 102
第119表　６区SS11出土石器観察表 …… 102
第120表　６区SS２出土土器観察表 …… 102
第121表　６区SS３出土土器観察表 …… 102
第122表　６区SS３出土石器観察表 …… 102
第123表　４区SS５－２出土土器観察表 …… 102
第124表　４区SS５－２出土金属製品観察表 …… 103
第125表　４区SS５－１出土土器観察表 …… 103
第126表　４区SS５－１出土金属製品観察表 …… 103
第127表　６区SI１－４出土石器観察表…… 103
第128表　６区SI１－３出土土器観察表…… 103
第129表　６区SI１－３出土石器観察表…… 103
第130表　６区SI１－３出土ガラス製品観察表…… 103
第131表　６区SI１－２出土土器観察表…… 103
第132表　６区SI１－２出土石器観察表…… 104
第133表　６区SI１－２出土金属製品観察表…… 104
第134表　６区SI１－１出土土器観察表…… 104
第135表　６区SI１－１出土石器観察表…… 104
第136表　６区SI１－１出土金属製品観察表…… 104
第137表　６区SI６出土土器観察表 …… 104
第138表　６区SI２出土土器、土製品観察表 …… 104
第139表　６区SI２出土石器、石製品観察表 …… 104
第140表　６区SI４出土土器観察表 …… 105
第141表　６区SI４出土石器観察表 …… 105
第142表　６区SS12－１出土土器、土製品観察表 … 105
第143表　６区SS12－１出土金属製品観察表 …… 105
第144表　６区SS12－１出土石器観察表 …… 105
第145表　６区SS12－２出土土器観察表 …… 105
第146表　６区SS12－２出土金属製品観察表 …… 106
第147表　６区SS12－２出土石器観察表 …… 106
第148表　６区SS12－３出土土器観察表 …… 106
第149表　６区SK１出土土器観察表…… 106
第150表　６区SK２出土土器観察表…… 106
第151表　６区SI３出土土器観察表 …… 106
第152表　６区SI３出土金属製品観察表 …… 106
第153表　６区SI３出土石器観察表 …… 106
第154表　６区SI８出土土器観察表 …… 106
第155表　６区SK４出土土器観察表…… 107
第156表　６区SK４出土石器観察表…… 107
第157表　６区SI５出土金属製品観察表 …… 107
第158表　６区SI16出土土器観察表 …… 107
第159表　６区SI９出土土器観察表 …… 107
第160表　６区SI９出土石器観察表 …… 107
第161表　６区SI７出土土器観察表 …… 107
第162表　６区SI７出土金属製品観察表 …… 108
第163表　６区SI７出土石器観察表 …… 108
第164表　６区SI15出土土器観察表 …… 109
第165表　６区SI15出土金属製品観察表 …… 109
第166表　６区SI15出土石器観察表 …… 109
第167表　６区SS19出土土器観察表 …… 109

第168表　６区SS19出土石器観察表 …… 109
第169表　６区SI21出土土器観察表 …… 110
第170表　６区SI21出土石器観察表 …… 110
第171表　６区SI20出土土器観察表 …… 110
第172表　６区SI20出土石器観察表 …… 110
第173表　６区SS８出土土器観察表 …… 110
第174表　６区SI10出土土器、土製品観察表 …… 110
第175表　６区SI10出土ガラス製品観察表 …… 112
第176表　６区SI10出土石器観察表 …… 112
第177表　６区SK６出土土器観察表 …… 112
第178表　６区SS17出土土器観察表 …… 112
第179表　６区SS17出土石器観察表 …… 112
第180表　６区SS10出土土器観察表 …… 113
第181表　６区SI11出土土器観察表 …… 113
第182表　６区SI11出土石器観察表 …… 113
第183表　６区SI12出土土器観察表 …… 113
第184表　６区SI12出土石器観察表 …… 113
第185表　６区SK26出土土器観察表 …… 113
第186表　６区SK27出土土器観察表 …… 114
第187表　６区SI17出土土器観察表 …… 114
第188表　６区SI18出土石器観察表 …… 114
第189表　６区SI25出土土器観察表 …… 114
第190表　６区SI25出土石器観察表 …… 114
第191表　３区SS２出土土器観察表 …… 115
第192表　４区SS１出土土器観察表 …… 115
第193表　４区SS１出土石器観察表 …… 115
第194表　４区SS２出土土器観察表 …… 115
第195表　４区SS２出土石器観察表 …… 115
第196表　４区SS９出土土器観察表 …… 115
第197表　４区SS10出土土器観察表 …… 115
第198表　４区SS７出土土器観察表 …… 116
第199表　４区SK３出土土器観察表 …… 116
第200表　４区SS11出土土器観察表 …… 116
第201表　４区SS14出土土器観察表 …… 116
第202表　４区SS６出土土器観察表 …… 116
第203表　４区SS６出土金属製品観察表 …… 117
第204表　４区SS６出土石器観察表 …… 117
第205表　４区SK４出土土器観察表 …… 117
第206表　４区SK４出土金属製品観察表 …… 118
第207表　４区SK４出土石製品観察表 …… 118
第208表　４区SK６出土土器観察表 …… 118
第209表　４区SS８出土土器観察表 …… 118
第210表　４区SS22出土土器観察表 …… 118
第211表　４区SS16出土土器観察表 …… 118
第212表　６区SS７出土土器観察表 …… 118
第213表　６区SS24出土土器観察表 …… 118
第214表　６区SS24出土石器観察表 …… 119
第215表　６区SK36－１出土土器観察表 …… 119
第216表　３区SK60出土土器観察表 …… 119
第217表　２区SD19出土土器観察表 …… 119
第218表　４区SD１出土土器観察表 …… 119
第219表　４区SD１出土石器観察表 …… 119
第220表　６区SD12出土土器観察表 …… 119
第221表　２区SI８出土土器観察表 …… 120
第222表　２区SI８出土石器観察表 …… 120
第223表　２区SI８出土金属製品観察表 …… 120
第224表　２区SI14出土土器観察表 …… 120
第225表　２区SI14出土石器観察表 …… 121
第226表　２区SI18出土石器観察表 …… 121
第227表　２区SI19出土土器観察表 …… 121
第228表　３区SI１出土土器観察表 …… 121
第229表　３区SI８出土土器観察表 …… 121
第230表　３区SI８出土金属製品観察表 …… 121
第231表　３区SI８出土石器観察表 …… 122
第232表　３区SI12出土土器観察表 …… 122
第233表　４区SS３出土土器観察表 …… 122
第234表　４区SS４－４出土土器観察表 …… 122
第235表　４区SS４－４出土金属製品観察表 …… 122
第236表　４区SS４－３出土土器観察表 …… 122
第237表　４区SS４－３出土石器観察表 …… 122
第238表　４区SS４－２出土土器観察表 …… 122
第239表　４区SS４－２出土金属製品観察表 …… 123
第240表　４区SS４－２出土石器観察表 …… 123
第241表　４区SS４－１出土土器観察表 …… 123
第242表　４区SS４－１出土金属製品観察表 …… 123
第243表　４区SS４－１出土石器観察表 …… 123
第244表　６区SS６出土土器観察表 …… 123
第245表　２区焼土３出土土器観察表 …… 124
第246表　２区SI１出土土器観察表 …… 124
第247表　２区SI１出土石器観察表 …… 124
第248表　２区SI４出土土器観察表 …… 124
第249表　２区SI５出土土器観察表 …… 124
第250表　２区SI５出土石器観察表 …… 124
第251表　２区SI10出土土器観察表 …… 124
第252表　３区SI２出土土器観察表 …… 124
第253表　３区SI２出土金属製品観察表 …… 125

第254表　３区SI２出土石器観察表 …… 125
第255表　３区SI３出土土器観察表 …… 125
第256表　３区SI４出土土器観察表 …… 125
第257表　３区SI５出土土器観察表 …… 125
第258表　３区SI７出土土器観察表 …… 126
第259表　３区SI７出土石器観察表 …… 126
第260表　３区SI６出土土器観察表 …… 126
第261表　３区SI９出土土器観察表 …… 126
第262表　３区SI９出土石製品観察表 …… 126
第263表　３区SI10出土土器観察表 …… 126
第264表　３区SI10出土石器観察表 …… 127
第265表　３区SS５出土土器観察表 …… 127
第266表　３区SS５出土石製品観察表 …… 127
第267表　３区SS６出土土器観察表 …… 127
第268表　３区SS６出土ガラス製品観察表 …… 127
第269表　４区SS20出土土器観察表 …… 127
第270表　４区SS20出土石器観察表 …… 127
第271表　４区SS33出土土器観察表 …… 128
第272表　５区SI１Ａ出土土器観察表 …… 128
第273表　５区SI１Ａ出土金属製品観察表 …… 128
第274表　５区SI１Ａ出土石製品観察表 …… 128
第275表　５区SI１Ｂ出土土器観察表 …… 128
第276表　６区SI22出土土器観察表 …… 129
第277表　２区SS１出土土器観察表 …… 129
第278表　４区SS27出土土器観察表 …… 129
第279表　６区SK20出土土器観察表 …… 129
第280表　２区SD15出土土器観察表 …… 129
第281表　６区SI24出土土器観察表 …… 129
第282表　６区SI24出土石器観察表 …… 129
第283表　３区SK53出土金属製品観察表 …… 129
第284表　６区SK13出土土器観察表 …… 130
第285表　６区SK30出土土器観察表 …… 130
第286表　６区横穴墓出土土器観察表 …… 130
第287表　６区横穴墓出土玉類観察表 …… 130
第288表　６区横穴墓出土金属製品観察表 …… 131
第289表　４区SS29出土土器観察表 …… 132
第290表　４区SS29出土金属製品観察表 …… 136
第291表　４区SS29出土石器、石製品観察表 …… 136
第292表　４区SS34出土土器観察表 …… 136
第293表　６区SS５出土土器観察表 …… 136
第294表　６区SS20出土土器観察表 …… 136
第295表　６区SS20出土石器観察表 …… 137
第296表　６区SS21出土土器観察表 …… 137
第297表　４区SS25出土土器、土製品観察表 …… 137
第298表　６区SS22出土土器観察表 …… 137
第299表　６区SS22出土金属製品観察表 …… 137
第300表　６区SS22出土石器観察表 …… 137
第301表　６区SS25出土土器観察表 …… 138
第302表　６区SS26出土土器観察表 …… 138
第303表　６区SS26出土金属製品観察表 …… 138
第304表　６区SS32出土土器観察表 …… 138
第305表　６区SS33出土土器観察表 …… 138
第306表　６区SS33出土金属製品観察表 …… 139
第307表　６区SI28出土土器観察表 …… 139
第308表　１区SK６出土土器観察表 …… 139
第309表　３区SS１－１出土土器観察表 …… 139
第310表　３区SS１－１出土石器観察表 …… 139
第311表　３区SS１－１出土金属製品観察表 …… 139
第312表　３区SS１－２出土金属製品観察表 …… 139
第313表　３区SS３出土土器、磁器観察表 …… 139
第314表　３区SS３出土石器観察表 …… 139
第315表　３区SS３出土金属製品観察表 …… 140
第316表　４区SS30出土土器、陶器観察表 …… 140
第317表　４区SS31出土土器、磁器観察表 …… 140
第318表　４区SS31出土金属製品観察表 …… 140
第319表　６区SS14出土磁器観察表 …… 140
第320表　１区ピット出土土器観察表 …… 140
第321表　１区ピット出土金属製品観察表 …… 141
第322表　２区ピット出土土器、土製品観察表 …… 141
第323表　２区ピット出土石器観察表 …… 141
第324表　３区ピット出土土器観察表 …… 141
第325表　３区ピット出土石器観察表 …… 141
第326表　６区ピット出土縄文土器観察表 …… 141
第327表　６区ピット出土土器観察表 …… 141
第328表　６区ピット出土石器観察表 …… 141
第329表　２区遺構内包含層出土土器観察表 …… 141
第330表　２区遺構内包含層出土石器、石製品観察表 …… 142
第331表　３区遺構内包含層出土土器観察表 …… 142
第332表　３区遺構内包含層出土石器観察表 …… 142
第333表　４区遺構内包含層出土土器観察表 …… 142
第334表　４区遺構内包含層出土石器観察表 …… 143
第335表　５区遺構内包含層出土石器観察表 …… 143
第336表　６区遺構内包含層出土土器観察表 …… 143
第337表　６区遺構内包含層出土石器観察表 …… 144
第338表　突帯文土器観察表 …… 144

第339表　１区遺構外出土土器、陶磁器観察表 …… 145
第340表　１区遺構外出土金属製品観察表 …… 146
第341表　１区遺構外出土石器、石製品観察表 …… 146
第342表　１区遺構外出土ガラス製品観察表 …… 146
第343表　２区遺構外出土土器、磁器観察表 …… 146
第344表　２区遺構外出土金属製品観察表 …… 149
第345表　２区遺構外出土石器観察表 …… 149
第346表　２区遺構外出土ガラス製品観察表 …… 150
第347表　３区遺構外出土土器、土製品、陶磁器観察表 …… 150
第348表　３区遺構外出土金属製品観察表 …… 153
第349表　３区遺構外出土石器、石製品観察表 …… 153
第350表　３区遺構外出土ガラス製品観察表 …… 154
第351表　４区遺構外出土土器、土製品、陶器観察表 154
第352表　４区遺構外出土石器、石製品観察表 …… 155
第353表　５区遺構外出土土器、土製品、陶磁器観察表 …… 156
第354表　５区遺構外出土金属製品観察表 …… 156
第355表　５区遺構外出土石器、石製品観察表 …… 156
第356表　６区遺構外出土土器、土製品、磁器観察表 157
第357表　６区遺構外出土金属製品観察表 …… 160
第358表　６区遺構外出土石器観察表 …… 160
第359表　４区表土出土土器、陶器観察表 …… 161
第360表　４区表土出土石器観察表 …… 161
第361表　６区表土出土石器、石製品観察表 …… 161
第362表　６区表土出土土器観察表 …… 161
第363表　６区表土出土金属製品観察表 …… 161

図版目次

図版１　２・３・４・６区全景
図版２　調査地周辺の地形
　　調査地周辺の地形
図版３　１区北東側全景
　　１区南西側全景
図版４　５区全景
　　３区４層上面検出遺構全景
図版５　２・３区全景
　　２・３区全景
図版６　４区全景
　　４区全景
図版７　４区全景
　　４区SS25・27・28～33
図版８　４区SS28～33
　　６区全景
図版９　６区全景
　　６区全景
図版10　６区全景
　　６区西側谷部全景
図版11　６区南側全景
　　６区南側尾根部全景
図版12　４区SS５、６区SI１～12・15、SS１～３・９・10・17、SK４
　　４区SS５、６区SI１～４・６・８、SS１～３、SK４
図版13　６区東側斜面全景
　　６区東側斜面裾部全景
図版14　６区SI17～19・22・24・25、SS14・16・22・34
　　６区SI22・24・25、SS14・16・22
図版15　２・３区木棺墓群、溝状土壙群
　　６区木棺墓群、弧状溝群
図版16　５区北東側木棺墓群
　　５区南西側木棺墓群
図版17　２区SK９完掘
　　２区SK10完掘
　　２区SK11完掘
　　３区SK18完掘
　　３区SK35完掘
　　３区SK39完掘
　　４区SK７完掘
　　４区SK８完掘
図版18　６区SK５完掘
　　６区SK７完掘
　　６区SK９完掘
　　６区SK10完掘
　　６区SK11完掘
　　６区SK14完掘
　　６区SK22完掘
　　６区SI４－Ｐ７完掘

図版19　1区SK１完掘
1区SK２完掘
1区SK３完掘
1区SK４完掘
1区SK５完掘
2区SK２標石検出状況
2区SK２完掘
2区SK３完掘
図版20　3区SK１完掘
3区SK７完掘
3区SK11完掘
3区SK14完掘
3区SK15完掘
3区SK16完掘
3区SK17完掘
3区SK19完掘
図版21　3区SK20完掘
3区SK21完掘
3区SK22完掘
3区SK23完掘及び石検出状況
3区SK26完掘及び石検出状況
3区SK30完掘
3区SK32完掘
3区SK43完掘
図版22　3区SK57完掘
5区SK２棺裏込め石検出状況
5区SK２完掘
5区SK３完掘
5区SK４棺痕跡検出状況
5区SK４完掘
5区SK５完掘
5区SK６完掘
図版23　5区SK７完掘
5区SK８配石検出状況
5区SK８完掘
5区SK９棺裏込め石検出状況
5区SK９完掘
5区SK10棺痕跡検出状況
5区SK10完掘
5区SK11石検出状況
図版24　5区SK11棺痕跡検出状況
5区SK11完掘
5区SK12棺痕跡検出状況
5区SK12完掘
5区SK13棺痕跡検出状況
5区SK13完掘
5区SK14完掘
5区SK15完掘
図版25　5区SK16棺裏込め石検出状況
5区SK16完掘
5区SK17棺痕跡及び棺裏込め石検出状況
5区SK17完掘
5区SK18棺裏込め石検出状況
5区SK18完掘
5区SK21棺痕跡検出状況
5区SK21完掘
図版26　5区SK25完掘
5区SK26石検出状況
5区SK26棺痕跡検出状況
5区SK26完掘
5区SK27棺痕跡検出状況
5区SK27完掘
5区SK28棺痕跡検出状況
5区SK28・31完掘
図版27　5区SK29棺痕跡検出状況
5区SK29完掘及び石検出状況
5区SK30棺痕跡検出状況
5区SK30完掘
5区SK32棺痕跡検出状況
5区SK32完掘
5区SK33棺痕跡検出状況
5区SK33完掘
図版28　5区SK34棺痕跡検出状況
5区SK34完掘
5区SK35棺痕跡検出状況
5区SK35完掘
5区SK36棺痕跡検出状況
5区SK36完掘
5区SK37棺痕跡検出状況
5区SK37完掘
図版29　5区SK38完掘
5区SK39完掘
5区SK40棺痕跡検出状況
5区SK40完掘
5区SK41棺痕跡検出状況
5区SK41完掘

5区SK42完掘
5区SK44完掘
図版30　6区SK15完掘
6区SK16棺痕跡検出状況
6区SK16完掘
6区SK17棺痕跡検出状況
6区SK17完掘
図版31　6区SK18棺痕跡検出状況
6区SK18完掘
6区SK19棺痕跡及び棺裏込め石検出状況
6区SK19棺裏込め石検出状況
6区SK19完掘
図版32　6区SK21完掘
6区SK32完掘
6区SK33完掘
6区SK34完掘
6区SK35棺痕跡検出状況
6区SK35棺裏込め石検出状況
6区SK35完掘
6区SK37棺痕跡検出状況
図版33　6区SK37遺物出土状況（1）
6区SK37遺物出土状況（2）
6区SK37遺物出土状況（3）
6区SK37完掘
6区SK38完掘
6区SK39完掘
6区SK40完掘
6区SK41棺痕跡検出状況
図版34　6区SK41完掘
6区SK42棺痕跡検出状況
6区SK42完掘
6区SK43完掘
6区SK47棺痕跡検出状況
6区SK47完掘
6区SK49棺痕跡検出状況
6区SK49完掘
図版35　6区SK53棺痕跡検出状況
6区SK53完掘
6区SK55棺痕跡検出状況
6区SK55完掘
6区SK56完掘
6区SK57棺痕跡検出状況
6区SK57完掘
6区SK58棺痕跡検出状況
図版36　6区SK58完掘
6区SK59完掘
6区SK60完掘
6区SK62完掘
6区SK62管玉出土状況（1）
6区SK62管玉出土状況（2）
6区SK62管玉出土状況（3）
6区SK62管玉出土状況（4）
図版37　2区SK５完掘
2区SK６完掘及び遺物出土状況
2区SK６遺物出土状況
3区SD４、SK３・64完掘
3区SK３石検出状況
3区SK３完掘
3区SK64完掘
図版38　3区SD11完掘
3区SK54・55完掘
3区SK47遺物出土状況
3区SK47遺物出土状況
3区SK47完掘
3区SK48完掘
3区SK49・50完掘
3区SK51完掘
図版39　3区SK33完掘
3区SK33遺物出土状況
3区SK34遺物出土状況
3区SK34遺物出土状況
3区SK34完掘
3区SK56遺物出土状況
図版40　3区SK46完掘
3区SD12、SK27完掘
3区SD12遺物出土状況
3区SD12遺物出土状況
3区SK27完掘
3区SD13、SK41・63完掘
3区SK41完掘
図版41　3区SK63完掘
3区SD14、SK24・25完掘
3区SK24完掘
3区SK25完掘
3区SD15、SK29完掘
3区SK29完掘

図版42　３区SD16・17・18完掘
３区SK36完掘
３区SK44遺物出土状況
３区SK44完掘
３区SK45完掘
３区SD18遺物（３）出土状況
図版43　３区SD18遺物（３）出土状況
３区SD18完掘
３区SD19礫検出状況
３区SD19完掘
３区SD20完掘
３区SK37完掘
３区SK42完掘
図版44　６区SI26、SD19・20完掘
６区SD22・35完掘
６区SK36－２完掘
６区SK36－２遺物出土状況
６区SK36－２遺物出土状況
６区SK25完掘
６区SK26・27完掘
６区SD30、SK61土層断面
図版45　３区石列群
３区石列群
図版46　３区石列１検出状況
３区石列３検出状況
３区石列４検出状況
３区石列５検出状況
３区石列６検出状況
３区石列８検出状況
３区石列10検出状況
図版47　６区SD18石列検出状況
６区SD18石列検出状況
６区SI27石列（１）
６区SI27石列（２）
６区SI27石列（３）
６区SI27石列（４）
図版48　２区SK７遺物出土状況
２区SK７遺物出土状況
２区SK７完掘
３区SK９完掘
３区SK12完掘
３区SK40土器出土状況
３区SK40土器出土状況
３区SK40完掘
図版49　３区SK６完掘
３区SK８完掘
６区SK28完掘
６区SK50完掘
６区SK61完掘
３区土器溜１完掘
３区土器溜２完掘
図版50　２区SI２完掘
２区SI３完掘
２区SI７・10完掘
２区SI７・10完掘
２区SI７遺物（２）出土状況
２区SI７石検出状況（１）
２区SI７石検出状況（２）
２区SI７磨石（４）出土状況
図版51　２区SI９、SD10・11完掘
２区SI16・17完掘
２区SI16完掘
２区SI17完掘
２区SI21完掘
２区SI22完掘
４区SS５－２遺物出土状況
４区SS５－２完掘
図版52　４区SS13－１完掘
４区SS13－１炉検出状況（１）
４区SS13－１炉検出状況（２）
４区SS13－２完掘
４区SS18・18－２完掘
４区SS18－２完掘
４区SS28完掘
４区SS32完掘
図版53　５区SI２完掘
６区SI１－１・１－２完掘
６区SI１－３・１－４完掘
６区SI１－２種実出土状況
６区SI１－３管玉（５）出土状況
６区SI２完掘
６区SI２管玉（８）出土状況
６区SI２土玉（４）出土状況
図版54　６区SI２・４・６完掘
６区SI６完掘
６区SI９完掘

6区SI10完掘
6区SI10テラス状平坦面及び小ピット
6区SI10遺物出土状況（１）
6区SI10遺物出土状況（２）
6区SI10遺物出土状況（３）
図版55　6区SI11完掘
6区SI12完掘
6区SI13・14、SS11完掘
6区SI13石検出状況
6区SI14特殊ピット石検出状況
6区SS11完掘
6区SI15完掘
6区SI17−１完掘
図版56　6区SI18完掘
6区SI20、SD17完掘
6区SI21完掘
6区SI25完掘
３区SS２完掘
４区SS10完掘
４区SS23・24完掘
6区SS７、SD７・８完掘
図版57　6区SS９完掘
6区SS10完掘
6区SS10炉１炭化物検出
6区SS10炉１完掘
6区SS10炉２完掘
6区SS９・17完掘
6区SS19完掘
6区SS24完掘
図版58　２区SI８・13完掘
２区SI８遺物出土状況
２区SI８遺物(10)出土状況
２区SI８遺物(12)出土状況
２区SI８遺物(15)出土状況
２区SI14完掘
２区SI18完掘
２区SI20完掘
３区SI１完掘
図版59　３区SI12完掘
４区SS４完掘
４区SS４−３完掘
４区SS４−２完掘
6区SI３完掘
6区SI４完掘
6区SI５・８、SK４完掘
6区SI５完掘
図版60　6区SI７遺物出土状況
6区SI７完掘
6区SI８、SK４完掘
6区SI16完掘
４区SS１・２・９・10完掘
４区SS１完掘
４区SS２完掘
４区SS２完掘
図版61　４区SS２遺物出土状況
４区SS２−２完掘
４区SS３完掘
４区SS６・７・８・11・14完掘
４区SS６完掘
４区SS７遺物出土状況
6区SS６完掘
6区SS23完掘
図版62　４区SK３遺物（１）出土状況
４区SK３完掘
４区SK４・５・６
４区SK４遺物出土状況（１）
４区SK４遺物出土状況（２）
４区SK４完掘
４区SK５完掘
４区SK６完掘
図版63　２区焼土１・２・３完掘
２区竈１・２、焼土５
２区竈１完掘
２区竈２完掘
２区竈３焼土、炭化物検出状況
２区竈３完掘
２区焼土５完掘
図版64　２区SI１・６完掘
２区SI４完掘
２区SI５完掘
３区SI２完掘
３区SI２特殊ピット
３区SI３完掘
３区SI４完掘
３区SI５完掘
図版65　３区SI９完掘

3区SI９　P198土器（１）出土状況
3区SI10完掘
3区SI11完掘
3区SS５完掘
3区SS６完掘
4区SS20完掘
4区SS20-１完掘
図版66　4区SS20遺物出土状況
4区SS33完掘
4区SS33遺物出土状況
5区SI１Ａ完掘
5区SI１Ｂ完掘
6区SI22完掘
2区SS１完掘
3区SS４完掘
図版67　3区SK53完掘
3区SK53鉄刀出土状況
3区SK53鉄刀出土状況
6区SK13遺物（３）出土状況
6区SK13遺物（３）出土状況
6区SK13完掘
6区SK30遺物出土状況
6区SK30遺物出土状況
図版68　6区横穴墓遠景
6区横穴墓墓道完掘及び閉塞石検出状況
6区横穴墓墓道完掘及び閉塞石検出状況
6区横穴墓閉塞石検出状況（１）
6区横穴墓閉塞石検出状況（２）
6区横穴墓閉塞石下部礫検出状況
図版69　6区横穴墓閉塞石除去後礫検出状況
6区横穴墓閉塞石除去後礫検出状況
6区横穴墓墓道及び閉塞部完掘
6区横穴墓閉塞部完掘
6区横穴墓墓室内遺物出土状況
6区横穴墓墓室内遺物出土状況
6区横穴墓墓室内遺物出土状況
6区横穴墓墓室内遺物出土状況
図版70　6区横穴墓墓室内遺物（１、２）出土状況
6区横穴墓墓室内遺物（３）出土状況
6区横穴墓墓室内遺物（４）出土状況
6区横穴墓墓室内遺物（５）出土状況
6区横穴墓墓室内遺物（６～11）出土状況
6区横穴墓墓室内遺物（12～14）出土状況
6区横穴墓完掘
6区横穴墓墓道完掘
図版71　6区版築状遺構
6区版築状遺構
図版72　6区版築状遺構Ａ-Ａ′断面（１）
6区版築状遺構Ａ-Ａ′断面（２）
6区版築状遺構Ａ-Ａ′断面（３）
6区版築状遺構Ａ-Ａ′溝状断面（１）
6区版築状遺構Ａ-Ａ′溝状断面（２）
図版73　6区版築状遺構Ｂ-Ｂ′断面（１）
6区版築状遺構Ｂ-Ｂ′断面（２）
6区版築状遺構Ｂ-Ｂ′断面（３）
6区版築状遺構Ｂ-Ｂ′溝状断面（溝１）
6区版築状遺構Ｂ-Ｂ′溝状断面（溝２）
6区版築状遺構Ｃ-Ｃ′断面（１）
6区版築状遺構Ｃ-Ｃ′断面（２）
6区版築状遺構Ｃ-Ｃ′溝状断面
図版74　6区版築状遺構Ｄ-Ｄ′断面（１）
6区版築状遺構Ｄ-Ｄ′断面（２）
6区版築状遺構Ｅ-Ｅ′断面（１）
6区版築状遺構Ｅ-Ｅ′断面（２）
6区版築状遺構Ｅ-Ｅ′断面（３）
6区版築状遺構Ｅ-Ｅ′溝状断面
図版75　4区SS25完掘
4区SS29完掘
4区SS29完掘
4区SS29完掘
4区SS29遺物出土状況（１）
4区SS29遺物出土状況（２）
4区SS29遺物出土状況（３）
4区SS29遺物(64)出土状況
図版76　4区SS29遺物(162)出土状況
4区SS29遺物(171)出土状況
4区SS29遺物(第674図　16)出土状況
6区SS５完掘
6区SS20完掘
6区SS21完掘
6区SS22-１完掘
6区SS22-２完掘
図版77　6区SS22遺物（５）出土状況
6区SS22-１　P304礫敷検出状況
6区SS22鉄器(17)出土状況
6区SS25完掘

6区SS26完掘
6区SS27・28完掘
6区SS27完掘
6区SS28完掘
図版78　6区SS31完掘
6区SS32完掘
6区SS33、SD24完掘
6区SS33・37、SD24完掘
6区SS33・37、SD24完掘
1区SB１完掘
1区SB２完掘
1区SB３完掘
図版79　1区SB４完掘
3区SB１・５完掘
3区SB２完掘
3区SB３・４完掘
1区SK６遺物出土状況
1区SK６完掘
6区SK31完掘
図版80　3区SS１完掘
3区SS３礫、遺物出土状況
3区SS３遺物（１）出土状況
3区SS３遺物（２）出土状況
3区SS３炉遺物（３）出土状況
3区SS３完掘
3区SS３炉検出状況
3区SS３炉完掘
図版81　4区SS30完掘
4区SS31下面完掘
4区SS31上面完掘
4区SS31遺物出土状況
4区SS31遺物（３）出土状況
道路完成後状況
道路完成後状況
図版82　3区SK11・16・17・59出土遺物
5区SK２・12・13・16・26・29・30・36・41
出土遺物
図版83　3区SK16出土遺物
5区SK12・14・17出土遺物
5区SK12・31出土遺物
6区SK42出土遺物
5区SK36出土遺物
図版84　6区SK32・65出土遺物
6区SK36-２出土遺物（１）
6区SK36-２出土遺物（２）
6区SK36-２出土遺物（３）
6区SK36-２出土遺物（４）
図版85　6区SK37出土遺物
6区SK62出土遺物
図版86　3区SD４・13～16出土遺物
6区SD18出土遺物
図版87　3区SD11出土遺物
図版88　3区SK33出土遺物
3区SK34出土遺物（１）
3区SK34出土遺物（２）
3区SK47出土遺物
3区SK56出土遺物
3区SD12出土遺物（１）
3区SD12出土遺物（２）
3区SD12出土遺物（３）
図版89　3区SD12出土遺物（４）
3区SK25出土遺物
3区SK44出土遺物
3区SD18出土遺物
3区SD19出土遺物
3区SK42出土遺物
6区SD30出土遺物
図版90　3区SD11・14・16、SK45出土遺物
3区SK34、SD４出土遺物
図版91　2区SK７出土遺物
3区SK９・10出土遺物
3区SK９・10・12出土遺物
3区SK40出土遺物
3区土器溜１出土遺物（１）
3区土器溜１出土遺物（２）
3区土器溜２出土遺物（１）
3区土器溜２出土遺物（２）
図版92　2区SI２・７・16・17・21出土遺物
2区SI２・７・16・17出土遺物
2区SI２出土遺物
図版93　4区SS５・28・32出土遺物
4区SS13出土遺物（１）
図版94　4区SS13出土遺物（２）
4区SS13出土遺物（３）
4区SS18出土遺物（１）
4区SS18出土遺物（２）

4区SS18出土遺物（３）
図版95　4区SS18出土遺物（４）
6区SI１出土遺物（１）
図版96　6区SI１出土遺物（２）
6区SI１－２出土遺物（１）
6区SI１－２出土遺物（２）
6区SI２・６出土遺物
6区SI２出土遺物
図版97　6区SI10出土遺物（１）
図版98　6区SI10出土遺物（２）
図版99　6区SI10出土遺物（３）
図版100　6区SI11・12出土遺物
6区SI12出土遺物（１）
6区SI12出土遺物（２）
6区SI12出土遺物（３）
6区SI15出土遺物（１）
図版101　6区SI13・14出土遺物
6区SS11出土遺物
図版102　6区SI15出土遺物（２）
6区SI17出土遺物
図版103　6区SI20・21出土遺物（１）
6区SI20・21出土遺物（２）
6区SI21出土遺物（１）
6区SI21出土遺物（２）
6区SI21出土遺物（３）
図版104　6区SI25出土遺物（１）
6区SI25出土遺物（２）
図版105　3区SS２出土遺物
4区SS８出土遺物（１）
4区SS８出土遺物（２）
4区SS21出土遺物
4区SS19・22、SD１出土遺物
図版106　6区SS７・８・10出土遺物
6区遺構内包含層出土遺物
図版107　6区SS12-１出土遺物（１）
6区SS12-２出土遺物（１）
図版108　6区SS12-１出土遺物（２）
6区SS12-２出土遺物（２）
6区SS12-３出土遺物（１）
6区SS12-３出土遺物（２）
6区SS17出土遺物
図版109　6区SS19出土遺物（１）
6区SS24出土遺物（１）
図版110　6区SS19出土遺物（２）
6区SS19出土遺物（３）
6区SS24出土遺物（２）
6区SS24出土遺物（３）
6区SS24出土遺物（４）
6区SS24出土遺物（５）
6区SK36-１出土遺物
4区SD１出土遺物
図版111　2区SI８出土遺物（１）
図版112　2区SI８出土遺物（２）
図版113　2区SI14・19出土遺物
2区SI14出土遺物（１）
2区SI14出土遺物（２）
2区SI14出土遺物（３）
2区SI19出土遺物
図版114　3区SI１・12出土遺物
4区SS４－４出土遺物（１）
図版115　4区SS４－４出土遺物（２）
4区SS４－４出土遺物（３）
4区SS４－３出土遺物（１）
4区SS４－３出土遺物（２）
4区SS４－２出土遺物（１）
図版116　4区SS４－２出土遺物（２）
4区SS４－２出土遺物（３）
4区SS４－１出土遺物（１）
4区SS４－１出土遺物（２）
図版117　6区SI３・４・８・16、SK４出土遺物
6区SI７出土遺物（１）
図版118　6区SI３出土遺物
6区SI３・４出土遺物
6区SI７出土遺物（２）
6区SI７出土遺物（３）
6区SI７出土遺物（４）
6区SI７出土遺物（５）
6区SI７出土遺物（６）
6区SI７出土遺物（７）
図版119　6区SI７出土遺物（８）
図版120　4区SS１・２・９出土遺物
4区SS２出土遺物（１）
4区SS２出土遺物（２）
4区SS２出土遺物（３）
4区SS３出土遺物
図版121　4区SS６出土遺物（１）

４区SS７・14出土遺物
図版122　４区SS６出土遺物（２）
４区SS７出土遺物
４区SS14出土遺物
４区SK３出土遺物
４区SK４出土遺物（１）
４区SK４出土遺物（２）
４区SK４出土遺物（３）
４区SK４出土遺物（４）
図版123　４区SK４出土遺物（５）
４区SK４出土遺物（６）
２区焼土３出土遺物
図版124　２区SI１出土遺物（１）
２区SI１出土遺物（２）
２区SI５出土遺物
２区SI４・５、SD15出土遺物
３区SI２出土遺物（１）
図版125　３区SI２出土遺物（２）
３区SI２出土遺物（３）
図版126　３区SI２～６出土遺物
３区SI３出土遺物
３区SI５出土遺物（１）
３区SI５出土遺物（２）
３区SI５出土遺物（３）
図版127　３区SI６出土遺物（１）
３区SI６出土遺物（２）
３区SI６出土遺物（３）
３区SI７出土遺物（１）
３区SI７出土遺物（２）
図版128　３区SI７出土遺物（３）
３区SI７出土遺物（４）
３区SS５・６出土遺物
３区SI９出土遺物
３区SI10出土遺物（１）
図版129　３区SI10出土遺物（２）
３区SS６出土遺物
４区SS20出土遺物
図版130　４区SS33出土遺物（１）
４区SS33出土遺物（２）
４区SS33出土遺物（３）
５区SI１Ａ出土遺物（１）
５区SI１Ａ出土遺物（２）
図版131　５区SI１Ｂ出土遺物
図版132　６区SI22出土遺物（１）
６区SI22出土遺物（２）
２区SS１出土遺物（１）
２区SS１出土遺物（２）
６区SI24出土遺物（１）
６区SI24出土遺物（２）
６区SI24出土遺物（３）
図版133　３区SK53出土遺物
６区SK30出土遺物（１）
６区SK30出土遺物（２）
６区SK13出土遺物
図版134　６区横穴墓出土遺物（１）
図版135　６区横穴墓出土遺物（２）
図版136　６区横穴墓出土遺物（３）
図版137　４区SS29出土遺物（１）
図版138　４区SS29出土遺物（２）
図版139　４区SS29出土遺物（３）
図版140　４区SS29出土遺物（４）
図版141　４区SS29出土遺物（５）
図版142　４区SS29出土遺物（６）
図版143　４区SS29出土遺物（７）
図版144　６区SS20・26出土遺物
６区SS５出土遺物
６区SS20出土遺物（１）
６区SS20出土遺物（２）
６区SS21出土遺物
図版145　６区SS22出土遺物（１）
図版146　６区SS22出土遺物（２）
６区SS25出土遺物
６区SS26出土遺物
６区SS32出土遺物
図版147　６区SS33出土遺物
１区SK６出土遺物
図版148　３区SS１－１出土遺物
３区SS３出土遺物（１）
３区SS３出土遺物（２）
３区SS３出土遺物（３）
３区SS３出土遺物（４）
６区SS14出土遺物
図版149　４区SS30出土遺物
４区SS31出土遺物（１）
図版150　４区SS31出土遺物（２）
図版151　突帯文土器

図版152　１区遺構外出土遺物（１）
図版153　１区遺構外出土遺物（２）
図版154　２区遺構外出土遺物（１）
図版155　２区遺構外出土遺物（２）
図版156　２区遺構外出土遺物（３）
図版157　２区遺構外出土遺物（４）
図版158　２区遺構外出土遺物（５）
図版159　２区遺構外出土遺物（６）
図版160　２区遺構外出土遺物（７）
図版161　２区遺構外出土遺物（８）
図版162　２区遺構外出土遺物（９）
図版163　３区遺構外出土遺物（１）
図版164　３区遺構外出土遺物（２）
図版165　３区遺構外出土遺物（３）
図版166　３区遺構外出土遺物（４）
図版167　３区遺構外出土遺物（５）
図版168　３区遺構外出土遺物（６）
図版169　３区遺構外出土遺物（７）
図版170　３区遺構外出土遺物（８）
図版171　３区遺構外出土遺物（９）
図版172　３区遺構外出土遺物(10)
図版173　４区遺構外出土遺物（１）
図版174　４区遺構外出土遺物（２）
図版175　４区遺構外出土遺物（３）
図版176　５区遺構外出土遺物（１）
図版177　５区遺構外出土遺物（２）
図版178　６区遺構外出土遺物（１）
図版179　６区遺構外出土遺物（２）
図版180　６区遺構外出土遺物（３）
図版181　６区遺構外出土遺物（４）
図版182　６区遺構外出土遺物（５）
図版183　６区遺構外出土遺物（６）
図版184　６区遺構外出土遺物（７）
図版185　６区遺構外出土遺物（８）
図版186　遺構内出土鉄器
　　遺構外出土鉄器
図版187　管玉
　　ガラス玉
　　４区遺構内包含層出土遺物（１）
　　４区遺構内包含層出土遺物（２）
図版188　境矢石遺跡のプラント・オパール顕微鏡写真
図版189　境矢石遺跡の花粉・胞子顕微鏡写真
図版190　境矢石遺跡３区SD11の花粉・胞子顕微鏡写真
図版191　境矢石遺跡２・３区の炭化材顕微鏡写真（１）
図版192　境矢石遺跡２・３区の炭化材顕微鏡写真（２）
図版193　境矢石遺跡４・６区の炭化材顕微鏡写真（１）
図版194　境矢石遺跡４・６区の炭化材顕微鏡写真（２）
図版195　境矢石遺跡４・６区の炭化材顕微鏡写真（３）
図版196　境矢石遺跡４区SK４の炭化材顕微鏡写真
図版197　試料の外観、赤色物質のSEM像
図版198　境矢石遺跡の種実

第５章　理化学的分析

第１節　境矢石遺跡における自然科学分析

株式会社　古環境研究所

Ⅰ．境矢石遺跡のプラント・オパール分析

１．はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸（SiO_2）が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山、2000）。

２．試料

分析試料は、２区調査区中央セクションベルト（第８図　B-B′）から採取された計５点である。試料採取箇所を分析結果の模式柱状図に示す。

３．分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、ガラスビーズ法（藤原、1976）を用いて、次の手順で行った。

１）試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）
２）試料約１gに対し直径約40㎛のガラスビーズを約0.02g添加（0.1mgの精度で秤量）
３）電気炉灰化法（550℃・６時間）による脱有機物処理
４）超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散
５）沈底法による20㎛以下の微粒子除去
６）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
７）検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。試料１gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料１g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体１個あたりの植物体乾重、単位：10^{-5}g）をかけて、単位面積で層厚１cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる（杉山、2000）。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

４．分析結果

検出されたプラント・オパールの分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行

い、その結果を第１表および第718図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真（図版188）を示す。

〔イネ科〕

イネ、ムギ類（穎の表皮細胞）、ヨシ属、キビ族型、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族Ａ（チガヤ属など）

〔イネ科－タケ亜科〕

メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属）、ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など）、ミヤコザサ節型（ササ属ミヤコザサ節など）、未分類等

〔イネ科－その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、未分類等

〔樹木〕

その他

５．考察

⑴　イネ科栽培植物の検討

プラント・オパール分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネをはじめムギ類、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、キビ属型（キビが含まれる）、ジュズダマ属（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属（シコクビエが含まれる）、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがある。このうち、本遺跡の試料からはイネとムギ類が検出された。以下に各分類群ごとに栽培の可能性について考察する。

１）イネ

イネは㉜層（試料１）、④層（試料２）、⑦層（試料４）から検出された。イネの密度は700～1,900個/gと比較的低い値であり、稲作跡（水田跡）の検証や探査を行う場合の判断基準としている5,000個/gを下回っている。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。なお、畑稲作（陸稲栽培）の場合は、連作障害や地力の低下を避けるために輪作を行ったり、休閑期間をおく必要があるため、イネの密度は水田跡と比較してかなり低くなり、1,000～2,000個/g程度である場合が多い（杉山、2000）。

２）ムギ類

ムギ類（穎の表皮細胞）は、㉜層（試料１）から検出された。密度は700個/gと低い値であるが、穎（籾殻）が栽培地に残される確率は低いことから、少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある。したがって、同層準の時期に調査地点もしくはその近辺でムギ類が栽培されていた可能性が考えられる。

３）その他

イネ科栽培植物の中には未検討のものもあるため、キビ族型などその他の分類群の中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。なお、プラント・オパール分析で同定される分類群は主にイネ科植物に限定されるため、根菜類などの畑作物は分析の対象外となっている。

第１表　境矢石遺跡におけるプラント・オパール分析結果

検出密度（単位：×100個/g）

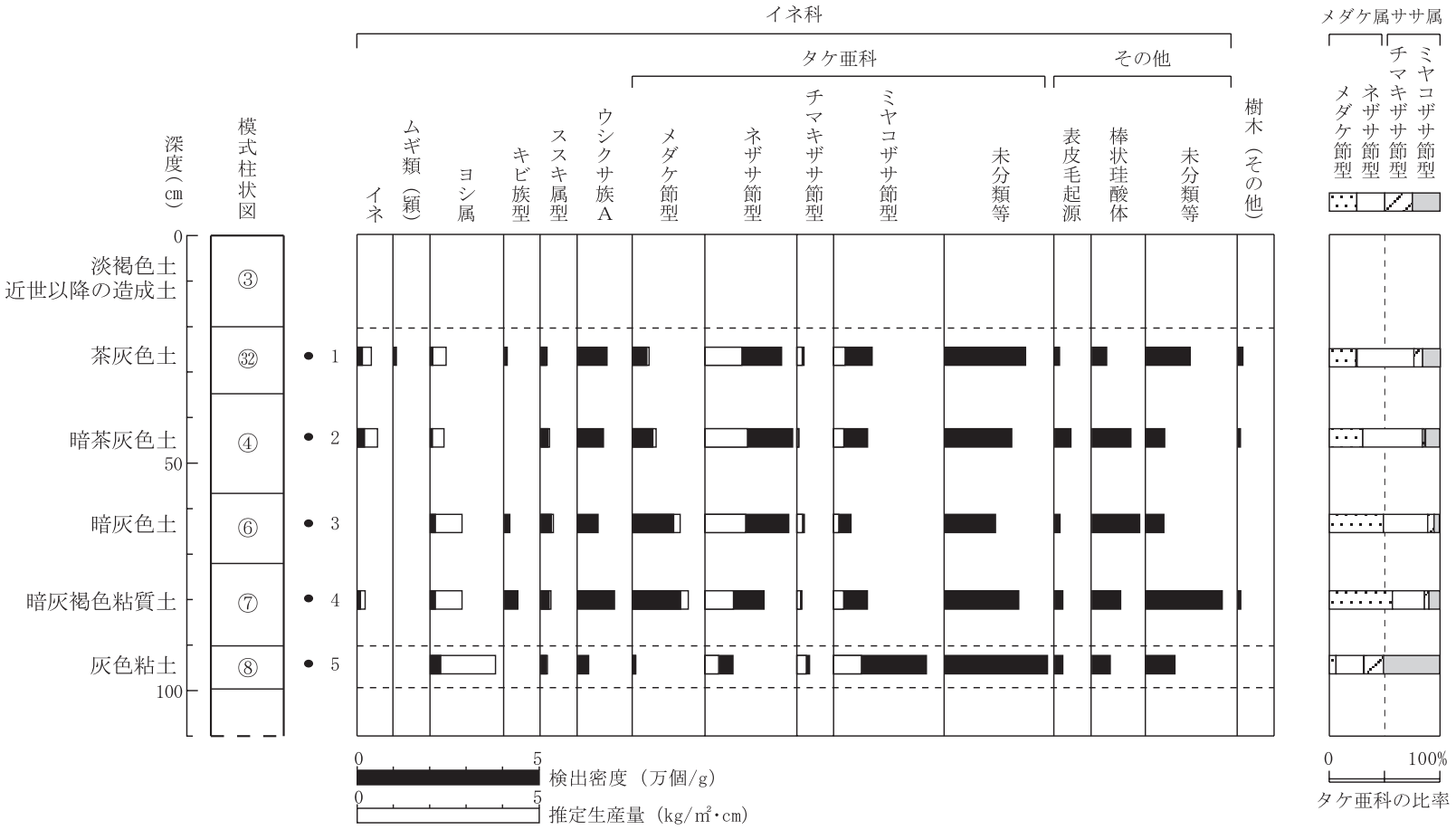
分類群	学名	地点・試料	２区調査区中央セクションベルト				
			1	2	3	4	5
イネ科	Gramineae						
イネ	*Oryza sativa*		13	19		7	
ムギ類(穎の表皮細胞)	*Hordeum-Triticum*（husk Phytolith）		7				
ヨシ属	*Phragmites*		7	6	14	14	29
キビ族型	Paniceae type		7		14	36	
ススキ属型	*Miscanthus* type		13	19	28	22	14
ウシクサ族A	Andropogoneae A type		80	70	55	101	29
タケ亜科	Bambusoideae						
メダケ節型	*Pleioblastus* sect. Nipponocalamus		40	57	117	137	7
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. Nezasa		215	246	235	166	79
チマキザサ節型	*Sasa* sect. Sasa etc.		20	6	21	14	36
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. Crassinodi		107	95	48	94	259
未分類等	Others		221	183	138	202	281
その他のイネ科	Others						
表皮毛起源	Husk hair origin		13	44	14	22	22
棒状珪酸体	Rodshaped		40	107	131	79	50
未分類等	Others		121	51	48	209	79
樹木起源	Arboreal						
その他	Others		13	6		7	
植物珪酸体総数	Total		919	910	864	1,110	886

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/㎡･㎝）：試料の仮比重を1.0と仮定して算出

イネ	*Oryza sativa*	0.39	0.56		0.21	
ヨシ属	*Phragmites*	0.42	0.40	0.87	0.91	1.82
ススキ属型	*Miscanthus* type	0.17	0.24	0.34	0.27	0.18
メダケ節型	*Pleioblastus* sect. Nipponocalamus	0.47	0.66	1.36	1.59	0.08
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. Nezasa	1.03	1.18	1.13	0.80	0.38
チマキザサ節型	*Sasa* sect. Sasa etc.	0.15	0.05	0.16	0.11	0.27
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. Crassinodi	0.32	0.28	0.15	0.28	0.78

タケ亜科の比率（%）

メダケ節型	*Pleioblastus* sect. Nipponocalamus	24	30	49	57	6
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. Nezasa	52	54	40	29	25
チマキザサ節型	*Sasa* sect. Sasa etc.	8	2	6	4	18
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. Crassinodi	16	13	5	10	51
メダケ率	Medake ratio	76	85	89	86	31



第718図　境矢石遺跡におけるプラント・オパール分析結果

⑵　プラント・オパール分析から推定される植生と環境

上記以外の分類群の検出状況と、そこから推定される植生・環境について検討を行った。下位の⑧層ではミヤコザサ節型が多く検出され、ヨシ属、ススキ属型、ウシクサ族Ａ、メダケ節型、ネザサ節型、チマキザサ節型なども認められた。⑦層から⑥層にかけては、メダケ節型、ネザサ節型が大幅に増加し、ミヤコザサ節型は減少している。④層から㉜層にかけても、おおむね同様の結果であるが、メダケ節型、ヨシ属は減少している。おもな分類群の推定生産量によると、⑧層ではヨシ属とミヤコザサ節型、⑦層から⑥層にかけてメダケ節型とネザサ節型、④層から㉜層にかけてはネザサ節型が優勢となっている。

以上の結果から、下位の⑧層（灰色粘土）の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿潤な環境であったと考えられ、周辺の比較的乾燥したところにはササ属（おもにミヤコザサ節）などの竹笹類およびススキ属やチガヤ属などが生育していたと推定される。⑦層から㉜層にかけても、少量ながらヨシ属が見られるやや湿潤な環境であったと考えられ、周辺の比較的乾燥したところにはメダケ属（メダケ節やネザサ節）などの竹笹類およびススキ属やチガヤ属、キビ族などが生育していたと推定される。

６．まとめ

プラント・オパール分析の結果、㉜層、④層、⑦層では比較的少量ながらイネが検出され、調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が認められた。また、㉜層ではムギ類が栽培されていた可能性も認められた。

（参考文献）

杉山真二･藤原宏志（1986）「機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定―古環境推定の基礎資料として―」『考古学と自然科学』19，p. 69-84.

杉山真二（2000）「植物珪酸体（プラント・オパール）」『考古学と植物学．同成社』p. 189-213.

藤原宏志（1976）「プラント・オパール分析法の基礎的研究⑴―数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法―」『考古学と自然科学』９，p. 15-29.

藤原宏志・杉山真二（1984）「プラント・オパール分析法の基礎的研究⑸―プラント・オパール分析による水田址の探査―」『考古学と自然科学』17，p. 73-85.

Ⅱ．境矢石遺跡の花粉分析

１．はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復元に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

２．試料

分析試料は、２区の調査区中央セクションベルト（第８図　B-B′）において、㉜層（試料１、茶

灰色土）から⑧層（試料５、灰色粘土）より採取された５試料である。試料採取箇所は分析結果とともに模式柱状図に示す。なお、これらは、植物珪酸体分析に用いられたものと同一試料である。

３．方法

花粉の分離抽出は、中村（1967）の方法をもとに、以下の手順で行った。

１）試料から1㎤を採量
２）0.5％リン酸三ナトリウム（12水）溶液を加え15分間湯煎
３）水洗処理の後、0.5㎜の篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
４）25％フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
５）水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸９：濃硫酸１のエルドマン氏液を加え１分間湯煎）を施す
６）再び氷酢酸を加えて水洗処理
７）沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作製
８）検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300～1,000倍で行った。花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（－）で結んで示す。イネ属については、中村（1974、1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とする。また、この処理を施すとクスノキ科の花粉は検出されない。

４．結果

⑴　分類群

出現した分類群は、樹木花粉３、樹木花粉と草本花粉を含むもの１、草本花粉10、シダ植物胞子２形態の計16である。これらの学名と和名および粒数を第２表に示し、花粉ダイアグラムを第719図に示す。主要な分類群は顕微鏡写真（図版189）に示した。また、寄生虫卵についても観察したが検出されなかった。以下に出現した分類群を記載する。

〔樹木花粉〕

クマシデ属－アサダ、エノキ属－ムクノキ、トチノキ

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

ウコギ科

〔草本花粉〕

イネ科、カヤツリグサ科、アカザ科－ヒユ科、ナデシコ科、キンポウゲ属、アブラナ科、セリ亜科、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

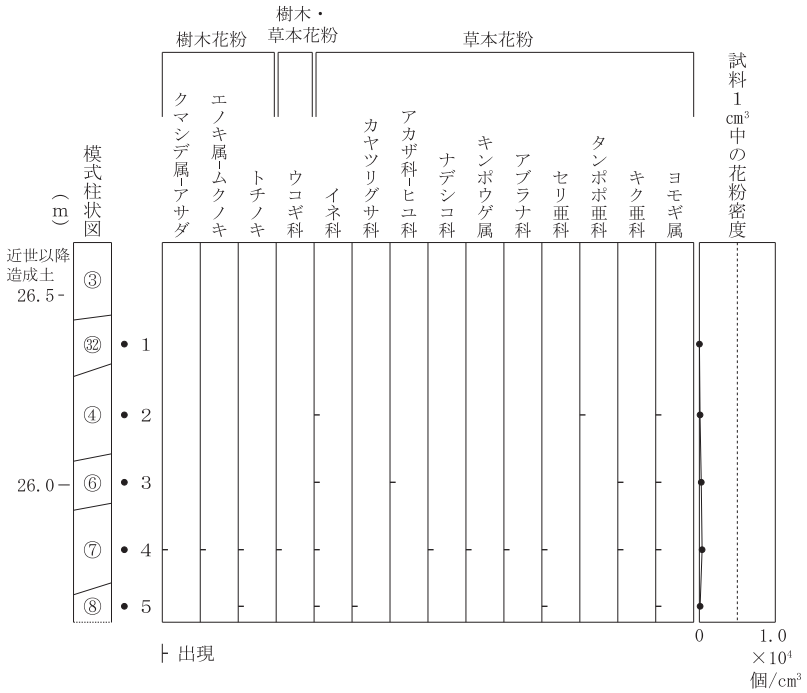
単条溝胞子、三条溝胞子

⑵　花粉群集の特徴

２区の調査区中央セクションベルト、⑧層から㉜層（試料５から試料１）では、花粉密度が極めて

第２表　境矢石遺跡における花粉分析結果

分類群		２区調査区中央セクションベルト				
		㉜層	④層	⑥層	⑦層	⑧層
学名	和名	1	2	3	4	5
Arboreal　pollen	樹木花粉					
Carpinus-Ostrya　japonica	クマシデ属-アサダ				1	
Celtis-Aphananthe　aspera	エノキ属-ムクノキ				1	
Aesculus turbinata	トチノキ				1	2
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉					
Araliaceae	ウコギ科				1	
Nonarboreal pollen	草本花粉					
Gramineae	イネ科		1	13	8	3
Cyperaceae	カヤツリグサ科					1
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科			3		
Caryophyllaceae	ナデシコ科				1	
Ranunculus	キンポウゲ属				1	
Cruciferae	アブラナ科				3	
Apioideae	セリ亜科				2	1
Lactucoideae	タンポポ亜科		1			
Asteroideae	キク亜科			2	2	
Artemisia	ヨモギ属		10	16	28	4
Fern spore	シダ植物胞子					
Monolate type spore	単条溝胞子		1	2	3	1
Trilate type spore	三条溝胞子		1	4	4	
Arboreal pollen	樹木花粉	0	0	0	3	2
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	0	0	0	1	0
Nonarboreal pollen	草本花粉	0	12	34	45	9
Total pollen	花粉総数	0	12	34	49	11
Pollen frequencies of 1㎤	試料1㎤中の花粉密度	8.0	9.1 ×10	2.5 ×10^2	3.6 ×10^2	9.8 ×10
Unknown pollen	未同定花粉	1	1	1	3	3
Fern spore	シダ植物胞子	0	2	6	7	1
Helminth eggs	寄生虫卵	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)
Digestion rimeins	明らかな消化残渣	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)
Charcoal fragments	微細炭化物	(＋)	(＋)	(＋)	(＋＋)	(＋)



第719図　境矢石遺跡における花粉ダイアグラム

低く、樹木花粉のトチノキ、クマシデ属－アサダ、エノキ属－ムクノキ、草本花粉のヨモギ属、イネ科、キク亜科、アカザ科－ヒユ科、アブラナ科、セリ亜科などがわずかに出現する。

５．花粉分析から推定される植生と環境

分析の結果、花粉密度が極めて低く、花粉などの有機質遺体が分解される乾燥した堆積環境であったか、堆積速度が速かったと考えられる。わずかに出現した花粉から、ヨモギ属、イネ科、キク亜科、アカザ科－ヒユ科、アブラナ科、セリ亜科などの乾燥を好む人里植物が分布し、周辺にトチノキ、クマシデ属－アサダ、エノキ属－ムクノキなどの落葉広葉樹が生育していたと考えられる。

（参考文献）

金原正明（1993）「花粉分析法による古環境復原」『新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法』角川書店，p. 248-262.

島倉巳三郎（1973）「日本植物の花粉形態」『大阪市立自然科学博物館収蔵目録第５集』60p.

中村純（1967）『花粉分析』古今書院，p. 82-102.

中村純（1974）「イネ科花粉について、とくにイネ（Oryza sativa）を中心として」『第四紀研究』13，p. 187-193.

中村純（1977）「稲作とイネ花粉」『考古学と自然科学』第10号，p. 21-30.

中村純（1980）「日本産花粉の標徴」『大阪自然史博物館収蔵目録第13集』91p.

第２節　境矢石遺跡３区SD11における花粉分析

株式会社　古環境研究所

１．はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復元に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

境矢石遺跡では、弥生時代前期末～中期中葉とされる溝状土壙（３区SD11）が検出された。ここでは、当該遺構の埋土を対象に花粉分析を行い、当時の周辺植生を検討した。

２．試料

分析試料は、弥生時代前期末～中期中葉の溝状土壙（３区SD11）の埋土から採取された８点である。試料採取箇所を分析結果の断面図に示す。

３．方法

花粉の分離抽出は、中村（1967）の方法をもとに、以下の手順で行った。

１）試料から1㎤を採量
２）0.5％リン酸三ナトリウム（12水）溶液を加え15分間湯煎
３）水洗処理の後、0.5㎜の篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
４）25％フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
５）水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸９：濃硫酸１のエルドマン氏液を加え１分間湯煎）を施す
６）再び氷酢酸を加えて水洗処理
７）沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作製
８）検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300～1,000倍で行った。花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（－）で結んで示す。イネ属については、中村（1974、1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とする。また、この処理を施すとクスノキ科の花粉は検出されない。

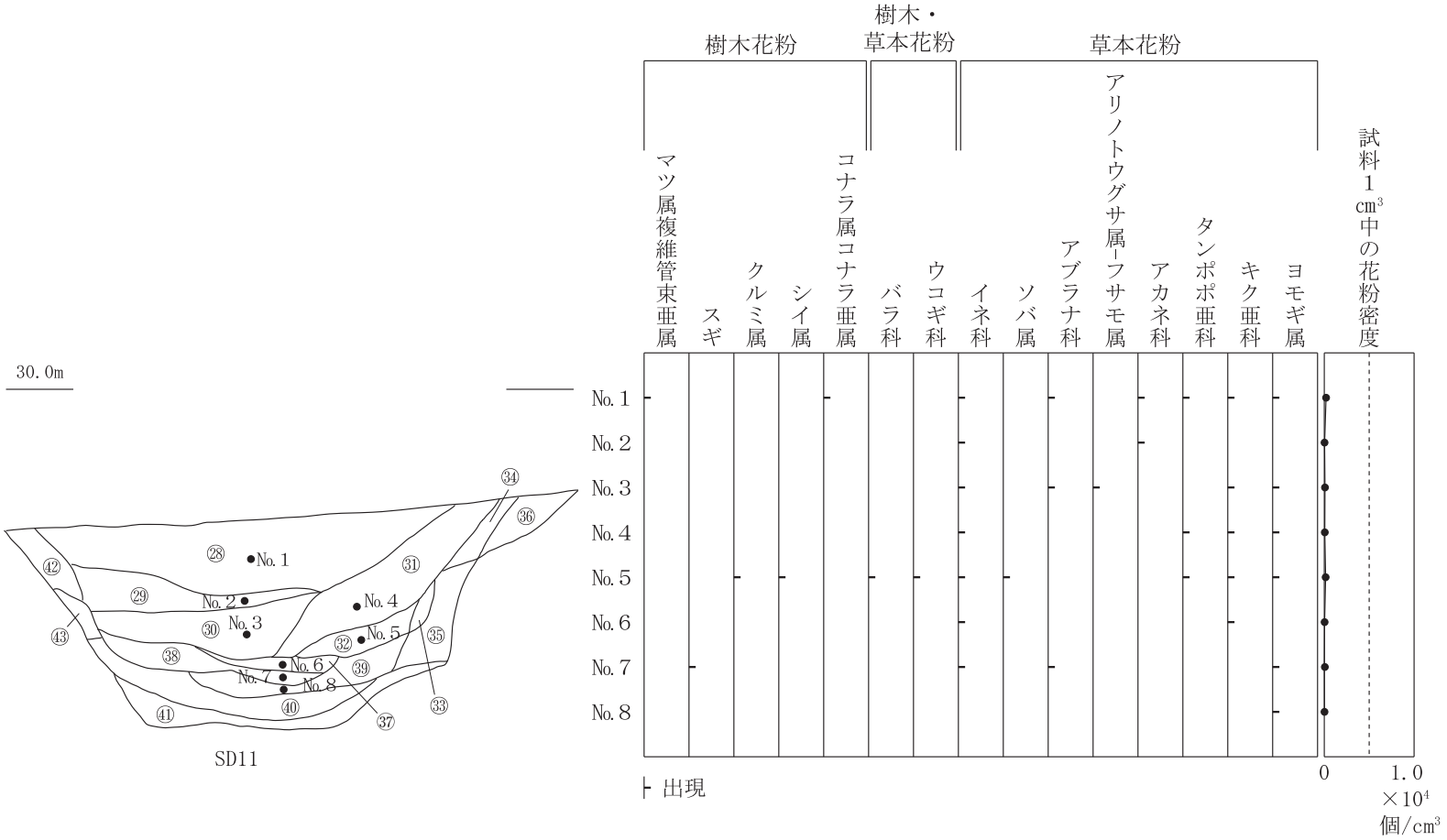
４．結果

⑴　分類群

出現した分類群は、樹木花粉５、樹木花粉と草本花粉を含むもの２、草本花粉８、シダ植物胞子２形態の計17である。これらの学名と和名および粒数を第３表に示し、花粉ダイアグラムを第720図に示す。主要な分類群は顕微鏡写真（図版190）に示した。また、寄生虫卵についても観察したが検出

第３表　境矢石遺跡３区SD11における花粉分析結果

分類群		３区SD11							
		㉘層	㉙層	㉚層	㉛層	㉜層	㊲層	㊳層	㊴層
学名	和名	No.１	No.２	No.３	No.４	No.５	No.６	No.７	No.８
Arboreal pollen	樹木花粉								
Pinus subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属	1							
Cryptomeria japonica	スギ							1	
Juglans	クルミ属					1			
Castanopsis	シイ属					1			
Quercus subgen. *Lepidobalanus*	コナラ属コナラ亜属	1							
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉								
Rosaceae	バラ科					1			
Araliaceae	ウコギ科					1			
Nonarboreal pollen	草本花粉								
Gramineae	イネ科	8	1	3	3	8	2	1	
Fagopyrum	ソバ属					1			
Cruciferae	アブラナ科	4		1				2	
Haloragis-Myriophyllum	アリノトウグサ属-フサモ属			1					
Rubiaceae	アカネ科	1	1						
Lactucoideae	タンポポ亜科	3			3	1			
Asteroideae	キク亜科	3		2	1	2	1		
Artemisia	ヨモギ属	7		3	1	4		2	1
Fern spore	シダ植物胞子								
Monolate type spore	単条溝胞子	3	1	5	1	2		7	
Trilate type spore	三条溝胞子	4		1		5	2	3	
Arboreal pollen	樹木花粉	2				2		1	
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉					2			
Nonarboreal pollen	草本花粉	26	2	10	8	16	3	5	1
Total pollen	花粉総数	28	2	10	8	20	3	6	1
Pollen frequencies of 1㎠	試料１㎠中の花粉密度	2.0 $\times 10^2$	2.8 $\times 10$	7.7 $\times 10$	5.6 $\times 10$	1.5 $\times 10^2$	3.5 $\times 10$	6.3 $\times 10$	2.4 $\times 10$
Unknown　pollen	未同定花粉	1	2	1		2	2	3	2
Fern　spore	シダ植物胞子	7	1	6	1	7	2	10	0
Helminth　eggs	寄生虫卵	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)
Digestion　rimeins	明らかな消化残渣	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)
Charcoal　fragments	微細炭化物	(＋＋)	(＋＋)	(＋＋)	(＋＋)	(＋＋)	(＋＋)	(＋＋)	(＋＋)



第720図　境矢石遺跡３区SD11における花粉ダイアグラム

されなかった。以下に出現した分類群と、花粉群集の特徴について記載する。

〔樹木花粉〕

マツ属複維管束亜属、スギ、クルミ属、シイ属、コナラ属コナラ亜属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

バラ科、ウコギ科

〔草本花粉〕

イネ科、ソバ属、アブラナ科、アリノトウグサ属－フサモ属、アカネ科、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

⑵　花粉群集の特徴

弥生時代前期末～中期中葉の溝状土壙（３区SD11）の㉘層（試料№１）から㊴層（試料№８）では、いずれの試料も花粉密度が極めて低い。草本花粉ではイネ科、ヨモギ属、キク亜科がほぼ連続して出現し、アブラナ科、タンポポ亜科、アカネ科、アリノトウグサ属－フサモ属がわずかに出現する。㉜層ではソバ属がわずかに出現する。樹木花粉ではマツ属複維管束亜属、スギ、クルミ属、シイ属、コナラ属コナラ亜属、樹木・草本花粉ではバラ科、ウコギ科がわずかに出現する。

５．花粉分析から推定される植生と環境

溝状土壙（３区SD11）において花粉分析を行った。分析の結果、いずれの試料も花粉密度が極めて低いことから、花粉などの有機質遺体が分解される乾燥した堆積環境であったか、土壌の堆積速度が速かったことが考えられる。わずかに出現するイネ科、ヨモギ属、キク亜科などの草本は、乾燥を好む人里植物で溝の周囲に生育していたとみなされる。近隣にはマツ属単維管束亜属、スギなどの針葉樹とクルミ属、シイ属、コナラ属コナラ亜属などの広葉樹の森林が分布していたと考えられる。

（参考文献）

金原正明（1993）「花粉分析法による古環境復原」『新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法』角川書店，p. 248-262.

島倉巳三郎（1973）「日本植物の花粉形態」『大阪市立自然科学博物館収蔵目録第５集』60p.

中村純（1967）『花粉分析』古今書院，p. 82-102.

中村純（1974）「イネ科花粉について、とくにイネ（Oryza sativa）を中心として」『第四紀研究』13，p. 187-193.

中村純（1977）「稲作とイネ花粉」『考古学と自然科学』第10号，p. 21-30.

中村純（1980）「日本産花粉の標徴」『大阪自然史博物館収蔵目録第13集』91p.

第３節　境矢石遺跡２・３区における樹種同定

株式会社　古環境研究所

１．はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質から、概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては、木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

２．試料

試料は、境矢石遺跡の古墳時代中期と中世と考えられる遺構より出土した炭化材４点である。

３．方法

試料を割折して新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、落射顕微鏡によって50～1,000倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

４．結果

第４表に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を図版191・192に示す。以下に同定の根拠となった特徴を記す。

第４表　境矢石遺跡２・３区における樹種同定結果

試料番号	試料採取場所	結果（学名／和名）	
1	２区　P314	*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.	クリ
2	３区　P114	*Quercus* sect. *Prinus*	コナラ属コナラ節
3	３区　SS３炉	grass	草本
4	３区　ＳＩ５	*Quercus* sect. *Aegilops*	コナラ属クヌギ節

クリ　Castanea crenata Sieb. et Zucc.　ブナ科　図版191　写真１

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、数列配列する環孔材である。晩材部では小道管が、火炎状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質よりクリに同定される。クリは北海道の西南部、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20m、径40㎝ぐらいであるが、大きいものは高さ30m、径２mに達する。耐朽性は強く、水湿によく耐え、保存性の極めて高い材で、現在では建築、家具、器具、土木、船舶、彫刻、薪炭、椎茸ほだ木など広く用いられる。

コナラ属コナラ節　Quercus sect. Prinus　ブナ科　図版191　写真２

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、１～数列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小道管が、火炎状に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属コナラ節に同定される。コナラ属コナラ節にはカシワ、コナラ、ナラガシワ、ミズナラがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、高さ15m、径60㎝ぐらいに達する。材は強靭で弾力に富み、建築材などに用いられる。

コナラ属クヌギ節　Quercus sect. Aegilops　ブナ科　図版191　写真３

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、１～数列配列する環孔材である。晩材部では厚壁で丸い小道管が、単独でおよそ放射方向に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属クヌギ節に同定される。コナラ属クヌギ節にはクヌギ、アベマキなどがあり、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、高さ15m、径60㎝に達する。材は強靭で弾力に富み、器具、農具などに用いられる。

草本　grass　図版192　写真４

横断面：基本組織である柔細胞の中に並立維管束が不規則に分布する。

放射断面及び接線断面：柔細胞及び維管束、維管束鞘が桿軸方向に配列している。

以上の形質より草本に同定される。

５．所見

境矢石遺跡で出土した炭化材４点は、クリ１点、コナラ属コナラ節１点、コナラ属クヌギ節１点、草本１点であった。クリは、重硬で保存性が良い材である。コナラ属コナラ節、コナラ属クヌギ節のコナラ属の木材は、概して弾力に富んだ強い材と言える。クリ、コナラ属コナラ節、コナラ属クヌギ節は温帯に広く分布する落葉高木である。その内クリは乾燥した台地や丘陵地を好み、二次林要素でもあり、暖温帯と冷温帯の中間域では純林を形成することもある。コナラ属コナラ節、コナラ属クヌギ節は、日当たりの良い山野に生育する。コナラ属コナラ節には二次林要素でもあるコナラなどが含まれる。コナラ属クヌギ節にはクヌギとアベマキがあり、山林や乾燥した台地、丘陵地に生育し二次林要素でもある。当時遺跡周辺に生育しており、用いられたと推定される。いずれも二次林要素であり、遺跡周辺にクリ、コナラ、クヌギの落葉広葉樹の二次林が分布していた可能性が示唆される。

（参考文献）

佐伯浩・原田浩（1985）『針葉樹材の細胞．木材の構造』文永堂出版，p. 20–48.

佐伯浩・原田浩（1985）『広葉樹材の細胞．木材の構造』文永堂出版，p. 49–100.

島地謙・伊東隆夫（1988）『日本の遺跡出土木製品総覧』雄山閣，p. 296.

山田昌久（1993）「日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成」『植生史研究特別第 1 号』植生史研究会，p. 242.

第４節　境矢石遺跡４・６区における樹種同定

株式会社　古環境研究所

１．はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質から、概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能である。本報告では、境矢石遺跡より出土した炭化材について、木材解剖学的手法を用いて樹種同定を行った。

２．試料と方法

試料は、境矢石遺跡より出土した炭化材15点である。第５表に結果ともに対照を記す。

樹種同定の方法は、試料を割り折りして新鮮な横断面（木口と同義)、放射断面（柾目と同義)、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、落射顕微鏡によって50～1,000倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

３．結果

第５表に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を図版193～195に示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

１）マツ属複維管束亜属　*Pinus subgen. Diploxylon*　マツ科　№３　図版193　写真１

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：年輪の幅が広く、垂直樹脂道が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は窓状である。放射仮道管の内壁には鋸歯状肥厚が存在する。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

以上の形質よりマツ属複維管束亜属に同定される。マツ属複維管束亜属には、クロマツとアカマツがあり、どちらも北海道南部、本州、四国、九州に分布する常緑高木である。材は水湿によく耐え、広く用いられる。

２）クリ　*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*　ブナ科　№13　図版193　写真２

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、数列配列する環孔材である。晩材部では小道管が、火炎状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質よりクリに同定される。クリは北海道の西南部、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20m、径40㎝ぐらいであるが、大きいものは高さ30m、径２mに達する。耐朽性が強く、水湿によく耐え、保存性の極めて高い材で、現在では建築、家具、器具、土木、船舶、彫刻、薪炭、椎茸ほだ木など広く用いられる。

３）シイ属　*Castanopsis*　ブナ科　№９　図版193　写真３

横断面：年輪のはじめに中型から大型の道管がやや疎に数列配列する環孔材である。晩材部で小道

管が火炎状に配列する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型のものが存在する。

以上の形質よりシイ属に同定される。シイ属は本州（福島県、新潟県佐渡以南）、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ20m、径1.5mに達する。材は耐朽性と保存性はやや低く、建築、器具などに用いられる。

４）コナラ属アカガシ亜属　*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*　ブナ科　№１　図版194　写真４

横断面：中型から大型の道管が、１～数列幅で年輪界に関係なく放射方向に配列する放射孔材である。道管は単独で複合しない。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属アカガシ亜属に同定される。コナラ属アカガシ亜属にはアカガシ、イチイガシ、アラカシ、シラカシなどがあり、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ30m、径1.5m以上に達する。材は堅硬で強靭、弾力性が強く耐湿性も高い。特に農耕具に用いられる。

５）ブナ科　Fagaceae

横断面：部分的ではあるが大型の道管と、火炎状に配列する小道管が見られる。

放射断面：放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質よりブナ科の、クリ、シイ属、コナラ属コナラ節のいずれかである。なお本試料は極めて小片の為、広範囲の観察は困難であったので、ブナ科以下の同定は困難であった。

６）ケヤキ　*Zelkova serrata Makino*　ニレ科　№５　図版194　写真５

横断面：年輪のはじめに大型の道管が１～２列配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は多数複合して円形、接線状ないし斜線状に配列する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞であるが、上下の縁辺部のものは方形細胞でしばしば大きくふくらむものがある。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で、上下の縁辺部の細胞のなかには大きくふくらんでいるものがある。幅は１～８細胞幅である。

以上の形質よりケヤキに同定される。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20～25m、径60～70㎝ぐらいであるが、大きいものは高さ50m、径３mに達する。材は強靭で従曲性に富み、建築、家具、器具、船、土木などに用いられる。

７）クスノキ科　Lauraceae　№10　図版194　写真６

横断面：中型から小型の道管が、単独および２～数個放射方向に複合して散在する散孔材である。道管の周囲を鞘状に軸方向柔細胞が取り囲んでいる。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔のものが存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞で上下の縁辺部のみ直立細胞からなる。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で１～３細胞幅である。上下の縁辺部のみ直立細胞である。

以上の形質よりクスノキ科に同定される。クスノキ科には、クスノキ、ヤブニッケイ、タブノキ、

カゴノキ、シロダモ属などがあり、道管径の大きさ、多孔穿孔および道管内壁のらせん肥厚の有無などで細分できるが、本試料は道管径以外の点が不明瞭な為、クスノキ科の同定にとどまる。なお、本試料は道管径の大きさから、クスノキ以外のクスノキ科の樹種のいずれかである。

８）ケンポナシ属　*Hovenia*　クロウメモドキ科　№６　図版195　写真７

横断面：大型で厚壁の丸い道管が、単独あるいは２～３個放射方向に複合して配列する環孔材である。晩材部では小型で厚壁の道管が単独あるいは放射方向に２～３個複合してまばらに散在する。道管の径は早材から晩材にかけて徐々に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は異性である。軸方向柔細胞は周囲状を示す。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で、１～５細胞幅である。

以上の形質よりケンポナシ属に同定される。ケンポナシ属には、ケンポナシ、ケケンポナシがあり、ケンポナシは北海道（奥尻島）、本州、四国、九州に分布する。ケケンポナシは本州（西部に多い）、四国に分布する。どちらも落葉高木である。材は建築、家具、楽器、器具など広く用いられる。

９）サカキ　*Cleyera japonica* Thunb.　ツバキ科　№２　図版195　写真８

横断面：小型の道管が、単独ないし２個複合して密に散在する散孔材である。

放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は多く40を超える。放射組織は平伏細胞、方形細胞、直立細胞からなる異性である。

接線断面：放射組織は、異性放射組織型で単列である。

以上の形質よりサカキに同定される。サカキは関東以西の本州、四国、九州、沖縄に分布する。常緑高木で、通常高さ８～10m、径20～30㎝である。材は強靭、堅硬で、建築、器具などに用いられる。

10）カキノキ属　*Diospyros*　カキノキ科　№11　図版195　写真９

横断面：中型から大型の道管が、単独および２～４個放射方向に複合して、散在する散孔材である。道管の壁は厚い。軸方向柔細胞は周囲状および接線状に配列する傾向を示す。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は異性である。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で１～２細胞幅である。いずれの放射組織も高さがほぼ同じで、層階状に配列する傾向を示す。

以上の形質よりカキノキ属に同定される。カキノキ属には、トキワガキ、ヤマガキ、マメガキなどがあり、本州（西部）、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20m、径１ｍぐらいに達する。材は、建築、器具などに用いられる。

11）環孔材　ring-popous wood

横断面：部分的ではあるが、年輪のはじめに大型の道管が配列する。

放射断面：道管が存在する。

接線断面：放射組織が存在する。

以上の形質より環孔材に同定される。なお本試料は非常に小片で、広範囲の観察が出来なかった為、環孔材以下の同定は困難であった。

12）不明炭化物　unknown

本試料は保存状態が悪く、木材の形質がみられない。

４．所見

同定の結果、境矢石遺跡の炭化材は、マツ属複維管束亜属２点、クリ２点、ケヤキ２点、コナラ属アカガシ亜属１点、シイ属１点、ブナ科１点、クスノキ科１点、ケンポナシ属１点、サカキ１点、カキノキ属１点、環孔材１点、不明炭化物１点であった。

境矢石遺跡の炭化材はそれぞれの種類の数量にまとまりはなく、樹種が多用であるという特徴を有し、マツ属複維管束亜属の針葉樹、コナラ属アカガシ亜属、シイ属、サカキ、クスノキ科の照葉樹、クリ、ケヤキ、ケンポナシ属、カキノキ属の落葉樹がある。マツ属複維管束亜属はアカマツが土壌条件の悪い場所に生育し二次林を形成する。コナラ属アカガシ亜属、シイ属１点、サカキ、クスノキ科の照葉樹は西南日本の照葉樹林域には普通に生育し、クリ、ケヤキ、ケンポナシ、カキノキ属の落葉樹も同様な生育である。このことから、いずれの樹種も本遺跡周辺に生育する樹種であり、多様であることから、炭化材は選択性なく使用されたと考えられる。

（参考文献）

佐伯　浩・原田　浩（1985）『針葉樹材の細胞．木材の構造』文永堂出版，p. 20–48.

佐伯　浩・原田　浩（1985）『広葉樹材の細胞．木材の構造』文永堂出版，p. 49–100.

島地　謙・伊東隆夫（1988）『日本の遺跡出土木製品総覧』雄山閣，p. 296.

山田昌久（1993）「日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成」『植生史研究特別第１号』植生史研究会，p. 242.

第５表　境矢石遺跡４・６区における樹種同定結果

No.	遺構名		取上番号	結果（学名／和名）	
No.１	４区	SS4	198	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属
No.２	４区	SS24	3360	*Cleyera japonica* Thunb.	サカキ
No.３	４区	SK4	1403	*Pinus* subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属
No.４	４区	SK4	1274	*Pinus* subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属
No.５	６区	SI1–2	226	*Zelkova serrata* Makino	ケヤキ
No.６	６区	SI2床直	378	*Hovenia*	ケンポナシ属
No.７	６区	SI3	320	unknown	不明
No.８	６区	SI4	409	*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.-Quercus sect. Prinus	クリ－コナラ属コナラ節
No.９	６区	SI7	520	*Castanopsis*	シイ属
No.10	６区	SI10下層	2442	Lauraceae	クスノキ科
No.11	６区	SI10上層	2188	*Diospyros*	カキノキ属
No.12	６区	SI15	3022	ring-popous wood	環孔材
No.13	６区	SS11	2600	*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.	クリ
No.14	６区	SS11	2629	*Zelkova serrata* Makino	ケヤキ
No.15	６区	SS26	3428	*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.	クリ

第５節　境矢石遺跡出土炭化材の放射性炭素年代測定

パリノ・サーヴェイ株式会社

１．はじめに

境矢石遺跡（鳥取県西伯郡南部町境に所在）は、法勝寺川左岸に位置し、弥生時代前期～中期の埋葬施設群、弥生時代後期～古代の集落跡などが確認されている。これまでにも、古代に属する土器内に遺体が埋納されていたかを検証するために自然科学分析を応用している。今回の分析調査では、遺構の年代観を得るために、２区の竈と３区SS３の炉から出土した炭化材について年代測定を実施する。

２．試料

試料は、２区の竈と３区SS３の炉から出土した炭化材（試料番号１～５）である。試料番号２～５は微細な炭化材が混じる土壌であったが、微細な炭化材を抽出して測定試料とした。試料の詳細については、結果とともに表示する。

３．分析方法

試料は、超音波洗浄と酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸1.2N，水酸化ナトリウム１N，塩酸1.2N）により、不純物を取り除いたあと、グラファイトを合成し、測定用試料とする。測定機器は、NEC製1.5SDHを用いる。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1,950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma；68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIO-CARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0（Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

暦年較正は、測定誤差σ、2σ双方の値を計算する。σは統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、2σは真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、σ、2σの範囲をそれぞれ１とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}Cの半減期5,730±40年）を較正することである。今回は、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、１年単位で表す。

４．結果

同位体効果による補正を行った測定年代（補正年代）は、２区竈３出土炭化材（試料番号１）が1,840±15yBP、２区竈２出土炭化材（試料番号２）が1,800±15yBP、２区竈１出土炭化材（試料番号３）が1,795±20yBP、２区焼土５出土炭化材（試料番号４）が1,745±20yBP、３区SS３の炉出土炭化材（試料番号５）が1,225±15yBPである（第６表）。

これらの補正年代に基づく暦年較正結果（σ）は、２区竈３出土炭化材（試料番号１）がcalAD133～212、２区竈２出土炭化材（試料番号２）がcalAD143～252、２区竈１出土炭化材（試料番号３）がcalAD174～315、２区焼土５出土炭化材（試料番号４）がcalAD251～329、３区SS３の炉出土炭化材（試料番号５）がcalAD728～862、である（第７表）。

以上の結果より、２区竈３と２区竈２で出土した炭化材は、およそ弥生時代後期末頃の年代でほぼ同時期のものと考えられるが、２区竈１、２区焼土５で出土した炭化材はそれらよりも若干新しく、弥生時代後期末から古墳時代前期までにおよぶ年代を示す。さらに３区SS３の炉で出土した炭化材は奈良～平安時代の８～９世紀頃の年代値を示す。

第６表　放射性炭素年代測定結果

試料番号	採取位置	種　類	前　処　理	補正年代BP	δ13C（‰）	Code No.
1	２区竈３	炭化材	超音波洗浄、酸・アルカリ・酸洗浄	1,840 ± 15	−24.19 ± 0.21	11896-1
2	２区竈２	炭化材	超音波洗浄、酸・アルカリ・酸洗浄	1,800 ± 15	−23.92 ± 0.13	11896-2
3	２区竈１	炭化材	超音波洗浄、酸・アルカリ・酸洗浄	1,795 ± 20	−26.07 ± 0.21	11896-3
4	２区焼土５	炭化材	超音波洗浄、酸・アルカリ・酸洗浄	1,745 ± 20	−23.18 ± 0.17	11896-4
5	３区SS３炉	炭化材	超音波洗浄、酸・アルカリ・酸洗浄	1,225 ± 15	−23.89 ± 0.20	11896-5

1）年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
2）BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
3）付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68％が入る範囲）を年代値に換算した値。

第７表　暦年較正結果

番号	採取地点	種類	補正年代（BP）	暦年較正年代（cal）			相対比	Code No.
1	２区竈３	炭化材	1,840 ± 17	σ	cal AD 133−cal AD 176	cal BP 2,083−1,774	0.637	11555-1
					cal AD 189−cal AD 212	cal BP 2,139−1,738	0.363	
				2σ	cal AD 128−cal AD 232	cal BP 2,078−1,718	1.000	
2	２区竈２	炭化材	1,798 ± 17	σ	cal AD 143−cal AD 150	cal BP 2,093−1,800	0.048	11555-2
					cal AD 170−cal AD 193	cal BP 2,120−1,757	0.213	
					cal AD 210−cal AD 252	cal BP 2,160−1,698	0.739	
				2σ	cal AD 136−cal AD 256	cal BP 2,086−1,694	0.951	
					cal AD 302−cal AD 316	cal BP 2,252−1,634	0.049	
3	２区竈１	炭化材	1,793 ± 19	σ	cal AD 174−cal AD 191	cal BP 2,124−1,759	0.147	11555-3
					cal AD 211−cal AD 256	cal BP 2,161−1,694	0.750	
					cal AD 303−cal AD 315	cal BP 2,253−1,635	0.103	
				2σ	cal AD 135−cal AD 258	cal BP 2,085−1,692	0.881	
					cal AD 296−cal AD 321	cal BP 2,246−1,629	0.119	
4	２区焼土５	炭化材	1,746 ± 19	σ	cal AD 251−cal AD 263	cal BP 2,201−1,687	0.188	11555-4
					cal AD 278−cal AD 329	cal BP 2,228−1,621	0.812	
				2σ	cal AD 238−cal AD 348	cal BP 2,188−1,602	0.989	
					cal AD 371−cal AD 377	cal BP 2,321−1,573	0.011	
5	３区SS３炉	炭化材	1,223 ± 17	σ	cal AD 728−cal AD 736	cal BP 2,678−1,214	0.086	11555-5
					cal AD 771−cal AD 784	cal BP 2,721−1,166	0.181	
					cal AD 787−cal AD 825	cal BP 2,737−1,125	0.505	
					cal AD 841−cal AD 862	cal BP 2,791−1,088	0.227	
				2σ	cal AD 715−cal AD 744	cal BP 2,665−1,206	0.148	
					cal AD 767−cal AD 880	cal BP 2,717−1,070	0.852	

1）計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0（Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer）を使用した。
2）計算には表に示した丸める前の値を使用している。
3）１桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、１桁目を丸めていない。
4）統計的に真の値が入る確率はσは68%、2σは95%である
5）相対比は、σ、2σのそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

第６節　境矢石遺跡４区SK4出土炭化材の樹種同定と放射性炭素年代測定

株式会社　古環境研究所

Ⅰ．樹種同定

１．はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質から、概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては、木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

ここでは、鳥取県西伯郡南部町に所在する境矢石遺跡の発掘調査で出土した炭化材の樹種を調べる目的で、樹種同定を行った。

２．試料

試料は、４区で検出された土坑（SK４）内の土砂より水洗選別された炭化材１点である。時期は古墳時代前期前葉～中葉である。

３．方法

試料を割折して新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、落射顕微鏡によって50～1,000倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

４．結果

試料は　アカマツ　*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.　であった。以下に同定根拠となった特徴を記し、各断面の顕微鏡写真を図版196に示す。

アカマツ　*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.　マツ科

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行はやや急で、垂直樹脂道が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は窓状である。放射仮道管の内壁には著しい鋸歯状肥厚が存在する。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

以上の形質よりアカマツに同定される。アカマツは、北海道南部、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ40m、径２ｍに達する。材は重硬な良材で水湿によく耐え、広く用いられる。

５．所見

同定の結果、境矢石遺跡の炭化材は、アカマツであった。アカマツは特に土壌条件の悪い岩山等に

生育し二次林を形成する。また、海岸沿いの岩場にも生育する。材は水湿に良く耐える特徴を有する。分布は温帯を中心に広くする常緑針葉樹である。

（参考文献）
佐伯　浩・原田　浩（1985）『針葉樹材の細胞．木材の構造』文永堂出版，p. 20-48.
島地　謙・伊東隆夫（1988）『日本の遺跡出土木製品総覧』雄山閣，p. 296.
山田昌久（1993）「日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成」『植生史研究特別第１号』植生史研究会，p. 242.

Ⅱ．放射性炭素年代測定

１．はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素（^{14}C）の濃度が、放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。樹木や種実などの植物遺体、骨、貝殻、土壌、土器付着炭化物などが測定対象となり、約６万年前までの年代測定が可能である。

ここでは、境矢石遺跡で検出された土坑（４区SK４）の年代を明らかにする目的で、土坑内の土砂より水洗選別された炭化材を対象に放射性炭素年代測定を行った。

２．試料と方法

測定試料は、４区SK４（古墳時代前期前葉～中葉）より出土した炭化材１点である。なお、樹種同定の結果、当該試料はアカマツ　*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.　に同定されている。
測定試料の情報、調製データは第８表のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた^{14}C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C年代、暦年代を算出した。

第８表　測定試料及び処理

試料名	対象物	種類	前処理・調整	測定法
№１	４区 SK４	炭化物（アカマツ）	超音波洗浄，酸－アルカリ－酸処理	AMS

※AMS（Accelerator Mass Spectrometry）は加速器質量分析法

３．測定結果

第９表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（$\delta^{13}C$）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値、誤差を丸めて表示した^{14}C年代、^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲を示す。また、第721図には暦年較正結果を示す。暦年較正に用いた年代値は年代値、誤差を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C年代（年BP）の算出には、^{14}C

の半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した^{14}C年代誤差（±1σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の^{14}C年代がその^{14}C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示すものである。なお、暦年較正の詳細は以下の通りである。

暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5568年として算出された^{14}C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}Cの半減期5730±40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C年代の暦年較正にはOxCal3.10（較正曲線データ：IntCal09）を使用した。なお、1σ暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2σ暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は^{14}C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

第９表　測定結果

試料名	測定№. （PED-）	δ^{13}C （‰）	暦年較正用年代 （年BP）	^{14}C年代 （年BP）	暦年代（西暦） 1σ（68.2%確率）	 2σ（95.4%確率）
№1	19327	−26.33±0.20	1864±20	1865±20	AD 80-110（13.3%） AD120-180（40.8%） AD190-220（14.1%）	AD80-220（95.4%）

BP：Before Physics(Present)，AD：紀元

４．所見

境矢石遺跡で検出された土坑内の炭化材（アカマツ）について、加速器質量分析法（AMS法）により放射性炭素年代測定を行った。その結果、４区SK４より出土した炭化材は、1865±20年BP（2σの暦年代でAD80～220年）の年代値が得られた。

（参考文献）

Bronk Ramsey, C.（1995）Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program. Radiocarbon, 37, 425-430.

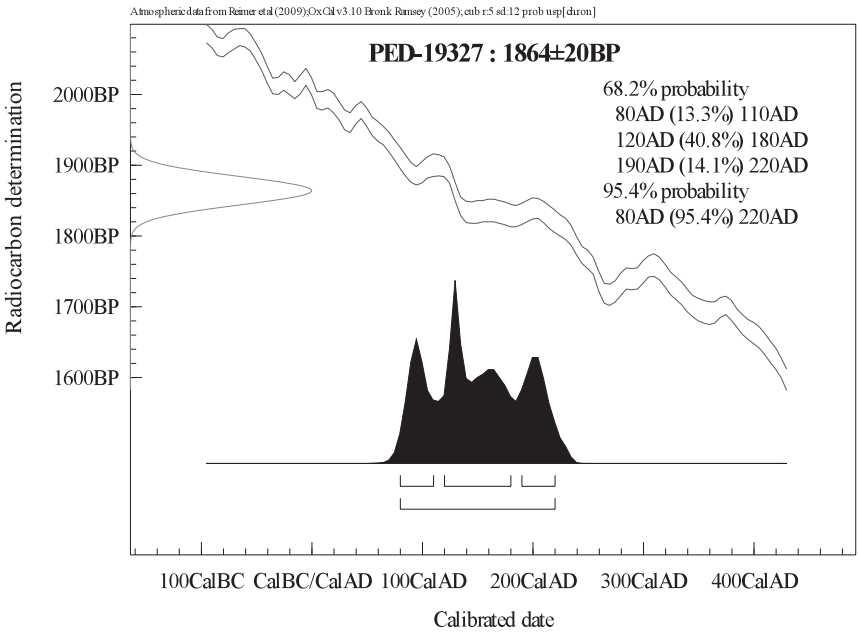
Bronk Ramsey, C.（2001）Development of the Radiocarbon Program OxCal. Radiocarbon, 43, 355-363.

中村俊夫（2000）「放射性炭素年代測定法の基礎」日本先史時代の^{14}C年代編集委員会編『日本先史時代の^{14}C年代』３-20, 日本第四紀学会.

尾嵜大真（2005）『INTCAL98からIntCal04へ．学術創成研究費 弥生農耕の起源と東アジア№.３－炭素年代測定による高精度編年体系の構築－』p. 14-15.

Paula J Reimer et al.,（2004）IntCal 04 Terrestrial radiocarbon age calibration, 26- 0 ka BP. Radiocarbon 46, 1029-1058.

Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Burr, G.S., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., McCormac, F.G., Manning, S.W., Reimer, R.W., Richards, D.A., Southon, J.R., Talamo, S., Turney, C.S.M., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer C.E.（2009）IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0 – 50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 51, 1111-1150.



第721図　暦年較正結果

第７節　境矢石遺跡におけるリン・炭素分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

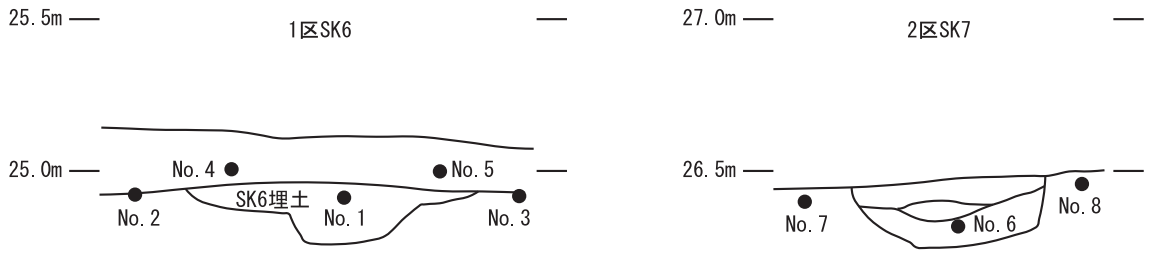
１．はじめに

境矢石遺跡（鳥取県西伯郡南部町境に所在）は、法勝寺川左岸に位置し、弥生時代前～中期の埋葬施設群、弥生時代後期～古代の集落跡などが確認されている。今回、古代の土器を埋納した土坑（１区SK６）と弥生時代中期初頭の土坑（２区SK７）は、人骨や副葬品と考えられる遺物が出土していないが、埋葬施設の可能性が指摘されている。

そこで、本報告では、１区SK６および２区SK７の土坑２基における埋葬施設の可能性を検証することを目的とし、リン酸分析による遺体痕跡の検出を行う。なお、リン酸は、動物の体組織や骨のほか、植物遺体にも由来するため、腐植含量の調査も併せて実施し、リン酸含量の評価を行う。

２．試料

調査対象とした試料は、１区SK６では土坑内（試料番号１）と土坑覆土（試料番号４、５）および土坑周辺より採取された地山（試料番号２、３）の５点、２区SK７では土坑内（試料番号６）および周辺地山（試料番号７、８）の３点の計８点である（第722図）。



第722図　試料採取位置

３．分析方法

リン酸含量は硝酸・過塩素酸分解－バナドモリブデン酸比色法、腐植含量はチューリン法（土壌標準分析・測定法委員会，1986）でそれぞれ行った。以下に各項目の操作工程を示す。

⑴　分析試料の調製

試料を風乾後、土塊を軽く崩して２㎜の篩でふるい分けをする。この篩通過試料を風乾細土試料とし、分析に供する。また、風乾細土試料の一部を乳鉢で粉砕し、0.5㎜篩を全通させ、粉砕土試料を作成する。風乾細土試料については、105℃で４時間乾燥し、分析試料水分を求める。

⑵　リン酸含量

粉砕土試料1.00gをケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸約５mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容して、ろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸濃度を測定する。測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量（P_2O_5mg/g）を求める。

⑶　腐植含量

粉砕土試料0.100～0.500gを100ml三角フラスコに正確に秤りとり、0.4Nクロム酸・硫酸混液 10mlを

正確に加え、約200℃の砂浴上で正確に５分間煮沸する。冷却後、0.2％フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2N硫酸第一鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量（Org-C乾土%）を求める。これに1.724を乗じて腐植含量（%）を算出する。

４．結果

結果を第10表に示す。以下、遺構別に結果を記す。

⑴　１区SK６（試料番号１～５）

国際法区分における野外土性（ペドロジスト懇談会編，1984）はいずれもLiC(軽埴土）で、土色は土坑内（試料番号１）が灰黄褐（10YR４/２)、地山（試料番号２、３）がにぶい黄褐（10YR４/３)、覆土が黒褐（10YR３/２）である。腐植含量は土坑内（試料番号１）で1.45%、地山（試料番号２、３）で約１%、覆土（試料番号４、５）では約２%と土色に応じた増減を示したが、リン酸含量は本土坑試料の中で最も腐植が多い覆土（試料番号４、５）で1.02～1.26P_2O_5mg/g程度であるのに対し、土坑内（試料番号１）が1.33P_2O_5mg/gと僅かに高い値を示した。

⑵　２区SK７（試料番号６～８）

野外土性は、１区SK６と同様LiCであり、土色は土坑内（試料番号６）が黒（10YR1.7/１)、地山が10YR２/２（試料番号７)、10YR２/３（試料番号８）と黒褐を呈する。１区SK６と比べて腐植の集積量が多く、腐植含量は土坑内（試料番号６）で7.59%、地山で3.15%(試料番号７)，2.36%(試料番号８）である。リン酸含量は土坑内（試料番号６）で2.01P_2O_5mg/g、地山で1.12P_2O_5mg/g(試料番号７)，0.98P_2O_5mg/g(試料番号８）であり、腐植含量と比例的である。

第10表　土壌理化学分析結果

試料番号	採取場所	土性	土　色	腐植含量（%）	P_2O_5（mg/g）
1	１区SK６内	LiC	10YR４/２　灰黄褐	1.45	1.33
2	１区SK６周辺（地山）	LiC	10YR４/３　にぶい黄褐	1.02	0.68
3	１区SK６周辺（地山）	LiC	10YR４/３　にぶい黄褐	1.02	0.81
4	１区SK６覆土	LiC	10YR３/２　黒褐	2.09	1.26
5	１区SK６覆土	LiC	10YR３/２　黒褐	1.98	1.02
6	２区SK７内	LiC	10YR1.7/Ｉ　黒	7.59	2.01
7	２区SK７周辺（地山）	LiC	10YR２/２　黒褐	3.15	1.12
8	２区SK７周辺（地山）	LiC	10YR２/３　黒褐	2.36	0.98

注．（1）土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修，1967）による。
（2）土性：土壌調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編，1984）の野外土性による。
LiC･･･軽埴土（粘土25～45%、シルト０～45%、砂10～55%）

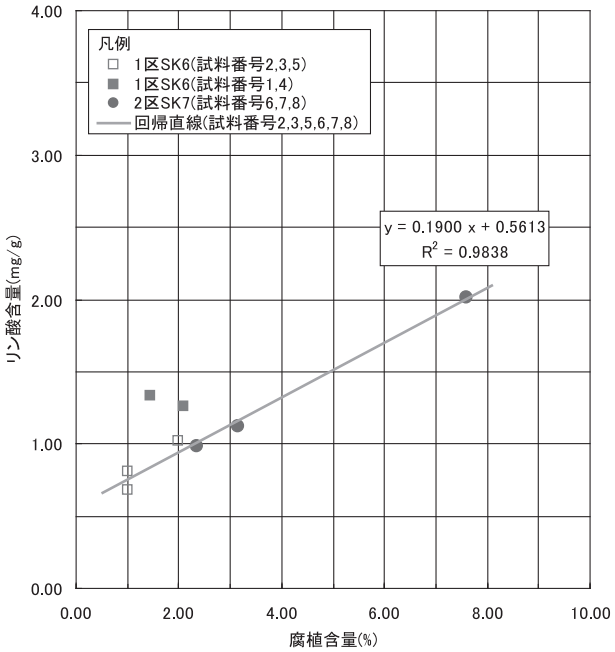
５．考察

リンは生物にとって主要な構成元素であり、動植物中に普遍的に含まれる元素であるが、特に人や動物の骨や歯には多量に含まれている。生物体内に蓄積されたリンはやがて土壌中に還元され、土壌有機物や土壌中の鉄やアルミニウムと難溶性の化合物を形成する。特に活性アルミニウムの多い火山灰土壌ではリン酸の固定力が高いため、遺跡での生物起源残留物の痕跡確認などに有効である。

ところで、土壌中に普通に含まれるリン酸量、いわゆる天然賦存量については、いくつかの報告事

例があるが（Bowen, 1983; Bolt･Bruggenwert, 1980；川崎ほか, 1991；天野ほか，1991）、これらの事例から推定される天然賦存量の上限は約3.0P_2O_5mg/g程度である。また、人為的な影響（化学肥料の施用など）を受けた黒ボク土の既耕地では5.5P_2O_5mg/g（川崎ほか，1991）という報告例があり、当社におけるこれまでの分析調査事例では骨片などの痕跡が認められる土壌では6.0P_2O_5mg/gを越える場合が多い。今回調査を実施した１区SK６および２区SK７の土坑２基におけるリン酸の含量をみると最大でも2.01P_2O_5mg/gであり、天然賦存量を上回るような高い値でなく、土坑内に遺体が埋葬されていたと積極的に評価できない。

ところで、土壌中に含まれるリン酸の給源としては人為的な影響を除けば、土壌腐植の元となる植物遺体に関与するところが大きく、通常リン酸含量と腐植含量は類似した推移を示す傾向がある。そこで、植物遺体の影響を除いて検討するために、リン酸含量と腐食含量の相関を調べてみた（第723図）。これによれば、１区SK６の土坑内（試料番号１）と覆土（試料番号４）においてリン酸が僅かに多い傾向にあり、これを除いた試料における決定係数（R^2）は0.9838と高いことを窺い知ることが出来る。



第723図　腐植含量とリン酸含量の相関

これらのことから、１区SK６に関しては植物遺体以外の要因でリン酸が富化されていることが考えられる。ただし、土坑内（試料番号１）や覆土（試料番号４）から検出されたリン酸がごく僅かであるため、今後は自然土壌におけるリン酸のバラツキがどの程度あるのか、また土坑内のリン酸等の分布がどのような状況にあるのか、遺構覆土内にどのような微細な遺物が含まれているかなど、他の調査手法と併せて複合的に検討する必要がある。

（引用文献）

Bowen, H.J.M., 1983,『環境無機化学−元素の循環と生化学−』浅見輝男・茅野充男訳，博友社，297p.

Bolt, G.H.・Bruggenwert, M.G.M, 1980,『土壌の化学』岩田進午・三輪睿太郎・井上隆弘・陽　捷行訳，学会出版センター，309p.

天野洋司・太田　健・草場　敬・中井　信，1991,「中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量」農林水産省農林水産技術会議事務局編　『土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発』28−36.

川崎　弘・吉田　潔・井上恒久，1991,「九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別計量」農林水産省　農林水産技術会議事務局編　『土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発』23−27.

土壌標準分析・測定法委員会編，1986,『土壌標準分析・測定法』博友社，354p.

農林省農林水産技術会議事務局監修，1967,『新版標準土色帖』

ペドロジスト懇談会，1984,「野外土性の判定」ペドロジスト懇談会編　『土壌調査ハンドブック』博友社，39−40.

第８節　境矢石遺跡５区SK４・12の赤色顔料の分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

１．はじめに

本報告では、弥生時代前期と考えられる木棺墓から採取された赤色物質について、Ｘ線回折分析および電子顕微鏡観察による材質鑑定結果について述べる。なお、Ｘ線回折分析は、物質を構成する鉱物名を調べる方法であり、赤色顔料では、いわゆるベンガラの主たる構成鉱物である赤鉄鉱や、水銀朱などの確認ができる。電子顕微鏡観察では、例えばパイプ状ベンガラのように顔料粒子に特徴的な形態や集合状態などを調べることにより、顔料の種類を特定する手がかりを得ることができる。

２．試料

試料は、５区SK４と５区SK12のそれぞれから１点ずつ採取された土塊計２点である（図版197）。土塊は、いずれも径５～６㎝で褐色を呈するが、その表面には、径１～５㎜程度の赤色物質の点在していることが確認された。発掘調査所見によれば、赤色物質は、木棺墓全体に広がっているのではなく、採取された土塊の部分でのみ確認されている。

分析試料は写真撮影後、土塊に点在する赤色物質を採取して供試した。なお、本報告では各試料名を便宜上、出土した木棺墓の略号で表記する。

３．分析方法

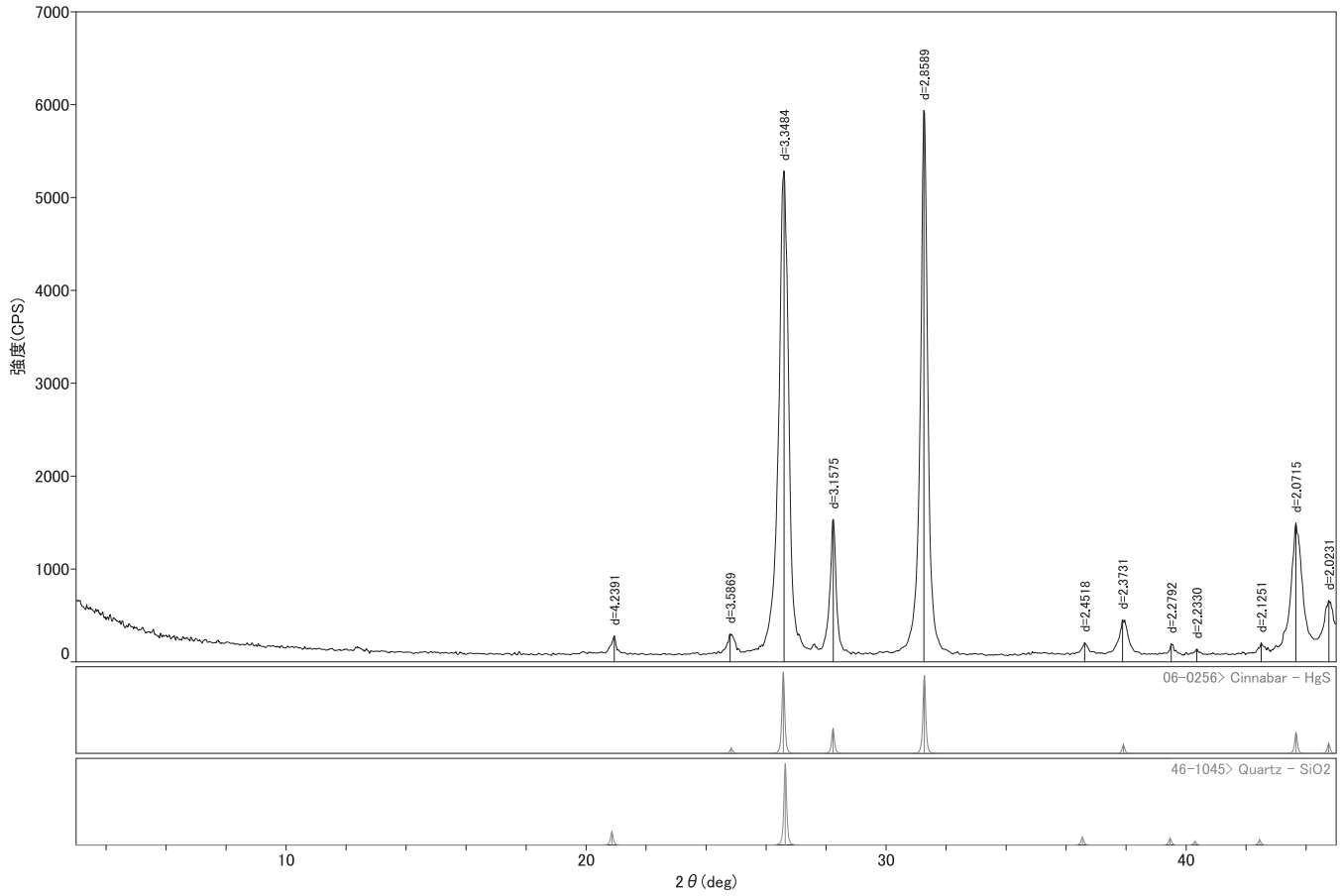
⑴　Ｘ線回折分析

メノウ乳鉢で微粉砕した試料を無反射試料板に充填し、以下の条件で測定を実施した。検出された物質の同定解析は、Materials Data,Inc. のＸ線回折パターン処理プログラムJADEを用い、該当する化合物または鉱物を検索した。

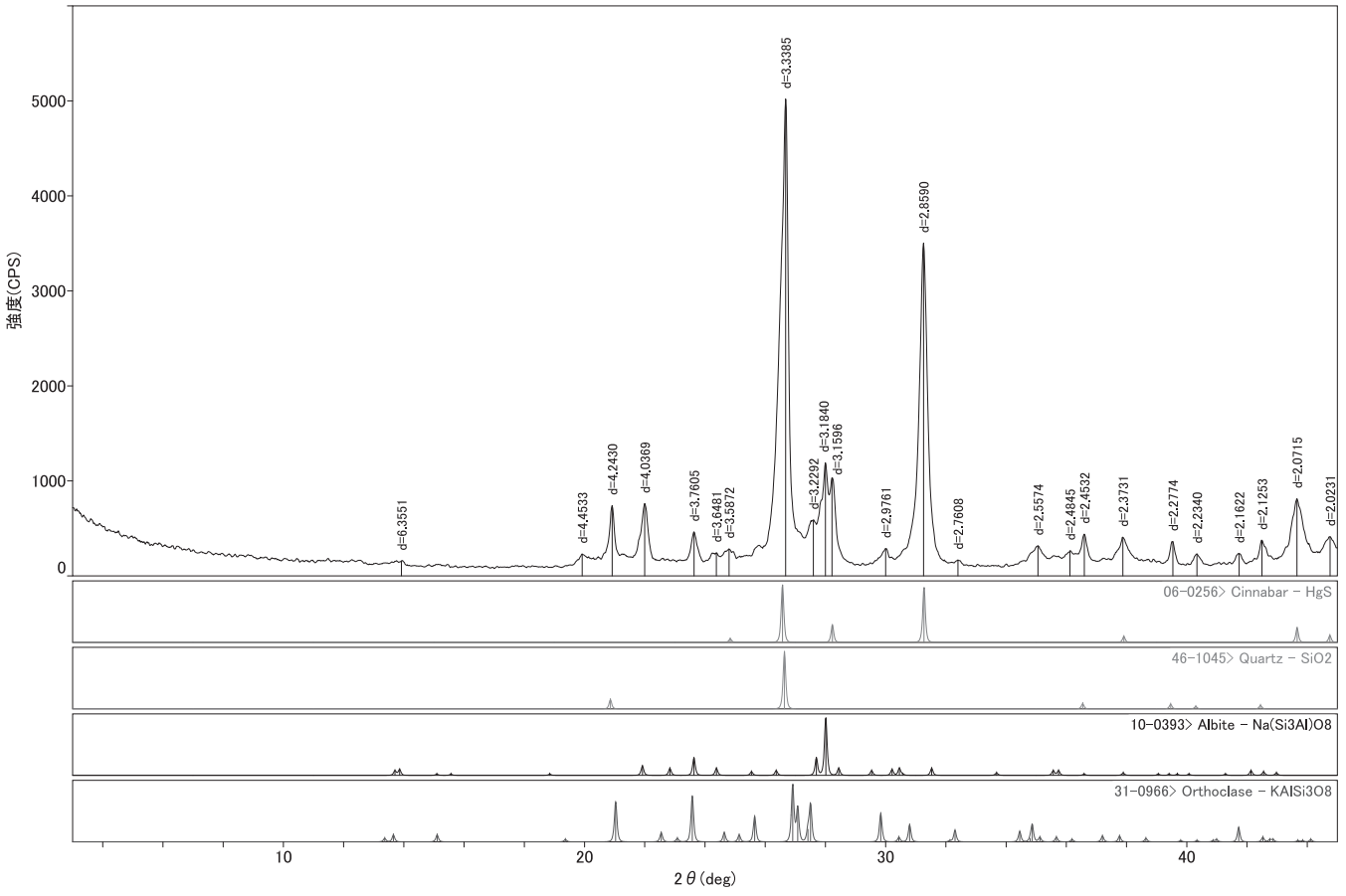
装置：理学電気製 MultiFlex	Divergency Slit： 1°
Target：Cu(Kα)	Scattering Slit： 1°
Monochrometer：Graphite湾曲	Recieving Slit：0.3㎜
Voltage：40KV	Scanning Speed： 2°/min
Current：40Ma	Scanning Mode：連続法
Detector：SC	Sampling Range：0.02°
Calculation Mode：cps	Scanning Range： 3～45°

⑵　電子顕微鏡観察

試料を水平試料載台にカーボン両面テープで固定し、日本電子製可搬形走査電子顕微鏡JCM-5700により、加速電圧20kV，低真空モードにおいて反射電子立体像（組成＋凹凸像）で赤色物質の状況を撮影した。



第724図　５区SK４の赤色物質のX線回折図



第725図　５区SK12の赤色物質のX線回折図

４．結果

⑴　Ｘ線回折分析

Ｘ線回折図を第724・725図に示す。図中上段に試料のＸ線回折図を掲げ、下段に検出された鉱物の回折パターンを掲げている。なお、文中で（　）内に示したものは、Ｘ線回折図で同定された鉱物名である。固溶体やポリタイプを有する鉱物については、Ｘ線回折試験では正確な同定は困難であるため、最終的な検出鉱物名としては、それらを包括する大分類の鉱物名を使用している。

５区SK４および５区SK12の赤色物質において、顔料鉱物である水銀朱（cinnabar）が確認されたほか、石英（quartz）や斜長石（曹長石：albite)、カリ長石（正長石：orthoclase）が検出された。

⑵　電子顕微鏡観察

反射電子立体像におけるSEM像を図版197に示す。電子顕微鏡観察を行った結果、５区SK４と５区SK12の２試料ともにパイプ状物質や板状物質あるいは球状粒子のような特徴的な形態や集合状態は認められなかった。

５．考察

Ｘ線回折では赤鉄鉱（hematite）は検出されておらず、水銀朱が確認されるのみである。このことも考慮すれば、今回の赤色物質にはいわゆるベンガラは含まれていないと判断される。なお、各試料のSEM像における輝度の高い部分がＸ線回折で確認された水銀朱である。これらは、一定の形状は有さず、不定形あるいは破砕片状の外観を呈する。

第９節　境矢石遺跡における種実同定

株式会社　古環境研究所

１．はじめに

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物中に残存していることが多い。堆積物から種実を検出しその群集の構成や組成を調べ、過去の植生や群落の構成要素を明らかにすることで古環境の推定を行うことが可能である。また出土した単体試料等の同定から、栽培植物や固有の植生環境を調べることができる。

境矢石遺跡は、鳥取県西伯郡南部町境に所在する弥生時代から中世の集落と墳墓の遺跡である。

発掘調査において、弥生時代後期～古墳時代後期の竪穴建物、段状遺構、貯蔵穴、横穴墓等が確認されている。ここでは、これらの遺構より抽出された種実の同定を行い、当時の農耕、植物利用ならびに周辺植生について検討する。

２．試料

試料は、４区の丘陵頂部と斜面の４区SS18-２と４区SS29の２点、６区の南側斜面部の横穴墓の墓道、墓室内、前庭部の３点の計５点である。すべて水洗選別済み試料である。

３．方法

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し､形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行う。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示す。

４．結果

⑴　分類群

樹木２、草本１の計３分類群が同定された。学名、和名および粒数を第11表に示し、主要な分類群を写真（図版198）に示す。以下に同定根拠となる形態的特徴、写真に示したもののサイズを記載する。

〔樹木〕

コナラ属　*Quercus*　堅果　ブナ科　長さ×幅：21.54㎜×15.34㎜

黒褐色で楕円形を呈し、一端につき部が残る。表面は平滑である。この分類群は殻斗が欠落し、乾燥のため変形しており属レベルの同定までである。

カキノキ　*Diospyros kaki Thunb.*　種子　カキノキ科　長さ×幅：22.79㎜×12.33㎜

黒褐色で非対称的広倒卵形を呈し、偏平である。直線状の腹面は稜をなす。

ハイノキ属　*Symplocos*　核　ハイノキ科　長さ×幅：8.75㎜×4.22㎜

暗灰褐色で狭倒卵形を呈し、光沢はない。へそのほうに細く嘴状に尖る。ここでは属レベルの同定までであるが、ハイノキ、クロキ、クロバイに該当する。

〔草本〕

ササゲ属　*Vigna*　炭化子葉（破片）　マメ科　長さ×幅：6.88㎜×4.04㎜

黒色で楕円形を呈す。ササゲ属にはリョクトウ、アズキ、ササゲなどの栽培植物がある。

(2) 種実群集の特徴

・４区

１）SS18-２

草本種実のササゲ属６が同定された。

２）SS29

樹木種実のコナラ属１が同定された。

・６区（横穴墓）

１）墓道

樹木種実のハイノキ属10が同定された。

２）墓室内

樹木種実のカキノキ１が同定された。

３）前庭部

樹木種実のハイノキ属36が同定された。

５．考察とまとめ

４区SS18-２からは畑作物であるササゲ属種子（炭化子葉）が同定され、４区SS29からはコナラ属堅果が同定された。ササゲ属は縄文時代後半の出土例も多いが、西南日本では弥生時代にイネ果実（炭化米）に伴って検出されることが多い。明かな栽培植物であり、当時周辺で畑作が行われていたことが示唆される。コナラ属堅果は利用されたものか、周囲からの混入物かは不明である。６区横穴墓からは、墓道からハイノキ属核、墓室内からカキノキ種子、前庭部からハイノキ属核が検出された。カキノキは食用になるが、ハイノキ属は特に有用植物でもなく、墓道と前庭部からの検出でもあることから、周囲の植生からの自然堆積とみなされる。

第11表　境矢石遺跡における種実同定結果

分類群		部位	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5
			４区		６区横穴墓		
学　名	和名		SS18-２	SS29	墓道	墓室内	前庭部
Arbor	樹木						
Quercus	コナラ属	堅果		1			
Diospyros kaki Thunb.	カキノキ	種子				1	
Symplocos	ハイノキ属	核			10		36
Herb	草本						
Vigna	ササゲ属	炭化子葉（破片）	6				
Total	合計		6	1	10	1	36

（参考文献）

笠原安夫（1985）『日本雑草図説』養賢堂，494p.

笠原安夫（1988）「作物および田畑雑草種類」『弥生文化の研究第２巻生業』雄山閣出版，p. 131-139.

南木睦彦（1991）「栽培植物」『古墳時代の研究第４巻生産と流通Ⅰ』雄山閣出版株式会社，p. 165–174.
南木睦彦（1992）「低湿地遺跡の種実」『月刊考古学ジャーナルNo.355』ニューサイエンス社，p. 18–22.
南木睦彦（1993）「葉・果実・種子」『日本第四紀学会編，第四紀試料分析法』東京大学出版会，p. 276–283.
金原正明（2011）「花粉分析からみた弥生後期の気候の冷涼化の実体」『弥生時代の考古学４古墳時代への胎動』同成社，p. 15–27.

第10節　境矢石遺跡出土鉄器の非破壊分析

独立行政法人　日本原子力研究開発機構　三ツ井誠一郎

1．はじめに

金属材料の腐食は，材料と環境との化学的相互作用により進行する現象であり，材料の特性と環境条件に支配されている。考古学的調査により，様々な遺存状態の鉄製や銅製の遺物が出土しているが，これも材料と環境の化学的相互作用の結果である。一般に，鉄製遺物は表面が厚い腐食生成物，すなわち「錆」に覆われており，原形を留めていないことも多いが，稀にほぼ原形のまま出土する遺存状態が良好なものもある。このような遺存状態の違いの要因としては，埋蔵環境における大気の影響の程度などが考えられるが，考古学的調査において環境条件データが取得されることはほとんどないため，遺存状態の要因を客観的に評価することは困難である。

鳥取県西伯郡南部町境矢石遺跡からは金属鉄の残存が期待できる鉄製品が多数出土しており，大気の影響の程度など，埋蔵環境が影響していた可能性がある。今回これら出土した鉄製品の腐食状態を把握するため，蛍光エックス線（以下，XRF）及びエックス線回折（以下，XRD）（XRFとXRDを併せて表現する際はXRDFとする。），エックス線コンピュータトモグラフィ（以下，X線CT），を用いた非破壊分析を行った。また比較のため，金属鉄の残存の可能性が低い鉄製品（米子市博労町遺跡（（財）米子市教育文化事業団，2011）から出土）についてもあわせて分析を行った。

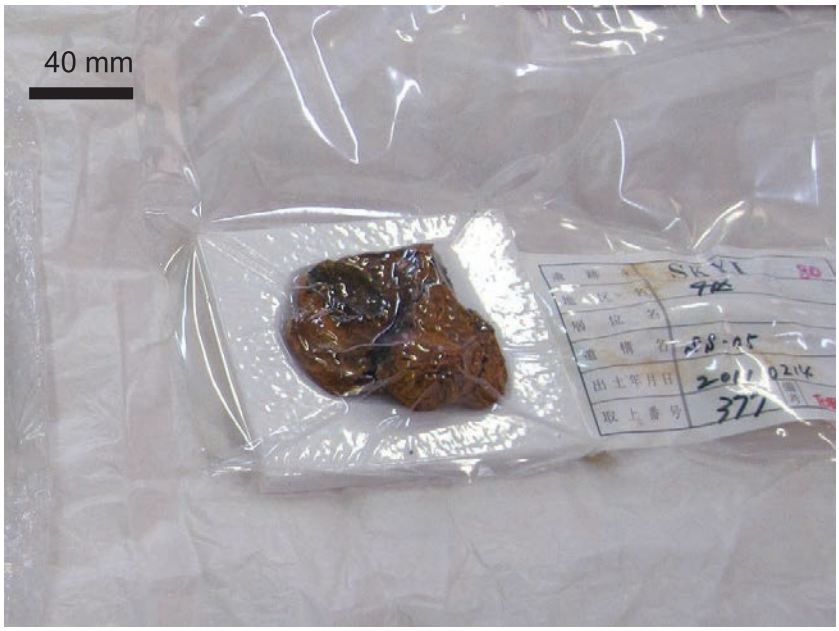
2．試料

分析試料は以下の３点である。

・試料①　境矢石遺跡　３区H-12：取上番号157（埋蔵期間は300～900年程度）（第726図）

第726図　試料①の外観写真

・試料②　境矢石遺跡 ４区SS５：取上番号377（埋蔵期間は1700～1900年程度）（第727図）
・試料③　博労町遺跡３区：取上番号905（埋蔵期間は1150～1250年程度）（第728図）



第727図　試料②の外観写真

第728図　試料③の外観写真

3. 分析方法

(1) 腐食生成物の同定

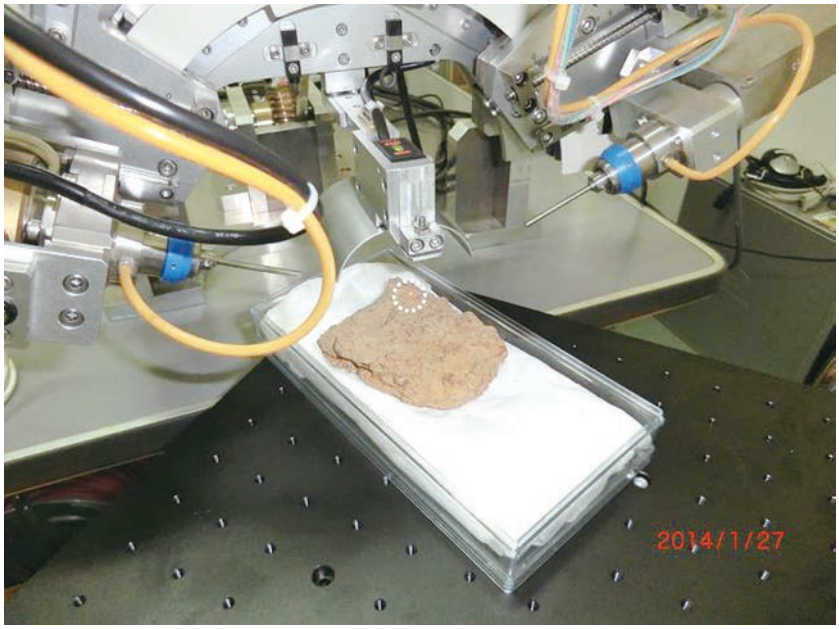
腐食生成物の同定には，理研計器株式会社製ポータブルX線回折・蛍光X線分析装置XRDF（DF-01）を用いた。分析条件を第12表及び第13表，分析時の試料の設置状況と分析箇所を第729図に示す。試料③については，砂質土壌に覆われ遺物表面の腐食生成物が露出していなかったため，この分析は省略した。

第12表　XRF分析条件

管球ターゲット	Cr
管電圧	35kV
管電流	0.8mA
計数時間	100sec
測定雰囲気	He雰囲気
測定角度	60deg（θ）

第13表　XRD分析条件

管球ターゲット	Cr
管電圧	35kV
管電流	0.8mA
ステップ	0.4deg（２θ）/ step
計数時間	4sec / step
測定角度範囲	16-120deg（２θ）

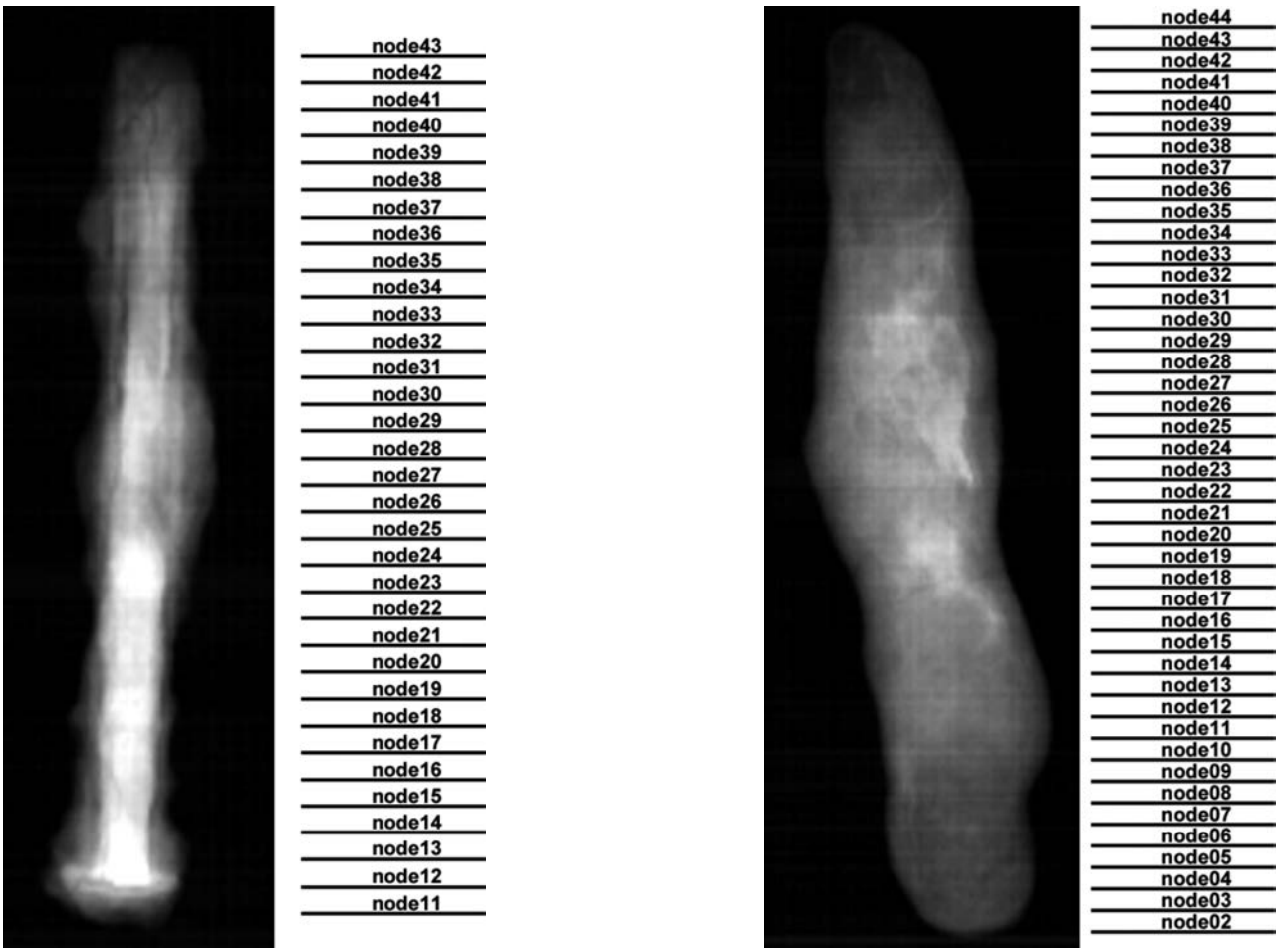


第729図　XRDF分析時の試料の設置状況（○がXRDF分析箇所）

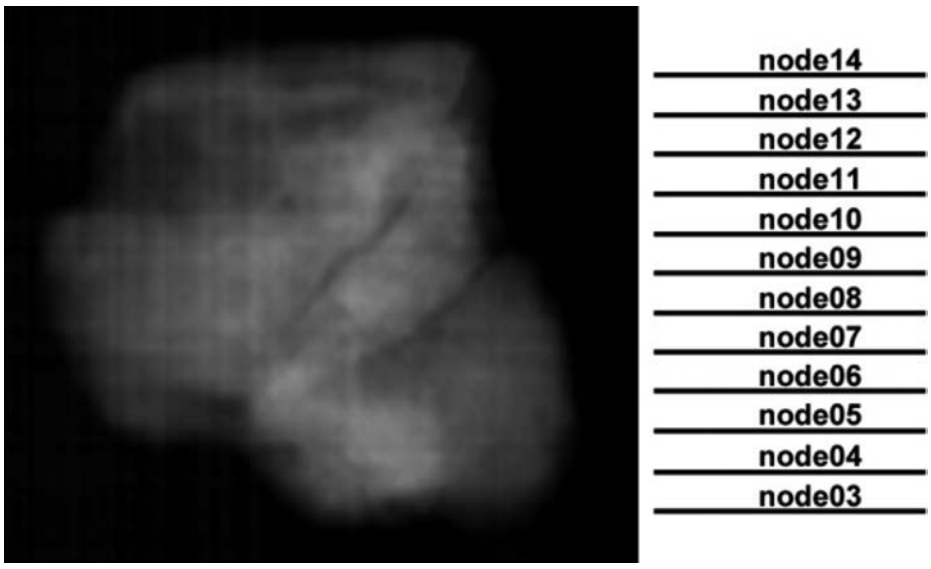
(2)　腐食形状の測定

腐食形状の測定には，日立製作所製X線CT装置（HiXCT-9M）を用いた。X線エネルギーの最大値は９MeV，スライス厚さは１㎜，画素サイズは0.4㎜（第３世代方式）又は0.2㎜（ハイブリッド方式）である。分析時の試料の設置状況を第730図に示す。なお，CT値を密度に換算する際の基準物質として炭素鋼（鉄）（SS400（JIS G3101）：ρ=7.85g/㎤）及びAl-Mg合金（A-5056B：ρ=2.68g/㎤）を同時に分析した。また，ハイブリッド方式のX線CT断面撮像は，試料③を除き，試料の長軸方向に５㎜毎に実施した。撮像位置を第731・732図に示す。

第730図　X線CT分析時の試料の設置状況（試料①，②分析時）



第731図　ハイブリッド方式X線CT 断面撮像位置（左から試料①，③）



第732図　ハイブリッド方式X線CT 断面撮像位置（試料②）

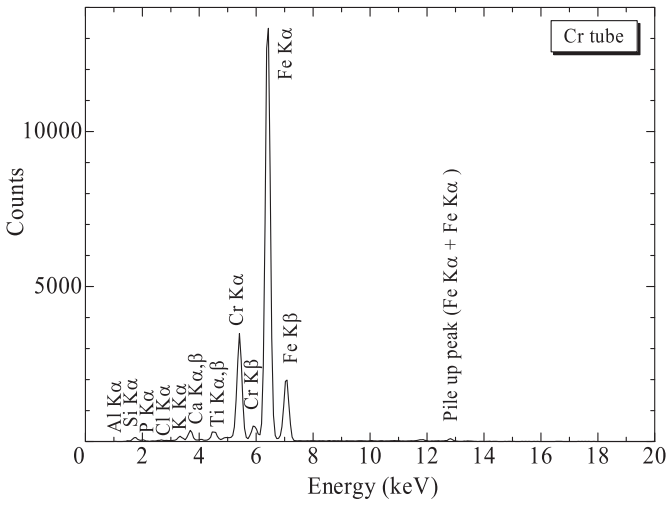
4．結果

⑴　腐食生成物の同定結果

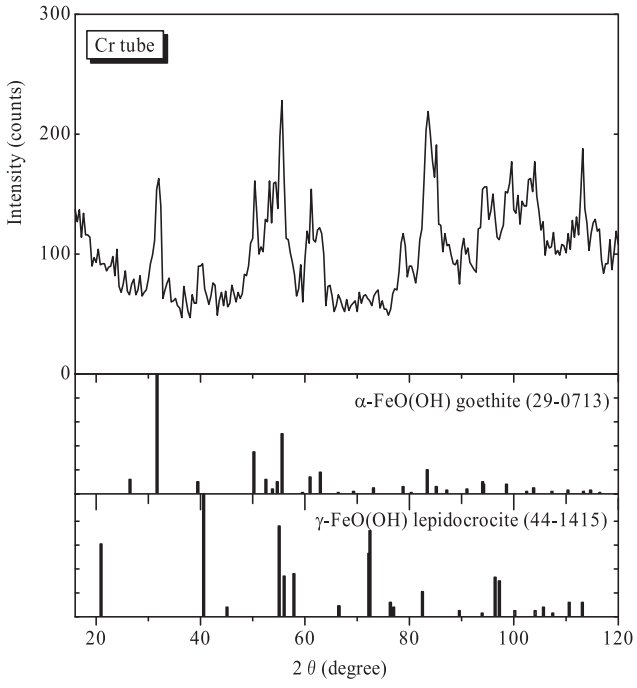
分析結果を第733図から第736図及び第14表に示す。

ⅰ．試料①（第733・734図）

XRF分析では，Fe(鉄）のほか，Si(ケイ素）やAl(アルミニウム)，P(リン）などの主に土壌に由来する成分，海水に由来する成分であるCl(塩素）が微量検出されている。XRD分析では，腐食生成物である針鉄鉱（goethite：α-FeOOH)，鱗鉄鉱（lepidocrocite：γ-FeOOH）に帰属するピークが認められる。試料②で認められた赤金鉱（akaganeite：β-FeOOH）に帰属するピークは認められない。還元性かつP存在条件で生成しやすい藍鉄鉱（vivianite：$Fe_3(PO_4)_2 \cdot 8H_2O$）に帰属するピークは認められない。これは大気の影響により藍鉄鉱生成に必要な還元的な条件とならなかったことを示唆する。



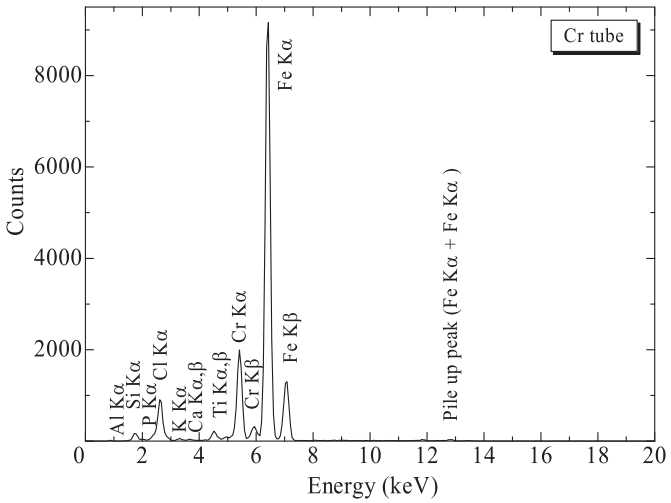
第733図　試料①のXRF分析結果



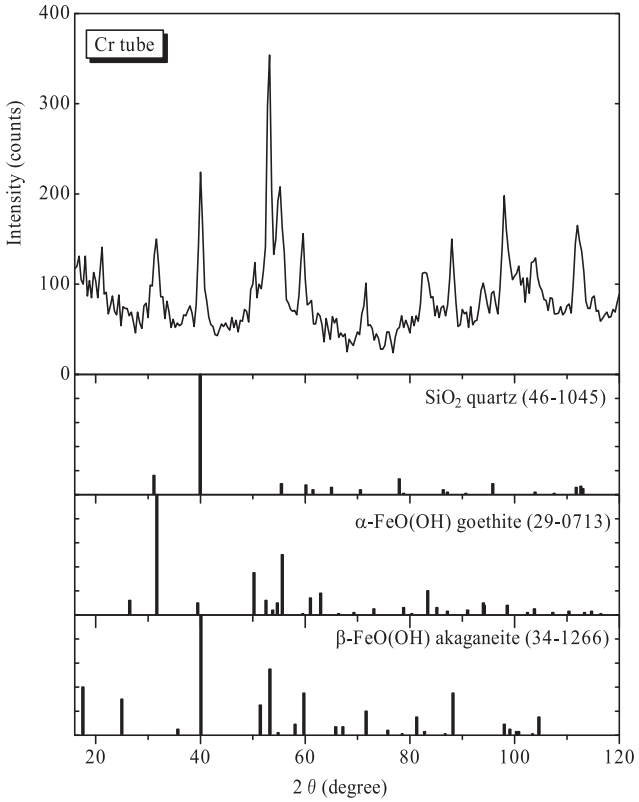
第734図　試料①のXRD分析結果

ⅱ．試料②（第735・736図）

XRF分析では，Feのほか，SiやAl，Pなどの主に土壌に由来する成分，海水に由来する成分であるClが検出されている。XRD分析では，腐食生成物である針鉄鉱，赤金鉱に帰属するピークが認められる。赤金鉱はCl存在条件で生成しやすい水酸化鉄鉱物であり，XRFの分析結果と整合的である。また，試料①と同様に還元性かつP存在条件で生成しやすい藍鉄鉱に帰属するピークは認められない。



第735図　試料②のXRF分析結果



第736図　試料②のXRD分析結果

第14表　XRF分析結果（wt%）

	Al	Si	P	S	Cl	K	Ca	Ti	Fe
試料①	5.5	9.0	1.6	—	0.2	0.3	0.4	0.2	82.8
試料②	1.1	14.7	1.3	—	6.6	0.2	0.1	0.2	75.9

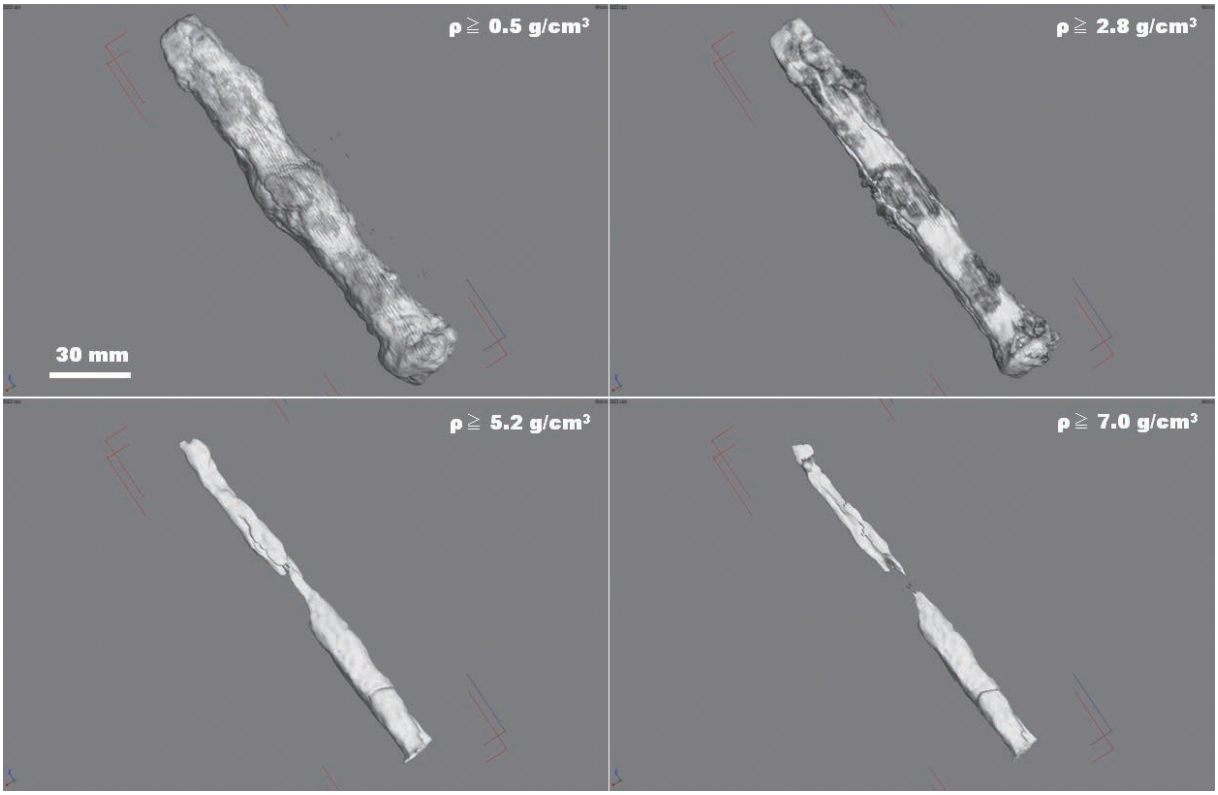
※均一な試料ではないため参考値（目安）である。

(2)　腐食形状の測定結果

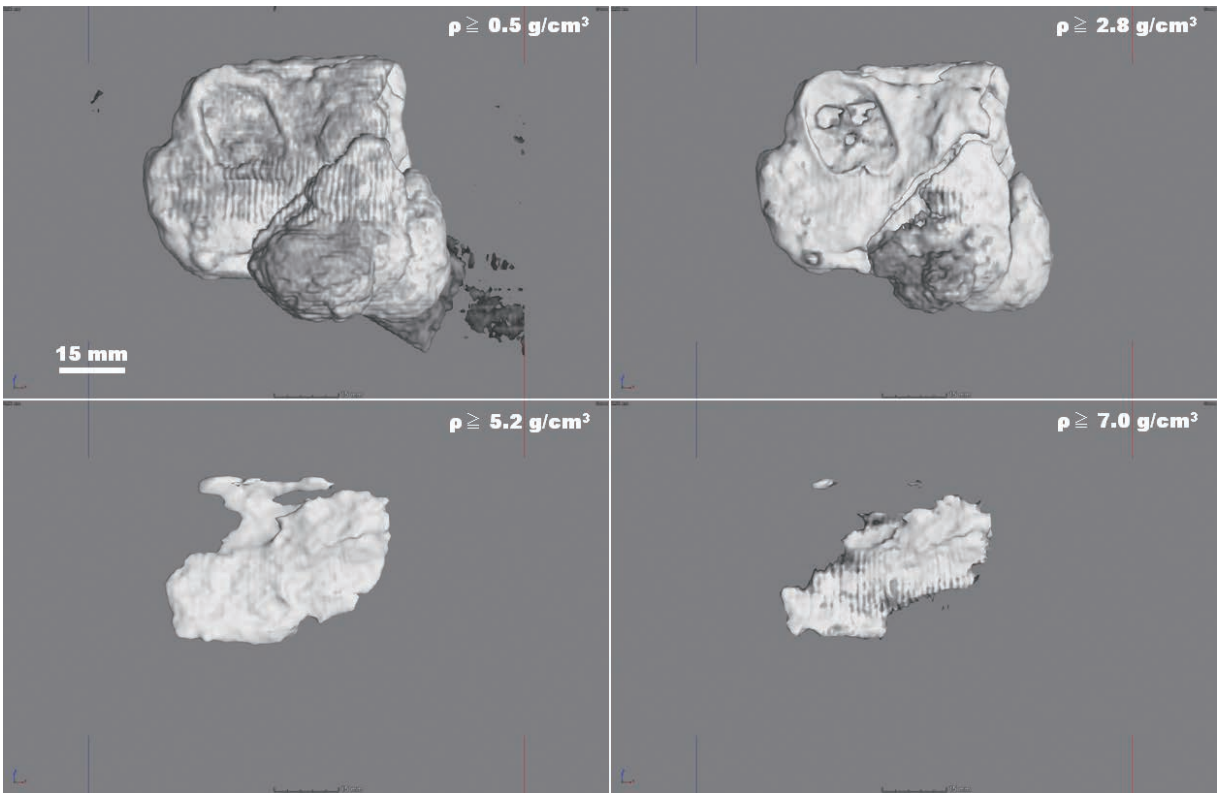
①　３次元画像

各試料の分析結果を３次元画像（第３世代方式のデータを使用）として第737図から第739図に示す。図では，図中右肩に示す密度以上の物質の形状を示している。密度0.5g/㎤以上が付着土壌を含めた形状，密度2.8g/㎤以上が付着土壌を除去した形状，密度5.2g/㎤以上が腐食生成物を除去した形状，密度7.0g/㎤以上が金属鉄の真密度（7.8g/㎤）に近い密度の高い部分のみの形状である。今回XRD分析で検出された腐食生成物の密度は磁鉄鉱や赤鉄鉱といった高いものでも5.2g/㎤以下であることから，5.2g/㎤以上の密度を持つ物質は金属鉄であり，金属鉄が残存する部分のおおよその形状を示していると考えることができる（金属鉄の真密度は7. 8g/㎤程度であるが，遺物には微小な空隙などが存在するため，X線CTで得られる密度は「かさ密度」（空隙などを含めた体積で物質の質量を除したものであり，真密度よりも小さくなる。）に相当する値となる。）。

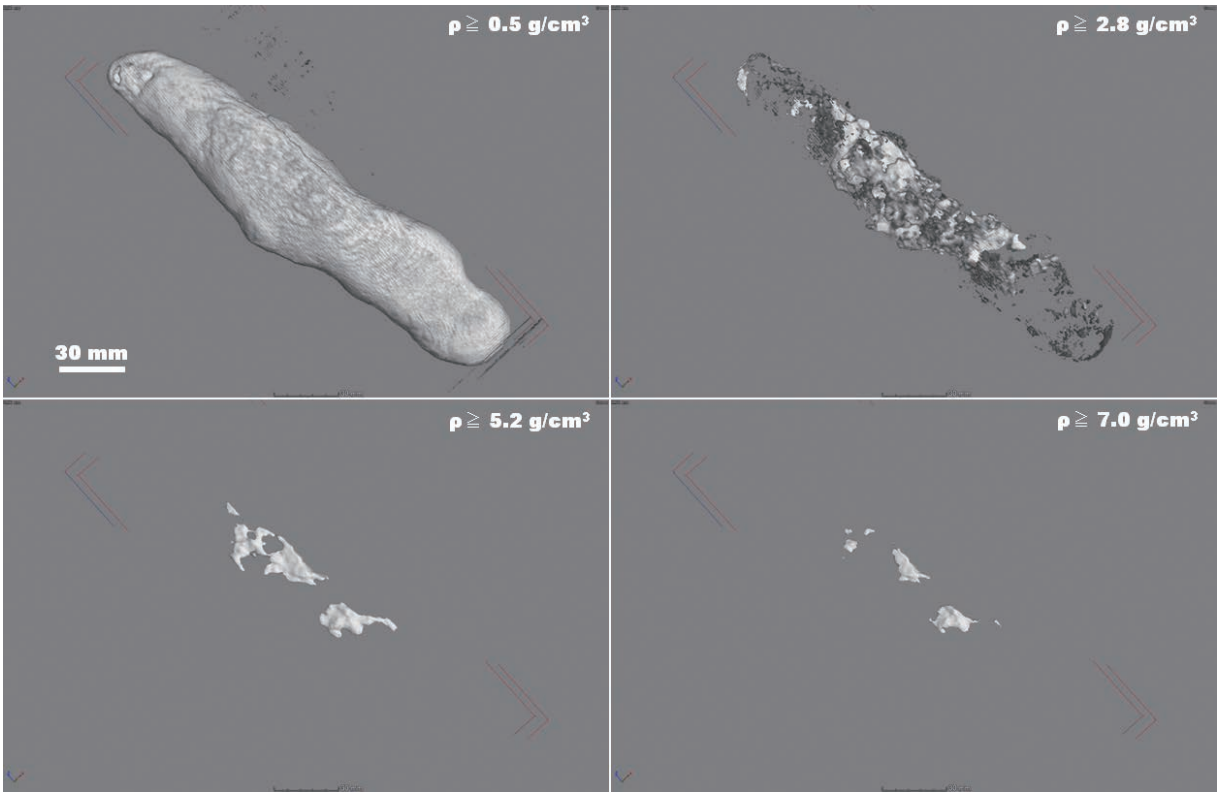
試料①，試料②，試料③のいずれについても，内部に5.2g/㎤以上の密度を持つ物質が存在しており，金属鉄が残存しているといえる。密度0.5g/㎤以上の３次元画像に長軸方向の縞模様が観察されるが，これはアーチファクト（装置の状態などで発生する疑似画像）である。



第737図　試料①のＸ線CT3次元画像



第738図　試料②のＸ線CT3次元画像



第739図　試料③のＸ線CT3次元画像

試料①は，密度2.8g/㎤以上の３次元画像から釘に類似した形状を呈していることがわかる。また，密度5.2g/㎤以上の３次元画像では中央部の肉厚の減少が認められる。試料②は，いずれの密度の３次元画像においても不定形を呈しており原形を類推することはできない。試料③については，腐食の程度が大きいためか，密度2.8g/㎤以上の３次元画像において原形を類推することはできない。

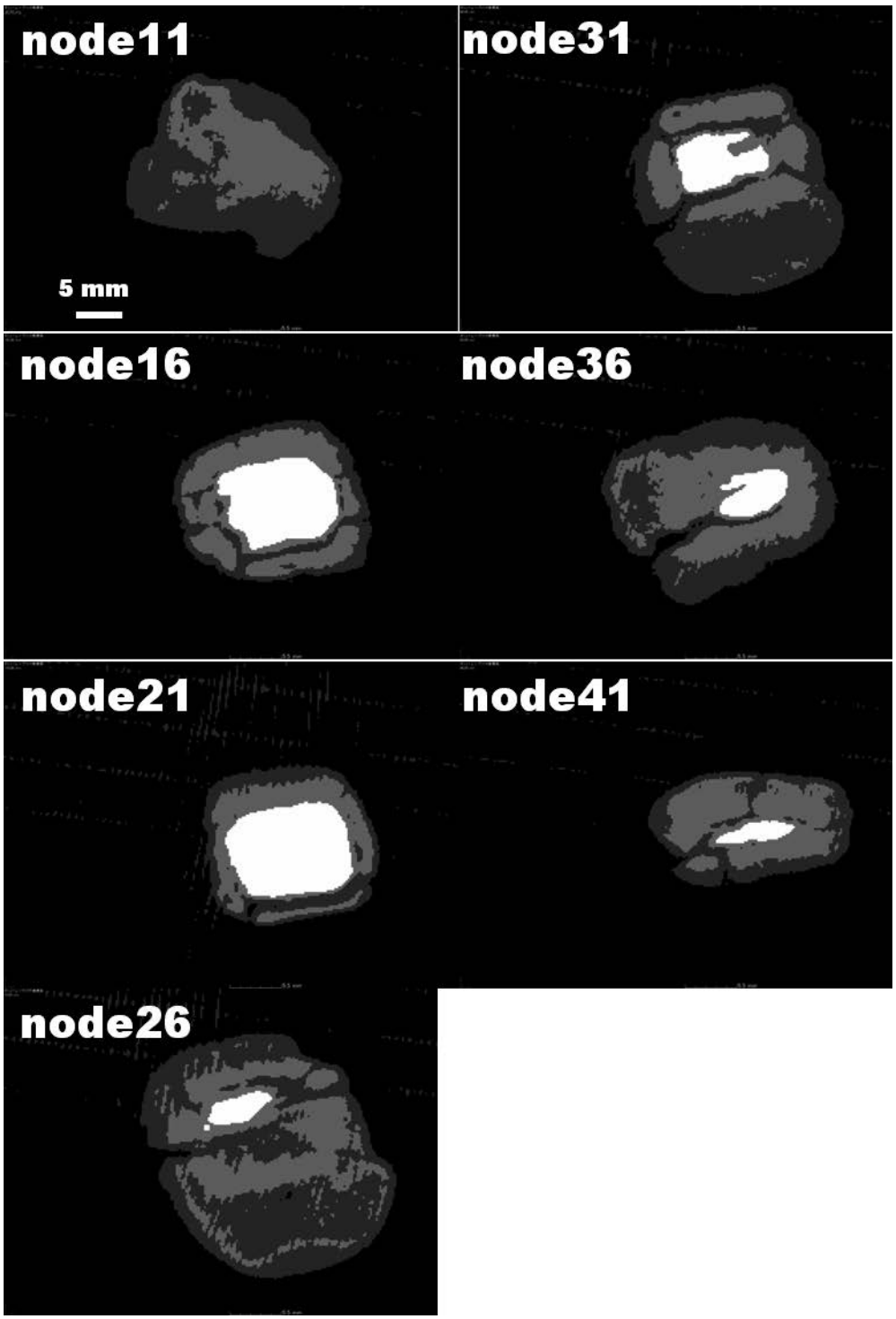
②　断層画像による密度分布の観察

第740図から第742図では，大まかな腐食の状態や腐食生成物，土壌の分布を把握するため，X線CT断面（ハイブリッド方式のデータを使用）の密度分布について，密度が5.2g/㎤以上を金属鉄，2.8～5.2g/㎤を腐食生成物，0.5～2.8g/㎤を土壌として区分した。白色が金属鉄，薄い灰色が腐食生成物，濃い灰色が土壌の領域である（ただし，土壌の領域にもかさ密度の低い腐食生成物が存在する可能性はある。）。なお，試料以外の領域に認められる斜め方向の縞模様はアーチファクトである。

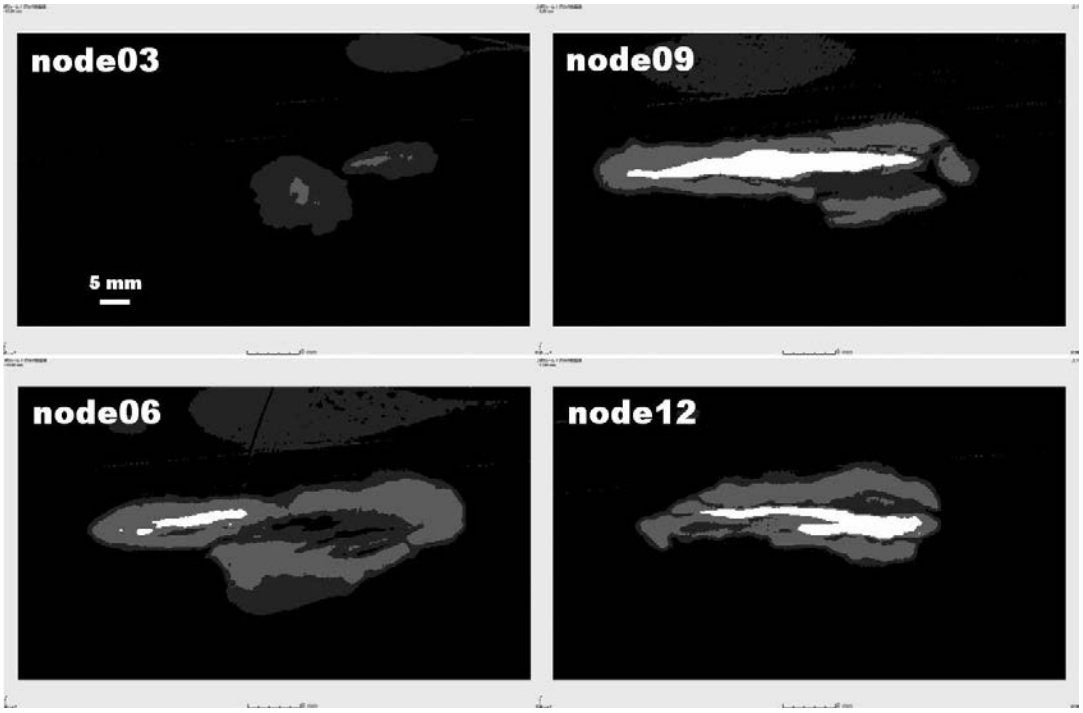
試料①について，node11からnode41のうち，node11を除く断面において，内側に金属鉄に対応した密度の領域，その外側に薄い腐食生成物，土壌に対応した密度の領域が認められる。node21では，ほぼ正方形の形状の金属鉄の領域が認められる。試料②，③と比較して遺存状態は良好である。

試料②について，node06からnode12のうち，node06を除く断面において，内側に板状の金属鉄に対応した密度の領域，その外側に薄い腐食生成物，土壌に対応した密度の領域が認められる。

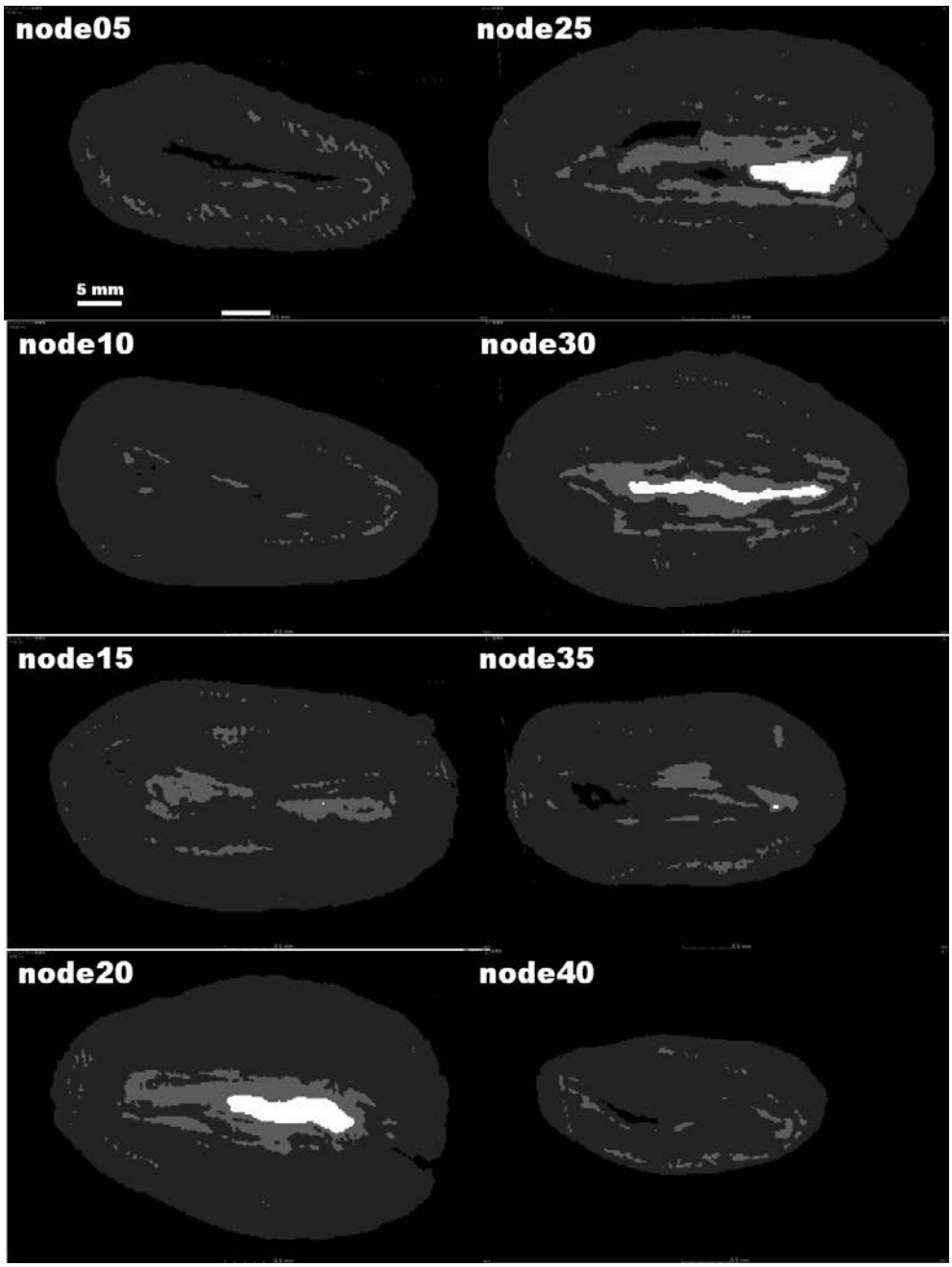
試料③について，node05からnode40のうち，金属鉄に対応した密度の領域が認められるのは一部である。また，空洞とみられる低密度の領域も観察される。今回分析した試料のなかでは最も鉄の残存が少ない。



第740図　試料①のＸ線CT断面（各断面の位置は第731図参照）



第741図　試料②のＸ線CT断面（各断面の位置は第732図参照）



第742図　試料③のＸ線CT断面（各断面の位置は第731図参照）

５．考察

３項に示したように，XRD分析により試料①については鱗鉄鉱，試料②については赤金鉱が認められた。赤金鉱はCl存在条件で生成しやすい水酸化鉄鉱物であるが，境矢石遺跡は丘陵部に位置する遺跡であることから，風送塩の影響を受けたものと推定される。

３次元画像，CT断面像において，試料③は鉄の残存が局所的であり，試料①と較べると腐食の程度が大きい。博労町遺跡は海浜砂丘上に位置した遺跡であり，また遺物は海水系の地下水を含む砂層から検出されている（(財）米子市教育文化事業団，2011)。干満に伴って地下水面が変動することで，酸素の供給，乾湿の繰り返しに伴う錆層の破壊が生じるなど，腐食速度が大きくなる環境条件であったものと推定される（腐食防食協会，1993)。一方，境矢石遺跡は丘陵部の遺跡であり，一部塩化物

イオンの影響は認められるものの，海水系地下水との接触がある博労町遺跡に較べて腐食が大きくなる要因は少ない。各試料の埋蔵環境のデータが得られていないため，詳細な比較は困難であるが，各試料の遺存状態は，両遺跡の立地場所の違い，すなわち丘陵部と海浜部における埋蔵環境条件の違いの影響を受けているものと推定される。

（文　　献）

財団法人米子市教育文化事業団編：『鳥取県米子市博労町遺跡』㈶米子市教育文化事業団発掘調査報告書64（2011）.

腐食防食協会編：『材料環境学入門』丸善株式会社（1993）.

※本研究の一部は，原子力規制委員会原子力規制庁「平成25年度地層処分の安全審査に向けた評価手法等の整備」として実施したものである。

第11節　境矢石遺跡出土ガラス管玉の自然科学的調査

独立行政法人　国立文化財機構　奈良文化財研究所　田村朋美

はじめに

日本列島で最初にガラスが出現するのは弥生時代前期末から中期初頭頃の北部九州である。弥生時代後期になると分布域は沖縄本島から北海道の東部にまで達し、古墳時代にかけて大量に流通した。弥生～古墳時代の日本列島で出土するガラスについては、製作技法や化学組成から研究が進み、当時の日本列島には南アジアや東南アジア、中国大陸などを起源とする多様なガラス製品が流通していたことが明らかとなってきている。

今回、境矢石遺跡で出土したガラス管玉について、観察および分析化学的手法により製作技法および基礎ガラスの種類、着色因子の調査をおこなった。以下、その結果について報告する。

1　資料と方法

⑴　調査資料

調査対象とした資料は、境矢石遺跡出土のガラス管玉１点（第310図　５）と、同じく米子市の長砂第３遺跡から出土したガラス管玉１点である。境矢石遺跡出土資料は、弥生時代後期後葉の竪穴建物（６区SI１－３）から出土したものである。長砂第３遺跡から出土したガラス管玉は既存の報告（米子市教育文化事業団 1999）で石製品とされているものである。

境矢石遺跡出土のガラス管玉は、両端面を含む全体の二分の一以上が失われている。ただし、現存部分の保存状態は良好である。やや青味を帯びた灰色不透明を呈する。一方、長砂第３遺跡出土のガラス管玉は青緑色半透明を呈する。片側の端面が欠損しているものの比較的整った円柱形であり、全体として保存状態は良好である。

⑵　調査方法

顕微鏡観察　製作技法を推定するため、ガラス管玉に含まれる気泡の並びや形状、ガラス管玉表面及び孔壁面の状態及び形状など、製作技法を示す痕跡に着目して、落射光及び透過光下での実体顕微鏡観察を行った。落射光下では、ガラス表面や孔内部の凹凸、開孔部周辺の形状を観察した。透過光下では、透明感や色むらの有無、及び内部の気泡の形状や配列を観察した。

コンピューテッドラジオグラフィ法　アルカリケイ酸塩ガラスと鉛ケイ酸塩ガラスを判別するため、X線透過撮影法としてコンピューテッドラジオグラフィ法（Computed Radiography法：以下、CR法）を適用した。CR法は、従来のフィルムのかわりにイメージングプレート（Imaging Plate、以下、IP）を検出系に用いる方法である。アルカリケイ酸塩ガラスと鉛ケイ酸塩ガラスの密度を比較すると、後者の方がはるかに密度が高く、X線吸収係数も大きい。従って、アルカリケイ酸塩ガラスと鉛ケイ酸塩ガラスを同じ条件下でX線透過撮影すると、アルカリケイ酸塩ガラスよりも鉛ケイ酸塩ガラスのほうが、はるかにX線の吸収が大きくなる。その結果、ポジ画像では鉛ケイ酸塩ガラスがより濃い画像として得られることになる。本調査では、比較資料として、ガラス標準資料NIST1412（比重2.9、厚さ3.2㎜）およびNIST620（比重2.3、厚さ3.0㎜）を同時に撮影した。CR法には、マイクロフォー

カスX線拡大撮像システム（富士フィルム社製μFX-1000）とイメージングアナライザー（富士フィルム社製BAS-5000）を用いた。IPにはBAS-SR2025を使用した。管電圧は60kV、管電流は60μA、露光時間は60秒であった。

比重測定　アルカリケイ酸塩ガラスと鉛ケイ酸塩ガラスの識別する方法として比重測定も有効である。本調査では、アルキメデス法により比重測定を実施した。気泡などを含むガラスの比重を測定するため、求められる値は見かけ比重となる。

オートラジオグラフィ法　本調査では、カリウムを多く含むガラス（カリガラスやカリ鉛ガラス）の判別を目的としてオートラジオグラフィ法（Auto Radiography法：以下、AR法）を実施した。AR法は、物質から放射される放射線をフィルムやIPに記録して画像を得る方法であり、放射線の蓄積線量により得られる画像の濃淡が異なる。本調査では、検出系にIPを使用した。IPは放射線に対して極めて感度がよく、微弱な放射線でも長時間暴露することで検出可能である。例えばカリガラスは一般に酸化カリウムを18%前後含有し、40Kに由来する放射線（ベータ線）を放射している。従って、カリガラスとソーダ石灰ガラスをIP上に同じ時間だけ暴露した場合、得られた画像の中でより濃いものを、カリガラスとして識別することができる（肥塚･脇谷 2003）。

今回は、以下の手順でAR法を実施した。まず、資料を直接上に置いたIPを、外部からの放射線を遮断するため、鉛製の遮蔽箱内に設置した。そして、遮蔽箱の鉛に由来する放射線を遮蔽するため、IPの周辺を銅板で囲った。使用したIPはBAS-SR2025であり、暴露時間は168時間とした。また、比較のための標準試料として、日本岩石標準試料JB-1aとJG-1aの粉体圧縮ピース、およびBCR126A（IRMM(Institute for Reference Material and Measurement）標準物質）を同時に暴露した。これらの酸化カリウム（K_2O）の含有量は、それぞれ1.4%、4.0%及び10.0%である。暴露後、IPを取り出し、CR法と同様にイメージングアナライザーによりスキャンニングをおこない、AR像をデジタルデータとして取得した。

蛍光X線分析法　ガラス製遺物の主要な構成成分とそれらのおおよその含有量を知るために蛍光X線分析を実施した。本調査ではエネルギー分散型蛍光X線分析装置を用いて非破壊測定を行った。資料表面の非破壊測定では、風化の影響により構成元素の一部が増減するため、資料本来の化学組成を知ることはできないものの、基礎ガラスの種類や着色要因を推定することは可能である。

資料の測定箇所は、亀裂等が少なく、保存状態が良好と判断した部分を選定した。なお、測定に先立ち、土などの汚れは顕微鏡下でエチルアルコールを用いた洗浄を行った。測定結果は、測定試料と近似する濃度既知のガラス標準試料を用いて補正した理論補正法（Fundamental Parameter method、以下FP法とよぶ）により、検出した元素の酸化物の合計が100%になるように規格化した。

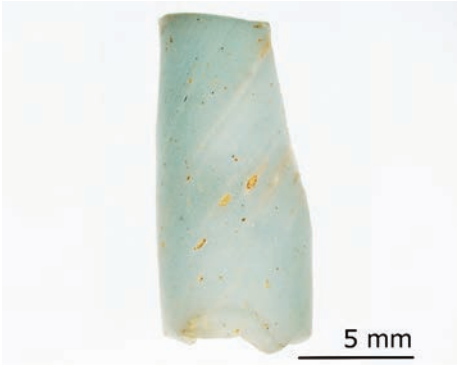
測定に用いた装置は、エダックス社製EAGLEⅢである。励起用X線源はMo管球、管電圧は、FP法を用いた定量分析では20kVに設定し、20keV以上のスペクトルを検出する場合には、50kVに設定した。管電流は100μA、X線照射径は112μm、計数時間は300秒とした。なお、測定は真空中で実施した。

可視分光分析法　ガラスの色情報を取得するため、可視反射分光分析を実施した。測定には、日本分光製分光光度計MV-2020（プローブ光源内蔵）を用いた。測定波長範囲は400-968nm、プローブ光照射径は１㎜、測定時間は0.5秒×120回であった。

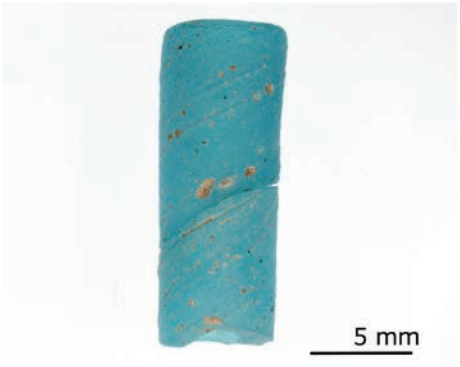
2　結果と考察

(1)　製作技法

境矢石遺跡出土のガラス管玉および長砂第３遺跡出土のガラス管玉は、いずれも気泡の列が孔と一定の角度で斜交し、蝕像も気泡の向きと平行して孔とは斜交する（第743図・第744図）。いずれも孔内面は平滑であり、芯棒を利用した痕跡は認められない。以上の特徴から、いずれも軟化したガラスを捩りながら引き伸ばす「捩り引き法」（大賀 2010）で製作されたと推察される。



第743図　境矢石遺跡出土ガラス管玉



第744図　長砂第３遺跡出土ガラス管玉

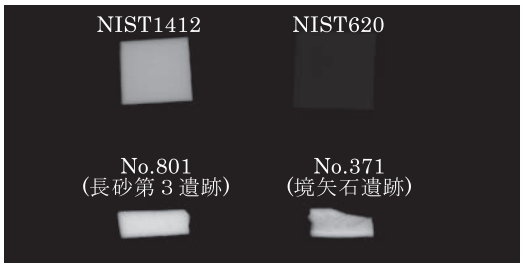
(2)　基礎ガラスの種類

CR法によるX線透過撮影の結果、どちらの資料も比較資料のNIST1412（比重2.9、厚さ3.2㎜）よりもX線の吸収が大きいことがわかった（第745図）。比重測定結果についても境矢石遺跡出土品が3.5、長砂第３遺跡出土品が3.6であり、整合的である。以上から、これらのガラス管玉は鉛ケイ酸塩ガラスである可能性が示された。

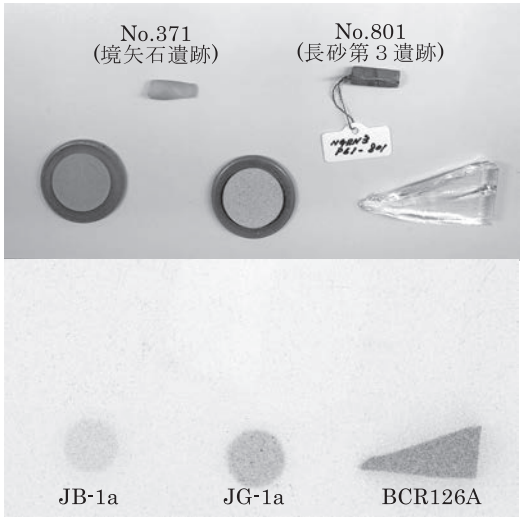
AR法の結果を第746図に示す。どちらの資料からもほとんど自然放射線は検出されておらず、酸化カリウム（K_2O）含有量の極めて少ないガラスである可能性が高い。

上記の結果をふまえて蛍光X線分析を実施した。得られたスペクトルを第747図・第748図に、FP法による半定量結果を第15表に示す。境矢石遺跡出土のガラス管玉は酸化鉛（PbO）を26.70％含有することから鉛ケイ酸塩ガラスであることが確認された。さらに、酸化バリウム（BaO）を12.90％含有しており、鉛バリウムガラスであることが明らかとなった。また、その他の基礎ガラス成分として、酸化ナトリウム（Na_2O）を7.2％、酸化マグネシウム（MgO）を1.4％、酸化カルシウム（CaO）を2.7％含有するのが特徴である。

長砂第３遺跡出土のガラス管玉についてもPbOを31.30％、BaOを13.61％含有することから鉛バリウムガラスであることが明らかとなった。さらに、Na_2Oを5.1％、酸化マグネシウム（MgO）を0.3％、CaOを1.5％含有するが、いずれの成分も境矢石遺跡出土のガラス管玉より少ない値を示した。



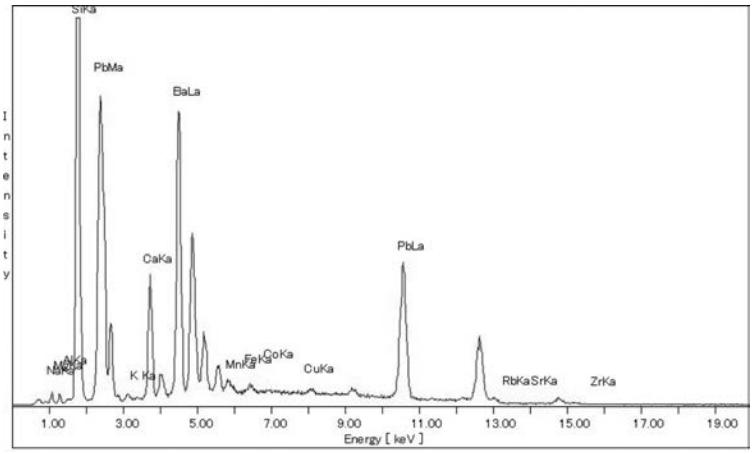
第745図　CR画像



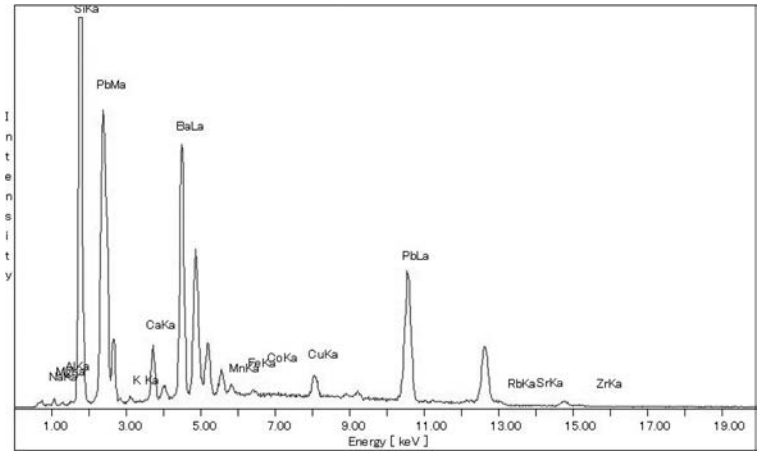
第746図　AR画像

(3) 着色因子

境矢石遺跡出土のガラス管玉は、着色に関与すると考えられる成分がきわめて少ない。蛍光X線分析では、わずかにコバルトが検出されたものの、酸化コバルト（CoO）としての値は0.03％ときわめて少ない。ただし、可視分光分析の結果ではコバルトイオンで着色されたガラスに特徴的なスペクトル（不破1938）（第749図）が得られており、ガラス中にわずかに含まれるコバルトイオンによって、やや青味がかった色調を呈している可能性が考えられる。ただし、色調は極めて淡く、意図的に添加されたかどうかは不明である。わずかに錫（Sn）が検出されているが、次に述べる長砂第３遺跡出土品と比較しても含有量は極めて少ない。

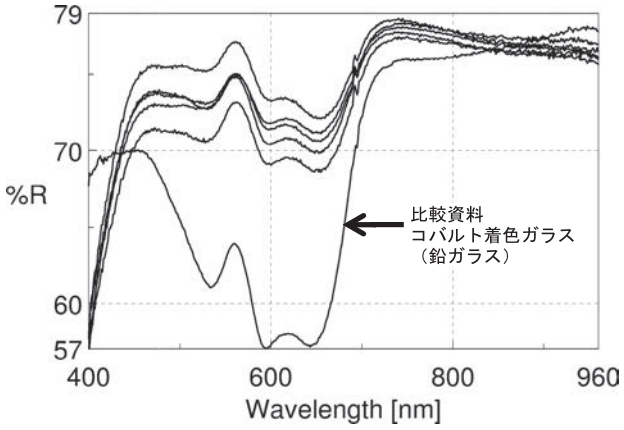


第747図　境矢石遺跡出土ガラス管玉の蛍光X線スペクトル

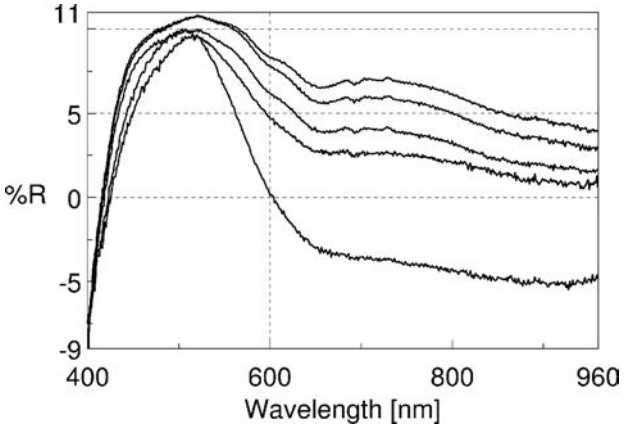


第748図　長砂第３遺跡出土ガラス管玉の蛍光X線スペクトル

長砂第３遺跡出土のガラス管玉は酸化鉄（Fe_2O_3）を0.13％、酸化銅（CuO）を0. 42％含有することから、これらの成分によって青緑色（第750図）を呈すると考えられる。ただし、Fe_2O_3は基礎ガラスの原料となる石英砂などにも由来する可能性があるため、着色剤として意図的に添加されたものであるかどうかは不明である。わずかに錫（Sn）が検出された。



第749図　境矢石遺跡出土ガラス管玉の可視分光スペクトル



第750図　長砂第３遺跡出土ガラス管玉の可視分光スペクトル

第15表　蛍光X 線分析結果

遺跡	資料No.	色調	比重	重量濃度（wt%）															※
				Na_2O	MgO	Al_2O_3	SiO_2	K_2O	CaO	MnO	Fe_2O_3	CoO	CuO	PbO	Rb_2O	SrO	ZrO_2	BaO	SnO_2
境矢石遺跡	371	灰色不透明	3.5	7.2	1.4	0.2	48.1	0.1<	2.7	0.11	0.12	0.03	0.09	26.70	0.01<	0.07	0.24	12.90	0.08
長砂第３遺跡	801	青緑色半透明	3.6	5.1	0.3	0.2	47.3	0.1<	1.5	0.01<	0.13	0.01<	0.42	31.30	0.01<	0.12	0.01<	13.61	0.20

※スタンダードレスのFP法により算出

(4)　考察

日本列島で出土したガラス管玉の消長をまとめた先行研究（大賀 2003、2010）を参照しつつ、今回分析を実施したガラス管玉の年代的検討をおこなう。

今回調査を実施したガラス管玉はいずれも形態的特徴、製作技法、基礎ガラスの化学組成から、大賀（2010）の分類におけるTYⅡ型に相当する。大賀（2010）によれば、TYⅡ型のガラス管玉は北部九州では弥生時代中期後葉に集中して流通するが、山陰、近畿北部、瀬戸内では中期にさかのぼる事例は確認されていない。しかし、後期中葉以降になると急激に流通量が増加し、終末期まで継続する。古墳時代に降る事例は極めて少ない。今回分析した境矢石遺跡出土品は弥生時代後期後葉の竪穴建物から出土しており、先行研究の理解と整合的な結果が得られたといえる。長砂第３遺跡出土品については、出土状況からは帰属時期を判断することが難しいものの、弥生時代後期中葉から終末期にかけての時期に帰属する可能性が高いと推察される。

ところで、TYⅡ型のガラス管玉には人工青色顔料である漢青が着色剤として添加されている場合が多い（大賀 2010）が、今回分析した資料はいずれも漢青を含まず、色調も管玉では類例の少ないものである。また、本調査資料は鉛バリウムガラスのなかでも酸化ナトリウムと酸化カルシウムがやや多い特徴をもつ。色調と特殊性と基礎ガラス成分の間に関係性がうかがわれる。類例調査による詳細な検討が必要である。

これらの資料の生産地についても触れておきたい。日本で出土する鉛バリウムガラスは、鉛同位体比測定の結果から中国産の鉛鉱石が原料として用いられたことが明らかとなっている（馬淵 1989、肥塚 2001）。また、大賀（2010）によると、TYⅡ型と形態的特徴が類似するガラス管玉は中国の長江中流域に濃密に分布することから、現時点では本資料の生産地も長江中流域が候補として挙げられる。ただし、上述したようにTYⅡ型の大多数を占める漢青によって着色されたものと本資料のような特殊な色調および着色剤のものでは、基礎ガラスの化学組成もやや異なる可能性があり、製作地は複数存在する可能性が高い。

まとめ

本調査では、境矢石遺跡および長砂第３遺跡出土のガラス管玉の製作技法、基礎ガラスの種類、および着色剤について明らかにすることができた。その結果、いずれも山陰地方では弥生時代後期中葉以降に多く流通したタイプの鉛バリウムガラス製の管玉であった。一方、これらのガラス管玉の色調および着色剤は同種のガラス管玉の中ではやや特殊であることがわかった。現在のところ鉛バリウムガラスの化学組成による分類的検討は充分とは言えないが、本結果は、着色剤と基礎ガラスの関係から鉛バリウムガラスの分類的検討を進めるための貴重なデータを提示できたと考えている。

〈引用・参考文献〉

大賀克彦　2002「日本列島におけるガラス小玉の変遷」『小羽山古墳群』（『清水町埋蔵文化財発掘調査報告書』Ⅴ）

大賀克彦　2003「紀元三世紀のシナリオ」『風巻神山古墳群』（『清水町埋蔵文化財発掘調査報告書』Ⅶ）

大賀克彦　2010「弥生時代におけるガラス製管玉の分類的検討」『小羽山墳墓群の研究』福井市立歴史博物館・小羽山墳墓群研究会

肥塚隆保　2001「古代ガラスの材質と鉛同位体比」『国立歴史民俗博物館研究報告』第86集

肥塚隆保・田村朋美・大賀克彦　2010「材質とその歴史的変遷」『月刊文化財』№566

肥塚隆保・脇谷草一郎　2003「CR・AR法を用いた非破壊材質調査の開発研究－古代のガラスの材質判別」『日本文化財科学会第20回大会研究発表要旨集』

不破橘三　1938「酸化コバルトを含むガラス（第１報）」『大日本窯業協會雑誌』第46集

馬淵久夫　1989『本邦出土古代ガラスの原料産地と材質の変遷』（科学研究費補助金研究成果報告書）

米子市教育文化事業団　1999『長砂第３遺跡』（『米子市教育文化事業団文化財調査報告書』29）

第6章　総　括

第１節　境矢石遺跡の弥生時代墳墓について

はじめに

今回の調査で境矢石遺跡から発見された弥生時代墳墓は、時期や規模、特色など注目すべき遺跡であるため、米子平野域(註1)の弥生時代墳墓の様相を整理し、本遺跡の位置付けを総括しておきたい。

１　米子平野域の弥生時代の墳墓遺跡

⑴　研究略史

鳥取県の弥生時代の墳墓に関する研究報告は、1923年に東京考古学会の報文（倉光清六 1923）に初見される。この報文は倉光清六が徳楽方墳出土の土器について記述したもので、その中で1914年に三度舞大将塚で手あぶり形土器を採集したことも記載されている。当時は徳楽方墳が弥生時代末期の墳丘墓との認識は無かったが、鳥取県の弥生時代の墳墓に関する最初の報告例であると言える。

その後、弥生時代墳墓に関する注目される報告はなく、1938年に境港御立山遺跡で弥生時代後期の土器が発見されているとの報文が鳥取県史（佐々木謙 1972）に記述され、また1959年に佐々木謙が小浜洞窟の弥生時代中期前半の土器と10体以上の人骨の出土があったと報告（佐々木古代文化研 1959）され、抜歯・屈葬の縄文時代後期の風習が弥生期にも続くと論じている。

1960年代段階の弥生時代遺跡は、県内で109か所の遺跡が確認されており、その内で種別が墓地で登録された遺跡は境港市御立山遺跡の１か所のみである。（佐々木古代文化研 1960）

その後1972年、鳥取県史に弥生時代の埋葬について「米子市大崎字岩屋の弥生後期の土師器散布地に扁平割石が散布していた」「砂丘に墓地が営まれていた」（亀井照人 1972）との記述が見られる。その中で「洞窟埋葬もあった」と推察しており、八橋の田越箱式棺出土の銅剣についても箱式棺葬の可能性があると論及されている。以上のように1970年以前の弥生時代墳墓の研究や報告例は極わずかである。1970年代になると国土開発の波が鳥取県にも波及し、行政による事前の発掘調査が1971年に米子市青木遺跡（青木遺跡調査団 1976）の発掘調査を皮切りに県下の各地で行われるようになった。70年代後半には旧会見町宮前遺跡、旧溝口町神原遺跡、米子市別所新田遺跡などで弥生時代の土壙墓・木棺墓群の発見があり、弥生時代墳墓の調査例が増加している。70年代末になると弥生時代墳丘墓の認識が普及するとともに、1979年に国府町糸谷１号墓、倉吉市阿弥大寺１～３号墓などの四隅突出型墳丘墓が次々に発見されている。

隣県の島根県では、1948年の猪目洞窟調査でゴボウラ貝輪をはめた弥生人骨の発見（大谷従二 1949）や、1948年の古浦砂丘遺跡の発見に続き、1956年の小片保による調査、1961年から1964年にかけての金関丈夫による古浦砂丘遺跡の調査が行われ、人類学的研究と併せて弥生時代前期の墳墓が調査されている（古浦遺跡調査研究会 2005）。また1962年に安来市九重、鍵尾遺跡の調査、1968年には順庵原１号墳が調査され、1969年には来留美古墳群、仲仙寺古墳群が発見されている（島大考古学研究室 1992）。1970年代には発生期古墳は弥生時代墳丘墓へと認識転換が行なわれ、出雲考古学会や島根大学が精力的に調査研究に取り組み、弥生時代墳丘墓の研究は鳥取県より一歩先んじている。

また、1998年に堀部第１遺跡（鹿島町教委 2005）が調査され、弥生時代前期の木棺墓群の具体的な様子が判明している。

80年代以降は鳥取県内の行政発掘の体制が整うこともあって、調査例は増加し弥生時代墳墓の様相が次第に分かってきている。現在では米子平野域に限ってみても37遺跡を数え、土壙墓、木棺墓、墳丘墓等の各種形態が確認され、墳墓から地域の弥生社会の動向を伺い知ることができる。

⑵　米子平野の弥生墳墓の様相

米子平野域の弥生時代の遺跡は、現在では土器散布地を含めておよそ240カ所である。その中で弥生時代墳墓が存在する遺跡の概要は第16表のとおり37遺跡である。時期的には弥生時代前期から後期末までの墳墓遺構であり、形態的には土壙墓、木棺墓、土器棺、石蓋土壙墓、石囲墓、方形周溝墓、墳丘墓の各種形態が観られるが、石棺墓が無く木棺墓が多用されている。墳墓の立地は、調査範囲や造営時期にもよるが、ほとんど丘陵上にある。墳墓は数基から数十基で形成されており、集落内や集落周辺域、集落から離れた丘陵地の上に造営されている。

以下に米子平野域の弥生時代墳墓が確認された遺跡について流域・地域別に８地域に分けて概観する。

ア　米子平野の弥生墳墓の概要　（第16表　米子平野弥生時代墳墓一覧）

①　名和台地地域

この地域は大山の北麓の名和川などの小河川により幾筋も開削された火山性台地と谷平野の地勢であり、遺跡は主に台地上に発見されている。弥生時代遺跡は主に中期から後期にかけて営まれた集落跡であるが、集落とその周辺に墳墓が発見されている。

梅田萱峰遺跡（大山町梅田～琴浦町）　大山北麓の標高55m～65mの丘陵上に位置する旧石器時代から奈良時代にかけての遺跡である。１区では弥生時代中期後葉の集落跡と墳墓が調査され、墳墓は15基の土壙墓・木棺墓で散在するものと群在するものがあるが、全体的に環状配置をとると報告されている。標石や集石を持つものが認められている。４区では弥生時代中期後葉の長方形の貼石墳丘墓が調査され主体部は木棺墓である。

殿河内定屋ノ前遺跡（大山町殿河内）大山北麓の標高50mの丘陵上に位置する縄文時代から古代にかけての遺跡である。弥生時代中期後葉の集落跡が調査され、墳墓は３基の土壙墓・木棺墓で散在するものである。

細工塚遺跡（大山町下市）　大山北麓の標高31mの丘陵上に位置する縄文時代から奈良時代にかけての遺跡である。弥生時代中期初頭の墳墓は１基の不整形な土壙墓であり、ほぼ完形の壺２点が供献されていた。

退休寺遺跡（大山町退休寺）　大山北麓の標高70mの丘陵上に位置する弥生時代中期後葉から後期にかけての集落跡と墳墓の遺跡である。６区で弥生時代中期後葉の17基の土壙墓、木棺墓が調査されており、散在するものと群在するものがある。近くに竪穴建物跡などは確認されておらず集落からやや離れて造営されていると推定される。

門前第２遺跡（大山町門前）　大山北麓の標高47m～52mの丘陵上に位置する縄文時代から中世にかけての遺跡である。弥生時代末から古墳時代の遺構は主に竪穴建物跡や土坑である。墳丘墓の門前１号墓は二段に列石を巡らした方形貼石墓で弥生時代後期末の時期と推定されている。

押平弘法堂遺跡（大山町押平） 阿弥陀川右岸の標高60mの扇状地に位置する弥生時代中期後葉の集落跡と墳墓、中世集落跡と墳墓の遺跡である。弥生時代中期後葉の９基の木棺墓の一群が密集して検出されている。近辺に柱穴や土坑があるが、竪穴建物跡などの集落跡はなく、集落からやや離れて造営されていると推定される。

②　淀江平野・所子扇状地地域

この地域は大山の北麓の阿弥陀川の扇状地と孝霊山北麓丘陵と淀江平野からなる地勢であり、遺跡は主に扇状地と孝霊山北麓丘陵上に発見されている。弥生時代遺跡は主に中期から後期にかけて営まれた集落跡であるが、妻木山から晩田山丘陵には後期の大規模集落遺跡が調査され、四隅突出型墳丘墓などの墳墓も多く発見されている。

荘田２号墓（大山町荘田） 孝霊山北麓の妻木山丘陵端の標高48mに位置する弥生時代後期後葉の墳丘墓である。この他に２基の古墳時代後期の円墳が隣接する。墳丘墓は11.5×９mで、トレンチでの確認調査のため全容は不明であるが、貼石の一部が確認され四隅突出型墳丘墓の可能性がある。また、徳楽墳丘墓と同様な竹管文を施す器台片などが出土し、後期後葉の時期と推定されている。

徳楽墳丘墓（大山町長田） 孝霊山北麓の丘陵上に位置する弥生時代後期末葉の墳丘墓である。1930年代に小林行雄らにより一部調査されたが、主体部などの内容は不明である。大量の土器が発見されており竹管文を施した特異な器台形土器などが出土している。四隅突出型墳丘墓と推定されている。

妻木晩田遺跡（大山町妻木～米子市淀江町） 孝霊山北麓の標高90～120mの丘陵上に位置し、主に弥生時代後期から古墳時代後期の時期にかけての170haに及ぶ大規模な集落と墳墓の遺跡で、洞ノ原地区、仙谷地区など７地区の丘陵上に広がっている。このうち墳墓は、洞ノ原地区で後期初頭から中葉の墳丘墓・四隅突出型墳丘墓、土壙墓など25基が調査されている。特に注目されるのは墳丘墓が集中していることと、多くの極小規模の四隅突出型墳丘墓が認められる点である。

また仙谷地区では、後期前葉から末葉の四隅突出型墳丘墓、方形墓、台状墓、方形周溝墓など７基が発見されている。また松尾頭地区では後期末葉の方形墓２基が発見されている。

③　日野川右岸・佐陀川流域

この地域は大山西麓の百塚原や大谷台地の火山性台地と日野川右岸の平野域からなる地勢であり、遺跡は主に台地上に発見されている。弥生時代遺跡は主に中期から後期にかけて営まれた集落跡であるが、集落内や周辺に墳墓が発見されている。

百塚第７遺跡（米子市淀江町百塚原） 大山西麓の標高40m前後の丘陵上に位置する弥生時代中期から古墳時代にかけての集落跡と墳墓遺跡である。弥生時代は中期後葉の竪穴建物跡、掘立柱建物跡、土坑等からなる集落跡で、柵列に囲まれた竪穴建物跡、掘立柱建物跡の区画から木棺墓１基が発見されている。

百塚第８遺跡（米子市淀江町百塚原） 大山西麓の標高40m前後の丘陵上に位置する弥生時代中期から古墳時代にかけての集落跡と墳墓遺跡である。弥生時代の遺構は中期後葉の竪穴建物跡、掘立柱建物跡、貯蔵穴、土坑等からなる。集落域の周辺から同時期と考えられる土壙墓・木棺墓３基が調査されている。

岡成第９遺跡（米子市岡成） 大山西麓の標高93mの丘陵上に位置する弥生時代後期の集落跡と墳墓遺跡である。遺構は後期中葉の竪穴建物跡、掘立柱建物跡、土坑等である。土壙墓・木棺墓37基と

方形周溝墓４基が調査されている。土壙墓・木棺墓群はその分布状況から大まかに３グループに分けられ、更に小群の纏りが認められる。また、丘陵斜面に後期中葉から末期と考えられる方形周溝墓が発見されており、中心主体は確認されていないが周溝内土壙が検出されている。

喜多原第２遺跡（米子市喜多原） 大山西麓の標高100ｍの丘陵上に位置する弥生時代中期後葉から古墳時代初頭の集落遺跡で竪穴建物跡、掘立柱建物跡、土坑等が発見されている。弥生時代後期と推定される土壙墓３基が調査されている。

尾高浅山遺跡（米子市尾高） 大山西麓の標高70ｍの丘陵上に位置する弥生時代後期の環濠集落跡と墳丘墓と古墳時代中期の古墳の遺跡である。環濠集落跡は丘陵を三重に廻る環濠で囲まれ、試掘調査で濠内部から後期前葉の竪穴建物跡が十数棟確認されている。墳墓は環濠集落跡のある丘陵南側の標高64ｍの丘陵上で、後期初頭から中葉の墳丘墓５基が確認されている。このうち１号墓は後期初頭の四隅突出型墳丘墓であり、他は後期中葉の方形墓と考えられている。

日下古墳群（米子市日下） 大山西麓の標高86ｍの丘陵上に位置する弥生時代中期から後期にかけての墳墓と、古墳時代前期から後期の古墳群の遺跡である。この古墳群の調査域で中期後葉の木棺墓31基と後期中葉の四隅突出型墳丘墓が発見されている。木棺墓群は丘陵を段状に加工した平坦面に主軸を統一して造墓されている。後期中葉の四隅突出型墳丘墓の埋葬施設は５基の木棺墓である。また中期初頭の礫が集積された不定形土壙が２基調査されている。

石州府第１遺跡（米子市石州府） 大山西麓の標高60ｍの段丘状の丘陵に位置する弥生時代中期から後期と古墳時代後期の遺跡である。弥生時代中期後葉の標石を持つ土壙（土器棺墓）２基が発見されている。土器棺は甕、丹塗りの台付壺・高坏を組合せたものである。

④　日野川中流域

この地域は大山西麓の火山性台地と日野川中流域の谷底平野からなる地勢であり、遺跡は主に台地上に発見されている。弥生時代遺跡は主に中期から後期にかけて営まれた集落跡であるが、比較的標高の高い高原地帯にも遺跡が発見されているのが地域特色と言える。

貝田原遺跡（伯耆町貝田原） 大山西麓の標高100ｍの丘陵上に位置する弥生時代中期と奈良時代の集落遺跡である。中期後葉の集落跡は竪穴建物跡、掘立柱建物跡、土坑等からなり、竪穴住居跡脇に中期後葉の土壙墓１基が調査されている。

林ケ原遺跡（伯耆町林ケ原） 大山西麓の標高200ｍ～230ｍの丘陵地に位置する縄文時代と弥生時代中期の集落遺跡である。弥生時代遺跡は中期後葉の竪穴建物跡、掘立柱建物跡、貯蔵穴、土坑等からなり、竪穴建物跡等からやや離れた位置に中期後葉の木棺墓４基、土壙墓２基が調査されている。

岸本遺跡（伯耆町岸本） 大山西麓の標高75ｍの丘陵末端部上に位置する弥生時代中期後葉の集落跡遺跡である。竪穴建物跡１棟と多数の貯蔵穴等の遺構が調査され、貯蔵穴からやや離れた位置に木棺墓１基が発見されている。

真野ブヤ原遺跡（伯耆町真野） 大山西麓の標高330ｍの高原丘陵上に位置する弥生時代中期後葉の集落遺跡である。主な遺構は竪穴建物跡４棟と掘立柱建物跡28棟と、土壙墓２基が調査されている。

父原遺跡（伯耆町父原） 日野川中流域の谷底平地を望む標高150ｍの丘陵上に位置する弥生時代後期末の墳墓遺跡である。四隅突出型墳丘墓３基が確認されている。１号墳丘墓は板石の貼石を持っている整美な墳丘墓である。

下山南通遺跡（伯耆町貝田原） 大山西麓の標高214ｍ～230ｍの丘陵地に位置する縄文時代早期か

ら弥生時代後期の集落遺跡である。遺跡の主体は弥生時代中期の竪穴建物跡、掘立柱建物跡、貯蔵穴等の遺構で、標石と土器を伴う土壙墓１基がある。

上中ノ原遺跡（伯耆町上中ノ原） 大山西山麓の標高500mの高原丘陵地に位置する弥生時代中期中葉から後葉の竪穴建物跡、掘立柱建物跡、溝等で構成される集落遺跡である。掘立柱建物跡付近に弥生時代中期中葉から後葉と考えられる木棺墓が１基確認されている。

神原遺跡（伯耆町神原） 大山西山麓の標高485mの高原丘陵上に位置する弥生時代中期後葉の集落遺跡で掘立柱建物跡、貯蔵穴等が調査されている。掘立柱建物跡周辺に木棺墓、土壙墓が４基調査されている。

⑤ 加茂川・中海地域

この地域は米子市の加茂川流域の丘陵と小平野、中海沿岸域の砂丘地からなる地勢である。遺跡は主に丘陵上や丘陵裾低地、砂丘上に発見されている。弥生時代遺跡は前期から後期にかけて営まれた集落跡や水田跡などが分布している。墳墓遺構は中期末から後期末の木棺墓である。

吉谷上ノ原山遺跡（米子市吉谷） 米子市南部の標高25m～31mの丘陵斜面に位置する弥生時代後期前葉から古墳時代前期の竪穴建物跡、掘立柱建物跡等からなる集落・墳墓遺跡である。後期末葉の10基の土壙墓（木棺墓）群が確認され、内１基からガラス小玉271個とガラス管玉３個が検出されている。土壙墓は３グループに分かれて点在している。

吉谷中馬場山遺跡（米子市吉谷） 標高60mの丘陵上から斜面に位置する弥生時代後期から古墳時代前期の集落跡と古墳の遺跡である。５区の標高41mの丘陵裾で木棺墓２基が調査されており、丘陵上の後期中～後葉の集落跡と同時期のものと推定されている。

奥谷堀越谷遺跡（米子市奥谷） 米子市南部の奥谷丘陵の山裾標高12mに位置する弥生時代中期後葉の集落遺跡である。竪穴建物跡１棟と多数の土坑が発見されており、土坑の内の３基が中期後葉の土壙墓とされている。

東宗像遺跡（米子市宗像） 宗像丘陵の標高35mの斜面に位置する弥生時代中期後半から奈良時代の集落遺跡である。丘陵上には古墳時代後期の東宗像古墳群と横穴墓群が所在する。丘陵斜面を段状に加工して弥生時代中期後葉の竪穴建物跡、掘立柱建物跡、貯蔵穴等の遺構が調査され、弥生時代中期後葉の木棺墓、土器棺墓、石蓋土壙墓、土壙墓が各１基ずつ発見されている。

陰田第６遺跡（米子市陰田） 米子市西部の陰田丘陵の標高25～35mに位置する弥生時代後期後半の集落遺跡である。丘陵上と斜面には古墳時代後期の陰田古墳群と横穴墓群が所在する。天坂地区から弥生時代後期後半頃の土壙墓・木棺墓８基と、弥生時代後期末から古墳時代初頭の土壙墓・木棺墓12基が調査されている。

⑥ 長者原台地地域

この地域は長者原とよばれる火山性台地が広がり、丘陵間には小谷底平野が入り込む地勢で、遺跡は主に丘陵上に発見されている。弥生時代遺跡は主に中期後半から後期にかけて営まれた集落跡などであるが、墳墓遺構に前期のものがある。

青木遺跡（米子市永江） 米子市南部の長者原台地の標高35～40mの丘陵地に位置する弥生時代中期後半から古墳時代を中心とした集落・墳墓遺跡である。中期後半の土壙墓６基がＪ地区北の集落内に点在する。またＨ地区で後期の木棺墓３基、土壙墓１基、中期後葉の土器棺墓２基が、Ｄ地区で中期後葉の周溝墓状の木棺墓２基、土壙墓１基、土器棺墓１基が調査されている。Ｊ地区南では集落か

らやや離れた位置に後期末の12基の土壙墓が発見されており主軸をほぼ一定方向に揃えている。

別所新田遺跡（米子市別所） 米子市南部の長者原台地の標高35mの丘陵地に位置する弥生時代前期の墳墓と古墳時代後期の集落遺跡である。群在する前期の木棺墓25基が調査されている。棺の主軸は一定していない。近隣に前期の集落跡は発見されていない。

⑦ 小松谷川流域

この地域は旧会見町の小松谷川流域の丘陵と平野、越敷山塊からなる地勢である。遺跡は主に丘陵上や丘陵裾低地に発見されているが、越敷山塊の丘陵には大規模な集落遺跡が発見されている。

宮前遺跡（南部町宮前） 標高20m前後の丘陵上に位置する弥生時代中期と古墳時代の集落遺跡である。集落跡では竪穴建物跡、掘立柱建物跡、貯蔵穴、土坑が調査されている。墳墓は集落周辺域に弥生時代中期中葉の木棺墓38基が発見されている。木棺墓は３群にわかれて墓域が形成され主軸を揃えており標石を持つものも認められる。

朝金小チヤ遺跡（南部町朝金） 越敷山西麓の標高65mの丘陵斜面地に位置する弥生時代の集落、墳墓と古墳時代後期の集落と墳墓遺跡である。弥生時代後期後葉の墳丘墓２基が調査されている。１号墳丘墓の主体部は３基の土壙墓（木棺墓）で、墳丘溝内と周辺に３基の土壙墓（木棺墓）が、２号墳丘墓の主体部は４基の土壙墓（木棺墓）で、墳丘溝内に２基の土壙墓（木棺墓）が発見されている。墳丘墓には列石があり形状的に四隅は確認されていないが、四隅突出墓と推定される。後期後半～末の時期の遺物は吉備系の影響が見受けられ、また壺形土器や装飾器台など多数の供献土器が出土している。

越敷山遺跡群（南部町越敷野） 越敷山稜の標高170～200mの丘陵尾根上に位置する弥生時代後期から古墳時代前期にかけての集落遺跡である。集落跡では多数の竪穴建物跡、掘立柱建物跡、貯蔵穴、土坑が調査されている。墳墓遺構は集落周辺域に弥生時代中期後葉の土壙墓・木棺墓18基が発見されている。

田住桶川遺跡（南部町田住） 越敷山西麓丘陵の標高64mの尾根上に位置する弥生時代後期と古墳時代後期、江戸時代の墳墓遺跡である。弥生時代後期前葉～後葉の14基の木棺墓群が調査され、内６基が後期前半とされている。近接して集落跡はないが200m南の丘陵面に朝金第１遺跡が所在する。

⑧ 法勝寺川中流域

この地域は旧西伯町の法勝寺川中流域の丘陵と小平野からなる地勢であり、弥生時代遺跡は前期から後期にかけて営まれた集落跡などがあり、丘陵上や丘陵裾低地に発見されている。

清水谷遺跡（南部町福成） 法勝寺川中流域左岸の標高54mの丘陵上に位置する弥生時代前期末から古墳時代後期の集落・墳墓の遺跡である。特に弥生時代前期末の時期の環壕遺構が確認され注目される。弥生墳墓遺跡は、中期中葉の土壙墓２基と後期の土壙墓１基が調査されている。中期中葉の土壙墓はいずれも標石を持つ。また中期の１基からは副葬品として15点の石鏃が検出されている。

境矢石遺跡（南部町境） ２項参照

２ 境矢石遺跡の弥生墳墓の様相 （第17表 境矢石遺跡弥生時代墳墓関係遺構一覧）

境矢石遺跡の弥生墳墓は２・３・６区の標高32m～29mの丘陵から緩やかな谷斜面にかけて分布する一群と、１・５区の標高24m前後の丘陵裾部に分布する一群の、大きく２か所に集中して分布している。

造営時期は供献土器や副葬品などの出土遺物が少なく、時期決定が難しいが、前者が弥生時代前期末から中期中葉にかけて営まれ、後者は弥生時代前期後半に営まれた墓群と考えられる。境矢石遺跡の調査範囲内では、この時期の集落遺構が発見されておらず、調査区外の近接丘陵や水田下に存在するものと推測される。また大半が木棺墓であり、棺の組み方を側板で小口を挟むものをⅠ類、小口で側板を挟むものをⅡ類、小口と側板を合わせるものをⅢ類に分類し、素掘りの土壙をａ、二段掘りの土壙をｂとして検討した。

⑴　１・５区の墳墓について

１・５区の弥生時代墳墓遺構は、木棺墓・石囲墓など42基が調査されている。小口痕跡などから木棺墓と考えられるものである。墓群は調査域の北側や東側にも広がっていると推定されるが、圃場の構造改善等で削られており全容は不明である。

ア　木棺墓

小口痕跡を残すものは木棺墓と考えたが、痕跡がないものも形状が長方形の墓壙は木棺墓と推定した。木棺墓は計40基である。木棺墓の規模は最大で長さ1.9m、最小で長さ0.4mであり、この規模の大小は大人と子供の墓の違いであると考えた。長さ0.9m以下のものを子供の木棺墓とすると、大人の墓数は27基、子供の墓数は12基、不明１基である。大人の墓の平均値は長さ1.26m、子供の墓の平均値は長さ0.66mである。

棺組の形態分類ではⅠ類が18基、Ⅱ類が６基、Ⅲ類が１基で、他は不明あるが、側板で小口を挟むⅠ類が多い。墓壙の形態と規模は、大半がほぼ長方形で素掘りの土壙である。墓壙は木棺墓の大きさとほぼ同じ墓壙規模をもつものと、大きめに掘った墓壙内に木棺を組むものが見られる。また木棺墓の裏込めに礫を使用して棺を押さえているものが８基見られる。

分布状況は、群中央に密集する傾向にあるが、単位グループのまとまりは認められない。また子供の墓の分布に偏りは見られない。頭位は墓壙小口幅の広い方を頭と考えると、北西から北東の範囲に収まるが意図的に頭位を揃えたというよりは、傾斜に対して直交するように墓壙を掘った結果であろうと考えられる。また、礫石が墓壙上や内部で確認されたもののうち、標石と推定されるものが５基ある。

イ　石囲墓

墓壙底に礫積みをめぐらした５区SK８の１基のみである。

ウ　土壙墓

土壙墓と考えた墓壙は１区SK５の１基のみである。

エ　出土遺物と時期

棺内や棺上の供献・副葬遺物と考えられるものは５区SK36の管玉状石製品５個のみである。他は墓壙埋土層から突帯文系土器片や前期弥生式土器片が検出されているが、供献・副葬遺物とは考えられない。表土層から遺構確認面までの土層中からも前期弥生式土器片がかなり検出されていることと、弥生時代の中～後期の土器がほとんどないこと、他の遺構が古墳時代中・後期以降のものであることなどから、墓群の時期は弥生時代前期後半と考えられる。また木棺墓壙は５区SK13と５区SK14が切合うのみであり、他に切合い関係がないため墓群の造営期間は短期間であったと考えられる。

⑵　２・３区・６区の墳墓について

２・３区・６区の弥生時代墳墓遺構は、土壙墓・木棺墓など54基が調査され、大半は小口痕跡から木棺墓と考えられるものである。調査域の西側が急な斜面であるため、墓域の大半を調査したものと考えられる。

また、墓域内の溝状土壙・弧状溝・石列については、土壙内部に供献土器や土壙墓と考えられる遺構があり、これらの遺構も墳墓関係遺構として取り扱った。また、３・６区の上層で検出した石列は溝状土壙・弧状溝に落ち込むものがあること、列状に並ぶことなどから墓域を区画した遺構と推定された。

ア　土壙墓

２・３・６区の土壙墓としたものは、小口痕跡がなく墓壙形状が木棺墓と考えられないもの３基のみである。

イ　木棺墓

木棺墓の墓壙は計51基である。木棺墓の規模は最大で長さ1.75m、最小で長さ0.5mである。１・５区と同様に大きさで区別した大人の墓数は35基、子供の墓数は10基、不明６基である。大人の墓の平均値は長さ1.33m、子供の墓の平均値は長さ0.63mである。

棺組の形態分類ではⅠ類が８基、Ⅱ類が21基、Ⅲ類はなく、他は不明である。小口で側板を挟むⅡ類が多い傾向にある。墓壙の規模は、大半がほぼ長方形で素掘りの土壙である。墓壙は木棺墓の大きさとほぼ同じ墓壙規模をもつものと、大きめに掘った土壙内に木棺を組むものが見られる。また木棺墓の裏込めに礫を使用して棺を押さえているものが１基しか見られず､棺組の様相は１･５区と異なっている。

分布状況は、大まかに丘陵上に集中する傾向にあるが、丘陵上、谷中央、谷下部の３グループが観察される。また子供の墓の分布に偏りは見られない。頭位は統一性がなく墓壙小口幅の広いほうを頭と考えると、北東方向の頭位傾向が見られるが１・５区と同様に傾斜に対して直交・平行するように墓壙を掘った結果だと考えられる。

礫が墓壙上や内部で確認されたもののうち、標石と推定されるものが３基ある。

ウ　溝状土壙・弧状溝

溝状土壙と称した遺構は、一部に不整形な土壙も含むが溝状を呈する土壙である。墓壙である確証はないが、溝内に墓壙状の土壙があるものや、列状配置をなしていることから溝状土壙（不整形土壙を含む）を墳墓遺構と推定した。溝状土壙は17基あり、形状は溝状の不定形なもので、最大は３区SD11-３で長さ8.1m、幅3.25m、深さ１m、最小は３区SK42で長さ1.3m、幅0.6m、深さ0.7mを測る。また、弧状溝は15基あり、最大は６区SD25で長さ11.2m、幅0.68m、深さ0.53m、最小は６区SD20で長さ2.29m、幅0.45m、深さ0.14mを測る。山側のみに弧状に痕跡を残した円形周溝墓とも考えられるが定かでない。

溝状土壙の分布は、３区谷部では２列の列状配置が認められ、弧状溝は丘陵上部のみに集中している。木棺墓が溝を切っているものがあり溝状土壙、弧状溝が古いことを示している。

エ　石列

石列状の礫群が３区・６区に見られる。３区の谷部の上層で検出された石列は土層的に墳丘盛土は確認出来ず、共伴遺物も検出されていないが、溝状土壙内に石が落ち込む３区SD19の例や、木棺墓

の軸と平行する石列があることや、木棺堀方が上層で確認された３区SK32の例があることなどから、木棺墓群に伴うものと考えた。また、６区の石列も上層での検出であるが、弧状溝に落ち込む６区SD18の例と中期初頭の遺物から推定して、木棺墓群に伴う墓域を区画した上部遺構と推定した。

オ　出土遺物と時期

土壙墓の出土遺物はない。木棺墓では副葬品として、３区SK11から石鏃１点、６区SK37から小玉１点、石鏃12点、６区SK42から石鏃１点、６区SK62から管玉21点が検出されている。その他の木棺墓からは検出されていない。

溝状土壙の出土遺物は、遺構内埋土と溝底の土壙に伴う土器があり、遺構内埋土からは弥生時代前期末の土器片がかなりの数含まれ、また溝底の土壙からは中期初頭～中葉の供献土器が検出されている。弧状溝からの出土遺物は少ないが６区SD18から中期初頭の土器が検出されている。

木棺墓と溝状土壙等の切合い関係をみると、３区SD14に木棺墓３区SK26、３区SK37に木棺墓３区SK22が棺床面を貼床していることから、木棺墓は溝状土壙が埋められた段階で造られており、木棺墓が溝状土壙より新しいことを示している。溝状土壙と中期中葉の供献土器を伴う溝底の土壙の切合い関係は確認出来ていない。また、６区の弧状溝は木棺墓SK33がSD25を切って造られており木棺墓が弧状溝より新しいことを示している。このことから溝状土壙・弧状溝の次に木棺墓が造られた前後関係を認めた。時期的には遺物の出土状況から、溝状土壙等が弥生時代前期末～中期初頭に造られ、その直後から中期中葉にかけて木棺墓が造営されたと考えられる。

３　小結

⑴　米子平野の弥生墳墓の様相

米子平野の弥生墳墓の様相を、形態、立地、分布などの要素から観察してみる。

ア　形態

米子平野の弥生墳墓は、土器棺墓・木棺墓・土壙墓・石囲墓・石蓋土壙墓・墳丘墓（四隅突出墓・方形墓）の各種形態がみられ、石棺墓がなく大半が木棺墓・土壙墓である。また、列状配置の溝状・弧状遺構という特殊な遺構も存在すると考えられる。

土器棺墓　土器棺墓は青木遺跡、東宗像遺跡、石州府第１遺跡の４遺跡５例である。甕、壺、高坏が使われており、大型の土器はなく器高30㎝前後の土器を合わせ口に使用して60㎝前後の棺となり小児が入る程度である。東宗像遺跡例は土器蓋土壙墓状を呈している。石州府第１遺跡例は上部に礫群の標石を持つ。土器棺内には副葬品は認められない。時期的には中期の時期の土器棺であり青木遺跡例が中期中葉で、他は中期後葉である。この形態の墓は北部九州のように一般的でなく、小児等の特別な埋葬形態と言えよう。

石蓋土壙墓　石蓋土壙墓は、東宗像遺跡と岡成第９遺跡の２遺跡２例である。東宗像遺跡例は一辺40㎝の割石４枚で覆われた、長さ２ｍ強の長楕円のやや浅い土壙墓で周囲をL字状の溝で区画していると推定されている。岡成第９遺跡例は板石の蓋石１枚と小口石を使った長さ90㎝強の楕円の浅い土壙墓である。いずれも副葬品は認められず時期が断定できないが、周辺遺物等の状況から東宗像遺跡例が中期中葉で、岡成第９遺跡例は後期中葉とされている。但し、東宗像遺跡例は古墳時代後期の石室の石積に類似しており、この時期のものか疑わしい。この形態の墓も類例が少なく特異な埋葬形態と言えよう。

石囲墓　石囲墓は境矢石遺跡例１基のみで、礫積みで囲った長さ1.9mの土壙墓である。類例は米子平野域では見られず、県中部の倉吉市イキス遺跡６号土壙墓にみられる。時期的には前期の墓である。

木棺墓・土壙墓　前期では別所新田遺跡、中期では宮前遺跡、日下古墳群弥生木棺墓群、後期では岡成第９遺跡などが代表的な例である。形態は小口や側板痕跡から組み合わせ式の木棺墓で、前期にはⅠ類が中期にはⅡ類が多い傾向が見られる。規模の大小から大人、子供の区別なく使われている。数基から数十基の木棺墓群として存在し、前期から後期までの全般的な時期に見られる一般的な墳墓で約300基確認される。但し報告例の中には中期後葉の土壙墓とされるものに、他遺跡で廃棄土坑とされるものと形態や土器の出土状況が似ているものがある。

溝状土壙・弧状溝　境矢石遺跡の列状配置と石列礫群を伴う遺構である。今のところ特異な例である。弧状溝の類例は知られていないが、溝状土壙（不整形土壙を含む）に類似した例は、日下古墳群SK11・SK12の２基が観られ、両土坑では上部に人頭大の礫の集積が検出されている。いずれも前期末から中期初頭の時期である。今回、墳墓関係遺構としたが今後の類例をまち検討すべき課題である。

墳丘墓（四隅突出形墳丘墓･方形墳丘墓･方形周溝墓）　墳丘墓は四隅突出形墳丘墓が妻木晩田遺跡、尾高浅山１号墓など22基、長方形・方形貼石墓は梅田萱峰墳丘墓、妻木晩田洞ノ原２号墓など６基、方形墓・方形台状墓は仙谷３号墓など10基、方形周溝墓は岡成第９遺跡など５基が見られ、計55基を数える。時期的には弥生時代中期末の梅田萱峰墳丘墓を初出とし、後期末の徳楽墳丘墓や父原２号墓を終焉とする。墳丘墓の主体部構造は、ほとんど木棺で最近見つかった仙谷８号墓のみが石棺である。規模は15m以下のものが多く傑出した大きさの墳丘墓はなく、地域の小首長クラスの墳墓と考えられる。

イ　立地

調査された墳墓の立地は、ほとんど丘陵上であり低地の墳墓は奥谷堀越谷遺跡、境矢石遺跡５区の丘陵裾部の２遺跡だけである。墳墓と集落との位置関係は、集落内、集落近辺、集落から離れた場所の３立地が見られる。前期には集落の位置が明らかな遺跡がないが、別所新田遺跡や境矢石遺跡からみて集落近辺に造営されていると推定される。中期には梅田萱峰遺跡、宮前遺跡の木棺墓群のように同一丘陵の集落周辺や、日下古墳群弥生木棺墓群のように集落から離れた場所にあるものが見られるが、集落周辺に造墓される傾向がみられる。後期には墳丘墓が集落域から離れた高所に造られるが、木棺墓群は岡成第９遺跡などのように集落内や隣接した立地を示している。全時期を通じ一般構成員の墓は集落内や隣接した周辺立地を示している。

ウ　分布・配置

木棺墓の分布と配置状況をみると、木棺墓は前期から後期段階まで集団墓として造営され、数基から数十基で構成されている。木棺墓の頭位は前期では別所新田遺跡や境矢石遺跡のようにバラバラであるが、中期後葉頃以降から宮前遺跡や日下古墳群木棺墓群のように頭位をそろえる傾向が見られ、何らかの造営規範が推定される。

また墓域内でのグループ配置のまとまりが、宮前遺跡や岡成第９遺跡で見られることから、葬られた人達の家族・世帯の集団構成が推察される。例えば日下古墳群弥生木棺墓群は弥生時代中期後半の短時期の木棺墓がテラス状段内に頭位を揃えて31基あり、30人前後の集団であったと推察できる。また、弥生時代後期後半の岡成第９遺跡では、おおまかに３か所に分かれた分布状況がみられ、更に８

つの小支群のまとまりが見られ、1グループ約15人で3グループの家族･世帯の集団構成が推察される。

エ　副葬品

木棺墓では前期から後期段階まで副葬品を持つ墓は少ないが、前期では境矢石遺跡5区SK14（石鏃1）、SK17（石鏃1）、SK36（管玉状石製品5）、境矢石遺跡6区SK37（小玉1、石鏃12）、SK42（石鏃1）、SK62（管玉21）であり、石鏃や玉類が副葬されている。中期では清水谷遺跡SK22（石鏃15）、真野ブヤ原遺跡（石鏃1）、神原遺跡SX03（石鏃1）、殿河内定屋ノ前遺跡SK9（磨製石斧1、石鏃1）が副葬されている。後期では岡成第9遺跡SX26（刀子1）、吉谷上ノ原山遺跡SX06（ガラス管玉3、ガラス小玉271）、仙谷3号墓第5埋葬施設（鉄鏃1）、第16埋葬施設（ガラス小玉1）、松尾頭1号墓第1埋葬施設（鉇）が副葬されている。

副葬品で突出するのは、吉谷上ノ原山遺跡SX06の玉類のみで、墳丘墓・木棺墓群とも豊富な副葬品はない。埋葬施設の規模・構造では目立った副葬品の差は認められない。

オ　供献土器

供献土器は、墓壙上や墳丘墓上に置かれたと考えられる土器類であるが、木棺墓群からは目立った供献土器はなく、墳丘墓に伴う供献例が多い。前期には供献例が認められないが、中期には梅田萱峰木棺墓SX8で赤塗の脚付壺、器台が、梅田萱峰墳丘墓で甕、壺、高坏、絵画土器片、青木遺跡DSX01の周溝から赤塗土器片などがある。後期には尾高浅山墳丘墓群で甕・器台が、洞ノ原墳丘墓群で甕、壺、脚付壺、高坏が、日下弥生1号墳丘墓で甕、器台が、朝金小チヤ遺跡で壺、脚付壺、甕、器台などが確認される。この中には赤塗されたものや絵画土器片など特異なものも散見される。

カ　標石等外部施設

木棺墓には標石と推定できる人頭大の礫が認められるものがある。墓壙上に標石として置かれたと考えられるものは、前期では境矢石遺跡1・5区で42基中5基、中期では日下弥生木棺墓群で31基中7基、宮前遺跡で38基中4基、清水谷遺跡3基中2基、梅田萱峰木棺墓群で17基中7基、後期では吉谷中馬場山遺跡2基中1基、仙谷3号墓の22基中2基である。このことから標石は墓群中でも特定の墓に置かれていたと考えられるが、清水谷遺跡SK22の石鏃15点以外に特に特別な副葬品があるわけでもないので「標石」に特別な意味は考えられない。

四隅突出墓や方形墳丘墓では一般的に貼石が認められるが、方形周溝墓には貼石が認められない。また梅田萱峰墳丘墓では柱穴列が報告されているが墳丘墓に伴うかどうかは疑わしい。

⑵　総括

米子平野の弥生時代墳墓の様相を整理し、次の三段階の画期が想定される。

ステージ1（前期～中期中葉）等質的様相　前期から木棺墓が多用されており、境矢石遺跡や別所新田遺跡の木棺墓群が代表的な遺跡例である。土壙墓・木棺墓・石囲墓・溝状土壙がみられ、木棺墓を主体とした集団墓として造営されている。埋葬頭位はバラバラで一定の規則性を持たない。副葬品はほとんど無い。若干の墓に標石らしきものが観察される。大人・小児用の規模の大小はみとめられるが、等質的であり格差や地域的特色の発現は認められない。

ステージ2　（中期後葉～中期末葉）階層差の芽生え　埋葬頭位はバラバラで大人・小児用の規模の大小は認められるが副葬品はほとんど無く、まだ等質的な傾向を保っている。梅田萱峰遺跡など頭位バラバラな遺跡がある一方で、宮前遺跡や日下弥生木棺墓群のように一定区画の中に埋葬頭位をそ

ろえる傾向のある木棺墓群があり、何らかの造墓規範が出現している。また、中期末葉には梅田萱峰遺跡で方形貼石墓と木棺墓群がみられ、一般成員墓から切り離された首長墓の出現があり、集団内での階層差の芽生えが見られる。

ステージ３　（後期初頭～後期末）階層差の出現　後期初頭には尾高浅山１号墓（四隅突出墓）や洞ノ原１号墓（貼石方形墓）を初源とする墳丘墓群が出現し、後期後半まで造墓が続けられている。

墳丘墓の在り方は、妻木晩田洞ノ原のように墳丘墓（四隅突出墓群）が累代的に造営され群形成されるものと、日下弥生１号墓のように単独に存在するものがみられる。また、岡成第９遺跡（方形周溝墓）のように隣接して木棺墓群と存在するものがある一方で、田住桶川遺跡のように木棺墓群のみで存在するものも見られる。このことは、夫々の造墓集団の共同体と首長のあり方を示していると考えられ、個人や集団間での階層差が出現したことを物語っている。

小結　以上のように米子平野の弥生時代墳墓の様相はステージ１からステージ３の三段階の画期が見られる。また米子平野域内の墳墓遺構は墳丘墓も含め小規模で、副葬品も目立ったものはない。ステージ３の段階では、妻木晩田遺跡のような集住形態をとる大規模遺跡や墳丘墓が多数出現するが、墳丘墓の規模は小さく、出雲の西谷墳丘墓群のような突出した規模の四隅突出墓は出現していない。このことから弥生時代には米子平野域を統合する力を持つまでに成長した首長や集団の存在は窺えない。このことから米子平野域の弥生社会は流域・地域毎の小規模平野でまとまり、地域集団が独立性を保ち、平野域の政治的統合があまり進まなかったと推察される。米子平野域の政治的統合は前期古墳出現の段階を待たなければならないようである。

境矢石遺跡は米子平野の弥生墳墓遺跡の中で、ステージ１段階の代表的な遺跡であると位置づけられよう。今後の課題としては境矢石遺跡の溝状土壙、弧状溝が墳墓遺構である確かな検証が必要で、今後の類例を待ちたい。境矢石遺跡の調査は、この地に二千年近く静かに眠っていた人たちを掘り起こす結果となった。境矢石遺跡の人たちの墳墓が、どのようなものであったかを記録出来たとすれば消滅させた遺跡への償いに少しはなったのでは自戒しています。

註１　旧名和町、旧大山町、米子市、南部町、伯耆町の範囲を米子平野域として設定した。

（参考・引用文献）

倉光清六　1923 『「古墳発見の伯耆弥生式土器」上・下　考古学３－４，７』1923　東京考古学会
佐々木謙　1972 『鳥取県史　原始古代』1972　鳥取県
佐々木古代文化研　1959 「鳥取県の弥生文化」『ひすい59』 佐々木古代文化研究室
佐々木古代文化研　1960 「鳥取県弥生遺跡一覧表」『ひすい73・74』 佐々木古代文化研究室
亀井照人　1972 『鳥取県史　原始古代』 鳥取県
青木遺跡発掘調査団　1976 『青木遺跡Ⅰ』 FJ地区　青木遺跡調査団
大谷従二　1949 『人類学雑誌61巻－１』 日本人類学会
古浦遺跡調査研究会　2005 『古浦遺跡』 古浦遺跡調査研究会
島大考古学研究室　1992 『山陰地方における弥生墳丘墓の研究』 島根大学法文学部考古学研究室
近藤正　1978 『山陰古代文化の研究』
『島根県文化財調査報告』第７号　1971　島根県教育委員会
『堀部第１遺跡』 2005　鹿島町教育委員会
濵田竜彦 『縄文時代晩期の山陰地方』2005　第16回中四国縄文研究会
その他の参考・引用文献は第16表の文献欄のとおり

第16表　米子平野弥生時代墳墓一覧

遺跡名	地区名	種別	埋葬施設	時期	主な遺物	墳墓位置	基数	墳丘	存在	主軸	備　考	文　献
名和台地地域												
梅田萱峰遺跡	4区	方形貼石墓	木棺墓	中期後	壺　器台　甕　高坏	集落離反	2	1	単独	—	柱穴列	梅田萱峰遺跡Ⅳ 2009 鳥取県埋文センター
	1・2区	木棺墓群	土壙 木棺墓	中期後	壺　甕　高坏　器台	集落周辺	15	—	群在	不統一	標石・集石	梅田萱峰遺跡１2007 鳥取県埋文センター
細工塚遺跡		土壙墓	土壙	中期前	壺２	集落周辺	1	—	単独	—	不整形土壙	細工塚遺跡Ⅱ 1998 中山町教育委員会
退休寺遺跡	2・6区	木棺墓群	木棺墓	中期後	—	集落周辺	17	—	群在	不統一		退休寺遺跡 2005 中山町教育委員会
殿河内定屋ノ前遺跡		土壙墓・木棺墓	土壙（木棺墓）	中期後	—	集落周辺	3	—	群在	不統一		殿河内定屋ノ前遺跡 2011 鳥取県埋文センター
門前１号墓	菖蒲田	長方形貼石墓	主体部不明確	後期末	—	集落離反	3	1	単独	不統一	柱穴列？	門前第２遺跡 2005 鳥取県教育文化財団
押平弘法堂遺跡	1区	木棺墓群	土壙（木棺墓）	中期後	—	集落離反	9	—	群在	統一？		茶畑六反田押平弘法堂遺跡 2002 鳥取県教育文化財団
淀江平野・所子扇状地地域												
荘田２号墓		四隅突出墓？	土器棺墓	後期後	壺　甕　器台	集落離反	未	1	単独	—	貼石　竹管文器台	大山町内遺跡報告 2000 大山町教育委員会
徳楽墳丘墓		四隅突出墓	不明	後期末	土器多数	集落離反	未	1	単独	—	竹管文器台	山陰弥生墳丘墓研究 1992
妻木晩田遺跡	洞ノ原	四隅突出墓群	主体部未掘	後期初～中	壺　甕　高坏　器台 脚付鉢	集落離反	未	14	群在	—	小型四隅突出墓	妻木晩田遺跡 2000 洞ノ原地区報告書 淀江町教育委員会
		長方形貼石墓	主体部未掘				未	1		—		
		土壙墓	土壙墓				3			—		
		土壙（木棺墓）	土壙（木棺墓）				2			—		
	仙谷	四隅突出墓	土壙（木棺墓）	後期中	甕　器台	集落離反		1	群在			妻木晩田遺跡Ⅲ 2000 仙谷地区 大山町教育委員会
		方形墓	土壙（木棺墓）		壺　甕　器台　鉄鏃　ガラス玉		22	1		統一	標石　二段堀方	
		台状墓	土壙（木棺墓）	後期末	甕　器台　高坏			3		統一		
		方形周溝墓	土壙（木棺墓）		壺　器台　甕　鉢		9					
	松尾頭	方形墳丘墓	土壙（木棺墓）	中期末	鉇　鏃茎	集落離反	5	2	群在	—	方形周溝墓状	妻木晩田遺跡Ⅰ 2000 仙谷地区　大山町教育委員会
日野川右岸・佐陀川流域												
百塚第７遺跡		土壙（木棺墓）	土壙（木棺墓）	中期後	—	集落周辺	1	—	単独	—		百塚遺跡群Ⅳ 1995 淀江町教育委員会
百塚第８遺跡	ⅢA区	土壙・木棺墓	土壙（木棺墓）	中期後	土器	集落周辺	3	—	散在	—		百塚遺跡群Ⅱ 1993 淀江町教育委員会
岡成第９遺跡		木棺墓群	土壙（木棺墓）	後期後	甕　刀子	集落周辺	37	—	群在	不統一	４群８支群	岡成第９遺跡 1993 米子市教育文化事業団
		方形周溝墓？	不明	後期後～	甕　壺　器台　高坏		未	4	群在			
喜多原第２遺跡		土壙墓	土壙	中期後～後期		集落周辺	3	—	散在	不統一		喜多原第２遺跡 1987 米子市教育委員会
尾高浅山遺跡		四隅突出墓	未調査	後期初	甕　器台　鉄刀？	集落離反	未	1		—		米子市文化財ガイド2 1998 米子市教育委員会
		円形墳丘墓？	未調査	不明	—		未	1	群在	—		
		方形墳丘墓	土壙（木棺墓）	後期中	甕　高坏		未＋1	4		—	段状配置	
日下古墳群		四隅突出墓	土壙（木棺墓）	後期中	壺　甕　器台	集落離反	5	1	単独	統一		日下古墳群 1992 米子市教育委員会
		木棺墓群	土壙（木棺墓）	中期末	甕		31	—	群在	統一	標石　二段堀方	
		集石土壙	土壙墓？	中期初	壺　甕		2	—	単独	—	不定形　礫集石	
石州府第１遺跡		土器棺墓	土壙（土器棺墓）	中期後	甕　台付壺　高坏	集落周辺	1	—	単独	—	上部礫積	石州府遺跡群Ⅰ 1983 米子市教育委員会
日野川中流域												
貝田原遺跡		土壙墓	土壙墓	中期後	壺　甕	集落周辺	1	—	散在	—		久古第３・貝田原・林ケ原遺跡 1984 鳥取県教育文化財団
林ケ原遺跡		木棺墓	土壙（木棺墓）	中期後	壺　甕		4	—	散在		標石 二段堀方	
		土壙墓	土壙墓	中期後	甕　高坏		2					
岸本遺跡		木棺墓	土壙（木棺墓）	中期後	土器底部	集落周辺	1	—	散在	—	二段堀方	岸本遺跡報告書 1984 岸本町教育委員会
真野ブヤ原遺跡		土壙墓	土壙墓	中期後	甕　高坏　台付壺 無頭壺　石鏃	集落周辺	2	—	散在	—		真野ブヤ原遺跡 2002 岸本町教育委員会
父原遺跡		四隅突出墓	土壙（木棺墓）	後期末		集落離反		3	群在			日本考古学年報４８
下山南通遺跡		土壙墓	土壙墓	中期中	壺　甕　高坏 紡錘車　砥石	集落周辺	1	—	散在	—	標石	下山南通遺跡 1986 鳥取県教育文化財団
上中ノ原遺跡		土壙（木棺墓）	土壙（木棺墓）	中期中	—	集落周辺	1	—	散在	—		上中ノ原井後草里遺跡 1982 溝口町教育委員会
神原遺跡		土壙・木棺墓	土壙（木棺墓）	中期後	壺 甕 石鏃	集落周辺	4	—	散在	—		神原遺跡 1979 溝口町教育委員会
加茂川・中海地域												
吉谷上ノ原山遺跡		木棺墓群	土壙（木棺墓）	後期末	ガラス小玉・管玉	集落内	10	—	群在	統一?		吉谷上ノ原山遺跡 1992 米子市教育委員会
吉谷中馬場山遺跡	5区	木棺墓群	土壙（木棺墓）	後期中後	—	集落離反	2	—	散在	統一?		吉谷中馬場山遺跡 2003 鳥取県教育文化財団
奥谷堀越谷遺跡		土壙墓	石蓋土壙墓	中期後	—	集落周辺	3	—	散在	—		奥谷堀越谷遺跡 1992 米子市教育委員会
東宗像遺跡		石蓋土壙墓	石蓋土壙墓	中期後	壺　甕	集落周辺	1	—	散在	—		東宗像遺跡 1985 鳥取県教育文化財団
		土器棺墓	土壙（土器棺墓）	中期後	甕		1					
除田第６遺跡		木棺墓群	土壙（木棺墓）	後期後～	—	集落周辺	20	—	群在	統一?	置石　二段堀方	除田 1984　米子市教育委員会
長者原台地地域												
青木遺跡	D地区	周溝墓？	土壙（木棺墓）？	中期後	壺　甕片	集落周辺	2	—	単独	—		青木遺跡報告Ⅰ～Ⅲ 1976・1977・1978 青木遺跡調査団
		土器棺墓	土壙（土器棺墓）	中期中	甕		1	—	散在	—		
	H地区	土壙?木棺墓		後期後	壺　甕片		4	—	散在		二段堀方	
		土壙墓？	土壙	中期後	壺　甕片		1	—	散在	—		
		土器棺墓	土壙（土器棺墓）	中期後	甕		1	—	散在	—		
	J地区	土壙墓	土壙	中期後	大型壺　壺　甕　土錘	集落内	6	—	散在	—	隅丸長方形	
	J地区南	土壙墓群	土壙（木棺墓）	後期末	土器片	集落周辺	13	—	群在	統一		
別所新田遺跡		木棺墓群	土壙（木棺墓）	前期	土器片	集落離反	25	—	群在	不統一		諏訪遺跡群Ⅱ 1982 米子市教育委員会
小松谷川流域												
宮前遺跡		木棺墓群	土壙（木棺墓）	中期中～後	甕　壺　高坏	集落周辺	38	—	群在	統一	３支群	宮前遺跡 1979 会見町教育委員会
朝金小チヤ遺跡		四隅突出墓？	土壙（木棺墓）	後期後	甕　壺　器台　高坏　注口	集落離反		2	群在	統一	置石　二段堀方	朝金小チヤ遺跡 1995 会見町教育委員会
			石蓋土壙墓	後期後	土器片		1	—	散在	—		
越敷山遺跡群		土壙墓	土壙墓（木棺墓）	中期中～後	甕　壺	集落周辺	18	—	散在	不統一		越敷山遺跡群 1944 会見町教育委員会
田住桶川遺跡		木棺墓群	土壙（木棺墓）	後期前～中	甕	集落離反	14	—	群在	統一	吉備系土器あり	田住桶川遺跡 1987 鳥取県教育文化財団
法勝寺川中流域												
境矢石遺跡	2区	土壙墓	土壙墓	前期末～中期	土器片	集落離反	2	—	群在	不統一	標石	
		溝状土壙群	土壙墓？		土器片		2	—		—		
	3区	木棺墓群	土壙（木棺墓）	前期末～中期	土器片		18	—		不統一	標石？	
		溝状土壙群			壺　甕		16	—		列状配置	石列？	
	6区	木棺墓群	土壙（木棺墓）	前期末～中期	小玉・管玉・石鏃		33	—		不統一		
		弧状溝状土壙	土壙墓？		甕		15	—		—	石列？	
	1区	木棺墓群	土壙（木棺墓）	前期	土器片	集落離反	5	—	群在	不統一		
	5区	木棺墓群	土壙（木棺墓）	前期	壺　甕　管玉状石製品		36	—		不統一	標石？	
			石囲墓	前期	—		1	—				
清水谷遺跡		土壙墓	土壙墓	中期中～後	壺　石鏃	集落周辺	3	—	散在	不統一	標石	清水谷遺跡 1992 西伯町教育委員会

第17表　境矢石遺跡弥生時代墳墓関係遺構一覧

区名	遺構名	種別	時期	棺長軸	短軸	高・深	棺分類	遺物（埋土を含む）	備考（平面形・標石・裏込など）
				掘方長	短軸	高・深			
1区	SK1	土壙(木棺墓)		—	—	—	a		隅丸長方形
				157+	95+	11			
	SK2	土壙(木棺墓)	前期	125	30	26	Ⅱa	細片1	隅丸長方形
				157	80	12			
	SK3	土壙(木棺墓)		—	—	—	a		隅丸方形
				95+	93	24			
	SK4	土壙(木棺墓)	前期	—	—	—	a	微細片3	隅丸長方形
				123+	86+	16			
	SK5	土壙墓?		—	—	—	a		長楕円形
				157+	122	10			
2区	SK2	土壙墓	前期	—	—	—	a	突帯文　壺2 細片11	楕円形　標石
				150	77	49			
	SK3	土壙墓		—	—	—	a	小片	長方形　2/3欠
				132+	95	12			
	SK5	不整形土壙	前期	343	242	38	—	突帯文　壺2 甕3 底部1小片39 中期甕小片14 底部2	不整楕円形
	SK6	溝状土壙	中期	291	125	86	—	甕1　石器2	隅丸長方形 床面土器は中期
3区	SK1	土壙(木棺墓)	中期初	—	—	—	a	甕1　石器2	隅丸方形
				184	117	30			
	SK7	土壙(木棺墓)		194	72	16	—	なし	隅丸長方形
	SK32	木棺墓	前期末	140	70	25	Ⅱb	壺2 小片17 細片10	長方形
				245	79+	87			
	SK11	土壙(木棺墓)	前期末～中期初	—	—	—	a	壺6　甕7 底部2 小片52	隅丸長方形
				329	137	55			
	SK12	土壙墓?		—	—	—	—	壺2 小片17	隅丸方形
				60	53	15			
	SK14	土壙(木棺墓)		—	—	—	a	なし	隅丸長方形
				120	82	20			
	SK15	土壙(木棺墓)	前期末～	—	—	—	a	小片3	隅丸方形
				230	131	32			
	SK16	土壙(木棺墓)	前期末～	—	—	—	a	小片8	隅丸長方形
				190+	90	29			
	SK17	土壙(木棺墓)	前期末	150+	45	—	a	小片15	隅丸長方形
				191	67	31			
	SK19	木棺墓		125	60	—	Ⅰa	細片9	長方形
				174	90	30			
	SK20	木棺墓		145	60	—	Ⅰa	なし	長方形
				174	72	53			
	SK21	木棺墓		95	35	—	Ⅰa	なし	長方形
				110	62	22			
	SK22	木棺墓		100	40	—	Ⅰa	なし	長方形 SK37に貼床し築造
				160	72	54			
	SK23	木棺墓		150	55	—	Ⅰa	細片1	長方形 礫(標石?)
				200	90	37			
	SK26	木棺墓		86+	55	—	Ⅱa	細片7	長方形 SK25に貼床 礫(標石?)
				168+	78	33			
	SK28	木棺墓		—	50	—	—	なし	小口痕のみ残存
				—	—	—			
	SK30	土壙(木棺墓)		—	—	—	a	なし	長方形
				90+	60	10			
	SK43	木棺墓		110	50	—	Ⅱa	なし	長方形
				156	68	18			
	SK57	土壙(木棺墓)		203	130	22	—	なし	隅丸長方形
	SK59	土壙(木棺墓)	前期	—	—	—	a	突帯文　壺 甕　小片1 細片5	隅丸長方形
				190	107	29			
	溝状土壙・不整形土壙								
	SD4	溝状土壙	前期末～	520	260	90	—	甕　底部 敲石	長楕円形
	SK3	土壙		150	83	35	—	なし	長楕円形 角礫
	SK64	土壙		140	85	28	—	なし	楕円形
	SK9	不整形土壙		330	300	70	—		楕円形
	SD11-3	溝状土壙	前期末～	906	276	96	—	壺　甕	埋土内に土器
	SK33	土壙	中期中	175	113	40	—	完形壺1	長楕円形
	SK34	土壙	中期中	150	116	50	—	完形壺2	楕円形 角礫
	SK46	土壙		180+	130	25	—	なし	長楕円形
	SD11-2	溝状土壙	前期末～	840	344	148	—	壺　甕 石鏃　土錘 砥石	上層に後期前葉甕

区名	遺構名	種別	時期	棺長軸	短軸	高・深	棺分類	遺物（埋土を含む）	備考（平面形・標石・裏込など）
				掘方長	短軸	高・深			
	SK47	土壙	中期中	210	94	20	—	完形壺1	隅丸長方形
	SK48	土壙		175	105	24	—	なし	長楕円形
	SK49	土壙	中期中	240	113	20	—	なし	隅丸長方形
	SK50	土壙	中期中	220+	133+	25	—	中期土器 砥石	長楕円形
	SK51	土壙		141	106	70	—	なし	楕円形
	SK56	土壙	中期中	214+	103+	15	—	完形壺1	不整円形
	SD11-1	不整形土壙	前期末～	320	290	180	—	突帯文　壺 甕　蓋	楕円形で深い
	SK54	土壙		120	76	15	—	なし	不整楕円形
	SK55	土壙		300	251	156	—	なし	楕円形
	SD12	溝状土壙	前期末～	656	138	50	—	突帯文壺 甕　中期壺	細長溝状
	SK27	土壙		246	87	25	—	小片2	長楕円形
	SK37	不整形土壙		163	140	95	—	なし	楕円形
	SD13	溝状土壙	前期末～	385	141	50	—	底部	細長溝状
	SK41	土壙		200	94	19	—	なし	長楕円形
	SK63	土壙		271	132	50	—	なし	長楕円形
	SK42	不整形土壙	中期初	117	55	60	—	完形小壺1	抉り込状土壙
	SD14	溝状土壙	前期末～	630	80	10	—	甕　石匙	細長溝状
	SK24	土壙		190	106	60	—	なし	隅丸方形
	SK25	土壙	中期初	155	103	45	—	蓋　甕 細片4	楕円形
	SD15	溝状土壙	前期末～	406	167	30	—	突帯文　甕	長楕円形
	SK29	土壙		150	94	40	—	突帯文系 細片6	楕円形
	SD16	溝状土壙	前期末～	954	158	40	—	突帯文系19 壺7　甕3 底部5 細片24 中期甕細片17	細長溝状
	SK36	土壙		117	75	25	—	なし	楕円形
	SK44	土壙	前期末～	213	86	70	—	突帯文系4 壺2 小形甕 底部2　小片8　細片14	角礫(標石)?
	SK45	土壙	前期末～	220	119	50	—	突帯文系4 底部2　小片20　細片39	長楕円形
	SD17	不整形土壙	前期末～	201	160	39	—	突帯文系1 壺2　甕2 細片3　中期甕細片20	長楕円形
	SD18	溝状土壙	前期末～	271	173	45	—	突帯文系3 底部3 細片5 中期甕細片5	長楕円形
	SD19	溝状土壙	前期末～	450	190	105	—	突帯文系26 壺13　甕1 細片91 中期甕細片10	細長溝状 角礫群(標石)?
	SD20	不整形土壙	前期末～	284	164	89	—	突帯文系13 壺3　甕　底部3　細片57 後期前葉甕3	長楕円形
	SK62	土壙		281	156	54	—	甕1	楕円形　角礫2個
6区	SK15	木棺墓		115	40		Ⅱa	なし	長方形
				155	84	35			
	SK16	木棺墓		125	30+		Ⅰa	突帯文系1	長方形
				160	50+	40			
	SK17	木棺墓		175	45		a	突帯文系1	長方形
				230	105	52			
	SK18	木棺墓		150	50		Ⅱa	突帯文系1	長方形
				195	85	38			
	SK19	木棺墓		170	65		Ⅰa	小片2	長方形　裏込石
				225	115	40			
	SK21	木棺墓		50	30		Ⅱa	なし	隅丸長方形 子供用
				75	48	20			
	SK32	木棺墓	中期初	165	75		Ⅱb	壺	長方形　二段堀方　標石?
				213	107	82			
	SK33	木棺墓		140	60		a	なし	
				240	147	50			
	SK34	木棺墓		135	50		Ⅰa	なし	長方形　二段堀方
				175	75	54			
	SK35	木棺墓		140	50		Ⅱa	なし	長方形
				190	105	20			

区名	遺構名	種　別	時期	棺長軸 掘方長	短軸 短軸	高・深 高・深	棺分類	遺　物 (埋土を含む)	備　考 (平面形・標石・裏込など)
	SK36-1	木棺墓?	後期				—	甕	
				281	201	66			
	SK37	木棺墓	前期末～	119+	35		Ⅱa	小玉1 石鏃12	長方形
				130+	75	25			
	SK38	土壙(木棺墓)		100	70	—	a	細片1	長方形
				150	105	35			
	SK39	木棺墓		120	50		Ⅱa	なし	長方形　1/2欠
				145+	60	5			
	SK40	木棺墓		59+	40		Ⅱa	なし	長方形
				80+	70	10			
	SK41	土壙(木棺墓)		70	25	—	a	なし	長方形
				100	45	10			
	SK42	土壙(木棺墓)	前期末～	—	—	—	a	石鏃1	長方形 子供用
				82	50	10			
	SK43	木棺墓		125	35	—	Ⅱa	なし	長方形
				160	75	35			
	SK47	木棺墓		110	40	—	Ⅱa	なし	長方形
				150	65	34			
	SK49	木棺墓		120	45	—	Ⅱa	なし	長方形
				155	63	42			
	SK53	木棺墓		115	35	—	a	なし	長方形
				142	68	35			
	SK55	木棺墓		120	50	—	Ⅱa	なし	長方形
				172	73	22			
	SK56	木棺墓		40+	45	—	Ⅱa	なし	長方形 一部のみ残存
				70+	60	20			
	SK57	土壙(木棺墓)		80	35	—	a	なし	長方形 子供用
				120	54	20			
	SK58	木棺墓		90	30	—	a	なし	長方形
				114	49	33			
	SK59	土壙(木棺墓)		—	—	—	a	細片1	長方形
				95	63	35			
	SK60	木棺墓		135	60	—	Ⅱa	なし	小口側板痕跡のみ
				165+	70+	5			
	SK62	木棺墓	前期末～	55	40	—	Ⅱa	管玉21	長方形 子供用
				92	65	20			
	SK63	土壙墓					—	なし	長楕円形
				213	78	10			
	SK64	木棺墓		130	80		Ⅱa	なし	長方形
				170	105	50			
	SK65	木棺墓	中期初	75	30+		Ⅱa	甕	長方形 子供用
				120	50+	50			
	SK67	土壙(木棺墓)		—	—	—	a	なし	長方形 子供用
				65	34	10			
	SK68	木棺墓		115	50	—	Ⅱa	なし	長方形
				132	75	15			
	弧状溝・不整形土壙								
	SK36	不整形土壙	中期初	—	—	—		壺4	
				260	150	100			
	SD18		中期初						礫群
	SD19			270	52	25		なし	
	SD20	弧状溝		255	39	28		小片1	抉り込み部あり
	SD21	弧状溝		229	48	14		なし	断面U字状
	SD22	弧状溝		375+	100	38		なし	断面U字状
	SD24	弧状溝		610	96	39		壺　細片24	断面U字状
	SD25	弧状溝		1120	93	53		なし	断面U字状
	SD26	弧状溝		770	150	120		細片1	一部土壙状
	SD27	弧状溝		297	109	105		なし	断面U字状
	SD28	溝状		480+	144	30		なし	断面U字状
	SD29	溝状		318	90	10		なし	断面U字状
	SD30	不整形土壙	中期初	340	260	80+		壺　小片1	不整円形
	SD31	弧状溝		570	171	54		なし	断面U字状
	SD34	溝状		330	90	15		なし	断面U字状
	SD35	弧状溝		392	47	13		なし	断面U字状
	SD36	弧状溝	中期初	405	52	10		壺	断面U字状
	SK36-2	不整形土壙	中期初	281	201	66		壺4	長楕円形
5区	SK2	木棺墓	前期	130	50	30	Ⅰa	甕	長方形　裏込石
				175	87	32		細片10	
	SK3	木棺墓	—	140	50	10	Ⅰa	なし	長方形　1/2欠
				172+	86	9			
	SK4	木棺墓	前期	140	50	15	Ⅰa	突帯文 細片3	長方形 水銀朱
				170	92				

区名	遺構名	種　別	時期	棺長軸 掘方長	短軸 短軸	高・深 高・深	棺分類	遺　物 (埋土を含む)	備　考 (平面形・標石・裏込など)
	SK5	木棺墓	—	135	50	15	Ⅰa	なし	長方形　2/3欠
				207+	105	4			
	SK6	木棺墓	—	120	35	4	Ⅰa	なし	長方形　1/2欠
				—	—	—			
	SK7	木棺墓	—	120	55+	—	Ⅰ	なし	長方形 小口痕のみ残存
				—	—	—			
	SK8	石囲墓	前期	190	40		a	細片1	長方形　石囲い
				272	142	15			
	SK9	木棺墓	—	90	30		Ⅰa	なし	長方形　裏込石 子供用
				115	56	25			
	SK10	木棺墓	前期	160	65		Ⅰa	細片10	長方形
				210	116	41			
	SK11	木棺墓	前期	115	60		Ⅰa	細片5	長方形　標石?
				187	117	53			
	SK12	土壙(木棺墓)	前期	172	83		a	底部、敲石 削器 細片12	隅丸長方形 二段堀方
				290	174	51			
	SK13	木棺墓	前期	103+	45		—	底部3 細片27	長方形　1/2欠
				145+	70	17			
	SK14	木棺墓		140	45		Ⅰa	石鏃1 細片3	長方形　裏込石
				181	107	48			
	SK15	土壙(木棺墓)	前期	—	—	—	a	突帯文系片	隅丸長方形 子供用
				125	86	14			
	SK16	木棺墓	前期	115	40		Ⅱa	甕 細片11	長方形　裏込石
				180	96	48			
	SK17	木棺墓	前期	120	50		Ⅰa	石鏃1 細片6	長方形　裏込石
				163	104	25			
	SK18	木棺墓	—	75	50		Ⅰa	なし	長方形　裏込石 子供用
				110	60	28			
	SK21	木棺墓	前期	132+	45		Ⅲa	細片11	長方形　1/3欠
				180	75	20			
	SK25	土壙(木棺墓)	—	—	—	—	a	なし	長方形　1/2欠
				90+	76	5			
	SK26	木棺墓	前期	115	45		Ⅰa	底部 細片13	長方形　標石?
				164	95	37			
	SK27	木棺墓	—	160	50		Ⅱa	微細片	長方形
				230	134	28			
	SK28	木棺墓	前期	105	55		Ⅱa	細片9	長方形　1/3欠 SK31と切合い
				150	90	35			
	SK29	木棺墓	前期	105	55		Ⅰa	突帯文 底部 細片15	長方形　裏込石 標石?
				155	80	30			
	SK30	木棺墓	前期	135	50		Ⅱa	突帯文4 底部 細片5　壺	長方形
				170	71	21			
	SK32	土壙(木棺墓)	前期	75	40		a	細片4	長方形 子供用か
				110	71	20			
	SK33	木棺墓	前期	50	30		Ⅰa	細片1	長方形　裏込石 子供用
				85	56	20			
	SK34	木棺墓	—	120	45		a	細片3	長方形　裏込石
				155	70	18			
	SK35	木棺墓	—	50	40		Ⅱa	なし	長方形 子供用
				85	60	14			
	SK36	土壙(木棺墓)	前期	85	55		a	甕　壺 管玉状石製品5 細片23	隅丸長方形 子供用
				125	95	30			
	SK37	木棺墓	—	60	40		Ⅱa	なし	長方形 子供用
				102	60	30			
	SK38	木棺墓	—	180	40	—	Ⅰa	なし	長方形　一部欠
				205	94				
	SK39	木棺墓	前期	121+	50	15	Ⅰa	細片7	長方形　1/2欠
				121+	97	12			
	SK40	土壙(木棺墓)	—	45	25		a	なし	長方形 子供用
				85	50	18			
	SK41	木棺墓	前期	155	40		Ⅱa	突帯文　底部 細片13	長方形
				195	78	30			
	SK42	木棺墓	—	45	20		Ⅰa	なし	長方形 子供用
				60	42	15			
	SK43	木棺墓	—	70	30	—	—	なし	小口痕のみ残存 子供用
				—	—	—			
	SK44	土壙(木棺墓)	—	70	30		a	なし	裏込石 子供用
				95	57	10			

第２節　境矢石遺跡出土の石器について

１．はじめに

境矢石遺跡では、総数972点の石器が出土した。本節では、当遺跡出土の石器群の器種・石材の組成について整理し、その様相を述べるとともに、弥生時代前期後葉から中期中葉に帰属すると考えられる石鏃について検討し、当該期における石器製作のあり方について考察したい。

２．石器の組成

まず、器種別の組成であるが、本遺跡で出土した石器製品類の総数972点のうち、剥片石器が510点（52.5％）、礫石器が461点（47.5％）と剥片石器の方がやや比率が高い。また、定形器種552点のうち、砥石が197点（35.7％）、磨石・敲石類が116点（21.0％）、台石が85点（15.4％）とこの３種で72.1％を占める。

剥片石器の定形器種には、石鏃（未製品を含む）58点、楔形石器16点、スクレイパー８点、石錐４点、石匙１点、尖頭器１点があり、このうち、石鏃は定形器種全体では10.6％と１割程度であるが、剥片石器の中では65.9％と６割強を占める。

礫石器には、砥石197点、磨石・敲石類112点、台石85点、石鍬30点、磨製石斧18点、石包丁６点、石錘５点、石棒１点があり、このうち、砥石が43.3％、磨石・敲石類が24.6％、台石が18.7％で、これら３種類の石器が86.6％を占める。

これら３種類の石器の石材をみてみると、砥石は安山岩類30点（デイサイト26点、安山岩４点：15.2％）、凝灰岩類76点（凝灰角礫岩25点、凝灰岩51点：38.6％）、花崗岩27点（13.7％）と凝灰岩類が優勢である。

磨石・敲石類は安山岩類76点（デイサイト70点、角閃石安山岩６点：64.9％）、凝灰岩類14点（凝灰角礫岩４点、凝灰岩10点：12.5％）、花崗岩12点（10.7％）と安山岩類が優勢である。

台石は安山岩類17点（デイサイト14点、角閃石安山岩１点、安山岩２点：20.0％）、凝灰岩類64点（凝灰角礫岩54点、凝灰岩10点：75.3％）、花崗岩３点（3.5％）と凝灰岩類が優勢である。

法勝寺川中流域の地質を概観すると、左岸では凝灰岩が卓越し、右岸では流紋岩が卓越するが、その丘陵裾部には凝灰岩が認められる。安山岩は左岸の丘陵の標高の高い部分に認められ、花崗岩は朝鍋川流域に認められる。いずれにしても近接地に主な原石採集地があり、石器の用途により素材を選別し、採集利用していたと考えられる。

次に、石材の組成であるが、本遺跡で出土した剥片石器の総数508点のうち、黒曜石が416点(81.9％)、サヌカイトが33点（6.5％）を占める。その他の石材は59点（11.6％）で、このうち、玉髄が44点を占める。このことから、本遺跡では剥片石器の石材は黒曜石が主として用いられ、サヌカイトは少数で、玉髄が一定量認められるのが特徴である。

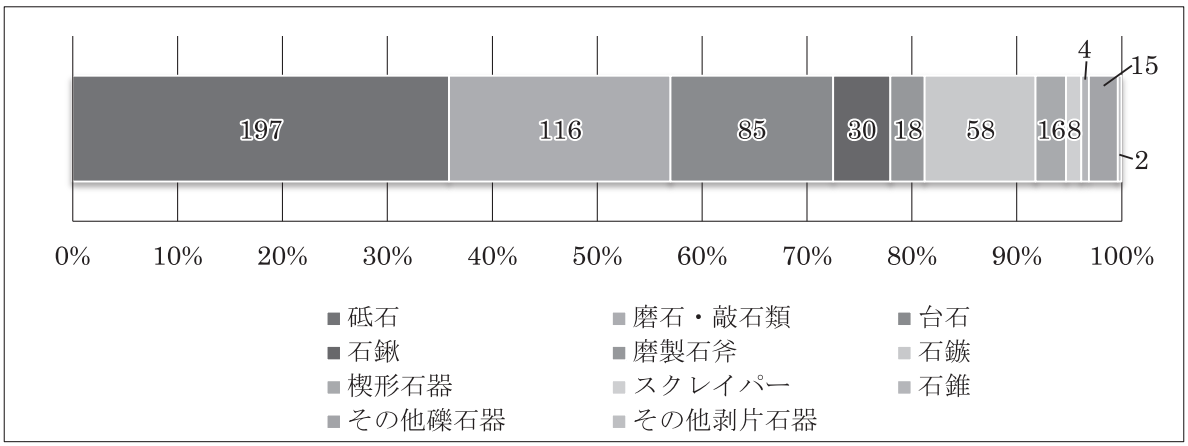
さらに、石材毎に器種の組成を見てみると、まず、黒曜石製の石器であるが、総数416点出土しており、このうち、剥片と石核が360点（86.5％）を占めていることから、当遺跡周辺で黒曜石を用いた石器製作が行われていたのは明らかである。また、加工痕のある剥片が35点と剥片に対して一定の割合を有している。

定形器種では小型器種が卓越し、石鏃、楔形石器、スクレイパー、石錐があり、総数は56点である。

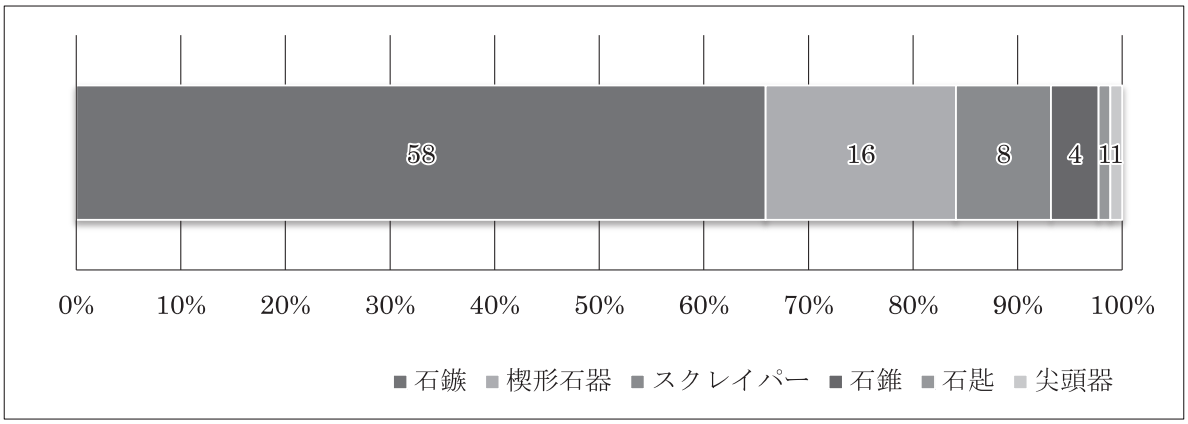
第18表　石器石材別組成表

石材	製品						剥片			砥石	台石	磨石	原石	磨製石斧	石鏃	磨石敲石	ハンマーストーン	敲石	台石砥石	台石磨石	台石凹石	磨石砥石	磨石凹石	石錘	石錘磨石	石錘敲石	砥石凹石	石庖丁	石棒	総数
	AH	Sc	Dr	PE	石匙	尖頭器	Fl	RF	石核																				
黒曜石	56						360																						
	31	8	3	14	0	0	317	35	8																				416
サヌカイト	30						3																						
	27	0	1	0	1	1	3	0	0																		1		34
石英	0						5																						
	0	0	0	0	0	0	5	0	0				3																8
水晶	0						6																						
	0	0	0	0	0	0	6	0	0																				6
玉髄	2						42																						
	0	0	0	2	0	0	33	5	4																				44
緑色凝灰岩	0						4			7																				
	0	0	0	0		0	4	0																					11
デイサイト										25	13	54			6	7	4	3	1		1			2	1		1			118
凝灰角礫岩										25	54	2				1				1										83
角閃石安山岩											1	3			1	3														8
安山岩										3	2			1	23							1					1			31
凝灰岩										51	10	10		1										1			1			74
閃緑岩										16		3		5			1									1				26
花崗岩										30	3	7		1		4	1													46
溶岩										6													1							7
玄武岩										3																				3
砂岩										11		2		3			1	1												18
泥岩										2																				2
珪岩										1		1																		2
軽石										6			7																	13
シルト岩										1																				1
蛇紋岩										1				1																2
結晶片岩														1																1
ハンレイ岩										1		1		2																4
頁岩										1																				1
片麻岩																													1	1
珪化木														1																1
粘板岩																											2			2
緑色片岩										3		1		2		1											1			8
流紋岩										1																				1
総計	58	8	4	16	1	1	368	40	12	194	83	84	10	18	30	16	7	4	1	1	1	1	1	3	1	1	1	6	1	972

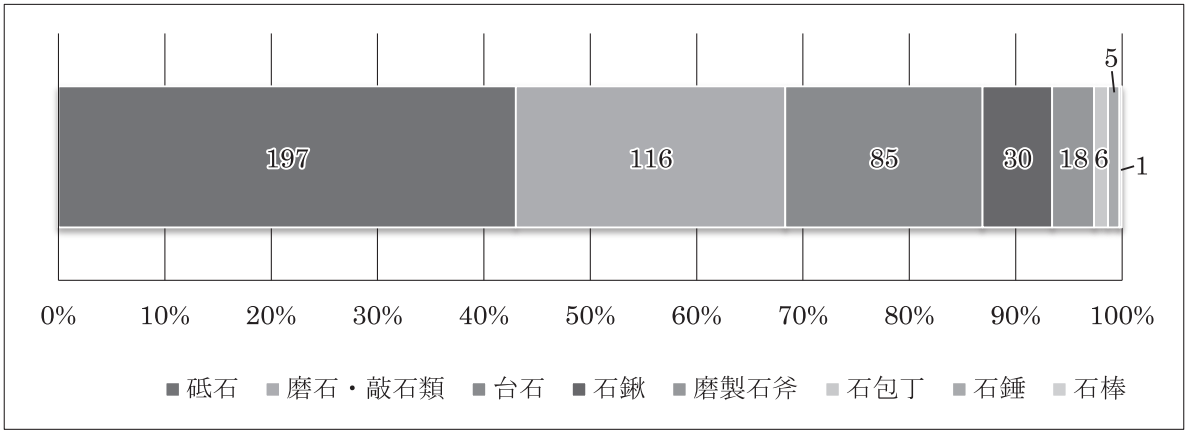
※AH：石鏃　Sc：スクレイパー　Dr：石錐　PE：楔形石器
RF：加工痕のある剥片　Flにはチップを含む



全体器種組成（製品）

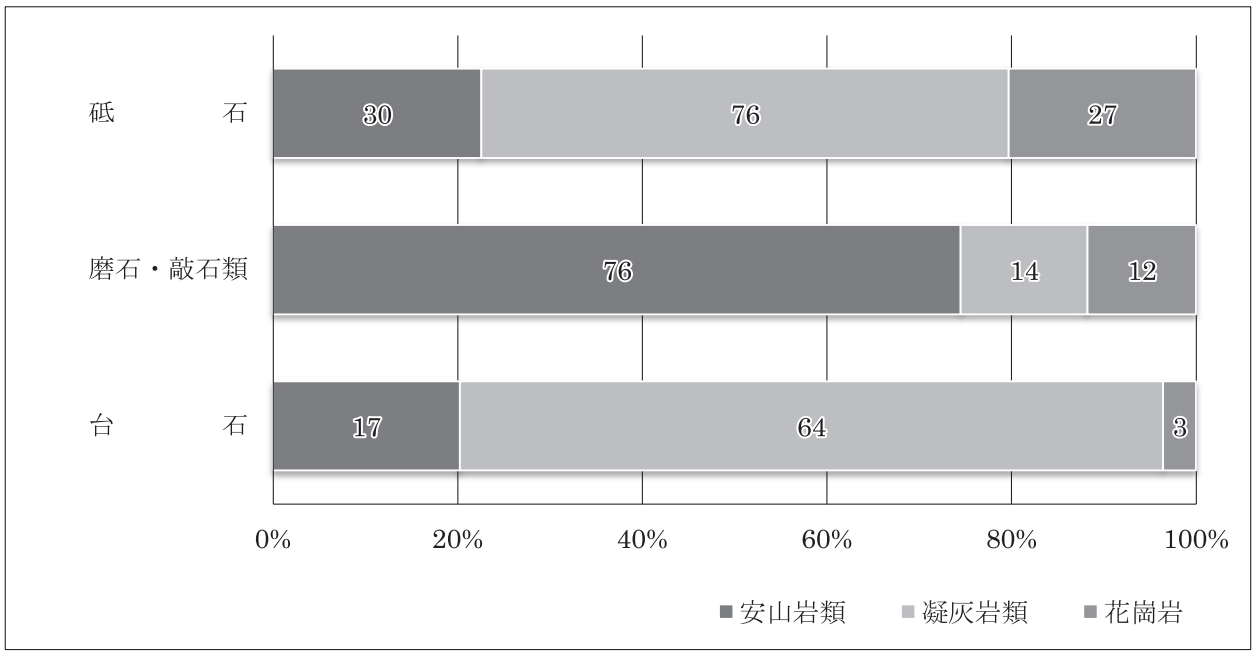


剥片石器器種組成（製品）

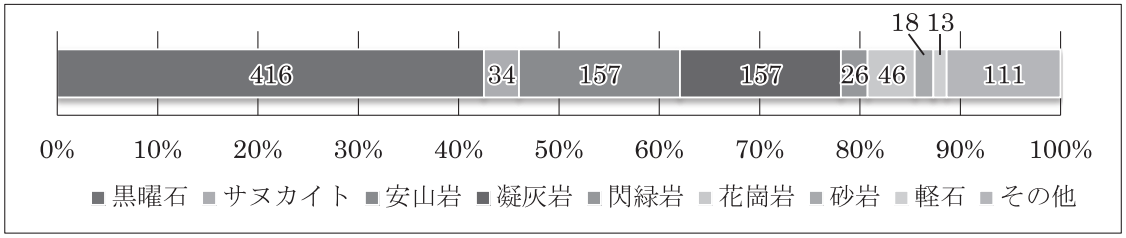


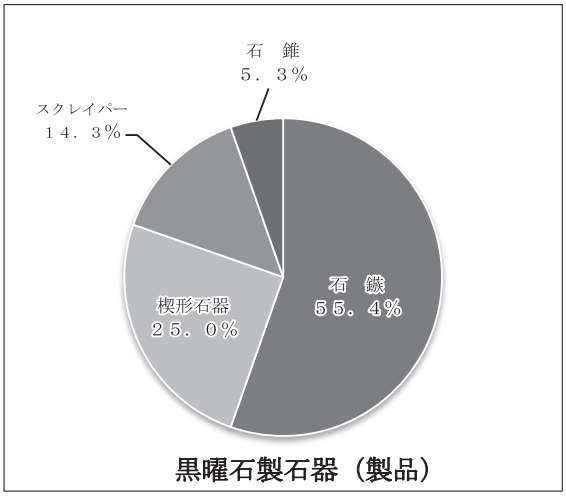
礫石器器種組成

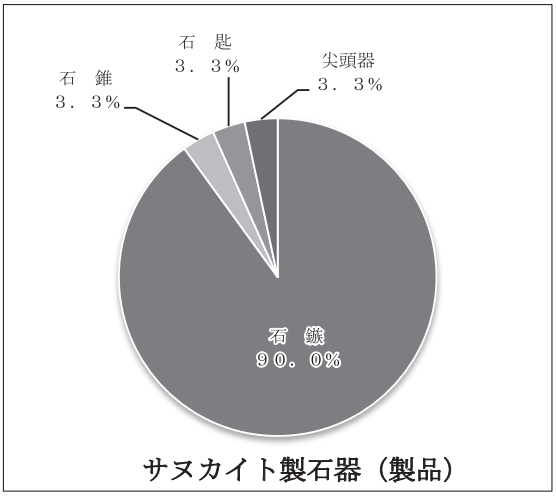
第751図　器種組成



第752図　砥石、磨石・敲石類、台石の石材組成







第753図　石材組成及び石材別器種組成

このうち、石鏃が未製品を含めると31点（55.4%）、楔形石器が14点（25.0%）と石鏃が５割強、楔形石器が２割強を占め、石鏃を主体としながら楔形石器も一定量製作している。

サヌカイト製の石器は、総数33点出土している。このうち、剥片が３点と少なく、石核も認められないことから、黒曜石製の石器とは異なり、そのほとんどが本遺跡で製作されたものではなく、他所

から製品そのものが本遺跡へ搬入された可能性がある。

定形器種では小型器種が卓越し、石鏃、石錐、石匙、尖頭器があり、総数は30点である。そのうち、石鏃が27点（90％）と石鏃に集中する傾向にある。

黒曜石とサヌカイト以外の剥片石器の石材は、59点が出土している。石材は石英、水晶、玉髄、緑色凝灰岩があり、製品としては玉髄製の楔形石器２点がある。また、残滓類である石核が４点、剥片が53点出土していることからも、黒曜石以外にも僅かではあるが、これらの石材を用いた石器製作が窺える。

３．清水川六反田遺跡出土の剥片石器との比較

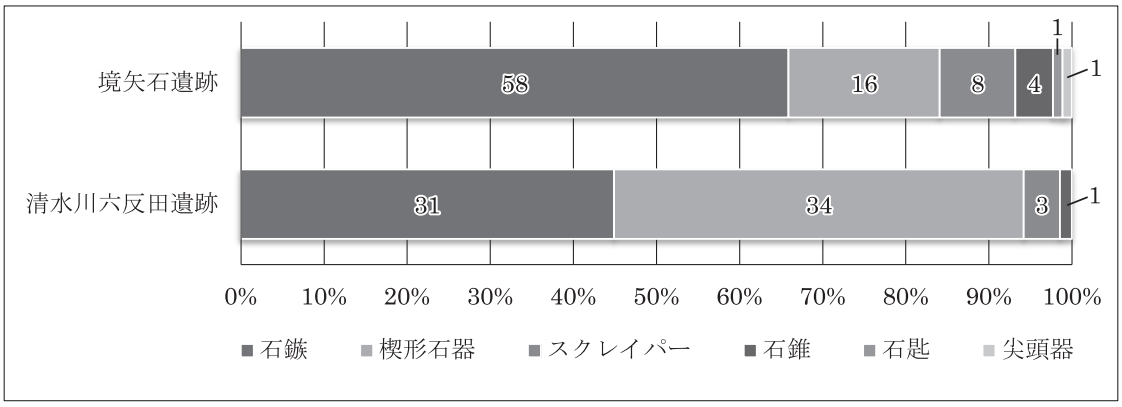
つづいて、本遺跡とほぼ同時期と考えられる清水川六反田遺跡から出土した剥片石器との比較、検討を行いたい。

清水川六反田遺跡は、本遺跡の南約2.2㎞の法勝寺川中流域の右岸に位置する。縄文時代～近世の遺構、遺物が検出されているが、弥生時代前期の包含層から石器がまとまって出土している。

まず、定形器種の組成であるが、境矢石遺跡では、石鏃が58点（65.9％）、楔形石器が16点（18.2％）、スクレイパーが８点（9.1％）、石錐が４点（4.5％）、石匙１点（1.1％）、尖頭器１点（1.1％）である。これに対して清水川六反田遺跡では石鏃（未製品を含む）が31点（44.9％）、楔形石器が34点（49.3％）、スクレイパーが３点（4.3％）、石錐が１点（1.4％）である。両遺跡とも同じような器種が認められるが、清水川六反田遺跡では楔形石器の比率が高く、約半数を占める。

次に、石材の組成であるが、本遺跡で出土した剥片石器の総数508点のうち、黒曜石が416点(81.9％)、サヌカイトが33点（6.5％）を占め、その他の石材は59点（11.6％）である。

一方、清水川六反田遺跡で出土した剥片石器の総数381点のうち、黒曜石が267点(70.1％)、サヌカイトが83点（21.8％）を占め、その他の石材は31点（8.1％）である。両遺跡とも黒曜石は似たような状況であるが、境矢石遺跡はサヌカイトの比率が低い。このことは、先述したように、境矢石遺跡では、サヌカイト製の石器の製品そのものが他から搬入されたことが反映していると考えられる。



剥片石器（製品）

第754図　境矢石遺跡と清水川六反田遺跡における剥片石器の器種組成

４．石鏃について

つづいて、剥片石器に占める割合の高い石鏃について検討を行いたい。なお、ここでは清水川六反田遺跡と福成大坪上遺跡から出土した石鏃も比較対象に加えたい。両遺跡は法勝寺川中流域の右岸に位置し、いずれも弥生時代前期に帰属する石器が出土している。

まず、各遺跡の石材の組成であるが、境矢石遺跡では、未製品も含めて58点の石鏃が出土し、その内訳は黒曜石製が31点（53.4％）、サヌカイト製が27点（46.6％）である。

清水川六反田遺跡では、未製品も含めて31点の石鏃が出土し、その内訳は黒曜石製が19点（61.3％）、サヌカイト製が12点（38.7％）である。

福成大坪上遺跡では、未製品も含めて35点の石鏃が出土し、その内訳は黒曜石製が25点（71.4％）、サヌカイト製が10点（28.6％）である。

石材の組成比率をみると、清水川六反田遺跡と福成大坪上遺跡では黒曜石が６～７割を占めるが、境矢石遺跡では黒曜石が５割強で、他遺跡と比べるとサヌカイト製の比率が高い。

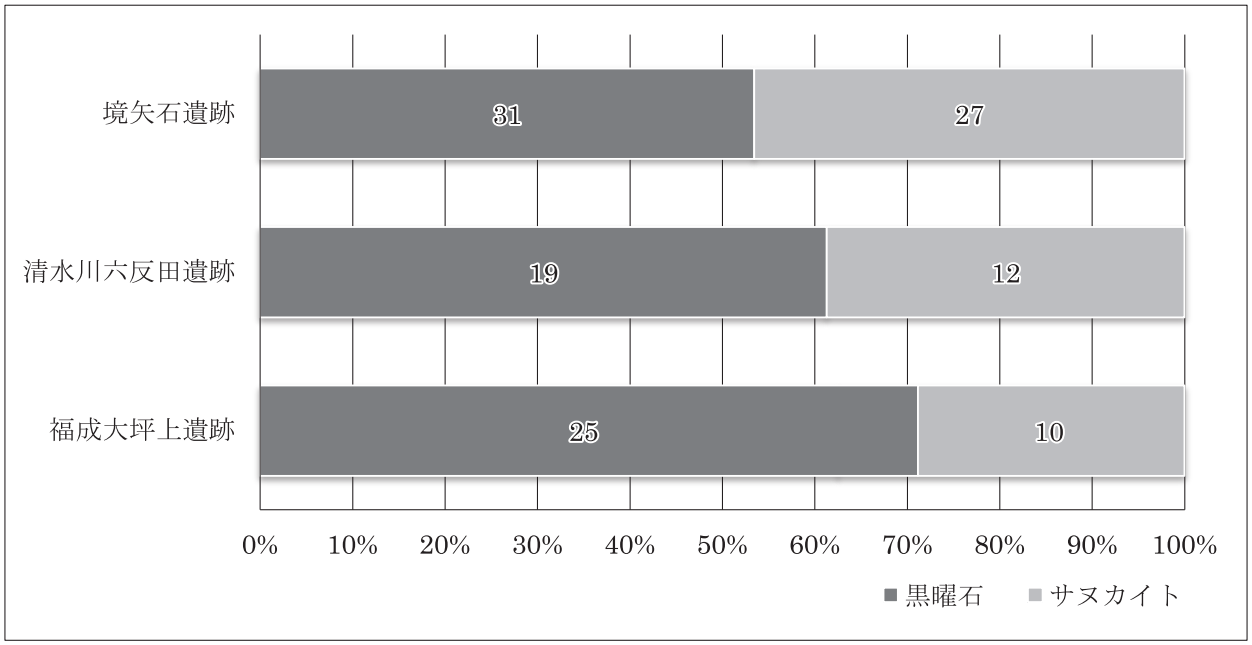
次に、石鏃の型式組成を比較してみたい。型式分類は、凹基式をⅠ類、凸基式をⅡ類、平基式をⅢ類とする。

境矢石遺跡では、Ⅰ類が42点（85.7％）、Ⅲ類が７点（14.3％）出土しているが、Ⅱ類は認められない。

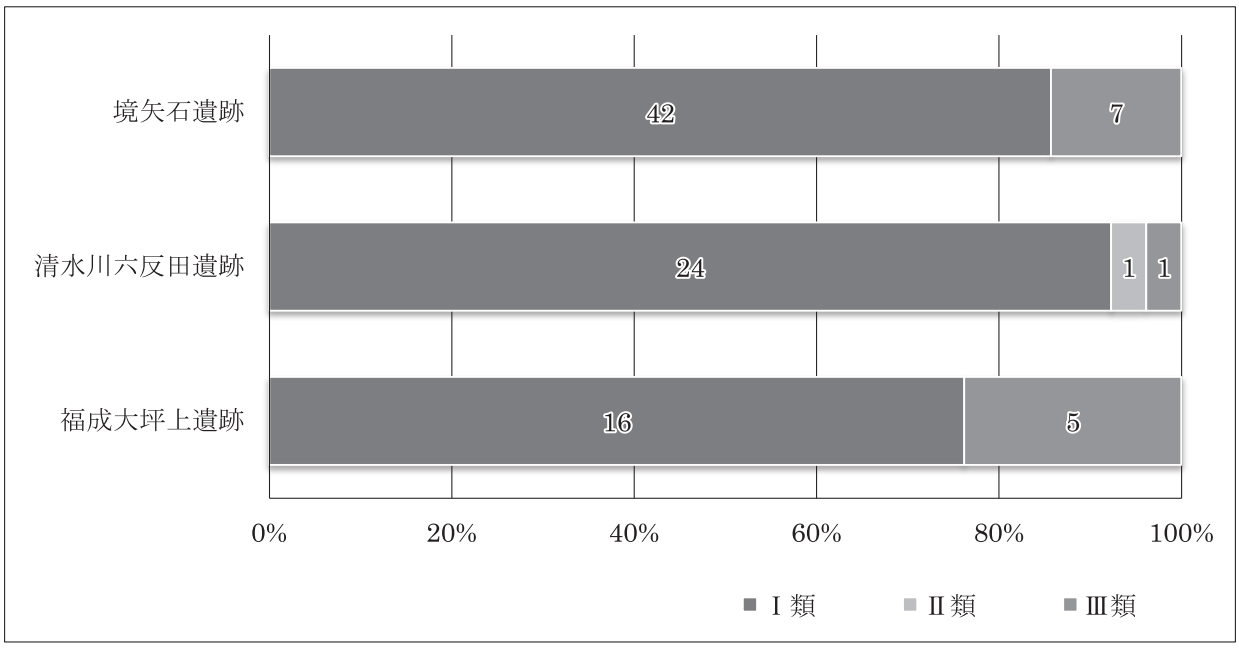
清水川六反田遺跡では、Ⅰ類が24点（92.3％）、Ⅱ類が１点（3.8％）、Ⅲ類が１点（3.8％）出土している。

福成大坪上遺跡では、Ⅰ類が16点（76.2％）、Ⅲ類が５点（23.8％）出土しているが、Ⅱ類は認められない。

いずれの遺跡もⅠ類の凹基式が主体であるが、清水川六反田遺跡では、Ⅲ類はほとんど認められない。また、福成大坪上遺跡では他遺跡よりもⅢ類の比率が高く、特にサヌカイト製の比較的大型の石鏃に認められるという傾向がある。



第755図　各遺跡における石鏃の石材組成



第756図　各遺跡における石鏃の型式組成

次に法量（長さ）を比較すると、境矢石遺跡では長さ1.0～3.1cm、清水川六反田遺跡では長さ1.1～2.9cmのものが認められ、長さについてはほぼ同じ状況が窺え、小型から大型のものが認められる。

これに対して福成大坪上遺跡では長さ1.6～2.8cmのものが認められるが、1.5cm以下の小型品は認められない。

次に、石材別に石鏃の長さに注目してみると、境矢石遺跡では、黒曜石製は長さ1.4～2.5cmのものが認められ、特に長さ2.0～2.2cmに集中する傾向にある。これに対して、サヌカイト製は長さ1.0～3.1cmのものが認められ、長さ1.0～1.3cm、長さ1.5～2.0cm、長さ2.4cm以上の３つに集中する傾向にある。このことから、大型品はサヌカイト製、中型品は黒曜石製とサヌカイト製、小型品はサヌカイト製と長さによって石材を選択している可能性がある。

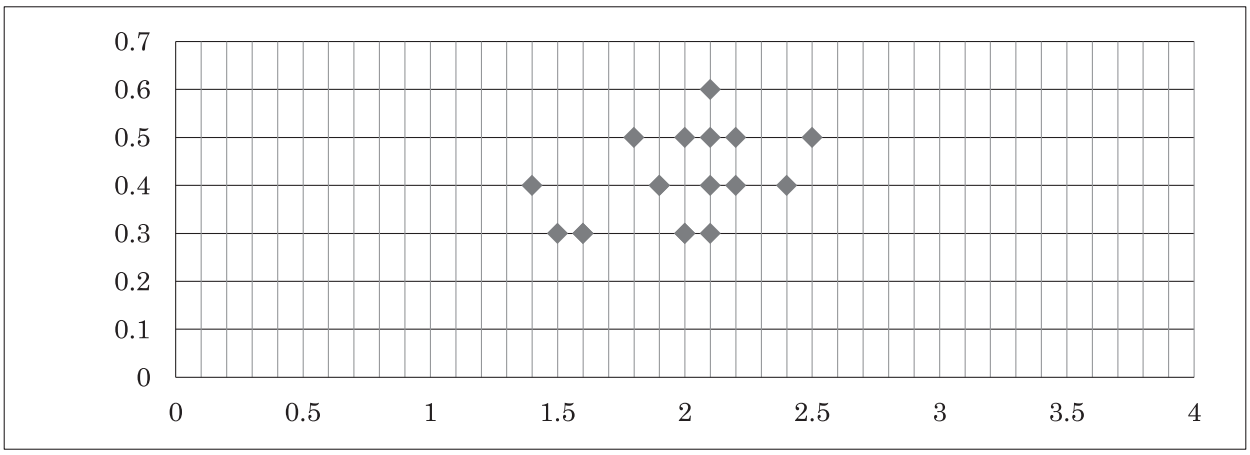
清水川六反田遺跡では、黒曜石製は長さ1.1～2.9cmのものが認められ、長さ1.1～1.3cm、長さ1.5～2.1cm、長さ2.3cm以上の３つに集中する傾向にあり、小型から大型のものまで認められる。これに対して、サヌカイト製は長さ1.7～2.3cmに集中し、小型品と大型品は認められない。

福成大坪上遺跡では、黒曜石製は長さ1.6～2.1cm、サヌカイト製は長さ2.3～2.8cmに集中しており、黒曜石製は中型品、サヌカイト製は大型品に特化される。

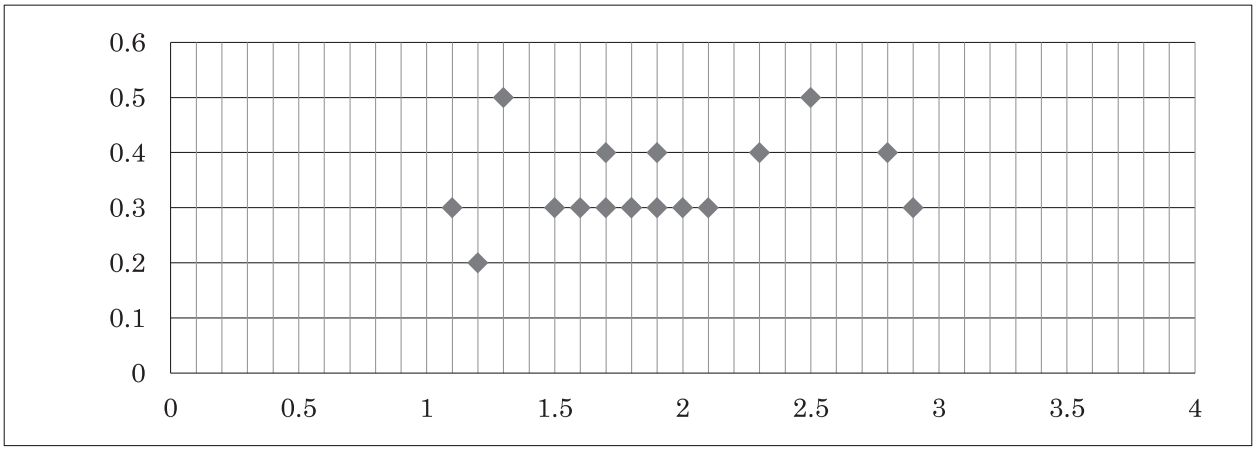
以上のように、石鏃の長さにより使用する石材を選別した可能性があり、その様相は各遺跡で異なる。当然時期差を考慮しなければならないが、このような様相の違いは、石材の入手の在り方、製作技術、使用目的等が反映していると考えられる。

つづいて、一括性の高い石鏃について検討したい。本遺跡の木棺墓６区SK37からは12点の石鏃が出土している。石材組成は黒曜石製が１点、サヌカイト製が11点で、型式は凹基式が７点（70％）、平基式が３点（30％）である。長さは1.3～2.5cmとばらつきがあるが、1.6～1.9cmに集中する傾向にある。

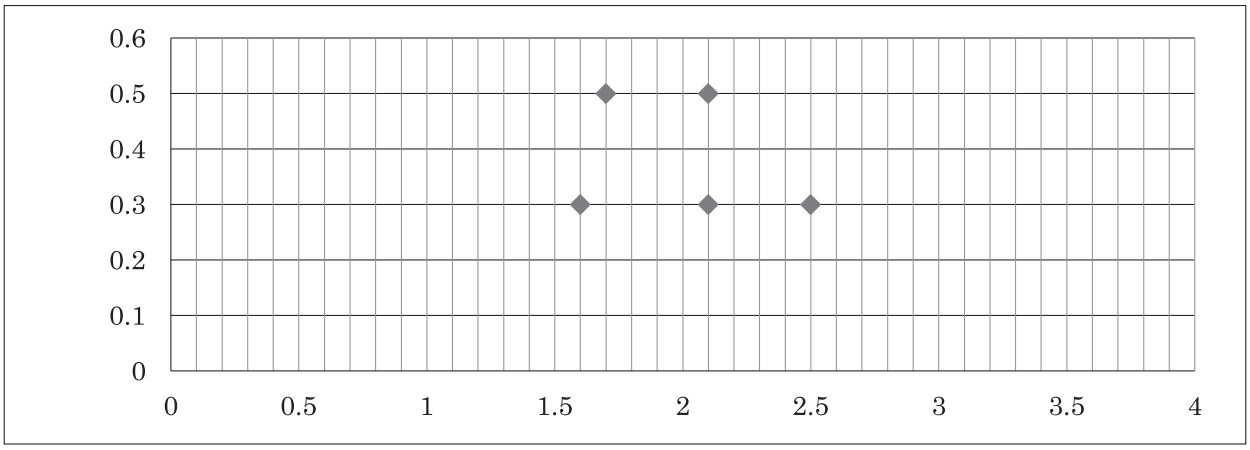
比較、検討資料として、時期がやや下るが、清水谷遺跡の弥生時代中期中葉～後期前葉に比定される土壙墓SK-22から出土した石鏃についてみてみたい。清水谷遺跡は本調査地の南西約1.4kmに所在し、



境矢石遺跡



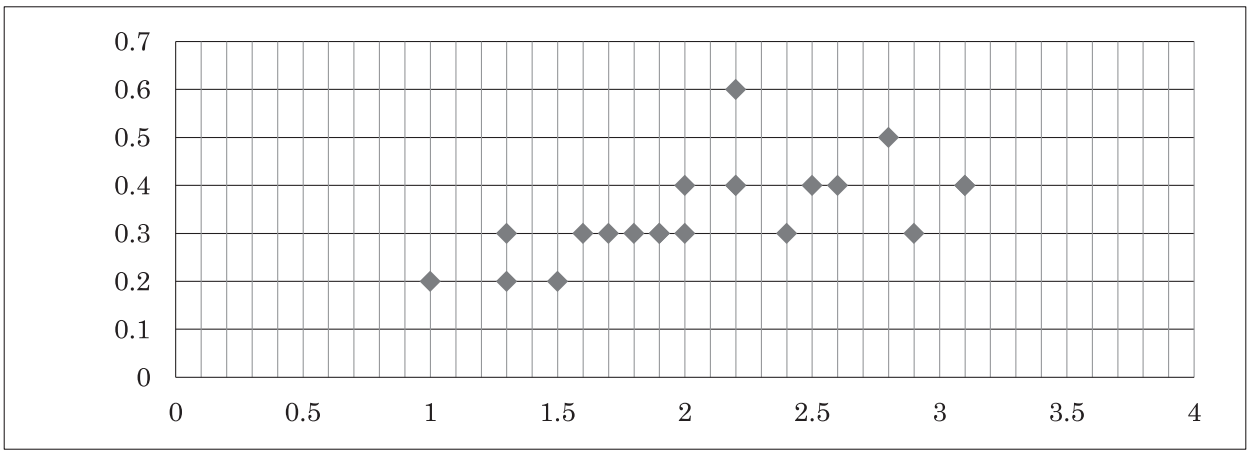
清水川六反田遺跡



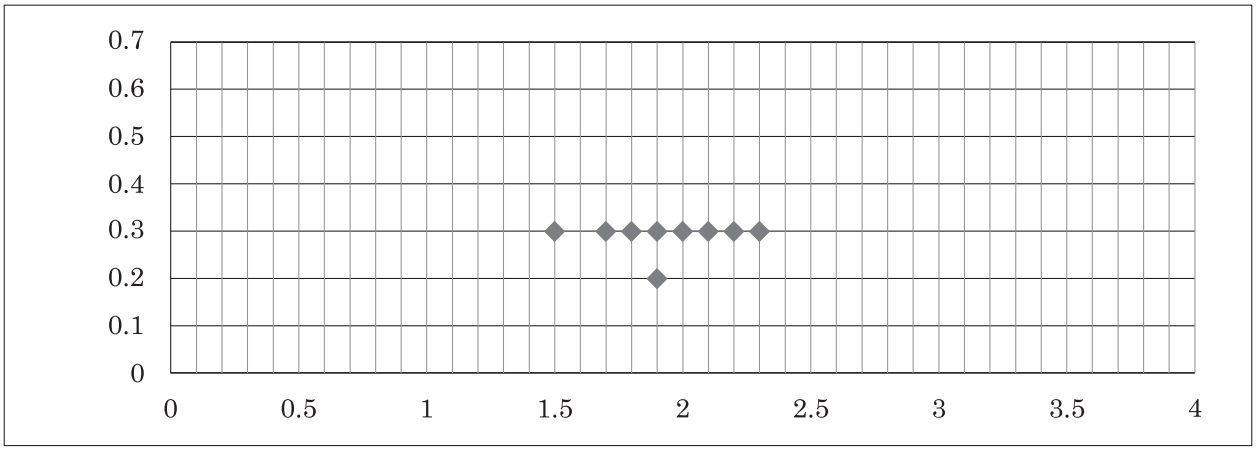
福成大坪上遺跡

※　縦軸：厚さ(cm)　横軸：長さ(cm)

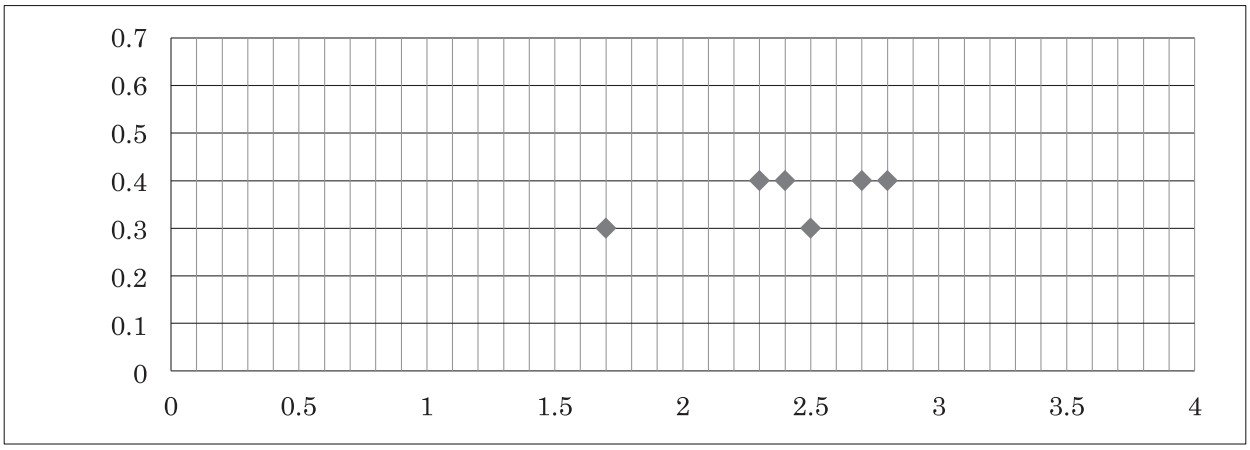
第757図　各遺跡における石鏃の長さ（黒曜石）



境矢石遺跡



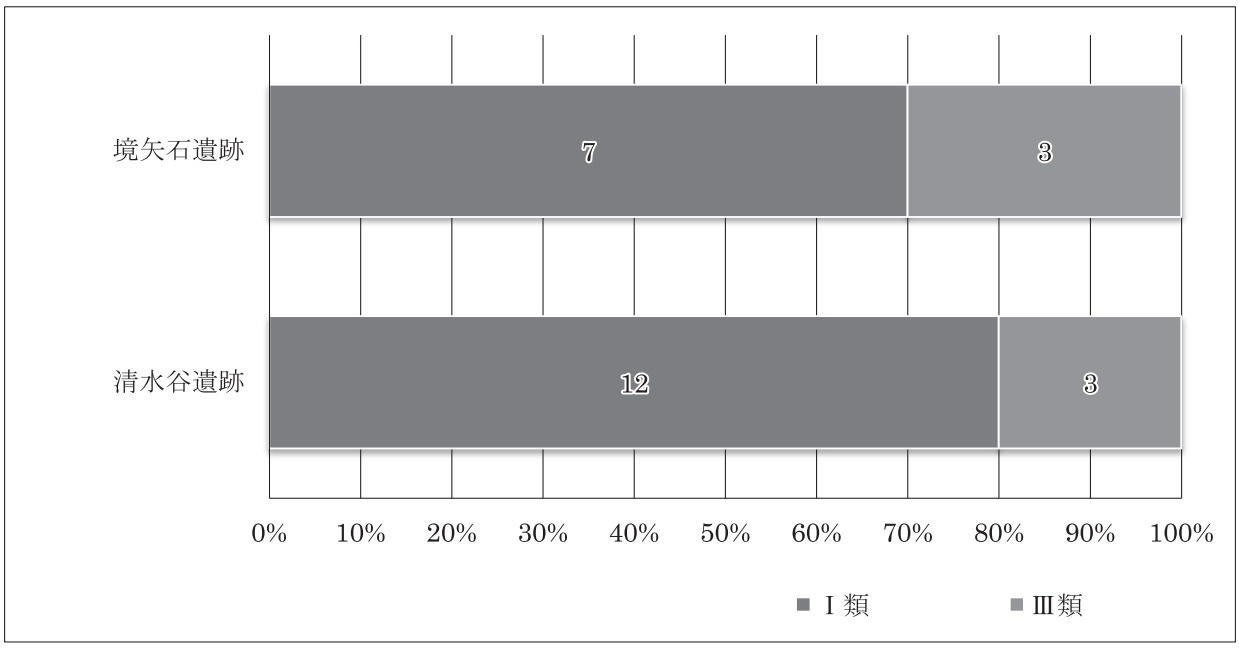
清水川六反田遺跡



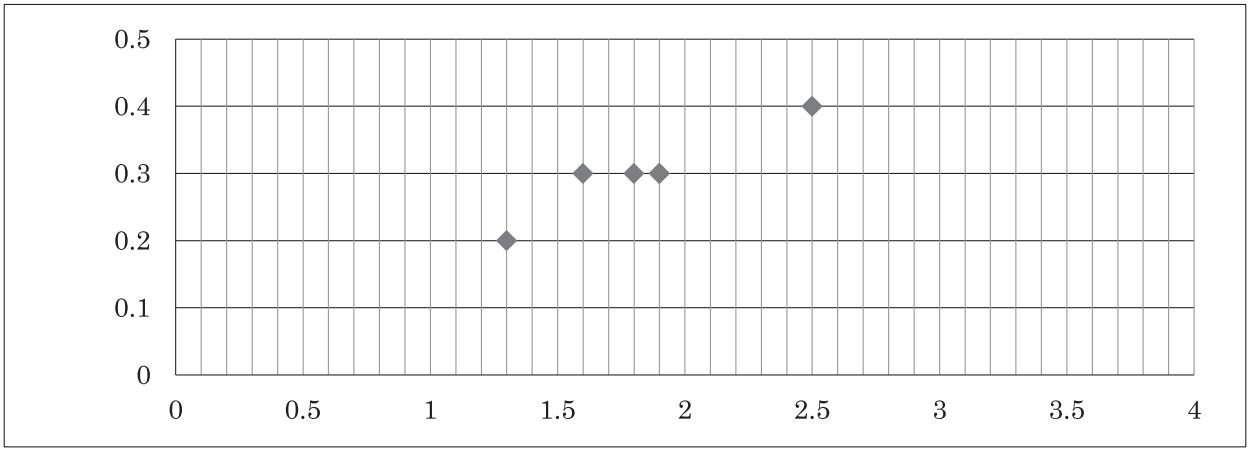
福成大坪上遺跡

※　縦軸：厚さ(cm)　横軸：長さ(cm)

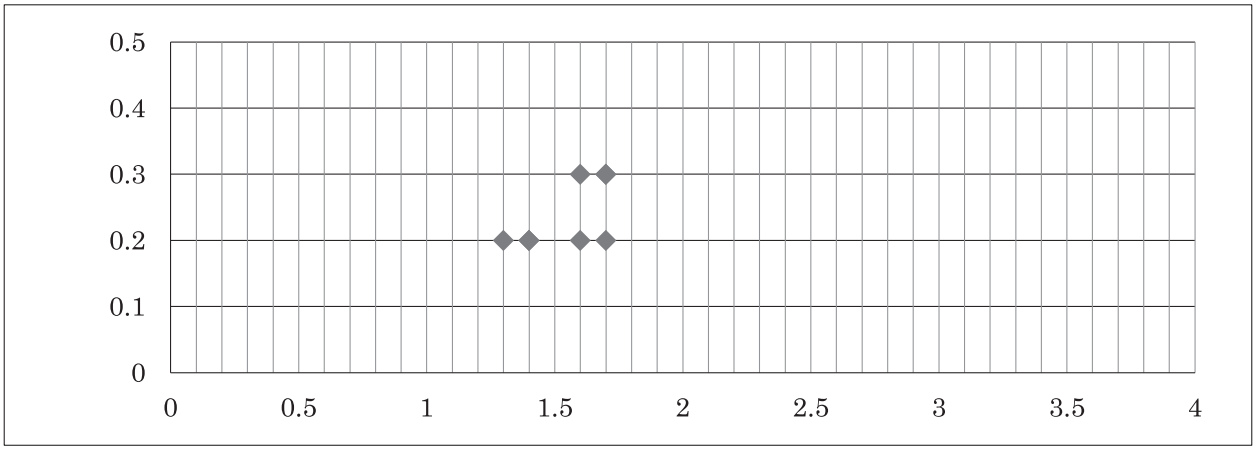
第758図　各遺跡における石鏃の長さ（サヌカイト）



第759図　境矢石遺跡と清水谷遺跡における石鏃の型式組成（一括資料）



境矢石遺跡　６区ＳＫ３７



清水谷遺跡　ＳＫ－２２

※　縦軸：厚さ(cm)　横軸：長さ(cm)

第760図　境矢石遺跡と清水谷遺跡における石鏃の長さ（一括資料）

弥生時代前期末～中期前葉の環濠などが検出されている。SK-22からは15点の石鏃が出土しており、すべてサヌカイト製である。型式は凹基式が12点（80％）、平基式が３点（20％）で、境矢石遺跡６区SK37とほぼ同じ組成である。長さは1.3～1.7㎝に集中し、境矢石遺跡６区SK37出土のものよりもやや小型である。

５．おわりに

境矢石遺跡では、黒曜石をはじめとして、多種多様な石材を用いて石器製作を行っていたことが明らかとなった。また、石器の組成は、剥片石器では石鏃が主体で、楔形石器が副次的に製作されている。

礫石器については、敲石・磨石、台石の堅果類の加工を指向した石器が主体で、鉄器の加工、修繕を行ったと考えられる砥石が弥生時代後期～古代（４区SS29など）の竪穴建物と段状遺構から多く出土していることが注目される。

石鏃については、位置的に近い清水川六反田遺跡と福成大坪上遺跡とは石材組成や型式組成、法量（長さ）が異なっており、各々の遺跡で長さによって石材を選択している可能性がある。当然、時期差も考えられるであろうが、集団性を色濃く反映していると考えられる。

以上、３遺跡について比較、検討してきたが、遺跡によって様相が異なっており、遺跡の立地や石材の入手の在り方、製作技術、使用目的、時期差等を反映していると考えられるが、今回は比較対象とした資料が少ないこともあり、その具体像まで踏み込むことができなかった。

今回の調査では、当該期の石器製作の様相を考えるうえでの一資料を提示できたものと思われる。今後､資料の増加により当該期の石器の製作及び使用の様相が明らかとなっていくことを期待したい。

（参考文献）

松本　哲ほか　1992 『清水谷遺跡』 西伯町教育委員会

高橋浩樹　2013 『清水川六反田遺跡』 一般財団法人米子市文化財団

高橋浩樹ほか　2014 『清水川御崎前遺跡　福成大坪上遺跡』 一般財団法人米子市文化財団

第３節　境矢石遺跡のまとめ

境矢石遺跡は、発掘調査の結果、縄文時代から近世の複合遺跡であることが明らかとなった。縄文時代は陥穴が検出され、本遺跡は狩猟場であったが、弥生時代前期から中期にかけては墓域となり、96基にも及ぶ集団墓地が形成される。弥生時代後期から古墳時代中期にかけては集落が形成されるが、古墳時代後期になると集落は一旦、断絶し、再び墓域となる。そして、古代から中世にかけては再び集落が形成される。

本節では、調査成果を基にして、時期毎に遺構の変遷を概観し、まとめとしたい。

縄文時代

縄文時代の遺構は、陥穴17基である。陥穴の分布状況をみてみると、２区、３区の谷部、６区の丘陵東側裾部、６区の西側の谷状地形部には８基、４区と６区の丘陵上には９基が分布する。

次に陥穴の形態をみると、平面形態が楕円形あるいは円形を呈し、底面にはピットが存在しないものと、平面形態が隅丸方形あるいは隅丸長方形を呈し、底面にはピットを有するものとがあり、前者は２区、３区の谷部、６区の丘陵東側裾部、６区の西側の谷状地形部、後者は４区と６区の丘陵上に分布する傾向にある。

このような陥穴の平面形態と底面ピットの有無の相違については、小竹上鷹ノ尾遺跡では放射性炭素年代測定の結果、平面形態が楕円形あるいは円形を呈し、底面にはピットが存在しないものは縄文時代早期末～前期初頭、平面形態が隅丸方形あるいは隅丸長方形を呈し、底面にはピットを有するものは縄文時代中期後葉に帰属すると考えられ、時期差が想定されているが、本遺跡では、時期を特定できる遺物が出土しておらず、放射性炭素年代測定も実施していないことから、帰属時期を明らかにすることはできなかった。

出土遺物は縄文時代晩期のものが主体を占めるが、尖頭器１点と押型文土器が数点出土している。尖頭器は、近年、米子平野周縁の丘陵、台地からの出土例が増加し、調査地周辺では福成石佛前遺跡、境北井埒遺跡、吉谷亀尾ノ上遺跡、奈喜良遺跡で出土しており、当該期の人々の活動域の広がりが示唆される。

押型文土器は法勝寺川流域では清水谷遺跡で８点、新山山田遺跡で２点、八金清水田遺跡で４点が出土しているのみで、今後の出土例の増加とその動向に期待したい。

弥生時代前期～中期

弥生時代前期から中期の遺構は、木棺墓91基、土壙墓４基、石囲墓１基、溝状土壙12基、弧状溝12基、土壙27基、貯蔵穴６基、土坑13基、溝状遺構３基、土器溜２基、石列である。

この時期の集団墓の規模としては、宮ノ峰遺跡（倉吉市）の160基以上に次ぐもので、山陰でも最大級の集団墓地として位置づけられる。墓域は１・５区の尾根状地形部、２・３区の谷部、６区の丘陵南東側の斜面裾部に位置する東西160m、南北55mの範囲である。時期的には、１・５区のものが古く前期後葉に比定され、２・３・６区が前期末から中期中葉と相対的に東から西へと墓域が展開する。

墳墓の配置状況は、１区と５区では、斜面地形に直交あるいは斜交するように配置されているが、

２・３区では谷部の縁辺部に溝状土壙が列状に配置され、墳墓は主にその内部に位置する。このうち、やや古い段階のものは、３区の北東側から２区にかけて位置し、その主軸は正方位を指向している。一方、これよりも新しい段階のものは、谷筋や溝状土壙に沿うように主軸を指向している。６区では標高33.5m以上では斜面地形に平行するように配置されているものが多いが、それ以下では斜面地形に直交あるいは斜交するように配置されている。

５区と６区では、木棺の裏込め石が認められるものや、小児用と考えられる小型の墳墓があるが、２・３区ではこのようなものは認められない。特に５区では、検出した墳墓37基のうち、小児用と考えられる小型の墳墓が12基（32.4％）を占め、このうち、４基に木棺の裏込め石が認められる。また、５区では二段掘方をもつ大型の５区SK12を中心にして小児用の墳墓が環状に配され、さらに調査区の制約があるが、５区SK34を中心にして小児用の墳墓が環状に配されていた可能性がある。

墳墓内から出土した土器以外の遺物には、３区SK16の台石、５区SK12の楔形石器と磨製石斧、５区SK14、５区SK17、６区SK42、６区SK37の石鏃、５区SK36の管玉状石製品、６区SK62の管玉があり、このうち５区SK36、６区SK42、６区SK62は小児用の墳墓と考えられる。石鏃は６区SK37以外は１点のみの出土であるが、６区SK37からは滑石製の小玉１点とともに石鏃が12点出土した。また、６区SK62からは緑色凝灰岩製の管玉が21点出土した。

副葬品として特筆すべきものは、５区SK36から出土した緑色凝灰岩製の管玉状石製品である。いずれも円筒状を呈し、上面と表面の上端、下面と表面の下端から穿孔し、それぞれ両孔をＬ字状に貫通させたものである。大賀克彦氏の御教示によれば、「現在のところ類例は認められず、酷似品としては東日本では下屋敷遺跡（福井県）や八日市地方遺跡（石川県）といった管玉を製作する弥生時代中期の玉作遺跡から出土したものがある。これらは女代南Ｂ群系の碧玉を素材として用い、側面側は穿孔ではなく、左右非対称な切り込みがある。同様な製品は玉作と関連しない遺跡でも出土事例があるが、墳墓への副葬品としての出土は認められない。」とのことである。このように見てみると、北陸との関係が想起されるが、石材や形態が異なることから、物的移動ではなく、人的、技術系譜的関係が想定される。今後の出土例の増加を待って、流通や性格等が解明されることを期待したい。

弥生時代後期

弥生時代後期の遺構は、竪穴建物46棟、段状遺構34基、掘立柱建物11棟、柵列２条、木棺墓１基、貯蔵穴３基、土坑15基、溝状遺構16基である。

この時期には、集落が形成されるようになり、主に４・６区の丘陵の東側斜面から２・３区の谷部にかけて遺構が集中する。東側には平野が開けているため、これを指向した立地と考えられる。５区SI２は１棟だけ離れた場所に位置し、平面形態が円形を呈し、３本柱の特異な構造である。

なお、６区の丘陵南東端の裾部と谷部中央付近の弥生時代前期から中期の墳墓が存在した部分には遺構が認められないことから、未だ弥生時代前期～中期の墓域としての意識があったと考えられる。

集落構造は、丘陵部では急峻な丘陵斜面を階段状に削平、造成して段状遺構を築き、そこに竪穴建物や掘立柱建物が構築されている。このような集落構造は米子平野西部域の丘陵部では、通有的に認められる特徴である。

集落の時期は弥生時代後期前葉、中葉～後葉、終末期～古墳時代前期初頭の３時期に大きく分けられる。

弥生時代後期前葉は、集落の形成が開始される時期で、竪穴建物８棟、段状遺構７基を検出した。遺構は主に丘陵から南へのびる尾根上と丘陵東側斜面に分布し、谷部では２区SI21の１棟が認められるのみである。丘陵東側斜面では、６区SS８と６区SI10、６区SS17と６区SS10の段状遺構と竪穴建物のセット関係が認められるが、丘陵裾部の竪穴建物に伴う段状遺構は、後世の段状遺構により削平されているためか段状遺構は検出されなかった。

６区SS９は上屋構造を持つ貯蔵穴群を備えた段状遺構、６区SI17は３基の貯蔵穴の上屋的な建物であると考えられ、４区SS33にも貯蔵穴が存在する。以上のことから、居住施設、作業空間、貯蔵施設という構造が看取できる。

弥生時代後期中葉～後葉は集落の規模が拡大する時期で、竪穴建物18棟、段状遺構13基を検出した。遺構は主に丘陵から南へのびる尾根上、丘陵東側斜面、谷部に分布し、丘陵南東側裾部には木棺墓６区SK36-１が構築される。この時期の集落は丘陵部では前代の立地を踏襲する一方で、谷部への進出が窺える。また、丘陵の西側にも遺構の広がりが認められるようになり、丘陵西側の谷部には段状遺構が構築される。

段状遺構４区SS13・16・18・23・24・26、６区SS12は丘陵を巡るように細長くのびており、古墳時代前期まで長期間継続して使用されている。また、これらの段状遺構内には竪穴建物や掘立柱建物の居住、貯蔵施設が設けられているものがあり、さらに、硬化面が認められることから、通路的な機能も果たしていたと考えられる。このような通路と竪穴建物、掘立柱建物を一体化させた構造は急峻な斜面という立地の特性を活かしたものであり、このような構造は近接する境内海道西遺跡でも認められる。

出土遺物としては６区SI１-３からはガラス製の管玉が出土し、その西側に隣接する６区SI２からは緑色凝灰岩製の管玉が出土した。このガラス製の管玉は第５章　第11節に詳しいが、科学分析の結果、極めて淡いやや青味がかった色調を呈し、人工青色顔料である漢青が着色剤として添加されておらず、鉛バリウムガラスのなかでも酸化ナトリウムと酸化カルシウムがやや多い特徴を持ち、色調及び着色剤が同種のガラス管玉の中ではやや特殊であることが判明した。着色剤と基礎ガラスの関係から鉛バリウムガラスの分類的検討を進めるための貴重なデータを提示できたことはたいへん意義があり、今後の分析事例の増加に期待したい。

弥生時代終末期～古墳時代前期初頭は前代より継続して使用されている遺構以外では竪穴建物を２棟検出した。６区の丘陵から西へのびる小尾根上に位置する６区SI13・14、SS11は同所で３回の拡張、建て替えを行い、６区SI１は段状遺構６区SS２内に構築され、弥生時代後期後葉から古墳時代前期初頭にかけて３回の建て替えが行われている。

古墳時代前期

古墳時代前期の遺構は、竪穴建物14棟、段状遺構３基、掘立柱建物１棟、土坑１基、竈７基である。

当該期の遺構には、弥生時代後期から継続するものがあり、遺構は主に４・６区の丘陵東側斜面の上部から中腹にかけてと２・３区の谷部に分布する。

また、依然として６区の丘陵南東端の裾部と谷部中央付近の弥生時代前期～中期の墳墓が存在した部分には遺構の分布が認められないことから、この時期に至っても未だ墓域としての意識があったと考えられる。

竪穴建物は４・６区の丘陵から東、南へそれぞれ派生する小尾根上、２・３区の谷部の北東側と南側の４ヶ所に分散して分布する。丘陵部では、竪穴建物は段状遺構内に構築されており、重複あるいは近接する位置に建て替えを行っている。さらに、段状遺構内に掘立柱建物や貯蔵穴を伴うものがあり、その有機的な関係が窺える。一方、谷部では掘立柱建物や貯蔵穴などの貯蔵施設は認められない。

４区SS６では貯蔵穴３基（４区SK４・５・６）が検出され、いずれも上屋の存在が想定されている。４区SK４からは大型の壺、甕とともに、おにぎり状に握ってあったと考えられる炭化した米の集塊、翡翠製の勾玉が出土している。

竪穴建物４区SS４は、段状遺構４区SS３の南東際に位置し、その北西側は空閑地となっており、作業場的・広場的空間として利用されたと考えられる。また、前葉から後葉にかけて同じ位置に複数回の建て替えが行われ、４区SS６との位置関係から、集会所的施設あるいは収穫物等の管理施設の可能性がある。

段状遺構４区SS16・18・23・24・26、６区SS12は弥生時代後期から継続して存在し、弥生時代後期と同様に通路的な性格が考えられる。特に６区SS12は丘陵の東側の遺構群と南側の遺構群とを結ぶ通路としての機能を果たしたと考えられる。

２区SI19は当該期では唯一ベッド状遺構を有し、その周囲には竈がある。また、２区SI18と２区SI20との間にも竈があり、その位置関係からこの３棟で竈を共有していたと想定される。

古墳時代中期

古墳時代中期の遺構は、竪穴建物23棟、段状遺構３基、掘立柱建物１棟、土坑１基、溝状遺構４基である。

この時期には、４・６区の丘陵東側斜面の裾部から２・３区の谷部にかけて遺構が集中し、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての遺構が存在した丘陵上部には遺構は認められなくなり、集落立地の低地化が顕著となる。

また、谷部では中央付近に竪穴建物と段状遺構が構築されるようになり、この時期には弥生時代前期～中期の墓域としての意識は既に失われたと考えられる。

なお、この時期には段状遺構１基と竪穴建物数棟で単位集団を形成していると考えられる。

古墳時代後期

古墳時代後期の遺構は、竪穴建物１棟、木棺墓２基、土壙墓２基、横穴墓１基、版築状遺構である。

当該期には竪穴建物を１棟検出したのみで、この時期になると集落の形成は断絶し、その後、墓域となる。

周辺域では中期後半から当該期にかけて、福成早里古墳群、吉谷古墳群などで古墳が造営され、古墳群が形成されるようになるが、本遺跡では古墳は認められず、木棺墓と土壙墓が検出されたのみである。

木棺墓と土壙墓は主に６区の丘陵から派生する小尾根上に位置し、各々が単独で存在する。３区SK53からは小型の直刀が出土し、６区SK13出土の須恵器蓋坏には朱が付着している。６区SK30には須恵器坏蓋と坏身が対になった状態で置かれており、枕として用いられたと考えられる。

横穴墓は６区の丘陵南西側の急斜面に位置する。１基のみが単独で存在し、後背墳丘や後背周溝は

認められない。墓室内の南東隅の壁際には枕として用いられたと考えられる須恵器坏蓋と坏身が対に並べてあり、この他の土器等の出土状況から追葬が行われたと考えられる。

版築状遺構は６区の北西側の谷部に位置し、規模は長軸26m以上、短軸24m、厚さ0.9～2.1mを測る。地山に由来する黄褐色系土とクロボクに由来する灰褐色系土及び黒色系土とを互層状に積み重ねて構築している。また、削平により失われているが、本来的には墳丘状のマウンドを有していたと考えられ、その周囲には溝を巡らせていた可能性がある。遺物が出土していないため、帰属時期は判然としないが、当遺構を被覆する堆積層から古代の土器が出土していることから、古墳時代終末期と推定した。

古　代

古代の遺構は、段状遺構16基、掘立柱建物23棟、柵列３条、土坑４基、溝状遺構８基である。

当該期になると再び集落が形成され、遺構は４・６区の丘陵西側斜面と東側斜面裾部、１区の尾根状地形部の３ヶ所に分散して分布する。

１区の遺構の詳細な帰属時期は明らかにはできなかったが、４・６区の丘陵東側斜面裾部の遺構は７世紀後半から８世紀初頭を主体とし、６区の丘陵西側斜面の遺構は８世紀前半から中頃に帰属する。このことから、丘陵部では８世紀初頭頃を境に丘陵の東側から西側へと遺構が展開したと考えられる。

丘陵部では、掘立柱建物は段状遺構内に構築されているが、１区では緩斜面であるために、段状遺構は伴わない。３区SD８と３区SD９は形態的に段状遺構の壁溝である可能性があるが、掘立柱建物は検出されなかった。３区SB１～５に伴う段状遺構は検出されなかったが、３区と４区との境界の段切りにより削平されたと考えられ、３区SD８・９との位置関係からも３区SB１～５は段状遺構に伴っていた可能性がある。

４区SS29は複数の硬化面が存在し、多量の台石と砥石の出土、破砕された焼土塊から工房的な性格が考えられる。またさらに、甑、移動式竈、須恵器の什器類や貯蔵具の出土量の多さから供用の竈屋的施設としての性格も考えられる。

６区SS22のP304の底面には破砕された直径３～５㎝程の礫が敷き詰められ、その上には赤彩土師器皿が据えられていた。皿は高台を人為的に除去したうえで上面を水平にして置かれており、地鎮的な性格が考えられる。

１区SK６では、口径22.0㎝、胴部最大径51.8㎝、器高59.6㎝を測る須恵器大甕を破砕し、その破片を幾層にも積み重ねて埋納しており、何らかの祭祀行為が窺える。

中・近世

中世の遺構は、段状遺構５基、掘立柱建物１棟、柵列３条、溝状遺構３基である。

この時期には３区と４区の丘陵裾部に小規模な集落が形成され、集落の時期は11世紀後半～12世紀前半と12世紀中頃～後半の２時期に分けられる。

前者は段状遺構３区SS１－１・１－２・３の３基からなり、居住施設は認められない。３区SS３には炉が設けられ、埋土中から被熱した礫が検出されていることから、竈屋としての性格が考えられる。また、３区SS３の西側に近接する３区SS１－１・１－２では柱穴は検出されておらず、作業空間としての性格が想定される。

後者は段状遺構４区SS30・31の２基からなり、このうち、４区SS31には西面と南面に廂を有すると考えられる掘立柱建物があり、居住施設としての性格が考えられる。４区SS30には簡易的な建物が存在した可能性があり、４区SS30は４区SS31に付随する簡易的な建物と４区SS31に通じる通路的な性格を併せ持っていたと考えられる。

なお、前者は白磁、後者は中国産の陶器と青磁が出土しており、集落の性格を考えるうえで興味深い資料である。

近世の遺構は、溝状遺構11条である。これらは耕作や土地境界に関わるものと考えられ、この時期以降、本遺跡は耕作地化、山林化したと考えられる。

（参考文献）

濵　隆造ほか　2011 『小竹上鷹ノ尾遺跡』 鳥取県埋蔵文化財センター

松本　哲ほか　1993 『福成石佛前遺跡』 西伯町教育委員会

高橋浩樹　2013 『境北井埒遺跡』 一般財団法人米子市文化財団

高橋浩樹　2003 『吉谷亀尾ノ上遺跡　橋本徳道西遺跡』 財団法人米子市教育文化事業団

小原貴樹　1976 「奈喜良遺跡発掘調査報告」『鳥取県米子市埋蔵文化財発掘調査報告Ⅰ』 米子市教育委員会

松本　哲ほか　1992 『清水谷遺跡』 西伯町教育委員会

杉谷愛象ほか　1994 『奥陰田・萱原Ⅰ』 財団法人米子市教育文化事業団

門脇豊文　2005 『八金小ブケ遺跡　八金清水田遺跡』 南部町教育委員会

高田健一　2013「山陰地方における弥生時代前半期の墓制」『第41回山陰考古学研究集会　農耕社会成立期の山陰地方』第41回山陰考古学研究集会事務局

北浦弘人ほか　1998 『福成早里遺跡』 財団法人鳥取県教育文化財団

濵　隆造ほか　2003 『吉谷遺跡群　吉谷中馬場山遺跡　吉谷屋奈ヶ埒遺跡』 財団法人鳥取県教育文化財団

濵野浩美　2013 『境内海道西遺跡』 一般財団法人米子市文化財団

遺　物　観　察　表

第19表　６区SK22出土石器観察表（第34図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
1	埋土中	楔形石器	完形	2.1	2.8	1.0	5.6	黒曜石	
2	埋土中	台石	3/4	13.5	12.6	3.1	926.0	凝灰角礫岩	被熱痕あり

第20表　３区SK11出土土器観察表（第49図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	上層	弥生土器 甕	口縁～胴部 1/2	※19.2	—	△11.8	外面：口縁端部刻目、頸部２条のヘラ描沈線 内面：ケズリ、指押さえ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	
2	下層	弥生土器 甕	口縁～胴部 破片	—	—	△ 5.5	外面：口縁端部ナデ、頸部指押さえ、3条のヘラ描沈線 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 石英、白色粒	やや良	橙褐色	
3	中層	弥生土器 壺	胴部～底部 1/4	—	※7.2	△ 7.6	外面：指押さえ→ナデ 内面：指押さえ、ナデ	密 角閃石、石英	やや良	灰褐色	

第21表　３区SK16出土土器観察表（第53図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	床面直上	弥生土器 甕	口縁 破片	※23.8	—	△3.4	外面：口縁端部刻目、ナデ、頸部４条のヘラ描沈線 内面：ナデ	密 石英、砂粒	やや良	褐色	内外面赤彩？

第22表　３区SK16出土石器観察表（第53図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
2	埋土中	台石	2/3	23.4	14.5	6.2	2353.5	凝灰角礫岩	表面に敲打痕あり

第23表　３区SK17出土土器観察表（第55図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	上層	弥生土器 甕	口縁～胴部 1/4	※25.0	—	△8.5	外面：口縁端部刻目、口縁部横方向のミガキ、指押さえ、頸部８条の櫛描沈線、爪形列点文、胴部指押さえ→ミガキ 内面：口縁部指押さえ→ナデ、胴部ケズリ→指押さえ→ナデ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	

第24表　３区SK59出土土器観察表（第68図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	床面直上	弥生土器 甕	口縁 破片	—	—	△2.8	外面：刻目突帯、ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、角閃石、砂粒	良	灰褐色	

第25表　５区SK２出土土器観察表（第70図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 甕	口縁 破片	—	—	△2.0	外面：ハケ 内面：ナデ	密 砂粒	良	橙褐色	

第26表　５区SK12出土土器観察表（第81図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	上層	弥生土器 甕	底部 破片	—	※7.0	△3.0	外面：指押さえ→ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 石英、白色粒、砂粒	やや良	灰褐色	

第27表　５区SK12出土石器観察表（第81図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
2	埋土中	楔形石器	完形	2.3	2.9	0.8	4.6	黒曜石	
3	上層	磨製石斧	1/2	5.2	3.7	2.8	71.6	閃緑岩	

第28表　５区SK13出土土器観察表（第83図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 甕	底部	—	※8.2	△4.6	外面：指押さえ→ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 雲母、石英	良	橙褐色	

第29表　５区SK14出土石器観察表（第85図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
1	埋土中	石鏃	完形	2.0	1.6	0.4	0.8	サヌカイト	

第30表　５区SK16出土土器観察表（第88図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 甕	口縁部 破片	—	—	△3.9	外面：櫛状工具による直線文、指押さえ、ナデ 内面：指押さえ、ナデ	密 石英、白色粒	良	褐色	
2	中層	弥生土器 甕	胴部 破片	—	—	△4.1	外面：４条の櫛描沈線、ナデ 内面：ナデ	密	やや良	灰褐色	

第31表　５区SK17出土石器観察表（第90図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
1	埋土中	石鏃	1/2	0.8	1.1	0.2	0.1	黒曜石	

第32表　５区SK26出土土器観察表（第95図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 壺	口縁 破片	※17.6	—	△2.3	外面：ナデ 内面：ナデ	密 石英・砂粒	良	橙褐色	

第33表　５区SK29出土土器観察表（第99図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	突帯文土器 甕	口縁 破片	—	—	△2.9	外面：無刻目突帯、ナデ 内面：ナデ	密 石英	良	灰茶色	
2	埋土中	弥生土器 甕	底部 破片	—	※9.0	△3.7	外面：摩耗のため調整不明 内面：指押さえ	密 石英・砂粒	良	灰褐色	

第34表　５区SK30出土土器観察表（第101図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 壺	肩部 破片	—	—	△5.4	外面：肩部１条の貼付突帯、ナデ 内面：ナデ	密 石英、砂粒	やや良	灰褐色	
2	上層	弥生土器 甕	底部 破片	—	※9.0	△4.3	外面：指押さえ、ナデ 内面：指押さえ、ナデ	密 砂粒	やや良	褐色	

第35表　５区SK36出土土器観察表（第107図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 壺	口縁 破片	※12.4	—	△3.2	外面：口縁端部刻目、口縁部ナデ、３条のヘラ描沈線 内面：摩耗のため調整不明	密	良	灰褐色	内外面赤彩

第36表　５区SK36出土石製品観察表（第107図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	直径	孔径	重量(g)	石材	備考
2	上層	管玉状石製品	ほぼ完形	3.6	1.0	0.5	2.8	緑色凝灰岩	
3	上層	管玉状石製品	完形	4.6	1.5	0.6	12.0	緑色凝灰岩	
4	上層	管玉状石製品	完形	4.9	1.5	0.6	13.1	緑色凝灰岩	
5	上層	管玉状石製品	完形	5.3	1.4	0.6	14.0	緑色凝灰岩	
6	上層	管玉状石製品	完形	5.6	1.5	0.6	15.8	緑色凝灰岩	

第37表　５区SK41出土土器観察表（第113図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 甕	底部	—	※11.0	△3.6	外面：ハケ、ナデ 内面：指押さえ、ナデ	密	やや良	灰褐色	

第38表　６区SS18出土石器観察表（第119図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
1	床面直上	砥石	2/3	11.0	10.2	4.2	809.6	デイサイト	荒砥、砥面３面

第39表　６区SK32出土土器観察表（第127図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	上層	弥生土器 壺	頸部～底部	—	—	△24.7	外面：頸部６条の櫛描沈線、刺突文、円形浮文、胴部ハケ、指押さえ、底部ミガキ 内面：頸部ナデ、胴部上半ケズリ、ナデ、胴部下半ケズリ	密 石英、赤色粒、白色粒	良	褐色	

第40表　６区SK37出土石器、石製品観察表（第132図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
1	埋土中	小玉	ほぼ完形	0.3	0.5	0.1	0.1	滑石	
2	埋土中	石鏃	1/3	0.7	0.6	0.2	0.1	黒曜石	
3	下層	石鏃	ほぼ完形	1.8	1.3	0.3	0.6	サヌカイト	
4	上層	石鏃	ほぼ完形	1.4	1.3	0.3	0.5	サヌカイト	
5	下層	石鏃	完形	2.5	1.7	0.4	1.0	サヌカイト	
6	埋土中	石鏃	完形	1.9	1.7	0.3	0.6	サヌカイト	
7	床面直上	石鏃	完形	1.9	1.4	0.3	0.7	サヌカイト	
8	埋土中	石鏃	完形	1.6	1.3	0.3	0.5	サヌカイト	
9	床面直上	石鏃	ほぼ完形	1.4	1.3	0.2	0.4	サヌカイト	
10	埋土中	石鏃	ほぼ完形	1.3	1.0	0.2	0.3	サヌカイト	
11	埋土中	石鏃	2/3	1.0	1.1	0.2	0.2	サヌカイト	
12	下層	石鏃	完形	1.0	1.1	0.2	0.2	サヌカイト	
13	下層	石鏃	2/3	0.8	1.0	0.3	0.2	サヌカイト	

第41表　６区SK42出土石器観察表（第138図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
1	下層	石鏃	ほぼ完形	1.2	1.0	0.3	0.3	サヌカイト	

第42表　６区SK62出土管玉観察表（第150図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	直径	孔径	重量(g)	石材	備考
1	埋土中	管玉	完形	0.9	0.3	0.15	0.1	緑色凝灰岩	両側穿孔
2	床面直上	管玉	完形	0.9	0.3	0.1	0.1	緑色凝灰岩	両側穿孔
3	埋土中	管玉	完形	0.9	0.3	0.15	0.1	緑色凝灰岩	両側穿孔
4	埋土中	管玉	完形	0.9	0.3	0.15	0.1	緑色凝灰岩	両側穿孔
5	床面直上	管玉	完形	0.85	0.3	0.15	0.1	緑色凝灰岩	両側穿孔
6	埋土中	管玉	完形	0.85	0.3	0.15	0.1	緑色凝灰岩	両側穿孔
7	床面直上	管玉	完形	0.85	0.3	0.15	0.1	緑色凝灰岩	両側穿孔
8	埋土中	管玉	完形	0.85	0.3	0.15	0.1	緑色凝灰岩	両側穿孔
9	埋土中	管玉	完形	0.8	0.3	0.15	0.1	緑色凝灰岩	両側穿孔
10	下層	管玉	完形	0.8	0.3	0.15	0.1	緑色凝灰岩	両側穿孔
11	下層	管玉	完形	0.8	0.3	0.15	0.1	緑色凝灰岩	両側穿孔
12	床面直上	管玉	完形	0.8	0.3	0.15	0.1	緑色凝灰岩	両側穿孔
13	床面直上	管玉	完形	0.75	0.3	0.15	0.1	緑色凝灰岩	
14	埋土中	管玉	完形	0.75	0.3	0.15	0.1	緑色凝灰岩	
15	床面直上	管玉	完形	0.75	0.3	0.15	0.1	緑色凝灰岩	両側穿孔
16	埋土中	管玉	完形	0.7	0.3	0.15	0.1	緑色凝灰岩	
17	埋土中	管玉	完形	0.7	0.3	0.15	0.1	緑色凝灰岩	
18	埋土中	管玉	完形	0.7	0.3	0.15	0.1	緑色凝灰岩	両側穿孔
19	埋土中	管玉	完形	0.65	0.3	0.15	0.1	緑色凝灰岩	両側穿孔
20	埋土中	管玉	完形	0.65	0.3	0.15	0.1	緑色凝灰岩	両側穿孔
21	床面直上	管玉	完形	0.55	0.3	0.15	0.1	緑色凝灰岩	

第43表　６区SK65出土土器観察表（第153図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 甕	口縁～胴部破片	19.0	—	△5.8	外面：頸部４条のヘラ描沈線、胴部ナデ 内面：ケズリ→ナデ	密	良好	灰褐色	外面煤付着

第44表　２区SK６出土土器観察表（第158図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	床面直上	弥生土器 底部	底部	—	※6.0	△11.1	外面：ミガキ 内面：ナデ、指押さえ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	内外面煤付着

第45表　２区SK６出土石器観察表（第158図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
2	上層	磨製石斧	完形	9.5	5.5	1.9	156.7	結晶片岩	
3	埋土中	磨石	完形	20.3	13.2	5.3	1650.9	デイサイト	

第46表　３区SD４出土土器観察表（第160図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 甕	口縁 破片	—	—	△1.5	外面：口縁端部刻目、口縁部ハケ 内面：ケズリ→ナデ	密 石英、砂粒	良	褐色	
2	埋土中	弥生土器 甕	口縁 破片	—	—	△3.5	外面：ハケ 内面：ケズリ→ナデ	密 石英、砂粒	良	褐色	
3	下層	弥生土器 底部	底部 1/2	—	※9.4	△5.0	外面：指押さえ→ミガキ、底面ケズリ→指押さえ、ナデ 内面：指押さえ→ミガキ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	

第47表　３区SD４出土石器観察表（第160図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
4	上層	磨製石斧	完形	11.5	4.7	4.05	340.0	砂岩	
5	上層	磨製石斧	2/3	9.1	6.05	4.0	263.4	緑色片岩	

第48表　３区SD11出土土器、土製品観察表（第164・165図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	下層	弥生土器 壺	口縁～頸部 1/3	※36.4	—	△16.9	外面：口縁端部刻目、口縁部、肩部ナデ、頸部７条のヘラ描沈線 内面：口縁部ナデ、頸部～肩部摩耗のため調整不明	やや密 石英、砂粒	やや良	灰褐色	
2	埋土中	弥生土器 壺	口縁～頸部	※17.0	—	△15.0	外面：ミガキ、頸部３条のヘラ描沈線 内面：口縁部～頸部ミガキ、胴部指押さえ	密 石英、砂粒	良	橙褐色	
3	下層	弥生土器 壺	胴部 1/8	—	—	△ 6.3	外面：肩部２条のヘラ描沈線、刻目貼付突帯、胴部ミガキ 内面：ケズリ→ナデ	密 白色粒、砂粒	良	灰褐色	外面煤付着
4	下層	弥生土器 壺	肩部～底部	—	6.4	△23.8	外面：肩部～胴部ミガキ、底部指押さえ→ミガキ 内面：指押さえ→ミガキ	密 石英、砂粒	良	褐色	外面黒斑
5	上層	弥生土器 壺	肩部 破片	—	—	△ 5.8	外面：波状文、横ハケ→縦ハケ 内面：ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	灰色	
6	埋土中	弥生土器 壺	肩部 破片	—	—	△ 4.9	外面：ハケ、弧線文 内面：ケズリ→ナデ	密 石英、砂粒	良	褐色	
7	埋土中	弥生土器 壺	肩部 破片	—	—	△ 4.7	外面：斜格子文 内面：ミガキ	密	良好	褐色	
8	下層	弥生土器 壺	肩部 破片	—	—	△ 6.2	外面：３段の櫛描平行沈線、沈線間鋸歯文 内面：ナデ	密	良好	橙褐色	
9	埋土中	弥生土器 甕	口縁～胴部	※19.8	—	△ 7.1	外面：口縁端部刻目、頸部３条のヘラ描沈線、胴部ハケ→ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ→ナデ	やや密 石英、砂粒	やや良	灰褐色	
10	埋土中	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/8	※25.0	—	△ 5.0	外面：口縁端部刻目、頸部４条のヘラ描沈線、胴部ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 石英、白色粒 砂粒	良	灰褐色	
11	下層	弥生土器 甕	口縁～胴部	※20.6	—	△ 8.1	外面：口縁端部刻目、頸部５条のヘラ描沈線、胴部ナデ 内面：ナデ、指押さえ	密 石英	良	褐色	外面煤付着
12	埋土中	弥生土器 甕	口縁 破片	※19.6	—	△ 4.5	外面：口縁端部刻目、胴部ナデ 内面：ナデ	密 雲母、石英	良	褐色	外面煤付着
13	中層	弥生土器 甕	口縁～胴部 破片	※24.4	—	△ 7.6	外面：頸部５条のヘラ描沈線、胴部ハケ 内面：指押さえ→ハケ	密 雲母、石英	良	橙褐色	内面煤付着
14	埋土中	弥生土器 甕	口縁 破片	※24.4	—	5.0	外面：頸部６条のヘラ描沈線、胴部ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 石英、砂粒	良	黒茶色	
15	埋土中	弥生土器 甕	口縁～胴部	※20.8	—	△ 5.8	外面：指押さえ→ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 石英、白色粒 砂粒	やや良	灰褐色	
16	埋土中	弥生土器 甕	口縁～胴部	※16.8	—	△ 5.5	外面：ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 石英、白色粒 砂粒	やや良	灰褐色	外面煤付着
17	下層	弥生土器 甕	肩部～底部	—	17.1	△18.5	外面：肩部７条の櫛描沈線、刺突文、胴部ハケ→指押さえ→ミガキ 内面：胴部ハケ→ミガキ、指押さえ、底部指押さえ→ナデ	密 石英、砂粒	良好	褐色	
18	中層	弥生土器 甕	肩部～底部	—	8.2	△18.0	外面：ミガキ 内面：指押さえ→ナデ	密 石英、白色粒 砂粒	やや良	橙褐色	
19	上層	弥生土器 甕	口縁 1/8	※15.4	—	△ 3.5	外面：口縁端部２条の凹線、頸部指押さえ→ナデ 内面：ナデ	密 石英、白色粒 砂粒	やや良	灰褐色	
20	上層	弥生土器 甕	口縁 破片	※13.2	—	△ 3.8	外面：口縁端部３条の凹線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、砂粒	良	褐色	外面赤彩
21	上層	弥生土器 甕	口縁～頸部	※18.3	—	△ 4.4	外面：口縁端部２条の凹線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、白色粒 砂粒	良	灰褐色	
22	上層	弥生土器 甕	口縁 破片	※15.8	—	△ 4.0	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、砂粒	やや良	橙褐色	
23	上層	土錘	完形	長さ 4.1	直径 2.9	重量 37.2ｇ	外面：ナデ				

第49表　３区SD11出土石器観察表（第165図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
24	中層	石鏃	完形	2.0	1.7	0.3	0.6	黒曜石	
25	上層	砥石	1/2	4.8	4.7	2.8	96.7	砂岩	砥面４面

第50表　３区SK47出土土器観察表（第167図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	下層	弥生土器 壺	ほぼ 完形	※9.6	5.4	17.4	外面：口縁部ナデ、頸部穿孔２ヶ所、肩部列点文、胴部ミガキ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ、胴部指押さえ→ナデ	密 石英、砂粒	良	褐色	外面黒斑

第51表　３区SK56出土土器観察表（第168図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	床面直上	弥生土器 壺	完形	12.4	5.6	21.8	外面：頸部ハケ→ナデ、貼付突帯、肩部２段の列点文、胴部ハケ→ミガキ 内面：口縁部ミガキ、頸部指押さえ、胴部ハケ→ナデ、指押さえ、底部ケズリ	密 雲母、石英	良	灰褐色	

第52表　３区SK50出土石器観察表（第169図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
1	埋土中	砥石	1/3	5.3	3.8	0.8	14.3	凝灰岩	仕上砥、砥面２面

第53表　３区SK33出土土器観察表（第171図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	下層	弥生土器 壺	3/4	※12.9	※5.4	19.5	外面：口縁端部鋸歯文、頸部ハケ、穿孔４か所、２条の貼付突帯、棒状浮文、肩部４段×５条の櫛描沈線、刺突文、沈線間鋸歯文、胴部下半ミガキ 内面：口縁部横方向のミガキ、肩部ナデ、胴部ハケ 底部指押さえ→ナデ	密 雲母、石英、角閃石、白色粒	良	灰茶色	

第54表　３区SK34出土土器観察表（第172図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	下層	弥生土器 壺	完形	11.4	4.6	23.0	外面：口縁部ナデ、肩部ハケ、列点文、胴部ミガキ 内面：口縁部ミガキ、頸部～底部ハケ→ナデ	密 雲母、石英 角閃石	良	褐色	内面黒斑
2	下層	弥生土器 壺	ほぼ完形	10.4	4.1	17.8	外面：口縁部ナデ、肩部ハケ→ミガキ、胴部～底部ミガキ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ、肩部ハケ→ナデ、胴部～底部指押さえ	密 石英、砂粒	良	褐色	外面煤付着 頸部穿孔２個

第55表　３区SK34出土石器観察表（第173図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
3	埋土中	砥石	2/3	18.2	10.9	6.5	1947	デイサイト	砥面３面

第56表　３区SD12出土土器観察表（第175図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 壺	口縁 1/8	※14.0	—	△5.0	外面：口縁端部刻目、口縁部指押さえ→ミガキ、穿孔、頸部刻目のある貼付突帯 内面：指押さえ→ミガキ	密 雲母、石英、砂粒	良	黒茶色	
2	下層	弥生土器 壺	3/4	※11.6	※5.8	24.6	外面：頸部櫛描沈線、肩部横方向のミガキ、胴部縦方向のミガキ 内面：口縁部横方向のミガキ、頸部横ナデ、肩部指押さえ、胴部ハケ	密 石英、角閃石 白色粒	良	褐色	
3	中層	弥生土器 壺	ほぼ完形	※ 9.4	※5.2	16.9	外面：頸部ハケ、胴部指押さえ→ミガキ 内面：口縁部横方向のミガキ、肩部ナデ、胴部ハケ	密 雲母、砂粒	良	灰褐色	
4	上層	弥生土器 甕	完形	※15.9	4.7	19.0	外面：口縁部～頸部ハケ、胴部指押さえ→ミガキ 内面：胴部指押さえ→ミガキ、底部ケズリ→指押さえ	密 雲母、石英、砂粒	良	灰褐色	内外面黒斑 外面炭化物
5	埋土中	弥生土器 蓋	完形	8.4	—	3.0	外面：指押さえ→ミガキ 内面：指押さえ→ミガキ	密 石英、砂粒	やや良	褐色	内外面黒斑

第57表　３区SD13出土土器観察表（第178図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 底部	底部 1/5	—	※12.0	△2.9	外面：ヘラ状工具調整→ミガキ、指押さえ 内面：指押さえ→ミガキ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	

第58表　３区SD14出土土器観察表（第180図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 甕	口縁 破片	※19.8	—	△4.7	外面：口縁部ナデ、頸部ハケ、指押さえ、３条のヘラ描沈線 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、砂粒	良	褐色	

第59表　３区SD14出土石器観察表（第180図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
2	埋土中	石匙	完形	3.3	4.1	0.7	7.4	サヌカイト	

第60表　３区SK25出土土器観察表（第183図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	中層	弥生土器 甕	口縁～胴部 1/3	※31.0	—	△25.6	外面：口縁部ナデ、頸部１条の刻目貼付突帯、胴部ハケ 内面：指押さえ→ナデ	密 石英、白色粒 砂粒	良	褐色	
2	中層	弥生土器 蓋	つまみ部	—	—	△ 6.2	外面：摩耗のため調整不明 内面：ケズリ、ハケ	密	良	淡褐色	

第61表　３区SD15出土土器観察表（第185図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 壺	肩部 破片	—	—	△3.6	外面：刺突文、円形浮文 内面：ケズリ→ナデ	密 石英、砂粒	良好	褐色	

第62表　３区SD16出土土器観察表（第187図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	中層	弥生土器 壺	頸部～肩部 1/4	—	—	△10.9	外面：ミガキ→指押さえ→ナデ 内面：指押さえ、ナデ	密 角閃石・雲母	良	橙褐色	
2	上層	弥生土器 壺	底部 1/3	—	—	△ 8.7	外面：指押さえ→ナデ 内面：ケズリ→指押さえ、ナデ	密 雲母・石英	良	橙褐色	
3	上層	弥生土器 甕	口縁 破片	※24.8	—	△ 2.5	外面：口縁端部刻目、頸部３条のヘラ描沈線 内面：ハケ→ナデ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	

第63表　３区SD16出土石器観察表（第187図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
4	埋土中	石鏃	ほぼ完形	1.8	1.5	0.5	1.1	黒曜石	
5	埋土中	石錐	完形	2.3	1.7	0.5	1.7	黒曜石	

第64表　３区SK44出土土器観察表（第189図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	床面直上	弥生土器 甕	完形	10.5	3.8	10.6	外面：ミガキ 内面：ケズリ→ミガキ	密 雲母、石英、砂粒	良	褐色	外面煤付着

第65表　３区SK45出土石器観察表（第191図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
1	埋土中	石鏃	ほぼ完形	1.4	1.2	0.4	0.4	黒曜石	
2	埋土中	スクレイパー	ほぼ完形	2.8	5.4	1.5	16.7	黒曜石	

第66表　３区SD18出土土器観察表（第193図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	下層	弥生土器 甕	口縁 破片	※18.2	—	△3.2	外面：ハケ→指押さえ、ミガキ 内面：指押さえ→ミガキ	密 雲母・石英	良	褐色	
2	埋土中	弥生土器 甕	底部 1/4	—	※9.4	△3.3	外面：ケズリ→ナデ 内面：ナデ	密 石英、砂粒	良	橙褐色	
3	下層	弥生土器 蓋	ほぼ 完形	※18.5	—	8.8	外面：ミガキ 内面：ナデ、ミガキ、ケズリ	密 石英、角閃石 白色粒	良	褐色	外面黒斑

第67表　３区SD19出土土器観察表（第195図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 甕	口縁 破片	※22.6	—	△2.0	外面：口縁端部刻目、口縁部指押さえ→ナデ、１条のヘラ描沈線 内面：指押さえ→ナデ	密 石英、砂粒	良	褐色	

第68表　３区SD19出土石器観察表（第195図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
2	埋土中	石剣	破片	6.2	6.9	1.3	88.1	安山岩	

第69表　３区SD20出土土器観察表（第197図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 甕	口縁 破片	※17.0	—	△1.8	外面：口縁端部刻目、頸部ハケ→ミガキ 内面：指押さえ→ミガキ	密 石英、白色粒	良	褐色	
2	埋土中	弥生土器 甕	底部 破片	—	※7.0	△2.8	外面：ナデ 内面：指押さえ、ナデ	密 石英、白色粒	良	褐色	

第70表　３区SK42出土土器観察表（第199図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	上層	弥生土器 甕	ほぼ完形	7.4	4.3	15.4	外面：口縁部ナデ、頸部横方向のミガキ、胴部縦方向のミガキ、肩部、胴部最大径部刺突文 内面：ケズリ	密 石英、角閃石 白色粒	良	橙褐色	

第71表　６区SD24出土土器観察表（第204図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 壺	口縁 破片	※15.2	—	△3.0	外面：ナデ 内面：ナデ、指押さえ	密 石英、白色粒 赤色粒	良	淡褐色	内面黒斑

第72表　６区SK36−２出土土器観察表（第210図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	下層	弥生土器 壺	ほぼ完形	※15.0	7.1	35.5	外面：口縁端部刻目、口縁部指押さえ→ハケ→ミガキ、頸部11条の凹線、刺突文、肩部～底部ミガキ 内面：口縁部ミガキ、頸部～肩部ナデ、胴部上半ケズリ→指押さえ、胴部下半ナデ、底部指押さえ	密 石英、白色粒 赤色粒	良	淡褐色	
2	下層	弥生土器 壺	ほぼ完形	13.5	5.7	29.0	外面：口縁端部刻目、口縁部ミガキ、頸部11～14条の凹線、刺突文、肩部～底部ミガキ、胴部中央13条の凹線、刺突文 内面：口縁部ミガキ、頸部～肩部ナデ、胴部上半横方向のミガキ、胴部下半縦方向のミガキ、底部指押さえ	密 石英、白色粒	良	褐色	
3	下層	弥生土器 壺	頸部～底部	—	7.8	△32.9	外面：頸部ミガキ、肩部５条単位の櫛描沈線、刺突文、胴部ミガキ 内面：頸部指押さえ、胴部ケズリ→ナデ、底部指押さえ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	
4	下層	弥生土器 底部	2/3	—	8.6	△11.3	外面：ハケ 内面：ケズリ、指押さえ	密 石英、白色粒	やや良	淡褐色	

第73表　６区SD18出土土器観察表（第226図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 甕	1/3	※14.0	※4.8	17.6	外面：口縁部ナデ、頸部10条のヘラ描沈線、２段の列点文、胴部ハケ→ミガキ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ→ナデ、指押さえ、ミガキ	密 石英、白色粒	良	橙色	
2	埋土中	弥生土器 甕	口縁 破片	※20.9	—	△ 3.3	外面：口縁端部刻目、頸部指押さえ、10条以上のヘラ描沈線 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ→ナデ	密 石英、白色粒	良	淡褐色	
3	上層	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/5	※22.5	—	△ 5.3	外面：口縁部３条の凹線、頸部ナデ、列点文 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、角閃石 白色粒	良	褐色	
4	上層	弥生土器 甕	口縁 破片	※14.0	—	△ 2.2	外面：口縁部２条の凹線、頸部ミガキ 内面：口縁部ミガキ、頸部ケズリ	密 石英、白色粒	良	暗橙褐色	外面煤付着
5	上層	弥生土器 甕	口縁 破片	※16.8	—	△ 3.0	外面：口縁部４条の凹線、頸部ミガキ 内面：ミガキ	密 石英、角閃石 白色粒	良	暗橙褐色	外面炭化物付着
6	上層	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/5	※15.2	—	△ 8.0	外面：口縁部４条の凹線、頸部ミガキ、肩部列点文 内面：口縁部ミガキ、頸部ケズリ	密 石英、角閃石 砂粒	良	橙褐色	外面炭化物付着

第74表　６区SD18出土石器観察表（第226図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
7	埋土中	石鏃	1/2	8.2	6.4	1.3	123.2	デイサイト	

第75表　６区SI27出土土器観察表（第229図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 壺	底部 1/8	—	※8.8	△4.2	外面：ケズリ→ナデ 内面：ケズリ→指押さえ→ナデ	密 雲母、石英 角閃石	良	橙色	

第76表　６区SI27出土石器観察表（第229図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
2	埋土中	砥石	破片	4.8	3.5	0.6	9.6	緑色凝灰岩	仕上砥、砥面２面

第77表　２区SK７出土土器観察表（第236図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	床面直上	弥生土器 甕	口縁～底部 3/4	10.6	※5.0	13.4	外面：ハケ→ミガキ 内面：ハケ→ミガキ	密 雲母、石英、砂粒	良	黒茶色	内外面煤付着

第78表　３区SK９出土土器観察表（第238図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	上層	弥生土器 甕	口縁 破片	—	—	△4.7	外面：ナデ、指押さえ 内面：ナデ、指押さえ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	

第79表　３区SK９出土石器観察表（第238図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
2	上層	楔形石器	完形	2.1	3.4	0.9	6.0	黒曜石	
3	上層	加工痕のある剥片	完形	2.0	2.8	1.0	3.9	黒曜石	
4	下層	砥石	2/3	15.4	10.7	5.6	1106.4	凝灰角礫岩	砥面２面

第80表　３区SK10出土土器観察表（第240図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 甕	胴部 破片	—	—	△4.4	外面：２条のヘラ描沈線、ナデ 内面：ナデ	密 石英	良	褐色	

第81表　３区SK10出土石器観察表（第240図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
2	埋土中	石鏃	完形	2.1	1.3	0.3	0.8	黒曜石	

第82表　３区SK12出土土器観察表（第242図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 壺	肩部 破片	—	—	△3.9	外面：２条の刻目を有する貼付突帯、ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 石英、砂粒	やや良	橙褐色	外面赤彩

第83表　３区SK40出土土器観察表（第246図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	床面直上	弥生土器 甕	完形	26.0	7.1	31.8	外面：口縁端部刻目、口縁部指押さえ、頸部２条のヘラ描沈線、胴部ミガキ、指押さえ 内面：ミガキ、指押さえ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	

第84表　３区SK58出土土器観察表（第249図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	上層	弥生土器 甕	口縁 破片	※19.5	—	△3.8	外面：口縁端部刻み目、口縁部指押さえ→ナデ、頸部３条のヘラ描沈線 内面：指押さえ→ナデ	密 石英	良	橙褐色	

第85表　５区SK31出土石器、石製品観察表（第250図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
1	埋土中	砥石	破片	3.3	2.8	0.6	4.3	凝灰岩	仕上砥、砥面２面
2	中層	管玉	1/2	0.9	0.45	0.4	0.2	緑色凝灰岩	両側穿孔
3	下層	管玉	1/2	0.9	0.4	0.4	0.2	緑色凝灰岩	

第86表　６区SD30出土土器観察表（第251図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 壺	完形	8.5	5.3	17.9	外面：口縁部ナデ、頸部～肩部８～９条の櫛描沈線、刺突文、胴部ハケ→ナデ 内面：ナデ	密 砂粒	良好	黄灰色	

第87表　６区SK51出土土器観察表（第253図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	下層	弥生土器 甕	胴部	—	—	△10.8	外面：ハケ→ミガキ 内面：ケズリ	密 石英、白色粒	良	橙褐色	

第88表　３区土器溜１出土土器観察表（第256図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	地山よりやや浮く	弥生土器 甕	1/2	※23.6	—	△20.6	外面：口縁端部刻目、口縁部ナデ、頸部４条のヘラ描沈線、胴部ナデ→ミガキ 内面：口縁部ナデ、胴部指押さえ→ナデ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	外面煤付着
2	地山よりやや浮く	弥生土器 甕	1/3	※24.6	—	△17.0	外面：口縁部ナデ、頸部４条のヘラ描沈線、胴部ハケ 内面：指押さえ→ナデ	密 雲母、石英 角閃石	良	灰褐色	

第89表　３区土器溜２出土土器観察表（第258図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	床面直上	弥生土器 甕	口縁～胴部 1/2	※18.8	—	△12.2	外面：口縁端部刻目、胴部ハケ→ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	
2	床面直上	弥生土器 甕	ほぼ完形	※25.4	7.4	△29.0	外面：口縁端部刻目、口縁部ナデ、頸部６条のヘラ描沈線、胴部ハケ→ナデ、底部指押さえ→ナデ 内面：口縁～頸部指押さえ→ハケ→ナデ、胴部ナデ、指押さえ	密 雲母、石英	良	褐色	外面煤付着

第90表　２区SI２出土土器観察表（第263図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	下層	弥生土器 壺	頸部～底部	—	※7.4	△24.5	外面：頸部８条の凹線、肩部ハケ、胴部下半ミガキ 内面：頸部指押さえ→ナデ、胴部上半ケズリ→指押さえ、胴部下半ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	褐色	
2	埋土中	弥生土器 甕	口縁～肩部	※15.4	—	△ 5.1	外面：口縁部２条の凹線、胴部ナデ 内面：ナデ	密 石英、砂粒	良	赤褐色	
3	埋土中	弥生土器 甕	口縁 破片	※16.0	—	△ 2.9	外面：口縁部２条の平行沈線、ナデ 内面：ナデ	密 石英、砂粒	やや良	灰褐色	

第91表　２区SI２出土石器観察表（第263図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
4	埋土中	磨石・敲石	完形	9.9	6.6	3.3	304.0	デイサイト	

第92表　２区SI７出土土器観察表（第266図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	下層	弥生土器 壺	口縁 1/2	※15.0	—	△5.3	外面：口縁端部１条の沈線、ナデ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	やや良	灰褐色	
2	中層	弥生土器 壺	口縁～肩部	※13.8	—	△7.6	外面：口縁部凹線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ→ナデ、胴部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	やや良	褐色	

3	床面直上	弥生土器 甕	口縁 破片	※13.8	—	△4.5	外面：平行沈線、ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、白色粒、砂粒	やや良	褐色	

第93表　２区SI７出土石器観察表（第266図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
4	下層	磨石	完形	12.3	7.0	6.0	666.3	凝灰角礫岩	

第94表　２区SI16出土土器観察表（第269図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	下層	弥生土器 甕	口縁 1/8	※25.2	—	△4.5	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、白色小石、砂粒	やや良	橙褐色	

第95表　２区SI16出土石器観察表（第269図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
2	埋土中	砥石	完形	4.9	3.0	2.8	56.9	凝灰岩	仕上砥、砥面４面

第96表　２区SI17出土土器観察表（第271図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	下層	弥生土器 甕	口縁 破片	※18.4	—	△2.9	外面：２条の凹線、ナデ 内面：ナデ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	外面煤付着
2	埋土中	弥生土器 甕	口縁 破片	※17.5	—	△2.2	外面：口縁部２条の平行沈線、頸部指押さえ→ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 角閃石・石英	良	褐色	
3	上層	甑	把手	—	—	△8.6	外面：指押さえ 内面：ケズリ	密 石英、砂粒	やや良	淡褐色	

第97表　２区SI17出土石器、石製品観察表（第271図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
4	上層	砥石	4/5	12.6	7.3	4.9	566.9	珪岩	砥面２面
5	下層	砥石	ほぼ完形	8.5	3.1	2.1	82.9	泥岩	中砥、砥面４面
6	下層	管玉	完形	1.3	0.35	−	0.2	碧玉	片側穿孔

第98表　２区SI21出土土器観察表（第273図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 甕	口縁～ 肩部 破片	※18.4	—	△4.8	外面：口縁部４条の凹線、頸部ミガキ 内面：口縁部ミガキ、肩部指押さえ→ケズリ	密 石英、白色粒	やや良	褐色	内外面煤付着

第99表　３区SI14出土土器観察表（第276図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	下層	弥生土器 甕	口縁～頸部	※17.2	—	△4.5	外面：口縁部３条の凹線、胴部縦ハケ 内面：口縁部摩耗のため調整不明、胴部ケズリ	密	良	橙褐色	内外面赤彩

第100表　４区SS18出土土器観察表（第280図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	上層	弥生土器 壺	口縁 1/4	※17.0	—	△ 4.8	外面：口縁部凹線、頸部指押さえ→ナデ 内面：口縁部指押さえ→ナデ	密 石英、砂粒	良	褐色	
2	上層	弥生土器 壺	口縁 1/8	※16.6	—	△ 4.2	外面：口縁部指押さえ→ナデ、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	淡褐色	外面黒斑
3	下層	弥生土器 壺	口縁 1/4	※ 9.3	—	△ 7.2	外面：口縁部ミガキ 内面：口縁部ミガキ、胴部ケズリ	密 雲母、石英 白色粒	良	橙褐色	口縁内面・ 外面赤彩
4	上層	弥生土器 壺	口縁 1/8	※11.5	—	△ 3.5	外面：口縁部ナデ、頸部指押さえ→ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、角閃石 砂粒	良	黄褐色	
5	上層	弥生土器 壺	ほぼ 完形	7.4	9.1	8.2	外面：指押さえ→ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ナデ、指押さえ	密 石英、白色粒 砂粒	良	橙色	
6	下層	弥生土器 甕	1/3	※15.5	※5.8	△22.2	外面：口縁部９～10条の櫛描沈線→ナデ消し、頸部ナデ、 櫛状工具による列点文、胴部上半横ハケ、胴部下半縦ハケ、指押さえ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 石英、白色粒 砂粒	良	灰茶褐色	外面黒斑
7	下層	土師器 壺	1/3	※14.1	5.2	△21.0	外面：口縁部ナデ、胴部上半摩耗のため調整不明、胴部下半ハケ、底部ハケ、指押さえ 内面：口縁部～頸部ナデ、胴部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	褐色	外面煤付着

8	埋土中	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/5	※14.2	—	△ 3.1	外面：口縁部４条の櫛描沈線、頸部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、白色粒	良	橙褐色	
9	床面直上	弥生土器 甕	口縁 1/6	※15.8	—	△ 4.4	外面：口縁部２条の櫛描沈線、頸部ナデ、指押さえ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ケズリ	密 石英、砂粒	良	淡褐色	
10	埋土中	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/8	※15.5	—	△ 3.8	外面：口縁部４～５条の櫛描沈線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	灰褐色	口縁部黒斑
11	上層	弥生土器 甕	口縁～頸部	※16.4	—	△ 3.6	外面：口縁部５～６条の櫛描沈線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	橙色	内面コゲあり
12	上層	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/8	※18.6	—	△ 3.4	外面：口縁部２～３条の凹線、頸部ナデ 内面：摩耗のため調整不明	密 砂粒	良	橙色	
13	埋土中	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/12	※22.4	—	△ 3.7	外面：口縁部２条の凹線、頸部ナデ 内面：摩耗のため調整不明	密 雲母、石英 白色粒	良	灰褐色	
14	埋土中	弥生土器 甕	口縁～胴部 1/6	※13.9	—	△ 8.0	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、砂粒	良	淡橙色	
15	埋土中	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/5	※19.3	—	△ 4.9	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 白色粒、砂粒	良	茶褐色	
16	埋土中	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/8	※28.0	—	△ 6.9	外面：口縁部６条の貝殻腹縁による平行沈線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、白色粒 砂粒	良	橙褐色	
17	上層	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/8	※27.8	—	△ 6.8	外面：口縁部櫛描沈線→ナデ消し、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ→指押さえ、頸部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	褐色	内面黒斑
18	上層	弥生土器 注口土器	注口部	長さ 5.0	—	—	外面：ケズリ 内面：ケズリ	密 砂粒	良	淡褐色	
19	上層	弥生土器 注口土器	把手	—	—	△ 4.8	外面：ミガキ、指押さえ	密 白色粒、砂粒	良	橙色	煤付着
20	埋土中	弥生土器 高坏	1/2	※14.6	—	△ 5.5	外面：口縁部３条の凹線、胴部ミガキ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ、指押さえ→ナデ	密 石英、白色粒 砂粒	良	褐色	
21	上層	弥生土器 器台	2/3	※18.0	—	△ 7.0	外面：口縁部凹線 内面：ミガキ	密 石英、砂粒	良	橙褐色	
22	上層	弥生土器 器台	脚部 1/6	—	※15.7	△ 3.1	外面：脚部ミガキ、裾部６～７条の凹線 内面：ケズリ	密 石英、白色粒 砂粒	良	赤褐色	
23	下層	弥生土器 器台	脚部 1/2	—	13.4	△ 3.0	外面：脚部指押さえ→ナデ、裾部２条の凹線 内面：ケズリ→指押さえ	密 雲母、石英 白色粒	良	橙褐色	
24	埋土中	弥生土器 高坏	坏部	※13.3	—	△ 3.9	外面：口縁端部２条の凹線、口縁部ナデ、頸部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部摩耗のため調整不明	密 石英、白色粒	良	橙色	
26	SB３ P１	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/8	※15.8	—	△ 5.1	外面：口縁部１条の沈線、頸部指押さえ→ハケ 内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良好	暗灰白色	

第101表　４区SS18出土金属製品観察表（第280図）

遺物番号	出土層位	種　別	部位 残存率	法　量（cm）			重量(g)	材　質	備　　考
				最大長	最大幅	最大厚			
25	埋土中	鉄鎌？		4.7	2.1	0.4	11.1	鉄	

第102表　４区SS19出土土器観察表（第282図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
1	埋土中	弥生土器 壺	口縁 1/8	※10.6	—	△4.8	外面：口縁部摩耗のため調整不明、頸部ハケ 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、白色粒	良	橙褐色	外面赤彩
2	埋土中	弥生土器 壺	胴部～底部	—	※9.1	△7.4	外面：指押さえ→ミガキ 内面：ケズリ	密 石英、砂粒	良	淡褐色	外面煤付着
3	埋土中	弥生土器 甕	口縁 1/8	※14.8	—	△3.2	外面：口縁部５条の櫛描平行沈線、頸部ナデ 内面：口縁部指押さえ→ナデ、頸部ケズリ	密 角閃石、白色粒 砂粒	良	褐色	外面煤付着
4	埋土中	弥生土器 甕	口縁 1/12	※16.6	—	△3.2	外面：口縁部３条の櫛描平行沈線、頸部ハケ 内面：口縁部指押さえ→ナデ、頸部ケズリ	密 石英、白色粒 砂粒	良	黒褐色	外面炭化物付着
5	埋土中	弥生土器 甕	口縁 1/4	※21.8	—	△5.2	外面：摩耗のため調整不明 内面：口縁部摩耗のため調整不明、頸部ナデ、胴部ケズリ	密 雲母、石英 白色粒	良	赤褐色	
6	埋土中	弥生土器 注口土器	把手	幅 2.3	厚さ 1.2	—	外面：ケズリ→指押さえ→ナデ	密 石英、白色粒 砂粒	良	黄褐色	

第103表　４区SS19出土石器観察表（第282図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	遺存 状態	法　量（cm）			重量(g)	石　　材	備　　考
				最大長	最大幅	最大厚			
7	埋土中	磨石	完形	4.1	3.2	3.0	54.4	デイサイト	

第104表　４区SS13出土土器観察表（第288図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
1	SS13－1 埋土中	弥生土器 壺	口縁～頸部 1/5	※14.4	—	△ 7.3	外面：口縁部５～６条の凹線、頸部ハケ 内面：口縁部ハケ→ナデ、頸部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	橙褐色	外面黒斑
2	SS13－1 埋土中	弥生土器 壺	口縁～頸部 1/2	※15.3	—	△ 6.8	外面：口縁部２条の凹線、頸部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、砂粒	良	暗橙褐色	
3	SS13－1 上層	弥生土器 壺	口縁～頸部 1/5	※16.8	—	△ 5.4	外面：口縁部２条の凹線、頸部ハケ→ナデ 内面：口縁部ハケ→ナデ、頸部ケズリ	密 雲母、石英 白色粒	良	橙色	

4	SS13－1 埋土中	弥生土器 壺	口縁～頸部 1/10	※20.1	—	△ 6.6	外面：口縁部２～３条の凹線、頸部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 雲母、石英 白色粒	良	橙色	
5	SS13－1 埋土中	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/12	※16.4	—	△ 5.3	外面：口縁部３条の凹線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	橙色	
6	SS13－1 中層	弥生土器 甕	口縁～胴部 1/7	※19.4	—	△ 6.0	外面：口縁部２条の凹線、頸部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部ハケ	密 石英、砂粒	良	赤橙色	口縁部黒斑
7	SS13－1 埋土中	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/1	※ 9.2	—	△ 5.2	外面：口縁部６～７条の貝殻腹縁による平行沈線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	橙褐色	内面黒斑
8	SS13－1 下層	弥生土器 甕	口縁～胴部 1/3	※14.0	—	△ 6.2	外面：ナデ、肩部列点文 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	橙色	外面煤付着
9	SS13 上層	弥生土器 甕	1/3	※ 9.8	2.1	7.9	外面：ハケ→ナデ、指押さえ 内面：口縁部押さえ→ナデ、胴部ケズリ、指押さえ	密 白色粒、砂粒	良	橙色	外面黒斑
10	SS13－1 埋土中	土師器 鉢	口縁～胴部 1/4	※15.7	—	△ 4.1	外面：口縁部ナデ、胴部ミガキ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	灰褐色	内面黒斑
11	SS13－1 埋土中	弥生土器 器台	脚部 1/2	—	※13.8	△ 9.4	外面：脚部ハケ、裾部２条の凹線 内面：脚部ナデ、裾部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	橙色	
12	SS13－1 中層	弥生土器 器台	脚部 1/6	—	※13.7	△ 4.4	外面：脚部摩耗のため調整不明、裾部２条の凹線 内面：摩耗のため調整不明	密	良	橙色	
17	SS13－2 埋土中	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/8	※13.8	—	△ 4.1	外面：口縁部４条の貝殻腹縁による平行沈線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部調整不明	密 石英、白色粒 砂粒	良	褐色	
18	SS13－2 埋土中	弥生土器 甕	口縁～頸部	※16.6	—	△ 5.8	外面：口縁部２条の凹線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、白色粒 砂粒	良	橙色	
20	SS13 埋土中	弥生土器 器台	1/6	※22.6	※24.2	△25.0	外面：口縁部４条の凹線、頸部ミガキ、脚部８条の凹線 内面：受部ミガキ、脚部ケズリ	密 石英、白色粒 砂粒	良	灰褐色	

第105表　４区SS13出土金属製品観察表（第288図）

遺物番号	出土層位	種　別	部位 残存率	法　量（cm）			重量(g)	材　質	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
13	SS13-1 下層	釘？	2/3	4.7	0.4	0.4	15.6	鉄	

第106表　４区SS13出土石器観察表（第288図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	遺存 状態	法　量（cm）			重量(g)	石　材	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
14	SS13 埋土中	スクレイパー	完形	2.3	2.1	0.6	2.0	黒曜石	
15	SS13 埋土中	磨製石斧	柄	5.5	3.7	3.5	102.0	珪化木	
16	SS13 P147	台石	完形	19.9	16.6	8.7	3323.0	凝灰角礫岩	敲打痕あり、下部に煤付着
19	SS13-2 埋土中	砥石	1/2	4.6	5.1	2.0	42.0	安山岩	

第107表　４区SS32出土土器観察表（第290図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
1	下層	弥生土器 壺	1/2	※14.7	—	△9.8	外面：口縁部４条の凹線、頸部ナデ、５条の凹線 内面：口縁部ナデ、頸部ナデ、絞り	密	良	黄橙色	
2	埋土中	弥生土器 甕	口縁 1/16	※13.4	—	△2.2	外面：口縁部２条の平行沈線→ナデ消し 内面：ナデ	密	良	橙色	
3	下層	弥生土器 甕	1/8	※16.8	—	△8.6	外面：口縁部３～４条の平行沈線→ナデ消し、肩部ハケ、指押さえ 内面：口縁部ナデ、胴部ハケ、指押さえ	密 砂粒	良	橙色	

第108表　４区SS32出土金属製品観察表（第290図）

遺物番号	出土層位	種　別	部位 残存率	法　量（cm）			重量(g)	材　質	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
4	埋土中	刀子	茎部	3.7	1.7	0.6	19.1	鉄	
5	埋土中	釘	1/2	2.9	0.4	0.4	2.9	鉄	

第109表　４区SS28出土土器観察表（第292図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
1	上層	弥生土器 高坏	口縁 1/10	※22.2	—	△3.8	外面：口縁部９～12条の櫛描沈線→ナデ消し、頸部ナデ 内面：口縁部ミガキ	密 雲母、砂粒	良	橙色	内外面赤彩

第110表　４区SS21出土土器観察表（第294図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	床面直上	弥生土器 甕	口縁～底部	※18.7	—	△4.8	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密	良	橙色	外面炭化物付着

第111表　５区SI２出土土器観察表（第296図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	中層	土師器 甕	口縁～肩部	※14.8	—	△8.8	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 砂粒	やや良	橙褐色	
2	中層	土師器 低脚坏	脚部	—	※12.8	△3.9	外面：摩耗のため調整不明 内面：ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	やや良	褐色	

第112表　６区SI13出土土器観察表（第300図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	上層	土師器 甕	口縁～頸部 1/8	※13.6	—	△ 4.6	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密	良	黄橙色	
2	埋土中	土師器 甕	口縁～肩部 1/4	※25.0	—	△10.9	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ、胴部ケズリ→ハケ	密 砂粒	良	橙色	
3	上層	土師器 低脚坏	脚部	—	※6.7	△ 1.9	外面：ナデ 内面：ナデ、指押さえ	密 砂粒	良	橙色	
4	埋土中	土師器 器台	受部 1/4	※ 9.2	—	△ 3.5	外面：ハケ、指押さえ 内面：ナデ、指押さえ	密 砂粒、白色粒	良	橙色	

第113表　６区SI13出土金属製品観察表（第300図）

遺物番号	出土層位	種別	部位 残存率	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	材質	備考
5	下層	刀子？	茎部	3.3	1.8	0.3	7.4	鉄	
6	下層	刀子	ほぼ完形	11.3	1.5	0.55	35.5	鉄	木質残存

第114表　６区SI13出土石器観察表（第300図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
7	埋土中	磨石・敲石	完形	13.5	6.7	3.9	455.0	デイサイト	上下面、両側面敲打痕あり
8	下層	磨石・敲石	完形	9.5	5.9	3.7	318.5	デイサイト	上下面、表裏面、両側面敲打痕あり

第115表　６区SI14出土土器観察表（第301図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
9	下層	土師器 壺	口縁～頸部 1/5	※20.8	—	△7.5	外面：ハケ、指押さえ 内面：口縁部ハケ、指押さえ、頸部ナデ、指押さえ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙色	内外面赤彩
10	下層	土師器 甕	口縁～肩部 1/2	※13.8	—	△4.8	外面：口縁部ハケ状工具によるナデ、頸部ナデ 内面：口縁部ハケ状工具によるナデ、頸部ケズリ	密	良	橙色	
11	下層	土師器 甕	口縁～肩部 1/6	※15.0	—	△4.7	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、白色粒	良	橙色	
12	下層	土師器 甕	口縁～肩部 1/6	※16.8	—	△7.5	外面：摩耗のため調整不明 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 白色粒	良	橙色	
13	下層	土師器 甕	口縁～頸部 1/6	※16.0	—	△4.7	外面：口縁部ハケ状工具によるナデ、頸部ナデ 内面：口縁部ハケ状工具によるナデ、頸部ケズリ	密	良	橙褐色	
14	下層	土師器 高坏	坏部 3/4	—	—	△1.7	外面：摩耗のため調整不明 内面：ミガキ、指押さえ	密 石英、砂粒	良	橙色	
15	下層	土師器 低脚坏	1/4	※19.6	—	△3.9	外面：ハケ 内面：ハケ、指押さえ	密	良	橙色	
16	下層	土師器 低脚坏	坏部 1/2	※10.4	—	△4.9	外面：ナデ、指押さえ 内面：ナデ、指押さえ	密 雲母、砂粒	良	淡黄橙色	
17	下層	土師器 低脚坏	脚部	—	※ 2.2	△2.0	外面：ナデ、指押さえ 内面：ナデ	密 石英、白色粒 砂粒	良	橙色	
18	下層	土師器 坏身	1/3	※15.7	—	△4.7	外面：摩耗のため調整不明 内面：指押さえ	密 石英、白色粒	良	橙色	
19	下層	甑	把手	—	—	△7.6	ハケ、指押さえ	密 砂粒、白色粒	良	黄褐色	黒斑
20	下層	甑	把手	—	—	△3.0	ハケ、指押さえ	密 砂粒	良	灰黄色	黒斑
21	下層	甑	1/12	—	※41.8	△8.4	外面：ハケ 内面：ハケ、指押さえ	密	良	黄橙色	黒斑
22	下層	手捏ね土器	底部	—	—	△1.6	外面：指押さえ 内面：ケズリ	密 石英、砂粒	良	橙色	

第116表　６区SI14出土金属製品観察表（第301図）

遺物番号	出土層位	種　別	部位 残存率	法　量（cm）			重量(g)	材　質	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
23	埋土中	鉄鏃	刃部	5.5	1.5	0.2	8.0	鉄	
24	床面直上	刀子	茎部	5.1	1.3	0.4	19.0	鉄	
25	埋土中	釘	1/2	3.5	0.5	0.2	3.3	鉄	
26	下層	棒状鉄製品	破片	3.8	0.7	0.2	4.8	鉄	

第117表　６区SS11出土土器観察表（第302図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
27	下層	土師器 壺	口縁～頸部 1/3	※16.4	—	△ 9.3	外面：ナデ、指押さえ 内面：口縁部～頸部ナデ、胴部ケズリ	密 石英、白色粒	良	橙色	
28	上層	土師器 壺	口縁～肩部 1/2	※18.0	—	△11.0	外面：ナデ 内面：口縁部～頸部ハケ状工具によるナデ、指押さえ、胴部ケズリ	密 白色粒	良	橙色	
29	上層	土師器 甕	頸部 破片	—	—	△ 6.0	外面：ナデ、頸部貝殻腹縁による刺突文 内面：ナデ	密 砂粒	良	橙色	
30	埋土中	土師器 甕	口縁～肩部 1/6	※15.9	—	△ 5.6	外面：ナデ、ハケ 内面：口縁部～頸部ハケ状工具によるナデ、胴部ケズリ	密 白色粒	良	橙色	
31	埋土中	土師器 高坏	口縁～胴部 1/5	※11.4	—	△ 5.3	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密	良好	褐色	外面漆付着
32	下層	土師器 低脚坏	1/4	※21.0	—	△ 4.6	外面：摩耗のため調整不明 内面：ナデ	密 白色粒	良	黄橙色	

第118表　６区SS11出土金属製品観察表（第302図）

遺物番号	出土層位	種　別	部位 残存率	法　量（cm）			重量(g)	材　質	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
33	埋土中	鉄鎌？	刃部	2.7	2.0	0.25	5.2	鉄	
34	下層	刀子	柄部	5.7	2.1	0.4	33.1	鉄	
35	下層	刀子	刃部～茎部	11.0	1.3	0.25	15.3	鉄	

第119表　６区SS11出土石器観察表（第302図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	遺存 状態	法　量（cm）			重量(g)	石　材	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
36	上層	砥石	2/3	10.0	5.5	4.6	252.1	凝灰岩	中砥、砥面４面
37	上層	砥石	1/2	9.0	7.5	4.0	356.1	閃緑岩	中砥
38	下層	砥石	ほぼ完形	16.5	6.4	4.8	646.3	凝灰岩	仕上砥、砥面４面

第120表　６区SS２出土土器観察表（第304図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
1	上層	土師器 甕	口縁～頸部 1/3	※20.0	—	△5.4	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	橙褐色	
2	上層	土師器 甕	口縁～頸部 1/6	※17.4	—	△5.4	外面：ナデ 内面：摩耗のため調整不明	密 砂粒	良	橙色	
3	上層	土師器 器台	受部 1/4	※21.5	—	△7.0	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、白色粒 砂粒	良	橙色	

第121表　６区SS３出土土器観察表（第305図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
4	下層	土師器 低脚坏	1/3	—	※4.0	△1.9	外面：ナデ 内面：ハケ	密 白色粒、砂粒	良	灰褐色	

第122表　６区SS３出土石器観察表（第305図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	遺存 状態	法　量（cm）			重量(g)	石　材	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
5	下層	台石	2/3	14.4	7.1	3.8	621.3	凝灰角礫岩	被熱痕あり、煤付着

第123表　４区SS５−２出土土器観察表（第307図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
1	床面直上	弥生土器 甕	口縁 破片	※13.5	—	△2.6	外面：口縁部ナデ、頸部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良好	褐色	外面煤付着
2	上層	弥生土器 甕	口縁～頸部 破片	※16.8	—	△5.8	外面：口縁部ナデ、頸部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ→ナデ、胴部ケズリ	密 雲母、石英 白色粒	良好	褐色	
3	上層	弥生土器 器台	口縁 1/4	※16.0	—	△4.6	外面：口縁部凹線、頸部ミガキ 内面：ナデ	密 石英、白色粒 砂粒	良好	橙褐色	

第124表　４区SS５−２出土金属製品観察表（第307図）

遺物番号	出土層位	種別	部位 残存率	法量（cm） 最大長	 最大幅	 最大厚	重量(g)	材質	備考
4	中層	刀子？	破片	2.9	2.0	0.2	9.0	鉄	

第125表　４区SS５−１出土土器観察表（第307図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	 底径	 器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
5	下層	弥生土器 甕	口縁 破片	※15.9	—	△3.9	外面：口縁部４条の平行沈線、頸部ナデ 内面：ナデ	密 石英、白色粒 砂粒	良好	褐色	
6	下層	弥生土器 底部	底部	—	—	△1.7	外面：ナデ 内面：指押さえ→ケズリ	密	良好	褐色	

第126表　４区SS５−１出土金属製品観察表（第307図）

遺物番号	出土層位	種別	部位 残存率	法量（cm） 最大長	 最大幅	 最大厚	重量(g)	材質	備考
7	中層	板状鉄製品	破片	6.8	5.8	1.0	122.7	鉄	

第127表　６区SI１−４出土石器観察表（第309図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存 状態	法量（cm） 最大長	 最大幅	 最大厚	重量(g)	石材	備考
1	埋土中	砥石	1/2	9.0	5.9	3.9	261.9	凝灰岩	中砥、砥面２面、廃棄後被熱

第128表　6区SI１−３出土土器観察表（第310図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	 底径	 器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
2	埋土中	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/10	※15.5	—	△4.2	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、白色粒 砂粒	良	橙褐色	
3	埋土中	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/5	※24.9	—	△5.3	外面：口縁部７～８条の凹線、頸部ナデ 内面：口縁部摩耗のため調整不明、頸部ケズリ	密 石英、白色粒 砂粒	良	橙色	外面黒斑

第129表　６区SI１−３出土石器観察表（第310図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存 状態	法量（cm） 最大長	 最大幅	 最大厚	重量(g)	石材	備考
4	上層	磨石・敲石	完形	8.5	5.4	2.0	127.7	デイサイト	下端：敲打痕

第130表　６区SI１−３出土ガラス製品観察表（第310図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存 状態	法量（cm） 最大長	 最大幅	 最大厚	重量(g)	色調・材質	備考
5	下層	管玉	1/2	1.5	0.7	0.4	0.5	色調：灰色不透明、材質：鉛バリウムガラス	捩り引き技法

第131表　６区SI１−２出土土器観察表（第313図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	 底径	 器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
6	下層	弥生土器 甕	口縁～頸部	※11.0	—	△ 3.8	外面：摩耗のため調整不明 内面：口縁部摩耗のため調整不明、胴部ケズリ	密 石英、白色粒 砂粒	良	淡橙褐色	
7	埋土中	弥生土器 甕	口縁～頸部 破片	※14.1	—	△ 2.0	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、白色粒 砂粒	良	灰褐色	
8	上層	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/10	※17.0	—	△ 3.9	外面：口縁部２条の凹線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、白色粒 砂粒	良	橙色	
9	埋土中	弥生土器 甕	口縁～頸部 破片	※15.0	—	△ 2.4	外面：口縁部２条の凹線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ	密 石英、砂粒 赤色粒	良	橙色	
10	Ｐ８	弥生土器 甕	肩部 底部	—	3.7	△21.0	外面：肩部波状文、４条の沈線、ハケ、底部ハケ→ナデ 内面：肩部ケズリ、ハケ、底部ケズリ、ハケ、指押さえ	密 白色粒、砂粒	良	灰褐色	
11	下層	弥生土器 高坏	坏部 1/10	※19.8	—	△ 3.4	外面：口縁部３条の凹線 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、砂粒 赤色粒	良	橙褐色	
12	上層	土師器 低脚坏	—	—	※ 3.7	△ 2.2	外面：ナデ 内面：坏部ミガキ、指押さえ、脚部ナデ	密 石英、砂粒 赤色粒	良	橙色	
13	下層	土師器 器台	1/3	※21.4	※19.6	△13.0	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 白色粒、砂粒	良	褐色	

第132表　６区SI１－２出土石器観察表（第313図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量 (cm) 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
14	下層	砥石	完形	7.9	4.1	2.3	119.8	砂岩	中砥・砥面４面
15	下層	砥石	3/4	8.9	4.6	3.0	210.6	玄武岩	中砥・砥面５面
16	埋土中	砥石	ほぼ完形	10.2	6.0	2.4	246.0	砂岩	中砥・砥面４面
17	下層	砥石	1/2	8.8	9.0	6.9	761.1	デイサイト	中砥・砥面５面
18	埋土中	磨石・敲石	ほぼ完形	10.1	9.2	2.1	295.5	デイサイト	右側縁敲打痕
19	埋土中	磨石	完形	8.7	6.9	2.3	188.0	デイサイト	

第133表　６区SI１－２出土金属製品観察表（第313図）

遺物番号	出土層位	種別	部位残存率	法量 (cm) 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	材質	備考
20	下層	刀子	茎部	2.1	1.5	0.2	3.4	鉄	
21	埋土中	釘	1/2	3.0	0.4	0.4	3.9	鉄	
22	埋土中	鉇	刃部	2.9	1.5	0.9	7.7	鉄	

第134表　６区SI１－１出土土器観察表（第314図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位残存率	法量 (cm) 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
23	下層	弥生土器 壺	口縁～頸部 1/5	※16.0	—	△4.7	外面：口縁部摩耗のため調整不明、頸部ナデ、ミガキ 内面：摩耗のため調整不明	密 砂粒	良	橙色	
24	埋土中	弥生土器 壺	口縁～頸部 1/5	※10.3	—	△2.8	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、白色粒 砂粒	良	橙灰褐色	外面黒斑
25	下層	土師器 器台	受部 1/5	※24.1	—	△7.4	外面：ミガキ、ナデ 内面：ミガキ	密 石英、白色粒 砂粒	良	灰褐色	

第135表　６区SI１－１出土石器観察表（第314図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量 (cm) 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
26	埋土中	砥石	完形	9.7	4.0	2.0	134.4	デイサイト	中砥、砥面３面

第136表　６区SI１－１出土金属製品観察表（第314図）

遺物番号	出土層位	種別	部位残存率	法量 (cm) 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	材質	備考
27	中層	刀子	破片	2.8	1.4	0.2	5.9	鉄	

第137表　６区SI６出土土器観察表（第317図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位残存率	法量 (cm) 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
5	下層	弥生土器 壺	口縁～肩部 1/2	※15.0	—	△7.8	外面：口縁部３条の凹線、頸部～肩部摩耗のため調整不明 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ、胴部ケズリ	密 砂粒	良	灰茶色	
6	床面直上	弥生土器 壺	口縁～頸部 1/6	※11.5	—	△2.7	外面：口縁部２条の凹線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	褐色	
7	下層	弥生土器 注口土器	把手	—	—	△6.5	外面：ナデ	密 石英、砂粒	良	橙色	

第138表　６区SI２出土土器、土製品観察表（第319図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位残存率	法量 (cm) 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	上層	弥生土器 壺	口縁～頸部 1/6	※20.9	—	△2.8	外面：摩耗のため調整不明 内面：口縁部摩耗のため調整不明、頸部ケズリ	密 石英、砂粒	良	褐色	
2	下層	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/10	※17.2	—	△3.7	外面：口縁端部４条の凹線、口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ、ミガキ、頸部ケズリ	密 石英、白色粒 砂粒	良	淡橙褐色	内面黒斑
3	埋土中	弥生土器 鉢	1/6	※17.2	※10.3	△8.9	外面：ハケ→ナデ、指押さえ 内面：口縁部指押さえ、胴部ハケ→ナデ、底部ハケ、指押さえ	密 雲母、石英 白色粒	良	灰橙色	
4	上層	土玉	ほぼ完形	直径 1.7	—	1.3	外面：ナデ	密	良	黒茶色	重量：3.4ｇ

第139表　６区SI２出土石器、石製品観察表（第319図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量 (cm) 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
5	下層	砥石	破片	2.9	3.9	1.0	20.9	凝灰岩	仕上砥、砥面２面、被熱痕あり
6	下層	砥石	完形	11.5	7.8	6.3	609.1	珪岩	中砥
7	上層	砥石	1/3	9.1	9.4	7.5	616.2	凝灰角礫岩	荒砥、砥面７面
8	上層	管玉	完形	2.5	0.55	0.5	1.0	緑色凝灰岩	両側穿孔、孔径0.2㎝

第140表　６区SI４出土土器観察表（第320図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	上層	土師器 直口壺	口縁 1/2	※13.6	—	△ 7.2	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	灰褐色	
2	上層	土師器 高坏	1/3	※19.4	—	△11.9	外面：摩耗のため調整不明 内面：坏部摩耗のため調整不明、脚部ケズリ	密 石英、砂粒	良	橙褐色	
3	上層	土師器 低脚坏	脚部 ほぼ完形	—	4.5	△ 1.6	外面：ナデ 内面：指押さえ	密 砂粒	良	橙色	

第141表　６区SI４出土石器観察表（第320図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
4	埋土中	砥石	1/3	8.5	7.5	6.5	572.9	ハンレイ岩	中砥、砥面４面

第142表　６区SS12−１出土土器、土製品観察表（第325図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 甕	口縁〜肩部 1/12	※15.8	—	△ 8.1	外面：口縁部ナデ、肩部ハケ 内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	橙色	
2	床面直上	弥生土器 甕	口縁〜頸部 1/6	※14.2	—	△ 3.5	外面：ナデ 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、白色粒 砂粒	良	橙橙色	
3	床面直上	弥生土器 甕	口縁〜頸部 1/6	※14.8	—	△ 3.9	外面：口縁部６条の凹線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良好	橙褐色	
4	中層	弥生土器 甕	口縁〜頸部 1/6	※16.8	—	△ 5.6	外面：口縁部５条の凹線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密	良好	橙褐色	
5	上層	弥生土器 甕	口縁〜頸部 1/5	※18.9	—	△ 4.4	外面：口縁部５条の凹線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、白色粒 砂粒	良好	褐色	
6	埋土中	弥生土器 甕	口縁 破片	※16.2	—	△ 3.6	外面：ナデ 内面：ナデ	密 石英、白色粒 砂粒	良好	褐色	
7	埋土中	弥生土器 底部	底部 1/6	—	※6.6	△11.7	外面：胴部ハケ、底部ミガキ 内面：ケズリ、指押さえ	密 白色粒、砂粒	良	橙色	
8	床面直上	弥生土器 注口土器？	頸部〜胴部 破片	—	—	△ 3.8	外面：頸部ナデ、肩部ハケ 内面：ケズリ	密 砂粒	良	灰褐色	肩部円孔
9	中層	弥生土器 鉢	口縁〜胴部 1/6	※14.7	—	△ 4.8	外面：工具によるナデ 内面：ケズリ	密 砂粒	良	褐色	
10	中層	弥生土器 鉢	口縁 1/8	※12.3	—	△ 2.6	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、砂粒	良	橙色	
11	埋土中	手捏ね土器	1/2	6.5	—	4.7	外面：指押さえ→ケズリ→ナデ 内面：指押さえ→ケズリ→ナデ	密 石英、白色粒	良好	褐色	
12	埋土中	ミニチュア土器	把手	—	—	△ 1.9	外面：ケズリ→ナデ	密	良好	橙褐色	
13	下層	土製品 不明品	破片	長さ 2.5	幅 3.1	厚さ 1.5	外面：ケズリ→ナデ	密	良好	褐色	重量　60ｇ

第143表　６区SS12−１出土金属製品観察表（第325図）

遺物番号	出土層位	種別	部位 残存率	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	材質	備考
14	埋土中	刀子or鎌	刃部	1.7	2.7	0.5	12.1	鉄	

第144表　６区SS12−１出土石器観察表（第325図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
15	上層	砥石	破片	2.4	3.4	2.2	10.3	緑色凝灰岩	仕上砥、砥面４面
16	床面直上	砥石	2/3	4.5	2.6	0.9	13.7	凝灰岩	仕上砥、砥面５面
17	埋土中	磨石	完形	12.8	7.1	6.3	841.8	花崗岩	

第145表　６区SS12−２出土土器観察表（第329図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 壺	口縁〜頸部 1/3	※17.2	—	△8.3	外面：口縁部ナデ、凹線、頸部凹線、肩部ナデ 内面：口縁部工具によるナデ、頸部指押さえ、肩部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	橙色	
2	下層	弥生土器 甕	口縁〜肩部 1/4	※15.6	—	△3.7	外面：口縁部1条の沈線、頸部摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、砂粒	良	淡黄褐色	
3	床面直上	弥生土器 甕	口縁〜頸部 1/10	※19.2	—	△2.4	外面：頸部摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、白色粒 砂粒	良	灰褐色	
4	上層	土師器 甕	口縁〜頸部 1/10	※17.8	—	△5.6	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 雲母、石英 白色粒	良	橙色	
5	埋土中	土師器 甕	口縁〜肩部 1/4	※18.3	—	△9.6	外面：口縁部ナデ、肩部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部ミガキ、肩部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	橙色	外面煤付着
6	下層	土師器 甕	口縁〜頸部 破片	※28.6	—	△7.2	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	褐色	

第146表　６区SS12−２出土金属製品観察表（第329図）

遺物番号	出土層位	種　別	部位 残存率	法　量（cm）			重量(g)	材　質	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
7	P24	刀子？	茎部	3.6	1.3	0.4	11.3	鉄	

第147表　６区SS12−２出土石器観察表（第329図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	遺存 状態	法　量（cm）			重量(g)	石　材	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
8	上層	台石	ほぼ完形	28.3	27.0	10.7	11000.0	凝灰角礫岩	

第148表　６区SS12−３出土土器観察表（第332図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
1	埋土中	土師器 甕	口縁～底部 1/4	※24.0	—	△35.7	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ、指押さえ	密 石英、砂粒	良	淡橙褐色	
2	埋土中	土師器 低脚坏	脚部 完形	—	※7.1	△ 2.9	外面：摩耗のため調整不明 内面：指押さえ	密 砂粒	良	淡黄褐色	

第149表　６区SK１出土土器観察表（第334図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
1	埋土中	弥生土器 壺	口縁～頸部 1/8	※10.9	—	△2.1	外面：口縁端部３条の平行沈線、 内面：指押さえ	密 白色粒、赤色粒	良	淡褐色	内外面赤彩

第150表　６区SK２出土土器観察表（第336図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
1	中層	弥生土器 甕	口縁 破片	※21.8	—	△3.0	外面：口縁端部４条の平行沈線、口縁部ナデ 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、白色粒	良	橙褐色	
2	下層	弥生土器 高坏	脚部 破片	—	※11.7	△3.4	外面：摩耗のため調整不明 内面：ケズリ	密 白色粒	良	淡褐色	

第151表　６区SI３出土土器観察表（第340図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
1	埋土中	土師器 壺	口縁～肩部 3/4	※19.6	—	△11.1	外面：摩耗のため調整不明 内面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部指押さえ、肩部ケズリ	密 石英、砂粒 白色粒	良	橙色	
2	中層	土師器 甕	口縁～頸部 1/10	※13.7	—	△ 3.3	外面：ナデ 内面：口縁部摩耗のため調整不明、頸部ケズリ	密 砂粒	良	橙色	
3	埋土中	土師器 高坏	坏部 1/5	※20.3	—	△ 4.6	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 砂粒	良	灰褐色	
4	中層	土師器 器台	脚部 1/4	—	※17.4	△ 4.3	外面：ナデ 内面：ケズリ、ナデ	密 石英、白色粒 砂粒	良	橙色	

第152表　６区SI３出土金属製品観察表（第340図）

遺物番号	出土層位	種　別	部位 残存率	法　量（cm）			重量(g)	材　質	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
5	中層	鉄鏃	刃部	4.6	1.4	0.4	6.8	鉄	
6	床面直上	鉄鎌		3.7	2.9	0.2	9.6	鉄	
7	中層	釘	1/2	2.9	0.4	0.3	2.0	鉄	

第153表　６区SI３出土石器観察表（第340図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	遺存 状態	法　量（cm）			重量(g)	石　材	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
8	上層	磨石	完形	16.4	7.1	5.3	1134.8	デイサイト	砥面４面、被熱痕あり
9	埋土中	砥石	2/3	9.3	5.5	4.9	361.3	凝灰岩	砥面４面、被熱痕あり、煤付着

第154表　６区SI８出土土器観察表（第342図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
1	下層	土師器 小型丸底壺	1/3	—	—	△5.2	外面：ミガキ、肩部穿孔あり 内面：ミガキ、指押さえ	密 石英、白色粒	良	茶色	
2	上層	土師器 甕	口縁～頸部 1/10	※17.6	—	△5.6	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密	良	橙色	

第155表　６区SK４出土土器観察表（第344図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	土師器 甕	口縁～頸部 1/8	※15.5	—	△5.4	外面：口縁部摩耗のため調整不明、胴部ケズリ 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、砂粒	良	淡褐色	内面黒斑
2	埋土中	土師器 甕	口縁 破片	※13.8	—	△2.6	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、砂粒 赤色粒	良	淡褐色	外面炭化物付着
3	埋土中	土師器 器台	脚部 1/6	—	※16.3	△3.3	外面：摩耗のため調整不明 内面：指押さえ→ケズリ	密 白色粒	良好	褐色	

第156表　６区SK４出土石器観察表（第344図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
4	床面直上	台石	完形	12.4	11.2	7.0	1599.9	白雲母花崗岩	砥面４面

第157表　６区SI５出土金属製品観察表（第346図）

遺物番号	出土層位	種別	部位 残存率	法量（cm） 最大長	刃部幅	刃部厚	重量(g)	材質	備考
1	床面直上	刀子		12.3	2.0	0.2	25.1	鉄	茎部幅：1.6cm、茎部厚：0.4cm

第158表　６区SI16出土土器観察表（第348図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	床面直上	土師器 甕	口縁～肩部	※15.7	—	△5.6	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	
2	埋土中	土師器 甕	口縁～胴部	※14.0	—	△7.9	外面：口縁部ナデ、頸部ハケ 内面：口縁部指押さえ→ナデ、頸部ケズリ	密 石英、砂粒	良	黒灰色	

第159表　６区SI９出土土器観察表（第352図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
52	下層	弥生土器 壺	口縁～頸部 1/3	※17.7	—	△3.7	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、白色粒 砂粒	良	橙色	
53	埋土中	弥生土器 壺	口縁 破片	※15.6	—	△2.5	外面：口縁部３条の凹線、頸部摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、白色粒 砂粒	良	橙色	
54	埋土中	弥生土器 甕	口縁～頸部 破片	※14.8	—	△2.9	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、白色粒 砂粒	良	橙色	

第160表　６区SI９出土石器観察表（第352図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
55	下層	砥石	ほぼ完形	12.5	7.8	3.4	566.3	緑色片岩	砥面３面

第161表　６区SI７出土土器観察表（第353・354図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	土師器 壺	ほぼ完形	15.2	※ 4.2	30.0	外面：口縁部ナデ、頸部ハケ、指押さえ、胴部～底部ハケ 内面：口縁部～頸部ナデ、胴部ケズリ、底部指押さえ	密 石英、白色粒 砂粒	良好	褐色	
2	上層	土師器 壺	口縁～底部	※16.6	—	△ 8.0	外面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ハケ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ケズリ→指押さえ、胴部ケズリ	密	良好	橙褐色	
3	上層	土師器 壺	口縁～肩部	19.4	—	△14.2	外面：ナデ 内面：口縁部～頸部指押さえ、胴部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	灰褐色	
4	下層	土師器 壺	口縁～底部 1/2	※22.0	—	△12.0	外面：口縁部ハケ状工具によるナデ、頸部ミガキ、指押さえ、胴部ハケ 内面：ハケ、指押さえ	密 雲母、白色粒	良	黄橙色	外面赤彩
5	上層	土師器 壺	口縁～肩部 2/3	18.8	—	△ 7.6	外面：口縁部～頸部ナデ、肩部指押さえ→ナデ→ミガキ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ケズリ→ナデ、肩部指押さえ→ナデ	密 雲母、石英 白色粒	良	黄褐色	内外面黒斑
6	下層	土師器 甕	口縁 1/2 底部 1/4	※16.6	3.0	推定 27.0	外面：口縁部ナデ、肩部ハケ 内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ	密	良好	黄灰白色	
7	下層	土師器 甕	口縁～肩部、底部	19.2	8.1	推定 22.4	外面：口縁部指押さえ→ナデ、頸部～肩部ナデ、底部ケズリ→指押さえ 内面：頸部ナデ→指押さえ、肩部、底部ケズリ→指押さえ	密 石英、砂粒	良	黄褐色	
8	下層	土師器 甕	口縁～肩部 1/2	※39.8	—	△ 8.4	外面：口縁部ナデ、肩部摩耗のため調整不明 内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ	密 石英、砂粒	良	橙褐色	
9	下層	土師器 甕	口縁～胴部	※33.6	—	△17.0	外面：口縁部ナデ、胴部摩耗のため調整不明 内面：口縁部ナデ、指押さえ、胴部ケズリ、指押さえ	密 石英、砂粒	不良	橙灰褐色	
10	下層	土師器 甕	口縁～胴部 1/6	※19.6	—	△ 9.9	外面：口縁部指押さえ→ナデ、肩部ナデ 内面：口縁部～頸部ナデ、肩部ケズリ	密 雲母、石英、小石	良	淡褐色	

11	下層	土師器 甕	口縁～肩部 1/8	※19.0	—	△ 7.5	外面：口縁部ナデ、胴部指押さえ→ナデ 内面：口縁部～頸部ナデ、胴部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	褐色	
12	下層	土師器 甕	口縁 1/8	※29.8	—	△ 6.6	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ナデ、指押さえ	密 砂粒	良	灰黄色	
13	上層	土師器 甕	口縁～肩部 3/5	※23.0	—	△ 9.1	外面：口縁部ナデ、肩部ハケ 内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ	密	良好	褐色	
14	上層	土師器 甕	口縁～胴部 1/4	※20.8	—	△12.5	外面：口縁部ナデ、肩部波状文、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ	密 雲母、石英、小石	良好	褐色	
15	上層	土師器 甕	口縁～肩部 1/6	※22.2	—	△ 6.8	外面：口縁部ナデ、肩部８条の櫛描直線文 内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ	密 石英、白色粒 砂粒	良好	橙褐色	
16	埋土中	土師器 甕	口縁～肩部 1/8	※23.8	—	△ 6.6	外面：口縁部指押さえ→ナデ、肩部ナデ 内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ	密 石英、白色粒 砂粒	良	黄褐色	
17	上層	土師器 甕	口縁～肩部 1/3	※17.0	—	△11.4	外面：口縁部ナデ、肩部ハケ 内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ→指押さえ	密 砂粒	良	黒茶色	外面炭化物 付着
18	上層	土師器 甕	口縁～肩部 1/4	※15.8	—	△ 7.6	外面：口縁部ナデ、肩部ハケ、櫛描直線文、櫛描波状文 内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ	密	良好	褐色	
19	上層	土師器 甕	口縁～頸部 1/8	※19.1	—	△ 6.3	外面：口縁部ナデ、肩部ハケ 内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ	密 石英、白色粒 砂粒	良好	褐色	
20	埋土中	土師器 甕	口縁 1/5	※16.8	—	△ 5.5	外面：ナデ 内面：摩耗のため調整不明	密 雲母、石英、砂粒	良	橙色	
21	上層	土師器 甕	口縁～肩部 1/6	※15.2	—	△ 5.5	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、胴部ケズリ	密 雲母、砂粒	良	橙色	
22	下層	土師器 甕	口縁～肩部 完形	14.6	—	△ 5.7	外面：口縁部ナデ、肩部ハケ 内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ	密 白色粒	良好	灰褐色	
23	下層	土師器 甕	口縁～頸部 1/4	※12.6	—	△ 5.4	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良好	橙褐色	
24	上層	土師器 甕	肩部～底部	—	—	△18.3	外面：ハケ、叩き 内面：ケズリ→ナデ、指押さえ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	外面煤付着
25	下層	土師器 甕	口縁～胴部 1/6	※11.8	—	△ 6.7	外面：口縁部指押さえ→ナデ、頸部ハケ、肩部ナデ、指押さえ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、肩部ケズリ、指押さえ	密 雲母、石英 白色粒	良	橙色	
26	下層	土師器 注口土器	注口部	長さ 4.9	—	—	外面：ナデ 内面：ケズリ	密 雲母、砂粒	良	黄褐色	外面黒斑
27	上層	土師器 把手	把手	長さ 9.2	幅 2.1	—	外面：指押さえ→ミガキ、ハケ	密 雲母、石英 白色粒	良	橙褐色	
28	下層	弥生土器 鉢	口縁～肩部 1/4	※18.6	—	△ 5.9	外面：口縁部２条の凹線、胴部ナデ 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、白色粒 砂粒	良	橙褐色	
29	下層	土師器 高坏	脚部 2/5	—	※15.8	△ 5.9	外面：ハケ 内面：脚部ケズリ→ナデ、裾部ハケ	密 白色粒	良好	褐色	
30	上層	弥生土器 器台	脚部 完形	—	15.8	△ 4.9	外面：ミガキ、ナデ 内面：ケズリ→ナデ、指押さえ	密 石英、白色粒 砂粒	良好	橙褐色	
31	下層	土師器 低脚坏	2/3	12.8	6.4	4.7	外面：坏部指押さえ→ナデ、脚部ナデ→指押さえ 内面：坏部、脚部ナデ	密 砂粒	良	淡褐色	
32	埋土中	土師器 低脚坏	脚部 ほぼ完形	—	※ 4.8	△ 1.6	外面：ナデ 内面：ナデ、指押さえ	密	良好	褐色	脚部穿孔1ヶ所
33	埋土中	弥生土器 器台	1/2	—	※10.5	△14.8	外面：ナデ 内面：受部ナデ、筒部ケズリ、ミガキ、底部ケズリ？	密 砂粒	良	橙色	
34	下層	弥生土器 器台	脚部 1/2	—	15.8	△ 8.0	外面：指押さえ→ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 雲母、白色粒、砂粒	良	黄褐色	
35	上層	土師器 器台	1/4	※14.8	※ 6.7	△11.7	外面：ナデ 内面：ナデ、ハケ	密 雲母、白色粒	良	橙色	内外面赤彩
36	下層	土師器 器台	脚部	—	※21.6	△10.2	外面：摩耗のため調整不明 内面：受部ナデ、脚部ケズリ	密	良好	橙褐色	

第162表　６区SI７出土金属製品観察表（第355図）

遺物番号	出土層位	種　別	部位 残存率	法　量（cm）			重量(g)	材　質	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
37	埋土中	鉄鏃	刃部	3.0	1.5	0.3	5.4	鉄	
38	埋土中	鉄鎌	刃部	2.2	1.7	0.3	0.7	鉄	

第163表　６区SI７出土石器観察表（第355図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	遺存 状態	法　量（cm）			重量(g)	石　材	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
39	下層	砥石	破片	6.5	9.5	6.8	519.1	閃緑岩	中砥、砥面２面
40	下層	砥石	2/3	12.8	9.0	4.1	577.1	花崗岩	中砥、砥面２面
41	下層	砥石	1/4	9.4	5.4	4.3	364.7	デイサイト	中砥、砥面２面
42	上層	砥石	ほぼ完形	8.9	5.3	3.1	199.2	凝灰岩	中砥、砥面２面
43	上層	砥石	3/4	7.5	3.8	1.5	58.3	凝灰岩	仕上砥、砥面４面
44	下層	砥石	1/2	4.7	3.9	1.5	37.5	凝灰岩	仕上砥、砥面４面
45	下層	磨石	完形	10.7	7.2	3.4	338.5	デイサイト	磨面２面
46	下層	磨石	完形	11.8	8.4	6.6	756.2	凝灰岩	磨面３面、被熱痕あり
47	下層	磨石	完形	7.3	5.2	2.5	124.1	デイサイト	磨面２面
48	上層	磨石	完形	6.6	5.5	2.5	114.7	デイサイト	磨面２面
49	下層	台石	1/2	21.8	10.9	6.3	1996.1	デイサイト	擦痕あり
50	下層	台石	ほぼ完形	15.7	9.3	6.7	1028.0	凝灰角礫岩	
51	下層	台石	破片	13.6	10.7	8	1719.2	凝灰角礫岩	

第164表　６区SI15出土土器観察表（第361図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	上層	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/4	※11.9	—	△4.3	外面：口縁部５条の凹線、肩部ハケ→ナデ 内面：口縁部ハケ→ナデ、胴部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	黒灰色	外面黒斑
2	下層	弥生土器 甕	口縁～頸部	※19.5	—	△3.7	外面：口縁部５条の凹線、頸部ハケ 内面：口縁部指押さえ、胴部ケズリ	密 石英、砂粒	良	橙褐色	
3	下層	弥生土器 甕	口縁～頸部	※15.3	—	△3.3	外面：口縁部３条の凹線、頸部ナデ 内面：口縁部指押さえ、胴部ケズリ	密 砂粒	良	橙褐色	
4	下層	弥生土器 甕	口縁～頸部	※16.6	—	△3.6	外面：口縁部７条の櫛描沈線→ナデ消し、頸部ナデ、ハケ 内面：口縁部摩耗のため調整不明、胴部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	淡橙褐色	内面黒斑
5	下層	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/8	※14.7	—	△5.7	外面：摩耗のため調整不明 内面：口縁部ミガキ、胴部ケズリ	密 石英、砂粒	良	褐色	
6	下層	弥生土器 甕	底部	—	※3.0	△3.65	外面：ハケ 内面：ケズリ→ナデ	密 石英、砂粒	良	橙色	外面煤付着
7	下層	弥生土器 注口土器	注口部	長さ 5.7	—	—	外面：ケズリ→ナデ 内面：ケズリ	密 石英、白色粒	良	灰褐色	内面黒斑
8	上層	弥生土器 高坏	坏部 1/8	※23.2	—	△4.25	外面：口縁部２条の凹線、頸部ミガキ 内面：ミガキ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	
9	上層	弥生土器 器台	脚部 破片	—	※3.0	△14.9	外面：ナデ、３条以上の凹線 内面：ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	

第165表　６区SI15出土金属製品観察表（第361図）

遺物番号	出土層位	種別	部位 残存率	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	材質	備考
10	埋土中	刀子	刃部	2.7	2.1	0.25	7.3	鉄	

第166表　６区SI15出土石器観察表（第361図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
11	下層	砥石	ほぼ完形	5.3	4.1	3.0	18.1	軽石	
12	P６	台石	ほぼ完形	18.4	9.1	7.6	1310.9	デイサイト	
13	P11	台石	1/2	14.2	9.8	6.7	1010.7	凝灰角礫岩	

第167表　６区SS19出土土器観察表（第363図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	下層	弥生土器 壺	口縁～肩部 1/2	※12.8	—	△ 6.8	外面：口縁部３条の凹線、頸部ハケ→ミガキ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ、胴部ケズリ	密 石英、白色粒 砂粒	良	橙色	
2	埋土中	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/6	※14.0	—	△ 2.8	外面：口縁部ナデ、頸部ハケ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ケズリ	密 石英、白色粒 砂粒	良	淡黄橙色	外面煤付着
3	埋土中	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/4	※14.2	—	△ 4.9	外面：口縁部ハケ状工具によるナデ、頸部ハケ 内面：口縁部ハケ状工具によるナデ、頸部ケズリ、指押さえ	密	良	橙色	
4	下層	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/4	16.3	—	△21.6	外面：ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ→ナデ、指押さえ	密 砂粒	良	淡黄橙色	
5	埋土中	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/5	※15.2	—	△ 4.6	外面：口縁部４条の凹線、頸部ナデ、ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ→ナデ	密 砂粒	良	黄橙色	
6	埋土中	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/12	※11.7	—	△ 3.5	外面：口縁部４条の凹線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 砂粒	良	淡黄褐色	
7	埋土中	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/10	※17.4	—	△ 5.8	外面：口縁部５条の平行沈線、頸部ナデ、押し引き文 内面：口縁部ミガキ、頸部ケズリ→ミガキ	密 雲母、白色粒 砂粒	良	橙色	
8	下層	弥生土器 甕	口縁～肩部 3/4	※15.6	—	△ 7.3	外面：口縁部４条の平行沈線、胴部ナデ、ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ→ナデ	密 石英、白色粒	良	橙色	
9	上層	弥生土器 高坏	脚部 1/4	—	※11.0	△ 3.1	外面：ナデ 内面：ケズリ、指押さえ	密 白色粒、砂粒	良	橙色	
10	埋土中	弥生土器 高坏	脚部 1/10	—	※12.6	△ 5.7	外面：ハケ 内面：ケズリ→ナデ、指押さえ	密 石英、砂粒	良	黄橙色	
11	埋土中	弥生土器 蓋	受部 1/13	※ 9.2	—	△ 7.9	外面：口縁部ミガキ、指押さえ 内面：ケズリ→ナデ、ミガキ	密	良	橙色	

第168表　６区SS19出土石器観察表（第363図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
12	埋土中	石鏃	完形	2.4	1.9	0.3	0.8	サヌカイト	
13	埋土中	石鏃	ほぼ完形	2.4	1.9	0.4	1.6	黒曜石	
14	埋土中	石鏃	完形	2.1	1.7	0.6	1.3	サヌカイト	
15	埋土中	スクレイパー	完形	2.9	2.9	0.8	4.5	黒曜石	
16	埋土中	砥石	破片	3.1	2.3	0.7	5.4	凝灰岩	

第169表　６区SI21出土土器観察表（第365図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 壺	口縁～頸部 1/8	※16.1	—	△ 7.4	外面：口縁部２条の凹線、頸部摩耗のため調整不明 内面：口縁部摩耗のため調整不明、頸部ケズリ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	
2	上層	弥生土器 壺	口縁～頸部 1/8	※18.1	—	△ 5.5	外面：口縁部５条の平行沈線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	
3	中層	弥生土器 甕	1/2	※18.8	※ 4.6	17.8	外面：口縁部ナデ、頸部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	
4	埋土中	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/4	※ 9.1	—	△ 3.5	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	
5	上層	弥生土器 甕	ほぼ 完形	10.7	3.1	13.5	外面：口縁部摩耗のため調整不明、肩部刺突文、胴部ハケ 内面：口縁部指押さえ、頸部ミガキ、胴部ケズリ、指押さえ	密 石英、砂粒、白色粒	良	赤褐色	
6	上層	弥生土器 甕	口縁～頸部	※14.1	—	△ 4.8	外面：口縁部４条の平行沈線、頸部ミガキ 内面：口縁部摩耗のため調整不明、頸部ケズリ	密 石英、白色粒	良	灰褐色	内外面赤彩
7	中層	弥生土器 甕	1/2	※16.8	※ 5.0	30.5	外面：口縁部５条の平行沈線、頸部刺突文、胴部上半ハケ、胴部下半ハケ→ミガキ 内面：ハケ、指押さえ	密 雲母、石英、砂粒	良	灰褐色	
8	中層	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/4	※14.0	—	△ 4.8	外面：口縁部４条の平行沈線、頸部刺突文 内面：口縁部摩耗のため調整不明、頸部ケズリ	密 石英、砂粒	良	橙褐色	内外面赤彩
9	中層	弥生土器 甕	口縁～胴部 1/4	※17.8	—	△10.4	外面：口縁部２条の平行沈線、胴部摩耗のため調整不明 内面：口縁部摩耗のため調整不明、頸部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	
10	中層	弥生土器 高坏	脚部 1/3	—	※16.0	△ 2.9	外面：４条の凹線 内面：ケズリ	密 石英、砂粒	良	橙褐色	

第170表　６区SI21出土石器観察表（第365図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
11	上層	砥石	1/2	14.6	10.1	8.4	1281.0	角閃石安山岩	砥面２面

第171表　６区SI20出土土器観察表（第367図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 甕	口縁 破片	※15.1	—	△3.8	外面：口縁部４条の平行沈線、頸部ナデ 内面：口縁部摩耗のため調整不明、頸部ケズリ	密 石英、砂粒	良	橙褐色	
2	埋土中	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/4	※13.7	—	△5.1	外面：ナデ 内面：ナデ、指押さえ	密 雲母、石英、砂粒	良	暗橙褐色	

第172表　６区SI20出土石器観察表（第367図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
3	床面直上	台石	破片	10.3	12.5	3.6	393.7	凝灰角礫岩	

第173表　６区SS８出土土器観察表（第369図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	床面直上	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/3	※17.5	—	△3.7	外面：口縁部３条の凹線、頸部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、白色粒 砂粒	良	橙色	
2	埋土中	弥生土器 甕	口縁～頸部 破片	※13.8	—	△1.6	外面：口縁部３条の凹線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 砂粒、白色粒	良	灰褐色	

第174表　６区SI10出土土器、土製品観察表（第372・373図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	下層	弥生土器 壺	口縁～肩部 1/6	※24.4	—	△7.6	外面：口縁部３条の凹線、頸部ナデ、肩部ハケ 内面：口縁部指押さえ→ナデ、肩部ケズリ→ナデ	密 石英、白色粒	良	橙灰褐色	
2	上層	弥生土器 壺	口縁～頸部 2/3	※18.7	—	△6.3	外面：口縁部４条の凹線、頸部指押さえ→ナデ 内面：口縁部～頸部指押さえ→ナデ、肩部ケズリ→ナデ	密 雲母、石英、白色粒	良	橙褐色	
3	上層	弥生土器 壺	口縁～頸部 1/2	※16.2	—	△7.9	外面：口縁部４条の凹線、頸部ハケ→ナデ 内面：口縁部指押さえ、頸部ミガキ	密 砂粒	良	橙色	
4	中層	弥生土器 壺	口縁～肩部 完形	14.0	—	△8.1	外面：口縁部３～４条の凹線、頸部ハケ状工具によるナデ 内面：口縁部ミガキ、頸部指押さえ、肩部ケズリ	密	良	橙色	
5	中層	弥生土器 壺	口縁～肩部 完形	15.5	—	△8.3	外面：口縁部４条の凹線、頸部ナデ、肩部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ、肩部ケズリ	密 石英、白色粒 砂粒	良好	橙褐色	内外面赤彩
6	中層	弥生土器 壺	口縁～頸部 完形	※19.4	—	△6.9	外面：口縁部５条の凹線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ、肩部ケズリ	密 石英、白色粒 砂粒	良好	橙褐色	
7	中層	弥生土器 壺	口縁～頸部 2/3	16.8	—	△ 7.6	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、白色粒 砂粒	良	黄褐色	

8	上層	弥生土器 壺	口縁～頸部 3/4	※15.4	—	△ 5.8	外面：口縁部ナデ、頸部ハケ 内面：指押さえ	密 石英、白色粒 砂粒	良好	橙褐色	
9	中層	弥生土器 壺	口縁 1/2	※12.8	—	△ 3.1	外面：口縁部３条の凹線、頸部ミガキ 内面：口縁部～頸部ミガキ、肩部ケズリ	密 石英	良	橙色	
10	上層	弥生土器 壺	肩部 破片	—	—	△ 4.0	外面：ハケ→斜格子文 内面：ハケ、指押さえ	密	良	浅黄橙色	
11	床面直上	弥生土器 甕	口縁～肩部 完形	22.5	—	△ 7.6	外面：口縁部３条の凹線、頸部ハケ、指押さえ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ、肩部ケズリ	密 砂粒	良	浅黄橙色	
12	床面直上	弥生土器 甕	口縁～肩部 破片	※19.4	—	△ 4.5	外面：口縁部ナデ、肩部摩耗のため調整不明 内面：口縁部ナデ、指押さえ、肩部ケズリ	密 石英、白色粒	良好	灰褐色	
13	下層	弥生土器 甕	口縁～頸部 破片	※17.0	—	△ 4.3	外面：口縁端部２条の凹線、頸部ナデ、指押さえ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、肩部ケズリ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	外面赤彩
14	下層	弥生土器 甕	口縁～胴部 1/4	※11.8	—	△ 6.0	外面：口縁部３条の凹線、頸部ナデ、肩部ハケ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、肩部ケズリ	密 石英、砂粒	良	橙褐色	
15	下層	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/4	※13.8	—	△ 4.2	外面：口縁部３条の凹線、頸部ナデ、肩部摩耗のため調整不明 内面：口縁部ナデ、指押さえ、肩部ケズリ	密 石英、砂粒	良	橙色	
16	下層	弥生土器 甕	口縁～肩部 破片	※16.1	—	△ 5.2	外面：口縁部２条の凹線、頸部ナデ、肩部ミガキ 内面：口縁部ミガキ、指押さえ、頸部ナデ、肩部ケズリ	密 石英、砂粒	良	橙褐色	
17	中層	弥生土器 甕	口縁 1/8	※14.0	—	△ 3.5	外面：口縁部３条の凹線、頸部摩耗のため調整不明 内面：口縁部摩耗のため調整不明、肩部ケズリ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	
18	中層	弥生土器 甕	口縁～胴部 1/8	※18.2	—	△ 6.7	外面：口縁部３条の凹線、頸部ナデ、肩部ハケ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、肩部ケズリ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	
19	埋土中	弥生土器 甕	口縁～胴部 1/5	※16.0	—	△ 7.5	外面：口縁部２条の凹線、頸部～肩部摩耗のため調整不明 内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ→指押さえ	密 雲母、石英	良	浅黄橙色	
20	上層	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/5	※15.6	—	△ 4.5	外面：口縁部２～３条の凹線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ、肩部ケズリ	密 白色粒	良	橙色	
21	中層	弥生土器 甕	口縁～胴部	20.7	—	△28.6	外面：口縁部５条の櫛描沈線、頸部刺突文、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、胴部ケズリ、指押さえ	密 石英、白色粒	良	橙褐色	外面煤付着
22	上層	弥生土器 甕	口縁～胴部 完形	16.4	—	△19.9	外面：口縁部３条の凹線、頸部ナデ、胴部ハケ→ミガキ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ、胴部ケズリ、指押さえ	密 砂粒	良	橙色	
23	上層～ 中層	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/5	※17.8	—	△ 4.1	外面：口縁部３条以上の凹線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、肩部ケズリ	密 石英、白色粒 砂粒	良	褐色	
24	上層	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/12	※16.2	—	△ 5.3	外面：口縁部２条の凹線、頸部ナデ、肩部連続刺突文 内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ、指押さえ	密 白色粒、砂粒	良	橙色	
25	上層～ 中層	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/6	※17.8	—	△ 7.0	外面：口縁部凹線、肩部ナデ、貝殻条痕文 内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ	密 雲母、石英 白色粒	良	黒褐色	外面煤付着
26	埋土中	弥生土器 甕	口縁～底部	※17.7	6.1	28.5	外面：口縁部４条の凹線、頸部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、胴部ケズリ、指押さえ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	外面煤付着 内面黒斑
27	中層	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/4	※14.4	—	△ 5.8	外面：口縁部４条の凹線、頸部ナデ、肩部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部ミガキ、肩部ケズリ	密	良	黄橙色	外面煤付着 内面黒斑
28	中層	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/3	※18.9	—	△ 5.6	外面：口縁部３条以上の凹線、頸部ナデ、肩部櫛状工具による列点文 内面：口縁部ナデ、頸部ミガキ、肩部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	
29	中層	弥生土器 甕	口縁～胴部 2/3	14.4	—	△20.6	外面：口縁部６条の櫛描沈線、頸部ナデ、肩部ハケ 内面：口縁部ミガキ、肩部ケズリ、指押さえ	密 砂粒	良	浅黄橙色	
30	上層	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/7	※16.8	—	△ 4.7	外面：口縁部４条の凹線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ	密 砂粒	良	橙色	
31	上層	弥生土器 甕	口縁	※19.6	—	△ 5.3	外面：口縁部３条の凹線、頸部指押さえ→ナデ 内面：口縁部指押さえ→ナデ、頸部ケズリ	密 雲母、石英 白色粒	良	橙褐色	
32	上層～ 中層	弥生土器 甕	底部	—	※ 5.9	△11.8	外面：ケズリ→ナデ 内面：ケズリ→ナデ	密 雲母、石英 白色粒	良	橙褐色	外面黒斑
33	中層	弥生土器 甕	口縁～胴部 1/6	※16.8	—	△11.8	外面：口縁部５条の凹線、頸部ナデ、肩部ヘラ状工具による列点文、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 白色粒	良好	橙褐色	外面煤付着
34	上層	弥生土器 甕	口縁～胴部	※17.6	—	△13.8	外面：口縁部４条の櫛描沈線、肩部ヘラ状工具による列点文、胴部ナデ 内面：口縁部ミガキ、肩部ケズリ、指押さえ	密 石英、白色粒 砂粒	良	橙褐色	外面煤付着
35	中層	弥生土器 甕	口縁 1/12	※19.8	—	△ 4.8	外面：口縁５条の櫛描沈線→ナデ消し、頸部ナデ、肩部連続刺突文 内面：口縁部ミガキ、頸部ハケ、肩部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	橙色	
36	上層	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/7	※ 9.6	—	△ 3.0	外面：口縁部３条の凹線、頸部ナデ 内面：口縁部ミガキ、頸部ナデ	密 白色粒	良	明黄褐色	
37	中層	弥生土器 鉢	口縁 破片	※15.0	—	△ 4.9	外面：刻目突帯、ケズリ→ナデ 内面：ケズリ→ナデ	密 雲母、石英、砂粒	良	黒灰褐色	
38	上層	弥生土器 鉢	鉢部	※17.6	—	△ 5.2	外面：口縁部ナデ、胴部ミガキ 内面：口縁部指押さえ→ナデ、胴部ケズリ→指押さえ→ナデ	密 雲母、石英 白色粒	良	橙褐色	
39	中層	弥生土器 高坏	坏部 破片	※17.2	—	△ 3.1	外面：ミガキ 内面：ミガキ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	
40	中層	弥生土器 高坏	口縁 1/3	※15.6	—	△ 3.1	外面：ナデ、指押さえ 内面：ケズリ→ミガキ	密 砂粒	良	橙茶褐色	
41	中層	弥生土器 高坏	脚部 完形	—	※11.8	△ 9.8	外面：脚部摩耗のため調整不明、端部２条の凹線？ 内面：脚部ケズリ、裾部ナデ	密 石英、砂粒	良	黄褐色	
42	上層	弥生土器 高坏	脚部	—	※16.2	△ 7.7	外面：脚部ハケ、裾部３条の凹線 内面：摩耗のため調整不明	密 砂粒	良	橙色	
43	上層	弥生土器 脚付甕	脚部	—	※ 9.4	△ 5.8	外面：摩耗のため調整不明 内面：底部ケズリ、指押さえ、脚部ケズリ、指押さえ	密 石英、砂粒	良	黄橙色	

44	中層	土玉	完形	長さ 1.7	幅 1.75	厚さ 1.5	外面：ナデ	密	良	黒茶色	重量　3.2ｇ

第175表　６区SI10出土ガラス製品観察表（第373図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	直径	孔径	重量(g)	材質	備考
45	上層	小玉	完形	0.25	0.3	0.15	0.1	カリガラス	引き伸ばし技法

第176表　６区SI10出土石器観察表（第374図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
46	上層	磨製石斧	完形	9.7	5.9	4.3	382.1	砂岩	
47	上層	砥石	完形	6.9	6.3	5.6	53.4	軽石	
48	中層	砥石	ほぼ完形	2.2	1.5	0.9	6.1	凝灰岩	仕上砥、砥面４面
49	中層	砥石	3/4	12.3	7.4	4.4	620.6	凝灰岩	仕上砥、砥面４面
50	埋土中	砥石	1/2	12.4	2.7	3.8	199.3	凝灰岩	中砥、砥面２面、炭化物、煤付着
51	下層	砥石	2/3	8.0	5.6	2.2	124.9	デイサイト	中砥、砥面３面
52	埋土中	砥石	完形	11.1	5.5	4.1	405.9	花崗岩	荒砥、砥面４面、廃棄後被熱痕あり
53	埋土中	磨石	完形	9.0	4.7	2.5	158.8	デイサイト	
54	中層	磨石・凹石	完形	8.2	7.6	3.2	277.3	デイサイト	擦痕あり
55	上層	磨石・敲石	完形	8.7	7.4	4.3	345.0	デイサイト	
56	上層	台石	4/5	21.2	15.8	3.8	1896.6	花崗岩	被熱痕あり
57	上層	台石	2/3	13.3	21.1	10.3	4985.0	凝灰角礫岩	廃棄後被熱痕あり
58	上層	十字石錘	1/2	3.1	2.6	1.9	11.1	凝灰岩	長軸１本、短軸２本の溝

第177表　６区SK６出土土器観察表（第377図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 壺	口縁 破片	※9.4	—	△1.9	外面：磨耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、白色粒	良	褐色	

第178表　６区SS17出土土器観察表（第380図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 甕	口縁～胴部 1/8	※19.4	—	△6.6	外面：口縁部ナデ、頸部～胴部指押さえ→ナデ 内面：口縁部指押さえ→ナデ、胴部ケズリ	密 雲母、白色粒 砂粒	良	黄灰白色	
2	埋土中	弥生土器 甕	口縁 破片	※14.2	—	△2.2	外面：口縁部２条の凹線、ナデ 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、砂粒	良	橙褐色	
3	埋土中	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/8	※15.6	—	△4.7	外面：口縁部指押さえ→ナデ、頸部～肩部摩耗のため調整不明 内面：口縁部指押さえ→ナデ、肩部ケズリ	密 石英、角閃石 白色粒	良	黄褐色	外面煤付着 内面黒斑
4	埋土中	弥生土器 甕	口縁 1/8	※17.2	—	△2.1	外面：口縁部２条の凹線、頸部ナデ、指押さえ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、角閃石 砂粒	良	淡褐色	
5	床面直上	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/4	※18.2	—	△3.9	外面：口縁部２条の凹線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ケズリ	密 石英、角閃石 赤色粒	良	淡褐色	
6	埋土中	弥生土器 甕	口縁～肩部 破片	※15.6	—	△4.5	外面：口縁部２条の凹線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	
7	床面直上	土師器 注口土器	把手	幅 1.6	厚さ 2.0	—	外面：ケズリ→指押さえ→ナデ	密 石英、白色粒 砂粒	良	褐色	
8	埋土中	弥生土器 高坏	坏部 1/4	※19.6	—	△3.2	外面：口縁端部２条の凹線、口縁部ミガキ、指押さえ 内面：ミガキ、指押さえ	密 石英、角閃石 砂粒	良	赤褐色	内外面赤彩
9	床面直上	土師器 高坏	脚部 1/4	—	—	△3.5	外面：ナデ 内面：脚部ナデ、裾部ケズリ→ナデ	密 石英、白色粒 砂粒	良	黄橙色	胴部円形透かし上下２段（計６個）

第179表　６区SS17出土石器観察表（第380図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
10	上層	石鏃	完形	17.0	10.9	3.3	704.5	デイサイト	
11	埋土中	磨石・敲石	1/2	10.0	5.2	2.8	174.1	緑色片岩	
12	上層	磨石	完形	4.9	4.8	2.6	88.1	花崗岩	

第180表　６区SS10出土土器観察表（第382図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	床面直上	弥生土器 甕	口縁～頸部 破片	※15.9	—	△2.7	外面：口縁部２条の凹線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、砂粒	良	橙褐色	
2	上層	弥生土器 器台	受部 1/2	※18.3	—	△3.1	外面：口縁部３条の凹線、頸部ナデ、ミガキ 内面：ミガキ	密 石英、砂粒 白色粒	良	淡橙色	

第181表　６区SI11出土土器観察表（第384図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	下層	弥生土器 直口壺	口縁～頸部 1/5	※10.2	—	△ 4.3	外面：ハケ 内面：口縁部摩耗のため調整不明、頸部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	橙色	
2	埋土中	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/6	※16.0	—	△ 4.5	外面：口縁部９～10条の凹線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	褐色	外面煤付着
3	床面直上	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/7	※15.3	—	△ 3.8	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	橙色	外面黒斑
4	上層	弥生土器 甕	口縁～頸部 破片	※15.9	—	△ 4.9	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、白色粒、砂粒	良	橙色	
5	床面直上	弥生土器 甕	底部 2/3	—	※ 4.2	△ 6.4	外面：ハケ 内面：ケズリ、指押さえ	密 白色粒、砂粒	良	灰茶褐色	外面煤付着
6	埋土中	土師器 高坏	脚部 破片	—	※14.3	△ 5.4	外面：ナデ 内面：ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	茶褐色	
7	下層	土師器 器台	ほぼ 完形	—	※15.3	△11.2	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 白色粒、砂粒	良	橙色	

第182表　６区SI11出土石器観察表（第384図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量（g）	石材	備考
8	埋土中	石包丁？	1/3	4.3	4.2	1.1	17.7	凝灰岩	穿孔あり
9	上層	二次加工剥片		1.9	2.9	1.1	5.6	玉髄	
10	埋土中	石包丁	破片	1.8	2.3	0.3	1.0	凝灰岩	穿孔あり

第183表　６区SI12出土土器観察表（第386図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	上層	弥生土器 壺	肩部～底部	—	※9.0	△25.9	外面：肩部ハケ、刺突文、底部縦方向のミガキ 内面：ケズリ	密 石英、白色粒	良好	茶灰色	
2	埋土中	弥生土器 甕	口縁～頸部 2/3	※14.4	—	△11.8	外面：口縁部４条の凹線、頸部～胴部ナデ 内面：口縁部ミガキ、指押さえ、胴部ケズリ	密 石英、白色粒、砂粒	良	灰茶褐色	
3	埋土中	弥生土器 甕	底部 破片	—	※5.5	△ 4.9	外面：ハケ、指押さえ 内面：ケズリ、指押さえ	密 白色粒、砂粒	良	橙色	
4	上層	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/12	※14.6	—	△ 3.7	外面：口縁部４条の凹線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、胴部ケズリ	密 砂粒、白色粒	良	橙色	
5	下層	弥生土器 甕	口縁～頸部 完形	※15.4	—	△ 5.6	外面：口縁部４条の凹線、頸部ナデ 内面：口縁部ハケ、指押さえ、頸部指押さえ、胴部ケズリ	密 石英、白色粒、砂粒	良	橙色	
6	下層	弥生土器 甕	口縁～頸部 完形	14.4	—	△ 6.7	外面：摩耗のため調整不明 内面：口縁部ナデ、指押さえ、胴部ケズリ	密 石英、砂粒	良	橙色	
7	上層	弥生土器 器台	2/3	※24.9	17.6	△25.0	外面：口縁部19～20条の櫛描沈線、頸部～脚部縦方向のミガキ、裾部11～12条の櫛描沈線 内面：ミガキ、指押さえ	密 石英、白色粒、砂粒	良	橙褐色	内外面赤彩
8	埋土中	弥生土器 器台	脚部 1/8	—	※14.0	△ 4.0	外面：ナデ、６条の櫛描沈線 内面：ケズリ	密	良	灰褐色	
9	埋土中	弥生土器 器台	受部 1/8	※19.5	—	△ 6.2	外面：口縁部３条以上の櫛描沈線、頸部ハケ、指押さえ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ハケ、指押さえ	密 石英、白色粒、砂粒	良	橙色	
10	上層	弥生土器 器台	脚部 1/10	—	※13.5	△ 2.9	外面：ナデ 内面：ナデ、ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	灰茶色	
11	上層	弥生土器 器台	脚部 1/6	—	※14.1	△ 3.1	外面：ナデ 内面：ケズリ	密 砂粒	良	茶色	

第184表　６区SI12出土石器観察表（第386図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量（g）	石材	備考
12	上層	砥石	破片	4.0	2.2	1.3	9.6	緑色凝灰岩	仕上砥、砥面１面、切り出し面１面
13	上層	砥石	2/3	8.5	6.4	1.5	106.9	砂岩	仕上砥、砥面４面、被熱痕あり
14	下層	台石	完形	9.5	10.0	12.0	1085.6	デイサイト	

第185表　６区SK26出土土器観察表（第390図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 壺	口縁 破片	※15.2	—	△2.4	外面：摩耗のため調整不明 内面：口縁部摩耗のため調整不明、頸部ケズリ	密 石英、白色粒	良	褐色	

第186表　6区SK27出土土器観察表（第392図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 壺	口縁 破片	※12.0	—	△2.1	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、白色粒	良	淡褐色	

第187表　6区SI17出土土器観察表（第394図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 甕	口縁 破片	※14.9	—	△2.6	外面：口縁部ナデ、頸部ハケ 内面：口縁部摩耗のため調整不明、頸部ケズリ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	
2	上層	弥生土器 甕	口縁～頸部	※17.7	—	△3.2	外面：口縁部３条の櫛描沈線、頸部ミガキ 内面：口縁部ミガキ、頸部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	淡橙褐色	
3	上層	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/8	※17.5	—	△5.9	外面：口縁部４条の櫛描沈線、頸部ミガキ 内面：口縁部ミガキ、頸部ケズリ	密 雲母、石英、白色粒	良	橙褐色	外面煤付着
4	埋土中	弥生土器 甕	口縁 破片	※15.5	—	△2.4	外面：口縁部３条の凹線、頸部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	灰褐色	
5	下層	弥生土器 甕	口縁 1/5	※16.0	—	△2.5	外面：口縁部３条の凹線、頸部ナデ 内面：口縁部ミガキ、頸部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	
6	上層	弥生土器 甕	口縁～頸部	※19.8	—	△3.7	外面：口縁部３条の凹線、頸部刺突文 内面：口縁部摩耗のため調整不明、頸部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	灰褐色	
7	上層	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/8	※19.0	—	△4.0	外面：口縁部６条の凹線、頸部ナデ 内面：口縁部摩耗のため調整不明、頸部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	
8	上層	弥生土器 甕	口縁 破片	※16.0	—	△3.8	外面：口縁部５条の凹線、頸部ナデ 内面：口縁部ミガキ、頸部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	
9	埋土中	弥生土器 甕	口縁 破片	※16.8	—	△3.3	外面：口縁部４条の凹線、頸部ナデ 内面：口縁部ミガキ、頸部ケズリ	密 石英、砂粒	良	橙褐色	

第188表　6区SI18出土石器観察表（第396図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量（g）	石材	備考
1	上層	台石	完形	23.2	17.7	6.3	3360.0	デイサイト	

第189表　6区SI25出土土器観察表（第398図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 壺	口縁～頸部 1/6	※19.0	—	△5.9	外面：口縁端部３条の凹線、口縁部ナデ、頸部ハケ 内面：指押さえ	密 雲母、白色粒	良好	褐色	
2	上層	弥生土器 壺	口縁 1/8	※13.4	—	△2.6	外面：口縁端部３条の凹線、口縁部ナデ 内面：ナデ	密 石英、白色粒	良好	褐色	内外面赤彩
3	中層	土師器 壺	口縁 1/8	※15.3	—	△5.3	外面：口縁部ナデ、肩部ハケ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、胴部ケズリ	密			
4	埋土中	土師器 壺	口縁～肩部 1/6	※15.3	—	△5.3	外面：口縁部ナデ、肩部ハケ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、胴部ケズリ	密	良好	灰褐色	
5	下層	土師器 壺	口縁 破片	※10.4	—	△3.6	外面：口縁部ナデ、肩部ハケ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、胴部ケズリ	密 石英、砂粒	良好	橙褐色	
6	下層	弥生土器 無頸壺	口縁～胴部 1/4	※ 9.1	—	△7.9	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、胴部ケズリ、指押さえ	密 雲母、石英、砂粒	良好	黒茶色	
7	下層	弥生土器 甕	口縁～胴部 1/3	※16.0	—	△7.7	外面：口縁端部２条の凹線、口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良好	灰褐色	内外面黒斑
8	上層	弥生土器 甕	口縁～胴部 1/3	※20.6	—	△7.2	外面：口縁端部５条の凹線、口縁部ナデ、肩部櫛状工具による列点文、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、胴部ケズリ	密 石英、白色粒、砂粒	良好	橙褐色	
9	上層	弥生土器 甕	口縁～胴部 1/8	※16.2	—	△7.4	外面：口縁端部４条の凹線、口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ハケ、胴部ケズリ	密 石英、白色粒、砂粒	良好	褐色	口縁部内外面赤彩
10	埋土中	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/9	※16.4	—	△4.5	外面：口縁端部２条の凹線、肩部刺突文、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 石英、白色粒、砂粒	良好	橙褐色	内外面赤彩
11	上層	弥生土器 甕	口縁～肩部 完形	15.4	—	△5.4	外面：口縁端部５条の凹線、口縁部ナデ、肩部櫛状工具による列点文、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密	良好	褐色	
12	上層	弥生土器 甕	口縁 1/2	※16.2	—	△5.1	外面：口縁端部11条の凹線、口縁部ナデ、肩部貝殻腹縁による列点文 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 石英、白色粒、砂粒	良好	橙褐色	内外面赤彩
13	中層	弥生土器 注口土器	把手	長さ 5.0	幅 5.5	厚さ 2.7	外面：摩耗のため調整不明	密 石英	良好	灰褐色	

第190表　6区SI25出土石器観察表（第398・399図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量（g）	石材	備考
14	床面直上	石鏃	3/4	10.8	7.4	2.0	163.9	安山岩	
15	上層	石鏃	4/5	12.4	10.3	2.2	374.1	安山岩	
16	下層	砥石	完形	5.8	5.8	4.6	27.2	軽石	
17	埋土中	砥石	破片	5.9	3.8	3.8	80.5	花崗岩	中砥、砥面２面
18	床面直上	砥石	ほぼ完形	14.5	6.9	6.1	836.8	砂岩	荒砥、砥面４面
19	埋土中	砥石	破片	8.5	5.6	4.3	247.2	閃緑岩	中砥、砥面３面
20	埋土中	砥石	2/3	6.3	4.7	2.7	111.9	溶岩	荒砥、砥面４面
21	下層	磨石・敲石	完形	5.8	5.4	5.5	250.9	緑色片岩	敲打痕２面
22	下層	磨石	完形	8.7	8.0	3.0	215.1	デイサイト	
23	埋土中	台石	—	17.6	16.0	6.2	1520.0	凝灰角礫岩	廃棄後被熱

第191表　３区SS２出土土器観察表（第401図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	床面直上	弥生土器 甕	口縁 破片	※17.8	—	△3.0	外面：５条の平行沈線、ナデ 内面：ナデ、指押さえ	密 白色粒、砂粒	良	橙褐色	
2	床面直上	弥生土器 甕	口縁 1/8	※16.8	—	△4.0	外面：口縁部５条の平行沈線、頸部ミガキ 内面：口縁部ミガキ、頸部ケズリ	密 雲母、石英、角閃石	良	橙褐色	

第192表　４区SS１出土土器観察表（第404図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	下層	土師器 甕	口縁 破片	※22.5	—	△4.9	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密	良好	褐色	
2	下層	土師器 甕	頸部～肩部 1/2	—	—	△4.4	外面：頸部ナデ、肩部ハケ 内面：ナデ	密 石英、砂粒	良好	褐色	
3	下層	土師器 底部	底部	—	—	△1.8	外面：摩耗のため調整不明 内面：指押さえ→ケズリ	密 白色粒	良好	褐色	
4	埋土中	土師器 小型丸底壺	胴部 1/2	—	—	3.9	外面：摩耗のため調整不明 内面：指押さえ→ケズリ→ナデ	密	良好	褐色	外面黒斑

第193表　４区SS１出土石器観察表（第404図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量（g）	石材	備考
5	埋土中	石棒？		17.1	6.9	5.1	970.4	片麻岩	
6	下層	砥石	完形	11.2	10.9	7.2	1408.0	閃緑岩	
7	下層	敲石	1/2	6.5	6.4	3.4	153.4	デイサイト	

第194表　４区SS２出土土器観察表（第406図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	土師器 壺	口縁～肩部 1/4	※20.6	—	△ 8.3	外面：口縁部ナデ、頸部～胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ、胴部ケズリ	密 白色粒	良好	褐色	
2	埋土中	土師器 甕	口縁～頸部 破片	※15.2	—	△ 3.9	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ	密 石英、白色粒	良好	褐色	
3	埋土中	土師器 甕	口縁～頸部 1/2	※16.7	—	△ 5.6	外面：口縁部ナデ、頸部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 石英、白色粒、砂粒	良好	褐色	
4	埋土中	土師器 甕	口縁～肩部 1/4	※17.8	—	△ 5.2	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 雲母、白色粒	良好	褐色	
5	埋土中	土師器 甕	口縁～肩部 1/6	※13.8	—	△ 4.5	外面：口縁部ナデ、頸部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 雲母、石英、白色粒	良好	褐色	
6	埋土中	土師器 甕	口縁～頸部 1/3	※16.8	—	△ 4.2	外面：ナデ 内面：ナデ	密 石英、砂粒	良好	褐色	
7	埋土中	土師器 甕	口縁～肩部 1/4	※14.3	—	△ 5.4	外面：口縁部ナデ、頸部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 石英、白色粒、砂粒	良好	灰褐色	
8	下層	土師器 甕	口縁 1/4	※13.2	—	△ 3.7	外面：口縁部ナデ、頸部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 石英、白色粒	良好	褐色	
9	埋土中	土師器 高坏	坏部～脚部 2/3	—	※14.6	△13.8	外面：摩耗のため調整不明 内面：ケズリ、ハケ	密 雲母、石英、砂粒	良好	褐色	
10	埋土中	土師器 低脚坏	1/3	※16.7	※ 9.0	8.2	外面：摩耗のため調整不明 内面：坏部ミガキ、脚部指押さえ	密 雲母、角閃石、石英	良好	褐色	
11	埋土中	土師器 低脚坏	脚部	—	5.8	△ 1.9	外面：ナデ 内面：指押さえ	密	良好	褐色	
12	下層	土師器 器台	脚部 1/6	—	※20.6	△ 5.5	外面：ナデ 内面：ケズリ	密 白色粒、砂粒	良好	褐色	

第195表　４区SS２出土石器観察表（第406図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量（g）	石材	備考
13	下層	砥石	2/3	8.9	9.0	5.1	623.2	デイサイト	砥面３面
14	床面直上	磨石、敲石	完形	11.8	8.6	5.5	838.9	玄武岩	

第196表　４区SS９出土土器観察表（第408図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	床面直上	土師器 甕	口縁 破片	※14.4	—	△2.8	外面：ナデ 内面：ナデ	密 雲母、石英、白色粒	良好	褐色	

第197表　４区SS10出土土器観察表（第410図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 甕	口縁 破片	※13.1	—	△2.3	外面：口縁部４条の平行沈線、頸部ナデ 内面：ナデ	密 石英・白色粒・砂粒	良好	褐色	
2	埋土中	弥生土器 甕	口縁 1/4	—	※8.8	△2.7	外面：ハケ、底面ケズリ→ナデ・指押さえ 内面：ケズリ	密 石英・白色粒・砂粒	良好	灰褐色～橙褐色	

第198表　４区SS７出土土器観察表（第413図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	下層	土師器 壺	頸部 破片 胴部～底部 完形	—	3.5	△15.5	外面：口縁部ナデ、胴部～底部摩耗のため調整不明 内面：口縁部ナデ、頸部、胴部ケズリ	密 石英、白色粒	良好	橙褐色	
2	上層	土師器 壺	口縁～肩部	※16.4	—	△ 8.2	外面：ナデ 内面：口縁部指押さえ、頸部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良好	褐色	外面黒斑
3	床面直上	土師器 甕	口縁～胴部 1/4	※19.0	—	△10.1	外面：口縁部ナデ、胴部摩耗のため調整不明 内面：口縁部摩耗のため調整不明、胴部ケズリ	密 石英、白色粒、砂粒	良好	褐色	
4	床面直上	土師器 甕	口縁～頸部	※14.9	—	△ 4.7	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 白色粒	良好	褐色	
5	上層	土師器 甕	口縁～肩部 1/4	※12.8	—	△ 4.8	外面：口縁部ナデ、頸部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、白色粒、砂粒	良好	褐色	
6	上層	土師器 低脚坏	脚部 ほぼ完形	—	※5.0	△ 1.5	外面：口縁部４条の凹線、頸部ナデ 内面：ナデ	密 石英、白色粒、砂粒	良好	褐色	

第199表　４区SK３出土土器観察表（第415図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	上層	土師器 甕	口縁～肩部	※13.8	—	△7.9	外面：摩耗のため調整不明 内面：口縁部～頸部ナデ、胴部ケズリ、指押さえ	密 砂粒	良	褐色	
2	埋土中	土師器 甕	口縁～胴部 1/8	※13.0	—	△4.5	外面：口縁部ナデ、指押さえ、胴部ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ、指押さえ	密 砂粒	良	黄褐色	

第200表　４区SS11出土土器観察表（第416図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 壺	口縁 1/10	※18.0	—	△2.5	外面：口縁部４条の凹線、頸部ナデ 内面：ナデ	密 雲母	良	橙色	
2	埋土中	弥生土器 注口土器？	把手	幅 3.0	—	△6.3	外面：指押さえ→ナデ	密 砂粒	良	黄橙色	

第201表　４区SS14出土土器観察表（第417図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
7	埋土中	土師器 壺	口縁～肩部 1/2	※19.6	—	△9.0	外面：ナデ、指押さえ 内面：口縁部ナデ、頸部指頭調整、胴部ケズリ	密 石英、砂粒	良	淡橙色	頸部内面 炭化物付着
8	埋土中	土師器 甕	口縁 1/3	※17.1	—	△7.9	外面：口縁部ナデ、頸部摩耗のため調整不明 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ、胴部ケズリ→ナデ	密 雲母、白色粒	良	橙色	
9	埋土中	土師器 甕	口縁 1/4	※15.4	—	△5.5	外面：口縁部ナデ、頸部ハケ 内面：口縁部～頸部ハケ状工具によるナデ、指押さえ、胴部ケズリ→ナデ	密 白色粒、砂粒	良	橙色	
10	埋土中	土師器 甕	口縁～頸部	※14.6	—	△4.8	外面：口縁部ナデ、頸部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密	良好	黄灰白色	
11	埋土中	土師器 甕	口縁 破片	※12.0	—	△4.1	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密	良	褐色	
12	埋土中	土師器 低脚坏	坏部～底部	※20.6	※5.4	△5.9	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 雲母、白色粒	良	淡黄褐色	
13	埋土中	土師器 低脚坏	脚部	—	※6.0	△2.3	外面：ハケ→ミガキ 内面：指押さえ	密 白色粒	良好	褐色	内面黒斑
14	埋土中	土師器 小型器台	口縁 1/4	※ 9.8	—	△7.1	外面：坏部ナデ、脚部ハケ 内面：坏部ミガキ、脚部ケズリ・指押さえ	密 雲母・白色粒	良	淡黄色	内面坏部・外面赤彩

第202表　４区SS６出土土器観察表（第420図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	土師器 壺	口縁～肩部 1/4	※17.8	—	△9.5	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部指頭調整、胴部ケズリ	密 石英、砂粒	良	淡橙色	外面煤付着
2	埋土中	土師器 壺	口縁～頸部 1/5	※20.0	—	△8.5	外面：口縁部ナデ、頸部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ、胴部ケズリ	密 雲母、角閃石、砂粒	良	橙色	外面煤付着
3	埋土中	土師器 壺	口縁～肩部 1/6	※13.6	—	△6.2	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ→ナデ、胴部ケズリ	密 雲母、石英	良	黄褐色	
4	埋土中	土師器 壺	頸部～肩部 破片	—	—	△3.1	外面：ミガキ、刻目を有する貼付突帯 内面：ナデ	密 雲母、白色粒	良	橙色	
5	埋土中	土師器 壺	頸部～胴部 1/3	—	—	△5.7	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、角閃石	良	橙褐色	
6	埋土中	弥生土器 甕	口縁 1/8	※14.2	—	△4.7	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部摩耗のため調整不明	密 雲母、石英	良	橙色	
7	埋土中	土師器 甕	口縁～肩部 1/2	※16.8	—	△5.7	外面：摩耗のため調整不明 内面：口縁部摩耗のため調整不明、肩部ケズリ	密 砂粒	良	橙色	
8	埋土中	土師器 甕	口縁 1/8	※16.4	—	△3.6	外面：ナデ 内面：ナデ	密 砂粒	良	浅黄橙色	
9	埋土中	土師器 甕	口縁～肩部 1/3	※17.4	—	△6.3	外面：ナデ 内面：ナデ	密 石英、角閃石	良	橙色	
10	埋土中	土師器 甕	口縁～頸部 1/6	※19.0	—	△5.9	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、白色粒	良	橙色	
11	埋土中	土師器 甕	口縁 1/5	※16.2	—	△4.8	外面：ナデ 内面：ナデ	密 雲母、砂粒	良	黄褐色	外面煤付着

12	埋土中	土師器 甕	口縁 1/2	※15.0	—	△5.4	外面：口縁部ナデ、頸部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 雲母、砂粒	良	黄橙色	外面煤付着
13	埋土中	土師器 甕	口縁～肩部 1/6	※16.8	—	△6.6	外面：口縁部ナデ、頸部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 角閃石、白色粒	良	橙色	
14	埋土中	土師器 甕	口縁～肩部 1/4	※14.5	—	△7.1	外面：口縁部ナデ、頸部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 雲母、砂粒	良	橙色	
15	埋土中	土師器 甕	口縁 1/4	※17.7	—	△5.5	外面：口縁部ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 石英、角閃石、砂粒	良	橙褐色	
16	埋土中	土師器 甕	口縁 1/8	※13.3	—	△4.2	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 雲母、砂粒	良	橙褐色	
17	埋土中	土師器 甕	口縁～頸部 1/3	※13.8	—	△4.1	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、砂粒	良	明黄褐色	一部黒斑
18	P105	土師器 甕	口縁～肩部 1/6	※16.6	—	△6.1	外面：口縁部ナデ、頸部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密	良	黄灰白色	
19	埋土中	土師器 注口土器	把手	幅 2.8	—	△3.9	外面：指押さえ	密 石英、砂粒	良	橙色	
20	埋土中	土師器 高坏	脚部 1/2	—	—	△7.5	外面：ミガキ 内面：ナデ、指押さえ	密 砂粒	良	橙色	
21	埋土中	土師器 高坏	脚部	—	—	△5.6	外面：ハケ 内面：上部絞り目	密 雲母、砂粒	良	橙色	
22	埋土中	土師器 器台	受部	—	—	△5.0	外面：ナデ 内面：ナデ	密 雲母、石英	良	橙色	
23	埋土中	土師器 低脚坏	脚部	—	※ 4.6	△1.9	外面：ナデ 内面：ナデ	密 雲母、砂粒	良	橙色	
24	埋土中	土師器 低脚坏	坏部～脚部	—	—	△2.5	外面：摩耗のため調整不明 内面：ナデ、指押さえ、平行沈線	密 砂粒	良	黄橙色	
25	埋土中	土師器 小型器台	完形	9.6	10.2	9.8	外面：口縁部端部２条の平行沈線、受部～脚部ミガキ 内面：受部ミガキ、脚部ケズリ、ナデ	密 石英、角閃石、砂粒	良	橙褐色	
26	埋土中	土師器 器台	1/3	—	※16.0	△7.4	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 雲母、砂粒	良	浅黄橙色	
27	埋土中	弥生土器 蓋	ほぼ 完形	※14.2	—	8.0	外面：ナデ、指押さえ 内面：ハケ	密 石英、砂粒	良	橙色	

第203表　４区SS６出土金属製品観察表（第420図）

遺物番号	出土層位	種　別	部位 残存率	法　量（cm）			重量(g)	材　質	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
28	埋土中	刀子	刃部	3.4	1.2	0.3	5.2	鉄	

第204表　４区SS６出土石器観察表（第420図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	遺存 状態	法　量（cm）			重量 （g）	石　材	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
29	埋土中	石鏃	ほぼ完形	1.7	1.3	0.3	0.5	サヌカイト	

第205表　４区SK４出土土器観察表（第422・423図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
1	下層	土師器 壺	1/2	※14.7	※ 9.6	52.8	外面：ハケ状工具によるナデ、頸部貼付突帯、肩部縦ハケ→櫛状工具による刺突、３段の櫛描直線文、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ→ナデ	密 白色粒、砂粒	良	黄橙色	外面赤彩
2	埋土中	土師器 壺	口縁～胴部	19.8	—	△26.0	外面：口縁部３条の凹線、頸部指押さえ→ナデ、肩部波状文、ナデ→ハケ 内面：口縁部指押さえ→ナデ、頸部絞り、指押さえ→ケズリ	密 雲母、石英、 角閃石、砂粒	良	淡褐色	
3	埋土中	土師器 壺	口縁～底部	21.8	—	△38.0	外面：口縁部指押さえ→ナデ､頸部指押さえ→ナデ､ハケ、胴部指押さえ→ハケ、底部指押さえ→ナデ 内面：口縁部～頸部ナデ、肩部ケズリ、胴部～底部指押さえ→ケズリ	密 雲母、石英、白色粒	良	灰褐色	
4	埋土中	土師器 壺	口縁 1/4	※17.0	—	△ 8.7	外面：口縁部指押さえ→ナデ、頸部指押さえ→ハケ→ナデ 内面：口縁部指押さえ→ナデ、頸部ナデ、胴部ケズリ	密 雲母、石英、角閃石	良	黒褐色	
5	埋土中	土師器 壺	口縁 1/4	※22.4	—	△ 9.5	外面：口縁部指押さえ→ナデ、頸部ナデ→ハケ 内面：口縁～頸部ナデ、胴部ケズリ	密 石英、砂粒	良	淡褐色	外面煤付着
6	埋土中	土師器 甕	口縁～胴部	39.2	—	△44.0	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部～頸部ナデ、胴部ハケ	密	良好	橙褐色	
7	中層	土師器 甕	口縁～胴部 1/3	※16.3	—	△11.6	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ→ナデ	密 石英、白色粒	良	褐色	外面煤付着 内外面赤彩
8	下層	土師器 甕	口縁～胴部 1/2	※22.4	—	△11.0	外面：口縁部ナデ、肩部７条の櫛描沈線、波状文、ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 石英、白色粒	良	淡褐色	内外面赤彩
9	下層	土師器 甕	口縁～胴部	37.6	—	△27.8	外面：口縁部ナデ、肩部櫛状工具による羽状文、櫛描直線文、頸部ハケ、胴部ハケ 内面：指押さえ→ケズリ	密 石英、白色粒、砂粒	良好	褐色	
10	下層	土師器 甕	口縁～肩部 1/2	※37.6	—	△15.3	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ、胴部ケズリ	密 石英、白色粒	良	橙褐色	
11	下層	土師器 注口土器	胴部～注口部	—	—	△20.3	外面：肩部波状文、胴部上半横ハケ、胴部下半縦ハケ、注口部ケズリ→指押さえ→ナデ 内面：胴部ケズリ→指押さえ→ナデ、注口部ナデ→ケズリ→指押さえ	密 雲母、石英、砂粒	良	淡黄褐色	
12	上層	土師器 高坏	1/2	※17.0	—	△11.1	外面：坏部ミガキ、脚部工具による調整→ナデ 内面：坏部ミガキ、脚部ナデ、指さえ	密 白色粒	やや良	褐色	内外面黒斑 内外面赤彩
13	埋土中	土師器 器台	ほぼ 完形	23.1	20.4	12.6	外面：ナデ→指押さえ→ミガキ 内面：受部ミガキ、脚部ケズリ→ナデ	密 雲母、石英、砂粒	良	赤褐色	
14	埋土中	土師器 小型器台	受部 2/3	※10.2	—	△ 2.1	外面：指押さえ→ナデ→ハケ 内面：指押さえ→ミガキ	密 雲母、石英、砂粒	良	淡褐色	

第206表　４区SK４出土金属製品観察表（第423図）

遺物番号	出土層位	種　別	部位残存率	法　量（cm）			重量（g）	材　質	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
15	埋土中	刀子	破片	1.7	2.4	0.4	10.5	鉄	

第207表　４区SK４出土石製品観察表（第423図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	遺存状態	法　量（cm）			重量（g）	石　材	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
16	下層	勾玉	完形	1.2	0.7	0.35	0.6	翡翠	

第208表　４区SK６出土土器観察表（第426図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
1	下層	土師器 甕	口縁 破片	—	—	△3.9	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 雲母、石英、砂粒	良	黄褐色	

第209表　４区SS８出土土器観察表（第428図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
1	床面直上	弥生土器 甕	口縁～頸部 ほぼ完形	19.2	—	△4.4	外面：口縁部９条の櫛描平行沈線→ナデ消し、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、白色粒、砂粒	良好	褐色	外面黒斑
2	埋土中	土師器 甕	口縁 破片	※13.7	—	△4.4	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、砂粒	良好	褐色	
3	埋土中	土師器 高坏	脚部 1/7	—	※10.6	△7.5	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密	良好	褐色	円形透かし あり
4	埋土中	土師器 低脚坏	脚部 3/5	—	5.0	△2.3	外面：摩耗のため調整不明 内面：ナデ	密 白色粒	良好	褐色	

第210表　４区SS22出土土器観察表（第429図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
1	埋土中	弥生土器 甕	1/4	※12.4	—	△4.6	外面：口縁部３条の凹線、頸部ナデ、肩部ハケ→ミガキ 内面：口縁部ミガキ、胴部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	灰褐色	

第211表　４区SS16出土土器観察表（第432図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
1	埋土中	土師器 小型丸底壺	1/4	8.8	—	△10.2	外面：口縁部ミガキ、胴部指押さえ→ナデ 内面：口縁部指押さえ→ナデ、胴部ケズリ	密 角閃石、砂粒	良	赤褐色	内外面赤彩
2	埋土中	弥生土器 甕	口縁 破片	※13.8	—	△ 3.8	外面：口縁部櫛描平行沈線→ナデ消し、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、砂粒	良	褐色	
3	埋土中	土師器 甕	口縁 破片	※16.4	—	△ 3.8	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密	良	黄褐色	
4	埋土中	弥生土器 高坏	脚部 1/6	—	※10.8	△ 4.5	外面：ナデ 内面：ケズリ→指押さえ	密 石英、小石	良	黄褐色	

第212表　６区SS７出土土器観察表（第439図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
1	下層	弥生土器 壺	口縁～頸部 1/3	※17.4	—	△7.1	外面：口縁部３条の平行沈線、頸部４条の凹線、ハケ、ナデ 内面：口縁部ハケ、指押さえ、頸部ケズリ	密 白色粒	良	灰橙褐色	
2	床面直上	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/6	※19.3	—	△3.6	外面：口縁部４条の平行沈線、頸部刺突文 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、砂粒、白色粒	良	橙色	
3	床面直上	弥生土器 把手	把手 1/2	—	—	△3.6	ナデ	密 砂粒	良	灰黄色	

第213表　６区SS24出土土器観察表（第441図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
1	床面直上	弥生土器 壺	口縁～頸部 1/4	※23.6	—	△12.7	外面：口縁部２条の凹線、頸部４条の凹線、ハケ 内面：ハケ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	
2	上層	弥生土器 壺	口縁～肩部 1/8	※15.0	—	△ 6.0	外面：口縁部３条の凹線、頸部ハケ 内面：指押さえ→ナデ	密 雲母、石英、砂粒	良	灰褐色	内外面赤彩
3	埋土中	弥生土器 壺	口縁～肩部 1/4	※13.9	—	△ 7.4	外面：口縁部４条の平行沈線、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、胴部ケズリ→ナデ	密 雲母、石英、砂粒	良	褐色	外面赤彩
4	埋土中	弥生土器 甕	口縁～肩部	※19.5	—	△ 5.6	外面：口縁部１条の凹線、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	灰褐色	
5	埋土中	弥生土器 甕	口縁～頸部	※22.7	—	△ 6.2	外面：口縁部３条の凹線、胴部ハケ 内面：口縁部ハケ、胴部ケズリ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	
6	下層	弥生土器 甕	口縁～肩部 破片	※15.8	—	△ 4.8	外面：口縁部４条の平行沈線、胴部ハケ 内面：口縁部摩耗のため調整不明、胴部ケズリ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	

7	下層	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/8	※17.6	—	△ 4.8	外面：口縁部３条の平行沈線、頸部ハケ 内面：ハケ	密 石英、砂粒	良	淡橙褐色	
8	埋土中	弥生土器 甕	口縁～肩部	※18.9	—	△ 6.4	外面：口縁部ナデ、頸部ハケ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ケズリ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	
9	埋土中	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/4	※10.5	—	△ 3.4	外面：口縁部４条の凹線、胴部ハケ 内面：口縁部摩耗のため調整不明、胴部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	灰褐色	外面赤彩
10	埋土中	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/4	※20.0	—	△ 4.5	外面：口縁部４条の平行沈線、胴部ハケ 内面：口縁部摩耗のため調整不明、胴部ケズリ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	
11	埋土中	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/7	※15.4	—	△ 3.9	外面：口縁部２条の平行沈線、頸部摩耗のため調整不明 内面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ケズリ	密 石英、砂粒	良	褐色	
12	埋土中	弥生土器 甕	口縁～頸部	※17.5	—	△ 4.2	外面：口縁部５条の平行沈線、頸部摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明、頸部ケズリ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	
13	埋土中	弥生土器 高坏	脚部 1/4	—	※14.6	△ 4.6	外面：ハケ、端部３条の凹線 内面：ケズリ、ナデ、指押さえ	密 雲母、石英、砂粒	良	灰褐色	
14	埋土中	弥生土器 高坏	脚部 1/4	—	※12.8	△ 6.3	外面：ケズリ→ハケ、端部３条の平行沈線 内面：ケズリ→ナデ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	
15	床面直上	弥生土器 器台	受部 1/4	※28.2	—	△ 7.5	外面：口縁部６条の平行沈線、頸部ハケ 内面：ハケ	密 石英、砂粒	良	橙褐色	
16	床面直上	弥生土器 器台	受部	※20.8	—	△ 7.0	外面：ハケ 内面：ハケ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	
17	下層	弥生土器 器台	脚部	—	※23.2	△ 8.3	外面：摩耗のため調整不明、端部２条の平行沈線 内面：ケズリ、指押さえ	密	良	橙色	
18	埋土中	弥生土器 器台	脚部	—	※22.4	△ 3.7	外面：ハケ、端部４条の平行沈線 内面：ケズリ	密 石英、砂粒	良	橙褐色	

第214表　６区SS24出土石器観察表（第442図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量（g）	石材	備考
19	埋土中	石斧	3/4	14.6	4.0	4.0	355.6	砂岩	
20	埋土中	砥石	ほぼ完形	15.8	9.3	6.6	910.6	凝灰岩	砥面５面、被熱
21	埋土中	砥石	破片	3.1	2.7	0.3	1.8	凝灰岩	砥面２面

第215表　６区SK36−１出土土器観察表（第444図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	上層	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/8	※21.8	—	△5.6	外面：口縁部６条の平行沈線、頸部ミガキ、刺突文 内面：口縁部ミガキ、胴部ケズリ	密 石英、白色粒	良	橙褐色	

第216表　３区SK60出土土器観察表（第449図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	中層	弥生土器 甕	口縁～胴部 破片	※14.5	—	△8.4	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、砂粒	やや良	黄灰白色	
2	中層	弥生土器 甕	口縁 破片	※16.6	—	2.5	外面：５条の凹線、ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 砂粒	良	褐色	
3	上層	弥生土器 甕	口縁 破片	※16.8	—	△3.0	外面：５条の平行沈線、ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、砂粒	やや良	灰褐色	

第217表　２区SD19出土土器観察表（第453図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	上層	弥生土器 甕	口縁 1/8	※17.6	—	△4.9	外面：４条の凹線、ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、白色小石、砂粒	良	橙褐色	
2	上層	弥生土器 器台	受部 破片	※19.6	—	△4.3	外面：３条以上の凹線、ナデ 内面：ナデ	密 石英、白色小石、砂粒	やや良	明褐色	内外面赤彩

第218表　４区SD１出土土器観察表（第455図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	上層	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/8	※21.6	—	△4.9	外面：口縁部二枚貝腹縁による平行沈線、頸部ナデ 内面：ナデ	密 石英、白色粒、砂粒	良好	橙褐色	

第219表　４区SD１出土石器観察表（第455図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量（g）	石材	備考
2	下層	台石	2/3	15.5	20.8	7.2	4426.0	デイサイト	敲打痕あり

第220表　６区SD12出土土器観察表（第459図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	弥生土器 甕	口縁 破片	—	—	△1.8	外面：口縁端部刻目 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、白色粒	良	褐色	

第221表　２区SI８出土土器観察表（第465・466図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	下層	土師器 壺	口縁～肩部	※19.4	—	△ 9.2	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ→ナデ	密 石英、白色小石、石粒	良	黄灰白色	
2	床面直上	土師器 壺	口縁～頸部 1/5	※24.6	—	△ 8.3	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ→ナデ	密	良	黄灰白色	
3	埋土中	土師器 壺	口縁～頸部 3/5	※19.4	—	△10.0	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ、ナデ、胴部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	灰褐色	
4	下層	土師器 甕	口縁～胴部 1/6	※15.0	—	△ 8.1	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密	良	黄灰白色	
5	下層	土師器 甕	口縁～肩部	※17.0	—	△10.0	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ、指押さえ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	内外面赤彩
6	下層	土師器 甕	口縁～胴部 1/5	※16.6	—	△ 9.4	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ→ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 石英、白色小石、砂粒	良	褐色	
7	下層	土師器 甕	口縁～肩部 1/8	※15.7	—	△ 6.5	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ、波状文 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 石英、白色粒	良	灰茶色	
8	床面直上	土師器 甕	口縁～胴部	※15.6	—	△11.4	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	黄灰白色	外面煤付着
9	床面直上	土師器 甕	口縁～肩部 1/4	※18.8	—	△9.6	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ、波状文、櫛描平行沈線 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 石英、白色粒、砂粒	良	褐色	
10	下層	土師器 甕	完形	※15.6	—	△25.2	外面：口縁部ナデ、肩部５～６条の櫛描平行沈線、胴部上半横ハケ、胴部下半縦、斜め方向のハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ、指押さえ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	
11	床面直上	土師器 甕	口縁～肩部 1/2	※27.4	—	△ 8.8	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	黄灰白色	外面煤付着
12	埋土中	土師器 甕	口縁～肩部	16.4	—	△11.6	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 石英、角閃石白色粒	良	淡黄灰色	外面煤付着 外面赤彩
13	下層	土師器 甕	口縁～肩部 1/6	※20.8	10.1	△ 8.9	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	褐色	
14	埋土中	土師器 甕	口縁～胴部	※39.8	—	△26.3	外面：口縁部ナデ、頸部～肩部櫛状工具による刺突文、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 石英、砂粒	良	橙褐色	
15	下層	土師器 注口土器	9/10	12.4	—	16.2	外面：口縁部ミガキ、胴部、注口部ハケ 内面：口縁部～頸部ミガキ、胴部ケズリ	密 石英、角閃石白色粒	良	灰褐色	外面煤付着
16	下層	土師器 高坏	ほぼ完形	22.0	—	△11.5	外面：摩耗のため調整不明 内面：坏部摩耗のため調整不明、脚部ケズリ	密 石英、白色粒、砂粒	良	褐色	
17	埋土中	土師器 高坏	脚部	—	※12.2	△ 8.4	外面：ハケ 内面：脚部ケズリ、底部ハケ	密 雲母、石英、砂粒	良	淡褐色	
18	埋土中	土師器 高坏	脚部 1/3	—	※ 9.5	△ 7.9	外面：ミガキ 内面：ミガキ	密 角閃石、白色粒	良	灰褐色	外面黒斑
19	埋土中	土師器 高坏	脚部	—	18.2	△ 4.0	外面：ナデ 内面：ケズリ	密 石英、砂粒	良	灰茶色	脚部円形透し3個
20	下層	土師器 低脚坏	1/2	12.7	6.6	5.4	外面：坏部ハケ、脚部ナデ 内面：ナデ	密 雲母、石英	やや良	褐色	
21	埋土中	土師器 低脚坏	4/5	15.5	6.3	7.1	外面：坏部ミガキ、脚部ナデ 内面：坏部ミガキ、脚部ナデ	密 雲母、石英、砂粒	良	淡褐色	
22	埋土中	土師器 器台	受部 1/8 脚部 1/3	※20.8	※19.6	10.0	外面：摩耗のため調整不明 内面：口縁部ミガキ、脚部ケズリ	密 石英、白色粒、砂粒	良	褐色	
23	下層	土師器 鉢	1/4	※10.6	—	△ 4.6	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 石英、砂粒	良	黄灰白色	
24	埋土中	土師器 甑	把手	—	—	△ 3.6	外面：ケズリ、ナデ 内面：ケズリ	密 石英、白色粒	良	淡褐色	
25	埋土中	土師器 甑	把手	—	—	△ 5.2	外面：ケズリ→ナデ 内面：ケズリ	密 石英、角閃石白色粒	良	淡褐色	
26	下層	土師器 手焙形土器	破片	—	—	△ 8.8	外面：ミガキ、指押さえ、２条の貼付突帯、円形浮文 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、白色粒	良	灰褐色	

第222表　２区SI８出土石器観察表（第466図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量（g）	石材	備考
27	下層	磨石	1/3	6.5	7.0	3.8	105.7	デイサイト	
28	埋土中	台石	1/2	19.0	14.0	12.3	2368.2	凝灰角礫岩	
29	埋土中	砥石	破片	3.5	2.9	1.8	18.7	凝灰岩	仕上砥、砥面2面

第223表　２区SI８出土金属製品観察表（第466図）

遺物番号	出土層位	種別	部位 残存率	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	材質	備考
30	埋土中	鉇	1/2	7.6	0.8	0.35	11.9	鉄	

第224表　２区SI14出土土器観察表（第468図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	上層	土師器 壺	口縁～頸部	※19.8	—	△ 7.4	外面：ナデ 内面：ナデ	密 雲母、石英、砂粒	やや良	褐色	外面煤付着
2	上層	土師器 壺	口縁～頸部	※11.2	—	△ 6.1	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、角閃石、砂粒	良	灰褐色	

3	上層	土師器 甕	口縁 1/8	※14.2	—	△ 6.7	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ、ケズリ	密 砂粒	やや良	黄灰白色	
4	上層	土師器 甕	口縁～肩部	※15.0	—	△ 8.5	外面：口縁部ナデ、肩部波状文、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	
5	上層	土師器 甕	口縁～頸部	※11.7	—	△ 4.3	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	黄灰白色	
6	上層	土師器 甕	口縁～肩部	13.6	—	△10.5	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ→ナデ、胴部ケズリ、指押さえ	密 雲母、石英、砂粒	良	黄灰白色	内外面煤付着
7	上層	土師器 甕	口縁～肩部 1/4	※14.8	—	△ 9.4	外面：口縁部ナデ、肩部刺突文、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 雲母、石英、白色粒	良	橙褐色	外面煤付着
8	上層	土師器 甕	口縁～肩部 1/4	14.4	—	△ 7.0	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	灰褐色	外面煤付着
9	中層	土師器 甕	口縁～肩部	※15.0	—	△ 4.9	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、砂粒	やや良	橙褐色	
10	埋土中	土師器 高坏	坏部 1/4 坏部 1/2	※17.2	※11.6	11.9	外面：坏部摩耗のため調整不明、脚部ハケ、裾部ナデ 内面：脚部ケズリ、底部ハケ	密 石英、白色粒、砂粒	良	赤褐色	
11	中層	土師器 器台	4/5	21.0	※18.1	12.1	外面：摩耗のため調整不明 内面：脚部ケズリ	密 砂粒	やや良	灰褐色	
12	上層	土師器 器台	脚部 1/8	—	※11.8	△ 2.8	外面：ナデ 内面：ナデ	密 石英、白色粒、砂粒	やや良	黄灰白色	

第225表　２区SI14出土石器観察表（第468図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量（g）	石材	備考
13	上層	磨製石斧	破片	2.6	3.7	0.9	7.6	黒色頁岩	
14	下層	台石	ほぼ完形	15.8	8.1	5.9	1125.9	凝灰角礫岩	

第226表　２区SI18出土石器観察表（第470図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量（g）	石材	備考
1	埋土中	砥石	3/4	11.9	7.2	5.7	621.3	花崗岩	中砥、仕上砥、砥面３面

第227表　２区SI19出土土器観察表（第472図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	下層	土師器 壺	口縁 1/4	20.8	—	△ 8.0	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 雲母、石英、角閃石	良	淡黄褐色	
2	床面直上	土師器 高坏	坏部 1/2	※23.0	—	△ 5.0	外面：摩耗のため調整不明 内面：ミガキ	密 雲母、石英、砂粒	良	灰褐色	内面黒斑
3	下層	土師器 高坏	ほぼ 完形	21.3	※13.2	13.1	外面：ハケ 内面：ミガキ、指押さえ	密 雲母、石英、砂粒	良	褐色	
4	下層	土師器 器台	ほぼ 完形	※19.8	※18.8	△ 5.9	外面：摩耗のため調整不明 内面：口縁部ナデ、脚部ケズリ	密 石英、白色粒	良	淡褐色	

第228表　３区SI１出土土器観察表（第475図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	床面直上	土師器 甕	口縁 1/6	17.6	—	△4.7	外面：ナデ 内面：ナデ、指押さえ	密 雲母、石英、砂粒	良	褐色	内外面煤付着
2	埋土中	土師器 甕	口縁 破片	※17.4	—	△6.0	外面：ナデ 内面：ナデ	密 石英、角閃石、砂粒	良	橙褐色	
3	上層	土師器 甕	口縁 破片	17.4	—	△4.5	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、角閃石、砂粒	良	淡黄褐色	外面黒斑

第229表　３区SI８出土土器観察表（第477図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	土師器 甕	口頸部 破片	※14.3	—	△5.1	外面：ナデ 内面：口頸部ナデ、肩部ケズリ	密 砂粒	良好	橙褐色	
2	埋土中	土師器 甕	口頸部 破片	※16.9	—	△4.4	外面：ナデ 内面：口頸部ナデ、肩部ケズリ	密 砂粒	良好	橙褐色	
3	埋土中	土師器 甕	頸部～胴部 破片	※10.7	—	△9.0	外面：頸部指押さえ、ナデ、肩部平行沈線、胴部ハケ 内面：頸部指押さえ、ナデ、胴部ケズリ	密 砂粒	良好	茶褐色	
4	埋土中	土師器 高坏	坏部 破片	※21.7	—	△4.2	外面：指押さえ、ナデ→ハケ 内面：指押さえ、ナデ→ハケ	密 砂粒	良好	茶褐色	
5	埋土中	土師器 器台	接合部 破片	—	—	△3.7	外面：横ナデ 内面：受部ミガキ、接合部ケズリ→ナデ、脚部ケズリ	密 雲母・砂粒	良好	橙色	

第230表　３区SI８出土金属製品観察表（第477図）

遺物番号	出土層位	種別	部位 残存率	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	材質	備考
6	下層	刀子	破片	2.6	2.1	0.4	12.5	鉄	

第231表　３区SI８出土石器観察表（第477図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量（g）	石材	備考
7	埋土中	砥石	2/3	4.5	2.5	0.8	11.9	凝灰岩	砥面２面

第232表　３区SI12出土土器観察表（第479図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	下層	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/8	※14.0	—	△5.4	外面：口縁部櫛状工具による直線文、肩部ハケ 内面：口頸部ナデ、肩部ケズリ	密 石英、砂粒	良	褐色	外面一部煤付着
2	下層	土師器 甕	口縁部 破片	※14.0	—	△3.7	外面：ナデ 内面：ナデ	密 石英、砂粒	良好	褐色	
3	下層	土師器 甕	口頸部 1/4	※10.2	—	△3.1	外面：剥離のため調整不明 内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ	密 石英、角閃石、砂粒	良	褐色	外面赤彩

第233表　４区SS３出土土器観察表（第481図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	床面直上	土師器 低脚坏	脚部 1/3	10.9	—	3.9	外面：ナデ、指押さえ 内面：ナデ、指押さえ	密 雲母、白色粒	良好	褐色	

第234表　４区SS４－４出土土器観察表（第484図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	上層	土師器 甕	口縁～胴部 1/4	※17.2	—	△10.0	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	橙色	
2	埋土中	土師器 甕	口縁 1/7	※22.7	—	△ 6.9	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	橙色	
3	上層	土師器 甕	口縁～胴部 1/5	※20.0	—	△15.7	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ、櫛状工具による刺突文 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 石英、砂粒	良	褐色	
4	上層	土師器 甕	口縁～肩部 1/5	※14.6	—	△ 8.3	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ→ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	橙色	
5	埋土中	土師器 甕	口縁～肩部 1/2	※15.4	—	△ 5.3	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、砂粒	良	橙褐色	
6	上層	土師器 甕	口縁～頸部 1/6	※13.7	—	△ 4.2	外面：ナデ 内面：ナデ	密 石英、白色粒	良	橙色	
7	下層	土師器 甕	口縁～肩部 1/6	※14.5	—	△ 4.6	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 砂粒	良	橙色	
8	上層	土師器 甕	口縁～頸部 1/5	—	—	△ 4.4	外面：ナデ、口縁屈曲部１条の凹線 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	橙褐色	
9	上層	土師器 高坏	坏部 2/3	※13.8	—	△ 5.8	外面：ミガキ 内面：ミガキ	密 砂粒	良	橙色	
10	上層	土師器 器台	脚部 1/5	—	※16.2	△ 5.8	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 砂粒	良	橙色	

第235表　４区SS４－４出土金属製品観察表（第484図）

遺物番号	出土層位	種別	部位 残存率	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	材質	備考
11	埋土中	刀子	茎部	3.7	1.4	0.3	9.9	鉄	

第236表　４区SS４－３出土土器観察表（第485図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
12	埋土中	土師器 壺	口縁 1/8	※18.6	—	△ 5.7	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 白色粒、砂粒	良	灰茶褐色	
13	埋土中	土師器 壺	口縁～肩部 1/3	※17.6	—	△10.0	外面：摩耗のため調整不明 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ、胴部ケズリ	密 石英、白色粒、砂粒	良	濃茶色	内外面炭化物付着
14	上層	土師器 注口土器	注口部	—	—	△ 3.8	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 白色粒、砂粒	良	橙色	
15	上層	土師器 器台	脚部 1/7	—	※18.1	△ 5.7	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、白色粒、砂粒	良	赤橙色	

第237表　４区SS４－３出土石器観察表（第485図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量（g）	石材	備考
16	下層	砥石	完形	11.4	10.0	5.0	903.2	花崗岩	砥面５面
17	下層	台石	1/2	10.3	18.2	8.60	2243.2	凝灰岩	

第238表　４区SS４－２出土土器観察表（第487図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
18	上層	土師器 壺	口縁～肩部 2/3	※21.8	—	△ 9.9	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ→ナデ、胴部ケズリ	密 白色粒、砂粒	やや良	橙色	

19	埋土中	土師器 甕	口縁 1/12	※16.5	—	△ 5.0	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 石英、砂粒	良	淡褐色	
20	下層	土師器 甕	口縁～胴部 1/3	※17.7	—	△12.5	外面：口縁部～肩部ナデ、胴部摩耗のため調整不明、波状文 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 石英、白色粒、砂粒	やや良	灰褐色	
21	下層	土師器 甕	口縁～頸部 1/6	※16.8	—	△ 5.0	外面：口縁部ナデ、頸部工具による文様 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	橙褐色	
22	埋土中	土師器 甕	口縁 1/10	※17.1	—	△ 5.0	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 石英、白色粒	良好	淡橙色	
23	下層	土師器 甕	口縁 1/7	※23.3	—	△ 5.4	外面：ナデ 内面：ナデ	密 白色粒、砂粒	良	橙褐色	
24	下層	土師器 甕	口縁～肩部 1/6	※10.6	—	△ 3.5	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、白色粒、砂粒	良	橙色	
25	埋土中	土師器 甕	口縁 1/12	※18.8	—	△ 5.0	外面：摩耗のため調整不明 内面：ナデ	密 石英、白色粒、砂粒	良	灰褐色	
26	上層	土師器 甕	口縁～頸部 1/6	—	—	△ 5.5	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 白色粒、砂粒	やや良	淡灰褐色	
27	上層	土師器 高坏	坏部 1/2	※18.4	—	△ 7.3	外面：ミガキ 内面：ミガキ	密 石英、白色粒、砂粒	やや良	橙色	
28	上層	土師器 高坏	脚部	—	※11.3	△ 9.8	外面：ハケ→ナデ 内面：ケズリ、ナデ	密	やや良	橙褐色	
29	下層	土師器 高坏	脚部 2/3	—	※ 8.0	△ 7.8	外面：摩耗のため調整不明 内面：ケズリ、ナデ	密 白色粒、砂粒	良	赤褐色	
30	埋土中	土師器 低脚坏	脚部 2/3	—	※ 5.7	△ 2.6	外面：摩耗のため調整不明 内面：指押さえ	密 白色粒、砂粒	良	橙色	
31	埋土中	土師器 器台	坏部 1/4	※19.3	—	△ 7.4	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 白色粒、砂粒	やや良	橙褐色	
32	下層	土師器 器台	脚部 1/16	—	※16.0	△ 6.1	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 白色粒、砂粒	良	褐色	

第239表　４区SS４－２出土金属製品観察表（第487図）

遺物番号	出土層位	種　別	部位 残存率	法　量（cm）			重量(g)	材　質	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
33	埋土中	鉇	2/3	12.3	1.0	0.4	23.3	鉄	

第240表　４区SS４－２出土石器観察表（第487図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	遺存 状態	法　量（cm）			重量 （g）	石　材	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
34	下層	敲石	完形	12.4	8.3	4.0	515.2	角閃石安山岩	
35	上層	磨石	2/3	11.9	9.9	6.90	1006.1	デイサイト	
36	上層	台石	2/3	15.7	13.1	10.7	2595.2	凝灰角礫岩	

第241表　４区SS４－１出土土器観察表（第488図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
37	埋土中	土師器 甕	口縁～肩部 2/3	※18.4	—	△7.9	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ→ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	灰褐色	
38	埋土中	土師器 甕	口縁～頸部 1/12	※16.6	—	△4.7	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	褐色	
39	下層	土師器 甕	口縁～頸部 1/6	—	—	△6.2	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 砂粒	良	橙褐色	
40	下層	土師器 小型丸底壺	胴部	—	—	△6.7	外面：ミガキ 内面：摩耗のため調整不明	密 砂粒	良	淡褐色	
41	埋土中	土師器 高坏	坏部 2/3	※20.1	—	△4.3	外面：摩耗のため調整不明 内面：ミガキ	密 白色粒、砂粒	良	淡褐色	

第242表　４区SS４－１出土金属製品観察表（第488図）

遺物番号	出土層位	種　別	部位 残存率	法　量（cm）			重量(g)	材　質	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
42	埋土中	鉇	刃部	2.7	1.2	0.2	3.8	鉄	
43	埋土中	刀子	1/3	6.0	3.1	0.5	48.1	鉄	
44	埋土中	釘	1/2	3.3	1.0	0.4	5.2	鉄	

第243表　４区SS４－１出土石器観察表（第488図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	遺存 状態	法　量（cm）			重量 （g）	石　材	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
45	下層	砥石	1/8	9.1	8.8	4.4	569.5	花崗岩	砥面２面
46	埋土中	砥石	破片	2.3	2.2	1.10	6.7	緑色凝灰岩	砥面２面
47	上層	敲石	1/2	8.7	7.5	5.6	422.5	デイサイト	

第244表　６区SS６出土土器観察表（第492図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
1	埋土中	土師器 甕	口縁～肩部 破片	※22.6	—	△4.8	内外面：摩耗のため調整不明	密	良好	褐色	

2	埋土中	土師器 高坏	口縁 1/8	※24.8	—	8.4	外面：ハケ 内面：摩耗のため調整不明	密 砂粒	良好	褐色	

第245表　２区焼土３出土土器観察表（第495図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	 底径	 器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	上層	土師器 甕	口縁～肩部 1/2	※24.9	—	△17.8	外面：口縁部ミガキ、頸部～胴部ハケ、肩部４条の沈線 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 石英、砂粒	良	橙褐色	外面煤付着

第246表　２区SI１出土土器観察表（第504図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	 底径	 器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	下層	土師器 甕	口縁～肩部 1/3	※18.8	—	△ 8.2	外面：口縁部ナデ、指押さえ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 石英、角閃石 白色粒	良	黒茶色	
2	下層	土師器 甕	口縁～肩部	※16.0	—	△ 8.3	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 石英、角閃石 白色粒	良	灰褐色	外面煤付着
3	下層	土師器 高坏	脚部 9/10	—	10.1	△ 7.5	外面：坏部摩耗のため調整不明、脚部ミガキ 内面：坏部摩耗のため調整不明、脚部ケズリ	密 石英、角閃石 白色粒	良	橙褐色	
4	埋土中	土師器 高坏	脚部 1/5	—	10.2	△ 5.6	外面：ケズリ 内面：脚部ケズリ、底部指押さえ	密 石英、砂粒	良	橙褐色	
5	下層	土師器 高坏	脚部	—	10.6	△ 5.5	外面：摩耗のため調整不明 内面：脚部ケズリ、底部ハケ	密 石英、角閃石、砂粒	良	橙褐色	

第247表　２区SI１出土石器観察表（第504図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存 状態	法量（cm） 最大長	 最大幅	 最大厚	重量 （g）	石材	備考
6	埋土中	砥石	2/3	7.5	3.6	3.0	85.9	凝灰岩	

第248表　２区SI４出土土器観察表（第506図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	 底径	 器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	下層	土師器 甕	口縁～胴部 1/6	※11.0	—	△9.6	外面：口縁部ナデ、指押さえ、胴部ハケ→ナデ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、胴部ケズリ	密 石英、角閃石 白色粒	良	灰褐色	

第249表　２区SI５出土土器観察表（第508図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	 底径	 器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	下層	土師器 高坏	坏部	※25.6	—	△8.7	外面：口縁部ハケ→ミガキ、屈曲部ハケ、底部ミガキ 内面：ミガキ	密 雲母、石英、角閃石	良好	橙褐色	
2	埋土中	土師器 高坏	坏部 1/4	※15.1	—	△4.9	外面：ミガキ 内面：ミガキ	密 砂粒	良	橙灰褐色	外面煤付着
3	上層	土師器 高坏	坏部	※15.3	—	△7.0	外面：ハケ→ミガキ、底部ハケ 内面：ミガキ	密 石英、砂粒	良好	橙褐色	内面赤彩
4	上層	土師器 高坏	脚部 2/3	—	10.2	△6.0	外面：ミガキ 内面：脚部ケズリ、底部指押さえ→ナデ	密 雲母、石英、角閃石	良	橙褐色	
5	上層	土師器 高坏	脚部	—	※10.6	△6.1	外面：摩耗のため調整不明 内面：脚部ケズリ、底部ハケ	密	良	橙褐色	

第250表　２区SI５出土石器観察表（第508図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存 状態	法量（cm） 最大長	 最大幅	 最大厚	重量 （g）	石材	備考
6	下層	スクレイパー	ほぼ完形	3.9	3.2	0.9	9.3	黒曜石	

第251表　２区SI10出土土器観察表（第510図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	 底径	 器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	土師器 甕	口縁～肩部 1/4	※12.0	—	△6.1	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ、指押さえ	密 白色粒、砂粒	やや良	橙褐色	
2	埋土中	土師器 高坏	坏部 1/2	※17.2	—	△6.7	外面：口縁部ハケ、坏底部指押さえ→ナデ 内面：ハケ	密 石英、角閃石 白色粒	良	橙褐色	内外面赤彩
3	埋土中	土師器 高坏	脚部	—	12.4	△8.5	外面：ナデ 内面：脚部ケズリ、底部指押さえ→ハケ→ナデ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	

第252表　３区SI２出土土器観察表（第512・513図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	 底径	 器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	土師器 甕	口縁～胴部 1/3	※21.7	—	△11.6	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 雲母、石英、角閃石	良	橙褐色	

2	上層	土師器 甕	口縁～肩部	※15.0	—	△11.7	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ、指押さえ	密 石英、砂粒	良	褐色	
3	埋土中	土師器 甕	口縁～胴部 1/3	※17.0	—	△10.7	外面：ナデ 内面：口縁部指押さえ→ナデ、頸部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	灰褐色	
4	上層	土師器 甕	口縁～胴部 1/4	※15.2	—	△10.7	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	灰褐色	
5	上層	土師器 甕	口縁～胴部	※14.7	—	△11.6	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	灰褐色	
6	下層	土師器 甕	口縁～胴部 1/2	※12.0	—	△14.5	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、砂粒	良	橙褐色	
7	下層	土師器 甕	ほぼ 完形	12.7	—	△19.5	外面：口縁部ナデ、指押さえ、胴部ハケ、指押さえ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ケズリ、指押さえ	密 石英、白色粒、砂粒	良	灰褐色	
8	上層	土師器 甕	ほぼ 完形	※15.8	—	26.8	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ、底部指押さえ	密 雲母、石英、砂粒	良	灰褐色	外面煤付着
9	上層	土師器 小型丸底壺	口縁 1/2 欠	※ 7.4	—	8.4	外面：口縁部指押さえ→ナデ、胴部指押さえ→ハケ→ナデ 内面：口縁部指押さえ→ナデ、胴部ケズリ、ナデ	密 雲母、石英、白色粒	良	灰褐色	
10	上層	土師器 小型丸底壺	ほぼ 完形	※ 8.3	—	9.0	外面：指押さえ→ハケ→ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 石英、砂粒	良	黄灰白色	
11	下層	土師器 小型丸底壺	ほぼ 完形	7.6	—	6.4	外面：口縁部ナデ、胴部指押さえ→ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部指押さえ→ナデ	密 石英、砂粒	良	淡黄褐色	
12	上層	土師器 小型丸底壺	口縁～肩部 1/4	※ 7.9	—	△ 4.7	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	
13	埋土中	土師器 小型丸底壺	1/2	※ 7.2	—	7.0	外面：指押さえ→ハケ→ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 雲母、石英、白色粒	良	橙褐色	
14	下層	土師器 高坏	坏部 1/2	※15.2	—	△ 5.4	外面：ハケ→ナデ 内面：ハケ→ナデ	密 石英、砂粒	良	褐色	
15	下層	土師器 高坏	脚部	—	※ 9.6	△ 6.4	外面：摩耗のため調整不明 内面：ケズリ、ナデ、指押さえ	密 石英、角閃石、砂粒	良	黄灰白色	
16	埋土中	土師器 高坏	脚部 2/3	—	11.2	△ 8.0	外面：ナデ 内面：ケズリ→ナデ、指押さえ	密 石英、砂粒	良	褐色	
17	上層	土師器 高坏	脚部	—	10.2	△ 6.9	外面：ケズリ→ハケ 内面：ケズリ、指押さえ	密 雲母、石英、角閃石	良	淡橙色	
18	下層	土師器 高坏	脚部 ほぼ完形	—	12.7	△ 6.7	外面：脚部ケズリ→ミガキ、裾部指押さえ 内面：脚部ケズリ、底部指押さえ→ナデ	密 雲母、石英、角閃石	良	橙褐色	
19	上層	土師器 坏身	ほぼ 完形	11.8	6.1	4.4	外面：口縁部指押さえ→ナデ、底部ケズリ、指押さえ 内面：ケズリ→ナデ	密 雲母、石英、砂粒	良	灰褐色	
20	上層	土師器 埦	ほぼ 完形	※11.1	—	5.4	外面：口縁部指押さえ→ナデ、底部ケズリ 内面：口縁部ハケ→ナデ、胴部ケズリ→ナデ、底部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	灰褐色	

第253表　３区SI２出土金属製品観察表（第513図）

遺物番号	出土層位	種　別	部位 残存率	法　量（cm）			重量(g)	材　質	備　　考
				最大長	最大幅	最大厚			
21	下層	刀子	茎部	7.8	1.05	0.2	26.1	鉄	
22	床面直上	刀子	破片	3.4	1.4	0.4	12.6	鉄	

第254表　３区SI２出土石器観察表（第513図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	遺存 状態	法　量（cm）			重量 （g）	石　　材	備　　考
				最大長	最大幅	最大厚			
23	下層	砥石	破片	6.8	8.7	7.3	429.9	花崗岩	
24	埋土中	敲石	完形	13.9	7.7	6.4	961.8	凝灰角礫岩	

第255表　３区SI３出土土器観察表（第515図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
1	埋土中	土師器 甕	口縁 破片	21.8	—	△4.5	外面：ナデ 内面：ナデ	密 石英、角閃石、砂粒	良	淡黄褐色	
2	周溝	土師器 高坏	坏部～脚部	16.2	—	△9.3	外面：口縁部ナデ、坏底部指押さえ→ハケ、脚部ケズリ →ナデ→ハケ 内面：坏部ミガキ、脚部ケズリ	密 砂粒	良	橙褐色	外面煤付着

第256表　３区SI４出土土器観察表（第517図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
1	埋土中	土製支脚	1/4	—	13.4	△4.9	外面：ケズリ→ナデ 内面：ケズリ、指押さえ	密 雲母、砂粒	良	橙褐色	

第257表　３区SI５出土土器観察表（第519図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
1	下層	土師器 高坏	2/3	※16.8	※9.4	13.5	外面：坏部ナデ、脚部ミガキ、裾部ナデ 内面：坏部ナデ、脚部ケズリ、底部ハケ	密 雲母、白色粒	良	橙褐色	内外面赤彩
2	埋土中	土師器 高坏	坏部 1/4	※20.8	—	△ 5.4	外面：ナデ 内面：ミガキ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	
3	埋土中	土師器 高坏	坏部のみ ほぼ完形	※25.0	—	△ 6.7	外面：ハケ 内面：ミガキ	密 石英、白色粒、砂粒	やや良	淡褐色	内面赤彩
4	上層	土師器 高坏	坏部 1/2	※15.4	—	△ 5.1	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、白色粒、砂粒	良	橙褐色	内外面赤彩
5	床面直上	土師器 高坏	口縁～底部	※15.4	—	△ 7.0	外面：口縁部ナデ、底部ケズリ→ナデ 内面：ハケ、指押さえ	密 石英、砂粒	良	褐色	

6	下層	土師器 高坏	脚部	—	※9.7	△ 6.6	外面：ミガキ、指押さえ 内面：脚部ケズリ、底部ハケ	密	良	橙褐色	内外面赤彩
7	上層	土師器 高坏	脚部	—	9.5	△ 5.9	外面：ナデ 内面：脚部ケズリ、底部ナデ	密 雲母、砂粒	良	橙褐色	内外面赤彩

第258表　３区SI７出土土器観察表（第523図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	 底径	 器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	上層	土師器 壺	口縁～胴部	9.3	—	△12.2	外面：口縁部指さえ→ナデ、胴部指押さえ→ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ、指押さえ	密 雲母、石英、角閃石	良	橙褐色	
2	上層	土師器 高坏	ほぼ 完形	18.9	11.2	14.0	外面：口縁部指押さえ→ハケ→ミガキ、坏底部ミガキ、脚部ケズリ→ミガキ 内面：坏部ナデ、ハケ、指押さえ、脚部ケズリ、底部ハケ	密 雲母、石英、 角閃石、砂粒	良	淡黄褐色	内外面赤彩
3	埋土中	土師器 高坏	ほぼ 完形	19.0	10.4	12.1	外面：坏部ミガキ、指押さえ、脚部ケズリ、ミガキ 内面：坏部指押さえ→ハケ、脚部ケズリ、底部ハケ	密 雲母、石英、角閃石	良	橙褐色	
4	上層	土師器 高坏	坏部 1/3	16.9	—	△ 6.6	外面：ミガキ 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、角閃石、砂粒	良	橙褐色	
5	上層	土師器 高坏	坏部	21.8	—	△ 6.9	外面：ミガキ、指押さえ 内面：ミガキ、指押さえ	密 雲母、石英、角閃石	良	灰褐色	外面黒斑
6	上層	土師器 高坏	坏部 2/3	—	11.3	△ 5.7	外面：脚部ケズリ→ミガキ 内面：脚部ケズリ、底部指押さえ→ミガキ	密 雲母、石英、角閃石	良	橙褐色	

第259表　３区SI７出土石器観察表（第523図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存 状態	法量（cm） 最大長	 最大幅	 最大厚	重量 （g）	石材	備考
7	上層	磨石	完形	6.5	5.5	1.9	105.6	デイサイト	

第260表　３区SI６出土土器観察表（第525図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	 底径	 器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	床面直上	土師器 甕	口縁～肩部	※19.6	—	△ 8.7	外面：口縁部ナデ、指押さえ、胴部ハケ、指押さえ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ケズリ	密 石英、白色粒、砂粒	良	橙褐色	
2	下層	土師器 甕	破片	—	—	△52.2	外面：肩部刺突文、胴部ハケ 内面：ハケ、指押さえ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	
3	床面直上	土師器 小型丸底壺	口縁～胴部	※ 6.4	—	△ 9.5	外面：ミガキ 内面：口縁部ミガキ、頸部ナデ、胴部ケズリ、指押さえ	密 石英、白色粒、砂粒	良	橙褐色	
4	床面直上	土師器 高坏	坏部 ほぼ完形	※17.3	—	△ 6.3	外面：口縁部ナデ、指押さえ、坏底部ハケ、指押さえ 内面：指押さえ	密 石英、白色粒、砂粒	良	橙褐色	
5	床面直上	土師器 高坏	坏部～脚部	※19.6	—	△10.5	外面：ミガキ、指押さえ 内面：坏部ミガキ、指押さえ、脚部ケズリ、指押さえ	密 石英、白色粒、砂粒	良	橙褐色	
6	床面直上	土師器 高坏	脚部	—	9.6	△ 6.6	外面：ミガキ、指押さえ 内面：脚部ケズリ、底部指押さえ	密 石英、白色粒、砂粒	良	灰茶色	
7	床面直上	土師器 高坏	脚部	—	※10.2	△ 6.0	外面：ケズリ→ミガキ 内面：脚部ケズリ、底部ハケ→ナデ	密 白色粒、砂粒	良	橙褐色	
8	床面直上	土師器 高坏	脚部 1/2	—	※11.4	△ 6.1	外面：脚部ミガキ、裾部ナデ、指押さえ 内面：脚部ケズリ、底部指押さえ	密 白色粒、砂粒	良	橙褐色	
9	床面直上	土師器 高坏	脚部	—	※12.0	△ 6.1	外面：ミガキ、指押さえ 内面：脚部ケズリ、底部ハケ、ナデ	密 石英、白色粒、砂粒	良	橙褐色	
10	埋土中	土師器 脚付塊	ほぼ 完形	※ 8.2	※ 4.0	△ 4.9	外面：ナデ、指押さえ 内面：坏部工具痕、底部指押さえ	密 石英、白色粒、砂粒	良	橙褐色	

第261表　３区SI９出土土器観察表（第527図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	 底径	 器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	P198	土師器 高坏	坏部～脚部	—	9.6	△11.9	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	
2	埋土中	土師器 高坏	坏部 1/4	—	10.2	△ 7.7	外面：ミガキ 内面：脚部ケズリ、底部指押さえ→ナデ→ハケ	密 石英、角閃石、砂粒	良	橙褐色	

第262表　３区SI９出土石製品観察表（第527図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存 状態	法量（cm） 直径	 最大厚	 孔径	重量(g)	石材	備考
3	上層	小玉	1/2	0.5	0.2	0.2	0.1	滑石	

第263表　３区SI10出土土器観察表（第529図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	 底径	 器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	土師器 甕	口縁～胴部 1/2	※16.0	—	△16.0	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ハケ、ナデ、胴部ケズリ、指押さえ	密 雲母、石英、角閃石	良	褐色	
2	上層	土師器 甕	口縁 破片	※17.5	—	△ 4.0	外面：ナデ 内面：ナデ、ケズリ	密 石英、角閃石 白色粒	良	褐色	布留系
3	下層	土師器 高坏	坏部 1/4	※17.4	—	△ 4.4	外面：ミガキ 内面：ミガキ	密 角閃石、砂粒	良	橙褐色	
4	上層	土師器 高坏	坏部 ほぼ完形	14.7	—	△ 5.2	外面：ミガキ、指押さえ 内面：坏部ミガキ、脚部ケズリ→ナデ、底部ミガキ、指押さえ	密 角閃石、白色粒	良	黒茶色	布留系？

5	上層	土師器 高坏	坏部	—	11.1	△10.3	外面：ミガキ 内面：脚部ケズリ、底部ミガキ	密 石英、角閃石 白色粒	良	橙褐色	外面黒斑
6	上層	土師器 高坏	脚部 2/3	—	9.3	△ 5.4	外面：ミガキ、指押さえ 内面：脚部ケズリ、底部ミガキ	密 石英、角閃石 白色粒	良	橙褐色	外面黒斑
7	下層	土師器 高坏	脚部 ほぼ完形	—	※10.5	△ 5.5	外面：ハケ 内面：脚部ケズリ、底部ミガキ	密 石英、角閃石 白色粒	良	橙褐色	
8	埋土中	土師器 高坏	脚部 ほぼ完形	—	※ 9.6	△ 7.5	外面：ハケ、指押さえ 内面：脚部ケズリ、底部ハケ、指押さえ	密 石英、角閃石 白色粒	良	橙褐色	内外面赤彩
9	下層	土師器 高坏	脚部 1/2	—	※10.0	△ 4.8	外面：ハケ、指押さえ 内面：脚部ケズリ、底部ハケ	密	良	淡褐色	
10	床面直上	土師器 坏身	1/3	※13.4	※ 7.6	△ 4.9	外面：口縁部ミガキ、底部ナデ 内面：ミガキ	密 石英、角閃石 白色粒	良	褐色	

第264表　３区SI10出土石器観察表（第529図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	 最大幅	 最大厚	重量（g）	石材	備考
11	埋土中	磨石	1/2	9.9	8.0	3.8	530.4	デイサイト	

第265表　３区SS５出土土器観察表（第532図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	 底径	 器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	土師器 甕	口縁 破片	※11.2	—	△3.7	外面：指押さえ、ナデ 内面：ナデ	密 石英、白色粒	良好	褐色	
2	埋土中	土師器 甕	口縁 破片	※16.7	—	△3.4	外面：口縁部ナデ、指押さえ、ナデ 内面：ケズリ、ナデ	密 石英、褐色粒	良	橙褐色	
3	埋土中	土師器 高坏	坏部 破片	※16.8	—	△6.9	外面：ミガキ 内面：ハケ、指押さえ→ミガキ	密	良	橙褐色	
4	埋土中	須恵器 壺	口縁 破片	※ 8.2		△4.1	外面：回転ナデ、波状文 内面：回転ナデ	密 白色粒、砂粒	良好	灰色	

第266表　３区SS５出土石製品観察表（第532図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 直径	 最大厚	 孔径	重量(g)	石材	備考
5	下層	臼玉	完形	0.4	0.2	0.2	0.1	滑石	

第267表　３区SS６出土土器観察表（第534図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	 底径	 器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	床面直上	土師器 甕	口縁 破片	※17.0	—	△3.6	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 雲母、白色粒、砂粒	良	黄灰白色	内面赤彩
2	床面直上	須恵器 甕	2/3	—	—	△9.4	外面：口縁～胴部上半回転ナデ､胴部下半回転ヘラケズリ、ナデ、指押さえ、頸部波状文、胴部最大径部２条の沈線、刺突文 内面：口縁部～胴部回転ナデ、底部指押さえ	密 白色粒、砂粒	良	灰色	

第268表　３区SS６出土ガラス製品観察表（第534図）

遺物番号	出土層位	種別	遺存状態	法量（cm） 直径	 最大厚	 孔径	重量(g)	材質	備考
3	床面直上	小玉	完形	0.4	0.45	0.15	0.1	カリガラス	引き伸ばし技法
4	埋土中	小玉	完形	0.3	0.3	0.1	0.1	カリガラス	引き伸ばし技法

第269表　４区SS20出土土器観察表（第538図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	 底径	 器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	P213	土師器 甕	口縁～肩部	※15.6	—	△12.5	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部指押さえ→ナデ	密 石英、角閃石、砂粒	良	明赤褐色	
2	P213	土師器 高坏	脚部 2/3	—	※3.1	△10.4	外面：指押さえ→ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 雲母、砂粒	良	褐色	外面煤付着
3	下層	土師器 甕	1/3	11.6	3.2	10.2	外面：口縁部ナデ、頸部ハケ→ミガキ 内面：口縁部ナデ、胴部上半ケズリ、胴部下半ケズリ、指頭圧痕	密 雲母、石英、 角閃石、砂粒	良	橙褐色	外面煤付着 底部内面 炭化物付着
4	下層	土師器 甕	1/4	※12.4	—	△ 7.6	外面：口縁部ナデ、胴部指押さえ→ナデ、叩き 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ→指押さえ	密 石英、角閃石、石粒	良	橙褐色	

第270表　４区SS20出土石器観察表（第538図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	 最大幅	 最大厚	重量（g）	石材	備考
5	上層	磨石	完形	3.8	3.3	2.7	36.4	デイサイト	

第271表　４区SS33出土土器観察表（第540図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	土師器 甕	口縁～肩部	※17.0	—	△ 8.9	外面：口縁部ナデ、頸部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 雲母、石英、角閃石	良	淡褐色	外面煤付着
2	上層	土師器 甕	底部 1/2	—	6.2	△ 4.4	外面：指押さえ→ケズリ→ナデ 内面：ケズリ→指押さえ	密 雲母、角閃石、砂粒	良	茶褐色	
3	埋土中	土師器 埦	ほぼ 完形	11.8	—	6.1	外面：ケズリ、指押さえ 内面：ケズリ、指押さえ	密 雲母、石英、白色粒	良好	橙褐色	
4	上層	土師器 高坏	坏部 2/3	17.8	—	△ 6.4	外面：口縁部指押さえ→ナデ、体部ナデ、底部ハケ→指押さえ 内面：ナデ、指押さえ、接合部充填接合	密 石英、砂粒	良	橙褐色	内面底部被熱か
5	下層	土師器 高坏	脚部	—	※ 9.0	△ 6.3	外面：脚部摩耗のため調整不明、裾部指押さえ 内面：脚部ケズリ、裾部ナデ	密 砂粒	良	橙褐色	
6	埋土中	土師器 脚付埦	1/2	15.6	9.4	8.5	外面：ナデ、指押さえ 内面：坏部指押さえ→ミガキ、脚部指押さえ→ナデ	密 雲母、石英、角閃石	良	黒褐色	
7	下層	土師器 脚付埦	体部～脚部	—	8.0	△ 4.5	外面：坏部ナデ、脚部ナデ、指押さえ 内面：坏部指押さえ→ナデ、脚部ナデ、指押さえ	密	良	黄褐色	
8	SS33古 下層	手捏ね土器 脚付埦	ほぼ 完形	8.5	※ 5.6	6.6	外面：指押さえ→ナデ 内面：指押さえ	密	良好	橙褐色	内外面薄い赤彩、一部黒斑
9	SS33古 下層	手捏ね土器 脚付埦	完形	10.6	6.3	7.4	外面：坏部指押さえ→ナデ、脚部ナデ、指押さえ 内面：坏部指押さえ→ナデ、脚部ナデ、指押さえ	密	良好	淡黄褐色	
10	P331	土師器 高坏	ほぼ 完形	12.0	9.6	8.7	外面：坏部摩耗のため調整不明、脚部ケズリ→ミガキ、裾部指押さえ→ハケ 内面：坏部摩耗のため調整不明、脚部ケズリ、裾部ハケ	密 雲母、角閃石	良	橙褐色	

第272表　５区SI１A出土土器観察表（第542図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	土師器 高坏	脚部	—	—	△7.1	外面：ケズリ 内面：脚部ケズリ、裾部ナデ	密 白色粒、砂粒	やや良	橙褐色	
2	下層	土師器 坏身	口縁～底部	※12.6	—	4.0	外面：摩耗のため調整不明 内面：ミガキ	密 石英、赤色粒、砂粒	良	橙褐色	内面赤彩
3	下層	甑	把手	—	—	△7.5	外面：ケズリ→ナデ、指押さえ	密 石英、白色粒、砂粒	やや良	黄灰白色	

第273表　５区SI１A出土金属製品観察表（第542図）

遺物番号	出土層位	種別	部位 残存率	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	材質	備考
4	下層	鉇	ほぼ完形	11.4	0.8	0.5	12.4	鉄	

第274表　５区SI１A出土石製品観察表（第542図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量（g）	石材	備考
5	下層	不明石製品	ほぼ完形	4.65	2.4	0.8	18.5	緑色凝灰岩	

第275表　５区SI１B出土土器観察表（第544図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
6	下層	土師器 甕	口縁～肩部	※17.2	—	△ 6.0	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 角閃石、白色石、砂粒	良	黄灰白色	
7	下層	土師器 甕	口縁～肩部	※15.5	—	△ 5.8	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	灰褐色	
8	床面直上	土師器 甕	口縁～肩部 1/4	—	—	△ 2.7	外面：口縁部ナデ、指押さえ、肩部ハケ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、胴部ケズリ	密	良	橙褐色	
9	下層	土師器 甕	口縁～肩部	※14.2	—	△ 8.4	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 石英、砂粒	良	黄灰白色	
10	上層	土師器 甕	ほぼ 完形	※10.4	—	15.8	外面：摩耗のため調整不明 内面：口縁部ナデ、胴部上半ケズリ、胴部下半指押さえ	密 石英、砂粒	良	黄灰白色	
11	床面直上	土師器 高坏	坏部	※16.2	—	△ 5.7	外面：摩耗のため調整不明 内面：ハケ→ミガキ	密 石英、白色粒	やや良	橙褐色	内外面赤彩
12	上層	土師器 高坏	ほぼ 完形	22.8	13.2	16.4	外面：摩耗のため調整不明 内面：坏部ミガキ、脚部ナデ	密 白色粒、砂粒	良	橙褐色	
13	下層	土師器 高坏	ほぼ 完形	※11.1	7.3	8.4	外面：坏部摩耗のため調整不明、脚部ハケ 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、砂粒	やや良	黄灰白色	
14	上層	土師器 高坏	坏部	14.6	—	△ 7.2	外面：ハケ 内面：摩耗のため調整不明	密	やや良	橙褐色	
15	下層	土師器 高坏	脚部	—	12.2	△ 6.3	外面：ナデ 内面：ナデ	密 石英、砂粒	やや良	橙褐色	
16	下層	土師器 高坏	脚部 2/3	—	※ 8.8	△ 6.3	外面：摩耗のため調整不明 内面：脚部ケズリ→ナデ、裾部ナデ	密 砂粒	良	橙褐色	
17	埋土中	土師器 鉢	ほぼ 完形	※11.0	—	7.0	外面：ハケ、ナデ 内面：口縁部～胴部ナデ、底部指押さえ→ナデ	密 石英、白色粒、砂粒	不良	橙褐色	
18	下層	甑	把手	—	—	△ 7.8	外面：ケズリ→ナデ	密 石英、白色粒、砂粒	やや良	黄灰白色	
19	下層	須恵器 坏蓋	ほぼ 完形	※12.0	—	4.2	外面：天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	密 白色粒、砂粒	良好	青灰色	
20	下層	須恵器 坏身	口縁～胴部	※10.8	—	△ 4.4	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密 白色粒	良好	黄灰白色	

第276表　６区SI22出土土器観察表（第547図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	下層	土師器 壺	口縁～頸部 1/4	※14.4	—	△6.1	外面：ナデ 内面：指押さえ→ハケ、ナデ	密 雲母、石英、角閃石	良	黄橙色	
2	下層	土師器 高坏	坏部 1/4	※25.8	—	△7.7	外面：指押さえ→ハケ→ナデ 内面：指押さえ→ミガキ	密 雲母、石英、角閃石	良	橙褐色	内外面赤彩
3	埋土中	土師器 高坏	坏部 1/4	※15.8	—	△4.3	外面：指押さえ→ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 雲母、角閃石、砂粒	良	黄褐色	
4	Ｐ１	土師器 高坏	脚部	—	9.4	△5.3	外面：脚部ケズリ→ミガキ、裾部指押さえ→ミガキ 内面：脚部ケズリ→ナデ、裾部ケズリ→指押さえ→ナデ	密 雲母、石英、角閃石	良	橙褐色	脚部円形透かし３ヶ所
5	床面直上	土師器 高坏	脚部	—	9.5	△6.8	外面：ケズリ→指押さえ→ミガキ 内面：脚部ケズリ、裾部ハケ、指押さえ	密 雲母、石英、角閃石	良	橙褐色	脚部円形透かし３ヶ所

第277表　２区SS１出土土器観察表（第549図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	土師器 甕	口縁～肩部 3/4	※12.1	—	△ 8.1	外面：ナデ、ハケ、叩き 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 角閃石、白色粒	良	灰褐色	布留系
2	埋土中	土師器 甕	口縁～肩部 1/2	※13.6	—	△ 8.3	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ケズリ	密 雲母、石英、白色粒	良	灰褐色	外面黒斑
3	壁溝	土師器 高坏	坏部 1/2	16.6	9.3	11.1	外面：摩耗のため調整不明 内面：坏部摩耗のため調整不明、脚部ケズリ、指押さえ	密	良	橙褐色	
4	床面直上	土師器 高坏	坏部	※17.6	—	△ 7.0	外面：ハケ 内面：摩耗のため調整不明	密 砂粒	良	橙褐色	
5	埋土中	土師器 高坏	脚部	—	9.2	△ 6.0	外面：摩耗のため調整不明 内面：指押さえ→ナデ	密 石英、砂粒	良	赤褐色	内外面赤彩

第278表　４区SS27出土土器観察表（第552図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	上層	土師器 甕	1/12	※16.0	—	△ 5.1	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、ハケ、指押さえ、頸部ケズリ	密 雲母、砂粒	良	橙色	
2	上層	移動式竈	庇部	—	—	△21.5	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 砂粒	良	浅黄橙色	

第279表　６区SK20出土土器観察表（第554図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	上層	土師器 甕	頸部～肩部 1/6	※13.3	—	△7.2	外面：口縁部ナデ、肩部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 石英、角閃石 白色粒	良	暗褐色	
2	上層	土師器 高坏	坏部 1/3	※17.8	—	△5.2	外面：ミガキ 内面：ミガキ	密 石英、白色粒	良	黄褐色	被熱 外面黒斑

第280表　２区SD15出土土器観察表（第557図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	上層	土師器 甕	口縁～頸部 破片	※14.7	—	△6.0	外面：口縁部ナデ、指押さえ、胴部摩耗のため調整不明 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ→ナデ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	

第281表　６区SI24出土土器観察表（第560図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	中層	土師器 壺	口縁 1/8	※10.6	—	△3.7	外面：摩耗のため調整不明 内面：口縁部指押さえ→ナデ、頸部ケズリ	密 雲母、石英、角閃石	良	橙色	
2	下層	土師器 高坏	脚部 1/4	—	※7.8	△3.0	外面：ナデ 内面：脚部ケズリ、裾部ナデ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙色	
3	床面直上	須恵器 坏蓋	天井部	※10.5	—	4.5	外面：天井部ヘラケズリ、体部摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 砂粒	不良	灰白色	
4	中層	須恵器 坏身	4/5	11.3	—	4.2	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	密 石英、白色粒	やや良	淡青灰色	

第282表　６区SI24出土石器観察表（第560図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量（g）	石材	備考
5	下層	砥石	1/2	12.7	12.1	4.9	1291.2	デイサイト	中砥、砥面４面

第283表　３区SK53出土金属製品観察表（第562図）

遺物番号	出土層位	種別	部位 残存率	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	材質	備考
1	中層	直刀	ほぼ完形	23.4	2.6	0.7	121.0	鉄	

第284表　６区SK13出土土器観察表（第564図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	下層	須恵器 坏蓋	ほぼ 完形	12.5	—	4.4	外面：天井部回転ヘラケズリ、ヘラ切り→雑なナデ、体部回転ナデ 内面：体部回転ナデ、天井部ナデ	密	良好	青灰色	天井部外面 朱付着
2	下層	須恵器 坏蓋	ほぼ 完形	※13.8	—	3.7	外面：天井部回転ヘラケズリ、体部回転ナデ 内面：体部回転ナデ、天井部ナデ	密	不良	黄灰白色	
3	下層	須恵器 坏身	完形	11.0	—	4.0	外面：底部回転ヘラケズリ、ヘラ切り、体部回転ナデ 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密	良好	淡青灰色	底部外面 朱付着
4	下層	須恵器 坏身	完形	11.6	—	3.4	外面：底部回転ヘラケズリ、ヘラ切り、体部回転ナデ 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密	良好	青灰色	外面朱の痕跡あり

第285表　６区SK30出土土器観察表（第566図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	下層	須恵器 坏蓋	ほぼ 完形	13.5	—	4.2	外面：天井部回転ヘラケズリ、体部回転ナデ 内面：体部回転ナデ、天井部ナデ	密	良好	灰色	
2	下層	須恵器 坏身	ほぼ 完形	10.9	—	3.9	外面：底部回転ヘラケズリ、体部回転ナデ 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密	良好	青灰色	

第286表　６区横穴墓出土土器観察表（第572図）

遺物番号	出土場所	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	墓室内	須恵器 坏蓋	完形	13.2	—	4.5	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	密 白色粒	良好	青灰色	
2	墓室内	須恵器 坏身	完形	11.3	—	4.3	外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ	密 白色粒、黒色粒	良好	青灰色	
3	墓室内	須恵器 坏身	完形	10.6	—	5.8	外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ、ヘラ記号 内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ	密 白色粒	良好	青灰色	外面朱付着
4	墓室内	須恵器 坏身	完形	11.9	—	4.5	外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ	密 白色粒、黒色粒	良好	灰色	
5	墓室内	須恵器 坏蓋	完形	13.7	—	4.3	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	密 砂粒	良好	青灰色	
6	墓室内	須恵器 坏蓋	完形	12.2	—	4.0	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	密 白色粒、黒色粒	良	灰色	
7	墓室内	須恵器 坏身	完形	10.9	—	4.3	外面：坏部ナデ、脚部ナデ、指押さえ 内面：坏部指押さえ→ナデ、脚部ナデ、指押さえ	密 砂粒	良好	灰色	
8	墓室内	須恵器 坏蓋	完形	13.6	—	4.2	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	密 砂粒	良好	灰色	
9	墓室内	須恵器 坏身	完形	11.9	—	4.1	外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ	密 砂粒	良好	黄灰色	
10	墓室内	須恵器 坏蓋	完形	13.2	—	3.9	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	密 砂粒	良好	黄灰色	
11	墓室内	須恵器 坏身	完形	13.0	—	4.4	外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ、ハケ状工具によるナデ 内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ	密 砂粒	良好	黄灰色	口縁端部内面 赤色顔料付着
12	墓室内	須恵器 坏蓋	完形	12.8	—	4.7	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	密 白色粒、黒色粒	良好	青灰色	
13	墓室内	須恵器 坏身	完形	11.0	—	4.2	外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ、ヘラ記号 内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ	密 白色粒	良好	青灰色	
14	墓室内	須恵器 提瓶	完形	8.5	—	21.2	外面：口縁部回転ナデ、胴部渦巻き状のカキメ 内面：口縁部回転ナデ	密	良好	灰色	

第287表　６区横穴墓出土玉類観察表（第573図）

遺物番号	出土場所	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 直径	孔径	厚さ	重量(g)	備考
15	墓室内	土玉	完形	0.6	0.2	0.4	0.1	
16	墓室内	土玉	完形	0.55	0.15	0.4	0.1	
17	墓室内	土玉	完形	0.6	0.15	0.35	0.1	
18	墓室内	土玉	完形	0.45	0.1	0.3	0.1	
19	墓室内	土玉	完形	0.6	0.15	0.4	0.1	
20	墓室内	土玉	完形	0.55	0.15	0.35	0.1	
21	墓室内	土玉	完形	0.6	0.15	0.4	0.1	
22	墓室内	土玉	ほぼ完形	0.55	0.15	0.4	0.1	
23	墓室内	土玉	完形	0.5	0.15	0.4	0.1	
24	墓室内	土玉	完形	0.6	0.15	0.3	0.1	
25	墓室内	土玉	完形	0.55	0.15	0.35	0.1	
26	墓室内	土玉	完形	0.5	0.15	0.4	0.1	
27	墓室内	土玉	完形	0.6	0.1	0.4	0.1	
28	墓室内	土玉	完形	0.6	0.15	0.35	0.1	
29	墓室内	土玉	完形	0.55	0.15	0.4	0.1	
30	墓室内	土玉	完形	0.55	0.15	0.35	0.1	
31	墓室内	土玉	完形	0.5	0.15	0.35	0.1	
32	墓室内	土玉	完形	0.5	0.1	0.3	0.1以下	
33	墓室内	土玉	完形	0.6	0.15	0.3	0.1以下	
34	墓室内	土玉	完形	0.6	0.2	0.4	0.1	
35	墓室内	土玉	完形	0.6	0.15	0.4	0.1	
36	墓室内	土玉	完形	0.6	0.15	0.4	0.1	
37	墓室内	土玉	完形	0.6	0.1	0.4	0.1	

38	墓室内	土玉	完形	0.6	0.1	0.5	0.2	
39	墓室内	土玉	完形	0.55	0.1	0.4	0.1	
40	墓室内	土玉	完形	0.6	0.1	0.45	0.1	
41	墓室内	土玉	完形	0.55	0.1	0.4	0.1	
42	墓室内	土玉	完形	0.45	0.1	0.3	0.1以下	
43	墓室内	土玉	完形	0.55	0.1	0.4	0.1	
44	墓室内	土玉	完形	0.5	0.1	0.35	0.1	
45	墓室内	土玉	完形	0.55	0.15	0.4	0.1	
46	墓室内	土玉	完形	0.6	0.1	0.5	0.1	
47	墓室内	土玉	完形	0.45	0.1	0.35	0.1	
48	墓室内	土玉	完形	0.55	0.1	0.45	0.1	
49	墓室内	土玉	完形	0.6	0.1	0.45	0.1	
50	墓室内	土玉	完形	0.55	0.1	0.4	0.1	
51	墓室内	土玉	完形	0.55	0.1	0.4	0.1	
52	墓室内	土玉	完形	0.4	0.15	0.35	0.1	
53	墓室内	土玉	完形	0.35	0.1	0.3	0.1	
54	墓室内	土玉	完形	0.4	0.1	0.3	0.1	
55	墓室内	土玉	完形	0.55	0.15	0.45	0.1	
56	墓室内	土玉	完形	0.45	0.1	0.35	0.1以下	
57	墓室内	土玉	完形	0.45	0.1	0.3	0.1以下	
58	墓室内	土玉	完形	0.45	0.1	0.35	0.1	
59	墓室内	土玉	完形	0.45	0.1	0.3	0.1	
60	墓室内	土玉	完形	0.5	0.15	0.4	0.1	
61	墓室内	土玉	完形	0.55	0.15	0.35	0.1	
62	墓室内	土玉	完形	0.45	0.1	0.35	0.1	
63	墓室内	土玉	完形	0.45	0.1	0.4	0.1	
64	墓室内	土玉	完形	0.45	0.1	0.35	0.1	
65	墓室内	土玉	完形	0.6	0.15	0.4	0.1	
66	墓室内	土玉	完形	0.65	0.1	0.5	0.1	
67	墓室内	土玉	完形	0.55	0.15	0.4	0.1	
68	墓室内	土玉	完形	0.8	0.1	0.6	0.2	
69	墓室内	土玉	完形	0.85	0.1	0.55	0.4	
70	墓室内	土玉	1/2	0.5	0.15	0.4	0.1以下	
71	墓室内	土玉	1/2	0.5	0.15	0.4	0.1以下	
72	墓室内	土玉	1/2	0.5	0.1	0.4	0.1以下	
73	墓室内	土玉	1/2	0.55	0.1	0.4	0.1以下	
74	墓室内	土玉	1/2	0.5	0.1	0.3	0.1以下	
75	墓室内	土玉	1/2	0.6	0.15	0.4	0.1以下	
76	墓室内	土玉	1/2	0.55	0.15	0.4	0.1以下	
77	墓室内	土玉	1/2	0.55	0.2	0.4	0.1以下	
78	墓室内	土玉	1/2	0.55	0.15	0.4	0.1以下	
79	墓室内	土玉	1/2	0.45	0.2	0.4	0.1以下	
80	墓室内	土玉	1/2	0.5	0.1	0.4	0.1以下	
81	墓室内	土玉	1/2	0.45	0.1	0.35	0.1以下	
82	墓室内	土玉	1/2	0.55	0.1	0.45	0.1	
83	墓室内	土玉	1/2	0.7	0.1	0.6	0.1	
84	墓室内	土玉	1/2	0.45	0.1	0.4	0.1以下	
85	墓室内	土玉	1/2	0.45	0.1	0.35	0.1以下	
86	墓室内	土玉	1/2	0.5	0.1	0.4	0.1以下	
87	墓室内	土玉	2/3	0.5	0.1	0.4	0.1	
88	墓室内	土玉	1/3	0.45	0.1	0.4	0.1以下	
89	墓室内	土玉	周囲欠	0.6	0.2	0.2	0.1以下	
90	墓室内	土玉	1/2	0.5	−	0.4	0.1以下	
91	墓室内	土玉	1/2	0.4	−	0.3	0.1以下	
92	墓室内	土玉	1/4	0.3	0.1	0.3	0.1以下	
93	墓室内	土玉	1/4	0.4	0.1	0.3	0.1以下	
94	墓室内	土玉	1/4	0.5	0.15	0.3	0.1以下	
95	墓室内	土玉	1/4	0.4	0.1	0.3	0.1以下	
96	墓室内	土玉	1/4	0.4	0.1	0.35	0.1以下	
97	墓室内	土玉	1/4	0.35	−	0.3	0.1以下	
98	墓室内	土玉	1/3	0.45	0.1	0.45	0.1以下	
99	墓室内	臼玉	完形	0.55	0.2	0.4	0.2	

第288表　6区横穴墓出土金属製品観察表（第574図）

遺物番号	出土場所	種　別	部位 残存率	法　量（cm）			重量（g）	材　質	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
100	墓室内	鉄鏃	完形	17.2	0.8	0.4	22.0	鉄	
101	墓室内	鉄鏃	完形	16.1	0.7	0.4	10.4	鉄	
102	墓室内	鉄鏃	ほぼ完形	15.1	0.9	0.2	9.2	鉄	
103	墓室内	鉄鏃	3/4	13.3	1.1	0.3	13.9	鉄	
104	墓室内	鉄釘		4.1	0.5	0.4	2.3	鉄	
105	墓室内	鉄釘		3.5	0.3	0.3	1.6	鉄	
106	墓室内	金環		長径 3.1	短径 3.0	厚さ 0.5	3.5	銅	表面一部鍍金残存

第289表　４区SS29出土土器観察表（第585～594図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	３面	土師器 甕	ほぼ完形	29.8	—	△26.6	外面：口縁部指押さえ、ナデ、体部指押さえ、ハケ 内面：指押さえ、ハケ	密 石英・砂粒	良	灰褐色	
2	埋土中	土師器 甕	1/2	※30.1	—	△19.3	外面：口縁部指押さえ、ナデ、体部ハケ 内面：口頸部指押さえ、ナデ、体部ケズリ	密 雲母・石英・砂粒	良	灰褐色	
3	埋土中	土師器 甕	口縁～肩部	※27.8	—	△ 6.9	外面：口頸部ナデ、肩部ハケ 内面：口頸部ナデ、肩部ケズリ	密 雲母・石英・砂粒	良	灰褐色	外面煤付着
4	埋土中	土師器 甕	口縁～肩部	23.1	—	△11.4	外面：口頸部指押さえ、ハケ、肩部ハケ 内面：口頸部指押さえ、ハケ、肩部ケズリ	密 角閃石・石英	良	淡褐色	
5	埋土中	土師器 甕	口縁～体部 1/6	※19.3	—	△10.0	外面：口縁部ナデ、体部指押さえ、ハケ 内面：口縁部ナデ、肩部ケズリ	密 白色粒・砂粒	良	灰茶色	外面煤付着
6	１面	土師器 甕	口縁～体部 1/5	※18.6	—	△ 9.0	外面：口頸部指押さえ、ナデ、体部ハケ 内面：口縁部指押さえ、ナデ、体部指押さえ、ケズリ	密 雲母・白色粒	良	橙色	煤付着
7	３面	土師器 甕	口縁～体部 1/3	※27.8	—	—	外面：口頸部指押さえ、ナデ、体部ハケ 内面：口頸部指押さえ、ナデ、体部指押さえ、ケズリ	密 石英・砂粒	良	橙褐色	外面煤付着 内底面コゲ
8	埋土中	土師器 甕	口縁～体部	25.9	—	△15.0	外面：口頸部指押さえ、ナデ、体部ハケ 内面：口頸部指押さえ→ハケ、体部ケズリ	密 角閃石・石英	良	淡褐色	
9	埋土中	土師器 甕	口縁～体部 1/3	※18.0	—	△18.0	外面：口縁部ナデ、頸部以下指押さえ、ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ、体部ケズリ	密	良	橙褐色	
10	埋土中	土師器 甕	口縁～体部 破片	※22.3	—	△12.2	外面：口縁部ナデ、頸部以下ハケ 内面：口頸部ナデ、体部ケズリ	密 白色粒・砂粒	良	灰茶色	
11	３面	土師器 甕	口縁～体部 1/3	※24.0	—	△13.9	外面：口頸部指押さえ、ナデ、体部ハケ 内面：口頸部指押さえ、ナデ、体部ケズリ→ナデ	密 雲母・砂粒	良	橙色	
12	埋土中	土師器 甕	口縁～体部 破片	※18.1	—	△ 6.2	外面：口縁部ナデ、頸部以下指押さえ、ハケ 内面：口頸部ナデ、肩部ケズリ	密 白色粒・砂粒	良	赤褐色	
13	３面	土師器 甕	口縁～肩部 1/8	※27.1	—	△10.5	外面：口頸部指押さえ、ナデ、体部指押さえ、ハケ 内面：口頸部ナデ、体部指押さえ→ナデ	密 砂粒	良	橙褐色	
14	埋土中	土師器 甕	口縁～肩部 1/8	※24.7	—	△10.1	外面：口縁部ナデ、頸部以下指押さえ、ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ、体部ケズリ	密 石英・砂粒	良	淡褐色	
15	３面	土師器 甕	口縁～肩部 1/2	※26.6	—	△14.7	外面：口縁部ナデ、頸部以下指押さえ、ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部以下ケズリ、指押さえ	密 雲母・砂粒	良	黄橙色	
16	３面	土師器 甕	口頸部 1/6	※28.2	—	△ 7.4	外面：口縁部横ナデ、頸部以下ハケ 内面：口頸部横ナデ、肩部ケズリ	密 砂粒	良	黄橙色	
17	１面	土師器 甕	口縁～肩部 1/4	※19.8	—	△ 8.0	外面：口頸部ナデ、肩部ハケ 内面：口頸部ナデ、肩部ケズリ	密 砂粒	良	橙色	外面煤付着
18	埋土中	土師器 甕	口縁～体部 破片	※24.9	—	△ 9.6	外面：ハケ、指押さえ→ナデ 内面：口頸部ハケ、指押さえ→ナデ、肩部ケズリ	密 砂粒	良	茶褐色	
19	埋土中	土師器 甕	口縁～体部 破片	※24.0	—	△ 8.6	外面：口縁部ナデ、頸部以下指押さえ、ナデ→ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部ハケ→指押さえ、肩部ケズリ	密 石英・砂粒	良	褐色	
20	埋土中	土師器 甕	口縁～体部 1/8	※20.8	—	△ 9.0	外面：口頸部指押さえ、ナデ、体部指押さえ・ハケ 内面：口頸部指押さえ、ナデ、肩部指押さえ・ケズリ	密 雲母・石英・砂粒	良	褐色～橙褐色	外面煤付着
21	３面	土師器 甕	口縁～体部	※19.5	—	△ 9.5	外面：口頸部ナデ、体部ハケ、ナデ 内面：口頸部ナデ、肩部ケズリ	密 角閃石・砂粒	良	黄橙色	
22	埋土中	土師器 甕	口頸部 破片	※19.8	—	△ 6.6	外面：口縁部ナデ、頸部以下ハケ→指押さえ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ、体部ケズリ	密 石英・白色粒	良	橙色	外面口縁端部煤付着
23	３面	土師器 甕	口縁～体部	16.6	—	△ 9.8	外面：口頸部指押さえ、ナデ、体部ハケ 内面：口頸部指押さえ、ナデ、体部指押さえ、ケズリ	密 雲母・石英・砂粒	良	橙褐色	
24	埋土中	土師器 甕	口縁～体部 1/8	※31.1	—	△ 7.8	外面：口頸部指押さえ、ナデ、体部ハケ 内面：口頸部指押さえ、ナデ、体部ケズリ	密 雲母・石英・砂粒	良	橙褐色	外面煤付着 内面コゲ
25	埋土中	土師器 甕	口頸部 破片	※30.0	—	△ 5.7	外面：口縁部ナデ、頸部以下指押さえ、ハケ 内面：口頸部指押さえ、ナデ、肩部指押さえ、ケズリ	密 雲母・石英・砂粒	良	灰褐色	
26	３面	土師器 甕	口縁～肩部 1/8	※29.4	—	8.3	外面：口頸部横ナデ、体部ハケ、指押さえ 内面：口縁部横ナデ、体部ケズリ、指押さえ	密 雲母・石英・砂粒	良	橙色	
27	埋土中	土師器 甕	口縁～体部 破片	※21.4	—	△ 6.0	外面：口頸部指押さえ、ナデ、体部ハケ 内面：口頸部指押さえ、ナデ、体部ケズリ	密 雲母・石英	良	褐色	外面コゲ
28	埋土中	土師器 甕	口縁～体部 1/8	※15.0	—	△ 4.7	外面：口頸部ナデ、体部ハケ 内面：口頸部ナデ、体部ケズリ	密 白色粒・砂粒	良	赤茶褐色	
29	埋土中	土師器 甕	口縁～体部 1/2	※12.3	—	△ 8.4	外面：口頸部指押さえ、ナデ、体部ハケ 内面：口頸部指押さえ、ナデ、体部ケズリ	密 石英・砂粒	良	橙褐色	外面頸部線刻？ 外面煤付着
30	埋土中	土師器 甕	口縁～体部 3/4	※12.6	—	△ 7.9	外面：口縁部指押さえ、ナデ、体部ハケ 内面：口頸部指押さえ、ナデ、体部指押さえ・ケズリ	密 雲母・石英・白色粒	良	橙褐色	外面吹きこぼれ痕・煤付着 内面コゲ
31	埋土中	土師器 甕	口縁～肩部 1/4	※11.0	—	△ 4.6	外面：口頸部ナデ、肩部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ、肩部ケズリ	密 石英・白色粒・砂粒	良	褐色	
32	３面	土師器 甕	口縁～体部 1/8	※ 8.8	—	△ 4.5	外面：口頸部ナデ 内面：摩耗のため調整不明	密 雲母・白色粒	良	明赤褐色	外面口縁部炭化物付着
33	埋土中	土師器 甕	口縁～肩部 1/6	※14.6	—	△ 4.3	外面：口縁部指押さえ、ナデ、肩部ハケ 内面：口頸部指押さえ、ナデ、頸部ケズリ	密 雲母・石英	良好	褐色	内外面赤彩？
34	３面	土師器 甕	口縁～肩部 3/4	※18.5	—	△ 8.1	外面：口縁部ナデ、指押さえ、肩部指押さえ、ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部以下指押さえ、ケズリ	密 角閃石・雲母	良	橙色	外面煤付着
35	埋土中	土師器 甕	底部 1/3	—	※10.8	△ 3.1	外面：叩き目 内面：指押さえ、ケズリ	密 雲母・石英	良	褐色～灰茶色	
36	３面	土師器 甕	脚部 1/4	—	※17.7	△ 5.6	外面：ナデ、指押さえ、脚端部１条の凹線 内面：ハケ・ナデ、脚部ハケ→指押さえ	密 雲母・石英	良	灰褐色	
37	３面	土師器 甑	1/2	広口部 ※30.0	狭口部 ※10.9	—	外面：ハケ、把手部ケズリ→ナデ 内面：指押さえ、ケズリ	密 石英・砂粒	良	灰褐色	狭口部穿孔３個 広口端部コゲ 外面煤付着
38	３面	土師器 甑	1/2	広口部 ※20.8	狭口部 ※12.8	24.9	外面：広口部・狭口部ナデ、体部ハケ、把手部ケズリ→ナデ 内面：広口部・狭口部ナデ、体部ケズリ	密 雲母・石英・砂粒	良	灰褐色	狭口部穿孔３個 内面コゲ 外面煤付着
39	埋土中	土師器 甑	広口部・狭口部	広口部 ※26.6	狭口部 ※15.6	—	外面：広口部・狭口部ナデ、指押さえ、体部ハケ 内面：広口部・狭口部ナデ、指押さえ、体部指押さえ、ケズリ	密 雲母・石英・白色粒	良	褐色	
40	３面	土師器 甑	広口部～体部	広口部 ※26.0	—	△18.6	外面：広口部ナデ、体部ハケ、把手部指押さえ、ハケ 内面：広口部ナデ、体部指押さえ、ハケ、ケズリ	密 雲母・砂粒	良	黄橙色	

41	埋土中	土師器 甑	広口部 ～体部	広口部 ※24.3	—	△10.9	外面：広口部ナデ、体部指押さえ、ハケ、把手部ケズリ →ナデ 内面：広口部指押さえ、ナデ、体部指押さえ、ケズリ	密 石英・砂粒	良	橙褐色	広口部内面 コゲ
42	埋土中	土師器 甑	広口部 ～体部	広口部 ※25.8	—	△20.0	外面：指押さえ、ハケ、把手部ケズリ→ナデ 内面：広口部指押さえ、ナデ、体部指押さえ、ケズリ	密 石英・白色粒	良	淡褐色	
43	埋土中	土師器 甑	体部 ～狭口部	—	狭口部 ※12.8	△22.0	外面：狭口部ナデ、体部指押さえ、ケズリ、把手部指頭 調整 内面：指押さえ、ケズリ	密 雲母・石英・砂粒	良好	褐色	
44	3面	土師器 甑	体部 ～把手部	—	—	△13.1	外面：体部指押さえ、ハケ、把手部ケズリ→ナデ 内面：ケズリ→ナデ	密 石英・砂粒	良	橙褐色	内外面赤彩 外面煤付着
45	埋土中	土師器 甑	把手部	長さ 4.9	幅 4.7	△ 5.0	外面：ケズリ→指押さえ、ナデ 内面：ケズリ	密 雲母・白色粒	良好	橙褐色	
46	埋土中	土師器 甑	把手部	長さ 5.8	幅 2.8	△ 5.6	指押さえ、ケズリ	密 雲母・石英・白色粒	良好	橙褐色	
47	埋土中	土師器 甑	把手部	長さ 4.2	幅 3.3	△ 3.5	指押さえ、ケズリ	密 石英・白色粒	良好	褐色	
48	3面	土製品 甑	把手部	長さ 1.5	幅 3.4	△ 4.2	ケズリ→ナデ、指押さえ	密 砂粒	良	橙褐色	外面煤付着
49	埋土中	土師器 坏	坏部 破片	※11.3	—	△ 3.5	外面：ミガキ 内面：ミガキ	密 雲母・砂粒	良	橙褐色	内外面厚い 赤彩
50	3面	土師器 皿	破片	※13.9	—	△ 2.5	外面：ミガキ 内面：ミガキ	密 砂粒	良	橙褐色	外面厚い赤彩 内面赤彩
51	3面	土師器 埦	1/2	※11.8	※ 5.8	7.0	外面：口縁部ナデ、体部指押さえ→ハケ、ナデ 内面：口縁部ナデ、体部指押さえ、ナデ	密 雲母・砂粒	良	橙色	内外面赤彩
52	埋土中	土師器 埦	1/5	※17.8	—	△ 7.2	外面：口縁部ナデ、体部ケズリ 内面：口縁部指押さえ、ナデ、体部ケズリ	密 石英・砂粒	良	褐色	外面赤彩
53	3面	土師器 脚付埦	1/2	—	—	△ 4.5	外面：指押さえ→ハケ 内面：指押さえ、ナデ	密 石英・砂粒	良	黄橙色	
54	埋土中	土師器 皿	4/5	18.0	—	4.3	外面：指押さえ、ケズリ→ナデ 内面：指押さえ、ケズリ→ミガキ	密 角閃石・石英	良好	褐色	
55	3面	土師器 皿	破片	※21.0	—	△ 3.0	外面：口縁部ナデ、体部ケズリ→ナデ 内面：口縁部ナデ	密 石英・砂粒	良	灰褐色	内外面赤彩
56	埋土中	土師器 盤	破片	※39.4	—	△ 3.8	外面：口縁部ナデ、ケズリ→ナデ、指押さえ 内面：ケズリ	密 雲母・石英・砂粒	良	橙褐色	外面煤付着 内面コゲ
57	埋土中	土師器 坏	高台部 1/2	—	※ 5.0	△ 1.8	外面：指押さえ→ナデ、貼付高台 内面：ナデ	密 白色粒	良	橙褐色	
58	埋土中	手捏ね土器 坏	1/4	※ 7.4	—	△ 2.7	外面：指押さえ→ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 石英・砂粒	良	褐色	
59	埋土中	手捏ね土器 坏	1/2	※ 7.8	—	△ 3.6	外面：指押さえ→ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 白色粒・砂粒	良	茶灰色	内外面煤付着 オキ火接触痕
60	埋土中	手捏ね土器 坏	完形	3.3	3.0	4.8	外面：指押さえ→ナデ 内面：口縁部指押さえ→ナデ、体部ケズリ→ナデ	密 石英・砂粒	良	灰褐色	
61	埋土中	手捏ね土器 坏	底部	—	※ 1.6	△ 1.8	外面：指押さえ 内面：指押さえ	密	良	褐色～ 橙褐色	
62	埋土中	不明土製品	—	—	—	△ 2.6	指押さえ→ナデ	密 白色粒・砂粒	良	橙色	
63	埋土中	土製品 土製支脚	1/2	幅 ※14.0	厚さ 11.3	器高 △10.6	外面：ケズリ→指押さえ、ナデ	密 石英・白色粒・砂粒	良好	橙褐色	突起部長： 7.5cm・7.0cm 突起部幅： 5.0cm・4.0cm
64	3面	土製品 土製支脚	完形	幅 ※11.3	底径 8.4	器高 11.2	外面：指押さえ 脚内面：ケズリ、指押さえ	密 石英・砂粒	良	橙色	突起部長： 5.0cm・4.0cm・ 3.3cm 突起部幅： 3.2cm・3.2cm・ 2.6cm
65	埋土中	土製品 土製支脚	突起部	長さ ※ 5.6	幅 ※ 3.3	△ 5.0	外面：ケズリ→指押さえ、ナデ	密 石英・白色粒・砂粒	良好	橙褐色	
66	2面	土製品 土製支脚	1/2	幅 ※ 7.2	厚さ ※ 6.0	△15.3	外面：指頭調整	密 砂粒	良	橙色	
67	埋土中	土製品 土製支脚	突起部	長さ ※ 5.6	幅 ※ 4.2	△ 8.1	外面：ナデ・指押さえ	密 白色粒・砂粒	良	茶褐色	
68	2面	土製品 土製支脚	突起部	長さ ※ 8.1	幅 ※ 3.9	△ 4.8	外面：指押さえ	密 雲母・白色粒・砂粒	良	橙色～ 灰褐色	
69	3面	土製品 土製支脚	突起部	長さ ※ 8.0	幅 ※ 3.8	△ 4.2	外面：ケズリ→ナデ	密 石英・砂粒	良	橙褐色	
70	埋土中	土製品 土製支脚	突起部	長さ ※ 6.9	幅 ※ 3.5	△ 4.1	外面：ケズリ→ナデ	密 雲母・石英・砂粒	良	橙褐色	
71	3面	土製品 土製支脚	把手部？	長さ ※ 4.7	幅 ※ 2.6	△ 3.2	外面：ケズリ→ナデ	密 雲母・石英・砂粒	良	橙褐色	
72	埋土中	土製品 土製支脚	把手部	長さ ※ 4.2	幅 ※ 2.8	△ 3.2	外面：ケズリ→ナデ	密 石英・砂粒	良	橙褐色	
73	埋土中	土製品 土製支脚	把手部	長さ ※ 3.9	幅 ※ 3.0	△ 3.5	外面：ケズリ→ナデ	密 白色粒・砂粒	良	褐色	
74	1面	土製品 土製支脚	突起部	長さ ※ 6.5	幅 ※ 2.8	△ 3.6	外面：指押さえ	密 石英・白色粒・砂粒	良	黄橙色	
75	3面	土製品 土製支脚	突起部	長さ ※ 5.0	幅 ※ 3.2	△ 3.2	外面：ケズリ→ナデ	密 砂粒	良	橙色	
76	埋土中	土製品 土製支脚	脚部	—	※10.8	△11.9	外面：ケズリ→ナデ、底面ナデ 内面：脚部ケズリ→ナデ	密 石英・砂粒	良	橙褐色	
77	埋土中	土製品 土製支脚	脚部	—	11.5	△ 6.8	外面：ナデ	密 白色粒・砂粒	良	橙色	
78	3面	土製品 土製支脚	脚部 2/3	—	※10.7	△ 5.5	外面：ケズリ→指押さえ、底面ケズリ 内面：脚部ケズリ、指押さえ	密 石英・白色粒	良	橙褐色	
79	埋土中	土製品 土製支脚	脚部 1/4	—	※12.0	△ 4.3	外面：ケズリ→ナデ、指押さえ 内面：ケズリ、指押さえ	密 石英・砂粒	良	橙褐色	
80	埋土中	土製品 土製支脚	脚部 1/4	—	※12.0	△ 5.4	外面：ケズリ→ナデ、指押さえ 内面：ケズリ、指押さえ	密 雲母・石英・砂粒	良	橙褐色	
81	埋土中	土製品 移動式竈	庇部	長さ ※ 7.6	幅 ※13.8	△ 6.2	外面：ケズリ→ハケ、指押さえ	密 石英・白色粒	良好	橙褐色	

82	埋土中	土製品 移動式竈	庇部	長さ ※ 5.2	幅 ※11.2	△ 3.6	外面：指押さえ→ナデ 内面：ケズリ	密 雲母・石英・白色粒	良	橙褐色	
83	埋土中	土製品 移動式竈	炊口部	—	※30.0	△ 5.9	外面：ケズリ→ハケ 内面：ケズリ	密 雲母・石英・砂粒	良	橙褐色	外面煤付着
84	3面	土製品 移動式竈	袖部	—	—	△12.3	外面：ハケ、指押さえ、ナデ	密 砂粒	良	黄橙色	
85	3面	須恵器 坏蓋	1/2	12.8	—	3.7	外面：口縁部回転ナデ、体部ケズリ、天井部ヘラ切り→ナデ 内面：口縁部～体部回転ナデ、天井部ナデ	密 白色粒・砂粒	良好	灰色	外面口縁部自然降灰
86	2面	須恵器 坏蓋	1/2	※11.8	—	3.6	外面：口縁部回転ナデ、体部ケズリ→ナデ、天井部ヘラ起こし→ナデ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	密 砂粒	良好	灰色	
87	3面	須恵器 坏蓋	完形	※10.3	—	4.0	外面：口縁部回転ナデ、体部ナデ、天井部ヘラ切り→ナデ 内面：口縁部～体部回転ナデ、天井部ナデ	密	良好	褐灰色	
88	埋土中	須恵器 坏蓋	ほぼ完形	※10.0	—	△ 4.0	外面：口縁部回転ナデ、体部～天井部ヘラケズリ→ナデ 内面：口縁部～体部回転ナデ、天井部ナデ	密 砂粒	良好	灰色	
89	3面	須恵器 坏蓋	1/3	※ 9.4	—	△ 3.9	外面：口縁～体部回転ナデ、天井部ヘラ切り→ナデ 内面：回転ナデ	密 白色粒	良好	赤褐色	
90	3面	須恵器 坏蓋	1/2	※ 9.9	—	△ 3.2	外面：口縁部回転ナデ、体部ヘラケズリ、天井部ヘラ切り→ナデ 内面：口縁～体部回転ナデ、天井部ナデ	密 白色粒・砂粒	良好	灰色	
91	埋土中	須恵器 坏蓋	1/6	※ 8.2	—	△ 3.1	外面：回転ナデ 内面：口縁～体部回転ナデ、天井部ナデ	密 白色粒	良	灰白色	外面自然降灰
92	埋土中	須恵器 坏蓋	完形	8.3	—	3.8	外面：口縁部回転ナデ、体部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密 白色粒	良好	灰色	
93	3面	須恵器 坏蓋	ほぼ完形	9.0	—	3.1	外面：口縁～体部回転ナデ、天井部ケズリ、つまみ部ナデ 内面：口縁～体部回転ナデ、天井部指押さえ・ナデ	密 砂粒	やや良	赤灰色 ～ 灰黄色	
94	3面	須恵器 坏蓋	ほぼ完形	11.7	—	4.3	外面：口縁部回転ナデ、体部ケズリ、つまみ部ナデ 内面：口縁～体部回転ナデ、天井部ナデ	密 白色粒	良好	灰色	
95	2・3面	須恵器 蓋転用硯	ほぼ完形	11.6	—	4.6	外面：口縁～体部回転ナデ、天井部ケズリ 内面：口縁～体部回転ナデ、天井部ナデ・磨耗	密	良好	淡青灰色	内面墨付着
96	埋土中	須恵器 坏蓋	完形	9.4	—	2.8	外面：口縁部回転ナデ、体部回転ヘラケズリ、天井部回転ナデ 内面：口縁部回転ナデ、体部～天井部ナデ"	密 白色粒、黒色粒	良好	灰色	外面焼成前刻書「カ」 遺物№ 119とセット
97	埋土中	須恵器 坏蓋	完形	10.3	—	3.3	外面：口縁部回転ナデ、体部～天井部カキ目、つまみ部ナデ 内面：口縁部回転ナデ、体部～天井部ナデ	密	良好	灰色	
98	埋土中	須恵器 蓋転用硯	ほぼ完形	15.4	—	3.2	外面：口縁～体部回転ナデ、体部～天井部ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、天井部指押さえ、磨耗	密 白色粒	良好	青灰色	
99	埋土中	須恵器 坏蓋	ほぼ完形	14.0	—	3.0	外面：口縁部回転ナデ、体部～天井部ヘラケズリ、天井部ナデ 内面：口縁部回転ナデ、体部～天井部ナデ	密 白色粒	良好	灰色	外面粘土粒付着
100	3面	須恵器 坏蓋	1/3	※13.5	—	3.1	外面：口縁～体部回転ナデ、天井部ケズリ、つまみ部回転ナデ 内面：口縁～体部回転ナデ、天井部ナデ	密 白色粒	良	赤褐色	
101	3面	須恵器 坏蓋	2/3	※15.6	—	2.3	外面：回転ナデ 内面：口縁～体部回転ナデ、天井部ナデ	密 白色粒・砂粒	良好	灰色	
102	3面	須恵器 坏蓋	4/5	11.8	—	2.6	外面：回転ナデ 内面：口縁部～体部回転ナデ、天井部ナデ	密 白色粒・砂粒	良好	灰色	外面自然降灰
103	埋土中	須恵器 坏蓋	1/2	※13.9	—	3.2	外面：口縁部～体部回転ナデ、天井部ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ、磨耗	密	良好	灰色	
104	2面	須恵器 坏蓋	1/2	※14.0	—	3.2	外面：口縁部磨耗により調整不明、体部ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	密 白色粒・砂粒	良好	青灰色	外面自然降灰
105	埋土中	須恵器 坏蓋	1/4	※13.3	—	2.9	外面：口縁部回転ナデ、体部ケズリ 内面：回転ナデ	密 白色粒・砂粒	良好	灰色	
106	埋土中	須恵器 蓋転用硯	1/2	※14.6	—	2.4	外面：口縁部回転ナデ、体部ケズリ、天井部ケズリ→ナデ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ、磨耗	密 白色粒	良好	灰色	外面自然降灰
107	埋土中	須恵器 坏蓋	1/4	※14.4	—	2.2	外面：口縁～体部回転ナデ、天井部ケズリ→ナデ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	密	良好	青灰色	
108	3面	須恵器 坏蓋	1/3	※14.2	—	3.0	外面：口縁部回転ナデ、体部ケズリ、天井部回転ナデ 内面：口縁部～体部回転ナデ、天井部ナデ	密 白色粒	良好	灰色	
109	3面	須恵器 蓋転用硯？	1/4	※15.0	—	2.7	外面：口縁部回転ナデ、天井部ケズリ、天井部ケズリ→ナデ 内面：回転ナデ、天井部磨耗	密 石英・白色粒	良好	灰色	
110	3面	須恵器 蓋転用硯？	2/3	※14.4	—	2.7	外面：口縁～体部、回転ナデ、天井部ナデ 内面：回転ナデ、天井部ナデ、磨耗	密 白色粒	良好	灰色	外面焼成後線刻「×」 外面自然降灰
111	2面	須恵器 坏蓋	1/3	※14.7	—	3.1	外面：口縁～体部回転ナデ、天井部ケズリ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ、磨耗	密	良好	青灰色	内面焼成後線刻「×」
112	埋土中	須恵器 坏蓋	天井部 破片	—	—	△ 1.6	外面：ケズリ、つまみ部ナデ、竹管文 内面：ナデ	密	良	灰色	
113	1面	須恵器 坏身	1/4	※10.4	—	△ 4.5	外面：口縁～体部回転ナデ、底部ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密 砂粒	良好	青灰色	
114	3面	須恵器 坏身	1/4	※10.6	—	△ 3.8	外面：口縁～体部回転ナデ、底部ケズリ→ナデ 内面：回転ナデ	密 白色粒	やや良	灰色	火ぶくれ
115	3面	須恵器 坏身	ほぼ完形	9.4	5.1	3.7	外面：口縁～体部回転ナデ、底部ケズリ 内面：口縁～体部回転ナデ、底部ナデ	密 白色粒・黒色粒	良好	灰色	
116	埋土中	須恵器 坏身	ほぼ完形	9.0	4.6	3.7	外面：口縁～体部回転ナデ、底部ケズリ 内面：口縁～体部回転ナデ、底部ナデ	密 白色粒・砂粒	良好	灰色	
117	3面	須恵器 坏身	1/2	9.9	4.4	3.5	外面：口縁～体部回転ナデ、底部ケズリ 内面：口縁～体部回転ナデ、底部ナデ	密 砂粒	良好	灰色	
118	埋土中	須恵器 坏身	1/3	※13.4	※ 7.6	△ 4.5	外面：口縁部回転ナデ、体部ナデ、底部静止糸切り 内面：口縁～体部回転ナデ、底部ナデ	密 白色粒・黒色粒	良	灰色	
119	埋土中	須恵器 坏身	完形	9.0	4.6	3.5	外面：口縁部回転ナデ、体部ナデ、底部ヘラ切り 内面：口縁～体部回転ナデ、底部ナデ	密 白色粒・黒色粒	良好	灰色	遺物№ 96とセット
120	3面	須恵器 坏身	1/2	14.0	8.9	5.0	外面：口縁～体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面：口縁～体部回転ナデ、底部ナデ	密 砂粒	良好	灰色	外面自然降灰

121	埋土中	須恵器 坏身	2/3	12.7	8.2	4.6	外面：口縁～体部回転ナデ、底部回転糸切り→ナデ、貼付高台 内面：口縁～体部回転ナデ、底部ナデ	密 白色粒・砂粒	良	褐灰色	
122	2面	須恵器 坏身	1/2	※13.1	※ 8.6	5.2	外面：口縁～体部回転ナデ、底部回転糸切り→ナデ、貼付高台 内面：口縁～体部回転ナデ、底部ナデ	密	良好	青灰色	高台内線刻
123	2面	須恵器 坏身	底部	—	8.4	△ 3.1	外面：体部回転ナデ、底部静止糸切り→ナデ、貼付高台 内面：回転ナデ、底面ナデ	密	良好	青灰色	高台内線刻
124	3面	須恵器 坏身	1/2	※16.4	※ 9.1	5.3	外面：口縁～体部回転ナデ、底部回転糸切り、貼付高台 内面：口縁～体部回転ナデ、底部指頭圧痕→ナデ	密 白色粒・黒色粒	良好	灰色	底部火ぶくれ
125	3面	須恵器 坏身	3/4	※16.5	8.0	4.8	外面：口縁～体部回転ナデ、底部静止糸切り→ナデ、貼付高台 内面：口縁～体部回転ナデ、底部ナデ	密 白色粒・砂粒	良	灰色	
126	3面	須恵器 坏身	底部	—	9.0	△ 2.9	外面：体部回転ナデ、底部静止糸切り→ナデ、貼付高台 内面：回転ナデ、底部ナデ	密 白色粒・砂粒	良好	灰色	高台内線刻？ 転用硯？
127	埋土中	須恵器 坏身	底部 破片	—	※ 9.0	△ 2.6	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り→ナデ、スタンプ文２個、貼付高台 内面：ナデ	密 白色粒	良好	灰色	
128	埋土中	須恵器 坏身	1/6	※15.0	※ 8.7	5.2	外面：口縁部～体部回転ナデ、貼付高台 内面：口縁～体部回転ナデ、底部ナデ	密	良好	灰色	外面粘土粒 付着
129	埋土中	須恵器 坏身	1/4	※14.2	※ 7.8	4.7	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ、貼付高台 内面：口縁～体部回転ナデ、底部ナデ	密 白色粒	良好	灰色	
130	埋土中	須恵器 坏転用硯	ほぼ完形	14.1	7.7	5.4	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ、貼付高台 内面：口縁～体部回転ナデ、底部ナデ、磨耗	密 白色粒・砂粒	良好	青灰色	
131	3面	須恵器 坏身	3/4	※11.2	※ 8.0	4.0	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ、貼付高台 内面：口縁～体部回転ナデ、底部ナデ	密	良好	青灰色 ～ 暗赤灰色	
132	埋土中	須恵器 坏身	2/3	12.9	7.8	5.0	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部指押さえ→ナデ、貼付高台 内面：口縁～体部回転ナデ、底部指押さえ→ナデ	密 白色粒・黒色粒	良	灰色	
133	埋土中	須恵器 坏身	3/4	※13.1	7.6	4.5	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ケズリ→ナデ、貼付高台 内面：口縁～体部回転ナデ、底部ナデ	密	やや良	青灰色	内底面 火ぶくれ
134	1面	須恵器 坏身	2/3	※12.7	※ 8.1	5.0	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ、貼付高台 内面：口縁～体部回転ナデ、底部指押さえ、ナデ	密	良好	青灰色	
135	埋土中	須恵器 坏身	1/4	※15.2	※ 8.3	4.8	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ、貼付高台 内面：口縁～体部回転ナデ、底部ナデ	密 白色粒	良好	青灰色	
136	埋土中	須恵器 埦	ほぼ完形	13.3	7.8	7.5	外面：口縁～体部回転ナデ、４条の沈線、底部ケズリ、３条の沈線 内面：口縁～体部回転ナデ、底部指押さえ→ナデ	密 石英・白色粒。砂粒	やや良	灰褐色 ～ 褐色	
137	埋土中	須恵器 埦	4/5	—	8.3	△ 4.8	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密 石英・白色粒	良好	青灰色	
138	埋土中	須恵器 高坏	坏部 3/4	11.1	—	△ 5.0	外面：口縁部回転ナデ、坏底部ケズリ→ナデ 内面：口縁部回転ナデ、坏底部ナデ、脚部ナデ	密 砂粒	良好	灰白色	
139	3面	須恵器 高坏	坏部 1/2	※11.9	—	△ 6.0	外面：回転ナデ、坏部下半カキ目 内面：口縁部回転ナデ、坏底部ナデ	密	良好	灰色～ 淡褐色	脚部透かし
140	3面	須恵器 高坏	1/6	※10.0	—	※ 3.6	外面：口縁～体部回転ナデ、底部ヘラ切り→ナデ 内面：口縁～体部回転ナデ、底部ナデ	密 砂粒	良好	灰色	
141	3面	須恵器 高坏	ほぼ完形	※16.2	11.6	14.8	外面：回転ナデ 内面：坏部指押さえ、ナデ、脚部回転ナデ	密 白色粒・砂粒	やや良	灰色～ 赤褐色	脚部二方 透かし
142	埋土中	須恵器 高坏	ほぼ完形	※16.2	9.5	10.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	良好	灰色～ 黒灰色	脚部二方 ヘラ切り込み線
143	埋土中	須恵器 高坏	ほぼ完形	14.7	8.6	10.3	外面：回転ナデ 内面：坏部口縁部・脚部回転ナデ、坏底部磨耗	密 白色粒	やや良	青灰色	脚部外面焼成 前線刻「×」
144	3面	須恵器 高坏	脚部 1/4	—	※10.0	△ 3.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密 白色粒	良好	灰褐色	
145	1面	須恵器 高坏	坏部～脚部	—	—	△ 6.7	外面：坏部ケズリ、脚部回転ナデ 内面：坏部ナデ、脚部回転ナデ	密 白色粒・砂粒	良好	青灰色	脚部二方 透かし
146	埋土中	須恵器 高坏	坏部～脚部	—	8.8	△ 6.6	外面：回転ナデ 内面：坏部ナデ、脚部回転ナデ	密 白色粒・砂粒	良好	灰色	脚部透かし
147	3面	須恵器 長頸壺	ほぼ完形	13.4	—	△24.1	外面：口縁部～体部回転ナデ、口縁部２条の沈線、肩部円形浮文２個、底部叩き目→カキ目 内面：口縁～肩部回転ナデ、底部当具による同心円文、ナデ	密	良好	灰色	火ぶくれ有
148	3面	須恵器 長頸壺	頸部～体部	—	—	△21.5	外面：頸部ナデ・２条の沈線、体部回転ナデ 内面：頸部絞り目、体部回転ナデ	密 白色粒	良好	灰色	外面自然降灰 頸部工具痕
149	2面	須恵器 長頸壺	頸部	長さ 5.7	幅 5.8	厚さ 5.3	外面：回転ナデ、頸部下端磨耗 内面：回転ナデ・ケズリ	密	良好	青灰色	頸部転用品
150	3面	須恵器 横瓶	口縁～体部	13.4	胴径 44.3	△24.0	外面：口頸部回転ナデ、体部平行叩き、カキメ 内面：口頸部回転ナデ、体部当具による青海波文	密 砂粒	良好	灰色	
151	埋土中	須恵器 横瓶	口縁～体部	16.9	胴径 54.5	△34.5	外面：口頸部回転ナデ、体部平行叩き目 内面：口頸部回転ナデ、体部当具による青海波文	密	良好	青灰色	口縁～肩部 自然降灰
152	3面	須恵器 大甕	1/2	※35.6	—	△86.4	外面：口頸部回転ナデ、２条の沈線区画の櫛状工具による波状文３段、体部平行叩き目 内面：口縁部回転ナデ、頸部ナデ、体部当具による同心円文	密 砂粒	良好	青灰色	
153	3面	須恵器 大甕	口縁～肩部 1/4	※38.8	—	32.6	外面：口頸部回転ナデ、2条の沈線区画の櫛状工具による波状文3段、肩部平行叩き目→ナデ 内面：口縁部回転ナデ、頸部ナデ、体部当具による青海波文	密 白色粒、砂粒	良好	青灰色	
154	埋土中	須恵器 甕	口縁～底部	※21.0	—	—	外面：口頸部回転ナデ、体部平行叩き目 内面：口頸部回転ナデ、体部当具による青海波文	密 雲母・砂粒	良好	青灰色	口縁～肩部 自然降灰
155	3面	須恵器 甕	口縁～肩部 1/3	※21.0	—	△11.5	外面：口頸部回転ナデ、肩部平行叩き目→ナデ 内面：口頸部回転ナデ、肩部当具による青海波文→ナデ	密 白色粒・砂粒	良好	灰色	
156	埋土中	須恵器 甕	口縁～肩部	※16.2	—	△ 9.1	外面：口頸部回転ナデ、肩部平行叩き目 内面：口頸部回転ナデ、肩部当具による青海波文	密 白色粒・砂粒	良好	青灰色	口縁～肩部 自然降灰
157	3面	須恵器 甕	口縁～体部	※24.0	—	△23.7	外面：口頸部回転ナデ、体部平行叩き目 内面：口頸部回転ナデ、肩部当具による同心円文	密 砂粒	良好	灰褐色	自然降灰
158	3面	須恵器 甕	口縁～体部	※17.8	—	△56.8	外面：口頸部回転ナデ、１条の凹線、体部平行叩き目 内面：口頸部回転ナデ、体部当具による同心円文	密	良好	灰色	口縁・肩部 自然降灰

159	２面	須恵器 横瓶	口縁～肩部	※12.2	—	△10.2	外面：口頸部回転ナデ、肩部平行叩き目 内面：口頸部回転ナデ、肩部当具による青海波文	密	良好	青灰色	
160	埋土中	須恵器 横瓶	口頸部 1/4	※13.9	—	△ 4.1	外面：口頸部回転ナデ、肩部平行叩き目 内面：口頸部回転ナデ、肩部当具による青海波文	密	良好	青灰色	
161	３面	須恵器 提瓶	体部 1/2	—	胴径 18.3	△14.0	外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ、背面ヘラケズリ→ナデ 内面：指押さえ・回転ナデ	密 白色粒・黒色粒	良好	灰色	
162	埋土中	須恵器 小壺	頸部～底部 1/2	—	1.4	△ 7.2	外面：頸部～体部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：肩部絞り→ナデ、体部回転ナデ	密 砂粒	良好	灰色	
163	埋土中	須恵器 甕	頸部～底部	—	4.3	△ 7.0	外面：体部回転ナデ、１条の沈線・指押さえ、体部下半ケズリ、底面ヘラ切り 内面：調整不明	密接	良好	淡灰色	体部穿孔 肩部自然降灰

第290表　４区SS29出土金属製品観察表（第594図）

遺物番号	出土層位	種　別	部位 残存率	法　量（cm）			重量(g)	材　質	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
164	埋土中	刀子	刃部	4.0	1.9	0.2	11.4	鉄	
165	埋土中	刀子	刃部	2.1	1.4	0.4	2.6	鉄	
166	埋土中	鎌？	茎部	5.2	1.9	0.3	14.7	鉄	茎部折り曲げ
167	３面	釘		4.1	0.4	0.3	10.6	鉄	
168	埋土中	釘	1/2	4.0	0.6	0.5	5.7	鉄	
169	３面	釘	1/3	2.2	0.4	0.4	8.9	鉄	

第291表　４区SS29出土石器、石製品観察表（第594～596図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	遺存 状態	法　量（cm）			重量(g)	石　材	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
170	埋土中	紡錘車	1/2	径 4.9	—	2.5	38.1	花崗岩	
171	埋土中	紡錘車	完形	径 4.6	—	3.5	84.8	凝灰岩	
172	埋土中	砥石	ほぼ完形	11.1	5.1	3.4	180.2	凝灰岩	仕上砥
173	埋土中	砥石	ほぼ完形	7.4	4.8	3.6	239.0	細粒花崗岩	仕上砥
174	埋土中	台石	完形	17.8	9.4	15.3	2814.4	凝灰角礫岩	被熱痕あり
175	埋土中	台石	2/3	11.6	6.1	11.4	885.9	凝灰角礫岩	被熱痕あり
176	埋土中	台石	完形	16.8	9.7	6.4	1634.9	凝灰角礫岩	被熱痕あり、表面中央に敲打痕有り、擦痕有り
177	３面	台石	完形	12.2	15.2	6.4	1680.0	凝灰角礫岩	表面敲打痕あり
178	埋土中	台石	ほぼ完形	12.8	17.7	10.4	2803.1	凝灰角礫岩	一部赤変
179	３面	台石	完形	34.0	19.4	12.8	7820.0	凝灰角礫岩	
180	３面	台石	完形	19.3	13.5	10.3	2834.2	凝灰角礫岩	被熱痕あり
181	埋土中	台石	完形	15.8	22.1	6.9	2630.8	凝灰角礫岩	表面敲打痕あり
182	２面	台石	完形	15.0	10.4	10.4	2185.9	凝灰角礫岩	赤変、擦痕あり

第292表　４区SS34出土土器観察表（第597図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
1	下面	土師器 甕	頸部 破片	※28.0	—	△2.1	外面：指押さえ、ナデ 内面：口縁部摩耗のため調整不明、肩部ケズリ	密 雲母・砂粒	良	橙色	
2	下面	土師器 直口壺？	口縁部 破片	※16.2	—	△5.0	外面：ナデ 内面：ハケ・ナデ、指押さえ、工具痕	密 石英・白色粒	良	橙色	
3	下面	土師器 高坏	脚部 1/8	—	※11.8	△2.3	外面：ナデ、指押さえ、細い工具痕 内面：ナデ	密 白色粒	良	橙色	

第293表　６区SS５出土土器観察表（第599図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
1	P28	土師器 甕	口縁～胴部 1/4	※21.2	—	△14.4	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部板状工具によるナデ、頸部指押さえ、胴部ケズリ	密 砂粒、白色粒	良	灰褐色	

第294表　６区SS20出土土器観察表（第601図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
1	上層	土師器 甕	口縁 1/8	20.4	—	△2.4	外面：ナデ 内面：ナデ	密 石英、白色粒、砂粒	良	褐色	
2	床面直上	土師器 皿	口縁～底部 1/4	17.8	15.4	2.3	外面：口縁部ナデ、底部ケズリ→指押さえ→ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ→ナデ	密 雲母、赤色粒、砂粒	良	橙褐色	内外面赤彩
3	埋土中	製塩土器	1/8	6.4	—	△2.9	外面：指押さえ→ナデ 内面：指押さえ→ナデ	やや粗 白色粒、砂粒	良	黄褐色	
4	床面直上	須恵器 坏蓋	1/8	※14.0	—	△2.9	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	良好	灰色	
5	下層	須恵器 坏身	1/3	12.8	8.8	3.7	外面：口縁部回転ナデ、底部ヘラ切り→ナデ 内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ	密	やや良	青灰色	
6	埋土中	須恵器 坏身	3/4	※12.7	8.5	3.9	外面：口縁部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ	密	やや良	赤褐色	

第295表　６区SS20出土石器観察表（第601図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
7	床面直上	台石	3/4	13.5	15.7	5.6	1687.9	角閃石安山岩	

第296表　６区SS21出土土器観察表（第603図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	土師器 坏身	1/4	※14.4	※11.7	6.1	外面：口縁部摩耗のため調整不明、底部ケズリ→ナデ 内面：ミガキ	密 石英、砂粒	良	橙褐色	内外面赤彩
2	埋土中	須恵器 燈明皿	ほぼ完形	8.9	5.6	3.1	外面：口縁部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密	やや良	淡赤褐色	

第297表　４区SS25出土土器、土製品観察表（第607図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	須恵器 坏蓋	口縁部破片	※13.8	—	△2.2	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密 砂粒	良好	青灰色	
2	埋土中	須恵器 坏身	口縁部破片	※12.1	—	△1.2	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密 砂粒	良好	青灰色	
3	埋土中	須恵器 転用土器	完形	長さ 3.2	幅 3.1	厚さ 1.1	甕体部転用、打ち欠き、内面磨耗	密	良好	淡灰色	重量：12.4ｇ
4	埋土中	土製品 土馬	前足上胴部	長さ ※ 5.9	幅 ※3.7	厚さ ※5.5	指押さえ	密 雲母、石英	やや良	暗灰白色	重量：67.9ｇ

第298表　６区SS22出土土器観察表（第615・616図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	床面直上	土師器 甕	口縁～胴部 1/2	23.2	—	△10.9	外面：口縁部指押さえ→ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ→指押さえ→ナデ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	
2	埋土中	土師器 甕	口縁～胴部 1/8	※21.0	—	△ 7.6	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ→指押さえ→ナデ	密 雲母、石英、砂粒	良	褐色	外面煤付着
3	埋土中	土師器 甕	口縁 1/8	※15.8	—	△ 5.2	外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ	密 石英、砂粒	良	淡褐色	
4	上層	土師器 甕	口縁～胴部 1/10	※19.4	—	△10.8	外面：口縁部ナデ、頸部指押さえ→ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ→指押さえ→ナデ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙色	外面煤付着
5	P304	土師器 皿	口縁～底部	※16.8	—	△ 3.5	外面：口縁部ナデ、底部ケズリ→ナデ、高台内ナデ 内面：ナデ	密 白色粒	良	橙褐色	内外面赤彩 地櫃具？
6	埋土中	土師器 皿	口縁 破片	※19.6	—	△ 2.3	外面：口縁部ナデ、底部ケズリ 内面：ナデ	密 白色粒	良好	橙褐色	内外面赤彩
7	埋土中	土師器 皿	脚部 1/6	—	※ 9.6	△ 2.3	外面：指押さえ→ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 砂粒	良	橙褐色	内外面赤彩
8	下層	須恵器 壺	口縁～頸部 1/6	※16.6	—	△ 4.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	やや良	青灰色	内面火膨れ痕
9	床面直上	須恵器 横瓶	2/3	16.3	—	△21.6	外面：口縁部～頸部回転ナデ、胴部平行叩き 内面：口縁部～頸部回転ナデ、肩部、底部同心円の当て具痕、胴部青海波の当て具痕	密 砂粒	良好	青灰色	自然降灰あり
10	埋土中	須恵器 甕	口縁～胴部 1/3	※19.7	—	△20.8	外面：口縁部回転ナデ、頸部平行叩き→指押さえ、胴部平行叩き 内面：口縁部～頸部回転ナデ、胴部青海波の当て具痕	密	良好	青灰色	自然降灰あり 外面煤付着
11	埋土中	須恵器 甕	肩部～胴部 1/6	—	—	△27.4	外面：平行叩き 内面：頸部指押さえ、胴部青海波の当て具痕	密	良好	青灰色	自然降灰あり
12	床面直上	須恵器 甕	口縁、底部 1/4	※ 8.6	—	推定 10.0	外面：口縁部～胴部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ、回転糸切り 内面：回転ナデ	密	良好	灰褐色	自然降灰あり
13	床面直上	須恵器 高坏	脚部 1/4	—	※20.2	△ 5.7	外面：回転ナデ、５条の沈線 内面：回転ナデ	密	良好	青灰色	内面自然降灰
14	下層	須恵器 高坏	脚部 1/6	※15.6	—	△ 7.3	外面：口縁部４条の凹線、胴部ナデ、ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ→ナデ	密	良好	青灰色	内面自然降灰
15	上層	須恵器 坏蓋	1/4	—	—	△ 1.3	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ→ナデ	密	良好	赤灰色	
16	埋土中	須恵器 坏蓋	口縁 破片	※14.2	—	△ 2.2	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	良好	青灰色	

第299表　６区SS22出土金属製品観察表（第616図）

遺物番号	出土層位	種別	部位 残存率	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	材質	備考
17	埋土中	刀子	刃部	5.4	1.4	0.3	4.4	鉄	
18	埋土中	刀子	刃部	2.2	1.1	0.2	3.3	鉄	
19	上層	刀子	茎部	4.7	1.8	0.3	8.0	鉄	

第300表　６区SS22出土石器観察表（第616図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量（g）	石材	備考
20	埋土中	砥石	破片	7.8	8.4	4.5	364.8	花崗岩	中砥、砥面３面、被熱
21	P289	砥石	破片	6.3	6.5	3.2	168.2	凝灰角礫岩	荒砥、砥面２面
22	埋土中	砥石	破片	12.2	8.5	4.5	619.8	花崗岩	中砥、砥面２面

23	埋土中	磨石・敲石	完形	13.7	6.0	3.6	494.9	花崗岩	上下面敲打痕あり

第301表　６区SS25出土土器観察表（第620図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量 (cm) 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	須恵器 坏身	口縁～底部 1/4	※12.9	※ 5.6	5.1	外面：口縁部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ	密	良好	青灰色	
2	中層	須恵器 坏身	口縁～底部 1/4	※14.8	※11.4	4.0	外面：口縁部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ	密	良好	青灰色	
3	埋土中	須恵器 坏身	口縁～底部 1/4	※12.4	※ 8.2	4.0	外面：口縁部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ	密	良好	青灰色	

第302表　６区SS26出土土器観察表（第622図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量 (cm) 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	土師器 甕	口縁 1/8	※15.6	—	△ 2.8	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 石英、砂粒	良	黄褐色	
2	下層	土師器 甕	口縁 1/6	※21.2	—	△ 4.1	外面：指押さえ→ナデ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ケズリ	密 石英、角閃石 白色粒	良	褐色	内外面煤付着
3	床面直上	土師器 甕	口縁～胴部 1/2	※22.7	—	△ 8.8	外面：口縁部３条の凹線、胴部ハケ 内面：口縁部ハケ、胴部ケズリ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	内外面煤付着
4	埋土中	土製支脚		幅 6.9	厚さ 3.4	—	外面：ケズリ→指押さえ→ナデ	密 雲母、石英、白色粒	良	橙褐色	
5	埋土中	甑	口縁 1/8	※23.6	—	△ 6.7	外面：指押さえ→ナデ→ハケ 内面：指押さえ→ナデ	密 石英、白色粒、砂粒	良	橙褐色	
6	埋土中	須恵器 坏蓋	1/3	※14.8	—	1.5	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	密 砂粒	良好	青灰色	転用土器
7	下層	須恵器 坏身	破片	—	—	△ 2.6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	良好	青灰色	
8	埋土中	須恵器 坏身	破片	※11.4	—	△ 2.3	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密 白色粒、砂粒	良好	青灰色	
9	埋土中	須恵器 坏身	破片	※12.2	—	△ 2.3	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	良好	暗赤褐色	
10	埋土中	須恵器 皿	破片	※11.8	—	△ 2.2	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密 砂粒	やや良	灰褐色	
11	下層	須恵器 皿	1/3	※14.6	8.0	2.3	外面：口縁部回転ナデ、底部静止糸切り 内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ	密	良好	青灰色	
12	埋土中	須恵器 高坏	1/2	※14.8	—	△ 4.4	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部カキ目 内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ	密 白色粒、黒色粒	良好	青灰色	底部内面線刻あり
13	床面直上	須恵器 壺	口縁～頸部	※ 9.8	—	△10.7	外面：回転ナデ、頸部２条の沈線 内面：口縁部回転ナデ、頸部ケズリ	密 石英、砂粒	良	橙橙色	底部内面線刻あり
14	埋土中	須恵器 甕	口縁 破片	※20.2	—	△ 2.5	外面：回転ナデ→ハケ状工具調整 内面：回転ナデ	密 白色粒、黒色粒 砂粒	良好	青灰色	

第303表　６区SS26出土金属製品観察表（第622図）

遺物番号	出土層位	種別	部位 残存率	法量 (cm) 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	材質	備考
15	埋土中	鉄鎌	1/3	7.8	3.3	0.2	23.0	鉄	
16	埋土中	棒状鉄製品	ほぼ完形	18.0	0.9	0.9	44.0	鉄	

第304表　６区SS32出土土器観察表（第626図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量 (cm) 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	上層	土師器 甕	口縁 1/8	30.2	—	△4.2	外面：指押さえ→ナデ 内面：ナデ	密 石英、角閃石、砂粒	良	褐色	外面煤付着
2	埋土中	土師器 甕	口縁～頸部 1/6	21.4	—	△3.4	外面：指押さえ→ナデ 内面：ナデ	密 雲母、石英、角閃石	良	橙褐色	
3	上層	須恵器 坏蓋	天井部 完形	—	—	△1.8	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ→ナデ	密	良好	灰白色	転用硯 僅かに墨残存
4	埋土中	須恵器 坏身	口縁 1/10	※12.6	—	△2.6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	良好	灰色	
5	埋土中	須恵器 甕	口縁 1/6	※ 8.4	—	△3.3	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	良好	灰色	

第305表　６区SS33出土土器観察表（第628図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量 (cm) 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	土師器 甕	口縁 破片	※13.6	—	△ 3.1	外面：指押さえ→ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 雲母、角閃石 白色粒	良	淡褐色	
2	埋土中	土師器 甕	口縁 1/5	※12.8	—	△ 2.8	外面：指押さえ→ハケ 内面：ナデ、ケズリ	密 角閃石、白色粒	良	淡褐色	外面煤付着
3	埋土中	土師器 甕	口縁～胴部 1/4	※26.4	—	△10.5	外面：指押さえ→ナデ→ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ→指押さえ→ナデ	密 石英、雲母、白色粒	良	褐色	
4	埋土中	土師器 甑	把手	長さ 7.2	幅 4.5		外面：ケズリ	密 雲母、石英、角閃石	良	淡褐色	

5	埋土中	須恵器 坏蓋	天井部	—	—	△ 2.4	外面：天井部ヘラ起こし、体部回転ナデ 内面：天井部ナデ、胴部回転ナデ	密	良好	灰色	
6	埋土中	須恵器 坏蓋	口縁 破片	※16.0	—	△ 1.3	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	良好	暗赤灰色	
7	埋土中	須恵器 壺	底部 1/6	—	※5.6	△ 5.8	外面：胴部ハケ状工具による回転ナデ→ナデ、底部ケズリ 内面：回転ナデ	密	良好	灰色	
8	埋土中	須恵器 甕	口縁 破片	※35.3	—	△10.0	外面：回転ナデ、２条の沈線２段、６条の波状文２段 内面：回転ナデ、ハケ状工具によるナデ	密 白色粒	良好	灰色	

第306表　６区SS33出土金属製品観察表（第628図）

遺物番号	出土層位	種　別	部位 残存率	法　量（cm）			重量(g)	材　質	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
9	埋土中	棒状鉄製品	ほぼ完形	11.6	0.8	0.7	39.3	鉄	
10	埋土中	釘	1/2	3.8	0.6	0.7	2.0	鉄	

第307表　６区SI28出土土器観察表（第631図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
1	埋土中	土師器 甕	口縁 1/12	※13.6	—	△5.0	外面：口縁部指押さえ→ナデ、頸部ハケ 内面：口縁部指押さえ→ナデ、頸部ケズリ	密 雲母、石英、角閃石	良	黄橙色	外面赤彩
2	埋土中	須恵器 壺	底部 1/5	—	※8.0	△3.5	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密 砂粒	良	灰赤色	

第308表　１区SK６出土土器観察表（第643図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
1	上層	土師器 甕	口縁～頸部	※30.1	—	△ 8.8	外面：口縁部ハケ→ナデ、頸部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英	良好	橙褐色	
2	上層	須恵器 壺	底部 1/4	—	※13.4	△ 8.3	外面：ケズリ→ナデ 内面：ケズリ→ナデ	密	良好	灰色	
3	上層	須恵器 甕	完形	22.0	胴径 51.8	59.6	外面：平行叩き 内面：同心円状当て具痕	密	良好	灰色	

第309表　３区SS１－１出土土器観察表（第655図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
1	下層	土師質土器 埦	口縁～胴部 破片	—	8.4	△2.8	外面：胴部ナデ、底部ヘラ切り→指押さえ、工具痕あり 内面：胴部ナデ、底部指押さえ→ナデ	密 白色粒、砂粒	良	橙褐色	内外面煤付着

第310表　３区SS１－１出土石器観察表（第655図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	遺存 状態	法　量（cm）			重量 （g）	石　材	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
2	下層	台石	3/4	22.1	18.0	6.6	3780.0	凝灰角礫岩	

第311表　３区SS１－１出土金属製品観察表（第655図）

遺物番号	出土層位	種　別	部位 残存率	法　量（cm）			重量(g)	材　質	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
3	壁溝	釘	1/2	4.6	0.5	0.45	7.6	鉄	

第312表　３区SS１－２出土金属製品観察表（第655図）

遺物番号	出土層位	種　別	部位 残存率	法　量（cm）			重量(g)	材　質	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
4	床直	棒状鉄製品	1/3	2.5	0.5	0.4	3.4	鉄	

第313表　３区SS３出土土器、磁器観察表（第657図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm）			調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
				口　径	底　径	器　高					
1	上層	土師質土器 埦	完形	※14.8	5.7	4.7	外面：胴部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ、底部指押さえ	密 石英、白色粒、砂粒	良	黄灰白色	
2	上層	白磁 碗	口縁 1/8	※14.4	—	3.1		密	良	灰白色	白磁碗Ⅳ類
3	炉	土師質土器 埦	底部	—	8.4	△2.8	外面：ナデ、底部ヘラ切り→指押さえ、工具痕あり 内面：ナデ	密 白色粒、赤色粒	良	橙褐色	内外面煤付着

第314表　３区SS３出土石器観察表（第657図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	遺存 状態	法　量（cm）			重量 （g）	石　材	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
4	床面直上	砥石	完形	3.3	2.6	2.2	26.7	凝灰岩	仕上砥、砥面４面

第315表　３区SS３出土金属製品観察表（第657図）

遺物番号	出土層位	種　別	部位 残存率	法　量（cm） 最大長	 最大幅	 最大厚	重量(g)	材　質	備　考
5	埋土中	棒状鉄製品	刃部	4.7	0.6	0.3	8.0	鉄	

第316表　４区SS30出土土器、陶器観察表（第659図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm） 口　径	 底　径	 器　高	調整・文様	胎土 釉薬	焼成	色調	備考
1	下層	中国陶器 水注	破片	—	—	△9.5	外面：回転ナデ、把手貼付痕 内面：回転ナデ	密 黒褐色釉	良好	灰オリーブ色	被熱
2	下層	瓦質土器 碗	口縁～胴部 破片	※12.3	—	△3.7	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	やや密	良	暗赤灰色	
3	上層	瓦質土器 壺	胴部 破片	—	—	△6.1	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	やや良	灰色	
4	上層	土師質土器 鍋	口縁～胴部 破片	※29.0	—	△7.0	外面：頸部指押さえ 内面：口縁部摩耗のため調整不明、胴部ハケ	密 石英、白色粒	良	灰褐色	
5	上層	土師質土器 鍋	口縁 破片	※33.0	—	△5.0	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ハケ	密 石英、白色粒	良	淡褐色	外面煤、 炭化物付着

第317表　４区SS31出土土器、磁器観察表（第662図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm） 口　径	 底　径	 器　高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	下層	青磁 碗	口縁～底部	※14.9	—	△ 6.1	外面：粗い櫛目文、底部露胎 内面：無文	密	良好	淡黄灰色	被熱 同安窯系青磁 碗Ⅲ-１ａ類
2	中層	青磁 皿	口縁～胴部 1/2	—	※3.2	△ 1.7	外面：底部露胎 内面：見込片彫花文、劃花文	密	良好	灰白色	被熱 龍泉窯系青磁 Ⅲ-２ｃ類
3	中層	青磁 皿	口縁～胴部	—	※3.2	△ 1.5	外面：釉掻き取り 内面：無文	密	良好	灰色	龍泉窯系青磁 Ⅲ-１ａ類
4	上層	中世須恵器 甕	口縁～胴部 破片	※28.8	—	△15.4	外面：叩き 内面：工具によるナデ	密	良好	灰色	
5	上層	中世須恵器 甕	胴部 1/4	—	—	△16.3	外面：叩き 内面：ナデ	密	良	淡灰色	
6	埋土中	中世須恵器 甕	胴部 1/4	—	—	△15.4	外面：叩き 内面：ナデ	密	良好	灰色	
7	下層	中世須恵器 甕	底部 破片	—	—	△ 3.0	外面：叩き 内面：ナデ	密	良	淡灰褐色	
8	下層	東播系須恵器 捏鉢	口縁～腰部 1/4	※34.4	—	△12.4	外面：回転ナデ→ナデ 内面：回転ナデ→ナデ	密	良好	灰色	勝間田窯
9	下層	土師質土器 鍋	口縁～胴部 破片	※36.2	—	△ 5.9	外面：口縁部指押さえ、胴部ハケ 内面：ハケ	密	良	淡橙褐色	外面炭化物 付着
10	埋土中	土師質土器 皿	1/2	※ 8.1	4.4	2.9	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	密 石英、砂粒	良	黄灰白色	
11	埋土中	土師質土器 碗	口縁 破片	※13.2	—	△ 2.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	やや良	淡橙褐色	
12	埋土中	土師質土器 皿	底部 破片	—	※5.9	△ 1.2	外面：底部糸切り 内面：摩耗のため調整不明	密 白色粒	良	淡褐色	
13	下層	土師質土器 皿	底部 破片	—	6.4	△ 1.8	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密 雲母、白色粒	良好	褐色	
14	埋土中	土師質土器 皿	底部	—	※5.0	△ 0.9	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密	良	淡橙褐色	
15	中層	土師質土器 皿	口縁 1/2	—	※6.1	△ 1.7	外面：体部摩耗のため調整不明、底部糸切りか 内面：摩耗のため調整不明	密	良好	黄灰白色	
16	埋土中	土師質土器 皿	底部 破片	—	※7.0	△ 0.8	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密	良	淡橙褐色	

第318表　４区SS31出土金属製品観察表（第662図）

遺物番号	出土層位	種　別	部位 残存率	法　量（cm） 最大長	 最大幅	 最大厚	重量(g)	材　質	備　考
17	埋土中	釘	頭部	3.9	0.8	0.3	9.1	鉄	

第319表　６区SS14出土磁器観察表（第666図）

遺物番号	出土層位	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm） 口　径	 底　径	 器　高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	埋土中	白磁 碗	口縁 破片	※14.6	—	△2.7	口縁部口禿げ	密	良好	灰白色	白磁碗Ⅸ類

第320表　１区ピット出土土器観察表（第667図）

遺物番号	出土遺構	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm） 口　径	 底　径	 器　高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	P217	須恵器 壺	1/6	−	※ 7.4	△6.4	外面：ナデ 内面：ナデ	密	良好	灰色	
2	P６	須恵器 壺	底部 破片	—	※12.7	△4.4	外面：ナデ 内面：ナデ	密	良	青灰色	

第321表　１区ピット出土金属製品観察表（第667図）

遺物番号	出土遺構	種別	部位 残存率	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	材質	備考
3	P222	簪	完形	12.7	0.4	0.35	3.3	銅	

第322表　２区ピット出土土器、土製品観察表（第668図）

遺物番号	出土遺構	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	P２	弥生土器 甕	口縁 1/8	※18.6	—	△8.2	外面：口縁部指押さえ、頸部７条のヘラ描沈線、刺突文、脚部ナデ 内面：ナデ、指押さえ	密 白色小石、砂粒	やや良	黄灰色	
2	P240	土師器 甕	口縁 1/8	※16.0	—	△6.3	外面：口縁端部ナデ、肩部叩き 内面：口縁部叩き、指押さえ、頸部ハケ、指押さえ、胴部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	黒茶色	布留系
3	P112	土玉	完形	直径 1.8	—	–	外面：ナデ	密	良	灰褐色	重量5.8ｇ

第323表　２区ピット出土石器観察表（第668図）

遺物番号	出土遺構	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量（ｇ）	石材	備考
4	P45	磨石・敲石	完形	10.3	7.6	7.2	792.9	デイサイト	
5	P363	砥石	ほぼ完形	3.0	2.7	1.2	14.4	凝灰岩	仕上砥

第324表　３区ピット出土土器観察表（第669図）

遺物番号	出土遺構	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	P211	弥生土器 甕	口縁 破片	※14.2	—	△4.9	外面：口縁部２条の凹線、頸部ナデ、肩部ハケ 内面：磨耗のため調整不明	密 石英、砂粒	やや良	褐色	
2	P224	土師器 甕	口縁～頸部	※17.4	—	△5.8	外面：口縁部ナデ、肩部ハケ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、胴部ケズリ、指押さえ	密 雲母、石英、砂粒	良	赤褐色	

第325表　３区ピット出土石器観察表（第669図）

遺物番号	出土遺構	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
3	P73	敲石	完形	10.1	3.2	2.5	126.9	花崗岩	
4	P72	砥石	完形	10.7	8.7	3.1	328.5	花崗岩	砥面４面

第326表　６区ピット出土縄文土器観察表（第670図）

遺物番号	出土遺構	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	P483	縄文土器	胴部 破片	—	—	△ 5.3	外面：ケズリ→ナデ、端部工具による刺突文 内面：ケズリ→ナデ	密 石英、白色粒、砂粒	良	赤褐色	
2	P483	縄文土器	胴部 破片	—	—	△ 5.5	外面：擦痕→指押さえ→ナデ 内面：ケズリ→指押さえ→ナデ	密 雲母、石英、角閃石	良	淡褐色	
3	P483	縄文土器	胴部 破片	—	—	△ 3.2	外面：ケズリ→ナデ 内面：ケズリ→ナデ	密 石英、白色粒、砂粒	良	橙褐色	
4	P503	縄文土器 深鉢	口縁～胴部 破片	※16.7	—	△10.2	外面：棒状工具による押引き文？ 内面：ナデ	やや密	良	黒茶色	

第327表　６区ピット出土土器観察表（第671図）

遺物番号	出土遺構	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	P491	土師器 甕	口縁～肩部 破片	17.5	—	△5.4	外面：口縁部ハケ、肩部磨耗のため調整不明 内面：口縁部ハケ、胴部ケズリ	密 石英、角閃石、砂粒	良	灰褐色	
2	P490	土師器 甕	口縁 破片	※16.9	—	△4.0	外面：磨耗のため調整不明 内面：磨耗のため調整不明	密 石英、白色粒	良	橙褐色	
3	P506	須恵器 高坏	坏部 破片	—	—	△2.1	外面：回転ナデ、線刻 内面：回転ナデ	やや密	良	青灰色	

第328表　６区ピット出土石器観察表（第671図）

遺物番号	出土遺構	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量（ｇ）	石材	備考
4	P244	砥石	完形	10.7	4.9	3.5	271.3	砂岩	

第329表　２区遺構内包含層出土土器観察表（第672図）

遺物番号	出土遺構	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	SI21	弥生土器 甕	口縁～胴部 破片	※16.2	—	△4.3	外面：口縁部４条の凹線、ナデ 内面：ナデ	密 石英、砂粒	良	黒茶色	
2	SI10	弥生土器 甕	口縁 1/8	※17.8	—	△3.8	外面：口縁部４条の凹線、ナデ 内面：ナデ	密 雲母、石英、白色粒	良	淡褐色	

3	SI10	弥生土器 高坏	坏部 破片	※19.8	—	△2.6	外面：口縁部端面４条の凹線、ナデ 内面：ナデ	密 石英、砂粒	良	褐色	
4	SI５	弥生土器 高坏	口縁 1/7	※22.6	—	△3.8	外面：ミガキ 内面：ミガキ	密 石英、白色粒	良	橙褐色	内面黒斑
5	SI８	弥生土器 高坏	脚部 1/3	—	※14.3	△6.7	外面：ミガキ、凹線 内面：ケズリ→ミガキ	密 石英、角閃石 白色粒	良	灰褐色	
6	SI３ P185	土師器 高坏	口縁 破片	※25.6	—	△6.2	外面：磨耗のため調整不明 内面：ミガキ	密 雲母、角閃石、砂粒	良	橙褐色	
7	SI１	土師器 坏身	1/3	15.5	13.8	4.1	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、角閃石、砂粒	良	赤褐色	内面赤彩
8	SI１	須恵器 坏身	口縁～底部	※14.8	※11.6	2.5	外面：口縁部回転ナデ、底部ヘラ切り→ナデ 内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ	密 白色粒、黒色粒	良好	灰色	
9	SI７	須恵器 甕	口縁 破片	—	—	△2.6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密 白色粒	良	青灰色	外面刻書あり

第330表　２区遺構内包含層出土石器、石製品観察表（第672図）

遺物番号	出土遺構	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	備考
10	SI８	石鏃	完形	10.8	5.8	2.8	185.2	安山岩	
11	SI８	磨製石斧	1/2	7.8	5.8	4.2	238.5	閃緑岩	
12	SI７	勾玉	ほぼ完形	2.9	0.9	1.1	4.5	瑪瑙	

第331表　３区遺構内包含層出土土器観察表（第673図）

遺物番号	出土遺構	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	SS３	弥生土器 壺	口縁～頸部	※15.6	—	△8.4	外面：口縁部４条の凹線、頸部ナデ、ハケ 内面：ナデ、指押さえ	密 白色小石	良	橙褐色	
2	SS３	弥生土器 甕	口縁 破片	※16.4	—	△5.2	外面：口縁部２条の凹線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 白色小石、砂粒	良	橙褐色	
3	SS３	弥生土器 甕	口縁 破片	※22.6	—	△5.5	外面：口縁部７条の平行沈線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、白色小石 砂粒	良	橙褐色	
4	SK39	弥生土器 底部	底部 1/8	—	※18.2	△7.9	外面：ハケ→ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	
5	SI６	弥生土器 高坏	坏部 1/6	※22.8	—	△6.0	外面：円形浮文、波状文、ミガキ 内面：ミガキ	密 石英、角閃石、砂粒	良	淡褐色	内外面赤彩
6	SI２	弥生土器 器台	口縁 1/8	※15.2	—	△5.5	外面：ハケ、指押さえ 内面：指押さえ→ミガキ	密 雲母、石英、角閃石	良	灰褐色	
7	SI５	弥生土器 器台	受部 1/6	※21.8	—	△8.1	外面：口縁部平行沈線、頸部ナデ 内面：ミガキ	密 石英	良	淡褐色	
8	SI５	土師器 甕	口縁 破片	※17.8	—	△5.2	外面：ナデ 内面：ナデ	密	良	灰褐色	
9	SI７	土師器 甕	底部 破片	—	1.9	△3.6	外面：叩き、指押さえ 内面：ケズリ、指押さえ	密 石英、角閃石	良	赤褐色	
10	SI４	土師器 皿	口縁 破片	13.8	—	△2.7	外面：ナデ 内面：ナデ	密	良	赤褐色	
11	SK42	ミニチュア 土器	胴部～底部	—	—	△1.8	外面：指押さえ→ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密	良	橙褐色	
12	SS３	移動式竈	庇～胴部	—	—	△7.9	外面：ハケ、指押さえ 内面：指押さえ	密 石英、白色粒	良	淡褐色	
13	SI10	須恵器 甕	口縁 破片	※22.8	—	△8.4	外面：回転ナデ、波状文 内面：回転ナデ	密 白色粒、砂粒	良好	暗灰白色	

第332表　３区遺構内包含層出土石器観察表（第673図）

遺物番号	出土遺構	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量（g）	石材	備考
14	SS３	石鏃	ほぼ完形	2.8	2.4	0.5	2.4	サヌカイト	
15	SI12	石鏃	ほぼ完形	2.4	1.6	0.4	1.3	黒曜石	未製品
16	SI２	二次加工剝片		1.6	4.3	0.5	3.2	サヌカイト	
17	SI11	石核	完形	3.0	1.9	1.3	5.3	玉髄	
18	SI10	石鏃	完形	10	5.9	1.7	90.7	安山岩	
19	SS６	石鏃	破片	4.2	5.5	1.4	43.0	安山岩	

第333表　４区遺構内包含層出土土器観察表（第674図）

遺物番号	出土遺構	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	SS２	弥生土器 壺	口縁～頸部 1/10	※20.1	—	△6.1	外面：口縁部７条の平行沈線、頸部ナデ、ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ→ナデ	密 雲母、石英、白色粒	良好	褐色	内面赤彩
2	SS２	弥生土器 甕	口縁 破片	—	—	△3.7	外面：口縁部３条以上の平行沈線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、砂粒	良好	褐色	
3	SS４ P32	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/8	※15.8	—	△3.8	外面：口縁部２条の凹線、頸部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 石英、白色粒、砂粒	良	橙色	
4	SS２	弥生土器 甕	口縁～頸部 破片	※12.6	—	△3.2	外面：口縁部７条の平行沈線、頸部ナデ 内面：ナデ	密 角閃石、白色粒 砂粒	良好	褐色	
5	SS２	弥生土器 甕	口縁 1/8	※14.4	—	△2.7	外面：口縁部７条の平行沈線、頸部ナデ、ハケ、列点文 内面：ナデ	密 石英、白色粒、砂粒	良好	橙褐色	
6	SS２	弥生土器 甕	口縁 破片	※16.8	—	△3.1	外面：口縁部５条の平行沈線、頸部ナデ 内面：ナデ	密 石英、白色粒、砂粒	良好	褐色	

7	SS４	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/2	※16.3	—	△3.7	外面：口縁部６条の平行沈線、ナデ消し 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	橙褐色	
8	SS４	弥生土器 甕	口縁 1/10	—	—	△2.4	外面：口縁部平行沈線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	茶褐色	
9	SS４	弥生土器 高坏	脚部 1/8	—	※13.5	△2.9	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 白色粒、砂粒	良	橙色	
10	SS４	弥生土器 高坏	脚部 1/10	—	※19.1	△2.5	外面：ナデ 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、白色粒、砂粒	良	橙色	
11	SS３	弥生土器 高坏	脚部 4/5	—	—	△4.7	外面：凹線、ハケ→ナデ 内面：ナデ	密 白色粒、砂粒	良好	褐色	
12	SS４	弥生土器 蓋	つまみ	—	—	△1.8	外面：指押さえ 内面：指押さえ	密 石英、白色粒、砂粒	良	橙色	
13	SS４	須恵器 坏身	完形	13.4	8.2	4.4	外面：体部回転ナデ、底部静止糸切り 内面：回転ナデ	密 砂粒	良好	青灰色	

第334表　４区遺構内包含層出土石器観察表（第674図）

遺物番号	出土遺構	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量（g）	石材	備考
14	SS29	管玉	完形	2.85	径0.6	—	1.7	玉髄	
15	SS29	尖頭器	完形	4.2	1.0	0.6	2.1	サヌカイト	
16	SS29	異形石器	完形	5.0	3.8	0.7	7.3	サヌカイト	
17	SS29	環状石	1/2	6.7	3.2	2.9	58.4	安山岩	
18	SS29	磨製石斧	1/2	14.1	5.5	2.0	195.1	閃緑岩	
19	SS29	磨石・敲石	完形	9.9	6.4	5.2	398.1	角閃石安山岩	敲打痕あり

第335表　５区遺構内包含層出土石器観察表（第675図）

遺物番号	出土遺構	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量（g）	石材	備考
1	SI１	石鏃	ほぼ完形	1.45	1.2	0.25	0.3	黒曜石	
2	SI１	石鏃	ほぼ完形	1.9	1.65	0.4	0.7	黒曜石	
3	SI２	石鏃	1/2	1.2	1.1	0.3	0.2	黒曜石	
4	SI２	石鏃	ほぼ完形	2.2	1.4	0.7	1.7	黒曜石	
5	SI１	石鏃	完形	2.0	1.6	0.3	0.7	サヌカイト	
6	SI１	石錐	完形	1.4	0.9	0.4	0.4	黒曜石	
7	SI２	楔形石器	完形	2.7	2.9	1.2	9.2	黒曜石	
8	SI２	楔形石器	完形	2.5	3.1	1.6	10.2	黒曜石	
9	SI１	スクレイパー		3.7	3.7	1.1	10.7	黒曜石	
10	SI１	二次加工剥片	完形	2.2	3.0	1.1	5.5	黒曜石	
11	SI１	二次加工剥片	完形	1.6	2.2	0.6	1.5	黒曜石	
12	SI１	未製品		0.9	1.8	0.4	0.6	黒曜石	

第336表　６区遺構内包含層出土土器観察表（第676図）

遺物番号	出土遺構	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	SI13 下層	弥生土器 装飾壺	胴部 破片	—	—	△2.3	外面：３重円のスタンプ文、楕状工具による直線文 内面：ケズリ	密 石英、白色粒	良好	褐色	
2	SI16	弥生土器 壺	口縁～頸部 破片	※15.7	—	△3.7	外面：口縁部５条の凹線 内面：摩耗のため調整不明	密 雲母、砂粒	良	褐色	内外面赤彩
3	SI13	弥生土器 壺	肩部～底部	—	※ 2.5	△4.3	外面：摩耗のため調整不明 内面：指押さえ	密 雲母、砂粒	良	淡橙褐色	
4	SI13	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/4	※10.6	—	△5.6	外面：ハケ 内面：指押さえ	密 砂粒	良	橙色	
5	SI３	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/8	※16.5	—	△3.3	外面：口縁部３～４条の凹線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	褐色	
6	SS25	弥生土器 甕	口縁 1/8	21.2	—	△2.9	外面：口縁部２条の凹線、頸部指押さえ 内面：指押さえ→ナデ	密 雲母、石英、砂粒	良	淡橙色	
7	SS23 Ｐ２	弥生土器 甕	口縁 破片	13.0	—	△1.8	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、白色粒、砂粒	良	褐色	
8	SI３	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/7	※15.1	—	△4.4	外面：口縁部～頸部ナデ、刺突文、肩部刺突文 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 白色粒、砂粒	良	橙色	内面黒斑
9	SI３	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/6	※14.7	—	△3.4	外面：口縁部５条の凹線、頸部ナデ 内面：磨耗のため調整不明	密 白色粒、砂粒	良	橙色	
10	SS25	弥生土器 甕	口縁 1/8	18.6	—	△5.4	外面：口縁部４条の凹線、頸部ナデ、刺突文 内面：口縁部指押さえ→ナデ、頸部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	
11	SS31	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/8	17.6	—	△4.3	外面：口縁部４条の凹線、頸部指押さえ→ナデ 内面：ナデ	密 石英、白色粒、砂粒	良	淡褐色	
12	SS33	土師器 甕	口縁～肩部	※17.0	—	△8.9	外面：口縁部ナデ、頸部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 雲母、石英、角閃石	良	淡褐色	外面煤付着
13	SS26	弥生土器 高坏	坏部 1/4	※21.6	—	△3.4	外面：口縁部端面２条の凹線、口縁部指押さえ→ナデ、体部ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 雲母、角閃石、砂粒	良	赤褐色	内外面赤彩
14	SI13	弥生土器 高坏	脚部 1/6	—	※12.3	△3.1	外面：ナデ、指押さえ 内面：ケズリ→ナデ、指押さえ	密 石英、砂粒	良	黄褐色	
15	SS25	弥生土器 器台	受部 1/4	17.8	—	△4.0	外面：口縁部５条の凹線、胴部指押さえ→ナデ→ミガキ 内面：指押さえ→ナデ→ミガキ	密 雲母、石英、白色粒	良	黄褐色	
16	SI13	弥生土器 底部	底部 完形	—	3.0	△2.2	外面：ハケ 内面：ケズリ→ナデ、指押さえ	密 雲母、砂粒	良	橙褐色	外面煤付着
17	SI13 下層	弥生土器 壺	底部	—	※ 5.9	△8.6	外面：ミガキ 内面：ハケ、指押さえ	密 砂粒、赤色粒	良	黄灰白色	
18	SS５	土師器 壺	口縁～頸部 1/4	※21.6	—	△9.8	外面：摩耗のため調整不明 内面：口縁部摩耗のため調整不明、頸部指押さえ、肩部ケズリ	密 石英、砂粒、白色粒	良	橙褐色	

19	SI13 上層	土師器 甕	坏部 破片	—	※19.0	△2.3	外面：ハケ→ミガキ 内面：ミガキ、指押さえ	密 石英	良	橙色	内外面赤彩
20	SS26	土師器 甕	口縁 破片	※17.4	—	△4.8	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 砂粒	良	淡褐色	
21	SS33 P２	土師器 高坏	脚部	—	※11.6	△3.4	外面：脚部摩耗のため調整不明、裾部指押さえ 内面：脚部ケズリ、裾部ナデ	密 砂粒	良	橙褐色	
22	SI21	土師器 埦	口縁～胴部 1/5	※15.8	—	△5.1	外面：摩耗のため調整不明 内面：指押さえ	密 雲母、石英、砂粒	良	灰褐色	
23	SS24	土師器 坏身	底部	—	9.3	△2.8	外面：ナデ 内面：ナデ	密 砂粒	良	淡橙褐色	内外面赤彩
24	SS11	須恵器 坏身	1/4	13.3	9.2	4.6	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り→ナデ 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密	良好	青灰色	
25	SI21	須恵器 坏身	口縁～底部 1/2	※12.7	※ 8.2	3.8	外面：口縁部回転ナデ、底部回転糸切り、ヘラ記号 内面：口縁部回転ナデ、底部回転ナデ→ナデ	密 砂粒	良好	灰色	
26	SS24	須恵器 甕	口縁 破片	※ 8.9	—	△2.2	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	良好	青灰色	
27	SS26	土師質土器 皿	1/4	—	※ 6.5	△1.3	外面：体部回転ナデ、底部糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密	良	灰褐色	

第337表　６区遺構内包含層出土石器観察表（第677図）

遺物番号	出土遺構	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量（g）	石材	備考
28	SS８	石鏃	完形	12.9	6.9	2.0	199.5	安山岩	研磨痕
29	SS８	石鏃	完形	18.2	11.2	3.0	666.4	安山岩	
30	SS８	石鏃	ほぼ完形	13.0	8.7	1.2	173.1	デイサイト	
31	SS８	磨石・敲石	3/4	9.4	4.6	4.5	339.5	花崗岩	
32	SS23	砥石	2/3	8.8	3.6	3.2	105.4	砂岩	砥面３面
33	SS32	ハンマーストーン	基部破片	2.6	2.9	2.8	21.6	砂岩	
34	SS33	磨石	1/2	6.9	9.0	3.5	317.4	凝灰岩	

第338表　突帯文土器観察表（第678・679図）

遺物番号	出土場所	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	F－14	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△3.3	外面：刻目突帯、ハケ 内面：粗いナデ	やや粗 石英、白色粒	良	褐色	Ⅱa2-1(H1b)
2	H－12	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△4.0	外面：刻目突帯、ナデ 内面：ナデ	密 白色粒、砂粒	やや良	橙褐色	Ⅱa2-1(H1c)
3	H－13	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△3.2	外面：刻目突帯、 内面：口縁端部ナデ、ナデ	密 石英、砂粒	良	褐色	Ⅱa2-1(H1b)
4	H－13 Ⅳ層	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△4.2	外面：刻目突帯、指押さえ→ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 雲母、石英	良	黒茶色	Ⅱa2-1(H1b) 内外面煤付着
5	I－12 Ⅳ層	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△4.2	外面：刻目突帯、ナデ 内面：ナデ	密 石英、砂粒	やや良	灰褐色	Ⅱa2-1(H1b)
6	B－９	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△4.0	外面：刻目突帯、ナデ 内面：粗いナデ	密 白色粒、砂粒	良	褐色	Ⅱa2-1(H1b)
7	L－21	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△2.6	外面：１条の沈線、刻目突帯、ナデ 内面：ナデ	密 白色粒、砂粒	やや良	灰褐色	Ⅱa2-1(H1a)
8	E－９	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△2.1	外面：刻目突帯、ナデ 内面：調整不明	密 白色粒、砂粒	良	茶色	Ⅱa2-1(H1c)
9	H－12	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△2.3	外面：刻目突帯、ナデ 内面：ナデ	密 石英、砂粒	良好	灰褐色	Ⅱa2-2(H1c)
10	I－12	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△3.0	外面：刻目突帯、ヘラ状工具によるナデ 内面：粗いナデ	密 白色粒	良好	橙褐色	Ⅱa2-2(H1b)
11	H－14	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△3.5	外面：刻目突帯、ナデ、ハケ、指押さえ 内面：ナデ	密 雲母、石英	良	灰褐色	Ⅱa2-2(H1b)
12	H－13	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△2.1	外面：刻目突帯、ナデ 内面：工具によるナデ	密 石英・白色粒	良	褐色	Ⅱa2-2(H1b)
13	I－12 Ⅳ層	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△3.8	外面：刻目突帯、ナデ 内面：ナデ	密 白色粒、砂粒	良	橙褐色	Ⅱa2-2(H1c)
14	D－11	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△3.2	外面：刻目突帯、ナデ 内面：ナデ	密 石英、砂粒	良	橙色	Ⅱa2-2(H1b)
15	C－３ a層	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△3.3	外面：刻目突帯、横ナデ 内面：ナデ	密 石英	良	橙色	Ⅱa2-2(H1b)
16	I－13	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△3.9	外面：刻目突帯、ナデ 内面：ナデ	密 石英、砂粒	良	褐色	Ⅱa-5(H1b) 内傾接合
17	F－５ 暗褐色土	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△4.3	外面：刻目突帯、工具によるナデ 内面：粗いナデ	密 石英・白色粒	良	褐色	Ⅱa-5(H1b)
18	H－12	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△3.9	外面：刻目突帯、粗いナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	Ⅱb2-1(H1b)
19	E－８	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△4.3	外面：刻目突帯、ナデ 内面：ナデ	密 砂粒	良	橙色	Ⅱb2-1(H1b)
20	I－13	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△4.4	外面：刻目突帯、貝殻条痕文 内面：指押さえ→ナデ	密 石英、砂粒	良	灰茶色	Ⅱb2-2(B1)
21	A－８ 暗褐色土	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△4.5	外面：刻目突帯、指押さえ・ナデ 内面：指押さえ・ナデ	密 砂粒	良	黄橙色	Ⅱb2-2(H1b)
22	トレンチ 延長部	突帯文土器 深鉢	口縁～体部 1/8	※31.0	—	△6.8	外面：刻目突帯、ナデ 内面：指押さえ、粗いナデ	密 角閃石・白色粒	良好	褐色～ 灰茶色	Ⅱb2-2(H1b)
23	G－４	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△2.7	外面：刻目突帯、ナデ 内面：ナデ	密 白色粒・砂粒	良	褐色	Ⅱb2-2(H1b)
24	N－22	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△2.1	外面：刻目突帯、ナデ 内面：ナデ	密 石英、砂粒	良	灰茶色	Ⅱc2(H1b)
25	I－13	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	※29.2	—	△4.7	外面：刻目突帯、指押さえ→貝殻条痕文 内面：指押さえ→貝殻条痕文	やや密 石英、砂粒	やや良	灰褐色	Ⅱd2(H1b)

26	Ⅰ－12	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△3.1	外面：刻目突帯、粗いナデ 内面：粗いナデ	密 石英、砂粒	良好	灰褐色	Ⅱe(H1b)
27	Ｆ－14 Ⅴ層	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△7.0	外面：口縁部ナデ、無刻目突帯、指押さえ→ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部指押さえ→ナデ	密 石英、砂粒	良	橙褐色	Ⅲa2-1
28	Ｆ－13	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△6.3	外面：無刻目突帯、ナデ 内面：粗いナデ	密	良	灰褐色	Ⅲa2-1
29	Ｈ－12	突帯文土器 深鉢	口縁 1/6	※12.8	—	△4.6	外面：無刻目突帯、指押さえ→ナデ 内面：粗いナデ	密 石英、砂粒	良	褐色	Ⅲa2-1
30	Ｈ－13 Ⅳ層	突帯文土器 深鉢	口頸部 破片	※18.6	—	△5.5	外面：無刻目突帯、指押さえ 内面：指押さえ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	Ⅲa2-1
31	Ⅰ－13	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△3.0	外面：無刻目突帯、ナデ、指押さえ 内面：粗いナデ	密 石英、砂粒	良	褐色	Ⅲa2-1
32	Ⅰ－12 Ⅳ層	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△3.7	外面：無刻目突帯、ナデ 内面：ナデ	密 砂粒	良	褐色	Ⅲa2-1
33	Ⅰ－12 Ⅳ層	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△3.8	外面：無刻目突帯、ナデ 内面：粗いナデ	密 石英、白色粒	良	灰褐色	Ⅲa2-1
34	Ⅰ－13	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△3.7	外面：無刻目突帯、ナデ 内面：ナデ	密 石英、砂粒	良	灰茶色	Ⅲa2-1
35	Ｈ－12	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△3.7	外面：無刻目突帯、指押さえ→ナデ 内面：ナデ	密 雲母、石英	良好	褐色	Ⅲa2-1
36	Ｇ－14	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△3.1	外面：無刻目突帯、指押さえ→ナデ 内面：指押さえ→ナデ	やや密 石英、砂粒	やや良	褐色	Ⅲa2-1
37	Ｈ－14	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△2.3	外面：無刻目突帯、ナデ 内面：ナデ	密 石英、砂粒	良	褐色	Ⅲa2-1
38	Ⅰ－13	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△2.3	外面：無刻目突帯、指押さえ→ナデ 内面：ナデ	密 石英、砂粒	良	橙褐色	Ⅲa2-1
39	Ⅰ－13	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△3.1	外面：無刻目突帯、ナデ、指押さえ 内面：粗いナデ	密 石英、砂粒	良	褐色	Ⅲa2-1
40	Ｈ－14	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△3.0	外面：無刻目突帯、粗いナデ 内面：粗いナデ	密 雲母、石英	良	灰褐色	Ⅲa2-1
41	Ｂ－8	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△3.2	外面：無刻目突帯 内面：指押さえ→ナデ	密 砂粒	良	橙褐色	Ⅲa2-1
42	Ｆ－5	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△2.5	外面：無刻目突帯、ナデ、指押さえ 内面：ナデ	密 白色粒、砂粒	良	橙色	Ⅲa2-1
43	Ｇ－4	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△2.2	外面：無刻目突帯、ナデ 内面：ナデ	密 砂粒	良	橙色	Ⅲa2-1
44	Ｅ－2 暗褐色土	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△3.5	外面：ハケ 内面：粗いナデ	密	良好	灰褐色	Ⅲa2-1
45	Ｆ－5	突帯文土器 深鉢	口縁 1/5	※12.0	—	△2.9	外面：無刻目突帯、ナデ 内面：粗いナデ	密 石英、砂粒	良	橙色	Ⅲa2-1
46	Ｅ－8	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△4.4	外面：無刻目突帯、粗いナデ 内面：粗いナデ	密 砂粒	良	橙褐色	Ⅲa2-1
47	Ⅰ－13	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△2.8	外面：無刻目突帯、粗いナデ 内面：ナデ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	Ⅲa2-2
48	Ｆ－4	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△3.7	外面：無刻目突帯、ナデ 内面：ナデ	密 砂粒	良	灰褐色	Ⅲa5
49	Ｈ－14	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△3.4	外面：無刻目突帯、ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 雲母、石英	良	褐色	Ⅲb2-1
50	Ｆ－5	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△2.5	外面：無刻目突帯、ナデ、指押さえ 内面：粗いナデ	密 砂粒	良	橙色	Ⅲb2-1
51	Ｅ－9	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△2.9	外面：無刻目突帯、ナデ 内面：ナデ	密 石英、白色粒	良	橙茶色	Ⅲb2-1
52	Ｅ－9	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△3.3	外面：無刻目突帯、ナデ 内面：ナデ	密 砂粒	良	橙色	Ⅲb2-1
53	Ｆ－7	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△3.0	外面：無刻目突帯 内面：調整不明	密 角閃石、石英	良	褐色	Ⅲb2-1
54	Ｆ－5	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	※30.0	—	△5.6	外面：無刻目突帯、ナデ 内面：ナデ	密 石英、砂粒	良	黄橙色	Ⅲb2-1 口縁部煤付着
55	Ｈ－13	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△4.2	外面：無刻目突帯、磨耗のため調整不明 内面：ナデ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	Ⅲc2
56	Ｆ－5	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△3.1	外面：無刻目突帯、ナデ、ハケ 内面：ナデ	密 砂粒	良	橙色	Ⅲc2
57	Ｇ－14 Ⅳ層	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	※35.6	—	△4.3	外面：無刻目突帯、摩耗のため調整不明 内面：ナデ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	Ⅲd2
58	Ⅰ－13	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△2.0	外面：無刻目突帯、ナデ 内面：ナデ	密 石英、砂粒	良	黒茶色	Ⅲd2
59	Ｈ－14	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△3.7	外面：無刻目突帯、磨耗のため調整不明 内面：ナデ	密 石英、砂粒	やや良	灰褐色	Ⅲd2
60	Ⅰ－12	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△6.3	外面：無刻目突帯、指押さえ→粗いナデ 内面：指押さえ→粗いナデ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	Ⅲd2
61	Ｈ－14	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△3.3	外面：無刻目突帯、粗いナデ 内面：粗いナデ	密 雲母、石英	良	橙褐色	Ⅲd2
62	Ｅ－8	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△1.8	外面：無刻目突帯、ナデ 内面：ナデ	密 砂粒	良	橙色	Ⅲd2
63	Ｆ－5	突帯文土器 深鉢	口縁 破片	—	—	△4.0	外面：ナデ 内面：ナデ	密	良	黄橙色	Ⅲd2
64	Ｅ－8	突帯文土器 壺	口頸部 1/3	※16.6	—	△5.0	外面：刻目突帯、ナデ 内面：ナデ	密 砂粒	良	灰褐色	Ⅱa2-2(H1b)
65	Ｌ－22	突帯文土器 壺	破片	—	—	△2.0	外面：刻目と無刻目の２条の貼付突帯 内面：ナデ	密 石英、砂粒	やや良	灰褐色	Ⅱa2-1(H1b)

第339表　１区遺構外出土土器、陶磁器観察表（第680図）

遺物番号	出土場所	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	 底径	 器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	Ｊ－20 排水溝	弥生土器 壺	底部 1/4	—	※6.3	△4.6	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密	良好	橙褐色	
2	Ｊ－20 Ⅳ層	弥生土器 甕	底部 破片	—	※6.9	△4.7	外面：摩耗のため調整不明 内面：ケズリ、指押さえ	密 石英、白色粒	良好	橙褐色	

3	K－19 Ⅰ層	須恵器 甕	胴部 破片	—	—	△4.0	外面：叩き 内面：ハケ	密	良好	灰色	
4	K－19 Ⅰ層	磁器 碗	1/3	※ 8.0	※3.9	4.2	外面：雨降文			淡緑色	肥前産
5	L－19 Ⅰ層	磁器 碗	底部 破片	—	3.0	△3.3	外面：唐草文？			白色	肥前産
6	K－20 Ⅰ層	磁器 小坏	底部 破片	—	※2.8	△1.7				白色	肥前産
7	K－19 Ⅲ層	磁器 皿	1/4	※11.8	※3.9	2.6	外面：底部露胎、貫入 内面：蛇ノ目釉剥ぎ、貫入			灰白色	肥前産
8	K－19 Ⅲ層	磁器 皿	1/3	※12.0	※4.2	3.6	外面：底部露胎 内面：蛇ノ目釉剥ぎ			灰白色	肥前産
9	K－19 Ⅰ層	陶胎染付 埦	1/4	※ 9.6	—	△6.8	外面：口縁部１重圏線、胴部意匠不明、貫入 内面：口縁部１重帯線、見込み部砂目積、貫入			灰白色	肥前産
10	L－19 Ⅰ層	陶胎染付 埦	口縁 破片	※11.7	—	△4.6	外面：口縁部二重圏線、胴部風景文？、貫入 内面：貫入			灰褐色	肥前産
11	L－19 Ⅰ層	陶胎染付 香炉	1/5	※ 9.5	—	△6.8	外面：６条帯線、高台露胎 内面：露胎			灰白色	肥前産
12	J－20 Ⅲ層	陶器 埦	底部 1/8	—	※4.4	△4.2	外面：刷毛目装飾			紫茶色	肥前産
13	J－20 Ⅰ層	陶器 埦	底部 破片	—	※3.8	△2.8	外面：刷毛目装飾			緑褐色	肥前産
14	J－18 Ⅱ層	陶器 皿	底部 破片	—	※5.4	△2.2	外面：底部露胎 内面：蛇ノ目釉剥ぎ			淡緑灰色	肥前産
15	K－19 Ⅰ層	陶器 皿	口縁 破片	※25.0	—	△2.8	内面：刷毛目装飾			灰褐色	肥前産
16	K－19 Ⅰ層	陶器 行平鍋	口縁～胴部 破片	※19.4	—	△5.2	内面：口縁部露胎			褐色	
17	J－18 Ⅱ層	陶器 片口鉢	口縁 破片	※22.8	—	△4.7	外面：貫入 内面：貫入			緑灰色	
18	J－18 Ⅱ層	陶器 片口鉢	口縁 破片	※24.9	—	△4.8	外面：貫入 内面：貫入			暗緑色	
19	J－20 Ⅲ層	陶器 擂鉢	口縁 破片	※33.1	—	△3.7	外面：胴部露胎 内面：露胎			黒茶色	肥前産
20	L－19 Ⅰ層	陶器 擂鉢	口縁 破片	※36.0	—	△3.3	外面：胴部露胎 内面：胴部露胎			茶色	肥前産
21	J－20 Ⅲ層	陶器 擂鉢	口縁 破片	※31.0	—	△2.6				茶色	須佐唐津
22	J－18 Ⅱ層	陶器 擂鉢	口縁 破片	※33.4	—	△3.0	外面：鬼板釉 内面：擂目			淡褐色	須佐唐津
23	J－20 Ⅰ層	陶器 擂鉢	口縁 破片	※31.6	—	△2.2	外面：鬼板釉			褐色	須佐唐津
24	J－20 Ⅲ層	陶器 擂鉢	口縁 破片	※30.8	—	△5.7	外面：鬼板釉 内面：擂目			黄灰白色	須佐唐津
25	J－20 Ⅲ層	陶器 擂鉢	口縁 破片	※35.6	—	△3.0	外面：鬼板釉			淡橙褐色	須佐唐津
26	K－19 Ⅲ層	土師質土器 燈明皿	4/5	※ 9.0	4.7	1.9	外面：胴部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 石英、角閃石 白色粒	良	橙褐色	口縁部炭化物 付着
27	K－20 Ⅰ層	土師質土器 皿	2/3	—	4.5	△0.9	外面：胴部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密	良好	黒茶色	
28	排水溝	瓦質土器 羽釜	口縁 破片	※40.8	—	△3.0	外面：ナデ 内面：ナデ	密 石英、白色粒	良好	黒茶色	外面炭化物 付着

第340表　１区遺構外出土金属製品観察表（第681図）

遺物番号	出土場所	種　別	部位 残存率	法　量（cm） 直径	 器高	 	重量(g)	材　質	備　考
29	K－19 Ⅰ層	蓋	完形	4.1	3.0		32.0	銅	

第341表　１区遺構外出土石器、石製品観察表（第681図）

遺物番号	出土場所	種　別 器　種	遺存 状態	法　量（cm） 最大長	 最大幅	 最大厚	重量 （g）	石　材	備　考
30	J－20 Ⅲ層	楔形石器	完形	2.3	3.1	1.1	7.5	黒曜石	
31	排水溝	円板状石製品	完形	直径 2.4	—	1.1	7.5		

第342表　１区遺構外出土ガラス製品観察表（第681図）

遺物番号	出土場所	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm） 直径	 最大厚	 孔径	重量(g)	材　質	備　考
32	J－20	小玉	完形	0.4	0.45	0.2	0.1	カリガラス	引き伸ばし技法

第343表　２区遺構外出土土器、磁器観察表（第682～685図）

遺物番号	出土場所	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm） 口　径	 底　径	 器　高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	側溝	突帯文土器 甕	口縁～胴部 1/2	※ 8.6	—	△ 7.7	外面：口縁端部刻目突帯、肩部指押さえ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ→指押さえ	密 石英、砂粒	良	灰茶色	内面黒斑
2	E－14 4層	弥生土器 壺	口縁～頸部 1/5	※37.2	—	△11.2	外面：口縁端部上下端刻目、頸部ハケ 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、白色粒	良	灰褐色	

3	E－15 5層	弥生土器 壺	口縁 破片	※25.6	—	△ 6.4	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明、蕨手状の貼付突帯	密 石英、砂粒	良	褐色	
4	F－15 3層	弥生土器 台付壺？	胴部 破片	—	—	△ 5.5	外面：摩耗のため調整不明、円形の刺突文 内面：指押さえ→ナデ	密 石英、白色粒、砂粒	良	橙褐色	
5	F－14 4層	弥生土器 甕	口縁 破片	※23.6	—	△ 5.3	外面：口縁端部刻目、胴部ハケ、指押さえ 内面：ハケ→指押さえ→ナデ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	
6	F－14 5層	弥生土器 甕	口縁～胴部 1/8	※16.6	—	△ 1.9	外面：口縁端部刻目、頸部３条のヘラ描沈線、胴部ナデ 内面：ナデ、指押さえ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	
7	E－15 5層	弥生土器 甕	口縁～胴部 1/8	※19.8	—	△10.8	外面：口縁端部刻目、頸部４条のヘラ描沈線、胴部ミガキ 内面：指押さえ→ナデ	密 石英、砂粒	良	褐色	外面黒斑
8	E－15 4層	弥生土器 甕	口縁 破片	※20.0	—	△ 3.4	外面：口縁端部刻目、頸部４条のヘラ描沈線、胴部ハケ 内面：ケズリ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	
9	F－14 3層	弥生土器 甕	口縁～胴部 1/8	※25.4	—	△13.0	外面：口縁端部刻目、頸部４条のヘラ描沈線、胴部摩耗 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、砂粒	やや良	灰褐色	
10	F－14 4層	弥生土器 甕	口縁 破片	23.8	—	△ 6.1	外面：口縁端部刻目、頸部６条のヘラ描沈線、胴部指押さえ→ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 雲母、石英、小石	良	淡褐色	外面煤付着
11	F－14 4層	弥生土器 甕	口縁～胴部 3/4	※27.8	—	△ 9.5	外面：口縁端部刻目、頸部６条のヘラ描沈線、胴部指押さえ→ナデ 内面：ナデ、指押さえ	密 雲母、石英	良	淡褐色	外面黒斑
12	5層	弥生土器 甕	口縁 破片	※20.0	—	△ 5.7	外面：口縁部ナデ、頸部５条の沈線、沈線間２か所に列点文 内面：ナデ、指押さえ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	
13	E－13 4層	弥生土器 甕	口縁～胴部	※28.2	—	△ 6.2	外面：口縁部ナデ、頸部５条のヘラ描沈線、胴部ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	
14	D－12 3層	弥生土器 甕	口縁～胴部	※21.6	—	△10.3	外面：口縁部ナデ、頸部４条のヘラ描沈線、胴部ハケ 内面：ナデ、指押さえ	密 石英、砂粒	良	褐色	外面煤付着
15	E－13 4層	弥生土器 甕	口縁～胴部 破片	※21.4	—	△10.0	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ→ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ハケ→ナデ	密 雲母、石英、褐色粒	良	灰褐色	
16	F－14 5層	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/4	※24.0	—	△ 5.0	外面：口縁端部凹線、頸部指頭圧痕貼付突帯、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ハケ→ナデ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	
17	G－15 3層	弥生土器 甕	口縁 破片	※14.6	—	△ 5.4	外面：口縁端部３条の凹線、円形の貼付浮文 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、砂粒	良	黄灰白色	
18	E－15 3層	弥生土器 甕	口縁 破片	※18.8	—	△ 4.0	外面：口縁端部３条の平行沈線、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英、砂粒	良	橙褐色	
19	G－15 3層	弥生土器 甕	口縁 1/8	※21.0	—	△ 4.6	外面：口縁部４条の平行沈線、頸部工具による連続押引文 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	
20	E－14 4層	弥生土器 甕	胴部～底部	—	※ 7.6	△10.3	外面：胴部指押さえ→ナデ、底部ハケ→ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 石英、砂粒	やや良	黄白灰色	外面煤付着
21	F－15 4層	弥生土器 甕	胴部～底部	—	※ 6.3	△13.6	外面：ハケ 内面：胴部中央指押さえ、胴部～底部ケズリ	密 石英、白色粒、砂粒	良	淡褐色	外面赤彩
22	E－14 4層	弥生土器 甕	底部	—	7.2	△ 6.8	外面：ケズリ→ナデ、指押さえ 内面：指押さえ→ナデ	やや密 石英、角閃石、小石	やや良	黒褐色	底部穿孔
23	D－12 3層	弥生土器 甕	底部	—	※10.2	△ 8.6	外面：指押さえ→ナデ 内面：ナデ、指押さえ	密 石英、砂粒	良	褐色	
24	E－13 3層	弥生土器 高坏	坏部	※21.0	—	△ 4.5	外面：ナデ 内面：ミガキ	密 雲母、砂粒	良好	褐色	内外面赤彩
25	E－14 5層	弥生土器 高坏	脚部 破片	—	12.7	△ 3.3	外面：裾部ミガキ、ヘラ描文、端部２条の沈線 内面：ケズリ	密 石英、砂粒	良	黄灰白色	
26	F－14 5層	弥生土器 高坏	脚部 破片	—	※18.2	△ 3.8	外面：指押さえ、竹管文 内面：ケズリ→ナデ	密 石英、砂粒	良	橙褐色	
27	F－14 4層	土師器 壺	胴部～頸部	※11.8	—	△ 9.3	外面：摩耗のため調整不明 内面：ケズリ→ナデ	密 雲母、石英、砂粒	良	褐色	
28	F－14 4層	土師器 壺	3/4	※ 8.6	3.4	7.7	外面：ハケ→ミガキ 内面：ケズリ、指押さえ	密 白色粒	良	橙褐色	外面炭化物、煤付着
29	F－15 3層	土師器 台付壺	口縁～胴部	※ 8.3	—	△ 6.4	外面：頸部ナデ、胴部ハケ→ミガキ 内面：ケズリ→ナデ	密 雲母、石英、角閃石	良	灰褐色	
30	F－15 3層	土師器 台付壺	頸部～胴部	—	—	△ 6.5	外面：頸部ナデ、胴部ハケ→ミガキ 内面：口縁～頸部ナデ、胴部ケズリ→ナデ	密 雲母、石英、角閃石	良	灰褐色	内外面赤彩
31	G－15 3層	土師器 壺	破片	—	—	△ 3.0	外面：直線文 内面：ナデ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	
32	G－15	土師器 甕	口縁～胴部 1/4	※15.2	—	△21.6	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ、底部ケズリ、指押さえ	密 石英、白色粒	良	灰褐色	外面炭化物付着
33	G－15	土師器 甕	口縁～胴部 1/4	15.0	—	△11.9	外面：摩耗のため調整不明 内面：口縁部摩耗のため調整不明、胴部ケズリ	密 雲母、砂粒	良	淡黄褐色	外面煤付着
34	G－15	土師器 甕	口縁～胴部	※15.6	—	△16.8	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ→ナデ、胴部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	灰褐色	外面煤付着
35	F－15 4層	土師器 甕	口縁～肩部 1/6	※15.3	—	△ 5.3	外面：口縁部ナデ、頸部横方向のケズリ、胴部叩き 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 石英、角閃石 白色粒	良	橙褐色	布留系
36	F－15 4層	土師器 甕	口縁～胴部 1/8	※14.0	—	△22.8	外面：摩耗のため調整不明 内面：摩耗のため調整不明	密 雲母、石英、角閃石	良	灰褐色	
37	E－14 4層	土師器 甕	口縁～肩部 1/6	※14.2	—	△10.4	外面：口縁部指押さえ→ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部指押さえ→ナデ、胴部ミガキ	密 石英、砂粒	良	黄灰白色	
38	D－13 側溝	土師器 甕	口縁～胴部	※16.0	—	△ 8.7	外面：口縁部摩耗のため調整不明、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	外面黒斑
39	F－14 3層	土師器 甕	口縁～底部	※15.5	—	推定 13.0	外面：指押さえ→ハケ→ナデ 内面：口縁部指押さえ→ナデ、胴部指押さえ→ナデ	密 雲母、石英、角閃石	良	橙褐色	内外面煤付着
40	E－14 4層	土師器 注口土器	注口部	長さ 7.0	注口径 0.9	—	外面：指押さえ	密 石英、砂粒	やや良	黄灰白色	
41	E－13 3層	土師器 小型丸底壺	口縁～胴部	※ 6.4	—	△ 6.0	外面：指押さえ→ハケ、ナデ→ミガキ 内面：指押さえ	密 石英、砂粒	良	橙褐色	
42	D－13 4層	土師器 高坏	3/4	※12.9	—	△ 7.8	外面：坏部ミガキ、指押さえ、脚部ミガキ 内面：坏部ミガキ、脚部ミガキ、指押さえ	密 石英、砂粒	良	橙褐色	内外面赤彩
43	F－14 3層	土師器 高坏	ほぼ 完形	※16.8	10.2	13.6	外面：坏部ハケ、脚部摩耗のため調整不明 内面：坏部摩耗のため調整不明、脚部ケズリ→ナデ	密	やや良	褐色	
44	側溝	土師器 高坏	ほぼ 完形	15.1	—	△12.5	外面：坏部ハケ→ナデ、脚部ナデ、裾部爪痕 内面：坏部ハケ、脚部ケズリ、指押さえ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	
45	F－15 3層	土師器 高坏	坏部	14.6	—	△ 5.9	外面：指押さえ 内面：ハケ→ミガキ	密 雲母、石英、白色粒	良	灰茶色	

46	D－12 3層	土師器 高坏	坏部	※16.6	—	△ 8.3	外面：口縁部ミガキ、体部ハケ 内面：ミガキ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	内外面赤彩
47	D－12 側溝	土師器 高坏	坏部 1/4	13.7	—	△ 5.7	外面：ハケ 内面：指押さえ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	
48	D－13 4層	土師器 高坏	坏部	※14.0	—	△ 4.5	外面：摩耗のため調整不明 内面：指押さえ	密 白色小石、砂粒	良	橙褐色	
49	D－13 3層	土師器 低脚坏	3/4	※15.1	7.9	7.5	外面：坏部ミガキ、脚部ミガキ、指押さえ 内面：坏部ミガキ、脚部ミガキ、指押さえ	密 白色粒	良	赤橙色	外面黒斑
50	E－14 4層	土師器 低脚坏	1/2	※13.3	※ 7.2	7.8	外面：ミガキ、指押さえ→ナデ 内面：キガキ、指押さえ→ナデ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	
51	D－13 側溝	土師器 低脚坏	脚部	—	—	△ 3.1	外面：ナデ 内面：ナデ、５本のヘラ記号	密 雲母、角閃石、 白色粒	良	橙褐色	
52	E－14 4層	土師器 低脚坏	1/4	※10.2	※ 4.8	5.8	外面：坏部摩耗のため調整不明、脚部ナデ 内面：坏部摩耗のため調整不明、脚部指押さえ→ナデ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	
53	E－14 5層	土師器 低脚坏	ほぼ 完形	12.1	4.4	3.6	外面：ナデ 内面：ナデ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	
54	F－15 4層	土師器 器台	体部 1/3	※20.0	—	△ 6.1	外面：ミガキ 内面：受け部ミガキ、脚部ケズリ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	
55	E－14 4層	土師器 器台	受部	9.3	3.4	4.9	外面：ミガキ 内面：ミガキ	密 砂粒	良好	褐色	
56	F－14 4層	土師器 ミニチュア土器	胴部～底部	—	1.6	△ 3.7	外面：指押さえ→ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 石英、白色粒、砂粒	やや良	灰褐色	
57	F－14 3層	土師器 ミニチュア土器	ほぼ 完形	4.8	4.2	3.1	外面：指押さえ 内面：指押さえ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	外面黒斑
58	F－14 4層	土師器 手捏ね土器	ほぼ 完形	※ 6.7	—	3.0	外面：指押さえ→ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 石英、砂粒	良	褐色	
59	E－14 4層	土師器 坏身	ほぼ 完形	10.8	2.0	3.9	外面：指押さえ→ハケ 内面：ミガキ	密 砂粒	良	淡黄褐色	
60	F－14 3層	土師器 埦	ほぼ 完形	※14.8	—	6.3	外面：口縁部ナデ、体部ケズリ→ナデ 内面：口縁部ナデ、底部指押さえ→ナデ	密 砂粒	良	橙褐色	内外面赤彩
61	D－13 4層	土師器 皿	口縁～底部	※16.4	※14.8	2.2	外面：指押さえ→ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 石英、砂粒	良	橙褐色	内外面赤彩
62	E－15 3層	土製支脚		長さ 6.1	幅 4.2	厚さ 3.6	外面：指押さえ→ナデ	密	良	褐色	
63	E－14 4層	甑	把手	長さ 5.6	幅 6.0	厚さ 3.4	外面：ハケ	密 石英、角閃石、 白色粒	良	灰褐色	
64	F－16 2層	須恵器 坏蓋	ほぼ 完形	※17.0	つまみ 径 6.6	2.85	外面：天井部ケズリ→ナデ、口縁部回転ナデ 内面：天井部摩耗のため調整不明、口縁部回転ナデ	密 白色粒	良好	灰色	
65	側溝	須恵器 皿	口縁～底部	※12.2	※10.0	△ 1.7	外面：口縁部回転ナデ、底部静止糸切り 内面：口縁部回転ナデ、底部研磨	密 白色粒	良好	青灰色	
66	側溝	須恵器 皿	口縁～底部	※18.2	※13.8	2.9	外面：口縁部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ	密 白色粒	良好	青灰色	
67	F－16 2層	須恵器 壺	ほぼ 完形	※10.0	9.4	20.3	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ 内面：回転ナデ	密 石英、白色粒、 黒色粒	良好	灰色	
68	F－14 4層	須恵器 甕	口縁 破片	※25.8	—	△ 7.6	外面：回転ナデ、波状文 内面：回転ナデ	密 白色粒	良	灰色	外面自然降灰
69	F－15 2層	須恵器 提瓶	把手	長さ 2.2	—	△ 2.5	外面：指押さえ 内面：当て具痕	密 白色粒	良好	灰色	
70	E－15 2層	青磁 碗	口縁 破片	※13.1	—	△ 1.5				緑灰色	
71	F－15 2層	青磁 碗	口縁 破片	—	—	△ 2.6	外面：無文 内面：劃花文			緑灰色	龍泉窯系青磁碗 Ⅲ－１Ｂ類
72	F－14 2層	青磁 碗	口縁 破片	—	—	△ 2.4	外面：櫛目文、貫入 内面：花文、点描文、貫入	密 石英、白色粒、砂粒	良	灰褐色	同安窯系青磁碗 Ⅰ－１ｂ類
73	F－15 3層	白磁 碗	口縁 破片	※17.5	—	△ 4.6				灰白色	白磁碗Ⅳ類
74	E－15 2層	白磁 碗	口縁 破片	※17.7	—	△ 3.7				灰白色	白磁碗Ⅴ－４類
75	E－15 2層	白磁 水注	肩部 破片	—	—	△ 2.8				灰白色	
76	E－14 4層	中世須恵器 甕	胴部 破片	—	—	△ 2.6	外面：叩き 内面：ハケ	密	良	灰褐色	
77	D－12 3層	中世須恵器 甕	胴部 破片	—	—	△ 4.7	外面：叩き 内面：ナデ	密	良好	灰色	
78	E－14 2層	中世須恵器 甕	胴部 破片	—	—	△ 5.9	外面：叩き 内面：ナデ	密	良好	黒灰色	
79	E－14 3層	中世須恵器 甕	胴部 破片	—	—	△ 5.3	外面：叩き 内面：ナデ	密	良好	黒灰色	
80	E－13 2層	中世須恵器 甕	底部 破片	—	—	△ 6.9	外面：叩き 内面：ナデ	密	良好	青灰色	
81	E－15 2層	中世須恵器 甕	胴部 破片	—	—	△ 4.3	外面：叩き 内面：ナデ	密	良好	灰色	
82	E－14 4層	中世須恵器 甕	底部 破片	—	—	△ 4.4	外面：叩き 内面：ナデ	密	良好	青灰色	
83	G－15 3層	黒色土器 皿	底部	—	※ 5.0	△ 1.3	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ、黒色処理	密	良	淡橙褐色	
84	G－15 2層	土師質土器 坏	口縁～底部	※14.4	5.0	5.4	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 雲母、石英、白色粒	良	橙褐色	
85	F－16 3層	土師質土器 坏	1/4	※15.8	※ 6.8	4.1	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 石英、白色粒、砂粒	良	橙褐色	
86	G－15 3層	土師質土器 坏	1/8	—	※ 7.8	△ 1.5	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密	良好	淡橙褐色	
87	F－15 3層	土師質土器 坏	底部	—	※ 5.3	△ 2.2	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 雲母、砂粒	やや良	褐色	
88	F－15 2層	土師質土器 皿	1/4	※ 7.2	※ 6.0	1.3	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密	やや良	灰白色	

89	F－15 3層	土師質土器 皿	底部	※ 8.6	4.2	1.8	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密 石英、砂粒	良	橙褐色	
90	F－16 4層	土師質土器 皿	1/4	※ 7.8	※ 4.4	1.7	外面：体部ナデ、底部静止糸切り 内面：ナデ	密	良	灰褐色	
91	F－15 3層	土師質土器 皿	ほぼ 完形	※ 8.6	5.0	1.4	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密 石英、白色粒、砂粒	良	黄灰白色	
92	D－12 3層	土師質土器 皿	口縁～底部	※ 8.2	※ 4.2	△1.65	外面：体部ナデ、底部静止糸切り 内面：ナデ	密	良好	灰褐色	
93	F－15 2層	土師質土器 皿	口縁～底部	※ 8.5	※ 5.1	1.5	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密 石英、白色粒、砂粒	良	黄灰白色	
94	F－15 3層	土師質土器 皿	口縁～底部	※12.6	※ 8.0	△ 2.3	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 石英	良	褐色	内外面赤彩 内面黒漆付着
95	F－14 2層	土師質土器 皿	底部 1/4	—	※ 6.1	△ 1.5	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密	良	橙褐色	
96	F－14 3層	土師質土器 皿	底部	—	※ 5.4	△ 1.0	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密	良	橙褐色	
97	F－15 2層	土師質土器 皿	底部	—	※ 5.4	△ 0.6	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密	良	灰褐色	
98	F－14 2層	土師質土器 皿	底部 1/2	—	※ 5.0	△ 0.8	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：ナデ	密	良好	橙褐色	
99	E－15 3層	瓦質土器 埦	底部 1/6	—	※ 7.8	△ 2.3	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密	やや良	淡灰褐色	

第344表　２区遺構外出土金属製品観察表（第685図）

遺物番号	出土場所	種　別	部位 残存率	法　量（cm）			重量(g)	材　質	備　　考
				最大長	最大幅	最大厚			
100	E－13 2層	刀子	刃部	2.8	1.9	0.4	4.8	鉄	
101	F－14 2層	刀子	刃部～茎部	5.8	1.1	0.3	16.3	鉄	
102	F－14 2層	刀子	茎部	2.9	1.2	0.4	19.1	鉄	
103	F－14 2層	刀子？		2.6	0.6	0.3	2.7	鉄	
104	E－15 2層	釘	4/5	7.5	0.8	0.4	27.4	鉄	
105	E－15 2層	釘	2/3	3.9	0.5	0.5	5.1	鉄	
106	F－14 3層	釘	2/3	2.5	0.5	0.4	3.7	鉄	
107	E－15 3層	銭貨	完形	2.5	0.5	0.4	3.7	銅	半銭

第345表　２区遺構外出土石器観察表（第685～690図）

遺物番号	出土場所	種　別 器　種	遺存 状態	法　量（cm）			重量 （g）	石　　材	備　　考
				最大長	最大幅	最大厚			
108	2層	管玉未製品	1/2	1.45	0.65	0.2	0.3	玉髄	
109	G－15 2層	尖頭器	完形	5.05	2.3	0.45	5.1	サヌカイト	
110	G－15 4層	石鏃	完形	1.45	1.0	0.2	0.2	黒曜石	
111	E－15 4層	石鏃	ほぼ 完形	2.1	1.8	0.4	1.1	黒曜石	
112	E－15 5層	石鏃	1/2	2.5	1.0	0.5	0.9	黒曜石	
113	F－14 3層	楔形石器	完形	2.2	1.5	0.8	2.2	黒曜石	
114	E－14 4層	楔形石器	完形	1.85	2.4	0.6	2.2	黒曜石	
115	E－15 5層	楔形石器	完形	2.3	1.3	1.0	3.3	玉髄	
116	F－14 4層	ブランク	完形	3.0	2.0	1.4	6.5	黒曜石	
117	E－13 4層	石核	完形	2.2	2.5	2.5	13.4	玉髄	
118	F－14 5層	石核	完形	10.6	9.8	7.4	868.9	黒曜石	
119	B－3 4層	石核	完形	11.0	10.2	5.7	567.4	玉髄	
120	F－14 2層	石鏃	ほぼ 完形	10.9	6.5	1.4	119.5	安山岩	
121	E－13 5層	石鏃	破片	6.4	7.1	1.9	111.3	安山岩	
122	E－15 5層	石鏃	刃部 破片	6.0	10.3	1.2	99.3	安山岩	
123	E－15 4層	石鏃	基部 欠損	9.0	6.2	1.8	98.5	安山岩	
124	E－15 5層	石鏃？ 刃器	完形	6.25	6.8	1.15	58.7	安山岩	
125	F－15 4層	石鏃	完形	14.8	6.2	2.0	215.6	安山岩	
126	H－16 1層	石鏃	完形	17.3	9.2	3.0	480.4	安山岩	
127	B－3 4層	石鏃	完形	21.3	13.0	3.9	1061.2	安山岩	

128	E－15 4層	石鏃	完形	20.0	9.4	3.9	697.1	安山岩	
129	F－14 5層	石包丁	1/2	7.3	8.9	1.0	107.1	粘板岩	
130	E－15 5層	石包丁	1/2	7.6	13.0	0.8	120.2	粘板岩	
131	F－15 2層	砥石		20.1	8.9	8.3	2174.0	デイサイト	荒砥、砥面４面
132	F－15 4層	砥石	ほぼ 完形	19.1	11.0	9.4	2551.1	凝灰岩	荒砥、砥面２面
133	F－15 3層	砥石	2/3	9.3	11.2	6.3	827.7	花崗岩	荒砥、砥面４面
134	E－14 4層	砥石	破片	6.0	8.4	8.4	290.7	凝灰岩	中砥、砥面２面
135	E－15 3層	砥石	3/4	7.5	2.9	2.6	82.2	凝灰岩	仕上砥、砥面４面
136	E－15 4層	砥石	完形	7.8	3.3	3.3	124.0	凝灰岩	仕上砥、砥面４面
137	G－15 3層	砥石	ほぼ 完形	12.1	3.5	2.9	180.4	花崗岩	仕上砥、砥面４面
138	F－15 4層	砥石	破片	3.4	3.3	1.5	19.2	玄武岩	仕上砥、砥面３面
139	A－6 3層	砥石	ほぼ 完形	7.4	3.6	2.0	83.0	シルト岩	仕上砥、砥面４面
140	F－15 2層	砥石	完形	8.4	4.0	2.6	109.2	砂岩	仕上砥、砥面４面
141	F－15 3層	砥石	完形	6.6	3.6	1.0	37.8	蛇紋岩	仕上砥、砥面４面
142	F－15 4層	砥石	ほぼ 完形	7.0	4.0	1.3	48.6	砂岩	仕上砥、砥面４面
143	F－14 2層	砥石	破片	4.2	3.6	1.3	21.5	花崗岩	仕上砥、砥面４面
144	E－13 4層	磨石	完形	15.0	11.5	5.5	1674.9	閃緑岩	
145	F－15 3層	磨石	破片	5.6	6.0	2.9	97.0	デイサイト	
146	B－5 3層	磨石	完形	15.2	12.3	3.0	873.8	デイサイト	
147	F－15 2層	磨石	完形	7.8	7.1	2.4	154.9	砂岩	
148	G－15 5層	磨石	完形	18.7	10.6	5.0	1421.1	デイサイト	

第346表　２区遺構外出土ガラス製品観察表（第690図）

遺物番号	出土場所	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 直径	孔径	厚さ	重量(g)	材質	備考
149	C－4 3層	小玉	完形	0.4	0.1	0.1	0.1	カリガラス	引き伸ばし技法

第347表　３区遺構外出土土器、土製品、陶磁器観察表（第691～695図）

遺物番号	出土場所	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	H－12 4層	縄文土器 鉢	胴部 破片	—	—	△ 2.5	外面：押型文 内面：押型文	密 雲母、石英、小石粒	良	褐色	
2	I－12 4層	縄文土器 鉢	胴部 破片	—	—	△ 2.7	外面：押型文 内面：ナデ	やや密 雲母、石英	良	褐色	
3	H－12 4層	弥生土器 壺	1/3	※17.4	—	△17.1	外面：ミガキ、指押さえ 内面：口縁部～頸部ミガキ、指押さえ、胴部ケズリ→指押さえ→ナデ	密 石英、小石粒	良	橙褐色	
4	H－13 4層	弥生土器 壺	破片	※29.4	—	△ 1.6	外面：ミガキ 内面：刻目を有する貼付突帯	密 石英、白色粒	良	橙褐色	
5	H－14 3層	弥生土器 壺	1/2	—	—	△17.2	外面：４条２段の刻目を有する貼付突帯、ハケ→ミガキ 内面：１条の刻目を有する貼付突帯、ハケ→ミガキ	密 石英、砂粒	良	橙褐色	
6	H－14 4層	弥生土器 壺	頸部	—	—	△ 5.4	外面：３条、４条、１条以上の３段のヘラ描沈線、沈線間に竹管文 内面：ナデ、ケズリ	密 石英、白色粒	良	淡褐色	
7	H－12 4層	弥生土器 壺	肩部 1/5	—	—	△ 7.1	外面：頸部５条のヘラ描沈線、列点文、肩部刺突文、ナデ 内面：頸部ナデ、胴部ケズリ→ナデ	密	良	褐色	
8	H－14 4層	弥生土器 壺	1/2	※ 4.8	※ 3.0	9.8	外面：指押さえ→ナデ 内面：ハケ→指押さえ→ナデ	密 白色粒、砂粒	良	橙褐色	口縁部正面 ２孔、裏面１孔
9	H－12 4層	弥生土器 壺	胴部～肩部	※14.6	—	△ 8.6	外面：口縁部９条の凹線、頸部ナデ、ハケ、肩部貝殻腹縁による刺突 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ、ケズリ	密 石英、白色粒、砂粒	良	赤褐色	
10	H－13 4層	弥生土器 壺	底部	—	10.2	△ 8.3	外面：ハケ→ミガキ、指押さえ 内面：ハケ→ナデ、指押さえ	密 雲母、石英、白色粒	良	灰茶色	外面黒斑
11	G－14 4層	弥生土器 壺	胴部～底部	—	24.8	△22.7	外面：ハケ→指押さえ、ナデ 内面：ハケ→指押さえ、ナデ	密 雲母、石英、白色粒	良	灰褐色	
12	G－14 4層	弥生土器 甕	破片	※23.4	—	△ 7.6	外面：口縁端部刻目、頸部２条のヘラ描沈線、胴部ハケ 内面：ケズリ→ナデ、指押さえ	密 石英、砂粒	良	褐色	
13	H－14 4層	弥生土器 甕	口縁～胴部 1/2	※19.2	—	△ 8.8	外面：口縁端部刻目、頸部３条のヘラ描沈線、胴部ナデ、指押さえ 内面：口縁部指押さえ、胴部ケズリ、指押さえ	密 石英、角閃石 白色粒	良	褐色	外面炭化物 付着
14	G－13 4層	弥生土器 甕	1/4	※22.6	—	△14.4	外面：口縁端部刻目、頸部３条のヘラ描沈線、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ→指押さえ→ナデ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	
15	G－13 4層	弥生土器 甕	破片	※17.8	—	△ 6.0	外面：口縁端部刻目、頸部４条のヘラ描沈線、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、胴部ケズリ→ナデ	密 雲母、石英、角閃石	良	灰褐色	

16	G－14 3層	弥生土器 甕	口縁～胴部	16.8	—	△ 8.3	外面：口縁端部刻目、頸部５条のヘラ描沈線、胴部指押さえ→ナデ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、胴部ケズリ	密 石英、砂粒	良	黒褐色	外面黒斑
17	G－14 3層	弥生土器 甕	口縁～胴部 1/8	※23.3	—	△20.7	外面：口縁端部刻目、頸部５条のヘラ描沈線、胴部ハケ→ナデ 内面：口縁部ナデ、指押さえ、胴部ケズリ→ナデ	密 石英、白色粒	良	黒褐色	
18	G－13 3層	弥生土器 甕	口縁 破片	※26.7	—	△ 6.7	外面：口縁端部刻目、頸部５条のヘラ描沈線、胴部ハケ→ナデ 内面：ハケ→指押さえ→ナデ	密 石英、白色粒	良	橙褐色	
19	G－14 3層	弥生土器 甕	口縁～胴部	32.6	—	△10.1	外面：口縁端部刻目、頸部４条、胴部３条のヘラ描沈線、胴部ナデ、指押さえ 内面：ケズリ→ナデ、指押さえ	密 雲母、石英、白色粒	良	橙褐色	
20	H－14 3層	弥生土器 甕	口縁～胴部 1/6	※23.1	—	△ 7.6	外面：口縁端部刻目、頸部８条の櫛描沈線、列点文、胴部ハケ→指押さえ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ→指押さえ	密 石英、角閃石 白色粒	良	褐色	外面炭化物付着
21	G－12 4層	弥生土器 甕	口縁～胴部	28.4	—	△10.7	外面：指押さえ→ナデ 内面：摩耗のため調整不明	密 雲母、砂粒	良	褐色	外面煤付着
22	G－13 4層	弥生土器 甕	頸部～底部	—	7.9	25.0	外面：頸部３条のヘラ描沈線、胴部ミガキ、指押さえ 内面：ミガキ	密 石英、角閃石 白色粒	良	橙褐色	外面黒斑
23	G－14 4層	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/8	—	※ 8.8	△20.7	外面：ミガキ 内面：ケズリ→ナデ	密 石英、白色粒	良	灰褐色	
24	I－13 4層	弥生土器 甕	1/8	※17.7	—	△ 9.8	外面：口縁端部４条の平行沈線、肩部ミガキ、指押さえ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ→ナデ、指押さえ	密 雲母、石英、砂粒	良	褐色	
25	H－14 4層	弥生土器 甕	1/8	※21.0	—	△ 9.2	外面：口縁端部１条の凹線、ナデ消し、肩部指押さえ→ハケ→ナデ 内面：口縁部～頸部指押さえ→ナデ、胴部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	
26	G－14 3層	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/4	※25.7	—	△ 8.7	外面：口縁端部４条の平行沈線、頸部指押さえ→ハケ 内面：口縁部指押さえ→ナデ、頸部ケズリ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	
27	I－14 4層	弥生土器 高坏	脚部	—	※11.0	△ 4.1	外面：ナデ、ハケ、端部２条の凹線 内面：ケズリ	密 石英、白色粒、砂粒	良	橙褐色	穿孔あり
28	G－13 4層	弥生土器 蓋	つまみ 2/3	つまみ 径 2.8	—	△ 3.6	外面：指押さえ→ナデ 内面：ケズリ	密 石英、白色粒、砂粒	良	灰褐色	
29	G－13 4層	弥生土器 蓋	つまみ	つまみ 径 4.2	—	△ 4.7	外面：ナデ 内面：指押さえ	密 石英、白色粒、砂粒	良	黄灰白色	
30	F－13 3層	弥生土器 蓋	つまみ	つまみ 径 6.0	—	△ 5.2	外面：横ハケ→縦ハケ 内面：指押さえ→ナデ	密 雲母、砂粒	良	淡黄褐色	外面赤彩
31	H－12 4層	弥生土器 台型土器		上部径 10.7	—	△ 3.4	外面：ミガキ 内面：ナデ	密 雲母、石英、白色粒	良	黄灰白色	
32	H－12 4層	土師器 注口土器	把手	直径 1.9	—	—	外面：ケズリ→ミガキ	密 石英、砂粒	やや良	灰褐色	
33	G－12 4層	土師器 壺	1/2	※ 9.8	—	14.9	外面：ハケ 内面：口縁部ハケ、指押さえ、頸部ナデ、胴部ケズリ→ナデ	密 雲母、石英、砂粒	良	橙褐色	
34	H－13 4層	土師器 甕	口縁～胴部 1/5	17.6	—	△11.9	外面：口縁部指押さえ→ナデ、胴部指押さえ→ナデ→ハケ 内面：口縁部指押さえ→ナデ、胴部指押さえ→ケズリ→ナデ	密 雲母、石英、角閃石	良	淡灰色	
35	G－12 4層	土師器 甕	口縁～胴部	18.2	—	△20.2	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部指押さえ→ケズリ	密 雲母、石英、角閃石	良	灰褐色	
36	G－12 3層	土師器 甕	口縁～胴部	27.6	—	△12.0	外面：指押さえ→ナデ 内面：口縁部指押さえ→ナデ、胴部指押さえ→ナデ→ケズリ	密 雲母、石英、角閃石	良	灰褐色	
37	G－12 4層	土師器 甕	口縁～頸部	35.7	—	△ 8.0	外面：指押さえ→ナデ 内面：口縁部指押さえ→ナデ、胴部ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	褐色	
38	H－14 4層	土師器 甕	口縁～胴部	12.8	—	△ 6.7	外面：口縁部ナデ、胴部指押さえ→ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ→指押さえ	密 雲母、角閃石	良	橙褐色	
39	G－14 4層	土師器 小型丸底壺	2/3	9.0	—	△ 9.8	外面：口縁部指押さえ→ナデ、胴部指押さえ→ナデ→ミガキ 内面：口縁部指押さえ→ナデ、胴部ケズリ、指押さえ	密 雲母、石英、角閃石	良	橙褐色	
40	K－13 1層	土師器 小型丸底壺	口縁～胴部	7.4	—	△ 7.5	外面：口縁部ハケ、胴部指押さえ→ナデ→ハケ 内面：口縁部指押さえ→ナデ、胴部指押さえ→ケズリ	密 雲母、石英、砂粒	良	淡黄褐色	
41	H－14 4層	土師器 小型丸底壺	口縁～胴部	10.2	—	△ 6.8	外面：指押さえ→ハケ 内面：口縁部指押さえ→ナデ、胴部ケズリ→指押さえ	密 雲母、石英、角閃石	良	淡黄褐色	
42	K－13 3層	土師器 小型丸底壺	1/5	※ 9.8	—	△11.0	外面：口縁部指押さえ→ナデ、胴部指押さえ→ハケ→ナデ 内面：口縁部指押さえ→ナデ、胴部指押さえ→ケズリ→ナデ	密	良	橙褐色	
43	I－14 3層	土師器 高坏	坏部	※14.1	—	△ 6.1	外面：ミガキ 内面：ミガキ	密 雲母、砂粒	良	橙褐色	外面黒斑
44	H－13 3層	土師器 高坏	脚部	—	※ 9.3	△ 9.8	外面：ハケ、指押さえ 内面：坏部ナデ、脚部ナデ、裾部ハケ	密 石英、砂粒	良	橙褐色	
45	H－14 3層	土師器 高坏	脚部	—	※10.4	△ 7.8	外面：ハケ→ミガキ 内面：脚部ケズリ→ナデ、裾部ミガキ	密 砂粒	良	褐色	
46	H－14 4層	製塩土器	1/3	※ 4.8	—	△ 3.2	外面：指押さえ→ナデ 内面：指押さえ→ナデ	やや粗 石英、砂粒	良	橙褐色	
47	H－12 3層	製塩土器	口縁 破片	※10.8	—	△ 2.4	外面：ナデ 内面：ナデ	やや粗 角閃石、白色粒	やや良	橙褐色	
48	H－14 4層	ミニチュア土器	ほぼ 肩部	3.5	1.4	2.4	外面：指押さえ→ナデ	やや密 砂粒	やや良	黄灰白色	
49	G－13 3層	手捏ね土器	ほぼ 肩部	※ 7.0	※ 1.7	5.4	外面：ナデ、指押さえ 内面：ナデ、指押さえ	密 角閃石、白色粒	良	褐色	内外面黒斑
50	H－14 4層	手捏ね土器	1/2	—	2.8	△ 3.8	外面：指押さえ→ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密	良	黄灰白色	
51	H－13 4層	土師器 鉢	把手	長さ 4.2	幅 3.9	厚さ 1.9	外面：ケズリ→ナデ	密 雲母、砂粒	良	橙褐色	
52	G－14 4層	土製支脚	脚部 1/4	—	※10.0	△ 7.8	外面：摩耗のため調整不明 内面：ケズリ	密 石英、白色粒	良	淡橙褐色	
53	H－13 4層	土製支脚	脚部 1/3	—	※12.5	△ 8.7	外面：ケズリ→ナデ、指押さえ 内面：ケズリ	密 石英、白色粒	良	橙褐色	
54	G－12 4層	甑	口縁～胴部 1/4	※29.2	—	△13.7	外面：胴部ハケ、把手ケズリ、ハケ 内面：ケズリ	密 雲母、石英、白色粒	良	灰褐色	

55	H－12 1層	甑	把手	—	—	△ 9.3	外面：胴部ハケ、指押さえ、把手ケズリ、ハケ 内面：ケズリ、指押さえ	密 雲母、石英、白色粒	良	灰褐色	外面煤付着
56	H－14 4層	甑	把手	—	—	△ 5.8	外面：ケズリ→ナデ 内面：	密 白色粒	良	褐色	
57	H－12 3層	移動式竈	右袖部	—	—	△10.9	外面：ケズリ→ナデ 内面：ケズリ→ナデ	密 石英、白色粒	良	褐色	
58	H－12 3層	土錘	2/3	長さ 3.7	直径 1.5	重量 6.0		密	良	淡褐色	
59	H－12 3層	土錘	ほぼ完形	長さ 3.9	直径 1.5	重量 6.3		密 石英、白色粒	良	橙褐色	赤彩
60	H－15 3層	土錘	1/3	長さ 2.9	直径 1.5	重量 3.0		密	良好	橙褐色	
61	F－12 1層	須恵器 坏蓋	1/3	※13.4	—	△ 4.6	外面：天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：回転ナデ	密 白色粒、砂粒	良好	青灰色	口縁部内外面 煤付着
62	H－13 1層	須恵器 坏身	1/4	※13.4	※ 8.0	5.9	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	密 白色粒、砂粒	良	灰色	
63	トレンチ	須恵器 皿	1/4	※12.8	※ 6.6	2.6	外面：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部回転ナデ、底部ナデ	密 白色粒、砂粒	良	灰色	
64	G－14 4層	須恵器 壺	頸部～底部	—	—	△ 4.4	外面：頸部～胴部回転ナデ、胴部下部回転ヘラケズリ、 ヘラ記号、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 白色粒	良好	灰色	自然降灰
65	G－13 1層	須恵器 転用品	破片	—	※10.5	△15.3	外面：ナデ 内面：ナデ	密 雲母、白色粒	良	灰色	
66	G－12 3層	鞴羽口	破片	長さ 6.3	幅 6.7	厚さ 4.0		密	良	灰褐色	発泡あり
67	G－12 3層	鞴羽口	破片	長さ 4.8	幅 3.5	厚さ 6.5		密 石英、砂粒	良	暗灰白色	発泡あり 被熱痕あり
68	H－12 3層	鞴羽口	破片	長さ 4.2	幅 3.7	厚さ 3.4		密 石英	良	褐色	
69	H－13 3層	青磁 皿	口縁 破片	※10.0	—	△ 2.1	外面：底部露胎 内面：劃花文			緑灰色	龍泉窯系青磁 皿Ⅰ－2類か
70	H－12 3層	白磁 碗	口縁 破片	—	—	△ 3.1				灰白色	白磁碗Ⅳ類
71	G－12 3層	白磁 碗	口縁 破片	※14.7	—	△ 3.2				灰白色	白磁碗Ⅳ類
72	H－12 3層	白磁 碗	口縁 1/8	※16.3	—	△ 3.0				灰白色	白磁碗Ⅳ類
73	トレンチ	白磁 碗	口縁 破片	※16.7	—	△ 4.1				灰白色	白磁碗Ⅳ類
74	トレンチ	白磁 碗	口縁～底部 1/5	※16.9	※ 6.9	7.4	内面：見込みに少量の砂付着			灰白色	白磁碗Ⅳ-1類
75	H－13 4層	土師質土器 坏	1/2	※13.6	—	△ 3.9	外面：体部回転ナデ、指押さえ、底部ヘラ切り→指押さえ→ナデ 内面：体部回転ナデ、底部ナデ、指押さえ	密 石英、白色粒、砂粒	良	橙褐色	外面黒斑
76	H－13 4層	土師質土器 坏	2/3	12.3	—	△ 3.7	外面：体部回転ナデ、底部ヘラ切り→指押さえ 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密 石英、角閃石 白色粒	良	褐色	
77	Ⅰ－12 4層	土師質土器 坏	1/4	※13.0	—	△ 3.4	外面：体部回転ナデ、指押さえ、底部ヘラ切り→指押さえ→ナデ 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密 雲母、石英	良	橙褐色	
78	H－12 4層	土師質土器 坏	2/3	※13.4	※ 4.8	4.8	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密 白色粒	やや良	灰褐色	
79	G－13 3層	土師質土器 坏	2/3	※14.8	—	△ 4.5	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密 石英、白色粒	良	橙褐色	
80	G－14 3層	土師質土器 坏	底部 破片	—	※ 7.0	△ 1.5	外面：糸切り→ナデ 内面：ナデ	密 石英、白色粒	良	橙褐色	
81	H－13 4層	土師質土器 坏	胴部～底部 1/4	—	※ 8.2	△ 3.3	外面：体部回転ナデ、底部糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密 石英、白色粒	良	黒茶色	
82	H－15 3層	土師質土器 皿	1/3	※12.0	—	△ 1.7	外面：体部回転ナデ、底部静止糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密 白色粒	良	橙褐色	
83	G－12 4層	土師質土器 皿	2/3	※ 9.8	4.5	△ 2.2	外面：体部回転ナデ、底部糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密 砂粒	良	灰褐色	
84	H－12 3層	土師質土器 皿	2/3	6.0	4.6	△ 2.3	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密 石英、白色粒 小石粒	良	橙褐色	
85	H－12 3層	土師質土器 皿	1/3	※10.2	※ 4.4	△ 2.4	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密	良	淡橙色	
86	H－12 3層	土師質土器 皿	2/3	8.7	4.0	△ 2.2	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密 石英、白色粒	良	橙褐色	
87	J－13 1層	土師質土器 皿	2/3	※ 7.7	※ 4.1	△ 1.5	外面：体部回転ナデ、底部糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密	良	淡橙褐色	外面口縁部 炭化物付着
88	Ⅰ－12 1層	土師質土器 皿	1/2	6.8	3.2	1.7	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密 雲母、角閃石	良	橙褐色	
89	H－12 3層	土師質土器 皿	底部	—	4.5	△ 1.0	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密 白色粒	良	灰褐色	
90	H－12 1層	土師質土器 皿	底部	—	※ 4.4	△ 1.5	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密 石英、白色粒	良	黄白色	
91	F－12 3層	磁器 皿	底部 1/2	—	※ 4.7	△ 1.6	外面：唐草文 内面：見込み部葡萄文			白色	肥前産
92	K－16 1層	磁器 皿	1/8	—	※ 6.3	△ 2.5	外面：貫入 内面：口縁部帯線、見込み部青海波文、草花文ｏｒ風景文？、貫入			白色	肥前産
93	J－13 3層	陶器 皿	底部 1/5	—	※ 5.6	△ 2.1				緑灰色	
94	H－14 1層	陶器 燈明皿	1/2	—	※ 4.3	△ 2.6				褐色	
95	E－11 1層	陶器 擂鉢	口縁～腰部 1/8	※33.4	—	△10.5	内面：擂目			黒茶色	

第348表　３区遺構外出土金属製品観察表（第695・696図）

遺物番号	出土場所	種　別	部位 残存率	法　量（cm）			重量(g)	材　質	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
96	H－12 3層	刀子	刃部	4.6	2.3	0.5	19.6	鉄	
97	H－12 3層	刀子	柄部	11.2	2.5	0.6	90.0	鉄	
98	H－12 4層	刀子	柄部	9.2	1.2	0.6	63.8	鉄	
99	H－12 3層	鏨	ほぼ 完形	16.1	1.5	1.4	129.7	鉄	
100	H－14 3層	釘	完形	6.7	0.5	0.65	15.4	鉄	
101	H－12 3層	棒状鉄製品	完形	16.1	1.5	1.4	129.7	鉄	
102	J－13	銭貨	完形	2.4	0.6	0.1	2.3	銅	寛永通寶

第349表　３区遺構外出土石器、石製品観察表（第696～700図）

遺物番号	出土場所	種　別 器　種	遺存 状態	法　量（cm）			重量 （g）	石　材	備　考
				最大長	最大幅	最大厚			
103	H－13 4層	管玉	完形	1.7	0.8	孔径 0.3	1.3	滑石	両側穿孔
104	G－12	管玉	完形	2.7	0.3	孔径 0.3	1.0	玉髄	両側穿孔
105	F－12	管玉未製品		1.3	0.5	0.5	0.5	滑石	
106	H－13 3層	管玉未製品	3/4	2.4	0.8	0.9	3.1	蛇紋岩	
107	H－13 4層	勾玉	完形	3.9	2.1	0.5	7.3	滑石	
108	G－14 3層	石鏃	完形	2.1	1.9	0.5	1.1	黒曜石	
109	G－13 4層	石鏃	ほぼ 完形	2.0	1.7	0.5	1.1	黒曜石	
110	I－12 4層	石鏃	完形	2.2	1.8	0.4	1.0	黒曜石	
111	G－14 3層	石鏃	ほぼ 完形	2.15	1.8	0.5	1.4	黒曜石	
112	H－15 3層	石鏃	ほぼ 完形	1.6	1.2	0.3	0.4	黒曜石	
113	G－13 4層	石鏃	ほぼ 完形	3.05	1.5	0.4	1.1	サヌカイト	
114	I－13 4層	石鏃	完形	2.2	1.8	0.4	1.3	サヌカイト	
115	H－13 3層	石鏃	完形	2.2	1.4	0.4	1.0	サヌカイト	
116	H－12 4層	楔形石器	完形	2.2	3.6	0.9	6.2	黒曜石	
117	H－14 4層	楔形石器	完形	2.2	2.8	1.2	6.9	黒曜石	
118	H－13 4層	スクレイパー	完形	2.7	3.5	0.8	5.1	黒曜石	
119	H－13 4層	石核	完形	3.1	4.5	1.6	20.3	黒曜石	
120	G－12 3層	石核	完形	4.2	5.1	3.4	75.3	黒曜石	
121	I－13 3層	加工痕の ある剥片	完形	2.0	2.9	0.55	2.4	黒曜石	
122	H－13 3層	石鍬	基部	6.9	5.8	1.6	71.4	安山岩	
123	I－12 4層	石鍬	1/2	7.0	6.15	2.2	101.8	安山岩	
124	H－13 4層	石鍬	1/2	12.6	8.3	3.7	541.5	安山岩	
125	I－13 4層	石鍬	3/4	7.9	8.5	2.6	124.1	安山岩	
126	トレンチ	石鍬	基部 欠損	10.0	7.7	2.5	201.3	安山岩	
127	G－14 3層	石鍬	1/2	8.9	8.5	2.2	164.3	安山岩	
128	H－13 3層	石包丁	破片	1.1	1.9	0.6	1.5	黒色頁岩	穿孔あり
129	I－12 4層	石包丁	1/2	7.3	4.6	0.5	24.9	安山岩	穿孔あり
130	G－13 3層	磨製石斧	基部	2.2	7.0	3.4	79.2	花崗岩	
131	H－12 1層	磨製石斧	ほぼ 完形	8.0	4.8	2.05	114.6	蛇紋岩	
132	I－13 4層	磨製石斧	完形	12.2	7.0	4.8	610.6	ハンレイ岩	
133	G－14 3層	砥石	ほぼ 完形	6.3	4.0	3.2	97.8	花崗岩	
134	G－14 3層	砥石	1/2	5.0	4.6	3.3	82.5	花崗岩	
135	G－14 4層	砥石	2/3	7.4	4.0	3.0	161.7	泥岩	

136	G－13 1層	砥石	2/3	4.6	4.0	2.3	51.6	凝灰岩	
137	H－13 4層	砥石	ほぼ 完形	7.0	4.0	3.7	110.8	花崗岩	
138	H－13 4層	砥石	1/4	7.0	3.9	2.9	83.5	凝灰角礫岩	
139	H－13 3層	砥石	ほぼ 完形	10.4	6.4	5.0	422.3	凝灰岩	
140	H－13 4層	砥石	ほぼ 完形	10.0	4.3	5.5	340.7	デイサイト	
141	I－14 4層	砥石	破片	3.2	3.3	1.0	7.6	凝灰岩	
142	G－12 3層	砥石	破片	4.7	4.0	2.4	27.7	凝灰岩	
143	I－13 3層	砥石	2/3	8.0	4.1	3.4	141.5	凝灰岩	
144	F－12 1層	砥石	2/3	7.8	6.0	4.5	231.4	花崗岩	
145	H－12 3層	砥石	1/2	4.5	4.0	1.0	54.7	花崗岩	
146	G－12 1層	砥石	2/3	4.6	2.9	1.1	16.2	凝灰岩	
147	G－14 3層	砥石	ほぼ 完形	7.6	2.8	1.0	42.0	凝灰岩	
148	K－14 1層	砥石	ほぼ 完形	8.4	4.0	3.2	113.6	凝灰岩	
149	H－13 4層	砥石	ほぼ 完形	3.6	1.6	1.4	9.6	安山岩	
150	H－13 4層	砥石	1/2	5.3	3.3	2.0	41.7	凝灰岩	
151	I－12 3層	砥石	1/2	6.5	3.5	2.2	54.2	凝灰岩	
152	H－12 3層	磨石・敲石	完形	6.6	4.1	1.7	57.5	デイサイト	
153	F－12 1層	磨石・敲石	完形	7.9	4.9	2.6	130.0	デイサイト	
154	I－13 1層	磨石・敲石	3/4	8.3	7.2	5.4	442.8	砂岩	
155	H－14 3層	磨石・敲石	2/3	4.8	3.9	4.5	122.6	デイサイト	
156	G－13 4層	磨石	2/3	12.9	11.0	8.1	1780.1	デイサイト	
157	G－14 3層	磨石	完形	4.7	4.1	2.0	53.1	デイサイト	
158	G－13 4層	磨石	完形	9.3	5.4	2.2	172.6	デイサイト	
159	G－14 3層	台石	1/4	9.1	9.1	5.5	757.2	花崗岩	
160	G－13 4層	台石	1/2	20.4	23.0	7.8	4520.0	デイサイト	
161	SD３	碁石	完形	1.6	1.9	0.4	1.7	凝灰岩	

第350表　３区遺構外出土ガラス製品観察表（第700図）

遺物番号	出土場所	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 直径	孔径	最大厚	重量(g)	石材	備考
162	G－12	臼玉	完形	0.3	0.1	0.1	0.1以下	カリガラス	引き伸ばし技法

第351表　４区遺構外出土土器、土製品、陶器観察表（第701・702図）

遺物番号	出土場所	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	A－8 暗褐色土	弥生土器 壺	口頸部 1/2	※12.2	—	△ 6.7	外面：指押さえ、ナデ、肩部列点文 内面：口頸部指押さえ、ナデ、肩部ケズリ	密 砂粒	良	橙色	
2	B－8 暗褐色土	弥生土器 壺	口頸部	23.0	—	△ 7.5	外面：指押さえ、ナデ、頸部横４条、縦３条単位の格子文 内面：指押さえ→ナデ	密 石英・砂粒	良	淡褐色	内外面赤彩
3	A－9 暗褐色土	弥生土器 壺	口頸部 1/2	※17.4	—	△ 9.2	外面：口縁部６条､肩部３条の凹線→ナデ､頸部指押さえ、ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ、ハケ、肩部ケズリ	密 砂粒多量	良	橙色	
4	A－8 淡褐色土	弥生土器 壺	口頸部 1/3	※26.0	—	△ 7.8	外面：指押さえ、ナデ、肩部列点文 内面：口頸部指押さえ、ナデ、肩部ケズリ	密 石英・砂粒	良	黄橙色	
5	B－8	土師器 壺	口頸部	※30.4	—	△14.7	外面：口縁部１条の凹線、綾杉文、頸部指押さえ、ハケ→櫛状工具による羽状文２段 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ、ミガキ、肩部ケズリ	密 石英・白色粒・砂粒	良	橙褐色	
6	中央 ベルト	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/8	※20.7	—	△ 9.4	外面：口縁部櫛状工具による直線文→ナデ、頸部指押さえ→ナデ、肩部指押さえ→ハケ、ナデ 内面：口頸部指押さえ→ハケ→ナデ、肩部ケズリ→ナデ	密	良好	橙褐色	
7	B－9 暗褐色土	土師器 壺	口頸部 1/6	※21.8	—	△10.6	外面：口縁部横ナデ、頸部櫛状工具による斜状文、沈線、刺突文 内面：口縁部摩耗の為調整不明、頸部指押さえ	密 白色粒・砂粒	良	褐色	外面口縁 煤付着
8	A－8 暗褐色土	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/2	※14.8	—	△ 8.1	外面：口縁部櫛状工具による直線文、頸部ナデ 内面：口頸部ナデ、肩部指押さえ→ケズリ、ナデ	密 雲母・砂粒	良	橙色	外面口縁 煤付着
9	E－11	弥生土器 甕	口縁～体部 1/2	※10.3	—	△ 6.5	外面：口縁部櫛状工具による直線文､頸部ナデ､体部ハケ、ナデ、羽状文 内面：口頸部ナデ、体部指押さえ、ケズリ、ハケ？	密 雲母・白色粒・砂粒	良	橙色	外面赤彩
10	B－8	土師器 甕	口頸部 破片	※36.3	—	△13.6	外面：口頸部ナデ、肩部指押さえ、ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ、肩部ケズリ	密 白色粒・砂粒	良	橙褐色	

11	B－8	土師器 甕	底部 3/4	—	※4.2	△ 3.4	外面：ミガキ、指押さえ、ハケ、底面ケズリ→ナデ 内面：ハケ、ケズリ→ナデ	密 白色粒・砂粒	良	灰褐色	
12	中　央 ベルト	土師器 注口土器	把手部 2/3	長さ ※ 7.6	幅 ※8.7	厚さ 1.8	ヘラケズリ→ナデ、ミガキ	密 雲母・白色粒	良好	黄灰白色	
13	B－8 淡褐色土	土師器 注口土器	把手部 2/3	長さ ※ 6.3	幅 ※5.3	厚さ 1.9	ヘラケズリ→ナデ	密 石英・砂粒	良	淡黄褐色	
14	中　央 ベルト	土師器 注口土器	把手部 破片	長さ ※ 4.2	幅 ※2.7	厚さ ※ 1.0	外面：ハケ、鋸歯文	密 白色粒・砂粒	良好	灰褐色	
15	B－9	弥生土器 鉢	口縁～体部 1/8	※32.0	—	△17.3	外面：口縁部ナデ、頸部指押さえ、体部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ、体部ケズリ	密 石英・白色粒・砂粒	良	橙色～ 灰色	外面一部 煤付着
16	A－9 暗褐色土	弥生土器 高坏	口縁～脚部 1/8	※25.0	—	△11.4	外面：口縁部３条の沈線→ナデ、坏部～脚部指押さえ、ハケ 内面：坏部摩耗のため調整不明、脚部ハケ、ナデ	密 石英・白色粒・砂粒	良	橙色	
17	B－10	弥生土器 高坏	坏部 1/2	※24.6	—	△ 6.0	外面：口縁部ナデ、坏底部ミガキ 内面：ナデ、ミガキ、指押さえ	密 白色粒・砂粒	良	橙色	内外面赤彩
18	E－11	弥生土器 高坏	脚部 1/4	—	※22.8	△ 3.8	外面：脚部綾杉文？、脚端部櫛状工具による直線文 内面：摩耗のため調整不明	密 石英・砂粒	やや良	橙褐色	内外面赤彩
19	B－8 赤褐色土	土師器 高坏	ほぼ完形	※25.5	19.0	13.0	外面：坏部摩耗により調整不明、脚部ハケ 内面：坏底部ハケ→ミガキ、脚柱部ケズリ、裾部ハケ、接合部円盤充填法	密 雲母・砂粒	良	黄褐色	
20	B－8 赤褐色土	弥生土器 蓋	4/5	※ 7.4	—	1.9	外面：ナデ 内面：指押さえ、ナデ	密 雲母・砂粒	良	黄褐色	
21	B－8 赤褐色土	土師器 器台	1/4	※21.4	※20.6	11.0	外面：摩耗により調整不明 内面：受部摩耗により調整不明、脚部ケズリ、脚端部ナデ	密 石英・砂粒多量	良	淡褐色	脚部内外面 煤付着
22	B－8 赤褐色土	手捏ね土器 坏	1/2	—	※ 1.8	△ 2.7	外面：ケズリ、指押さえ、底面ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 砂粒	良	暗灰白色	
23	D－11 暗褐色土	手捏ね土器 高坏	脚部	—	※ 3.3	△ 3.0	外面：ケズリ→指押さえ→ナデ、底部指押さえ 内面：ヘラケズリ	密 雲母・石英・砂粒	良	黄灰白色	
24	E－11 暗褐色土	土師器 甑	広口部～ 体部 1/4	※29.8	—	△16.0	外面：指押さえ、ハケ、把手部指押さえ 内面：広口部指押さえ、横ナデ、体部ケズリ→指押さえ、ナデ	密 雲母・石英・砂粒	良	黄褐色	外面煤付着
25	A－9 暗褐色土	移動式竈	庇部	—	—	△15.1	外面：指押さえ、庇部ケズリ→ナデ 内面：庇部ケズリ	密 砂粒	良	橙色	
26	F－11 暗褐色土	須恵器 坏蓋	3/4	9.8	—	3.4	外面：口縁部回転ナデ、体部カキメ、つまみ部回転ナデ 内面：口縁部回転ナデ、天井部ナデ	密 砂粒	良好	青灰色	外面自然降灰
27	E－11	土師器 坏	2/3	※12.8	※ 9.4	3.2	外面：口縁～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密	やや良	橙褐色	
28	A－9	陶器 碗	口縁部 破片	※13.9	—	△ 2.1	外面：口縁端部暗緑色釉、体部鉄釉、体部下半露胎 内面：暗緑色釉、貫入	密	良好	黒茶色	被熱？
29	E－11	陶器 壺	体部 破片	—	—	△ 6.4	外面：錆釉、スタンプ文 内面：回転ナデ、指押さえ	密	良好	灰色	越前焼
30	E－11	中世須恵器 甕	頸部 破片	—	—	△ 3.6	外面：ナデ 内面：ナデ	密	良好	灰色	外面自然降灰
31	E－11	中世須恵器 甕	肩部 破片	—	—	△ 4.2	外面：叩き目 内面：ナデ	密	良好	灰色	外面自然降灰
32	E－11	中世須恵器 甕	肩部 破片	—	—	△ 6.1	外面：叩き目 内面：ナデ	密	良好	灰色～ 黒灰色	
33	E－11 茶褐色土	土師質土器 鍋	口縁～体部 破片	※29.8	—	△10.5	外面：口縁部磨耗のため調整不明、体部指押さえ・ハケ 内面：ハケ	密 石英	良	褐色	

第352表　４区遺構外出土石器、石製品観察表（第702・703図）

遺物番号	出土場所	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量（g）	石材	備考
34	A－7 淡褐色土	管玉	ほぼ 完形	1.3	直径 0.6	孔径 0.1	0.9	玉髄	
35	A－8	石鏃	完形	2.9	1.9	0.3	1.1	サヌカイト	
36	D－12	ブランク	完形	4.5	5.0	2.9	50.5	黒曜石	
37	C－7 淡褐色土	玉未製品	完形	2.9	1.7	1.0	5.7	玉髄	
38	D－12	石鏃	1/2	11.0	10.0	1.9	306.2	デイサイト	
39	C－12	砥石	1/2	4.7	4.1	0.6	13.5	頁岩	
40	B－9 赤褐色土	砥石	2/3	5.6	3.7	0.5	13.2	緑色凝灰岩	
41	B－8 赤褐色土	磨石・砥石	ほぼ 完形	14.0	6.6	6.3	777.8	安山岩	被熱痕あり、先端部磨痕あり、全体に擦痕あり
42	A－9 暗褐色土	磨石	完形	4.4	4.1	3.1	72.9	デイサイト	
43	C－12	磨石	3/4	10.0	7.9	6.5	674.7	凝灰角礫岩	被熱痕あり
44	A－9 暗褐色土	磨石・敲石	完形	7.6	6.0	3.1	182.9	デイサイト	下端部敲打痕あり
45	中央 ベルト	敲石	3/4	11.0	6.8	5.3	543.9	デイサイト	下端部敲打痕あり
46	A－9 暗褐色土	ハンマー ストーン	ほぼ 完形	10.9	3.7	3.4	198.9	閃緑岩	上下端部敲打痕あり
47	B－9 暗褐色土	ハンマー ストーン	1/2	7.7	5.1	3.3	182.0	デイサイト	下端部敲打痕あり
48	B－8 赤褐色土	台石		15.7	21.0	9.5	3720.0	デイサイト	敲打痕、擦痕あり
49	B－8 暗褐色土	台石・砥石		10.4	9.7	8.7	1327.8	デイサイト	被熱痕、敲打痕、擦痕あり
50	D－12	石錘	ほぼ 完形	14.0	9.2	5.4	840.1	デイサイト	表面敲打痕あり、砥面２面
51	A－9 暗褐色土	石錘・敲石	完形	7.9	5.6	4.7	330.5	デイサイト	上下端部、中央部全周敲打痕あり
52	B－7 淡褐色土	石錘・敲石	完形	8.7	6.1	5.1	326.7	デイサイト	中央部全周敲打痕あり、下端部磨痕あり

第353表　５区遺構外出土土器、土製品、陶磁器観察表（第704図）

遺物番号	出土場所	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	底径	器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	M－22 Ⅳ層	弥生土器 壺	肩部 破片	—	—	△3.2	外面：２条の貼付突帯 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、砂粒	良	橙褐色	
2	L－23 Ⅳ層	弥生土器 甕	口縁 破片	※29.2	—	△2.3	外面：摩耗のため調整不明 内面：ナデ	密 石英、砂粒	良	黄白灰色	
3	L－23 Ⅳ層	弥生土器 甕	肩部 破片	※20.0	—	△6.5	外面：頸部５条のヘラ描沈線 内面：摩耗のため調整不明	密 石英、砂粒	やや良	灰褐色	
4	L－23 Ⅳ層	弥生土器 甕	底部 破片	—	※7.2	△4.1	外面：ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 石英、白色粒、砂粒	やや良	灰褐色	
5	M－22 Ⅲ層	弥生土器 甕	底部 1/4	—	※8.2	△4.5	外面：ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 石英、砂粒	やや良	灰褐色	
6	L－22 Ⅲ層	弥生土器 甕	底部 破片	—	※7.8	△4.3	外面：ナデ 内面：ナデ	密 石英、砂粒	良	褐色	
7	M－23 Ⅳ層	弥生土器 甕	底部 破片	—	※9.6	△4.5	外面：ナデ 内面：指押さえ→ナデ	密 石英、砂粒	良	灰褐色	
8	M－21 Ⅲ層	白磁 碗	口縁 破片	—	—	△1.9				灰色	白磁碗Ⅲ類か
9	L－21 Ⅲ層	陶器 皿	底部	—	※6.4	△1.0	外面：底部露胎、回転糸切り、貫入 内面：貫入			緑色	
10	L－23 Ⅳ層	中世須恵器 甕	肩部 1/4	—	—	△4.5	外面：肩部叩き、胴部回転ナデ 内面：回転ナデ	密	良	灰色	
11	N－21 地山直上	中世須恵器 甕	肩部 破片	—	—	△4.8	外面：叩き→ハケ	密	良	灰色	
12	M－22 Ⅲ層	中世須恵器 甕	肩部 破片	—	—	△5.5	外面：叩き 内面：指押さえ→ナデ	密	良	灰色	高台砂付着
13	L－21 Ⅲ層	中世須恵器 甕	肩部 破片	—	—	△4.7	外面：叩き 内面：ハケ	密	良好	灰色	
14	M－22 Ⅲ層	磁器 碗	口縁～底部	※ 7.6	※3.0	4.8	外面：口縁部、高台１重圏線、胴部唐草文			灰白色	肥前産
15	M－22 Ⅲ層	陶胎染付 埦	口縁～胴部	※10.2	—	△4.9	外面：口縁部２重圏線、胴部唐草文、貫入 内面：貫入			淡青色	肥前産
16	M－22 Ⅲ層	陶胎染付 埦	口縁～胴部	※ 9.6	—	△4.5	外面：貫入、唐草文、風景文？ 内面：貫入			灰色	肥前産
17	排水溝	陶胎染付 香炉	口縁～胴部 破片	※ 9.0	—	△4.0	外面：口縁部２重圏線、胴部草花文、貫入 内面：口縁部以外露胎、貫入			灰白色	肥前産
18	M－22 Ⅲ層	陶器 埦	底部	—	※3.8	△3.5	外面：貫入 内面：貫入			茶色	
19	N－21 Ⅲ層	陶器 皿	底部	—	4.8	△1.7	外面：貫入 内面：貫入、砂目積			灰色	肥前産
20	N－21 Ⅲ層	陶器 鉢	口縁 破片	※12.4	—	△2.9	外面：貫入 内面：胴部露胎			黒茶色	
21	N－22 Ⅳ層	陶器 擂鉢	口縁 破片	※23.4	—	△5.3	外面：回転ナデ 内面：擂目	密 白色粒、砂粒	良	赤茶色	備前焼
22	N－22 Ⅲ層	陶器 擂鉢	口縁～胴部	※35.4	—	△7.8	外面：回転ナデ 内面：擂目	密 白色粒、黒色粒	良好	暗赤灰色	
23	L－21 Ⅳ層	土師質土器 皿	口縁 破片	※9.4	※5.0	△1.5	外面：胴部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 白色粒	やや良	黄灰白色	内面炭化物付着
24	M－22 Ⅲ層	棒状土製品		長さ 2.1	幅 0.6	重量 0.6		密	良	褐色	全面赤彩
25	M－22 Ⅲ層	棒状土製品		長さ 2.4	幅 0.6	重量 1.0		密	良	褐色	全面赤彩

第354表　５区遺構外出土金属製品観察表（第704図）

遺物番号	出土場所	種別	部位 残存率	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	材質	備考
26	N－22 Ⅲ層	鉛玉	完形	直径 1.3	—	—	12.5	鉛	
27	L－21 Ⅲ層	煙管	雁首	2.8	2.7	2.2	4.5	銅	

第355表　５区遺構外出土石器、石製品観察表（第704～706図）

遺物番号	出土場所	種別 器種	遺存状態	法量（cm） 最大長	最大幅	最大厚	重量（g）	石材	備考
28	M－23 Ⅳ層	臼玉	完形	0.25	直径 0.5	孔径 0.1	0.1	滑石	
29	M－22 Ⅳ層	管玉	完形	1.05	直径 0.45	—	0.3	緑色凝灰岩	
30	M－23 Ⅳ層	石鏃	ほぼ 完形	1.95	1.2	0.3	0.5	黒曜石	
31	L－21 Ⅲ層	石鏃	ほぼ 完形	2.1	1.4	0.4	0.7	黒曜石	
32	L－22 Ⅳ層	石鏃	完形	1.9	1.2	0.4	0.7	黒曜石	
33	L－21 Ⅲ層	石鏃	ほぼ 完形	1.8	1.4	0.4	0.7	黒曜石	
34	N－22 Ⅲ層	石鏃	ほぼ 完形	1.6	1.3	0.3	0.4	黒曜石	
35	N－22 Ⅲ層	石鏃	ほぼ 完形	2.4	1.7	0.5	1.1	黒曜石	
36	N－21 Ⅲ層	石鏃未製品	完形	1.8	1.9	0.6	1.8	黒曜石	

37	M－22 Ⅲ層	石錐	完形	2.9	1.1	0.7	1.1	黒曜石	
38	L－23 Ⅲ層	楔形石器	ほぼ 完形	3.5	1.6	1.0	6.1	黒曜石	風化あり
39	M－22 Ⅲ層	楔形石器	完形	1.8	2.7	1.1	5.9	黒曜石	
40	M－22 Ⅳ層	楔形石器	完形	2.4	2.4	0.8	4.0	黒曜石	
41	M－22 Ⅲ層	石核	完形	3.3	2.8	1.1	9.0	黒曜石	
42	L－21 Ⅲ層	石核	完形	1.9	2.1	1.3	6.4	黒曜石	
43	M－22 Ⅳ層	石核	完形	3.4	4.8	1.7	20.3	黒曜石	
44	M－21 Ⅲ層	加工痕のある 剥片	完形	1.9	1.5	0.7	1.7	玉髄	
45	M－23 Ⅲ層	加工痕のある 剥片	完形	2.2	2.7	0.9	4.4	黒曜石	
46	M－22 Ⅲ層	楔形石器	完形	1.3	2.4	0.5	1.2	黒曜石	
47	M－21 Ⅲ層	磨石	完形	9.0	7.5	2.9	285.9	デイサイト	
48	M－22 Ⅲ層	磨石	完形	14.8	14.2	4.1	1308.4	デイサイト	
49	M－22	標石	完形	25.1	14.7	5.3	2900.0	デイサイト	

第356表　６区遺構外出土土器、土製品、磁器観察表（第707～712図）

遺物 番号	出土場所	種　別 器　種	部位 残存率	法　量（cm） 口　径	 底　径	 器　高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	D－3 褐色土	弥生土器 壺	口頸部 1/4	※11.5	—	△ 7.4	外面：ハケ、口縁端部２条・口縁部５条・頸部３条の凹線 内面：ハケ	密 雲母・石英	良好	橙褐色	内外面赤彩
2	E－4 暗褐色土	弥生土器 壺	口頸部 1/12	※21.0	—	△ 4.7	外面：ハケ、口縁端部２条・頸部３条の凹線 内面：ハケ	密 石英・白色粒	良好	黒茶色	
3	C－3 a層	弥生土器 壺	口頸部 1/8	※17.8	—	△ 7.1	外面：口縁部ナデ、頸部１条の凹線、肩部ハケ・指押さえ、 櫛状工具による刺突文 内面：口頸部指押さえ・ナデ、肩部ケズリ→ナデ・ハケ	密 石英・砂粒	良	橙色	
4	F－4	弥生土器 壺	口縁～体部 1/5	※16.9	—	△17.6	外面：口縁部ナデ、頸部～体部ハケ・ナデ 内面：口頸部ナデ、体部ナデ・ケズリ	密	良	橙色～ 橙褐色	
5	G－4	弥生土器 壺	口縁～肩部 1/3	※20.5	—	△ 9.9	外面：口縁部４条の平行沈線、体部指押さえ・ハケ・ミガキ 内面：口縁部ナデ・ミガキ、頸部指押さえ・ナデ、肩部ケズリ	密 石英・白色粒	良	橙色	
6	C－2 a層	弥生土器 壺	口縁～肩部 1/3	※21.3	—	△ 9.3	外面：口縁部３条の凹線、頸部ナデ、肩部６条の凹線 内面：口縁部指押さえ、頸部ナデ、肩部ケズリ	密 石英・白色粒	良	褐色	
7	G－4	弥生土器 壺	口縁～肩部 1/4	※17.9	—	△ 7.5	外面：口縁部３条の凹線、頸部ナデ・指押さえ・３条の 凹線 内面：口頸部指押さえ・ナデ・ハケ、肩部ケズリ	密 石英・白色粒	良	灰褐色	
8	C－2 a層	弥生土器 壺	口縁～肩部 1/8	※23.7	—	△ 7.9	外面：口縁部３条の凹線、頸部ナデ・ハケ 内面：口縁部ナデ	密 雲母・石英	良	黄橙色	
9	C－3 褐色土	弥生土器 壺	口頸部 1/4	※21.2	—	△ 6.7	外面：口縁部指押さえ・横ナデ、頸部ミガキ・ハケ・縦 ４条→横４条の凹線 内面：指押さえ	密 石英・砂粒	良	黄橙色	
10	F－8 暗褐色土	弥生土器 壺	口頸部 1/6	※17.2	—	△ 7.0	外面：口縁部４条の平行沈線、頸部指押さえ、櫛状工具 による刺突文２段 内面：口頸部ナデ、肩部ケズリ	密 石英・白色粒	良	橙褐色	
11	C－4 暗褐色土	弥生土器 壺	口頸部 1/6	※27.0	—	△ 9.3	外面：口縁部３条の凹線、頸部指押さえ・ミガキ・ハケ、 肩部１条の平行沈線・刺突文 内面：指押さえ・ナデ・ハケ	密	良	黄橙色	
12	E－8 暗褐色土	弥生土器 壺	口縁～体部	※19.4	—	△13.1	外面：口縁部３条の平行沈線・頸部４条の凹線、頸部～ 体部ハケ 内面：口頸部ナデ、体部ケズリ	密 石英・白色粒	良	淡褐色	
13	C－2 a層	弥生土器 壺	口頸部 1/4	※23.9	—	△11.3	外面：口縁部２条・肩部３条の凹線、頸部指押さえ、ハケ 内面：口頸部ナデ・指押さえ、肩部ケズリ	密	良	浅黄橙色	
14	E－8 暗褐色土	弥生土器 壺	口縁～肩部 1/3	※19.6	—	△10.7	外面：口縁部４条の平行沈線、頸部横・縦ミガキ 内面：口頸部ミガキ、肩部ケズリ	密 石英・白色粒	良	淡橙褐色	
15	E－5	弥生土器 壺	1/2	※25.7	※ 6.7	△50.0	外面：口縁部５条の平行沈線、頸部ハケ・ミガキ、体部 ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ→指押さえ、体部ケズリ	密 角閃石・石英	良	褐色	
16	C－3 褐色土	弥生土器 壺	1/2	※30.6	—	△40.5	外面：口縁部13条の平行沈線、頸部羽状文３段・貼付突 体部押引文、肩部波状文、体部ミガキ・ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ・ハケ	密 角閃石・石英	良	橙褐色	
17	D－2 暗褐色土	弥生土器 壺	口頸部 破片	※15.6	—	△ 5.7	外面：口縁部５条の平行沈線→ナデ、頸部刺突文 内面：口縁部ナデ、頸部ミガキ、肩部ケズリ	密 砂粒	良	褐色	
18	G－4	弥生土器 壺	口頸部 1/6	※12.9	—	△ 3.8	外面：口縁部４条の平行沈線 内面：口頸部ナデ、肩部ケズリ	密 雲母・石英	良	褐色	内外面赤彩 頸部穿孔１個
19	G－4	弥生土器 壺	口頸部 1/4	※15.3	—	△ 3.2	外面：口縁部櫛状工具による波状文、頸部指押さえ・ナデ 内面：口頸部ナデ・櫛状工具による波状文、肩部ケズリ	密 石英・白色粒	良	灰色～ 淡褐色	
20	G－4	弥生土器 直口壺	口頸部 1/5	※12.7	—	△ 6.0	外面：ハケ・指押さえ、肩部刺突文 内面：口頸部指押さえ・肩部ケズリ	密 石英・白色粒	良	橙色	
21	G－4	弥生土器 直口壺	口頸部 1/6	※10.0	—	△ 4.1	外面：口頸部ナデ、肩部ミガキ・ハケ 内面：口頸部ナデ、肩部ケズリ	密 砂粒	良	灰色	頸部穿孔１個 外面煤付着 外面口縁赤彩
22	I－9 暗褐色土	弥生土器 小壺	1/2	※16.1	—	△ 4.8	外面：指押さえ→ナデ、体部下半ケズリ→指押さえ→ナデ 内面：ケズリ→指押さえ→ナデ	密 角閃石・雲母・石英	良	褐色	
23	G－4	弥生土器 壺	口縁部 破片	—	—	△ 5.3	外面：口縁上部・口縁部竹管文、口縁部櫛状工具による 羽状文 内面：ナデ	密 砂粒	良	淡褐色	

24	C－4	弥生土器 壺？	肩部 破片	—	—	△ 8.8	外面：スタンプ文・櫛状工具による直線文２段 内面：剥離のため調整不明	密 石英・白色粒	良好	褐色～ 灰褐色	
25	E－8	弥生土器 甕	口縁～体部 1/5	※17.5	—	△12.9	外面：口縁部３条の平行沈線、頸部ナデ、体部指押さえ・ナデ 内面：口縁部横ナデ、頸部指押さえ・ナデ、体部ケズリ	密 石英・砂粒	良	赤橙褐色	外面頸部 煤付着
26	G－4	弥生土器 甕	口縁～体部 1/6	※24.9	—	△ 8.4	外面：口縁部３条の凹線、体部指押さえ・ハケ・波状文？ 内面：口頸部指押さえ・ナデ、体部ケズリ	密 石英・白色粒	良	橙色	
27	E－8	弥生土器 甕	口縁～体部 1/5	※17.5	—	△10.4	外面：頸部～体部指押さえ・ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部ミガキ、体部ケズリ	密 白色粒・砂粒	良	橙色	外面体部 煤付着
28	C－3 褐色土	弥生土器 甕	口縁～体部 1/5	※18.0	—	△ 8.1	外面：体部ハケ 内面：体部ケズリ→ナデ	密 石英・白色粒	良	橙色	外面体部 煤付着
29	C－3 a層	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/9	※16.6	—	△ 6.7	外面：口縁部４条の平行沈線、頸部ナデ、肩部ハケ→ミガキ 内面：口頸部ナデ→ミガキ、肩部指押さえ・ケズリ→ミガキ	密	良	橙色	外面口縁部 煤付着
30	E－8 暗褐色土	弥生土器 甕	口縁～体部 2/5	※22.0	—	△18.6	外面：口縁部３条の平行沈線 内面：口頸部ナデ、体部ケズリ	密 白色粒	良	淡褐色	外面煤付着
31	E－8	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/6	※16.7	—	△ 5.9	外面：口頸部ナデ、肩部指押さえ・ハケ 内面：剥離のため調整不明	密 砂粒	良	橙色	外面少量 煤付着
32	G－4	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/2	※17.4	—	△ 7.4	外面：頸部ナデ、肩部ハケ 内面：肩部ケズリ	密 石英・砂粒	良	淡橙褐色	
33	F－4	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/5	※19.3	—	△ 7.0	外面：口縁部１条以上の平行沈線文、肩部櫛描き文？ 内面：肩部ケズリ	密 石英・白色粒	良	褐色	
34	G－8	弥生土器 甕	口縁～体部 1/5	※16.5	—	△11.8	外面：口縁部４条の平行沈線→ナデ、頸部ナデ、体部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ、体部ケズリ	密 白色粒・砂粒	良	橙褐色	
35	G－4	弥生土器 甕	口頸部 1/6	※20.5	—	△ 4.3	外面：口縁部４条の平行沈線 内面：剥離のため調整不明	密 石英・白色粒	良	橙色	
36	D－3 a層	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/4	※15.6	—	△ 8.1	外面：口縁部３条の平行沈線→ナデ、体部ハケ 内面：口頸部ナデ、体部ハケ	密 石英・白色粒	良好	橙褐色	
37	C－3 褐色土	弥生土器 甕	ほぼ完形	※17.0	※ 5.0	△22.0	外面：口縁部貝殻腹縁による５～６条の直線文、肩部櫛状工具による押引き文、体部ハケ→ミガキ、底部ケズリ→ナデ 内面：口縁部ミガキ、体部ケズリ→ミガキ・指押さえ	密 石英・砂粒	良	褐灰色 ～ 橙色	外面一部 煤付着
38	G－4	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/4	※20.7	—	△12.2	外面：口縁部貝殻腹縁による８条の直線文、肩部貝殻腹縁による刺突文、体部指押さえ・ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部ミガキ、体部指押さえ・ケズリ	密 雲母・石英	良	橙色	
39	D－3 褐色土	弥生土器 甕	口縁～肩部 1/4	※11.7	—	△ 5.6	外面：口縁部２条の凹線、頸部指押さえ・ナデ 内面：口頸部指押さえ・ナデ、肩部ケズリ	密	良	褐色	
40	C－2	弥生土器 装飾壺	体部 破片	—	—	△ 2.2	外面：ナデ、竹管文３段 内面：ナデ	密 白色粒・砂粒	良	淡橙褐色	
41	E－2 a層	弥生土器 装飾壺	体部 破片	—	—	△ 3.2	外面：ミガキ、３条単位の沈線区画の竹管文 内面：ケズリ	密 白色粒	良	橙褐色	
42	F－4 暗褐色土	弥生土器 注口土器	把手部	長さ ※10.7	幅 3.2	厚さ 1.5	外面：摩耗の為調整不明	密	良	褐色～ 橙褐色	
43	C－2 a層	弥生土器 注口土器	把手部	長さ ※ 6.2	幅 3.3	厚さ 1.6	外面：ミガキ・指押さえ	密 角閃石・石英	良	橙褐色	
44	D－2 暗褐色土	弥生土器 注口土器	把手部	長さ ※ 5.6	幅 2.2	厚さ 1.6	外面：ナデ・ケズリ	密 白色粒・砂粒	良	橙色	
45	D－3	弥生土器 注口土器	注口部	長さ ※ 4.6	幅 2.0	注口径 0.7	外面：ケズリ→ナデ	密 角閃石・石英	良好	褐色	
46	C－2 a層	弥生土器 高坏	坏部 1/12	※16.8	—	△ 3.4	外面：口縁上端３条の凹線、坏部ハケ・ナデ 内面：ナデ	密 砂粒	良	橙灰色	口縁部内面 炭化物付着
47	C－2 a層	弥生土器 高坏	坏部 1/8	※13.5	—	△ 3.9	外面：口縁部２条の凹線、坏部ミガキ 内面：ミガキ	密	良	橙色	内外面赤彩 廃棄後被熱？
48	D－3 a層	弥生土器 高坏	坏部 1/12	※20.1	—	△ 3.3	外面：口縁上端４条の平行沈線 内面：ミガキ	密 白色粒	良好	橙褐色	内外面 茶系赤彩
49	D－2	弥生土器 高坏	坏部	※22.2	—	△ 8.1	外面：口縁部ナデ、坏部ミガキ・指押さえ 内面：ミガキ・指押さえ	密 石英・砂粒	良	橙色	
50	E－8 暗褐色土	弥生土器 高坏	4/5	20.6	14.6	△15.0	外面：坏部下半３条の沈線 内面：脚部内面ケズリ	密	良	淡褐色	脚部三方円形透かし
51	G－6	土師器 高坏	1/4	※17.2	—	△ 7.0	内外面：ハケ→ミガキ・ナデ 接合部円盤充填法	密 砂粒	良	橙色	
52	C－3 褐色土	弥生土器 高坏	脚部 1/3	—	※13.8	△ 3.9	摩耗のため調整不明	密 石英・砂粒	良	橙色	円形透かし 1個以上
53	F－8 暗褐色土	弥生土器 高坏	脚部 破片	—	※15.5	△ 2.9	外面：脚端部３条以上の沈線 内面：摩耗のため調整不明	密	良	褐色	円形透かし ３個以上
54	E－5 暗茶褐色土	弥生土器 器台	4/5	※19.1	17.4	16.9	外面：口縁部・脚端部３条の平行沈線文 内面：脚部ケズリ	密 角閃石・石英	良	淡褐色	接合部四方 方形透かし
55	G－4	弥生土器 器台	受部～脚部 1/3	—	※15.2	△11.0	外面：受部・脚部ハケ・指押さえ、接合部ナデ 内面：受部～接合部指押さえ・ナデ、脚部ケズリ	密 石英・砂粒	良	淡褐色	外面赤彩
56	G－10 暗褐色土	弥生土器 器台	脚部	—	12.6	△ 6.0	外面：脚部指押さえ→ナデ、脚端部貝殻腹縁による直線文 内面：ケズリ・ナデ	密 石英・白色粒	良	橙褐色	四方透かし 赤彩？
57	C－3 褐色土	弥生土器 器台	受部 1/8	※20.0	—	△ 7.0	外面：口縁部貝殻腹縁による４条の平行沈線、受部ナデ・山形文 内面：口縁部指押さえ・横ナデ、受部ケズリ→ナデ	密 石英・砂粒	良	橙色	
58	D－3 暗褐色土	弥生土器 器台	脚部 1/4	—	※15.6	△ 8.2	外面：脚部ミガキ、脚端部６条の平行沈線 内面：指押さえ・ケズリ・ナデ	密 石英・砂粒多量	良	褐色	円形透かし １個以上
59	C－3 褐色土	弥生土器 器台	受部～ 接合部	※17.8	—	△ 6.7	外面：口縁部ナデ、受部ミガキ、接合部凹線・貝殻腹縁による列点文・ミガキ 内面：受部ミガキ、接合部ナデ	密	良	橙色	
60	C－2 a層	弥生土器 器台	受部 1/8	※18.0	—	△ 8.0	外面：口縁部櫛状工具による直線文、受部ミガキ 内面：ミガキ・ハケ→指押さえ	密 石英・砂粒多量	良	橙色	
61	C－3 a層	弥生土器 器台	受部～ 接合部	18.8	—	△ 9.0	外面：口縁部貝殻腹縁による直線文、受部ハケ→ミガキ 内面：ハケ→横・縦ミガキ	密 石英・砂粒多量	良	橙色	
62	C－2 a層	弥生土器 器台	脚部 1/4	—	※16.1	△11.2	外面：縦・横ミガキ・櫛状工具による直線文 内面：ケズリ→ナデ	密 石英・白色粒	良	褐色	脚下端煤付着
63	D－2 a層	弥生土器 器台	脚部 2/3	—	※16.0	△ 7.0	外面：ミガキ・貝殻腹縁による直線文 内面：ケズリ→ミガキ・ナデ	密 石英・砂粒多量	良	橙色	
64	D－2 a層	弥生土器 高坏	脚部 1/2	—	※ 6.7	△ 3.0	外面：ハケ・２条の凹線 内面：ハケ・指押さえ	密 雲母・砂粒多量	良	橙色	

65	D－2 a層	弥生土器 蓋	つまみ部	—	—	△ 5.7	外面：ミガキ 内面：ケズリ	密	良	浅黄橙色	上部穿孔・煤付着・被熱痕
66	E－2 a層	土師器 甕	口縁～体部 1/4	※12.7	—	△10.7	外面：口縁部指押さえ・ナデ、体部ハケ 内面：口縁部指押さえ・ナデ、体部ケズリ→ナデ	密 雲母・石英	良	褐色	外面一部 煤付着
67	C－2 a層	土師器 低脚坏	坏部～脚部 1/2	—	※ 7.5	△ 5.2	外面：坏部ハケ、脚部指押さえ・横ナデ 内面：坏部ハケ→ナデ、脚部指押さえ	密 石英・白色粒	良	橙褐色	
68	H－11 暗褐色土	土師器 甕	口縁～肩部 1/8	※12.0	—	△ 5.3	外面：指押さえ→ナデ 内面：口縁部指押さえ→ナデ、肩部ケズリ→ナデ	密 角閃石・石英	良	橙褐色	
69	F－9	土師器 鉢	1/3	※16.2	※10.0	8.4	外面：ハケ→指押さえ・ナデ、底面ナデ 内面：ハケ→指押さえ・ナデ	密	良	橙褐色	
70	G－4	土師器 小型丸底壺	1/5	※ 5.9	—	△ 6.0	外面：口縁部ナデ、頸部ヘラ状工具による列点文、体部ハケ 内面：剥離のため調整不明	密 砂粒	良	褐色	
71	D－3 a層	土師器 甕	口縁～体部 1/8	※11.2	—	△ 5.0	外面：口頸部ナデ、体部ハケ 内面：口頸部ナデ、体部ケズリ	密 雲母・石英	良好	灰褐色	外面一部 煤付着
72	G－4	土師器 甕	口縁～体部 1/3	※17.0	—	△ 7.8	外面：口縁部横ナデ、頸部～体部指押さえ・ハケ 内面：口縁部ナデ、体部指押さえ・ハケ	密 白色粒・砂粒	良	橙褐色	
73	J－10 暗褐色土	土師器 鉢	4/5	9.2	4.3	6.0	外面：工具によるナデ・指押さえ 内面：工具によるナデ・指押さえ	密 角閃石・石英	良	暗褐色	外面一部 煤付着
74	I－8 暗褐色土	土師器 坏	1/3	※12.4	※ 8.0	3.5	外面：ナデ、底面ヘラ切り・指頭押圧 内面：ナデ	密	良好	橙褐色	
75	G－4	土師器 甑	把手部	長さ 6.5	幅 3.0	孔径 1.0	指押さえ・ナデ	密 石英・白色粒	良	橙色	
76	F－9	土師器 甑	把手部	長さ 4.5	幅 2.9	△ 6.8	指押さえ・ナデ	密 砂粒	良	灰褐色	外面煤付着
77	D－2 暗褐色土	土師器 甑	把手部	長さ ※ 2.5	幅 1.2	△ 4.8	外面：把手部指押さえ、体部ハケ 内面：指押さえ	密 石英・白色粒	良	橙色	
78	E－10	土師器 甑	広口部 破片	※21.0	—	△ 9.1	外面：広口部指押さえ・ナデ、体部ハケ 内面：広口部指押さえ・ナデ、体部ケズリ	密 石英・砂粒	良	橙茶色	
79	G－4	土師器 甑	広口部 破片	※20.0	—	△ 6.5	外面：指押さえ・ハケ 内面：指押さえ・ハケ	密 雲母・白色粒	良	橙色	
80	C－3 a層	土製品 土玉	完形	2.0	2.0	1.9	丁寧なナデ	密	良	黒茶色	重量：7.5ｇ 被熱痕
81	I－11 暗褐色土	土師器 移動式竈	庇部	長さ ※11.8	幅 ※24.4	厚さ ※ 5.7	ハケ・指押さえ・ナデ	密 石英・白色粒	良	橙褐色	庇部被熱痕
82	D－2 暗褐色土	土製品	把手部	長さ ※ 6.5	幅 ※ 3.0	厚さ ※ 1.7	外面：ミガキ・ケズリ・ナデ 内面：ケズリ・ナデ	密 白色粒・砂粒	良	浅黄橙色	
83	E－5 表土	土師器 転用土器	—	長さ 6.5	幅 6.7	厚さ 1.1		密	良好	褐色	焼成後穿孔
84	D－3 暗褐色土	須恵器 坏蓋	4/5	※15.8	—	2.5	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	やや良	淡青灰色	つまみ部内側 墨書？
85	D－2 暗褐色土	須恵器 坏蓋	3/4	※15.4	—	2.8	外面：口縁～体部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ・ナデ 内面：口縁部～体部回転ナデ、天井部ナデ	密 小石粒(φ5㎜)・砂粒	良好	青灰色	
86	H－4	須恵器 坏蓋	完形	13.4	—	4.4	外面：口縁～体部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：口縁～体部回転ナデ、天井部ナデ	密 雲母・白色粒	良好	青灰色	
87	H－4	須恵器 坏蓋	完形	13.1	—	3.8	外面：口縁～体部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：口縁～体部回転ナデ、天井部ナデ	密 白色粒・黒色粒	良	青灰色	
88	I－8 暗茶褐色土	須恵器 坏蓋	1/4	※13.0	—	4.0	外面：口縁～体部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ・ナデ 内面：口縁～体部回転ナデ、天井部ナデ	やや密 砂粒	良好	黒灰褐色	
89	G－10 暗褐色土	須恵器 坏蓋	完形	10.2	—	3.6	外面：口縁～体部回転ナデ・ケズリ、天井部ヘラ起こし→ナデ 内面：口縁～体部回転ナデ、天井部ナデ・指押さえ	密 砂粒	良好	青灰色	
90	G－5 暗茶褐色土	須恵器 坏蓋	完形	11.4	—	3.7	外面：口縁～体部回転ナデ、天井部ヘラ切り→雑なナデ 内面：口縁～体部回転ナデ、天井部ナデ	密 石英・白色粒	良好	青灰色	遺物番号91とセット
91	G－5 暗茶褐色土	須恵器 坏身	完形	9.7	—	3.4	外面：口縁～体部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ、ヘラ記号 内面：口縁～体部回転ナデ、底部ナデ	密	良好	淡青灰色	遺物番号90とセット
92	D－5	須恵器 坏身	ほぼ完形	※12.0	—	4.0	外面：口縁～体部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ・ナデ 内面：口縁～体部回転ナデ、底部ナデ	密 石英・砂粒	良好	青灰色	
93	C－4 暗褐色土	須恵器 坏身	1/4	※13.7	※ 9.4	3.9	外面：口縁～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁～体部回転ナデ、底部ナデ	密 砂粒	やや良	赤褐色	
94	F－4 暗褐色土	須恵器 坏身	1/2	※13.5	※10.5	3.8	外面：口縁～体部回転ナデ、底部ヘラ切り→ケズリ 内面：口縁～体部回転ナデ、底部ナデ	密 砂粒	良好	青灰色	
95	C－3 暗褐色土	須恵器 坏身	1/8	※13.0	※ 9.0	3.5	外面：口縁部回転ナデ、体部ナデ、底部ヘラ切り→ナデ 内面：口縁～体部回転ナデ、底部ナデ	密 砂粒	やや 不良	灰色	
96	C－3 褐色土	須恵器 坏身	1/2	※13.9	※ 9.7	3.4	外面：口縁部回転ナデ、体部ケズリ、底部ヘラ切り→ナデ 内面：口縁～体部回転ナデ、底部ナデ	密 石英・砂粒	良好	青灰色	
97	D－3 a層	須恵器 坏身	1/2	※13.3	9.1	5.1	外面：口縁～体部回転ナデ、底部糸切り→ナデ、貼付高台 内面：口縁～体部回転ナデ、底部ナデ	密 砂粒	良	淡青灰色	
98	G－10 暗褐色土	須恵器 坏身	1/2	※15.0	6.8	5.0	外面：口縁～体部回転ナデ、底部ヘラ起こし→ナデ、貼付高台 内面：口縁～体部回転ナデ、底部ナデ	密 砂粒	良好	青灰色	
99	G－4 暗褐色土	須恵器 坏身	1/4	※18.4	※10.2	5.6	外面：口縁部回転ナデ、体部回転ヘラケズリ→ナデ、底部糸切り→ナデ、貼付高台 内面：口縁～体部回転ナデ、底部ナデ	密 砂粒	良好	青灰色	
100	E－2 a層	須恵器 鉢	口縁部 破片	※46.0	—	△ 7.2	外面：平行叩き目・ヘラ状工具による２条の直線文 内面：叩き目→ナデ	密 砂粒	良好	灰色～ 黒灰色	
101	C－2 a層	須恵器 甕	口縁～肩部 1/4	※20.6	—	△11.7	外面：口縁部回転ナデ、肩部平行叩き目 内面：口縁部回転ナデ、頸部ナデ、肩部当具による同心円文	密 砂粒	良好	青灰色	口縁上部、 外面自然降灰
102	F－6	白磁 碗	口縁部 破片	※14.5	—	△ 3.0	外面：貫入、灰白色釉 内面：貫入、灰白色釉	密	良好	灰白色	白磁碗V-1a類
103	F－10 暗褐色土	中世須恵器 甕	体部 破片	—	—	△ 5.0	外面：叩き目 内面：ナデ	密	良好	灰色～ 黒灰色	
104	C－2 a層	土師質土器 火鉢	口縁部 破片	—	—	△ 4.5	外面：連続スタンプ文２段以上 内面：ナデ	密	良	黒色～ 褐色	
105	G－9	土師質土器 皿	1/2	8.0	4.1	1.7	外面：口縁～体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁～体部回転ナデ、底部ナデ	密	良好	淡褐色	
106	G－9	土師質土器 皿	1/3	※ 7.7	※ 4.0	1.9	外面：口縁～体部回転ナデ、底部糸切り 内面：口縁～体部回転ナデ、底部ナデ	やや密 石英・白色粒	やや良	灰褐色	

107	H－9 暗褐色土	土師質土器 皿	底部 2/3	—	※ 4.0	△ 1.2	外面：体部回転ナデ、底面回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密	良	橙褐色	外面茶系赤彩
108	G－9	土師質土器 皿	底部 1/2	—	※ 3.9	△ 0.7	外面：体部回転ナデ、底部糸切り 内面：底部ナデ	密	良	橙褐色	
109	H－9	土師質土器 皿	底部 1/3	—	※ 4.1	△ 1.1	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密	良好	橙褐色	
110	J－11 暗褐色土	磁器 染付皿	1/4	—	※ 8.8	△ 2.5	外面：雪輪文・二重方形枠内「渦福」、高台部露胎・砂付着、蛇の目高台 内面：見込み二重圏線内跳鯉文、貫入	密	良好	白色	肥前系？
111	J－11 暗褐色土	磁器 染付碗	1/8	※12.1	※ 5.6	△ 6.7	外面：草花文、高台部畳付露胎、削り出し高台 内面：見込み一重圏線、意匠不明	密	良好	白色	広東碗
117	C－3 褐色土	土錘	1/2	長さ 4.2	幅 1.2	厚さ 1.0	指押さえ、上端部１条の切り込み	密 白色粒	良	橙色	

第357表　６区遺構外出土金属製品観察表（第712図）

遺物番号	出土場所	種　別	部位 残存率	法　量（cm）			重量(g)	材　質	備　　考
				最大長	最大幅	最大厚			
112	J－8 暗褐色土	古銭 寛永通寶	完形	外径 2.3	穿径 0.7	銭厚 0.1	1.4	銅	古寛永銭
113	H－10	鉛玉	完形	1.3	1.3	1.2	12.0	鉛	
114	F－11	鉛玉	2/3	※ 1.1	1.5	1.4	10.6	鉛	
115	D－3	鎌	—	※12.8	※3.3	0.3	58.2	鉄	
116	E－2 暗褐色土	釘	1/2	※ 4.5	※0.9	※0.4	10.9	鉄	

第358表　６区遺構外出土石器観察表（第712～715図）

遺物番号	出土場所	種　別 器　種	遺存 状態	法　量（cm）			重量(g)	石　　材	備　　考
				最大長	最大幅	最大厚			
118	E－8	石鏃	完形	3.2	2.0	0.6	2.4	サヌカイト？	
119	E－8	石鏃	完形	3.1	1.9	0.4	2.6	サヌカイト	研磨痕
120	E－8	石鏃	完形	2.6	1.6	0.5	1.5	サヌカイト	
121	G－10	石鏃	3/4	※ 1.3	1.2	0.3	0.4	黒曜石	
122	F－8	石鏃	完形	3.1	1.8	0.2	1.3	サヌカイト	研磨痕
123	E－8 暗褐色土	石鏃	完形	2.6	2.3	0.4	1.7	サヌカイト	
124	H－8	石鏃	ほぼ完形	※ 1.3	※ 1.4	0.3	0.3	サヌカイト	
125	C－2 a層	石鏃未成品	—	2.5	1.9	0.6	1.5	黒曜石	
126	G－10 暗褐色土	楔形石器	完形	3.9	1.6	0.9	4.5	黒曜石	
127	F－5 淡褐色土	スクレイパー	—	※ 2.2	※ 1.6	0.5	0.9	黒曜石	
128	F－4	スクレイパー	完形	3.5	2.7	1.5	8.4	黒曜石	
129	F－7 暗褐色土	石核	完形	4.7	2.8	2.5	32.2	黒曜石	
130	G－8 暗褐色土	石核	完形	8.8	7.5	5.9	314.4	黒曜石	
131	G－4 暗褐色土	石鍬	2/3	※11.8	10.0	2.9	331.6	安山岩	研磨痕
132	F－7 暗褐色土	石鍬	2/3	※10.9	8.5	2.3	240.4	デイサイト	
133	E－8 暗茶褐色土	石鍬	完形	8.7	7.5	1.5	97.0	安山岩	
134	G－4 灰褐色土	石鍬	1/2	※ 8.3	※ 6.3	2.3	166.2	デイサイト	
135	J－9 暗褐色土	石鍬	1/2	※ 8.8	7.9	2.5	235.8	緑色片岩	研磨痕
136	C－2 a層	石包丁	ほぼ完形	13.2	4.8	1.2	60.4	緑色凝灰岩	
137	C－2 a層	磨製石斧	1/3	※ 7.7	※ 3.9	3.7	113.6	凝灰岩	
138	F－8 暗褐色土	磨製石斧	破片	※ 3.0	※ 3.3	※ 0.9	11.5	閃緑岩	
139	E－8 暗褐色土	砥石	完形	4.8	4.6	3.0	19.3	軽石	
140	H－8 暗茶褐色土	砥石	1/2	※13.9	※ 9.0	※ 6.3	888.5	デイサイト	砥面３面
141	F－8 暗褐色土	砥石	2/3	※ 8.8	※ 7.2	4.5	566.2	閃緑岩	砥面４面
142	D－6	台石・砥石	ほぼ完形	※23.5	※14.3	14.5	3085.0	花崗岩	砥面４面
143	H－6 暗茶褐色土	砥石	2/3	※ 6.5	※ 3.4	2.7	72.6	凝灰岩	被熱煤付着
144	G－5 暗褐色土	砥石	2/3	※ 7.1	※ 3.3	※ 3.7	95.9	花崗岩	
145	G－9	砥石	ほぼ完形	4.7	1.4	1.5	16.0	デイサイト	砥面６面
146	C－3 褐色土	砥石	完形	4.3	2.1	0.5	5.6	緑色凝灰岩	砥面４面
147	F－3	砥石	破片	※ 2.6	※ 2.2	※ 0.7	6.7	凝灰岩	
148	C－2 a層	磨石	完形	6.6	5.5	3.0	129.7	角閃石安山岩	
149	C－2 a層	磨石	完形	12.8	6.9	4.1	439.7	角閃石安山岩	
150	E－8 暗褐色土	磨石	完形	9.5	3.6	1.6	86.2	デイサイト	被熱痕

151	E－2 a層	磨石	完形	8.4	4.6	2.9	139.0	デイサイト	
152	D－5	磨石	ほぼ完形	9.3	5.6	3.1	232.2	デイサイト	
153	E－2 a層	磨石・凹石	完形	11.0	8.5	3.5	388.3	デイサイト	擦痕有
154	F－5 暗褐色土	磨石・敲石	1/2	※ 6.6	※ 7.8	5.5	283.4	デイサイト	
155	F－5	磨石・敲石	完形	12.5	8.6	4.5	761.2	花崗岩	擦痕有

第359表　４区表土出土土器、陶器観察表（第716図）

遺物番号	出土場所	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	 底径	 器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
1	A－4 表土	土師器 壺	口縁～肩部 ほぼ完形	19.8	—	△13.3	外面：口縁部ナデ、頸部～肩部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ、肩部ケズリ	密 雲母・石英・砂粒	良好	褐色	内外面黒斑
2	B－11 表土	弥生土器 甕	口縁～胴部 1/5	※11.4	—	△ 7.7	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密 石英・白色粒・砂粒	良好	褐色	外面薄い赤彩
3	D－12 表土	土師器 甕	口縁部 破片	※14.6	—	△ 3.3	外面：口縁部ナデ、頸部ハケ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密 石英・砂粒	良好	灰褐色	
4	E－12 表土	弥生土器 壺	口縁部 1/8	※37.0	—	△ 9.2	外面：口縁部ナデ、頸部指押さえ→ナデ 内面：摩耗のため調整不明	密 石英・白色粒・砂粒	良好	灰褐色	
5	D－11 表土	手捏ね土器 埦	4/5	9.9	6.8	6.2	外面：胴部指押さえ→ケズリ→ナデ、底部ケズリ→ナデ 内面：指押さえ→ケズリ→ナデ	密 石英・白色粒・砂粒	良好	橙色	
6	E－11 表土	土製支脚	把手部	長さ ※ 7.3	幅 10.1	厚さ 5.0	外面：ケズリ→ナデ	密 石英・白色粒・砂粒	良好	橙褐色	
7	E－10 表土	移動式竈	底部 破片	長さ ※ 8.4	幅 ※12.9	厚さ 6.0	外面：ハケ 内面：ケズリ	密 石英・砂粒	良好	橙褐色	外面黒斑
8	E－12 表土	須恵器 坏身	1/4	※12.1	—	△ 4.3	外面：口縁～体部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：口縁～体部回転ナデ、底部ナデ	密 石粒	良好	青灰色	
9	表土	須恵器 長頸壺	胴部～底部	—	※ 8.3	△ 9.3	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密 白色粒	良好	暗青灰色	
10	表採	陶器 皿	底部 破片	—	※ 5.7	△ 1.3	外面：印花文 内面：印花文	密 雲母・砂粒	良	黄褐色	瀬戸
11	C－11 表土	須恵器 甕	胴部 破片	—	—	△ 7.4	外面：叩き 内面：ナデ	密	良	灰色	

第360表　４区表土出土石器観察表（第716図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存 状態	法量（cm） 最大長	 最大幅	 最大厚	重量 （g）	石材	備考
12	表土	石鏃	破片	4.9	5.0	1.0	24.0	安山岩	
13	表土	敲石・磨石	完形	11.5	8.2	6.5	762.3	角閃石安山岩	

第361表　６区表土出土石器、石製品観察表（第717図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	遺存 状態	法量（cm） 最大長	 最大幅	 最大厚	重量 （g）	石材	備考
1	表土	石鏃	完形	2.3	1.3	0.3	0.5	黒曜石	
2	表土	鏡模造品？	完形	3.6	3.6	0.4	10.2	滑石	

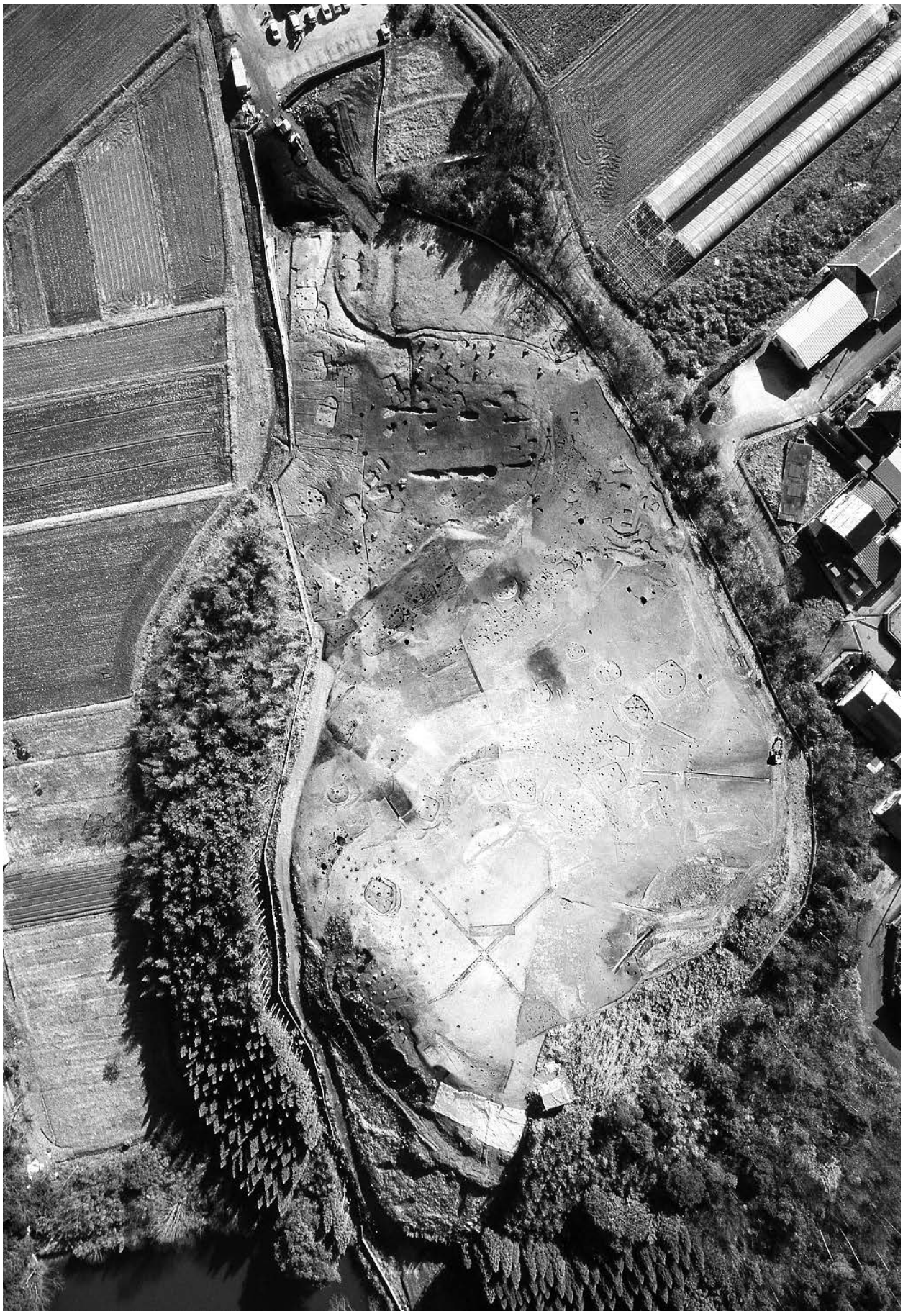
第362表　６区表土出土土器観察表（第717図）

遺物番号	出土層位	種別 器種	部位 残存率	法量（cm） 口径	 底径	 器高	調整・文様	胎土	焼成	色調	備考
3	表土	須恵器 壺転用硯？	—	—	8.3	2.9	外面：体部ケズリ、底部ナデ、貼付高台 内面：回転ナデ	密 砂粒	良好	青灰色	内面底部墨？ 付着

第363表　６区表土出土金属製品観察表（第717図）

遺物番号	出土層位	種別	部位 残存率	法量（cm） 最大長	 最大幅	 最大厚	重量(g)	材質	備考
4	表土	鉛玉	完形	1.2	1.2	1.2	11.1	鉛	

写　真　図　版



２・３・４・６区全景（上が南東）

図版2

調査地周辺の地形（北西から）

調査地周辺の地形（南東から）

1区北東側全景（西から）

1区南西側全景（西から）

図版4

５区全景（北東から）

３区４層上面検出遺構全景（南東から）

２・３区全景（東から）

２・３区全景（上が南西）

図版6

4区全景（上が北東）

4区全景（南東から）

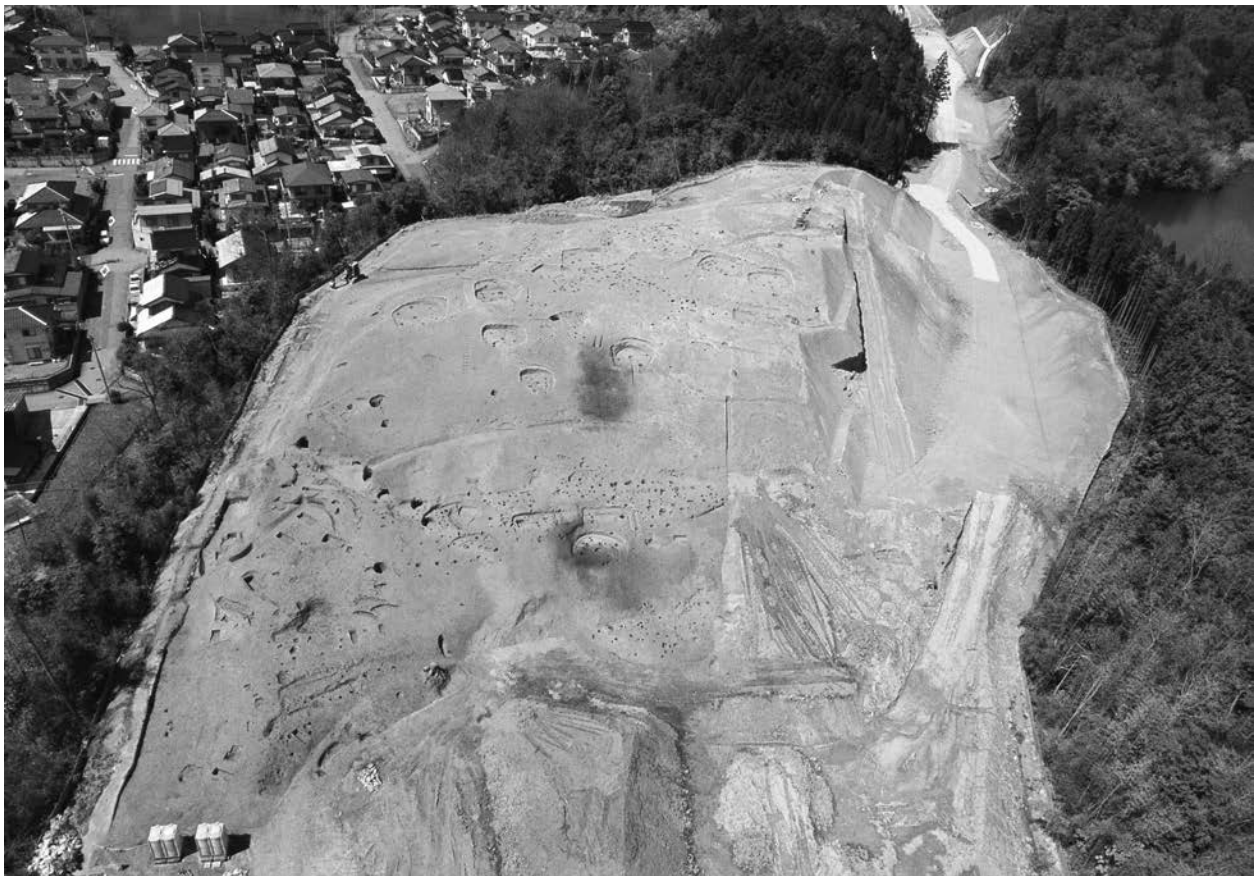
4区全景（上が東）

4区SS25・27・28～33（上が西）

図版8

4区SS28～33（上が西）

6区全景（北東から）



６区全景（南から）

６区全景（南西から）

図版10

６区全景（北西から）

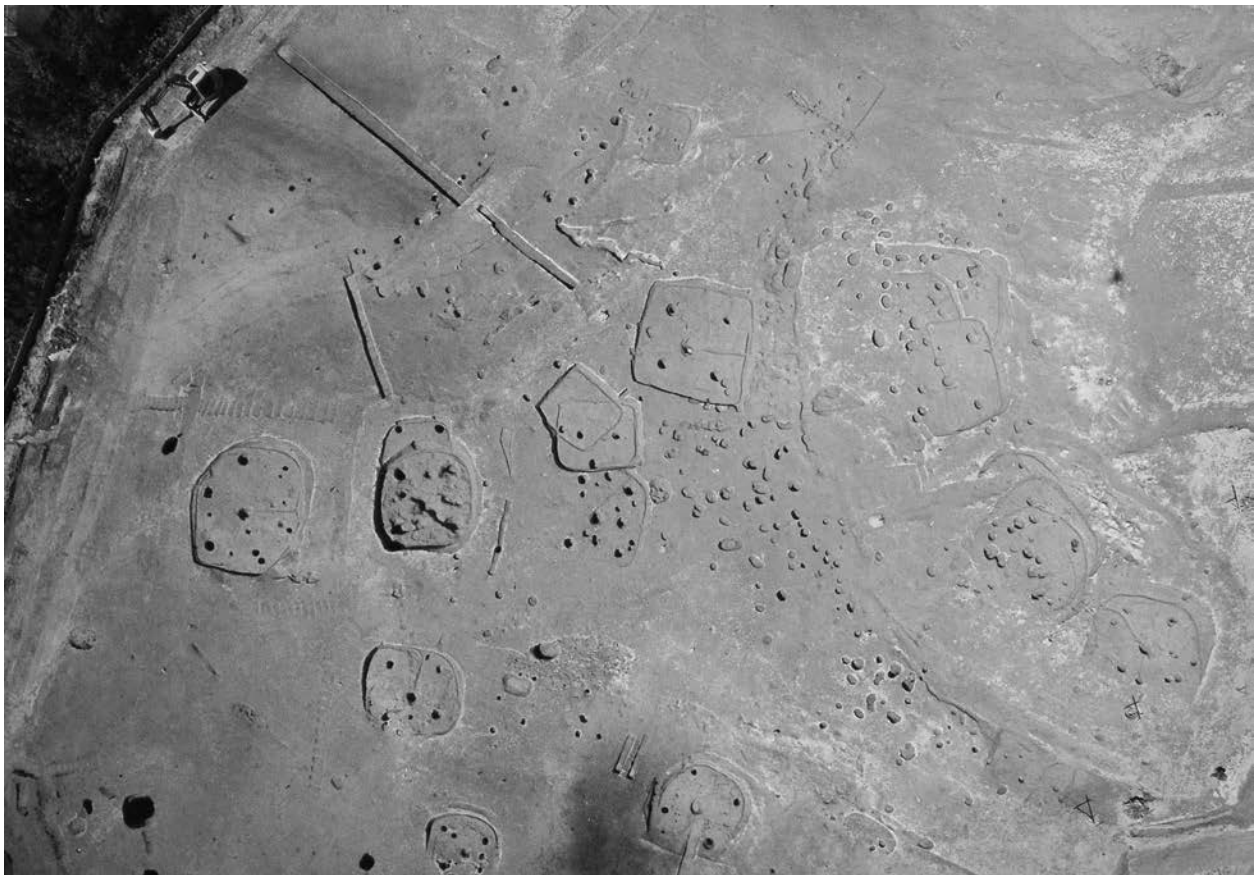
６区西側谷部全景（北から）

６区南側全景（上が北）

６区南側尾根部全景（南から）

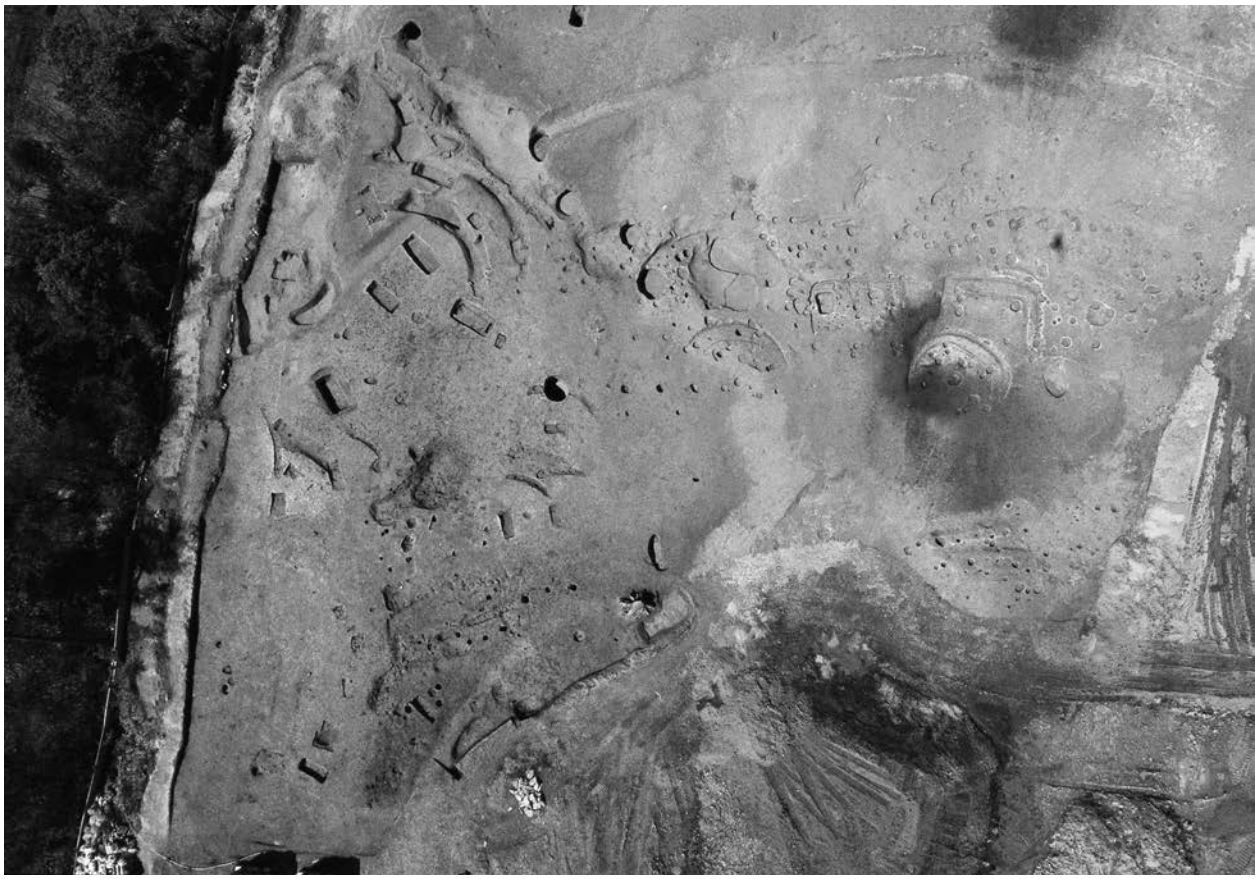
図版12

４区SS５、６区SI１～12・15、SS１～３・９・10・17、SK４（上が北西）



４区SS５、６区SI１～４・６・８、SS１～３、SK４（上が北西）

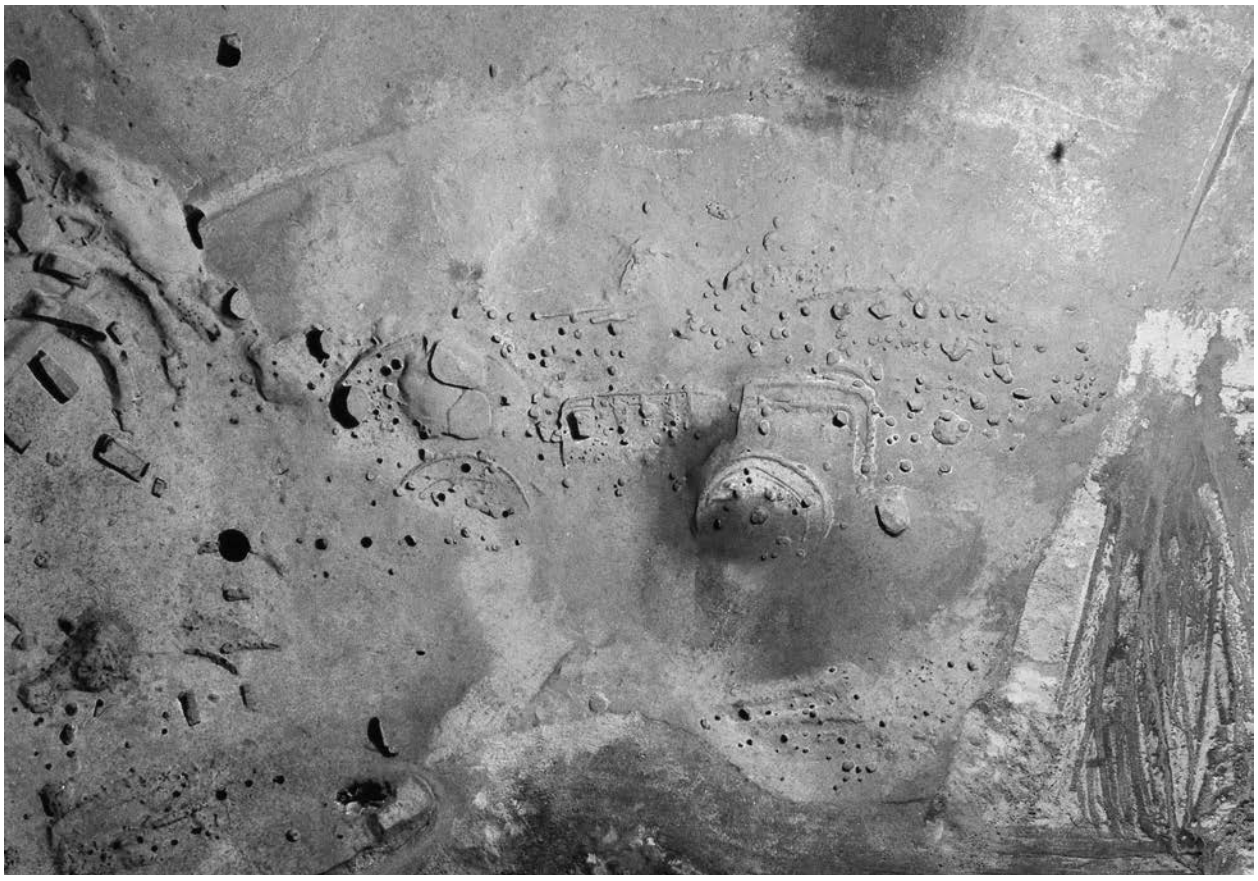
６区東側斜面全景（南東から）



６区東側斜面裾部全景（上が北西）

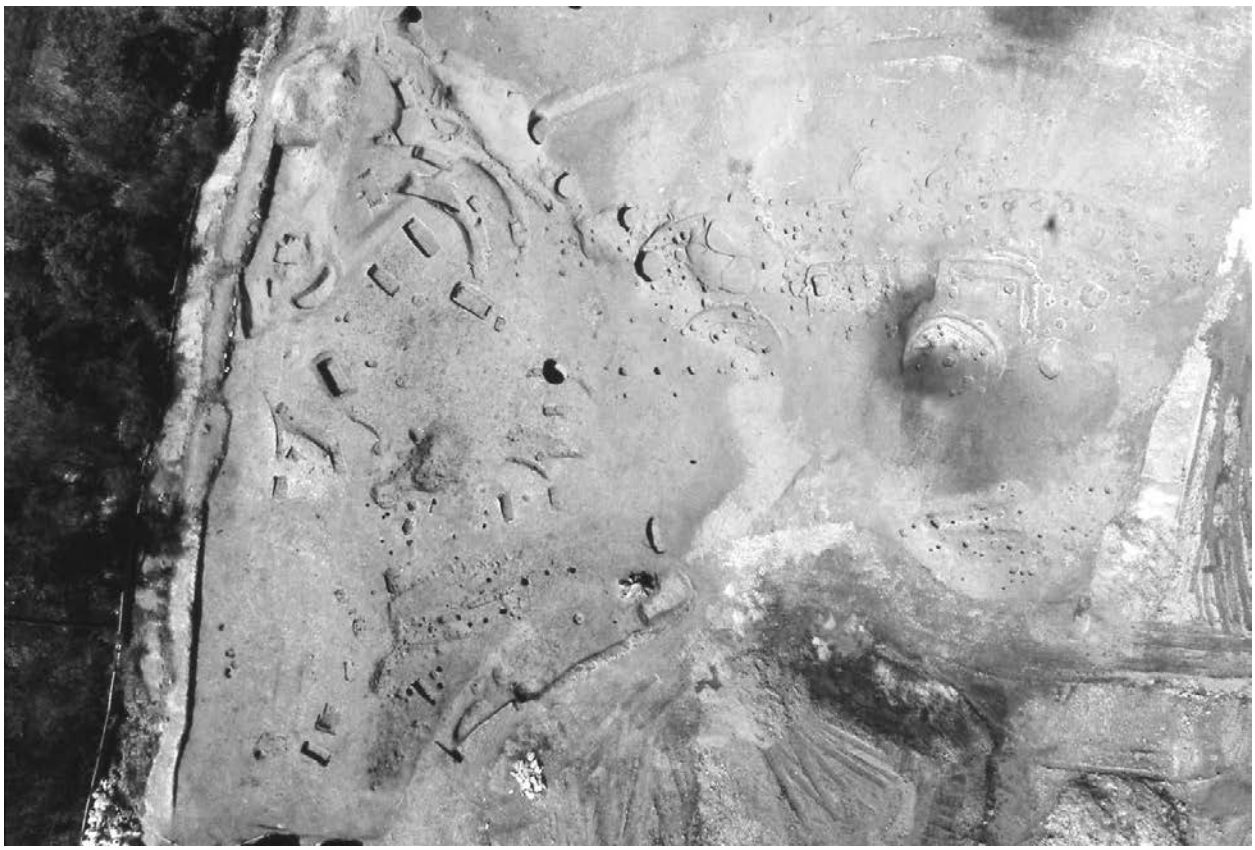
図版14

6区SI17～19・22・24・25、SS14・16・22・34（上が北西）



6区SI22・24・25、SS14・16・22（上が北西）

２・３区木棺墓群、溝状土壙群（上が南西）



６区木棺墓群、弧状溝群（上が西）

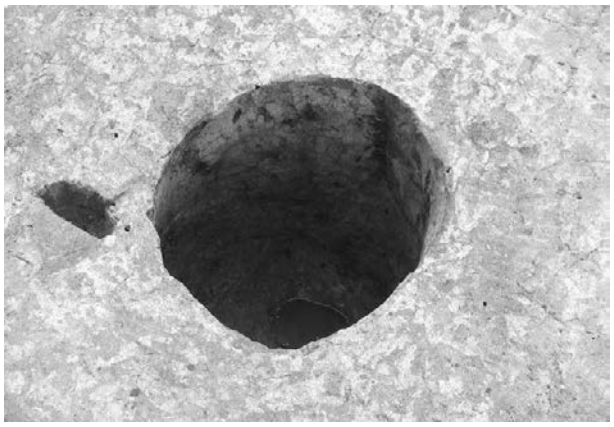
図版16

５区北東側木棺墓群（西から）

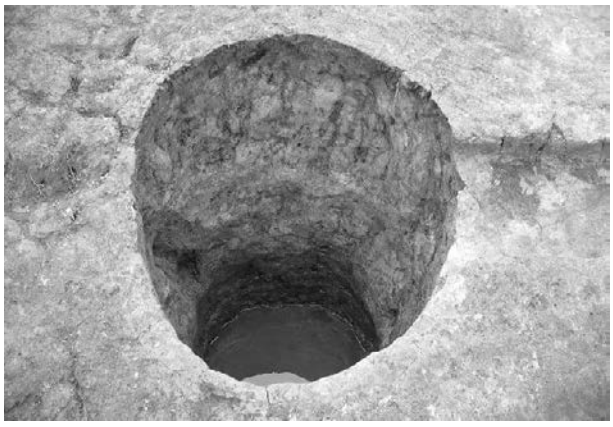
５区南西側木棺墓群（西から）

２区SK９完掘（北西から）

２区SK10完掘（北西から）



２区SK11完掘（北西から）



３区SK18完掘（北東から）

３区SK35完掘（南西から）

３区SK39完掘（北東から）

４区SK７完掘（北から）

４区SK８完掘（北から）

図版18

６区SK５完掘（南から）

６区SK７完掘（南から）

６区SK９完掘（北西から）

６区SK10完掘（北から）

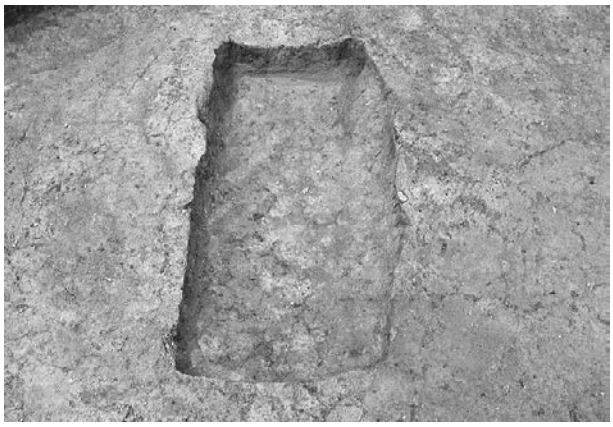
６区SK11完掘（南東から）

６区SK14完掘（北から）

６区SK22完掘（東から）

６区SI４-P７完掘（南から）

1区SK1完掘（南東から）



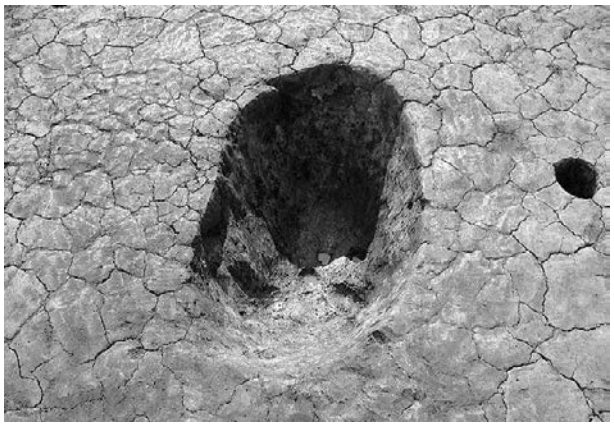
1区SK2完掘（東から）

1区SK3完掘（西から）

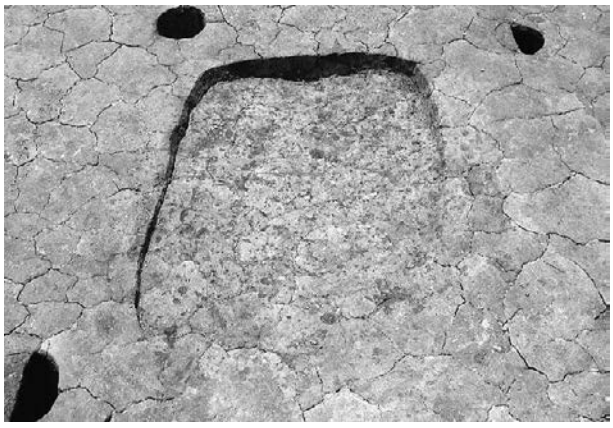
1区SK4完掘（北西から）

1区SK5完掘（西から）

2区SK2標石検出状況（南から）



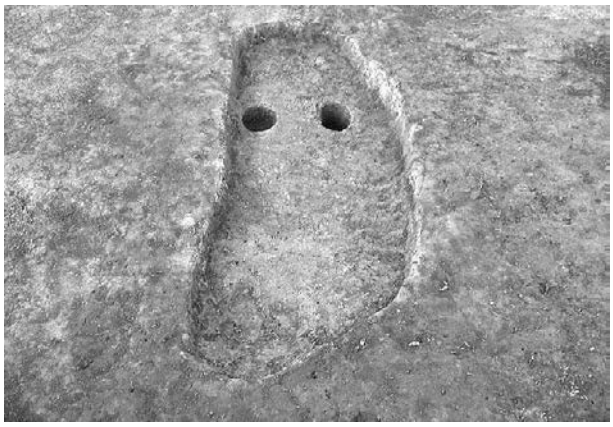
2区SK2完掘（西から）



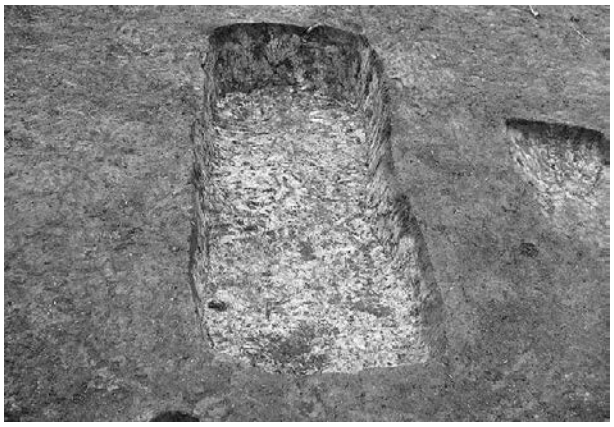
2区SK3完掘（北から）

図版20

３区SK１完掘（東から）

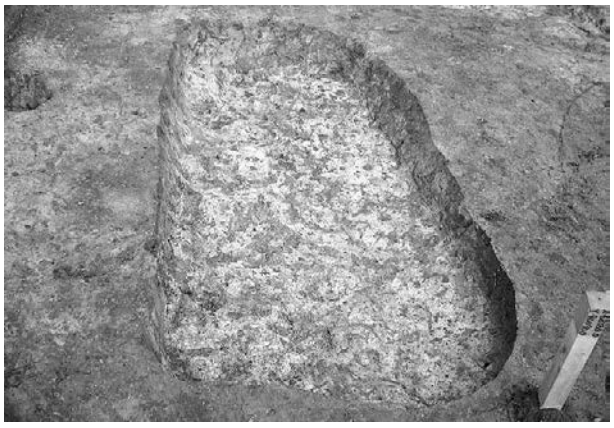


３区SK７完掘（北東から）

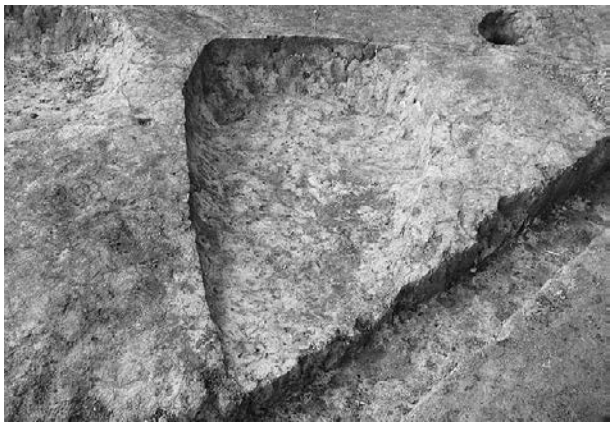


３区SK11完掘（東から）

３区SK14完掘（東から）



３区SK15完掘（南から）



３区SK16完掘（東から）

３区SK17完掘（北東から）

３区SK19完掘（北東から）

３区SK20完掘（北東から）

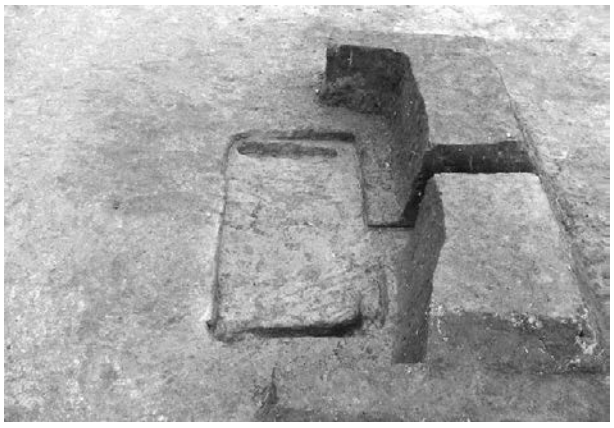
３区SK21完掘（北東から）

３区SK22完掘（北東から）

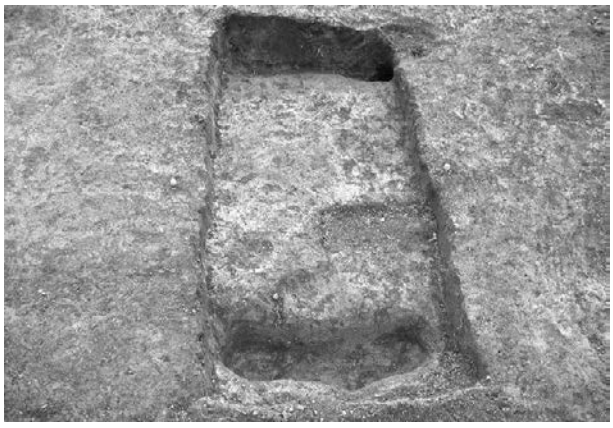
３区SK23完掘及び石検出状況（北東から）

３区SK26完掘及び石検出状況（北西から）

３区SK30完掘（北東から）



３区SK32完掘（南西から）



３区SK43完掘（北から）

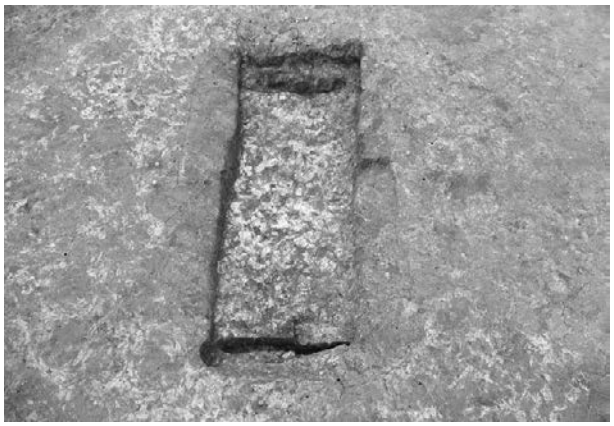
図版22

３区SK57完掘（北から）

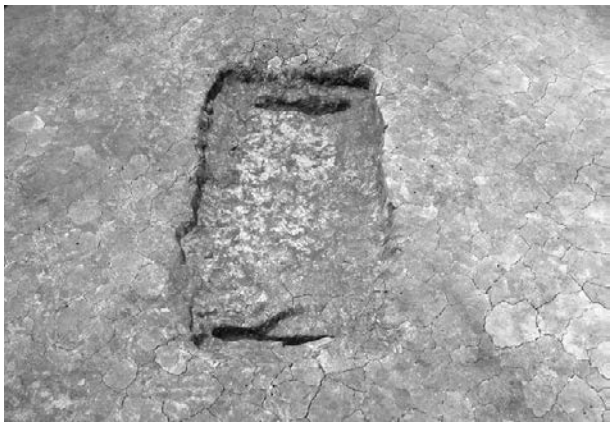
５区SK２棺裏込め石検出状況（東から）

５区SK２完掘（東から）

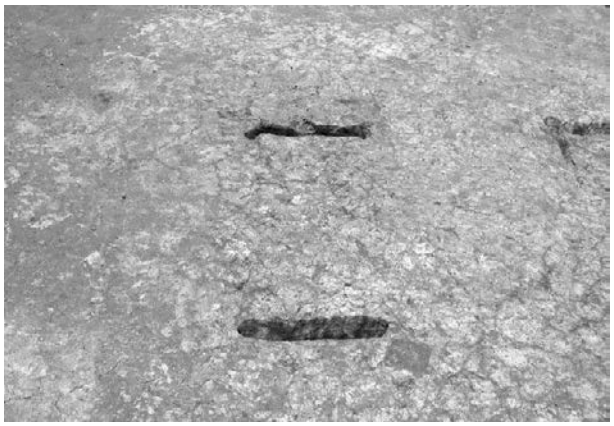
５区SK３完掘（南東から）



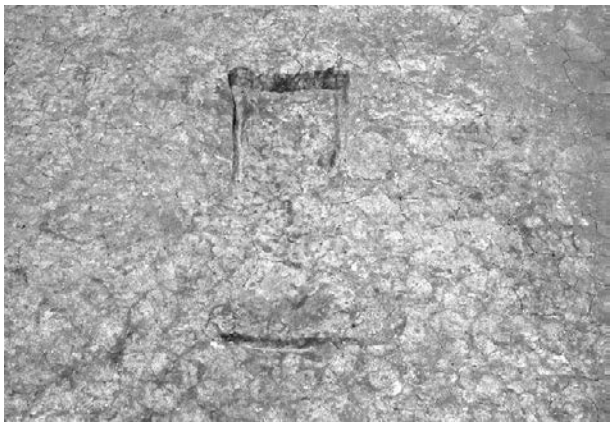
５区SK４棺痕跡検出状況（東から）



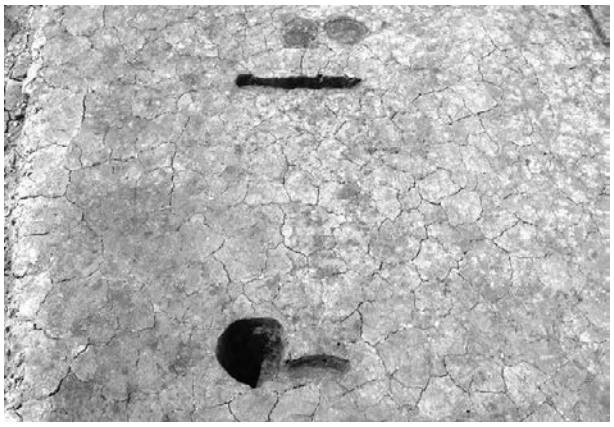
５区SK４完掘（東から）



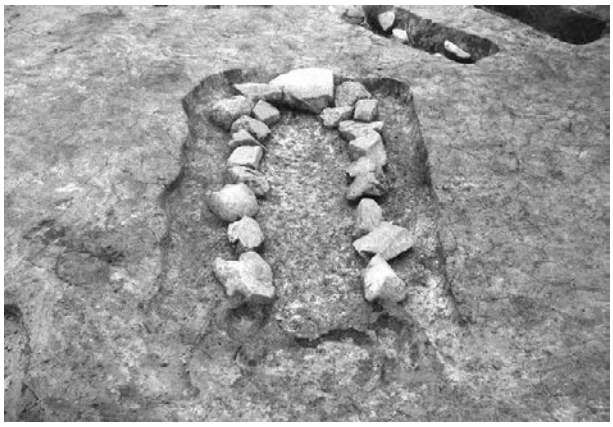
５区SK５完掘（南東から）



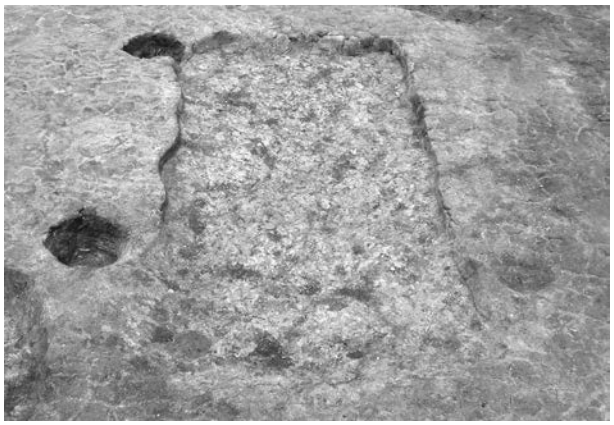
５区SK６完掘（南東から）



５区SK７完掘（北東から）



５区SK８配石検出状況（東から）



５区SK８完掘（東から）

５区SK９棺裏込め石検出状況（北東から）

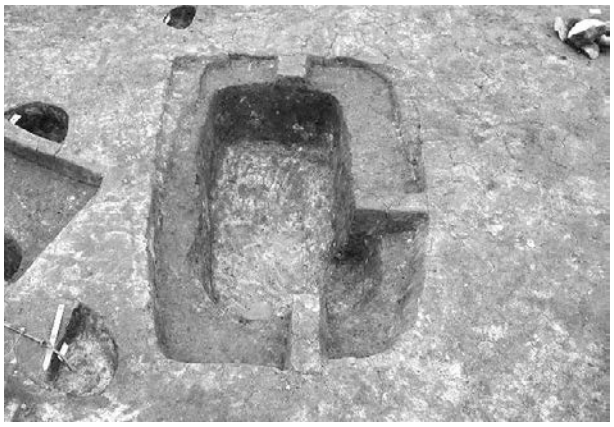
５区SK９完掘（北東から）

５区SK10棺痕跡検出状況（北東から）

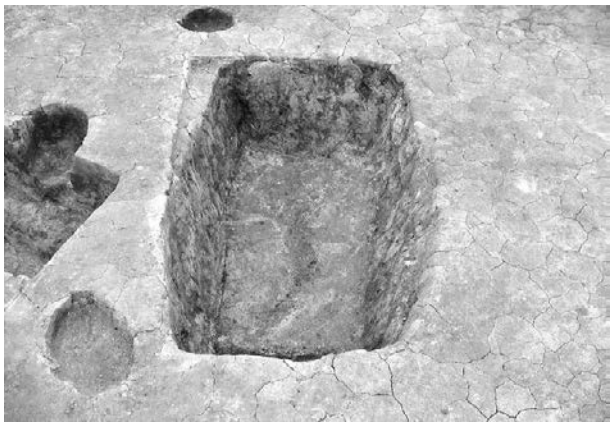
５区SK10完掘（北東から）

５区SK11石検出状況（北西から）

図版24



５区SK11棺痕跡検出状況（北西から）



５区SK11完掘（北西から）

５区SK12棺痕跡検出状況（北東から）

５区SK12完掘（北東から）

５区SK13棺痕跡検出状況（南から）

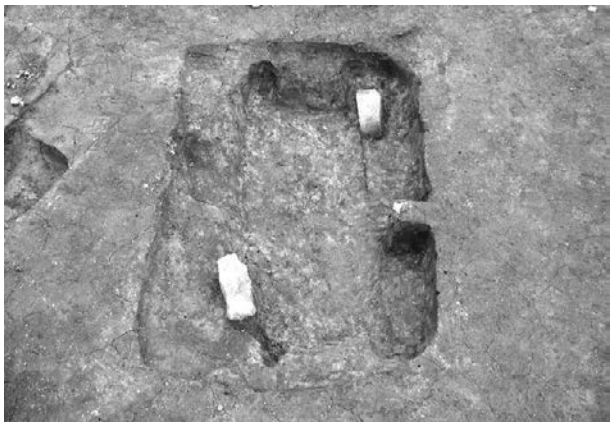
５区SK13完掘（南から）

５区SK14完掘（東から）

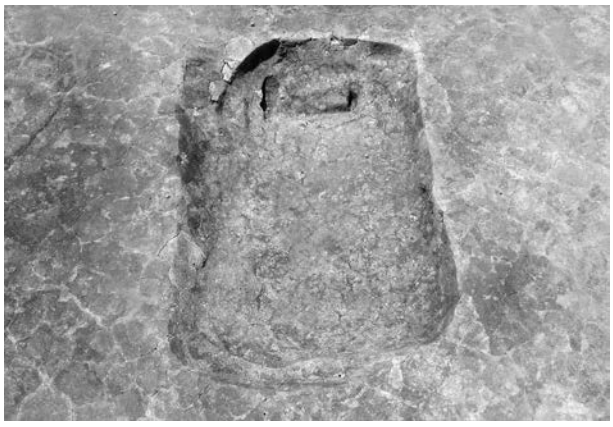
５区SK15完掘（東から）

５区SK16棺裏込め石検出状況（東から）

５区SK16完掘（東から）



５区SK17棺痕跡及び棺裏込め石検出状況(東から)



５区SK17完掘（東から）

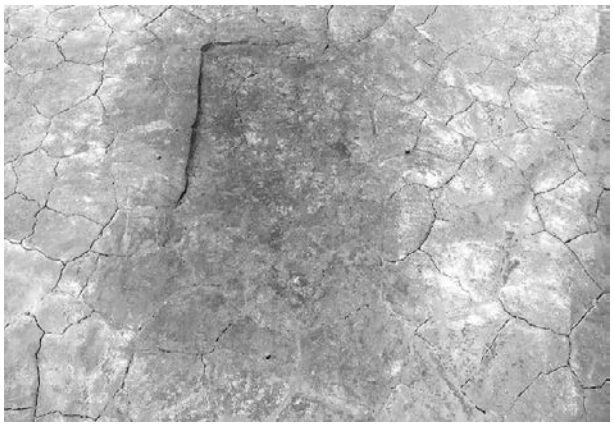
５区SK18棺裏込め石検出状況（北東から）

５区SK18完掘（北東から）

５区SK21棺痕跡検出状況（南西から）

５区SK21完掘（南西から）

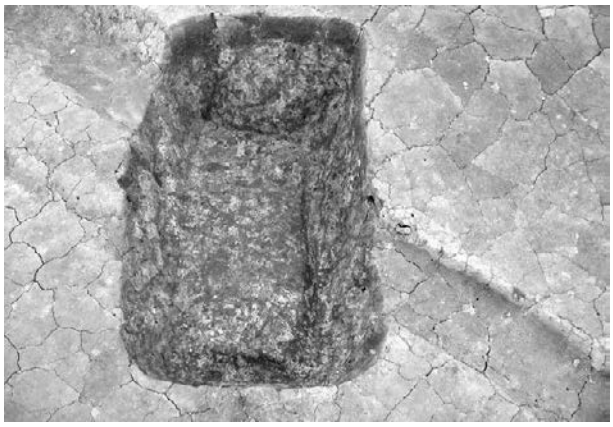
図版26



5区SK25完掘（東から）

5区SK26石検出状況（東から）

5区SK26棺痕跡検出状況（東から）



5区SK26完掘（東から）

5区SK27棺痕跡検出状況（西から）

5区SK27完掘（東から）

5区SK28棺痕跡検出状況（東から）

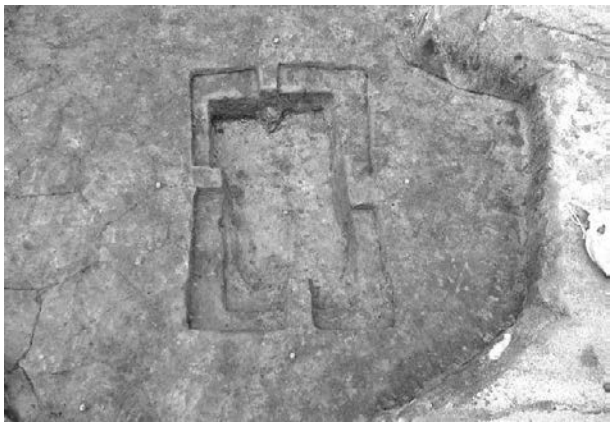
5区SK28・31完掘（東から）

５区SK29棺痕跡検出状況（南西から）

５区SK29完掘及び石検出状況（南西から）

５区SK30棺痕跡検出状況（東から）

５区SK30完掘（東から）



５区SK32棺痕跡検出状況（東から）

５区SK32完掘（東から）

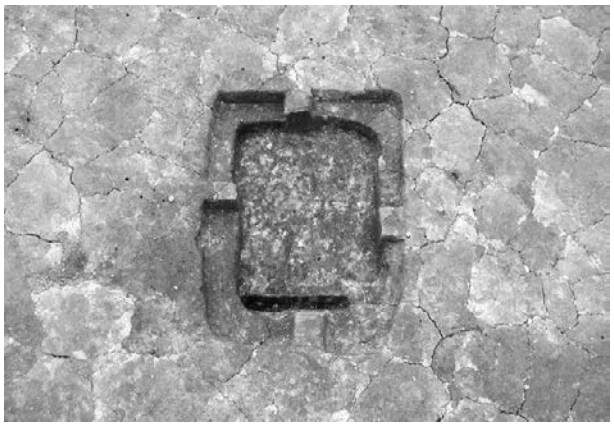
５区SK33棺痕跡検出状況（北東から）

５区SK33完掘（北から）

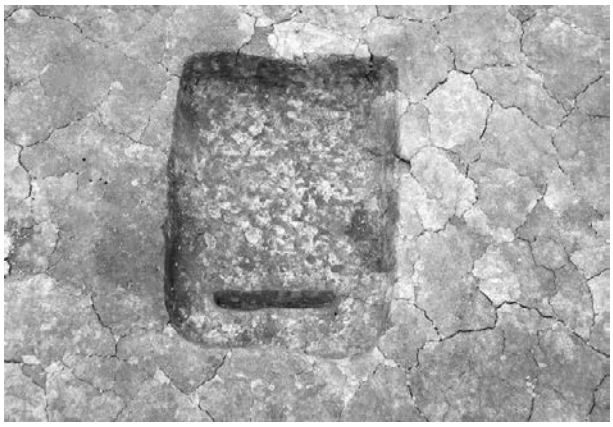
図版28

５区SK34棺痕跡検出状況（北東から）

５区SK34完掘（北東から）

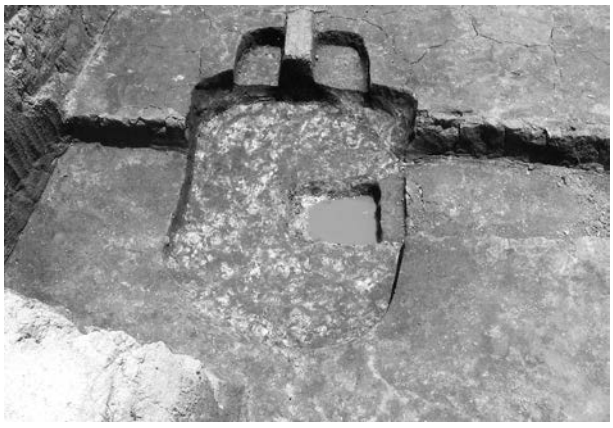


５区SK35棺痕跡検出状況（東から）



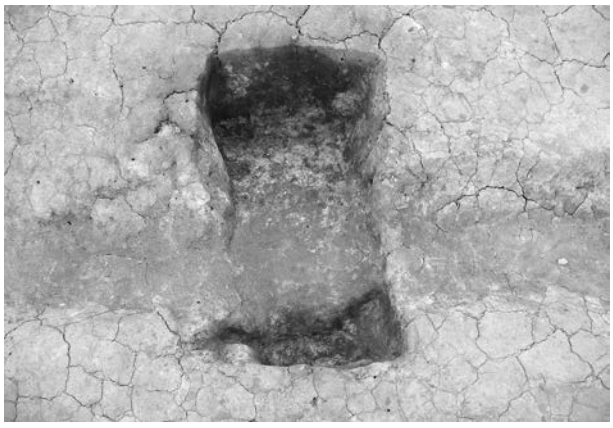
５区SK35完掘（東から）

５区SK36棺痕跡検出状況（南東から）



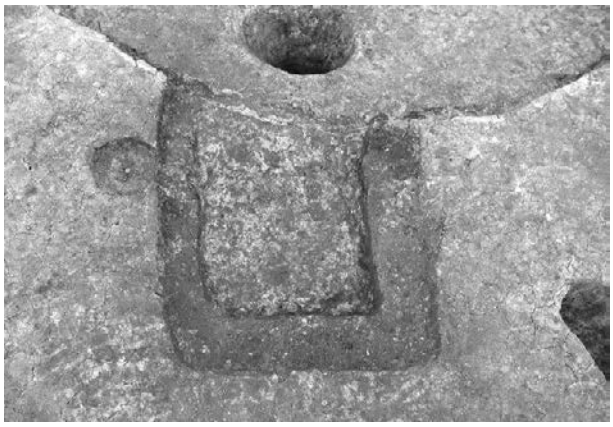
５区SK36完掘（北西から）

５区SK37棺痕跡検出状況（南東から）

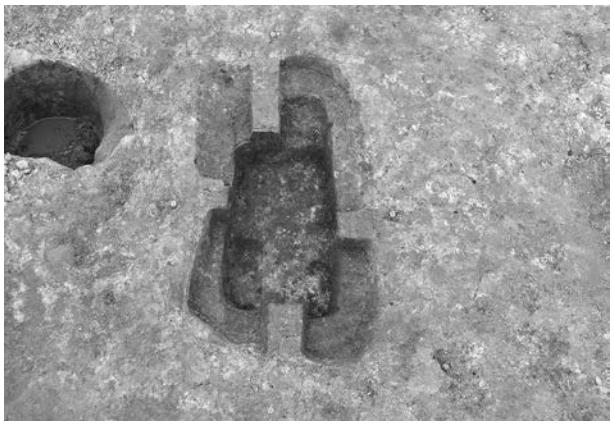


５区SK37完掘（南東から）

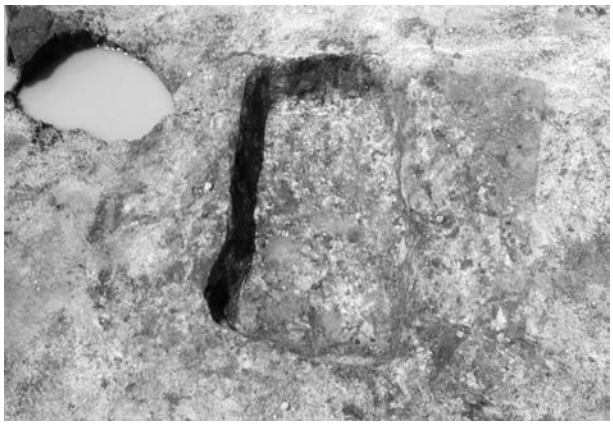
5区SK38完掘（南西から）



5区SK39完掘（東から）



5区SK40棺痕跡検出状況（北東から）



5区SK40完掘（北東から）

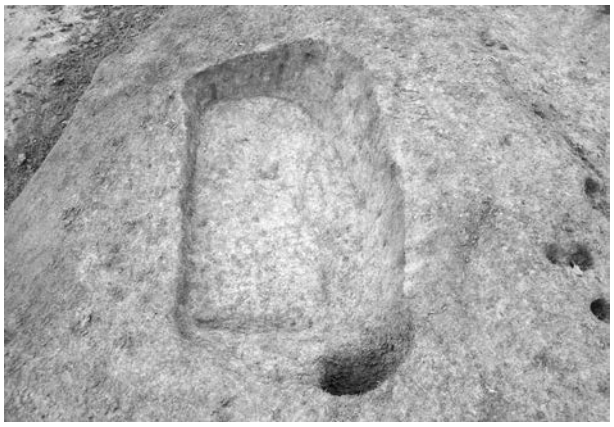
5区SK41棺痕跡検出状況（東から）

5区SK41完掘（東から）

5区SK42完掘（南西から）

5区SK44完掘（東から）

図版30



６区SK15完掘（東から）

６区SK16完掘（東から）

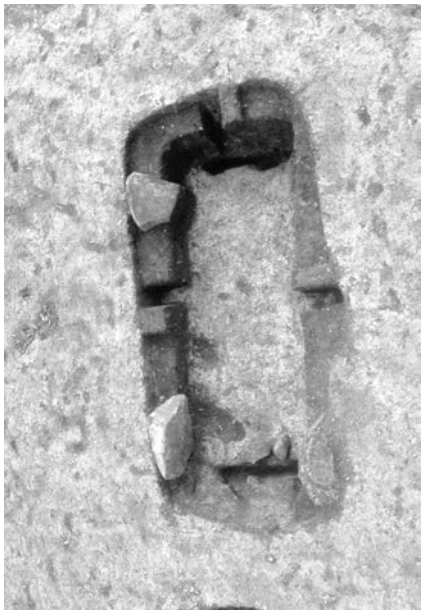
６区SK16棺痕跡検出状況（東から）

６区SK17完掘（北東から）

６区SK17棺痕跡検出状況
（北東から）

６区SK18棺痕跡検出状況
（北東から）

６区SK18完掘（北東から）



６区SK19棺痕跡及び棺裏込め
石検出状況（北東から）

６区SK19棺裏込め石検出状況（北東から）

６区SK19完掘（北東から）

図版32

6区SK21完掘（南西から）

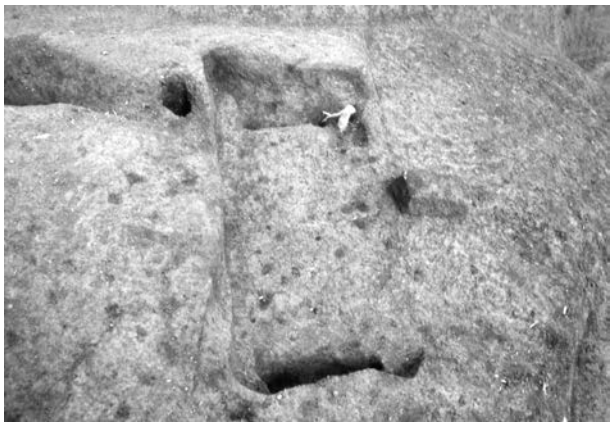
6区SK32完掘（東から）

6区SK33完掘（北東から）

6区SK34完掘（南西から）

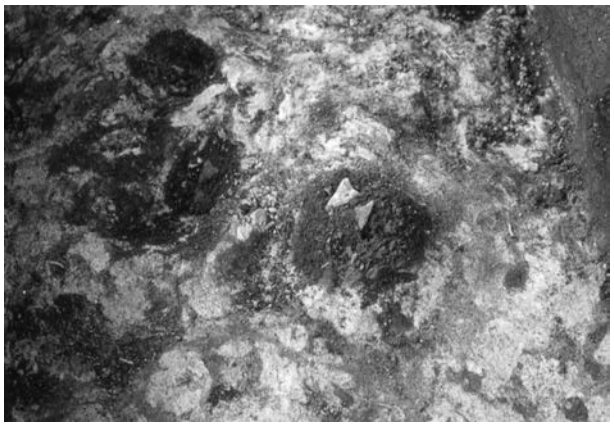
6区SK35棺痕跡検出状況（西から）

6区SK35棺裏込め石検出状況（西から）



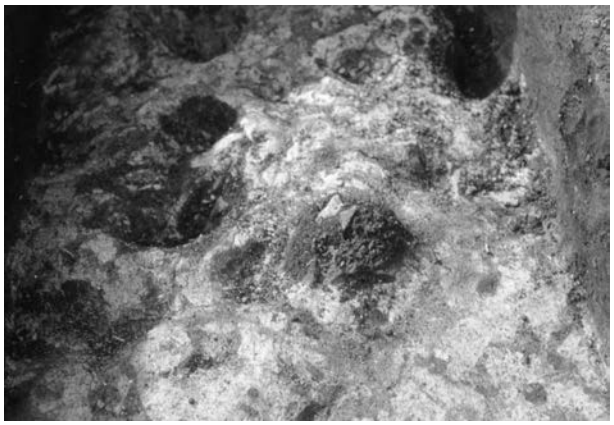
6区SK35完掘（西から）

6区SK37棺痕跡検出状況（東から）

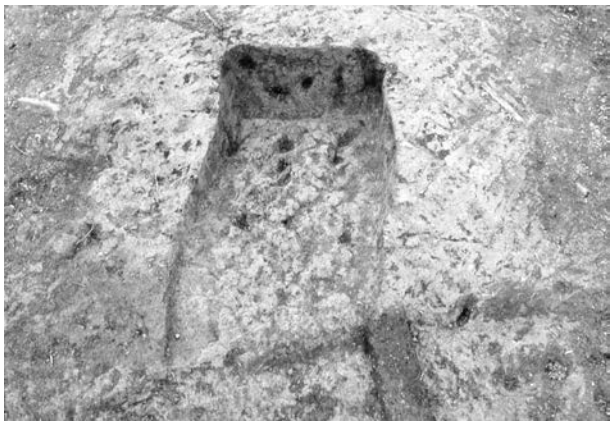


6区SK37遺物出土状況（1）

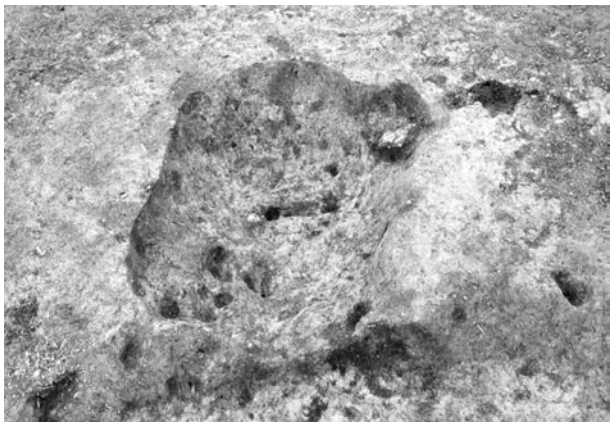
6区SK37遺物出土状況（2）



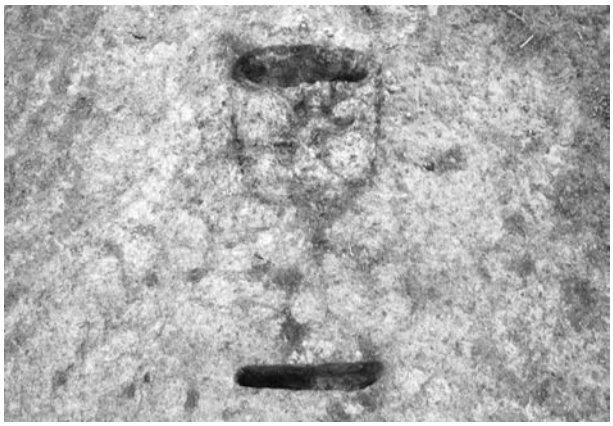
6区SK37遺物出土状況（3）



6区SK37完掘（東から）

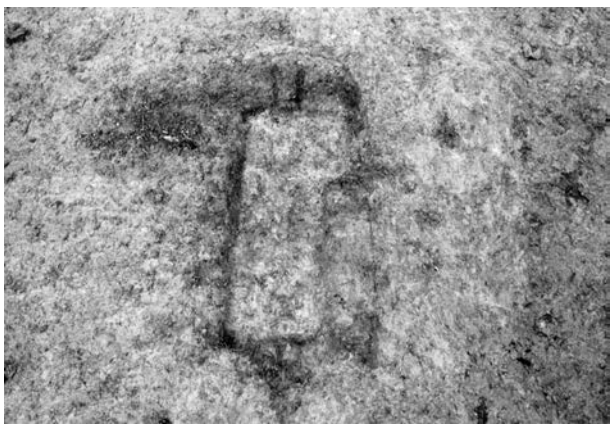


6区SK38完掘（東から）



6区SK39完掘（東から）

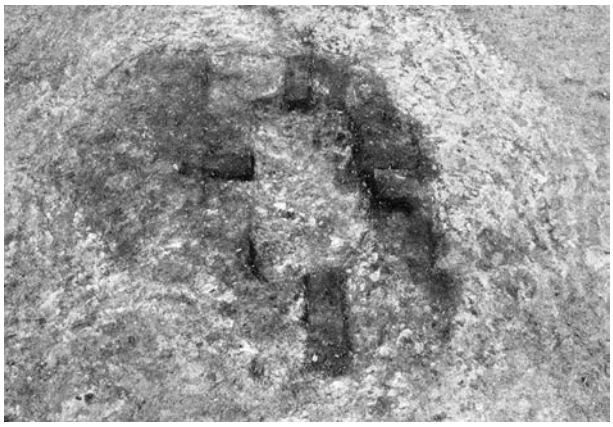
6区SK40完掘（東から）



6区SK41棺痕跡検出状況（東から）

図版34

6区SK41完掘（東から）



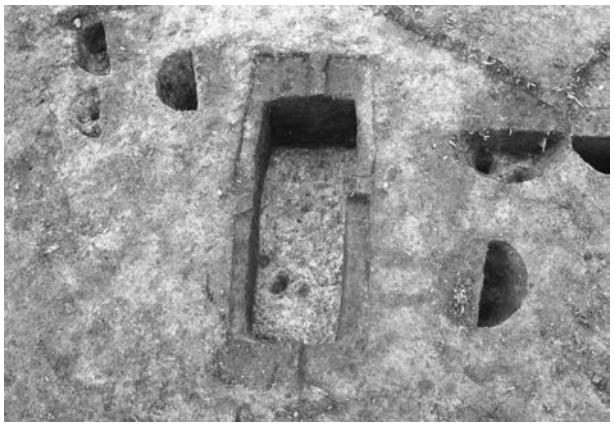
6区SK42棺痕跡検出状況（北東から）

6区SK42完掘（北東から）

6区SK43完掘（北東から）

6区SK47棺痕跡検出状況（東から）

6区SK47完掘（東から）



6区SK49棺痕跡検出状況（北東から）

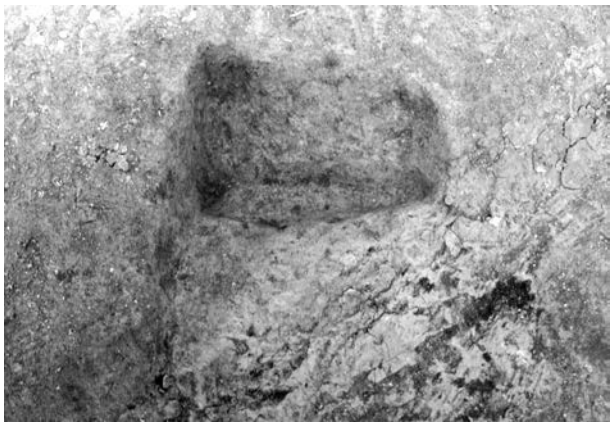
6区SK49完掘（北東から）

6区SK53棺痕跡検出状況（東から）

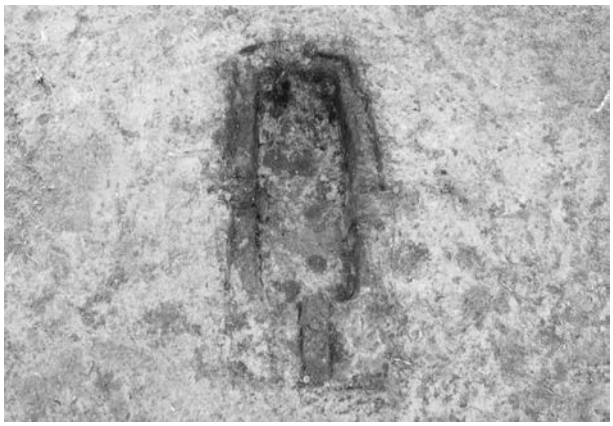
6区SK53完掘（東から）

6区SK55棺痕跡検出状況（南西から）

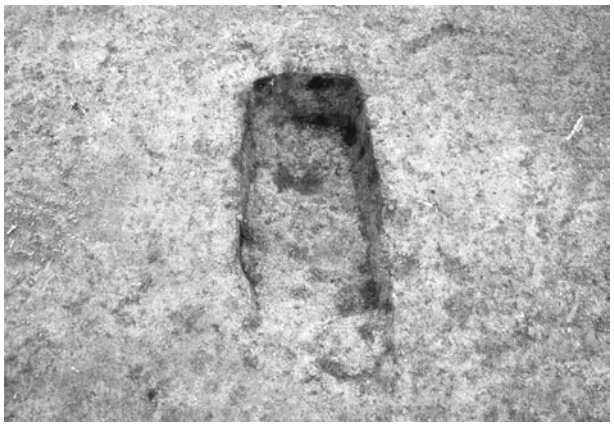
6区SK55完掘（南西から）



6区SK56完掘（南西から）



6区SK57棺痕跡検出状況（東から）



6区SK57完掘（東から）

6区SK58棺痕跡検出状況（北から）

図版36

6区SK58完掘（北から）

6区SK59完掘（東から）

6区SK60完掘（北東から）

6区SK62完掘（北東から）

6区SK62管玉出土状況（1）

6区SK62管玉出土状況（2）

6区SK62管玉出土状況（3）

6区SK62管玉出土状況（4）

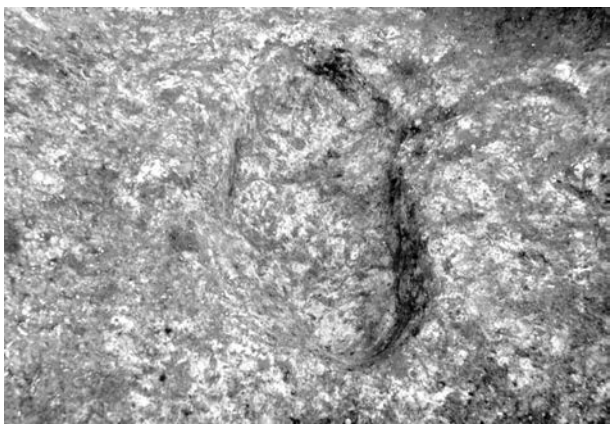
２区SK５完掘（南東から）

２区SK６完掘及び遺物出土状況
（北東から）

２区SK６遺物出土状況

３区SD４、SK３・64完掘（南西から）

３区SK３石検出状況（南西から）



３区SK３完掘（南西から）

３区SK64完掘（南東から）

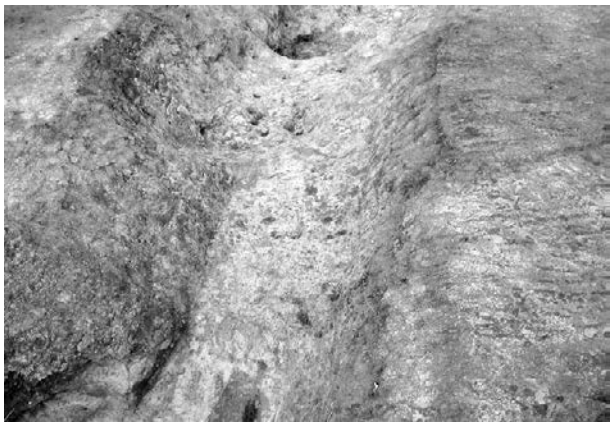
図版38

３区SD11完掘（北東から）

３区SK54・55完掘（東から）

３区SK47遺物出土状況（南東から）

３区SK47遺物出土状況

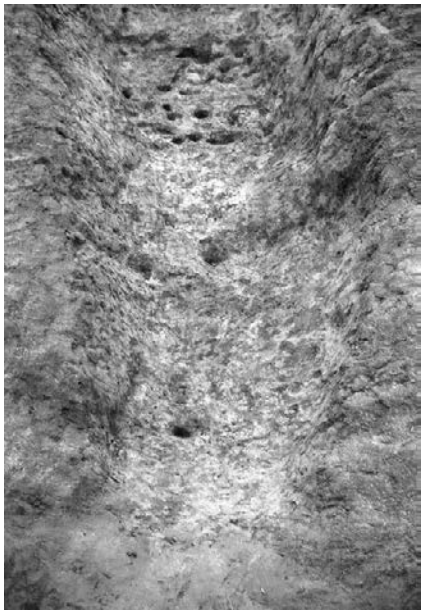


３区SK47完掘（南東から）

３区SK48完掘（南西から）

３区SK49・50完掘（南西から）

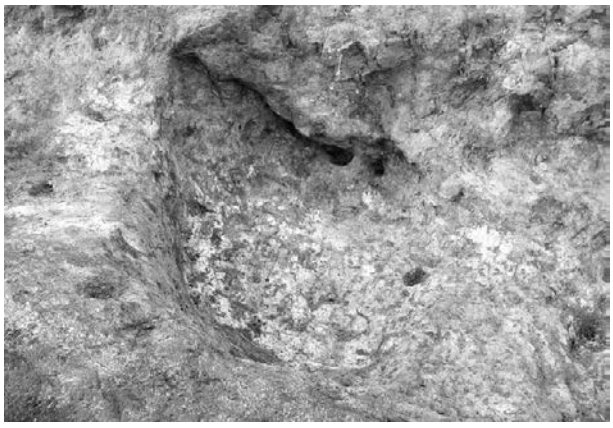
３区SK51完掘（南東から）



3区SK33完掘（北東から）

3区SK33遺物出土状況

3区SK34遺物出土状況（南東から）

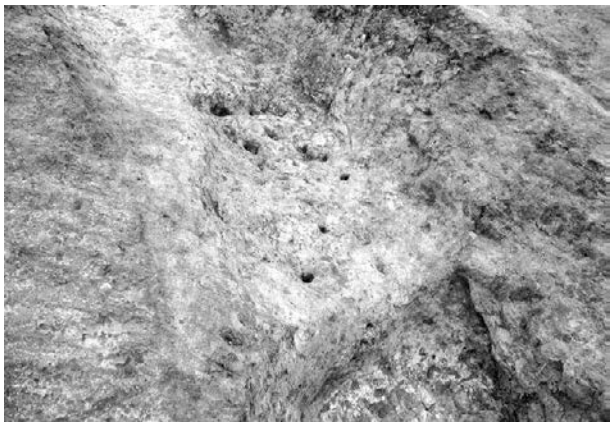


3区SK34完掘（南東から）

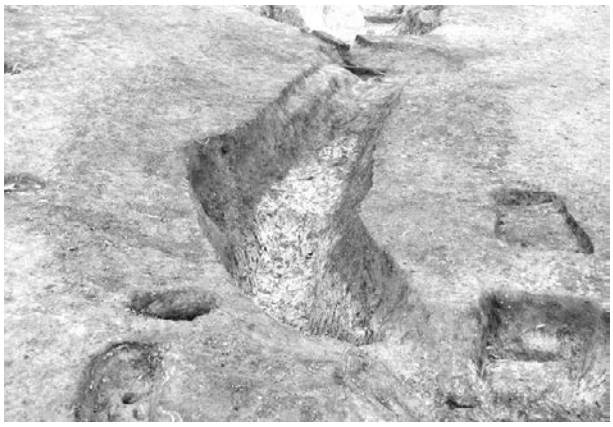
3区SK34遺物出土状況

3区SK56遺物出土状況

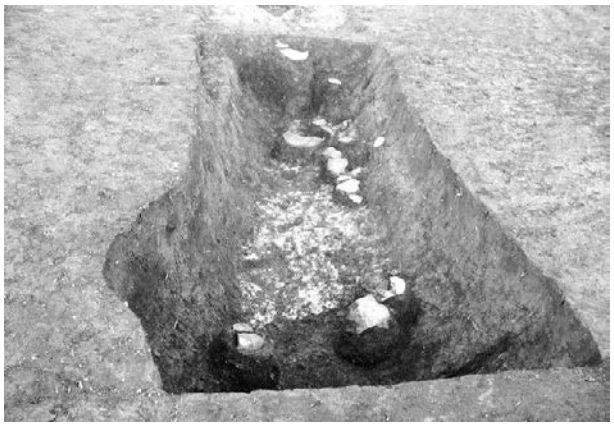
図版40



３区SK46完掘（東から）



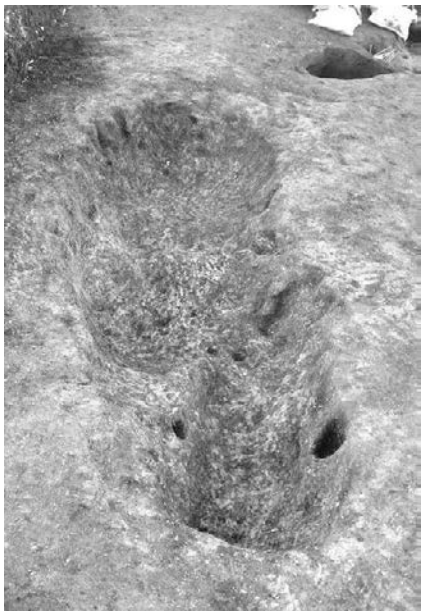
３区SD12、SK27完掘（南から）



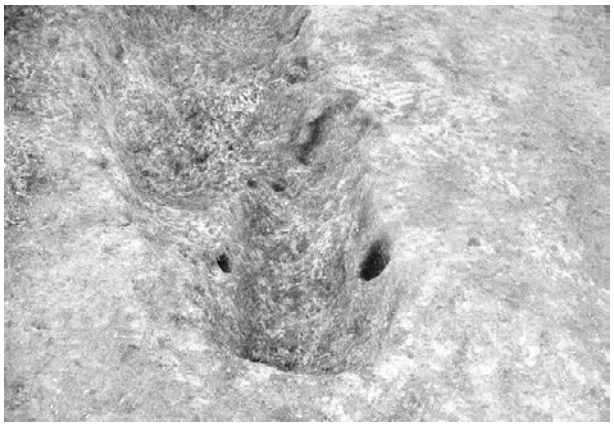
３区SD12遺物出土状況（南西から）

３区SD12遺物出土状況（北東から）

３区SK27完掘（南西から）



３区SD13、SK41・63完掘
（南東から）



３区SK41完掘（南東から）

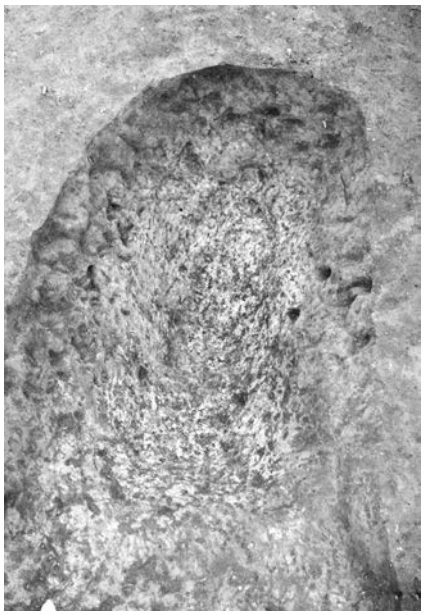
３区SK63完掘（北西から）

３区SK24完掘（北から）

３区SK25完掘（北東から）

３区SD15、SK29完掘（北東から）

３区SD14、SK24・25完掘
（北東から）



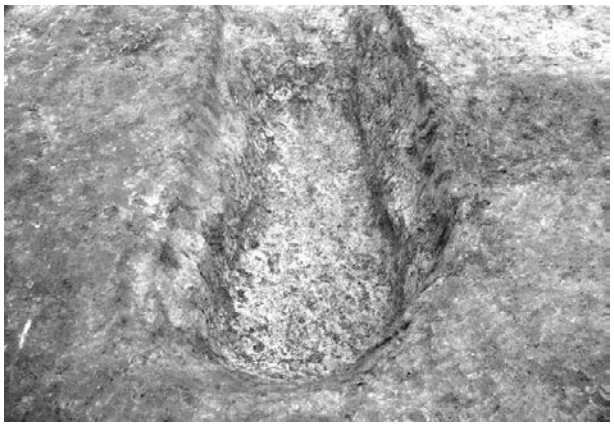
３区SK29完掘（北東から）

図版42

３区SD16・17・18完掘
（北東から）

３区SK36完掘（北から）

３区SK44遺物出土状況（南西から）



３区SK44完掘（南西から）

３区SK45完掘（北東から）

３区SD18遺物（３）出土状況（南西から）

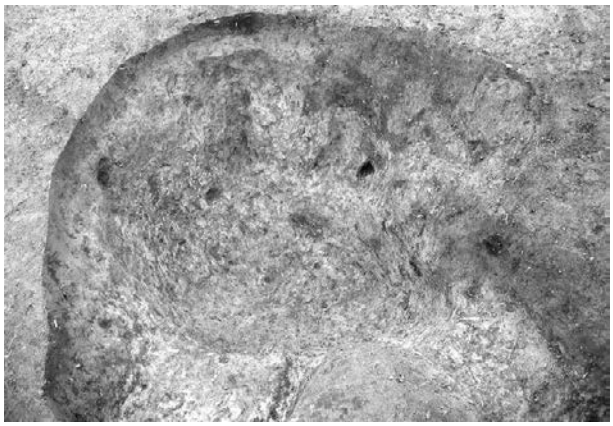
3区SD18遺物（3）出土状況

3区SD18完掘（北から）

3区SD19礫検出状況（南西から）

3区SD20完掘（北から）

3区SD19完掘（南西から）



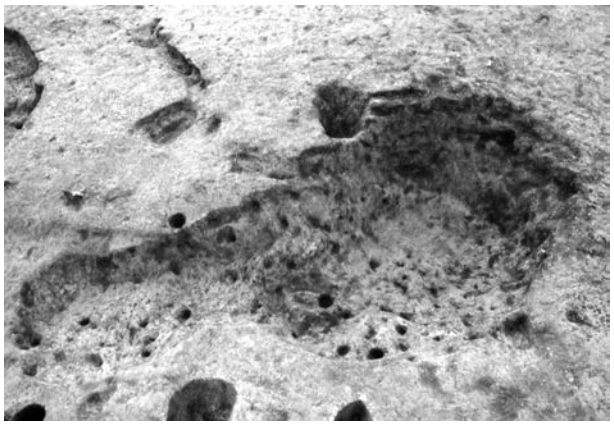
3区SK37完掘（南東から）

3区SK42完掘（南から）

図版44

6区SI26、SD19・20完掘（西から）

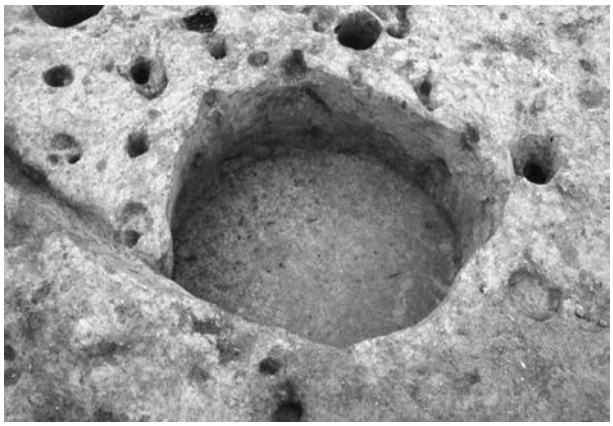
6区SD22・35完掘（南西から）



6区SK36−2完掘（東から）

6区SK36−2遺物出土状況（東から）

6区SK36−2遺物出土状況



6区SK25完掘（南から）

6区SK26・27完掘（南東から）

6区SD30、SK61土層断面（東から）

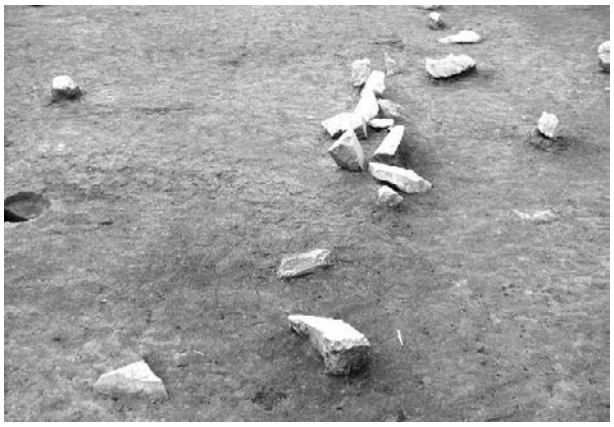
３区石列群（南東から）

３区石列群（北東から）

図版46

３区石列１検出状況（南東から）

３区石列３検出状況（南から）



３区石列４検出状況（北東から）

３区石列５検出状況（北東から）

３区石列６検出状況（北東から）

３区石列８検出状況（北東から）

３区石列10検出状況（南東から）

6区SD18石列検出状況（北東から）

6区SD18石列検出状況（北東から）

6区SI27石列（1）

6区SI27石列（2）

6区SI27石列（3）

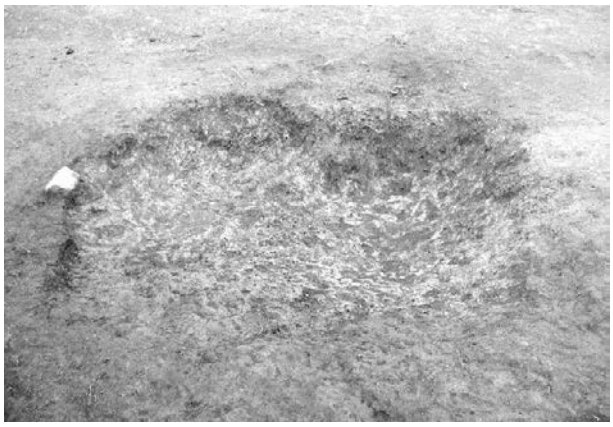
6区SI27石列（4）

図版48

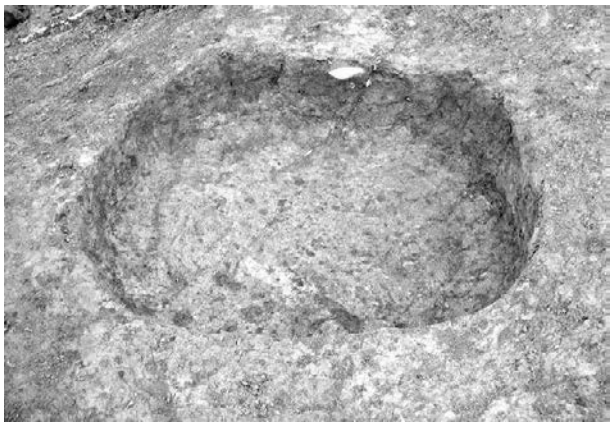
２区SK７遺物出土状況（北東から）

２区SK７遺物出土状況

２区SK７完掘（北東から）



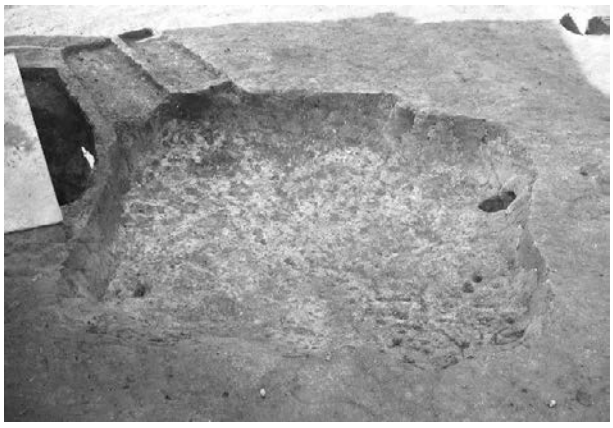
３区SK９完掘（北西から）



３区SK12完掘（東から）

３区SK40土器出土状況（東から）

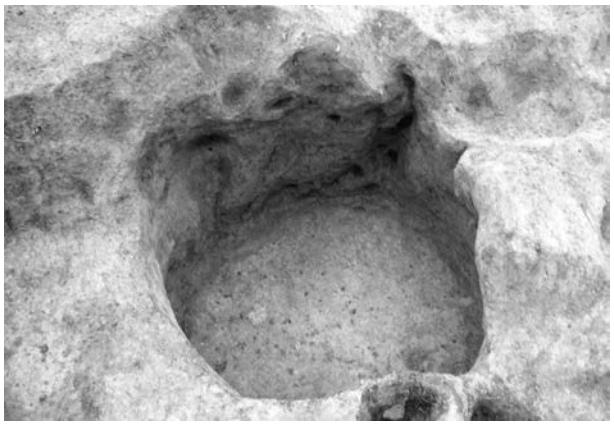
３区SK40土器出土状況



３区SK40完掘（東から）

３区SK６完掘（北から）

３区SK８完掘（北から）

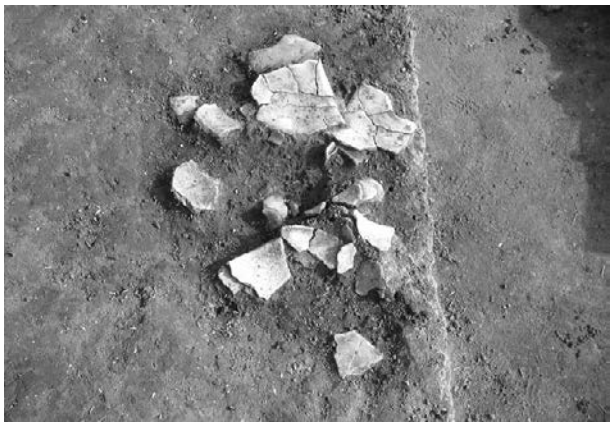


６区SK28完掘（南東から）

６区SK50完掘（東から）

６区SK61完掘（南から）

３区土器溜１完掘（南東から）



３区土器溜２完掘（北東から）

図版50

２区SI２完掘（東から）

２区SI３完掘（東から）

２区SI７・10完掘（東から）

２区SI７・10完掘（南から）

２区SI７遺物（２）出土状況

２区SI７石検出状況（１）

２区SI７石検出状況（２）

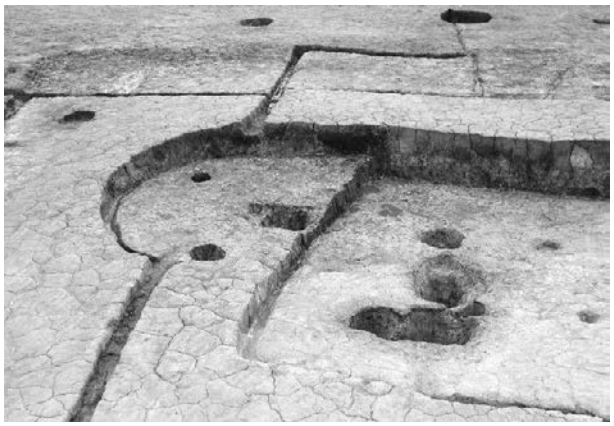
２区SI７磨石（４）出土状況

２区SI９、SD10・11完掘（東から）

２区SI16・17完掘（南東から）

２区SI16完掘（北東から）

２区SI17完掘（北東から）



２区SI21完掘（北東から）

２区SI22完掘（北東から）

４区SS5−２遺物出土状況（南から）

４区SS5−２完掘（南から）

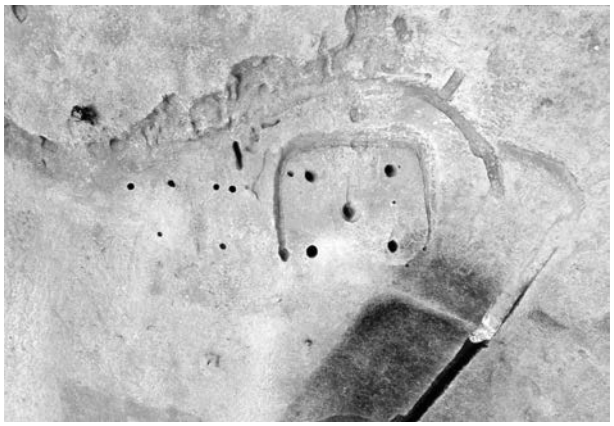
図版52

４区SS13−１完掘（南から）

４区SS13−１炉検出状況（１）

４区SS13−１炉検出状況（２）

４区SS13−２完掘（東から）

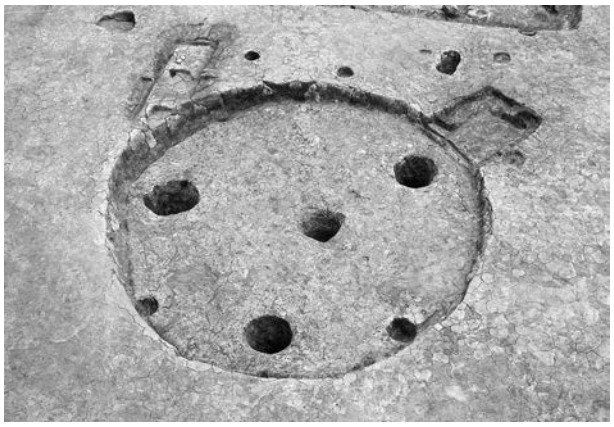


４区SS18・18−２完掘（上が西）

４区SS18−２完掘（北から）

４区SS28完掘（南から）

４区SS32完掘（東から）



５区SI２完掘（南西から）

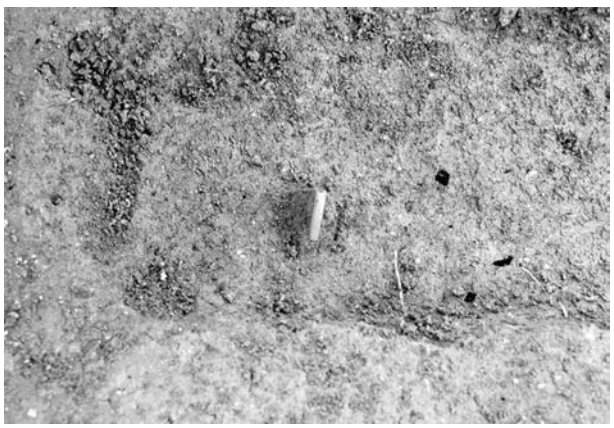
６区SI１−１・１−２完掘（北東から）

６区SI１−３・１−４完掘（北東から）

６区SI１−２種実出土状況

６区SI１−３管玉（５）出土状況

６区SI２完掘（西から）

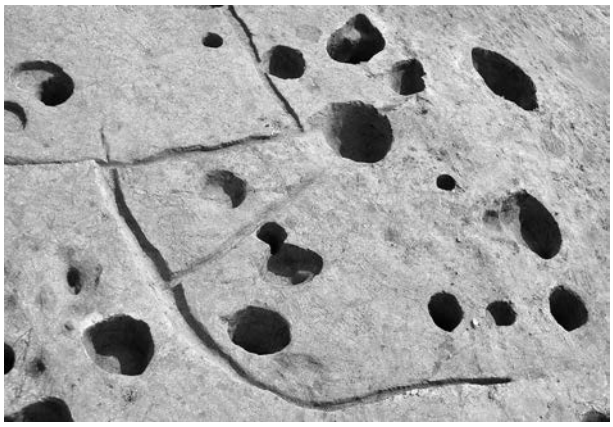


６区SI２管玉（８）出土状況

６区SI２土玉（４）出土状況

図版54

６区SI２・４・６完掘（西から）



６区SI６完掘（西から）

６区SI９完掘（東から）

６区SI10完掘（南東から）

６区SI10テラス状平坦面及び小ピット

６区SI10遺物出土状況（１）

６区SI10遺物出土状況（２）

６区SI10遺物出土状況（３）

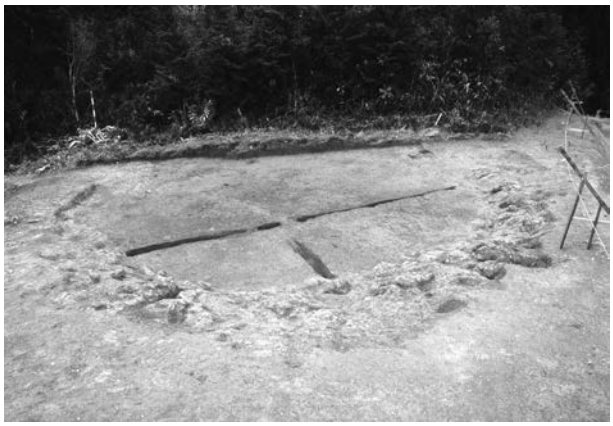
6区SI11完掘（南東から）

6区SI12完掘（東から）

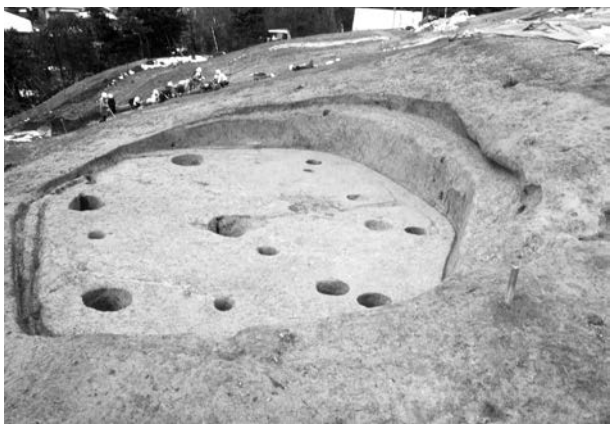
6区SI13・14、SS11完掘（北から）

6区SI13石検出状況

6区SI14特殊ピット石検出状況



6区SS11完掘（東から）

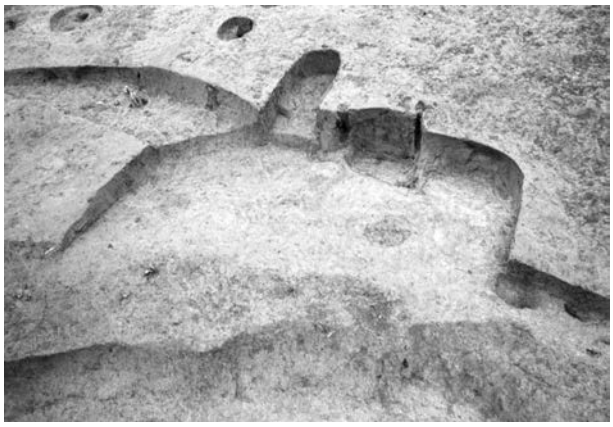


6区SI15完掘（南から）

6区SI17−1完掘（北東から）

図版56

６区SI18完掘（東から）



６区SI20、SD17完掘（南西から）

６区SI21完掘（南から）

６区SI25完掘（南から）

３区SS２完掘（南から）

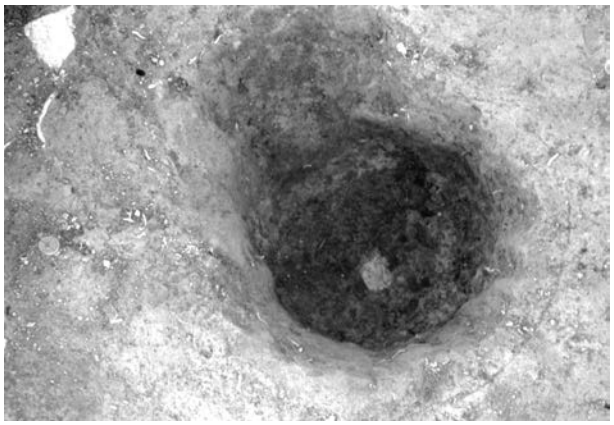
４区SS10完掘（東から）

４区SS23・24完掘（北東から）

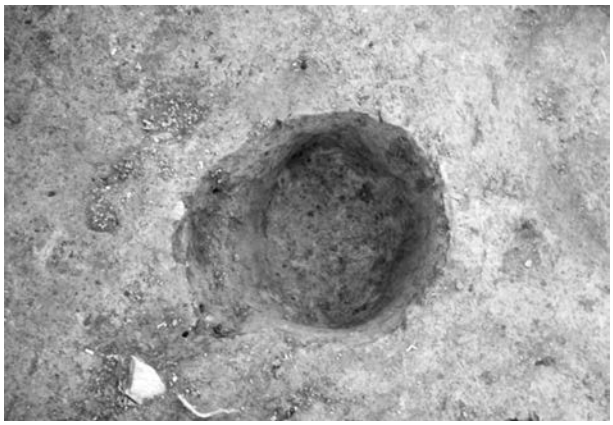
６区SS７、SD７・８完掘（南東から）

６区SS９完掘（南東から）

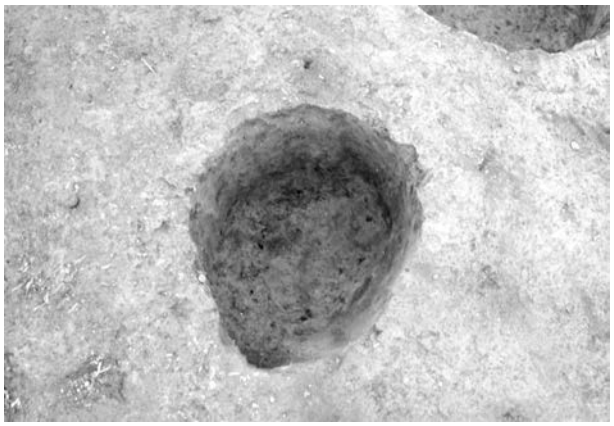
６区SS10完掘（南東から）



６区SS10炉１炭化物検出



６区SS10炉１完掘



６区SS10炉２完掘

６区SS９・17完掘（南西から）

６区SS19完掘（北から）

６区SS24完掘（北から）

図版58

２区SI８・13完掘（東から）

２区SI８遺物出土状況（東から）

２区SI８遺物（10）出土状況

２区SI８遺物（12）出土状況

２区SI８遺物（15）出土状況

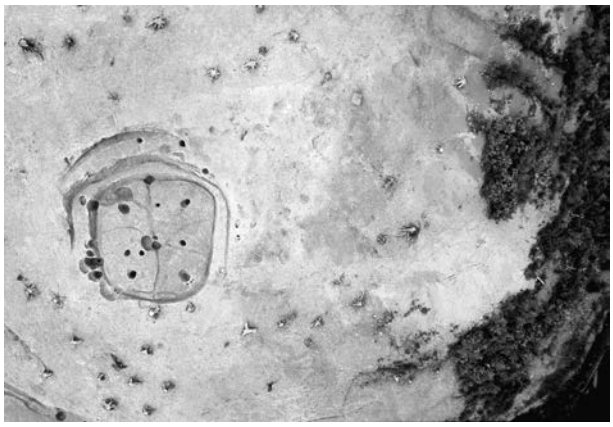
２区SI14完掘（東から）

２区SI18完掘（北東から）

２区SI20完掘（東から）

３区SI１完掘（東から）

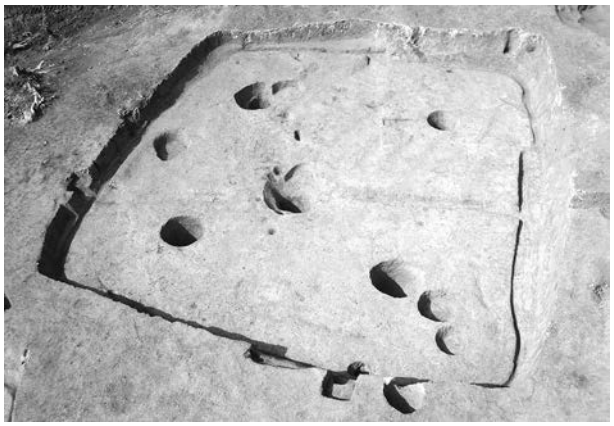
３区SI12完掘（東から）



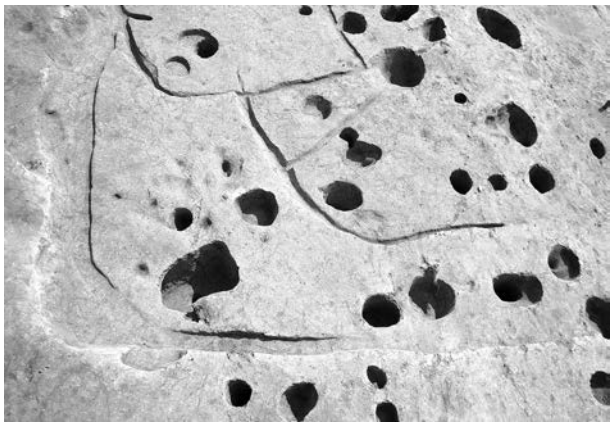
４区SS４完掘（上が南東）

４区SS４−３完掘（北から）

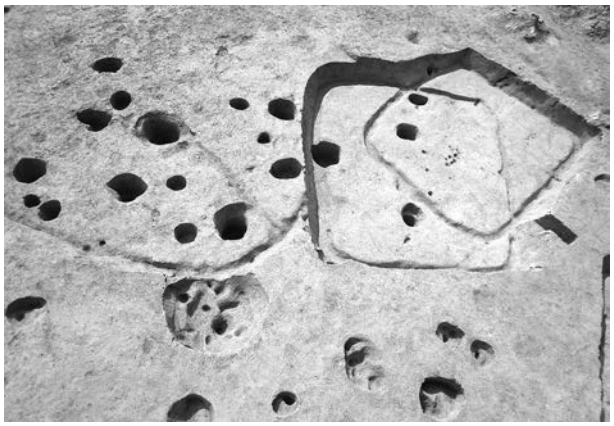
４区SS４−２完掘（北から）



６区SI３完掘（西から）



６区SI４完掘（西から）

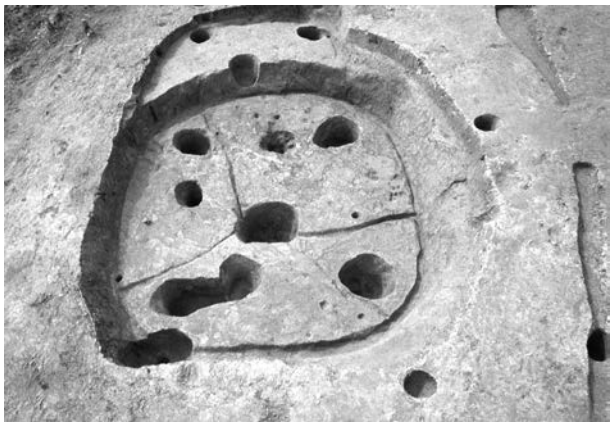


６区SI５・８、SK４完堀（北から）

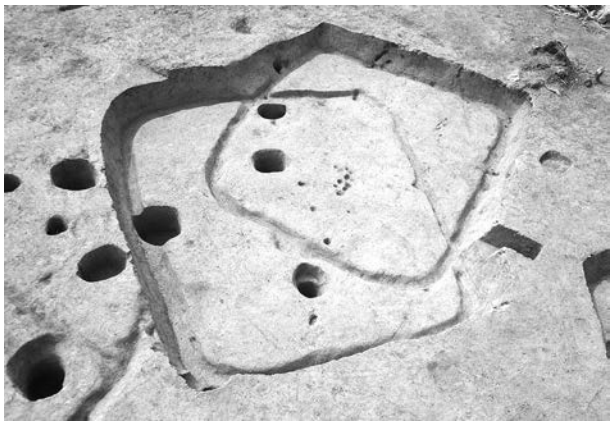
６区SI５完掘（南から）

図版60

６区SI７遺物出土状況（西から）

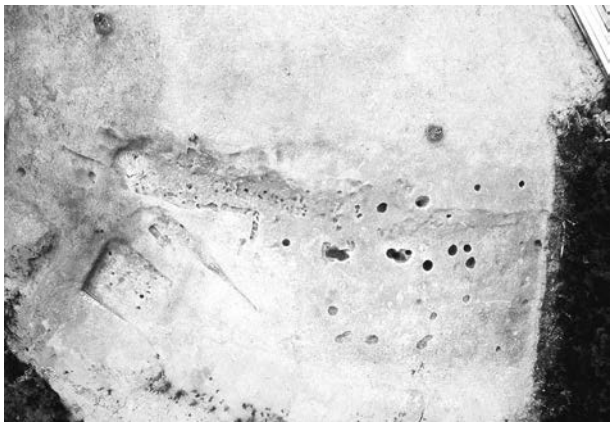


６区SI７完掘（東から）



６区SI８、SK４完掘（北から）

６区SI16完掘（南西から）



４区SS１・２・９・10完掘（上が南東）

４区SS１完掘（北東から）

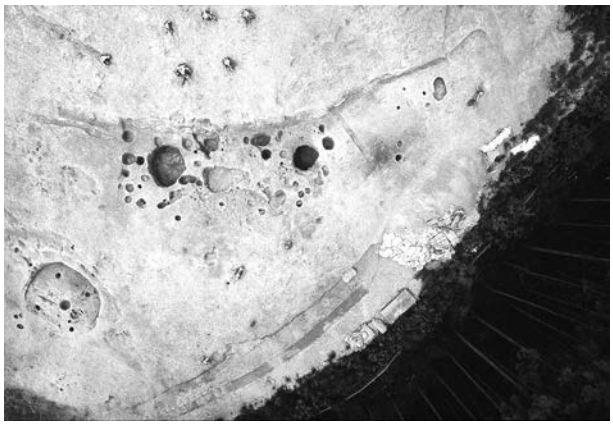
４区SS２完掘（東から）

４区SS２完掘（西から）

４区SS２遺物出土状況（西から）

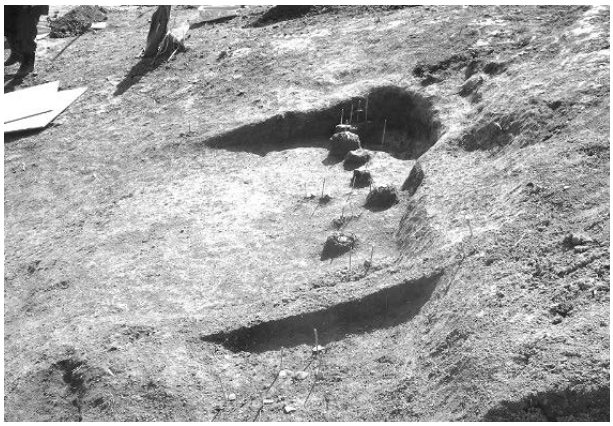
４区SS２−２完掘（北西から）

４区SS３完掘（西から）



４区SS６・７・８・11・14完掘（上が西）

４区SS６完掘（上が南西）



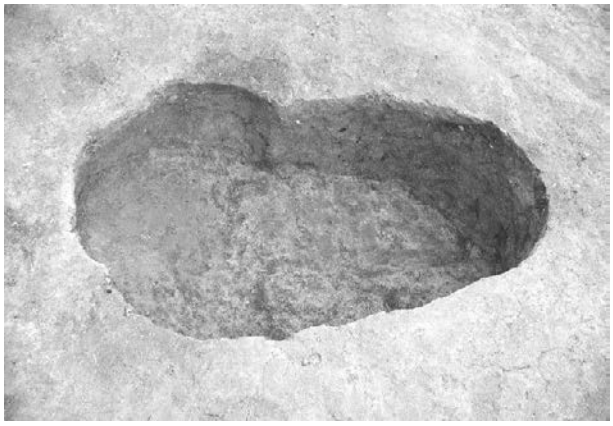
４区SS７遺物出土状況（北から）

６区SS６完掘（北西から）

６区SS23完掘（北西から）

図版62

４区SK３遺物（１）出土状況（北から）



４区SK３完掘（北から）

４区SK４・５・６（南から）

４区SK４遺物出土状況（１）

４区SK４遺物出土状況（２）

４区SK４完掘（南から）

４区SK５完掘（北から）

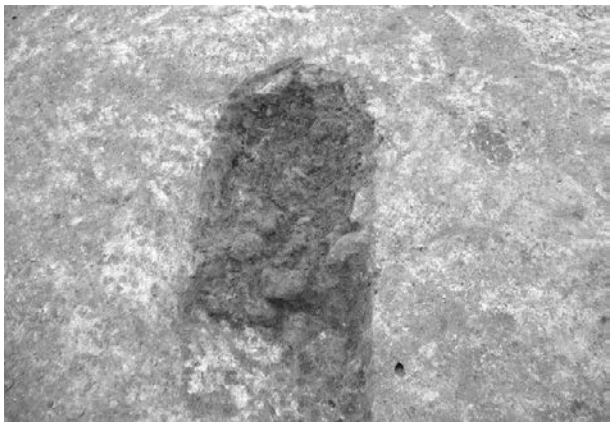
４区SK６完掘（北東から）

２区焼土1・２・3完掘（北東から）

２区竈１・2、焼土5（北から）

２区竈１完掘（北から）

２区竈２完掘（北西から）



２区竈３焼土、炭化物検出状況（北西から）

２区竈３完掘（北西から）

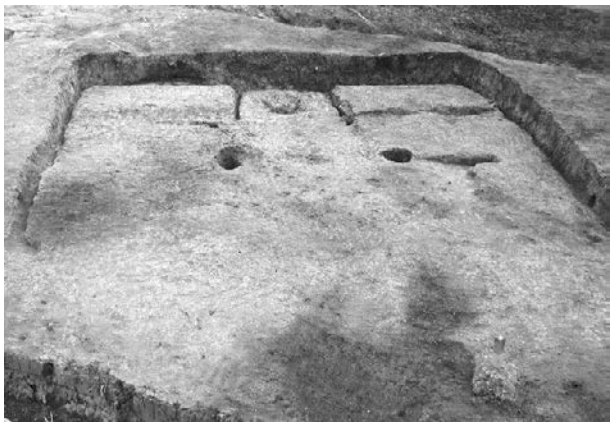
２区焼土５完掘（北西から）

図版64

２区SI１・６完掘（東から）

２区SI４完掘（東から）

２区SI５完掘（東から）

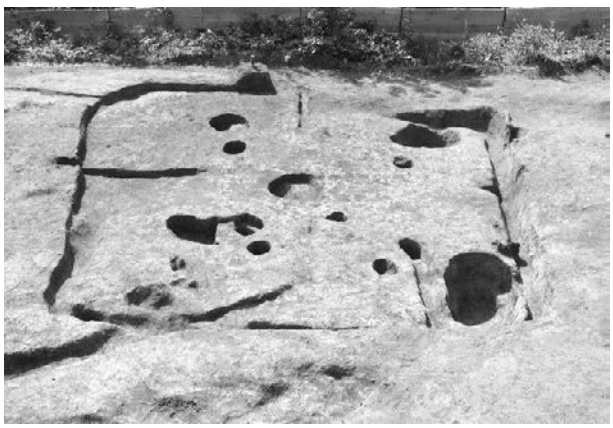


３区SI２完掘（北から）

３区SI２特殊ピット（北から）

３区SI３完掘（北から）

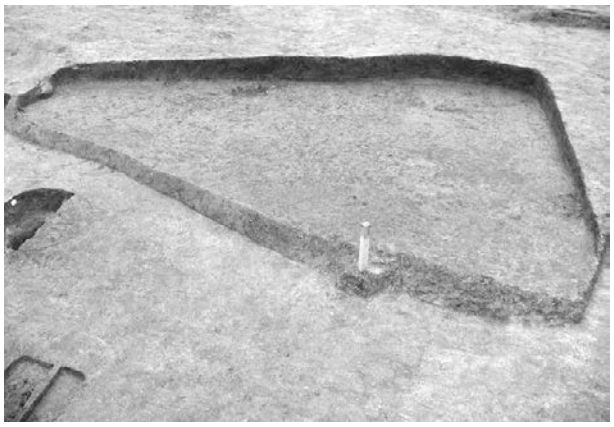
３区SI４完掘（東から）



３区SI５完掘（北から）

３区SI９完掘（東から）

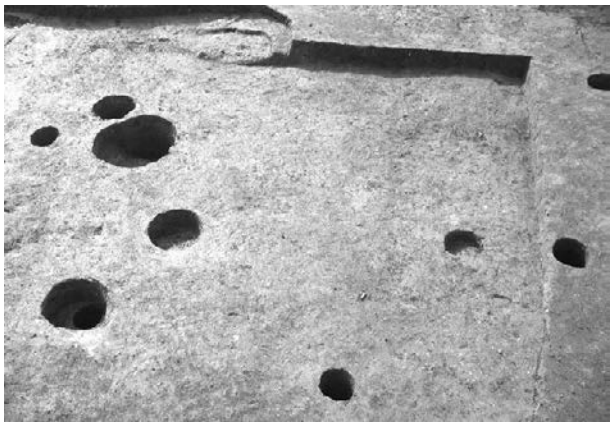
３区SI９　P198土器（１）出土状況



３区SI10完掘（北東から）

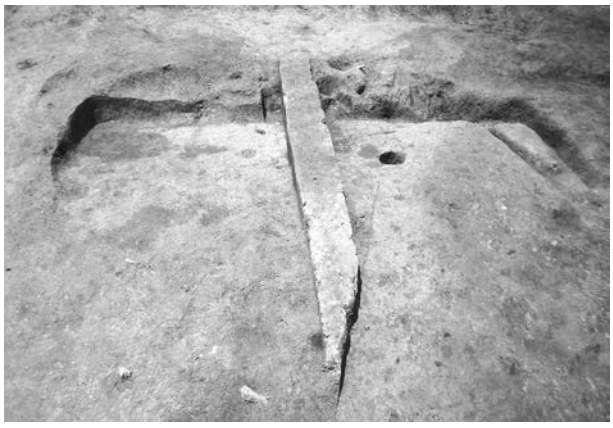
３区SI11完掘（北東から）

３区SS５完掘（北東から）



３区SS６完掘（北東から）

４区SS20完掘（東から）



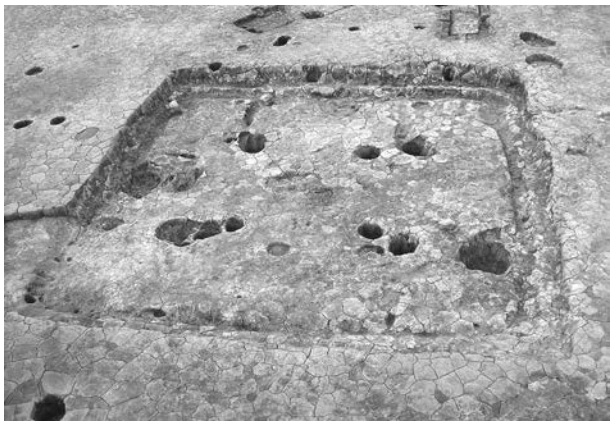
４区SS20−１完掘（東から）

図版66

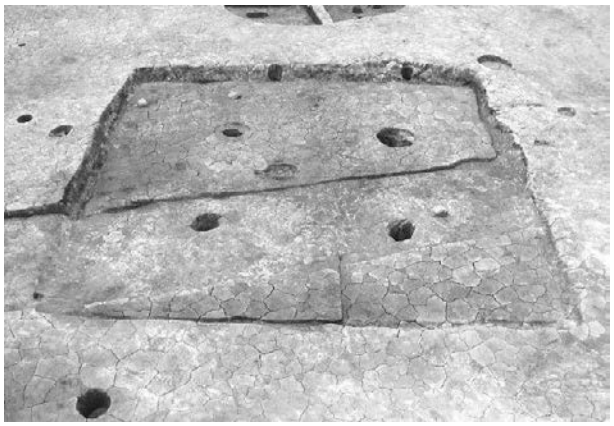
4区SS20遺物出土状況（南から）

4区SS33完掘（東から）

4区SS33遺物出土状況



5区SI１A完掘（北東から）



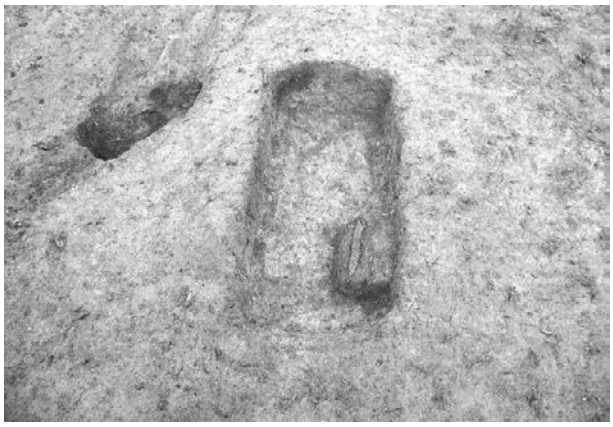
5区SI１B完掘（北東から）

6区SI22完掘（東から）

2区SS１完掘（北から）

3区SS４完掘（南から）

3区SK53完掘（南から）

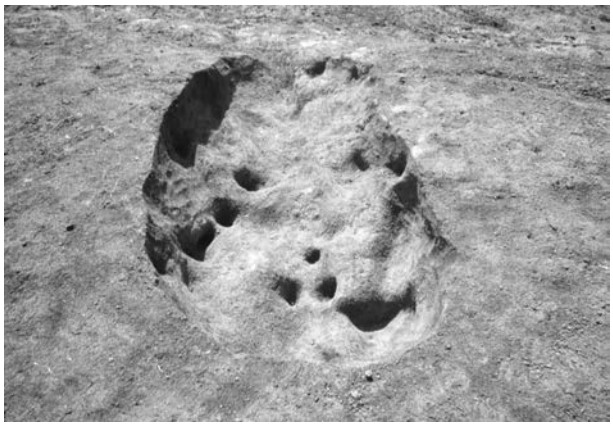


3区SK53鉄刀出土状況（南から）

3区SK53鉄刀出土状況

6区SK13遺物（3）出土状況（南から）

6区SK13遺物（3）出土状況



6区SK13完掘（北から）

6区SK30遺物出土状況

6区SK30遺物出土状況（南から）

図版68

６区横穴墓遠景（南西から）

６区横穴墓閉塞石検出状況（１）

６区横穴墓墓道完掘及び閉塞石検出状況(西から)

６区横穴墓墓道完掘及び閉塞石検出状況(北から)

６区横穴墓閉塞石検出状況（２）

６区横穴墓閉塞石下部礫検出状況

６区横穴墓閉塞石除去後礫検出状況（西から）

６区横穴墓閉塞石除去後礫検出状況

６区横穴墓墓道及び閉塞部完掘（西から）

６区横穴墓閉塞部完掘（西から）

６区横穴墓墓室内遺物出土状況（西から）

６区横穴墓墓室内遺物出土状況（西から）

６区横穴墓墓室内遺物出土状況（南から）

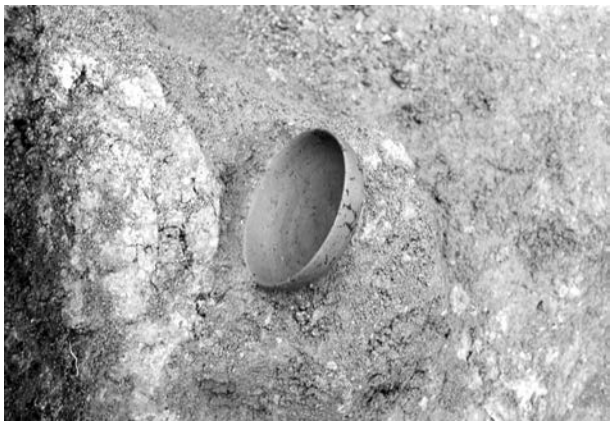
６区横穴墓墓室内遺物出土状況（北から）

図版70

６区横穴墓墓室内遺物（１、２）出土状況

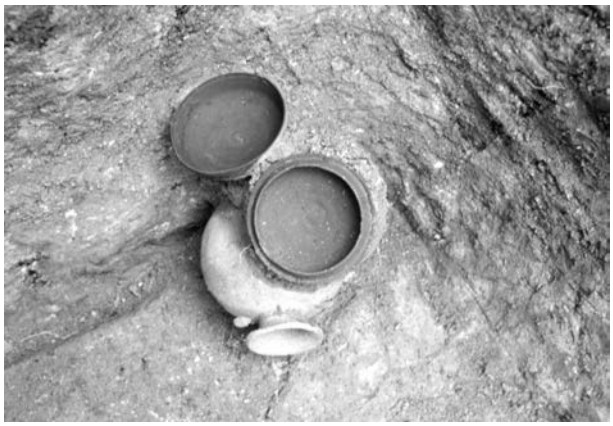
６区横穴墓墓室内遺物（３）出土状況

６区横穴墓墓室内遺物（４）出土状況



６区横穴墓墓室内遺物（５）出土状況

６区横穴墓墓室内遺物（６～11）出土状況



６区横穴墓墓室内遺物（12～14）出土状況

６区横穴墓完掘（東から）

６区横穴墓墓道完掘（東から）

６区版築状遺構（南から）

６区版築状遺構（南から）

図版72

6区版築状遺構A-A′断面（1）

6区版築状遺構A-A′断面（2）

6区版築状遺構A-A′断面（3）

6区版築状遺構A-A′溝状断面（1）

6区版築状遺構A-A′溝状断面（2）

6区版築状遺構B-B′断面（1）

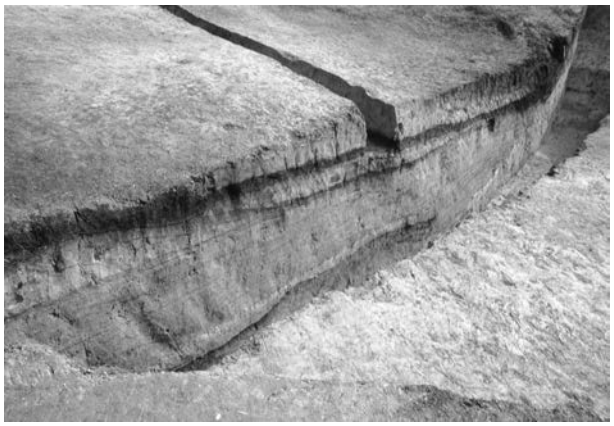
6区版築状遺構B-B′断面（2）

6区版築状遺構B-B′断面（3）

6区版築状遺構B-B′溝状断面（溝1）

6区版築状遺構B-B′溝状断面（溝2）

6区版築状遺構C-C′断面（1）

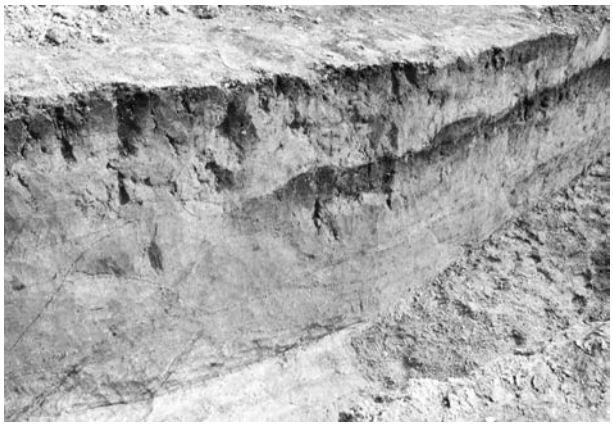


6区版築状遺構C-C′断面（2）

6区版築状遺構C-C′溝状断面

図版74

6区版築状遺構D-D′断面（1）



6区版築状遺構D-D′断面（2）

6区版築状遺構E-E′断面（1）

6区版築状遺構E-E′断面（2）

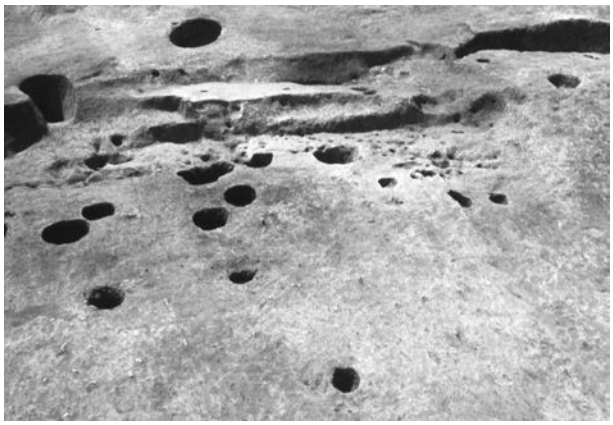
6区版築状遺構E-E′断面（3）

6区版築状遺構E-E′溝状断面

4区SS25完掘（北から）

4区SS29完掘（南から）

4区SS29完掘（東から）



4区SS29完掘（東から）

4区SS29遺物出土状況（1）

4区SS29遺物出土状況（2）

4区SS29遺物出土状況（3）

4区SS29遺物（64）出土状況

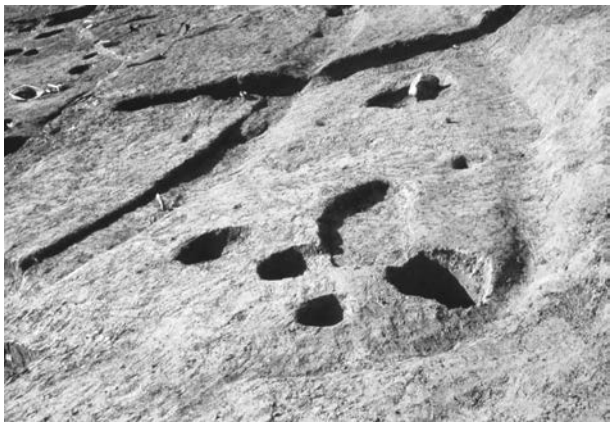
図版76

4区SS29遺物（162）出土状況

4区SS29遺物（171）出土状況

4区SS29遺物（第674図　16）出土状況

6区SS５完掘（北西から）



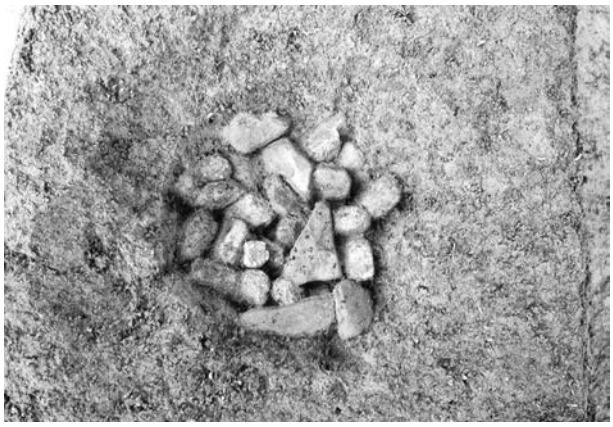
6区SS20完掘（南東から）

6区SS21完掘（北西から）

6区SS22−１完掘（南東から）

6区SS22−２完掘（南から）

6区SS22遺物（5）出土状況



6区SS22−1　P304礫敷検出状況（東から）

6区SS22鉄器（17）出土状況

6区SS25完掘（北西から）

6区SS26完掘（北西から）

6区SS27・28完掘（西から）

6区SS27完掘（西から）

6区SS28完掘（東から）

図版78

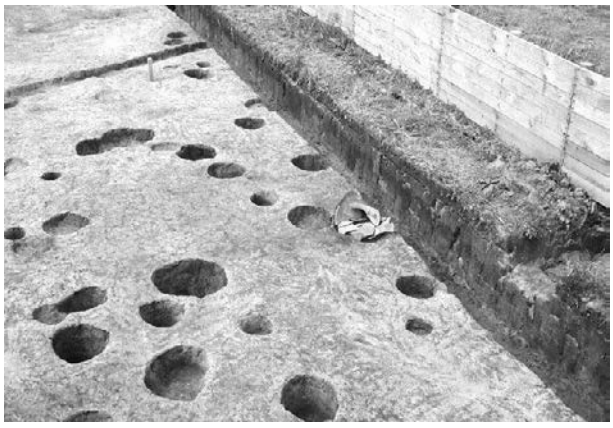
6区SS31完掘（北西から）

6区SS32完掘（北西から）

6区SS33、SD24完掘（北東から）

6区SS33・37、SD24完掘（北東から）

6区SS33・37、SD24完掘（南東から）



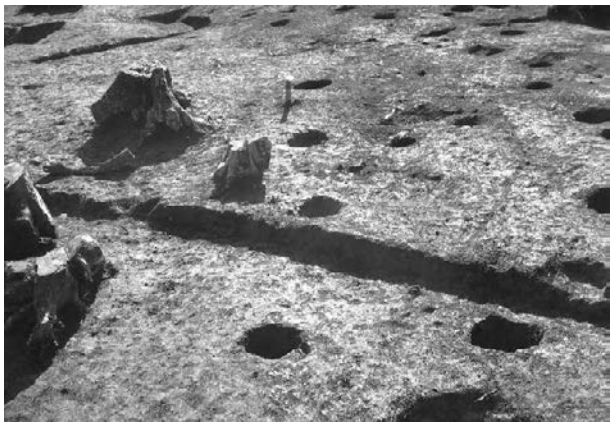
1区SB1完掘（南から）

1区SB2完掘（南から）

1区SB3完掘（南から）

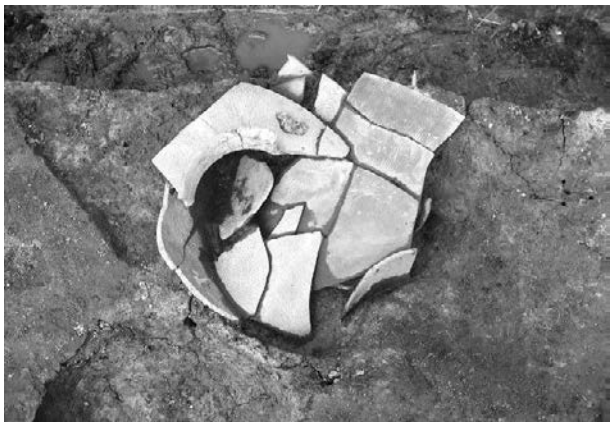
１区SB４完掘（西から）

３区SB１・５完掘（北から）

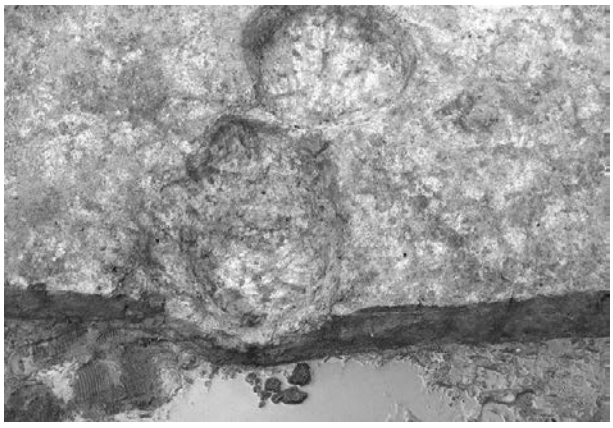


３区SB２完掘（北から）

３区SB３・４完掘（北から）



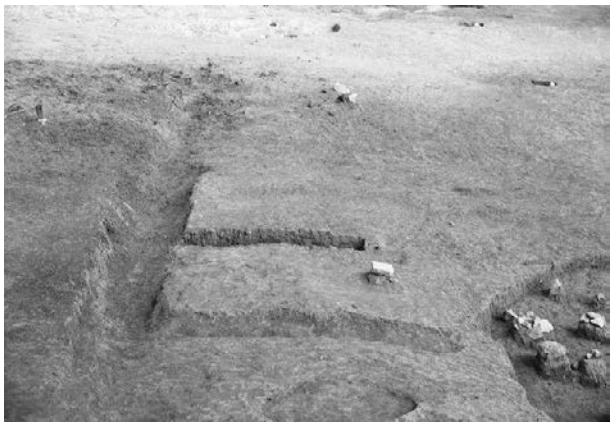
１区SK６遺物出土状況（南西から）



１区SK６完掘（北東から）

６区SK31完掘（西から）

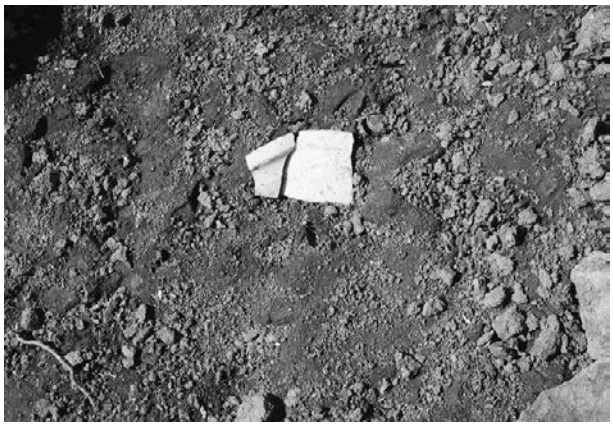
図版80



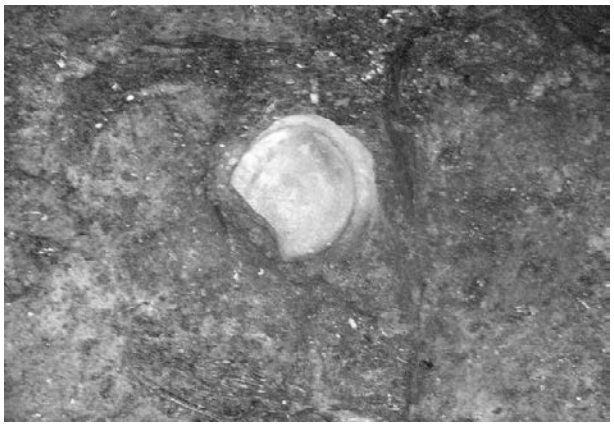
３区SS１完掘（南から）

３区SS３礫、遺物出土状況（南東から）

３区SS３遺物（１）出土状況

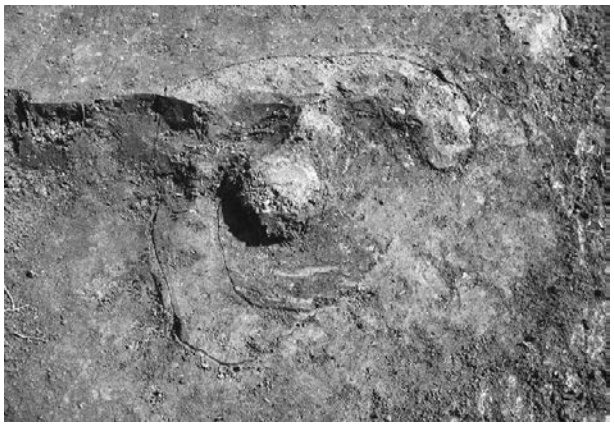


３区SS３遺物（２）出土状況



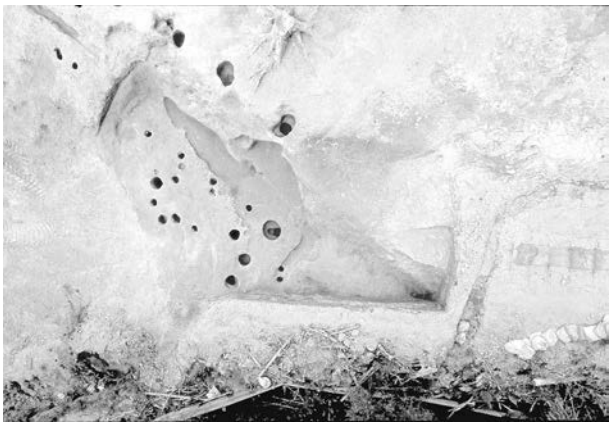
３区SS３炉遺物（３）出土状況

３区SS３完掘（南東から）



３区SS３炉検出状況（西から）

３区SS３炉完掘（西から）

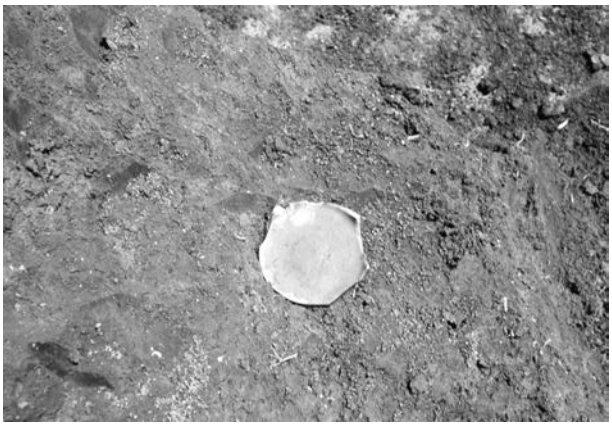


4区SS31下面完掘（上が南西）

4区SS30完掘（南から）

4区SS31上面完掘（東から）

4区SS31遺物出土状況

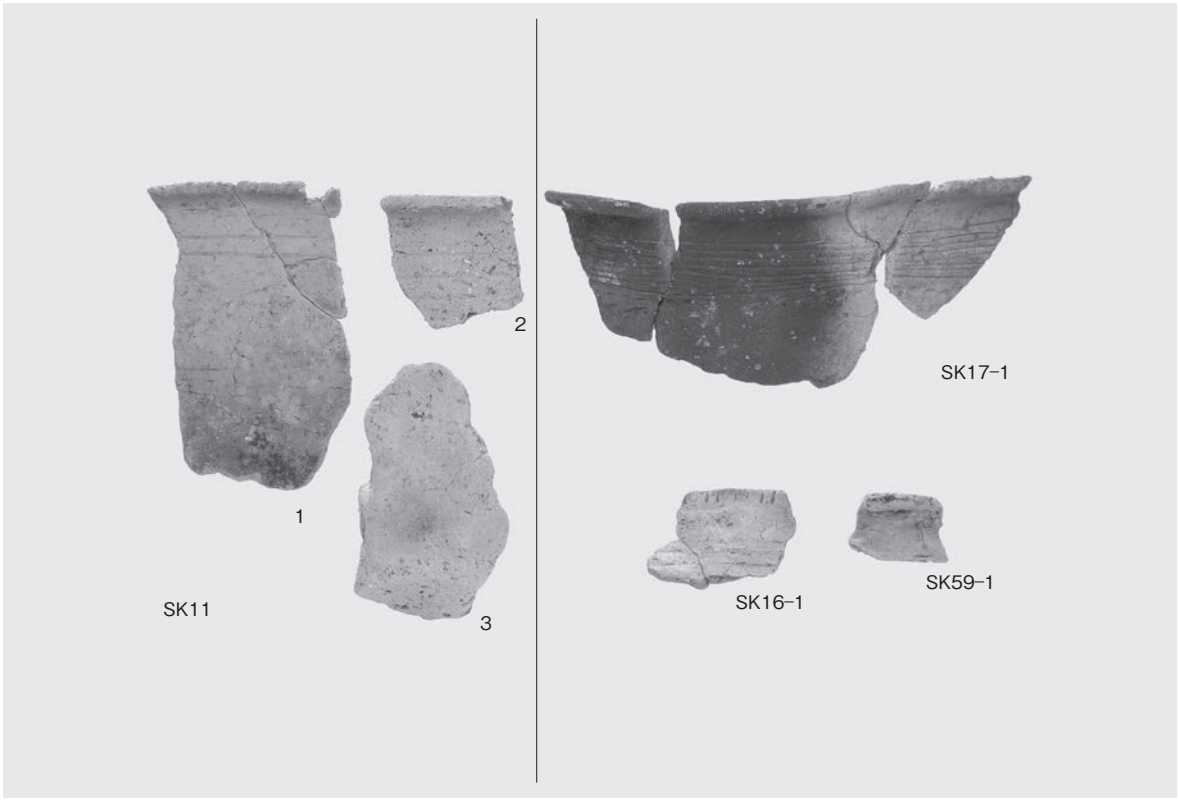


4区SS31遺物（3）出土状況

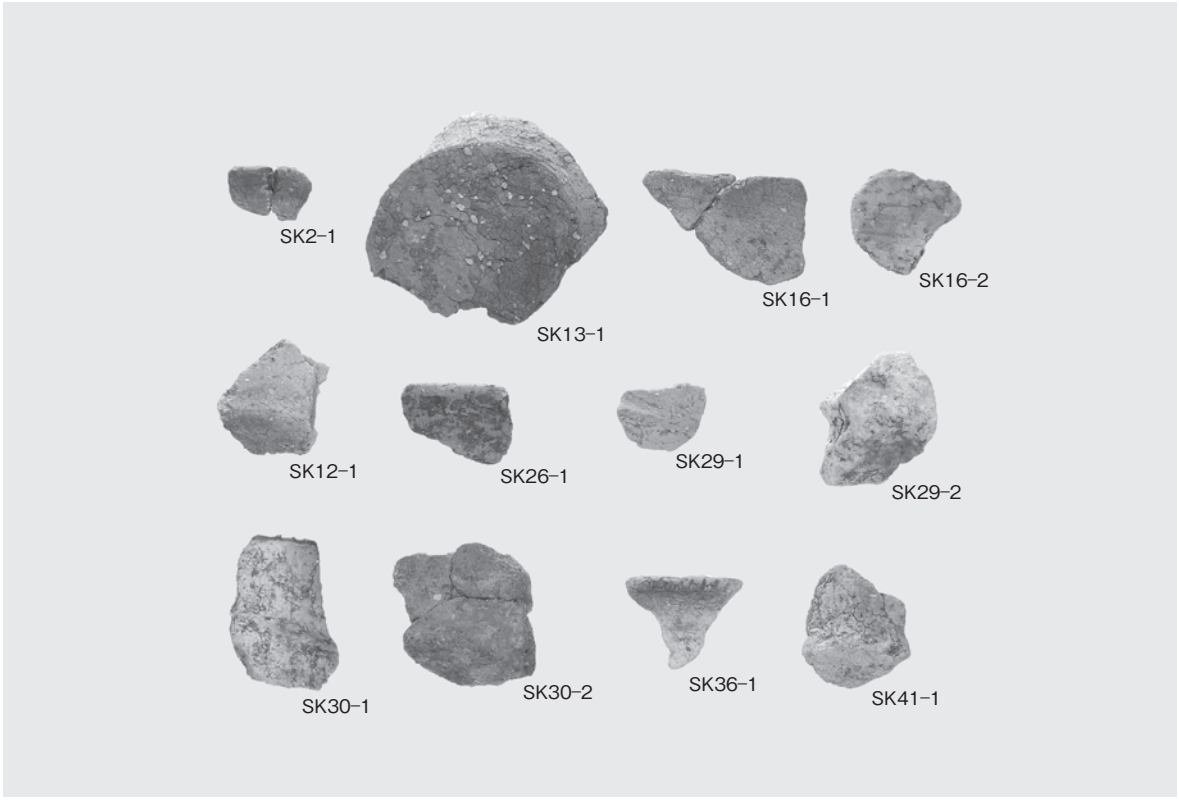
道路完成後状況（東から）

道路完成後状況（南東から）

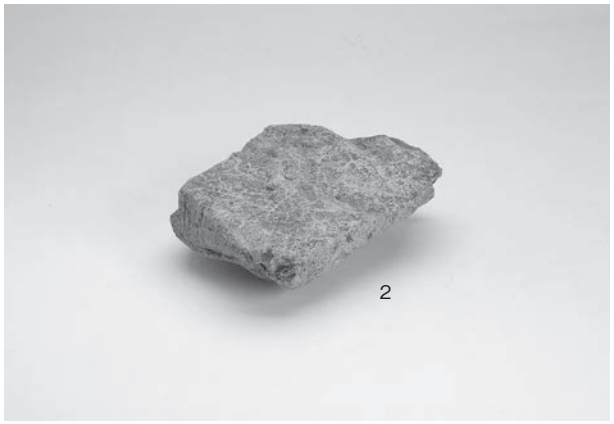
図版82



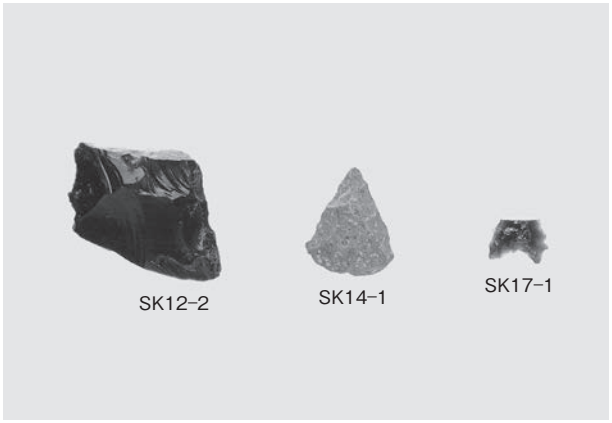
3区SK11・16・17・59出土遺物



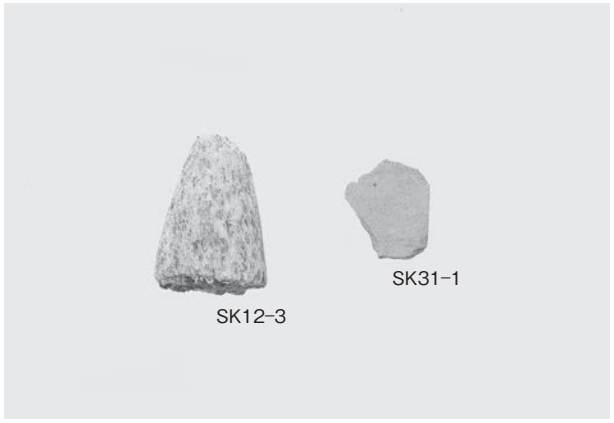
5区SK2・12・13・16・26・29・30・36・41出土遺物



3区SK16出土遺物

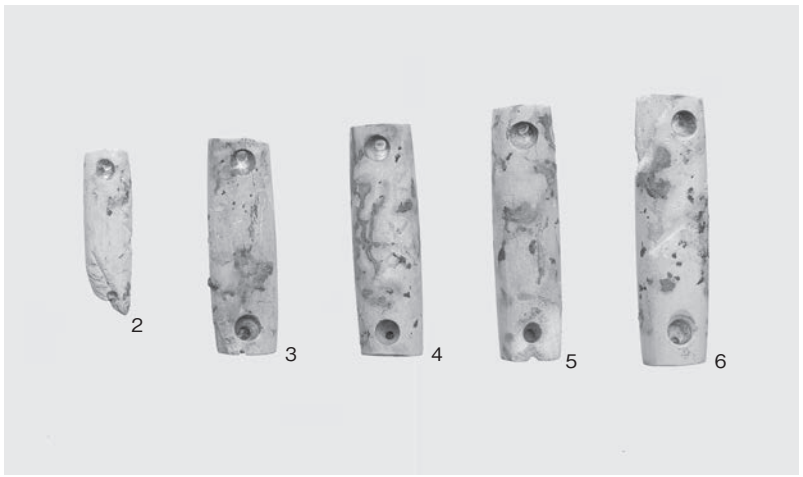


5区SK12・14・17出土遺物



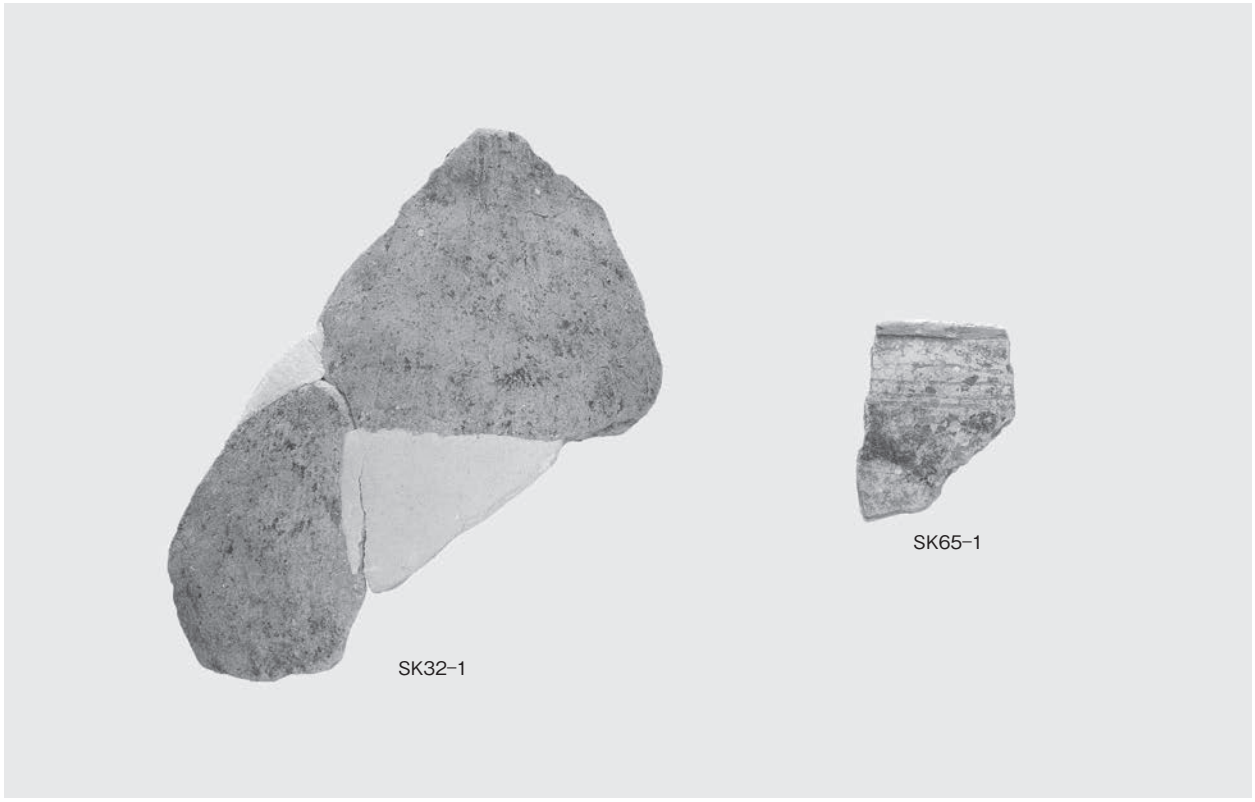
5区SK12・31出土遺物

6区SK42出土遺物



5区SK36出土遺物

図版84



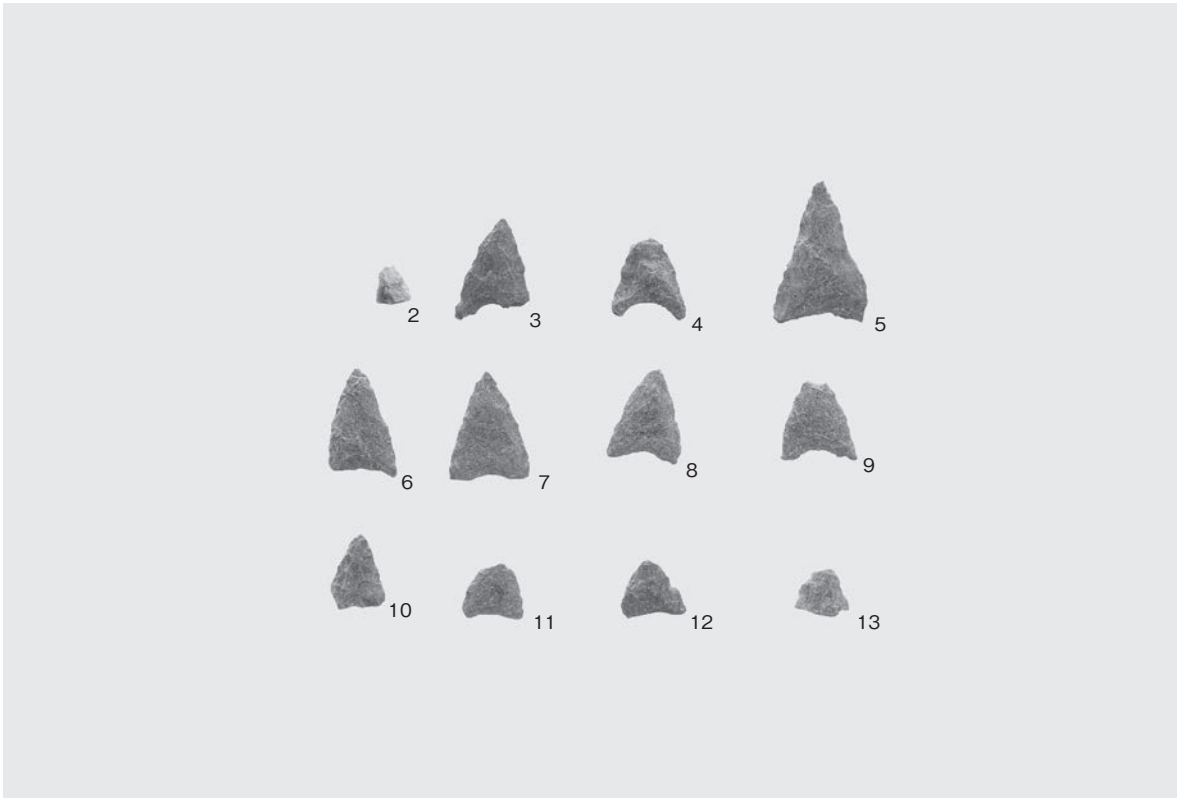
6区SK32・65出土遺物

6区SK36-2出土遺物（1）

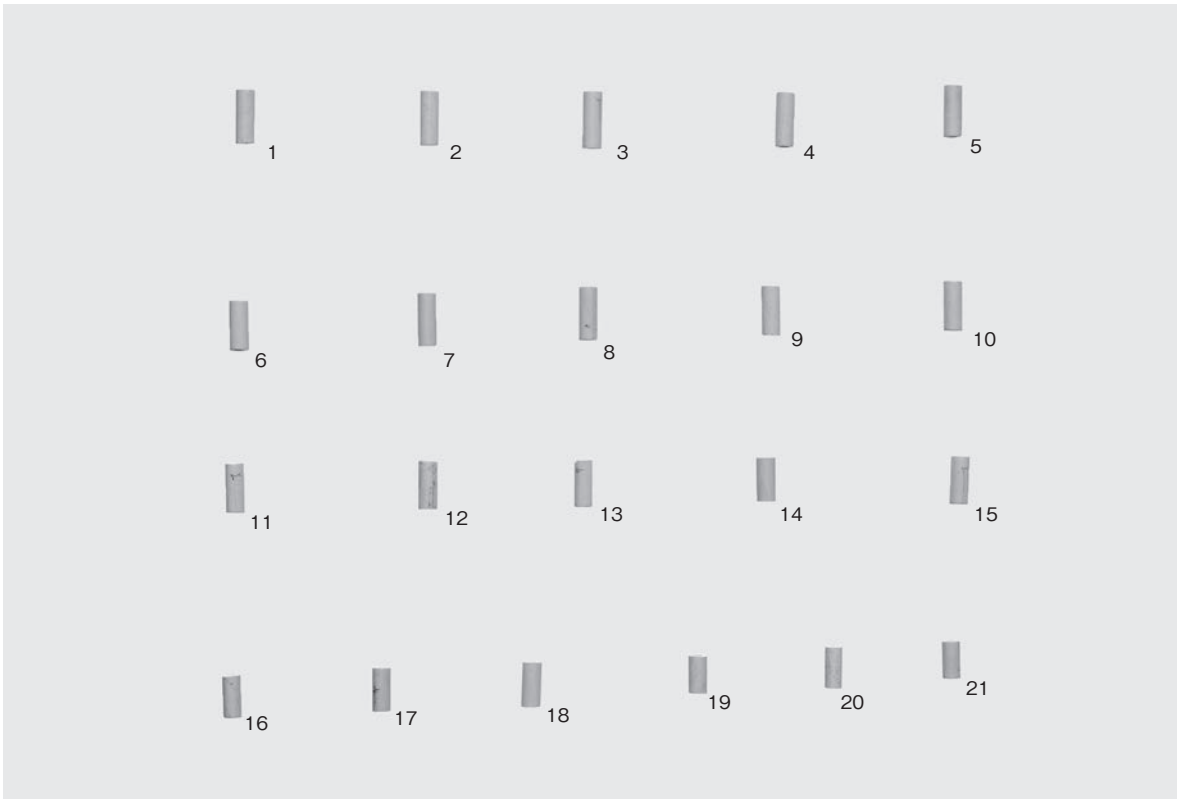
6区SK36-2出土遺物（2）

6区SK36-2出土遺物（3）

6区SK36-2出土遺物（4）

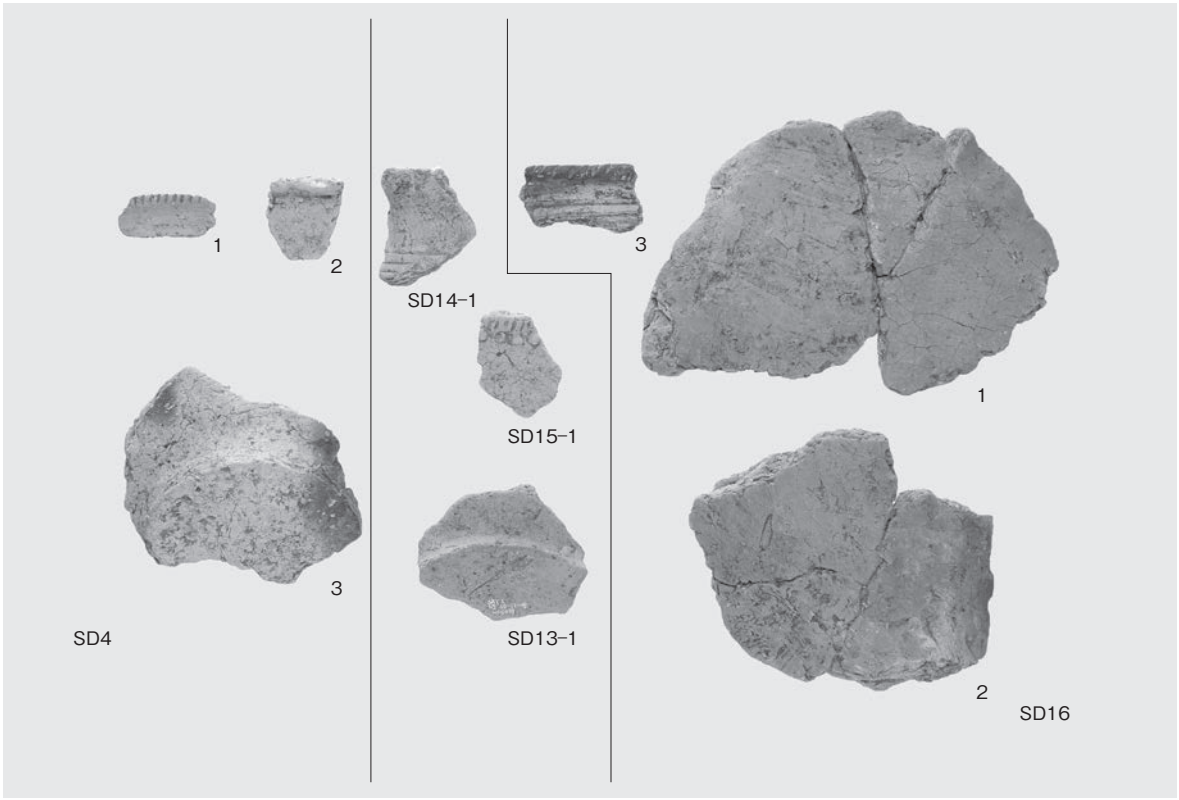


6区SK37出土遺物

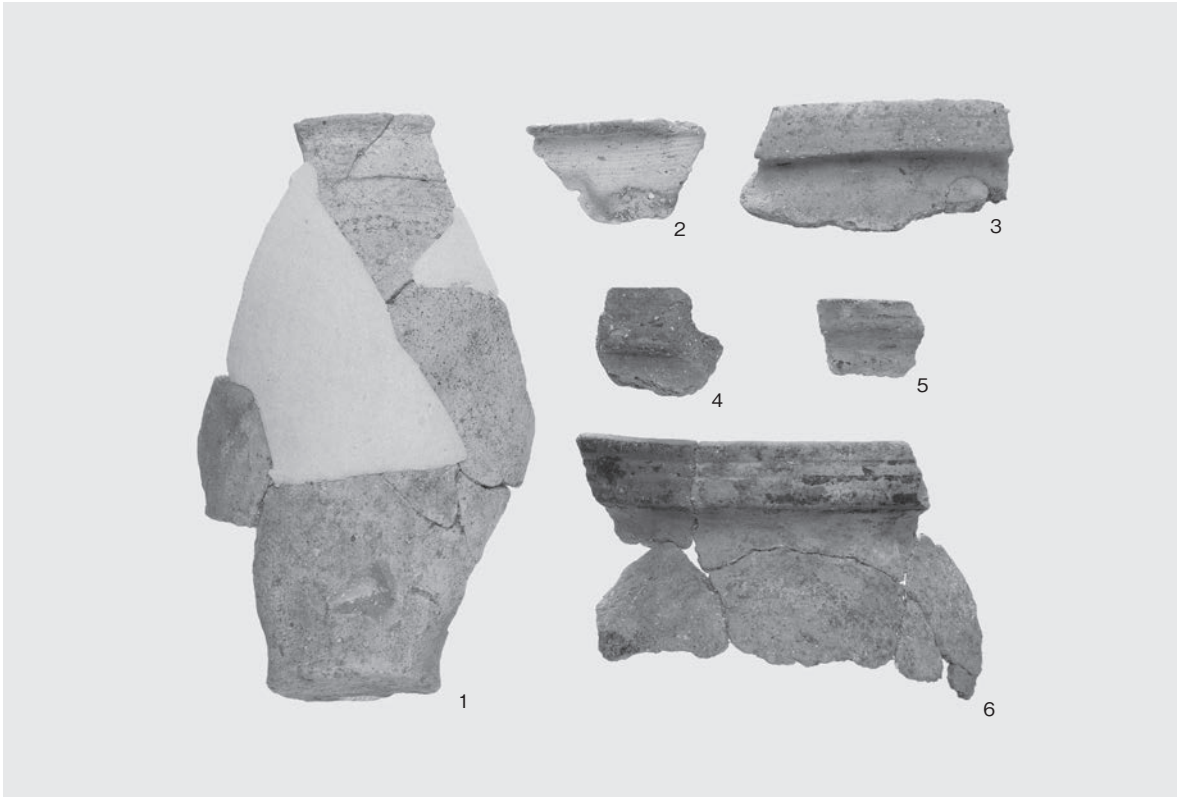


6区SK62出土遺物

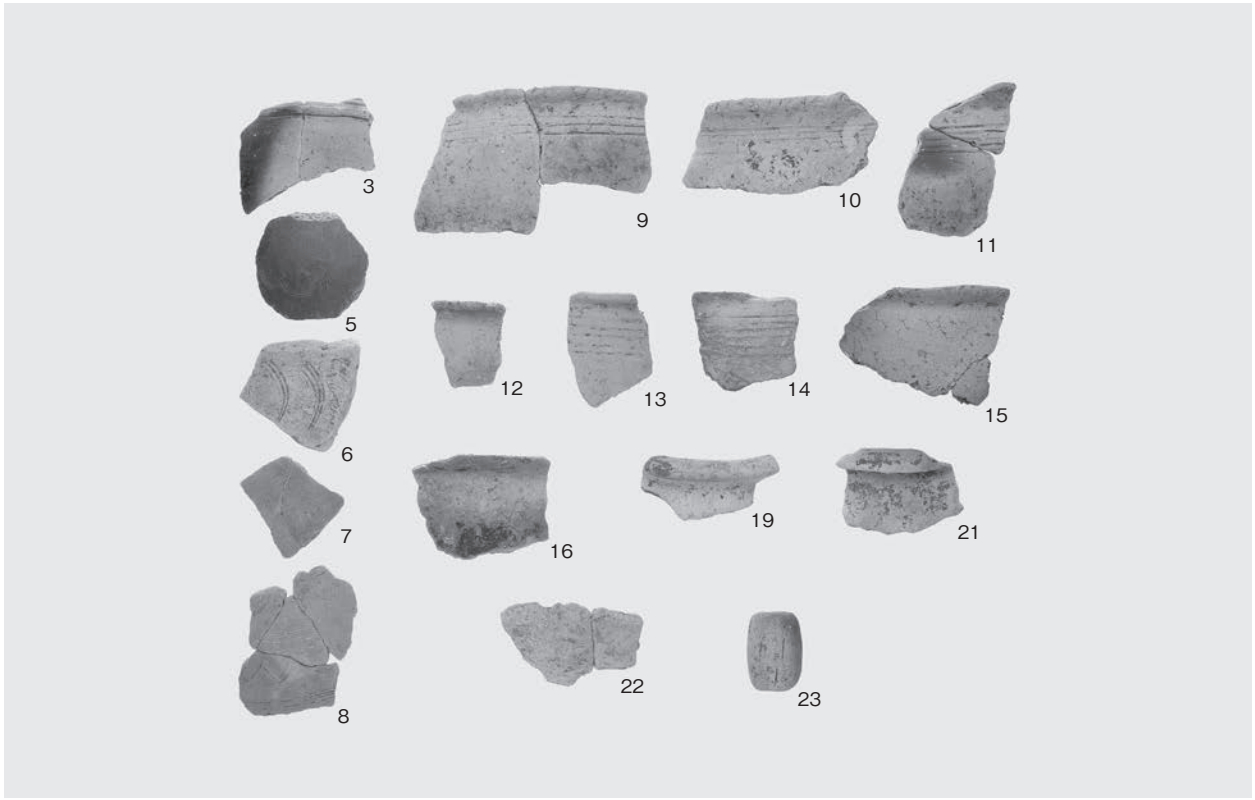
図版86



3区SD４・13～16出土遺物



6区SD18出土遺物



3区SD11出土遺物

図版88

3区SK33出土遺物

3区SK34出土遺物（1）

3区SK34出土遺物（2）

3区SK47出土遺物

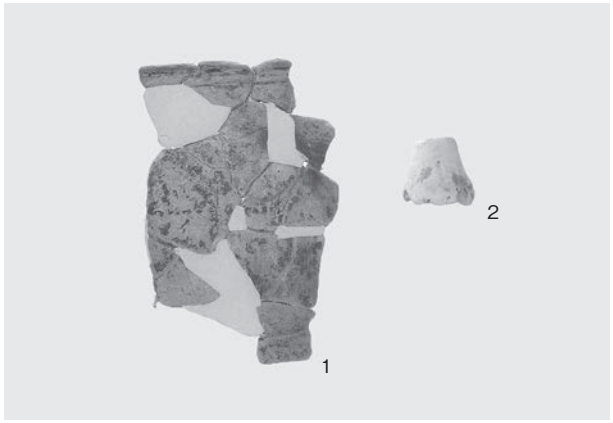
3区SK56出土遺物

3区SD12出土遺物（1）

3区SD12出土遺物（2）

3区SD12出土遺物（3）

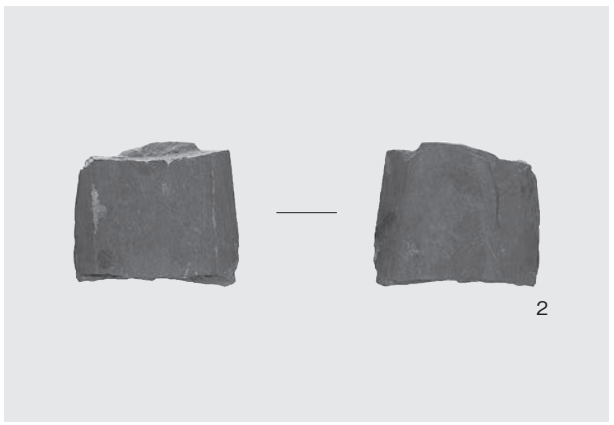
3区SD12出土遺物（4）



3区SK25出土遺物

3区SK44出土遺物

3区SD18出土遺物

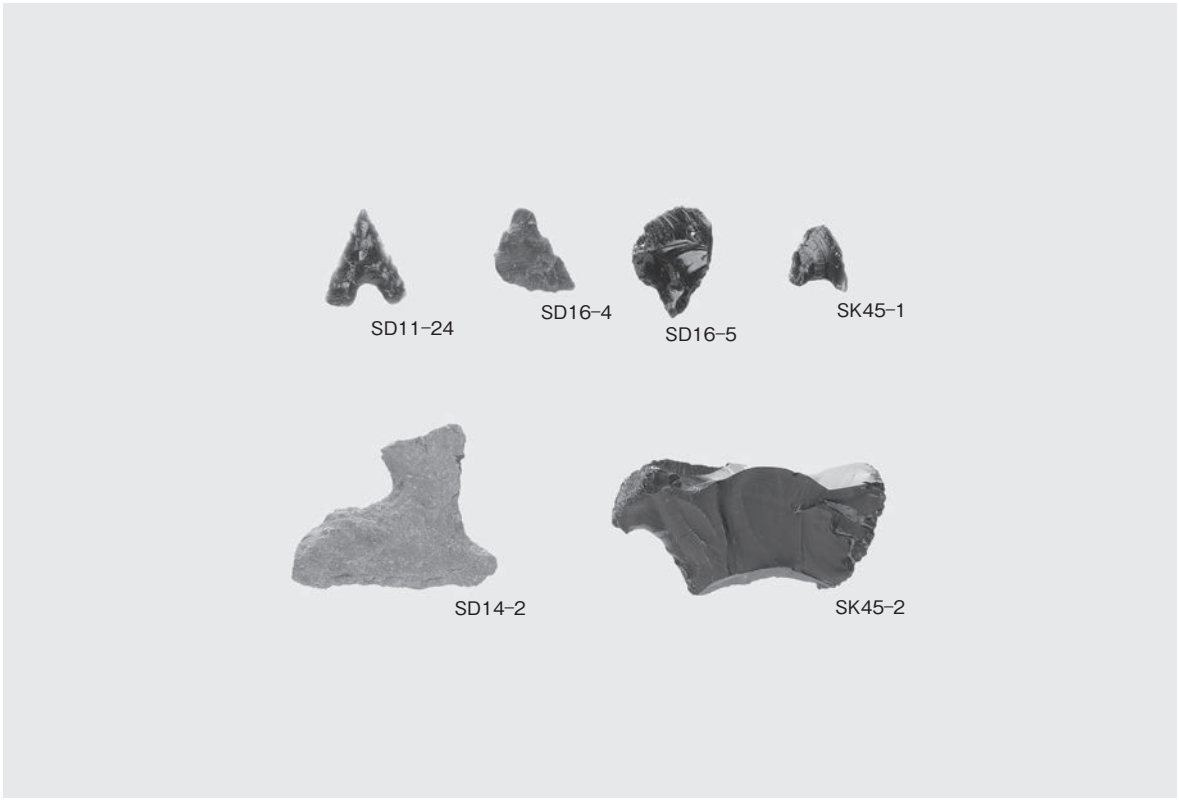


3区SD19出土遺物

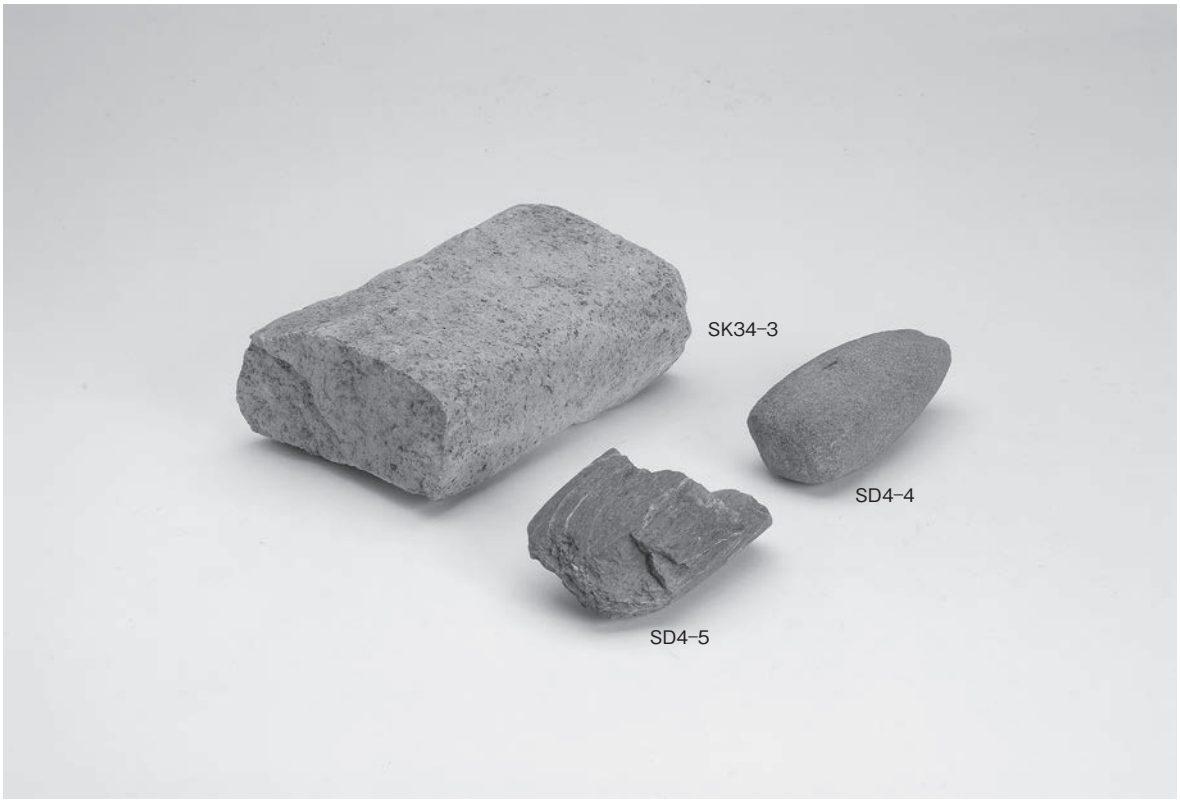
3区SK42出土遺物

6区SD30出土遺物

図版90

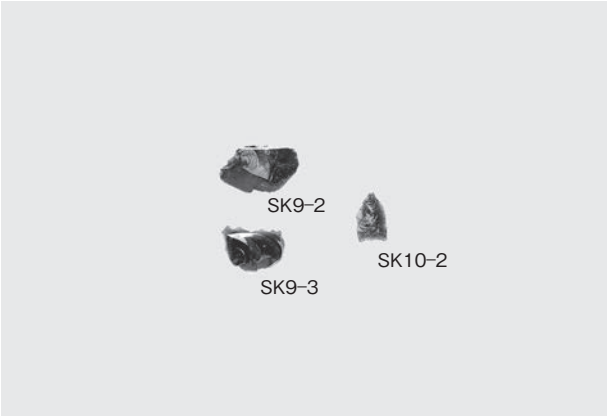


3区SD11・14・16、SK45出土遺物



3区SK34、SD４出土遺物

２区SK７出土遺物



３区SK９・10出土遺物

３区SK９・10・12出土遺物

３区SK40出土遺物

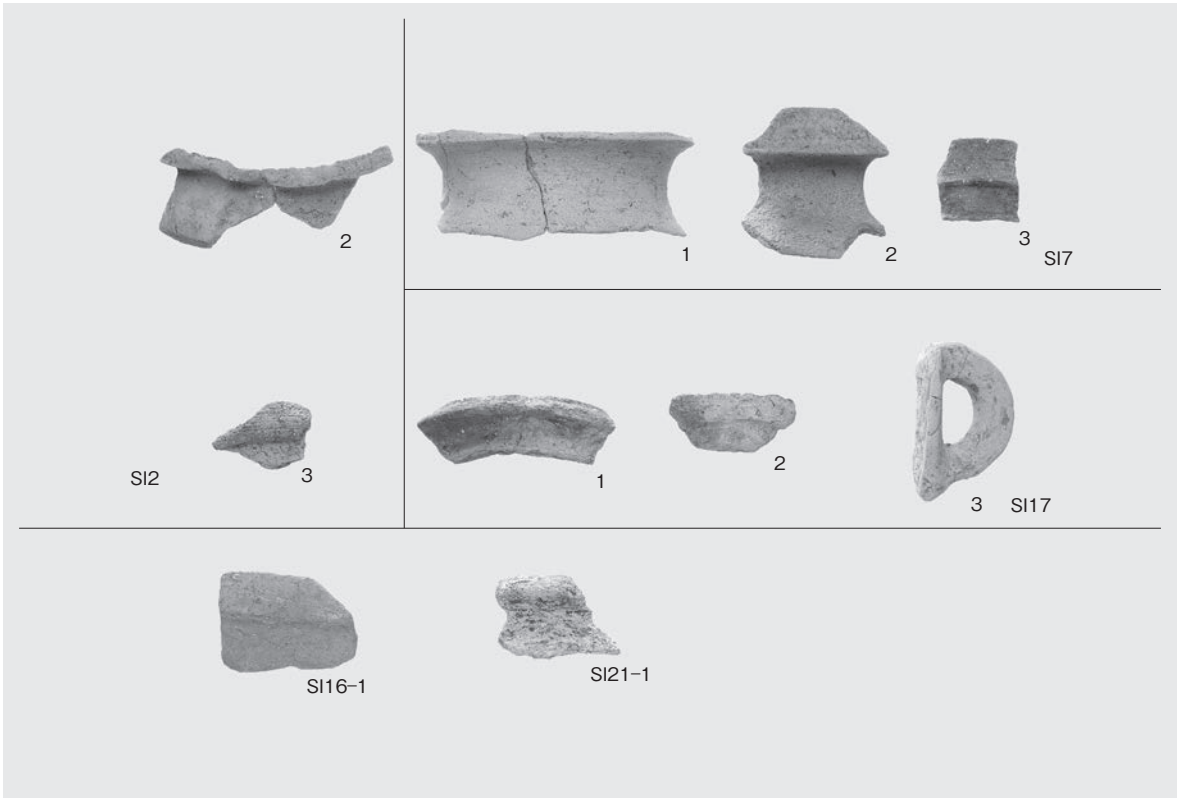
３区土器溜１出土遺物（１）

３区土器溜１出土遺物（２）

３区土器溜２出土遺物（１）

３区土器溜２出土遺物（２）

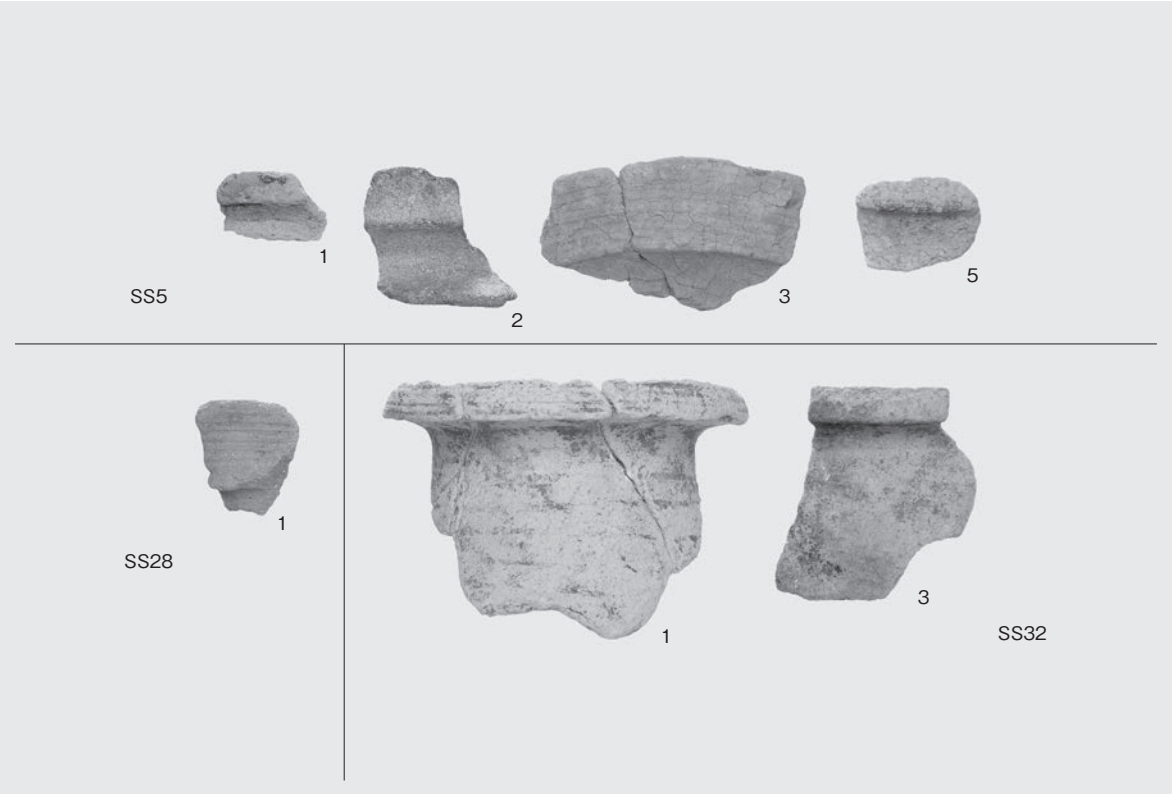
図版92



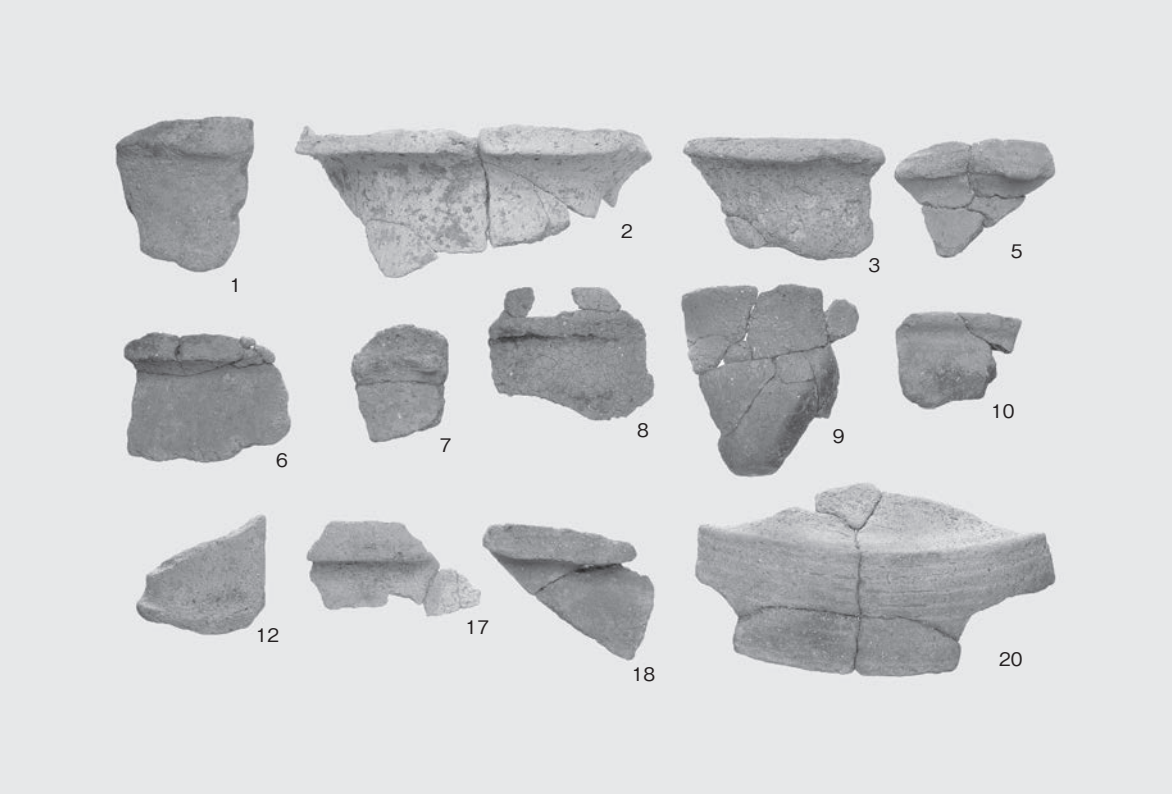
2区SI2・7・16・17・21出土遺物

2区SI2・7・16・17出土遺物

2区SI2出土遺物



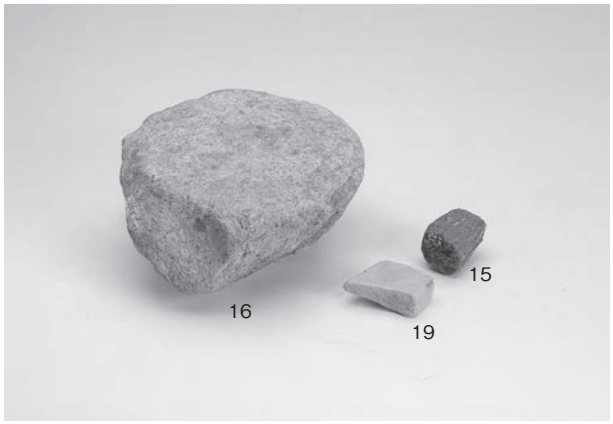
4区SS５・28・32出土遺物



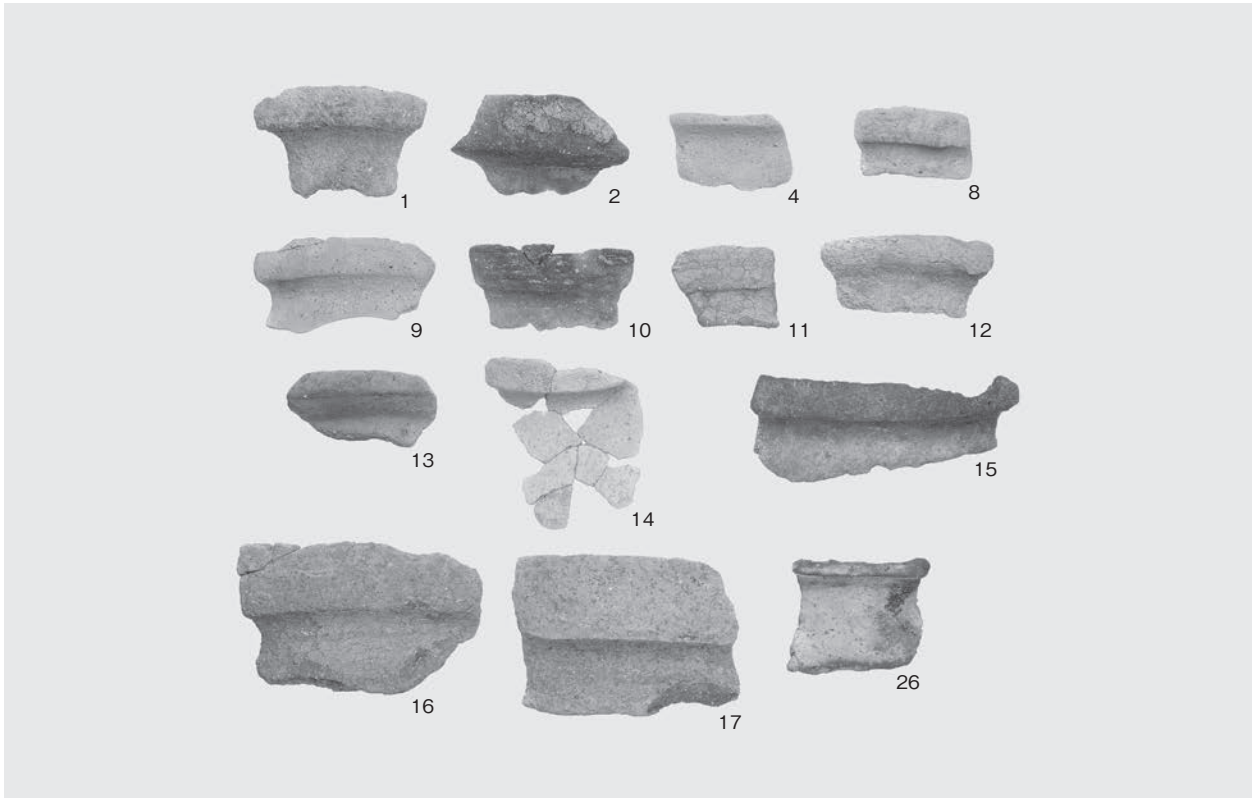
4区SS13出土遺物（１）

図版94

4区SS13出土遺物（2）



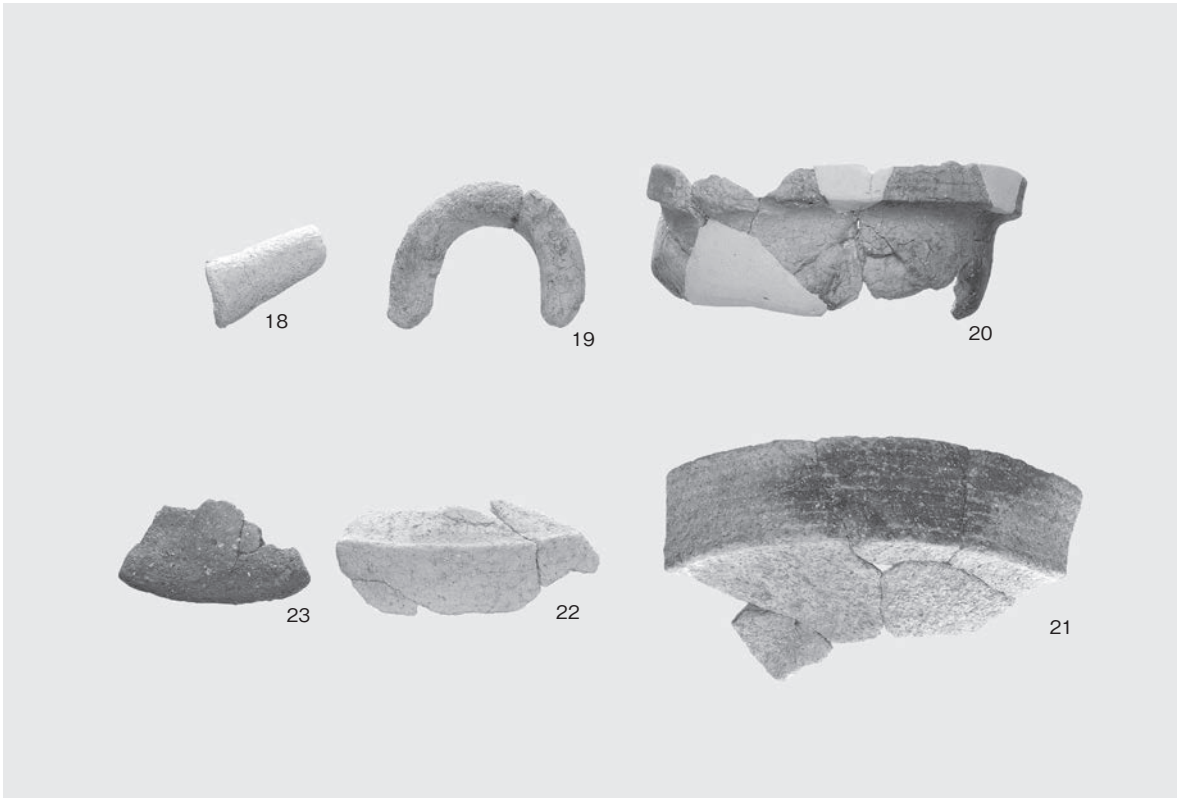
4区SS13出土遺物（3）



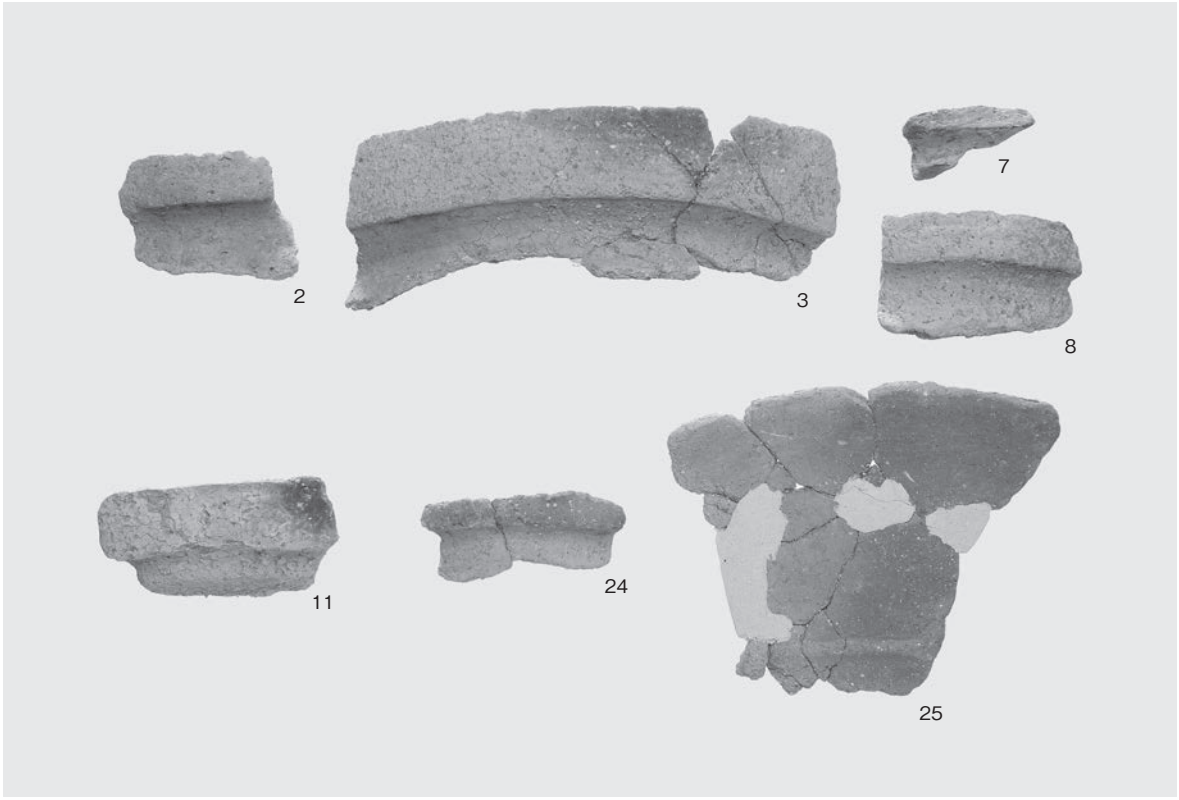
4区SS18出土遺物（1）

4区SS18出土遺物（2）

4区SS18出土遺物（3）

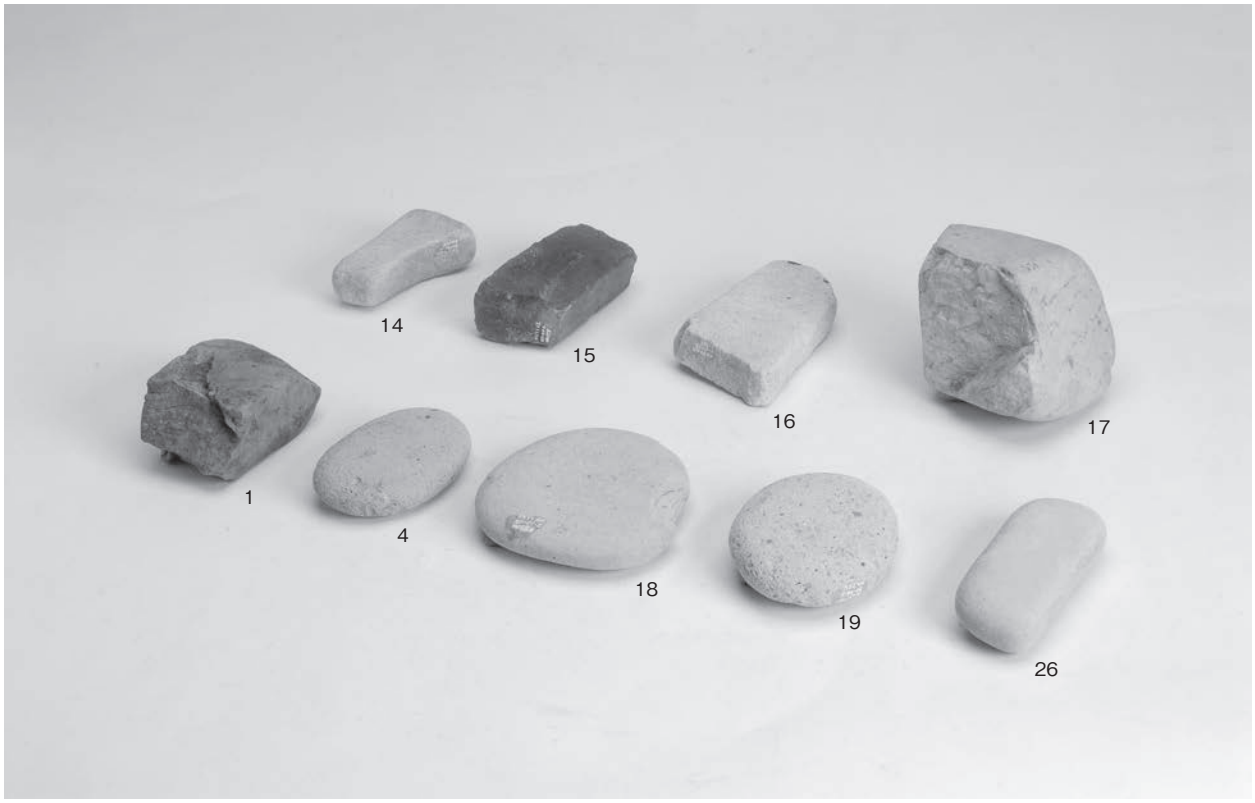


4区SS18出土遺物（4）



6区SI1出土遺物（1）

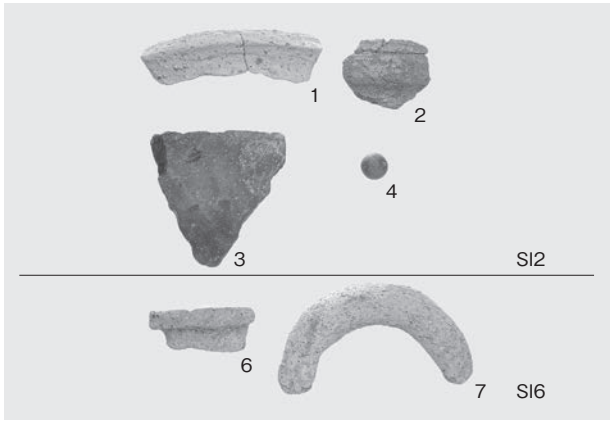
図版96



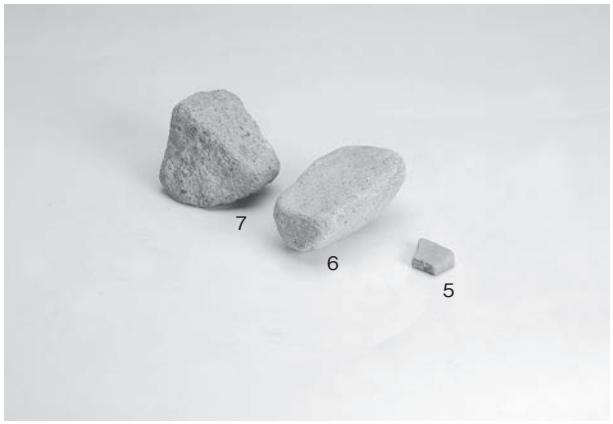
6区SI１出土遺物（２）

6区SI１−２出土遺物（１）

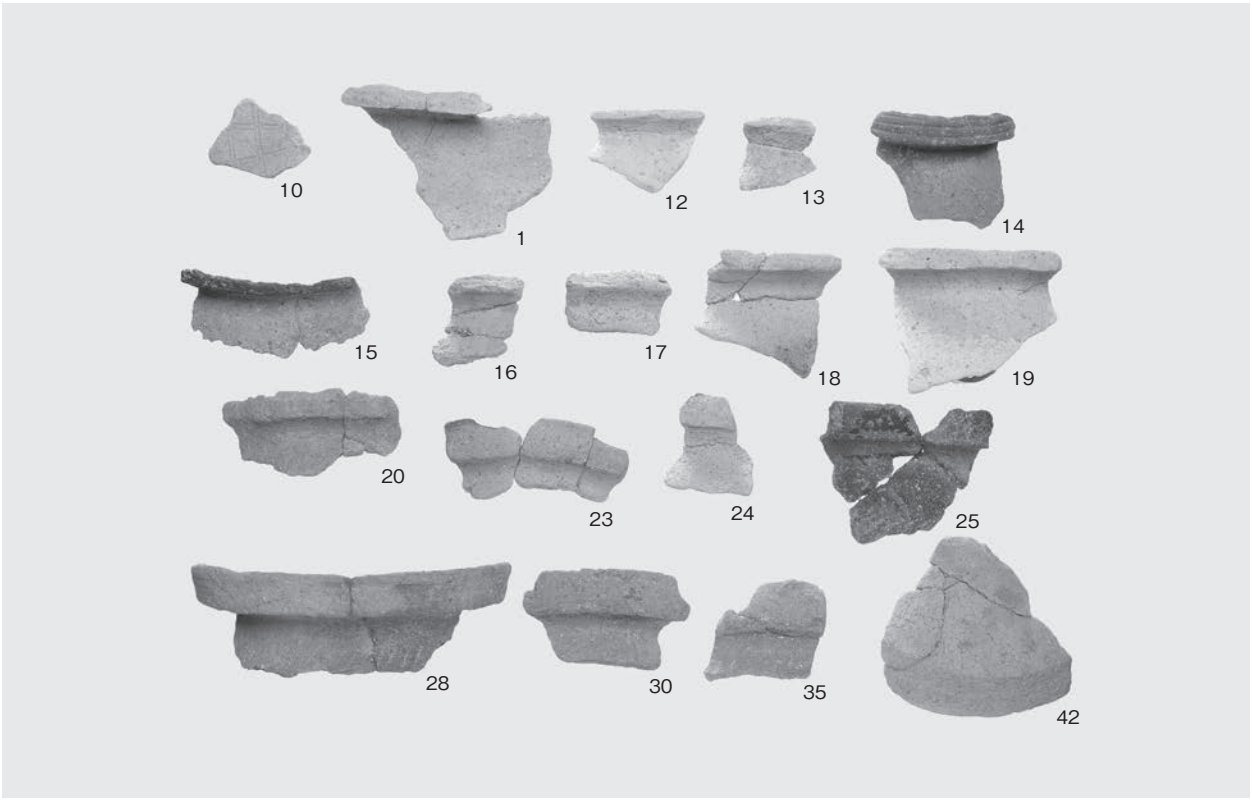
6区SI１−２出土遺物（２）

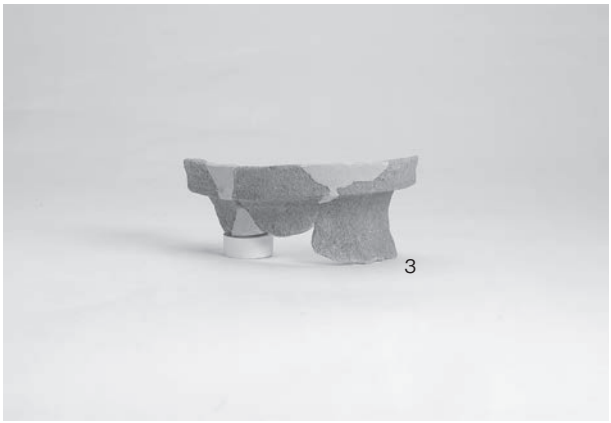


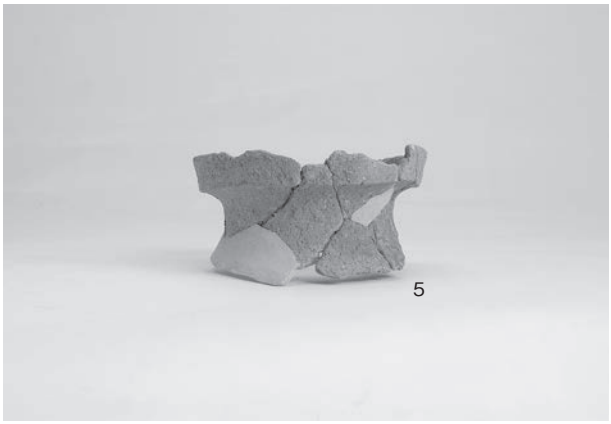
6区SI２・６出土遺物



6区SI２出土遺物

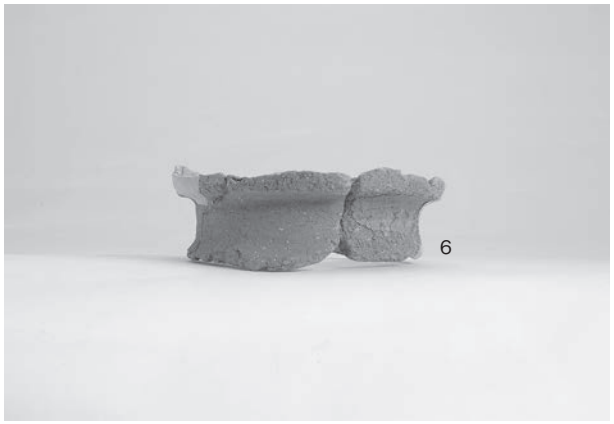


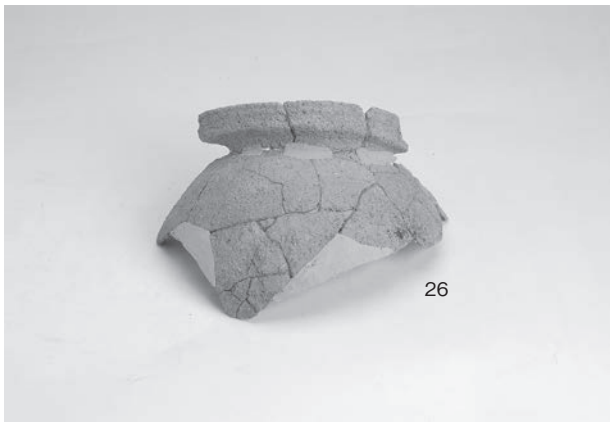




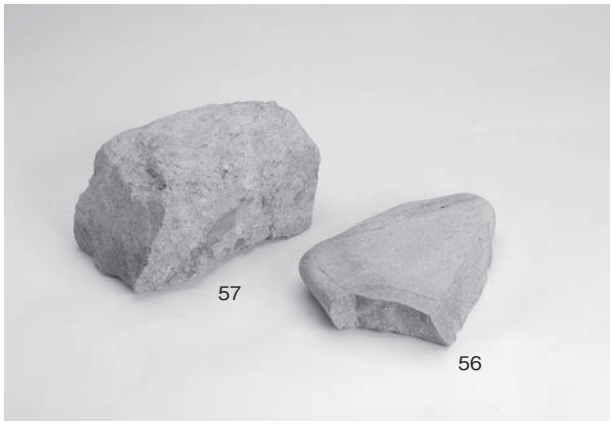
6区SI10出土遺物（1）

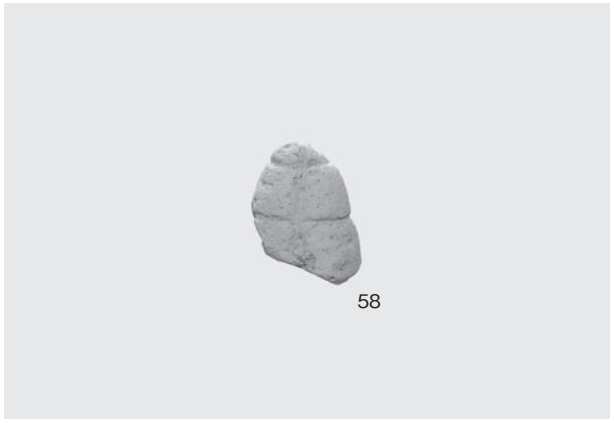
図版98

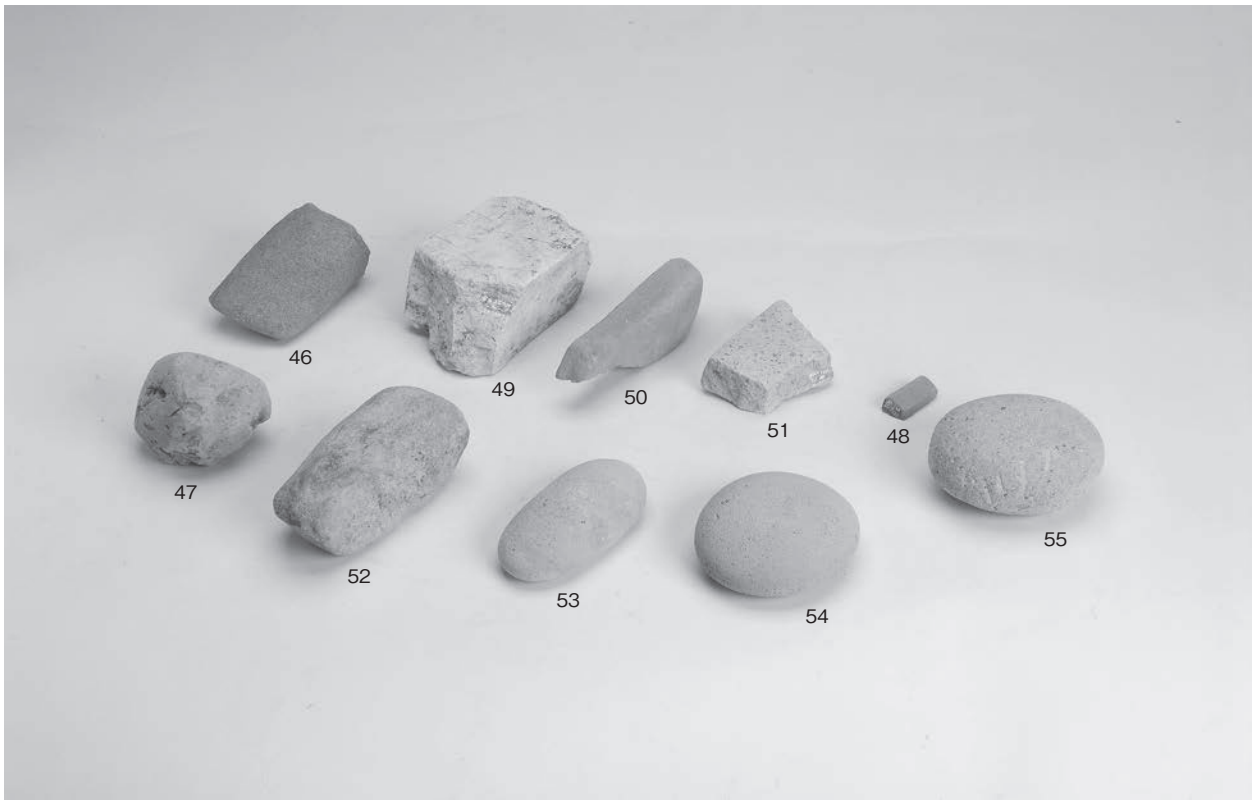




6区SI10出土遺物（2）

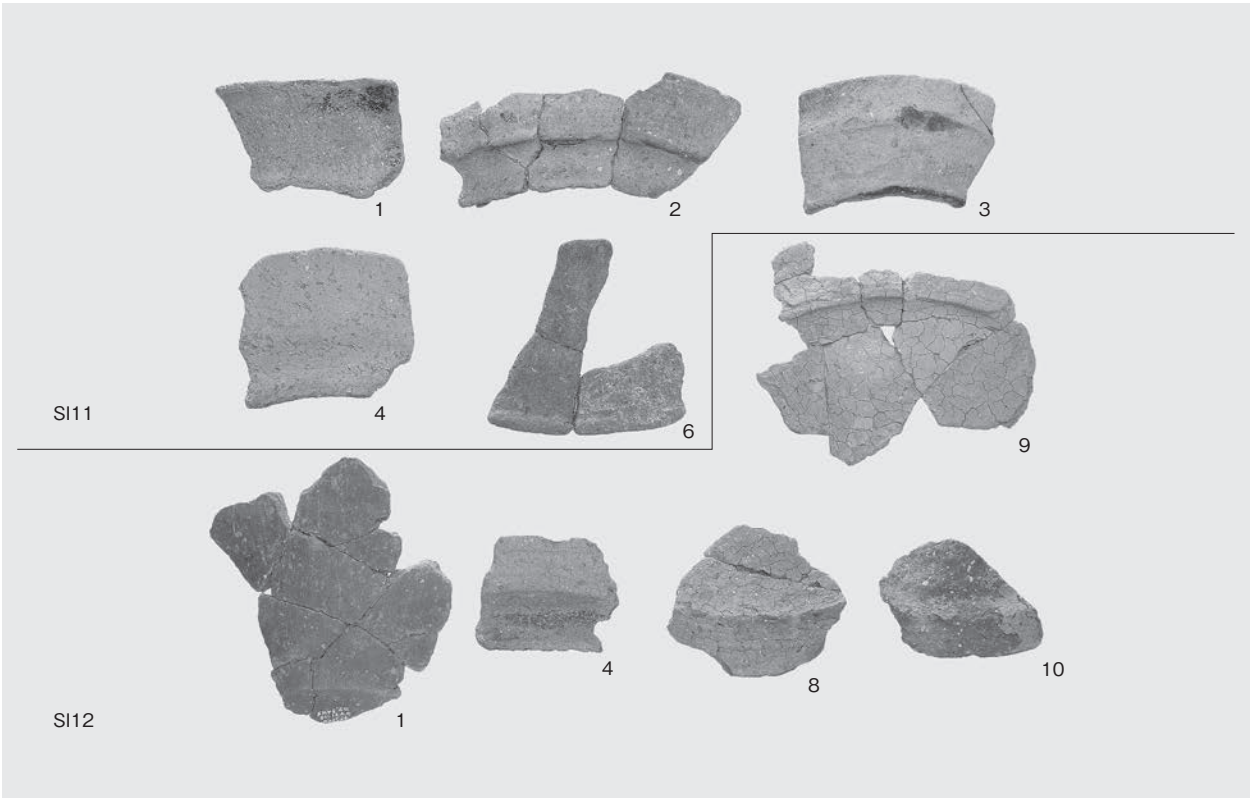




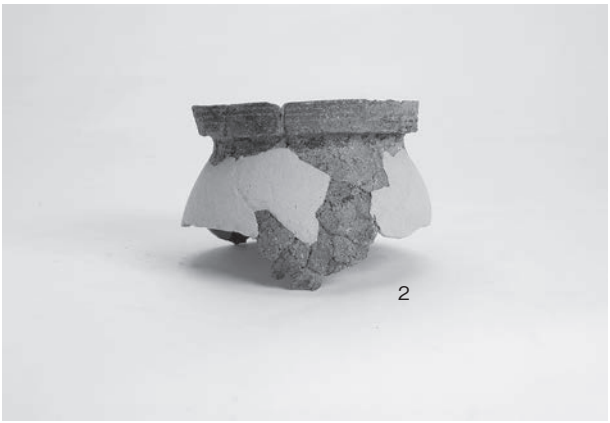


6区SI10出土遺物（3）

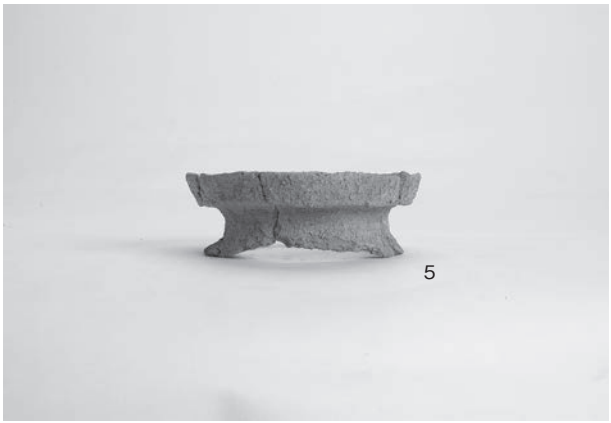
図版100



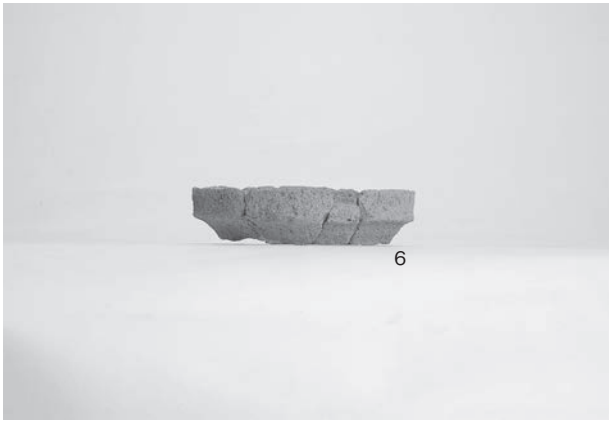
6区SI11·12出土遺物



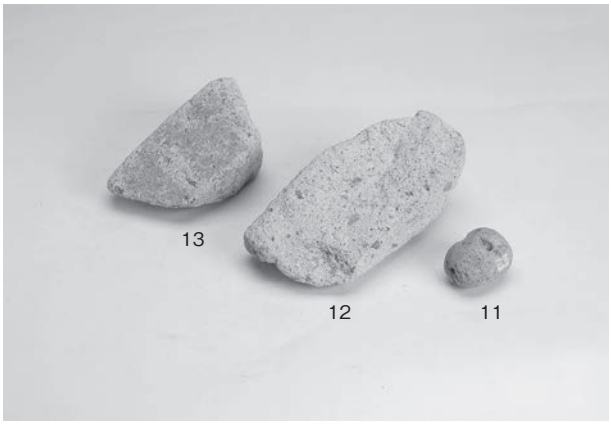
6区SI12出土遺物（1）



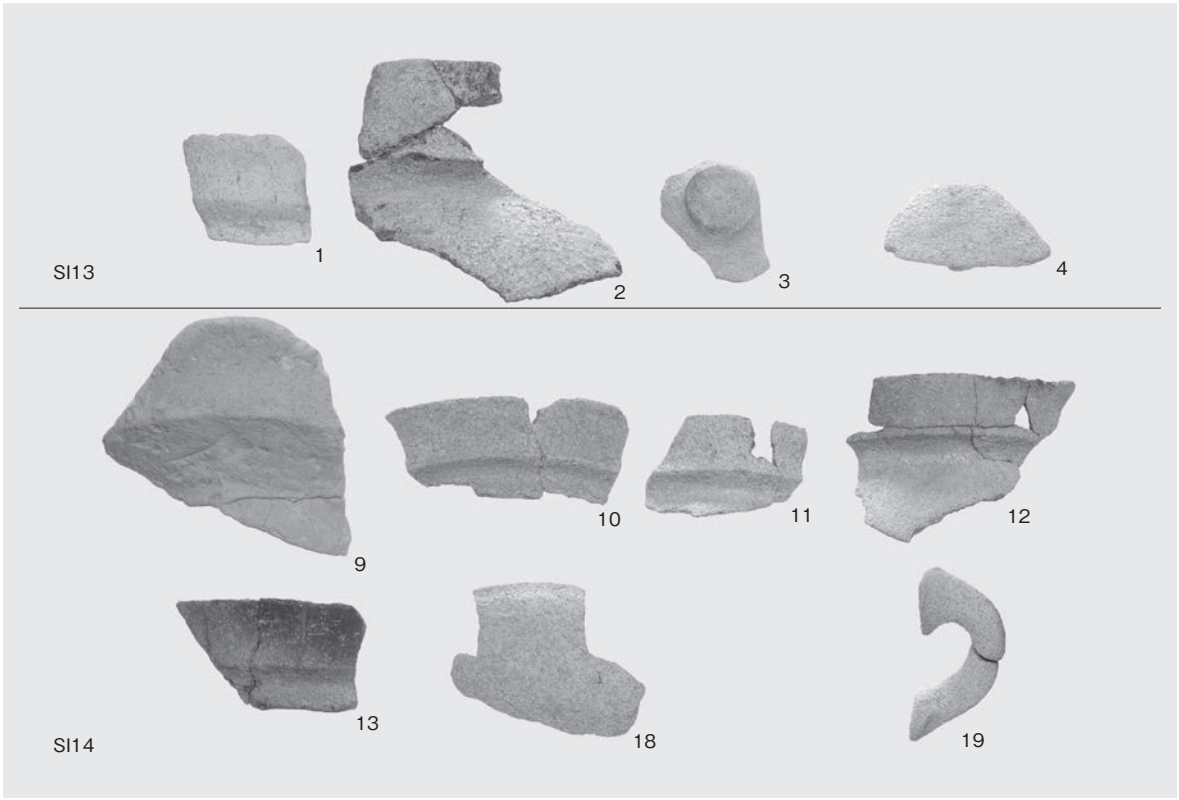
6区SI12出土遺物（2）



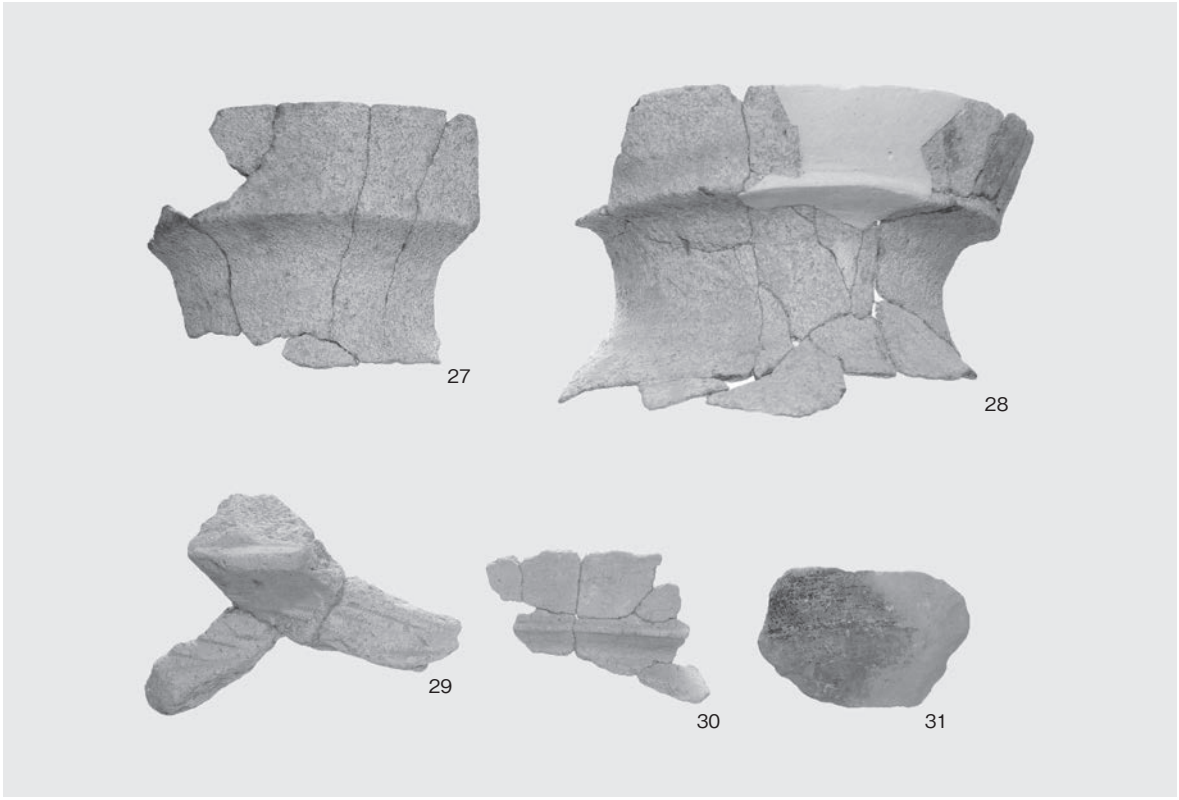
6区SI12出土遺物（3）



6区SI15出土遺物（1）

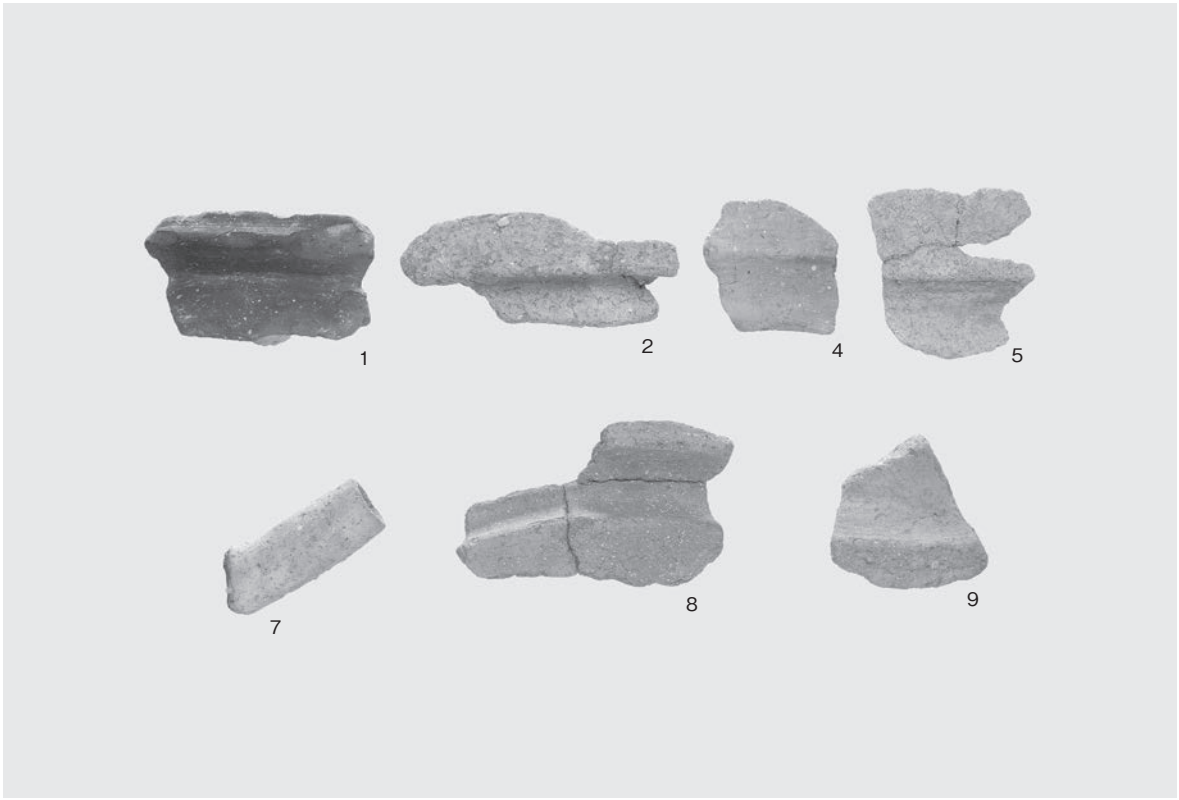


6区SI13・14出土遺物

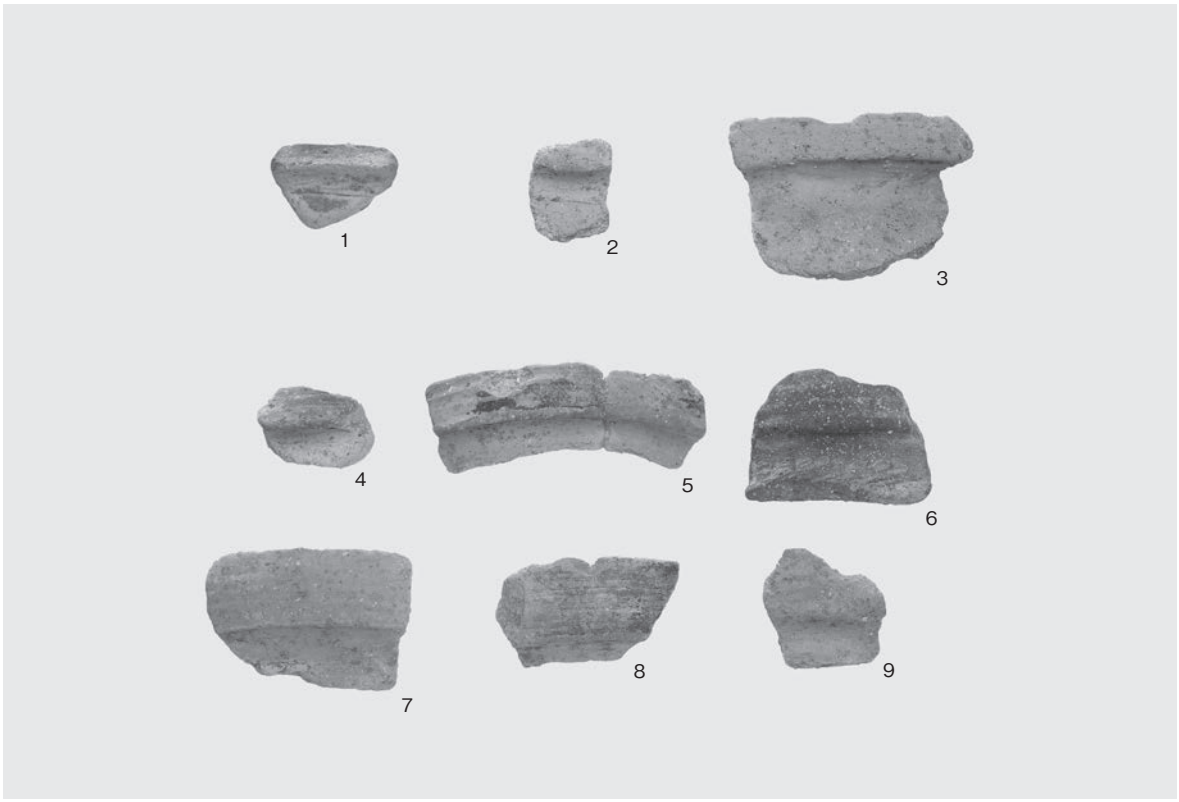


6区SS11出土遺物

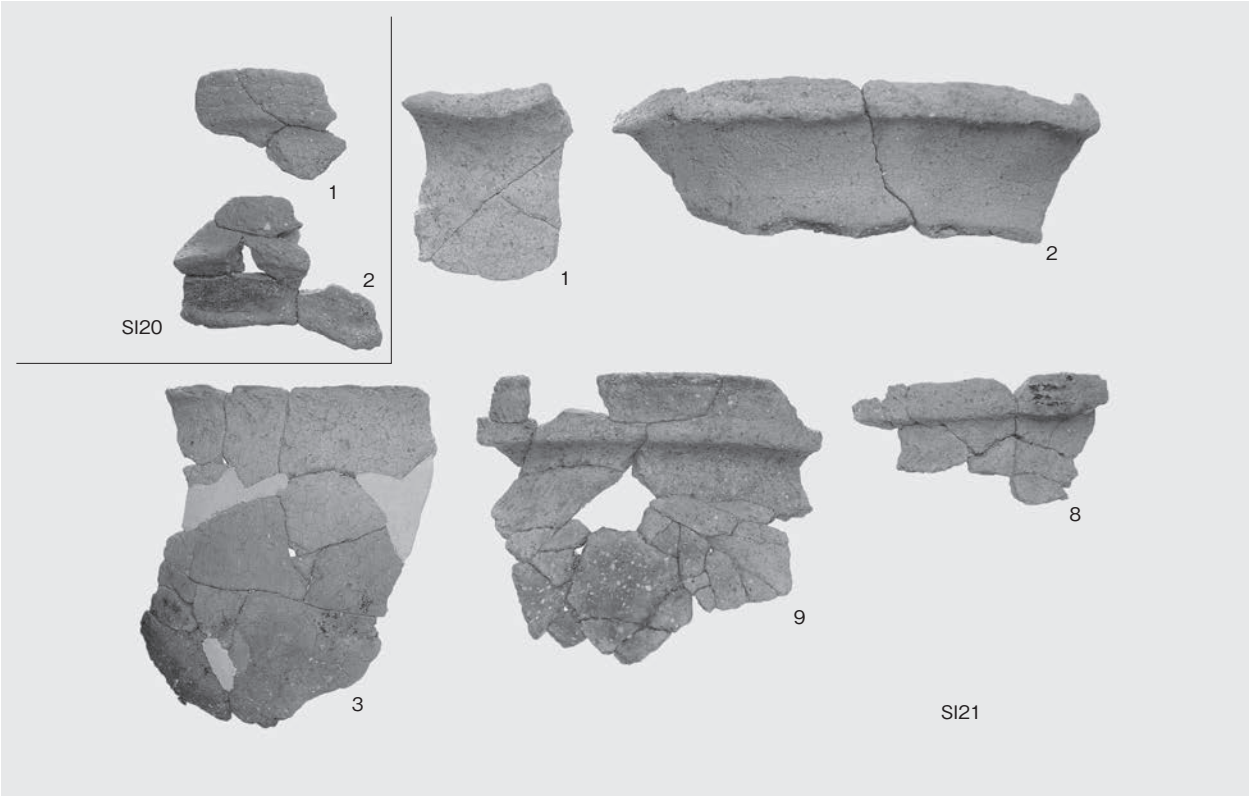
図版102



6区SI15出土遺物（2）



6区SI17出土遺物



6区SI20・21出土遺物（1）

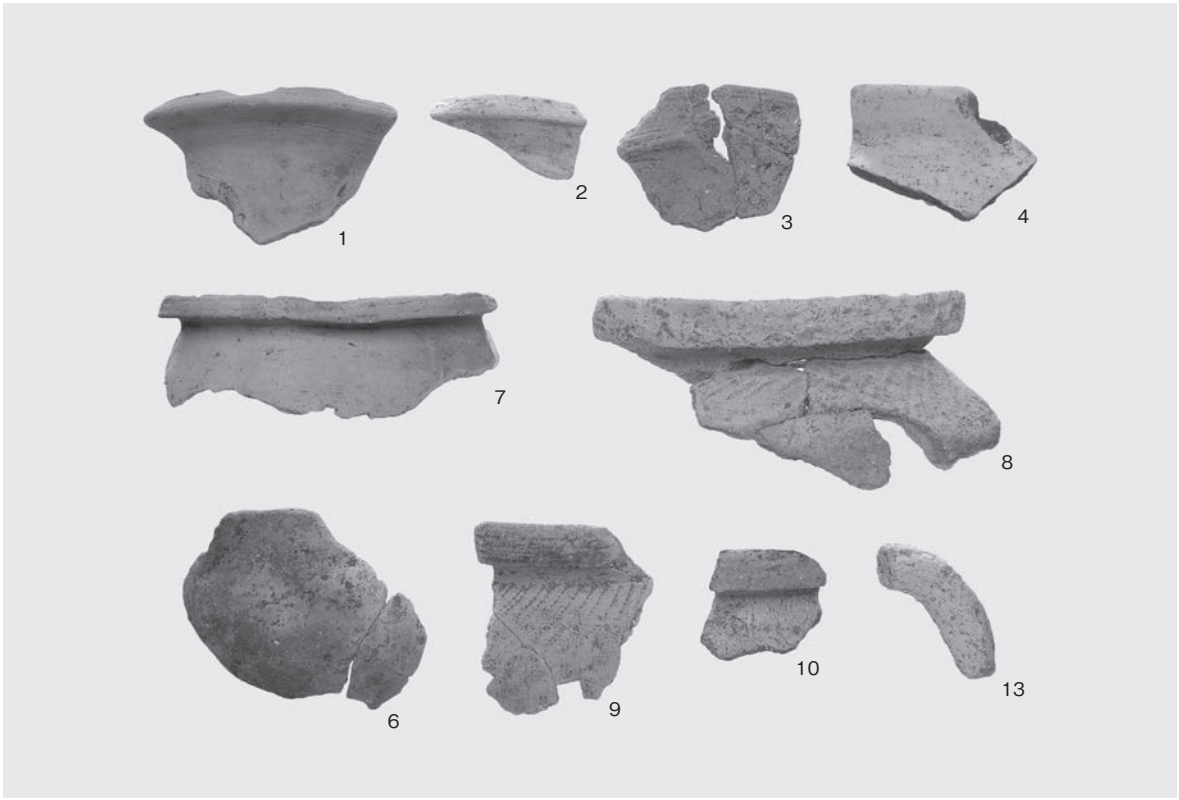
6区SI20・21出土遺物（2）

6区SI21出土遺物（1）

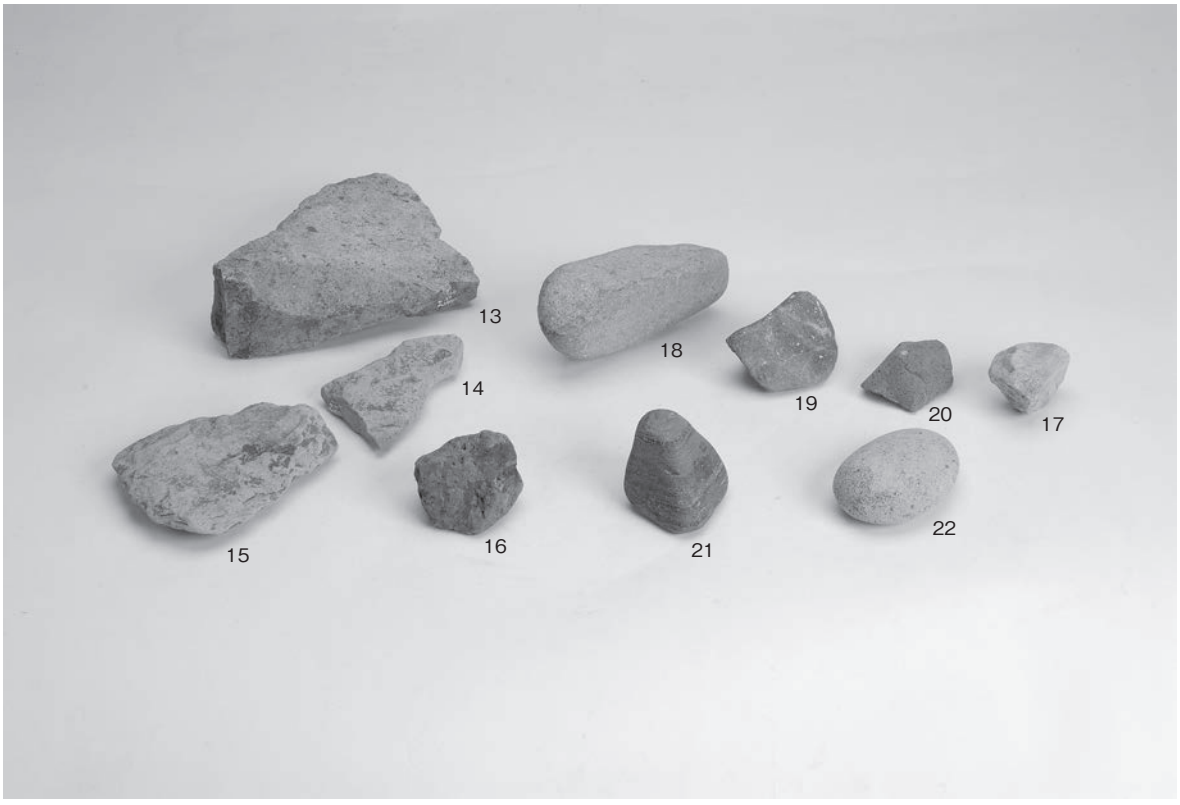
6区SI21出土遺物（2）

6区SI21出土遺物（3）

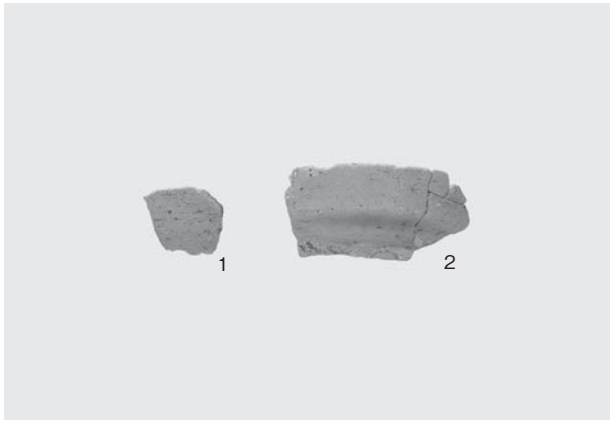
図版104



6区SI25出土遺物（1）



6区SI25出土遺物（2）

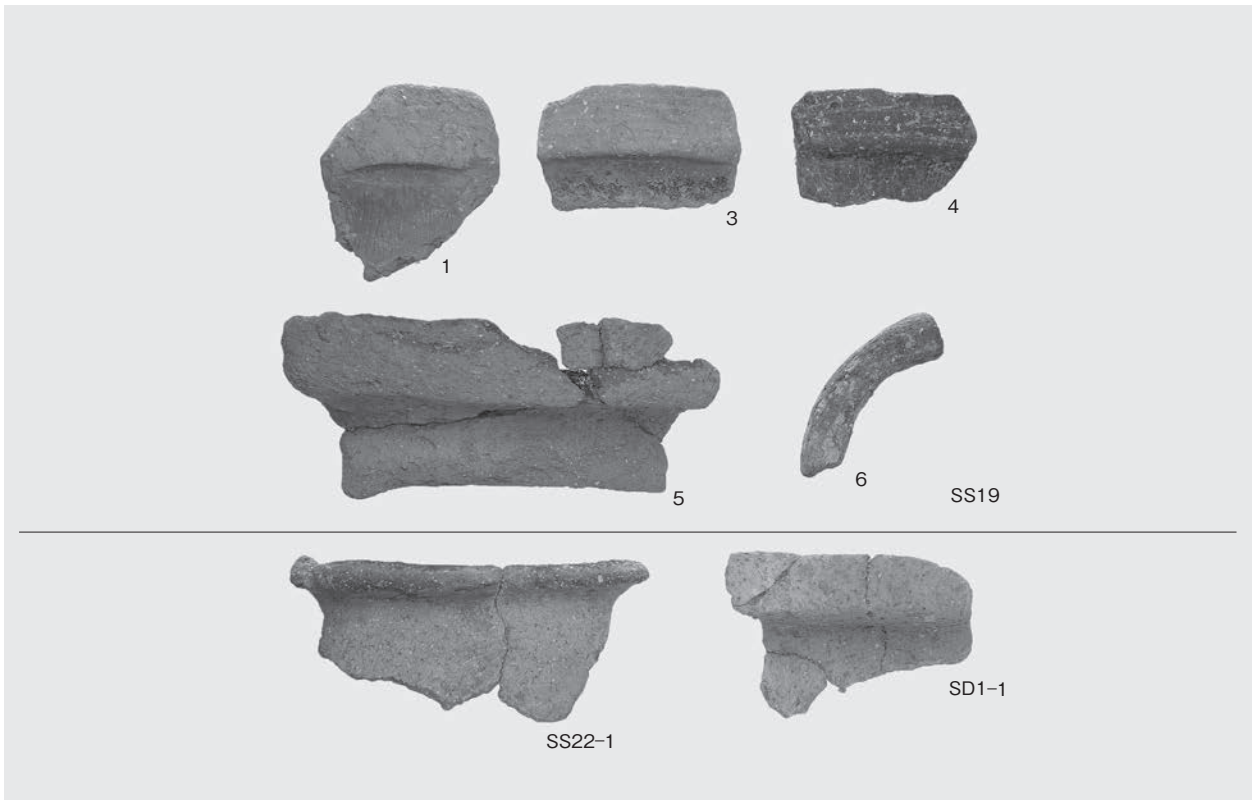


3区SS2出土遺物

4区SS8出土遺物（1）

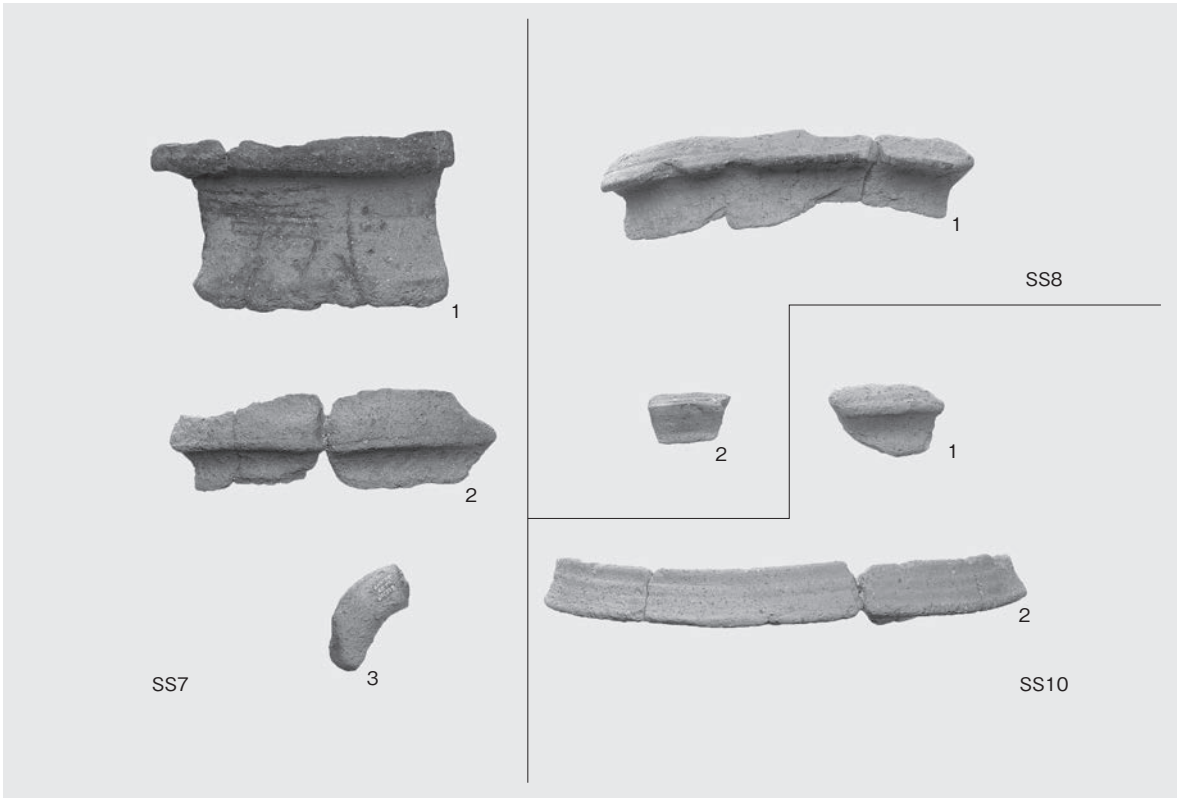
4区SS8出土遺物（2）

4区SS21出土遺物

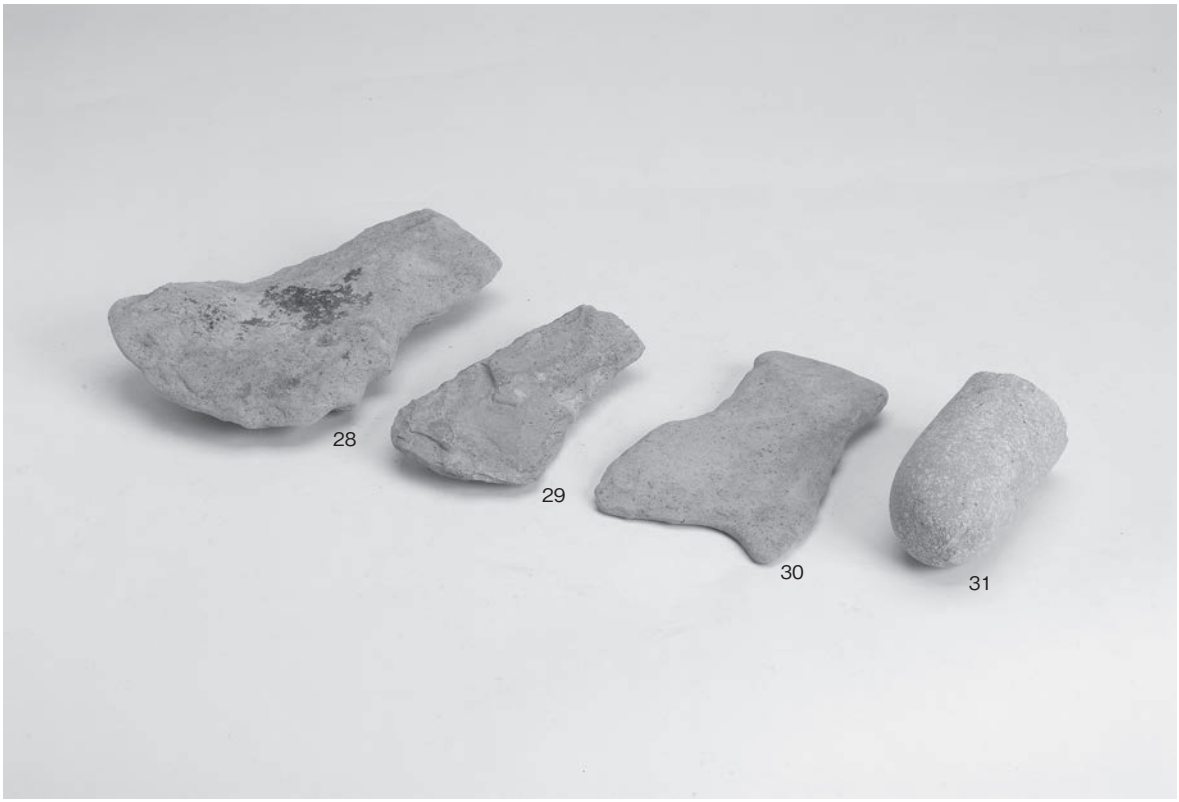


4区SS19・22、SD1出土遺物

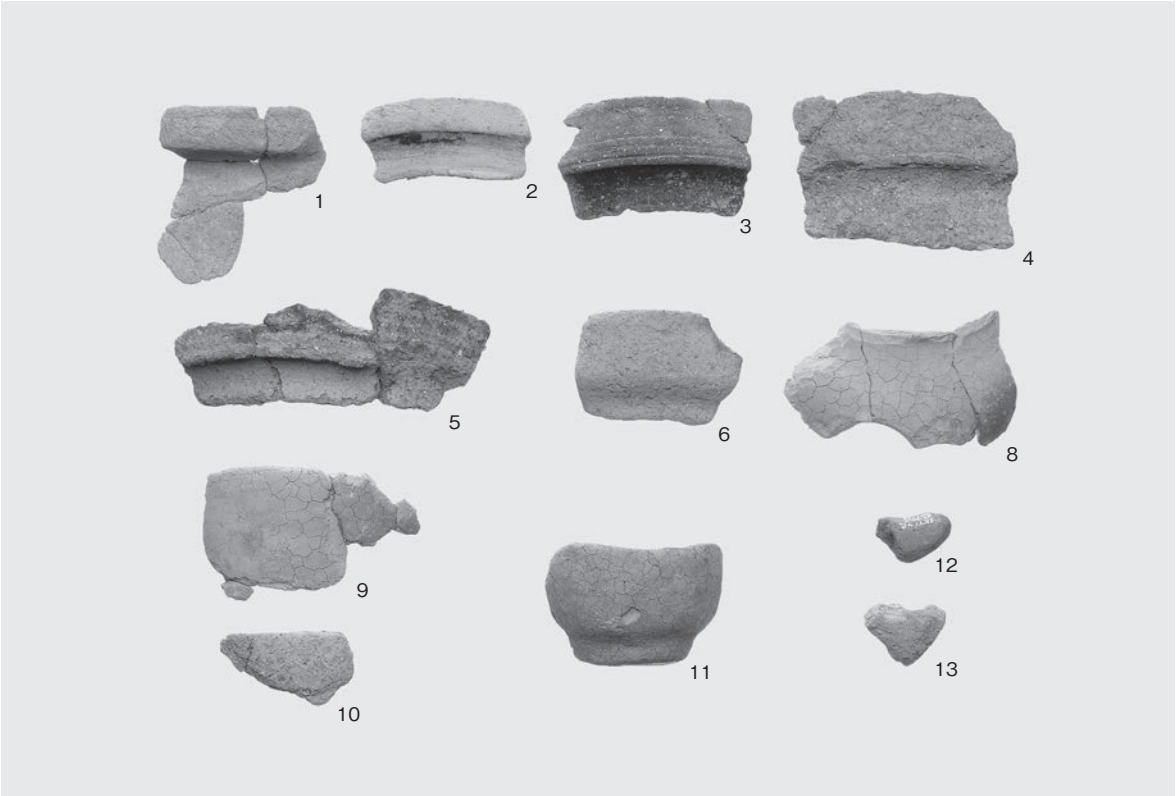
図版106



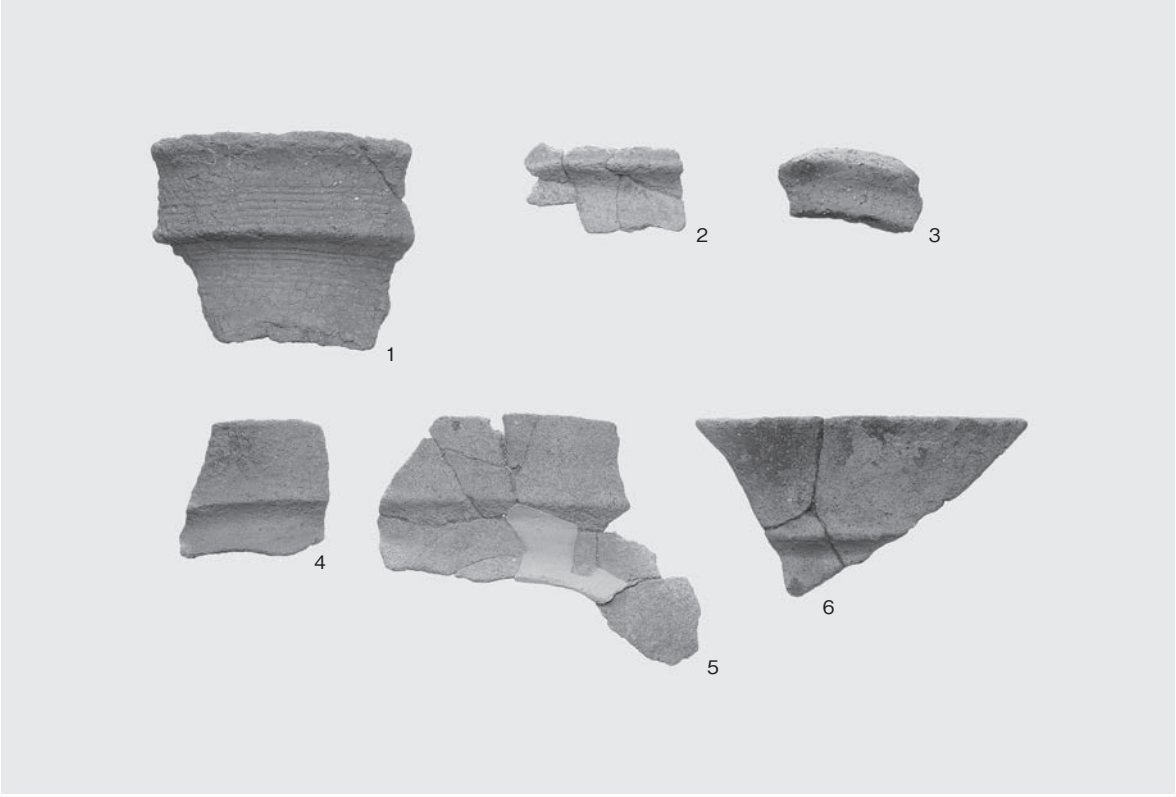
6区SS７・８・10出土遺物



6区遺構内包含層出土遺物



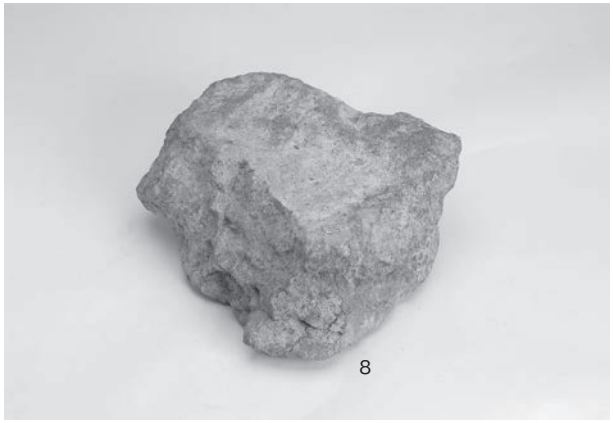
6区SS12-1出土遺物（1）



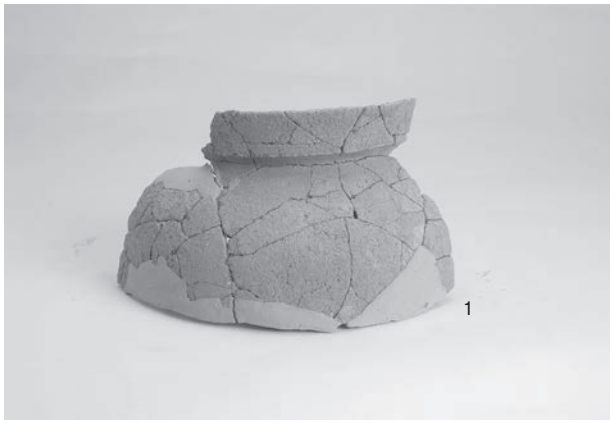
6区SS12-2出土遺物（1）

図版108

6区SS12-1出土遺物（2）

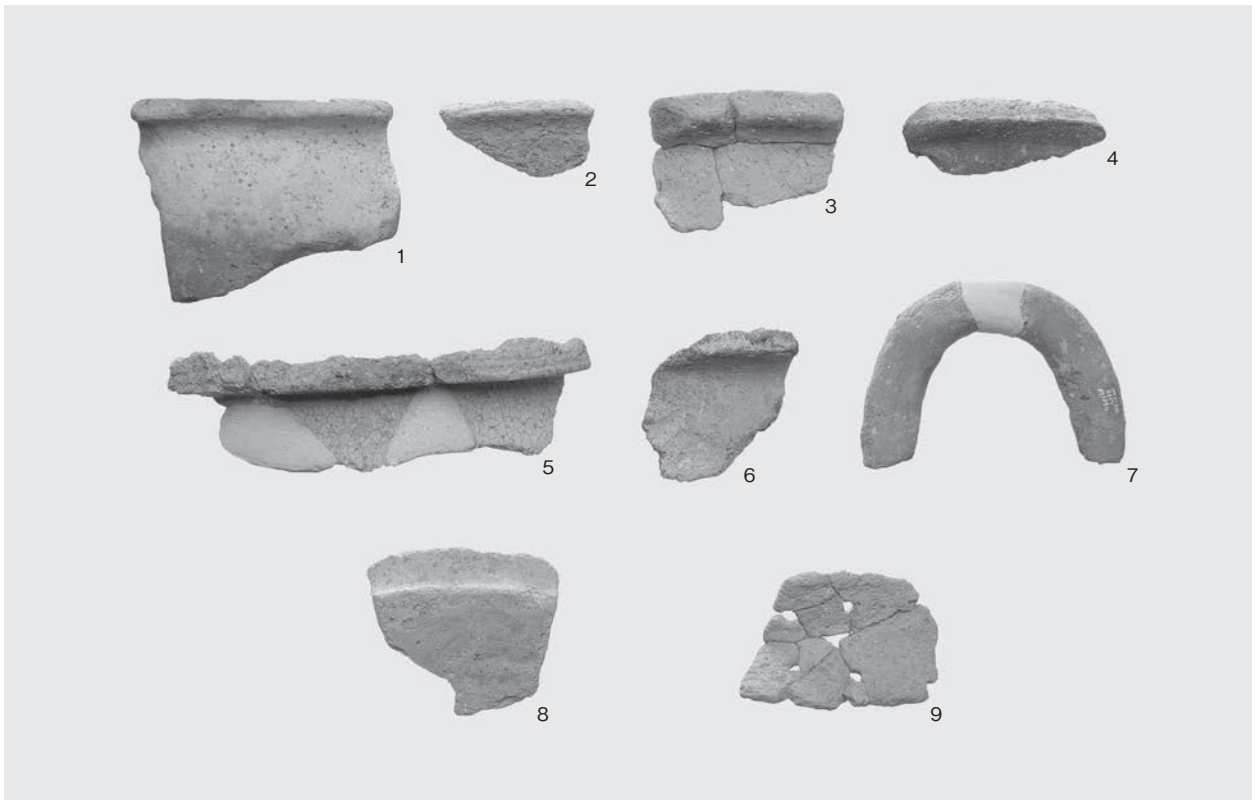


6区SS12-2出土遺物（2）

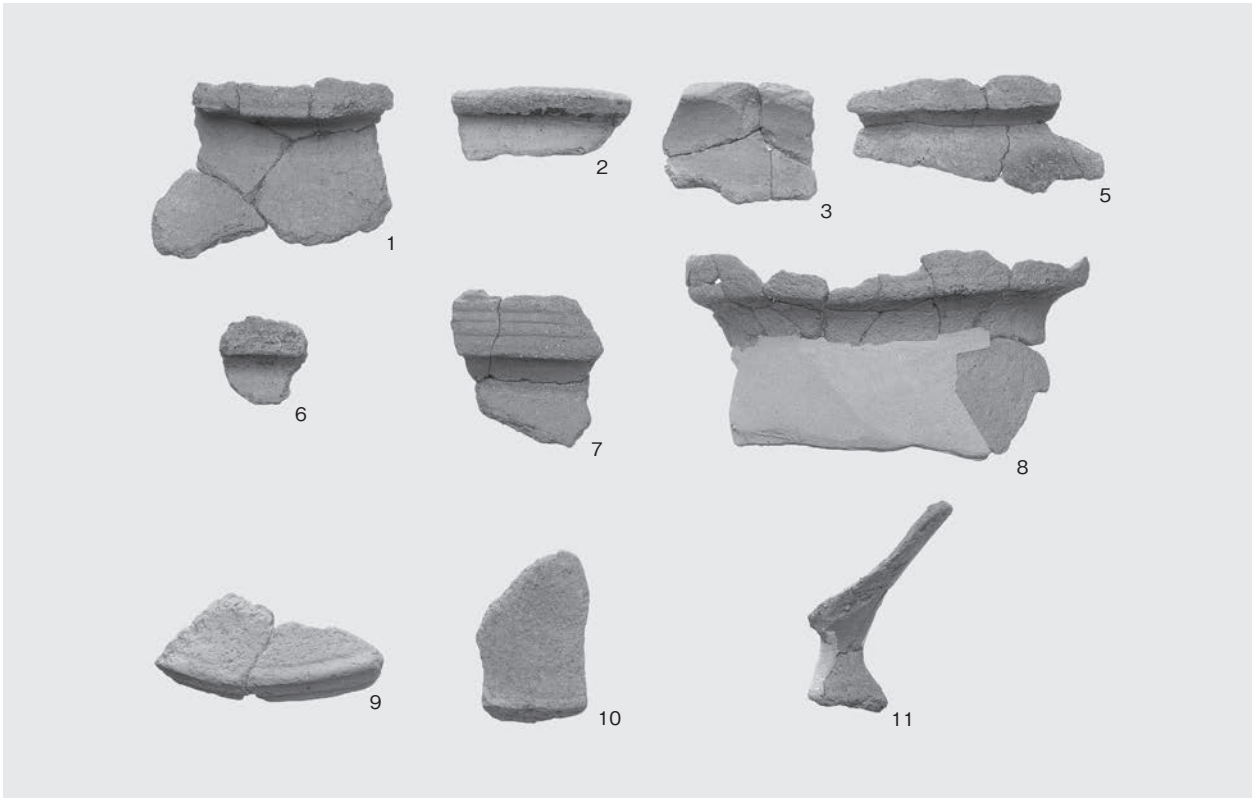


6区SS12-3出土遺物（1）

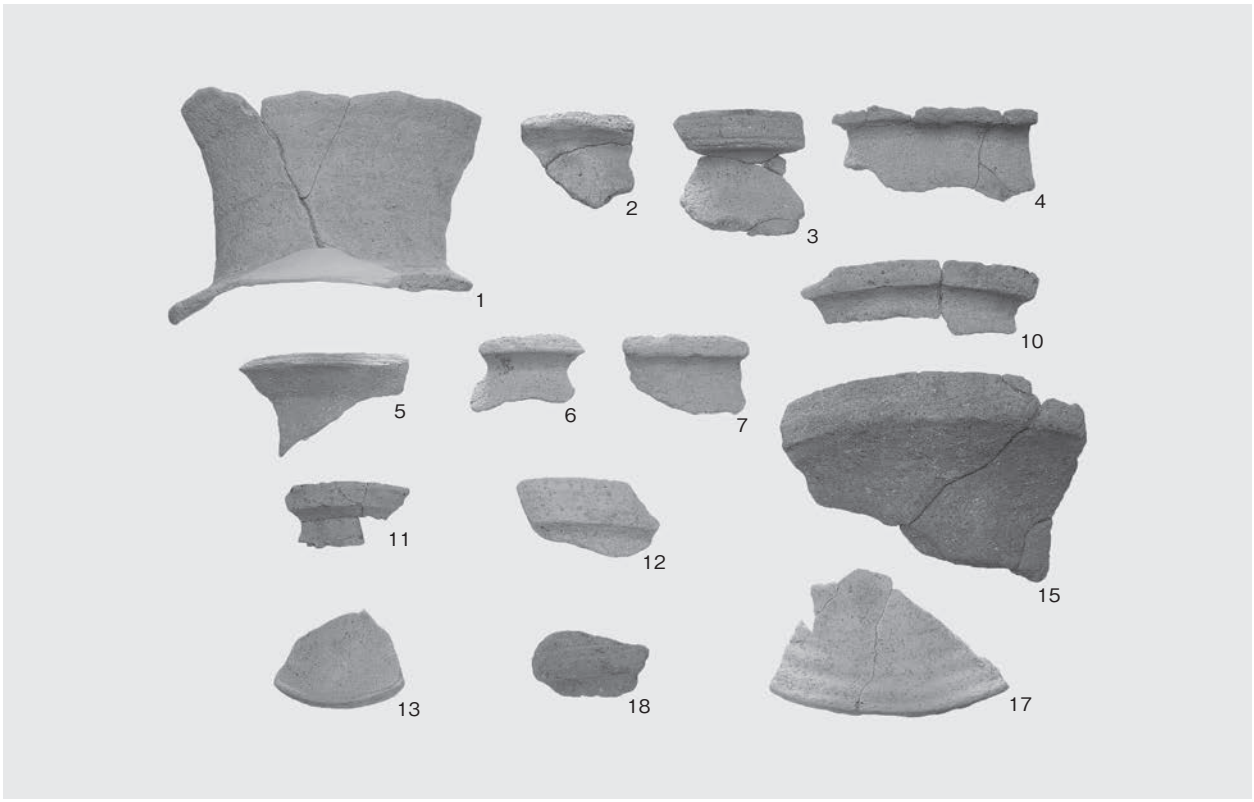
6区SS12-3出土遺物（2）



6区SS17出土遺物



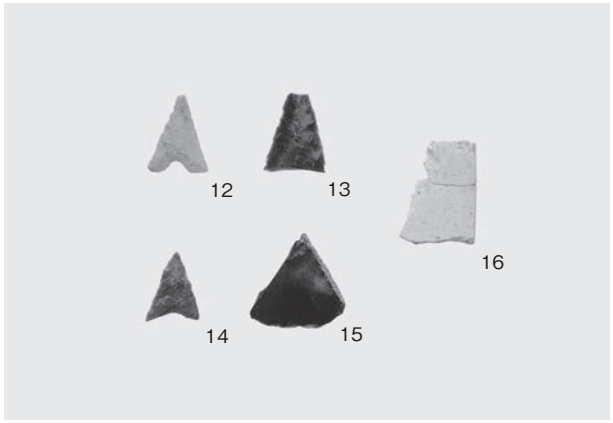
6区SS19出土遺物（1）



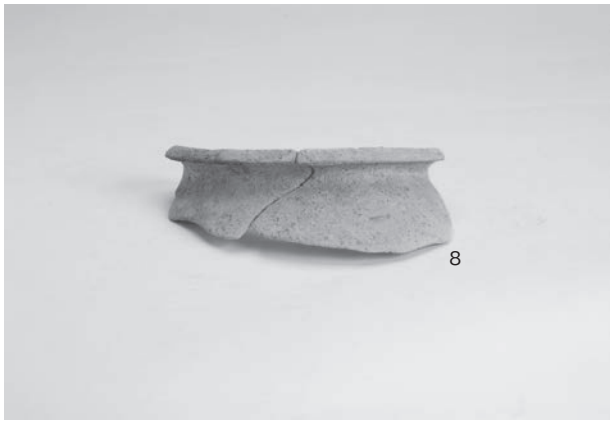
6区SS24出土遺物（1）

図版110

6区SS19出土遺物（2）



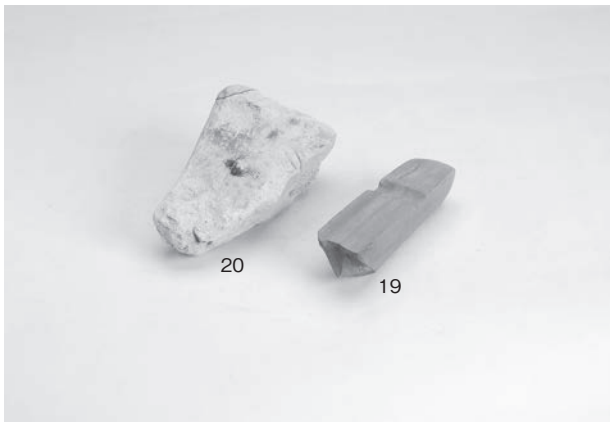
6区SS19出土遺物（3）



6区SS24出土遺物（2）

6区SS24出土遺物（3）

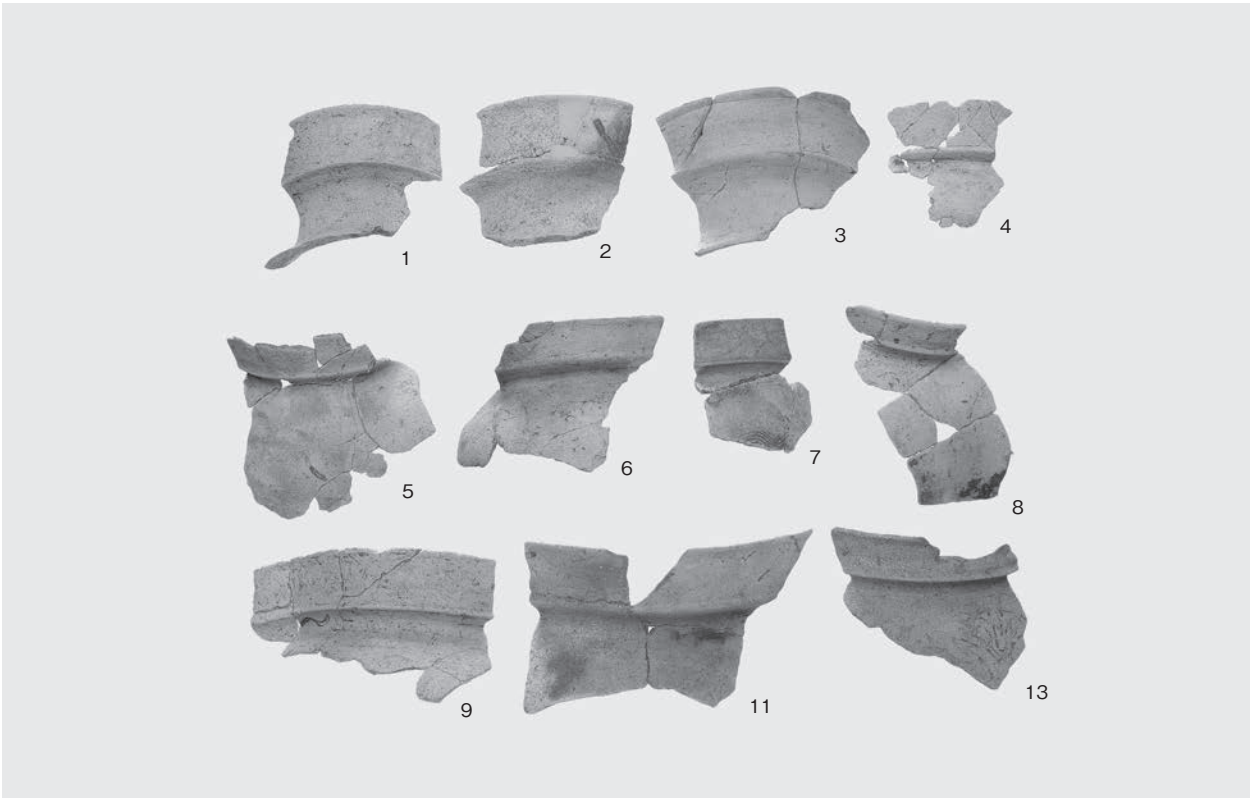
6区SS24出土遺物（4）

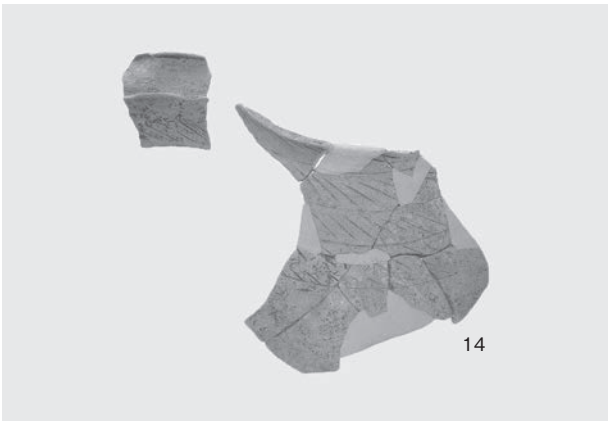


6区SS24出土遺物（5）

6区SK36-1出土遺物

4区SD1出土遺物

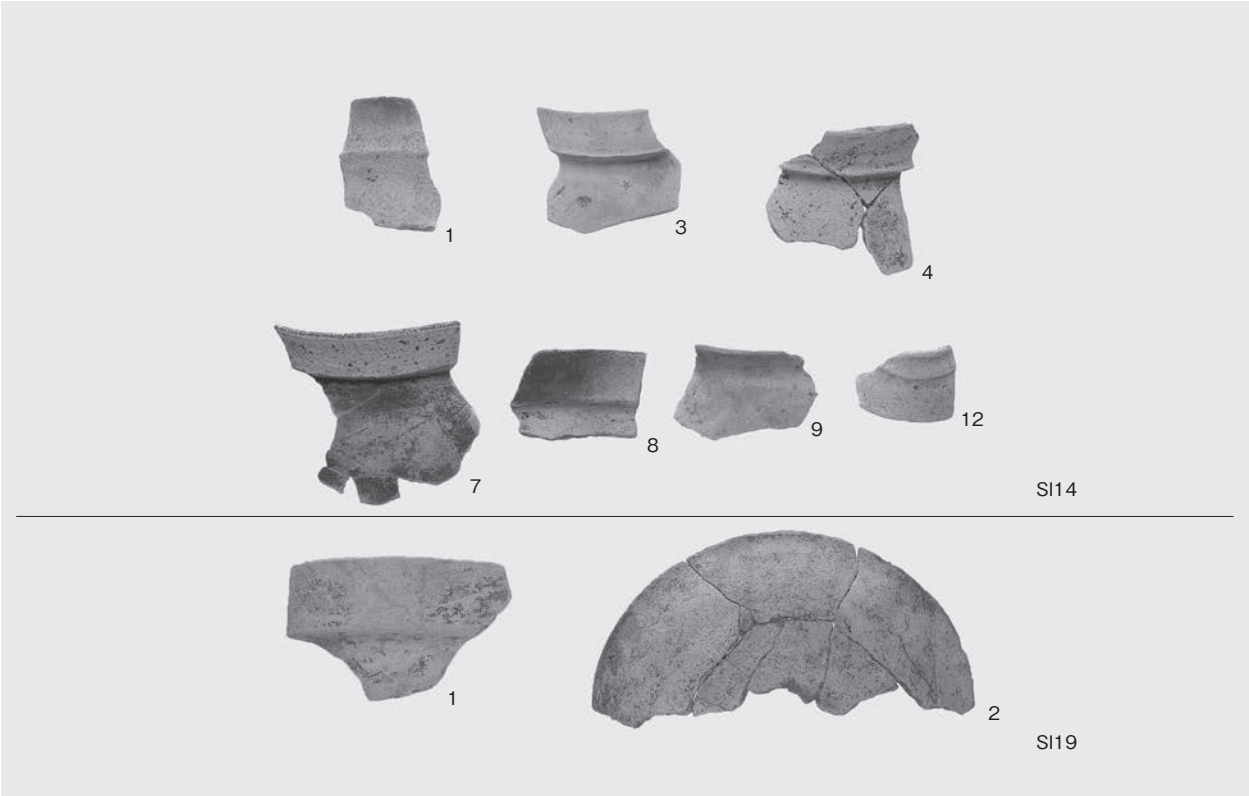




２区SI８出土遺物（１）

図版112

２区SI８出土遺物（２）



２区SI14・19出土遺物

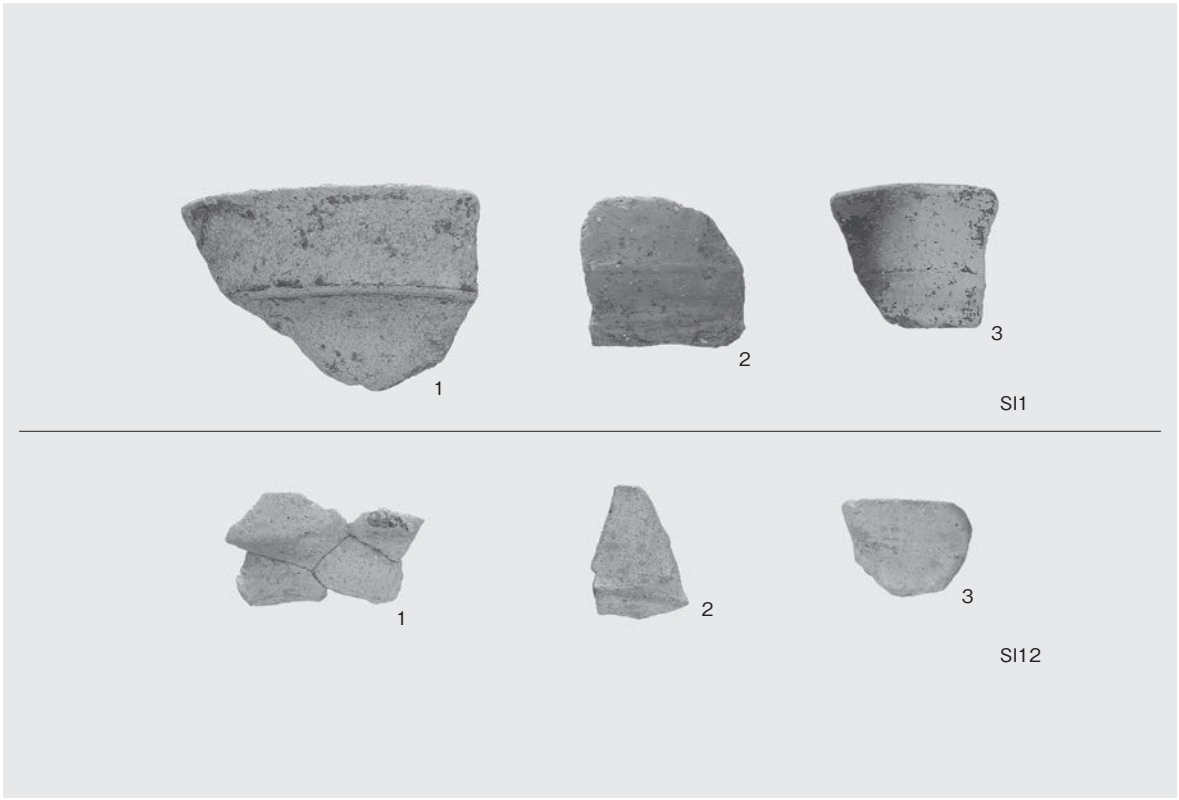
２区SI14出土遺物（１）

２区SI14出土遺物（２）

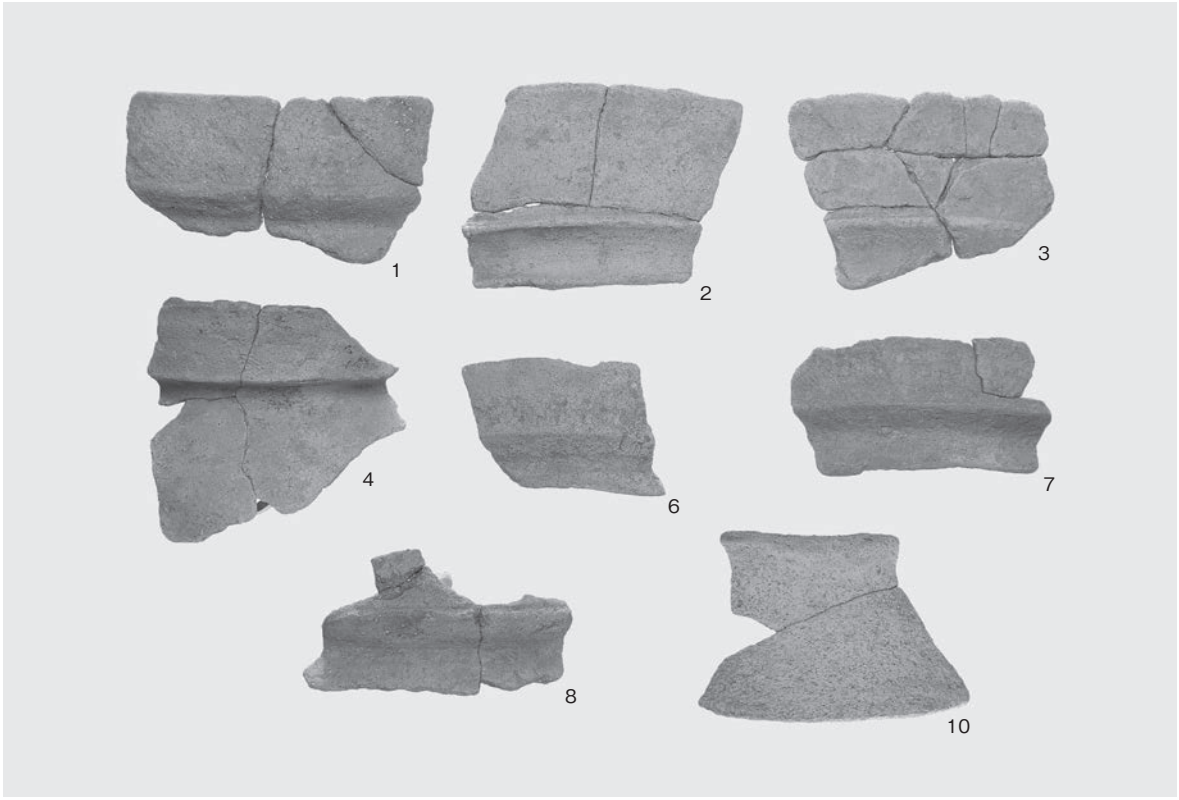
２区SI14出土遺物（３）

２区SI19出土遺物

図版114

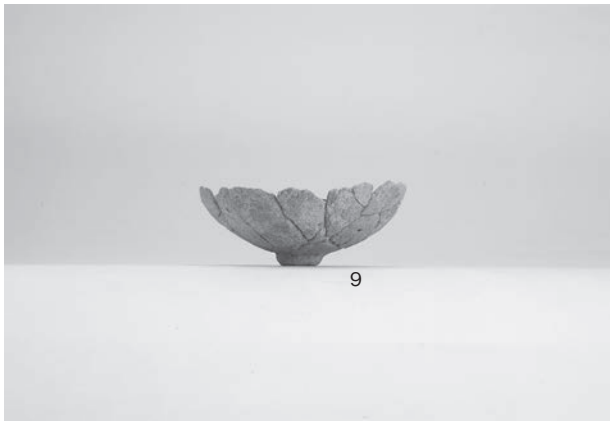


3区SI1・12出土遺物

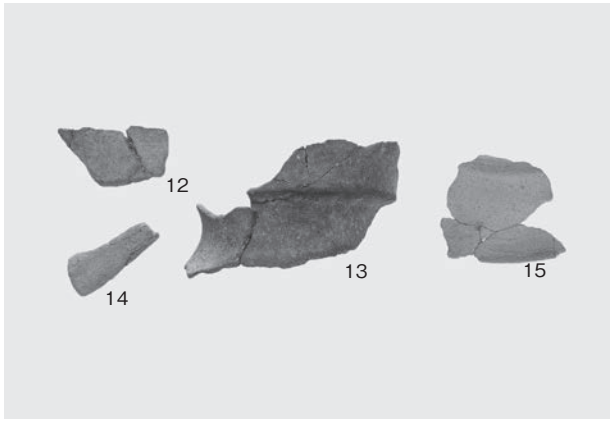


4区SS4-4出土遺物（1）

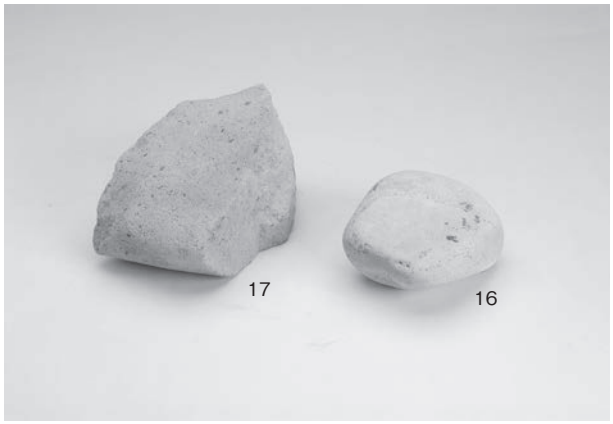
4区SS4−4出土遺物（2）



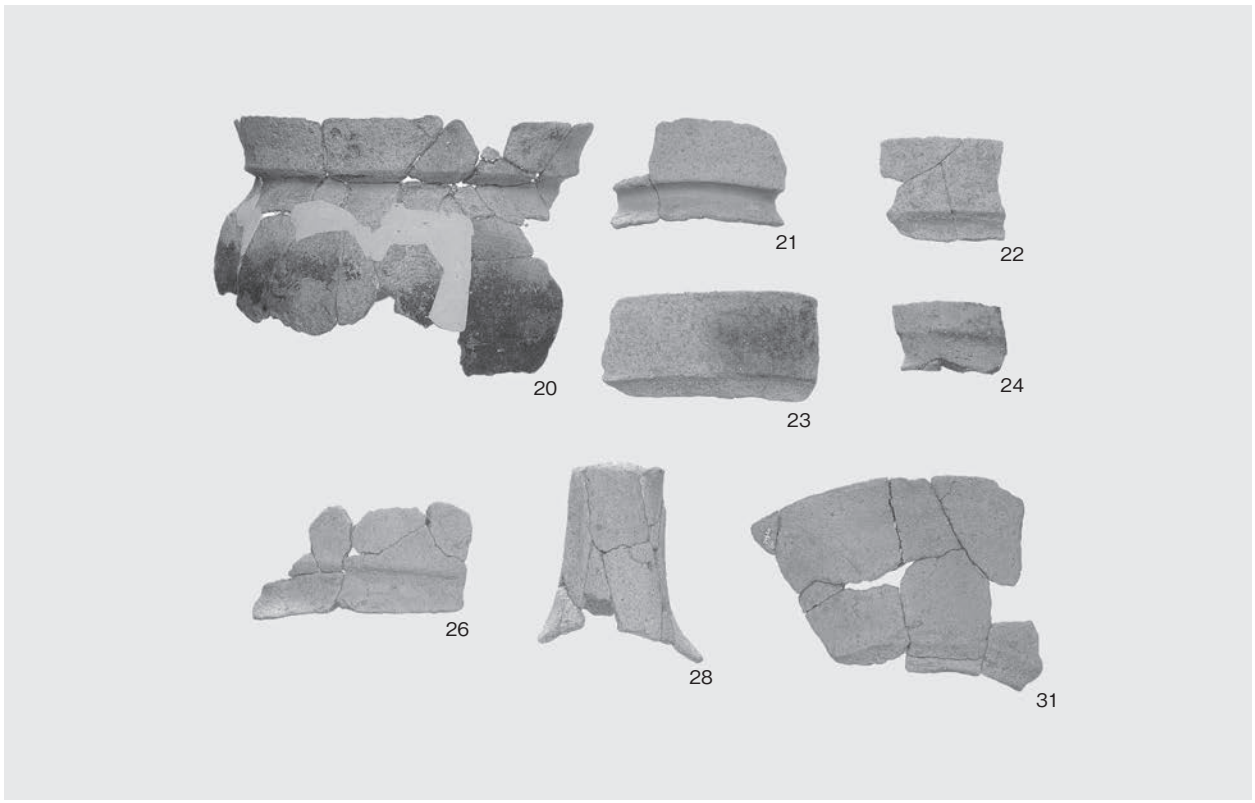
4区SS4−4出土遺物（3）



4区SS4−3出土遺物（1）



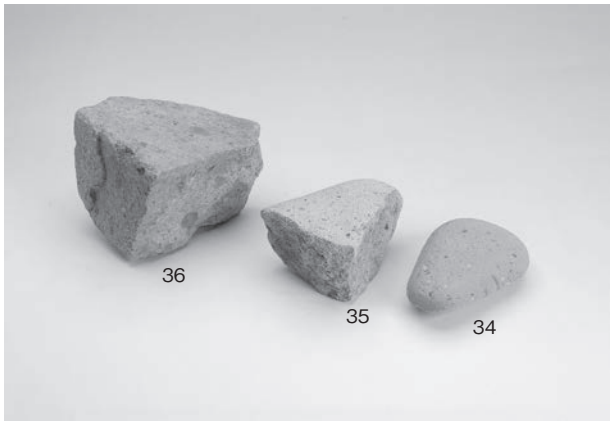
4区SS4−3出土遺物（2）



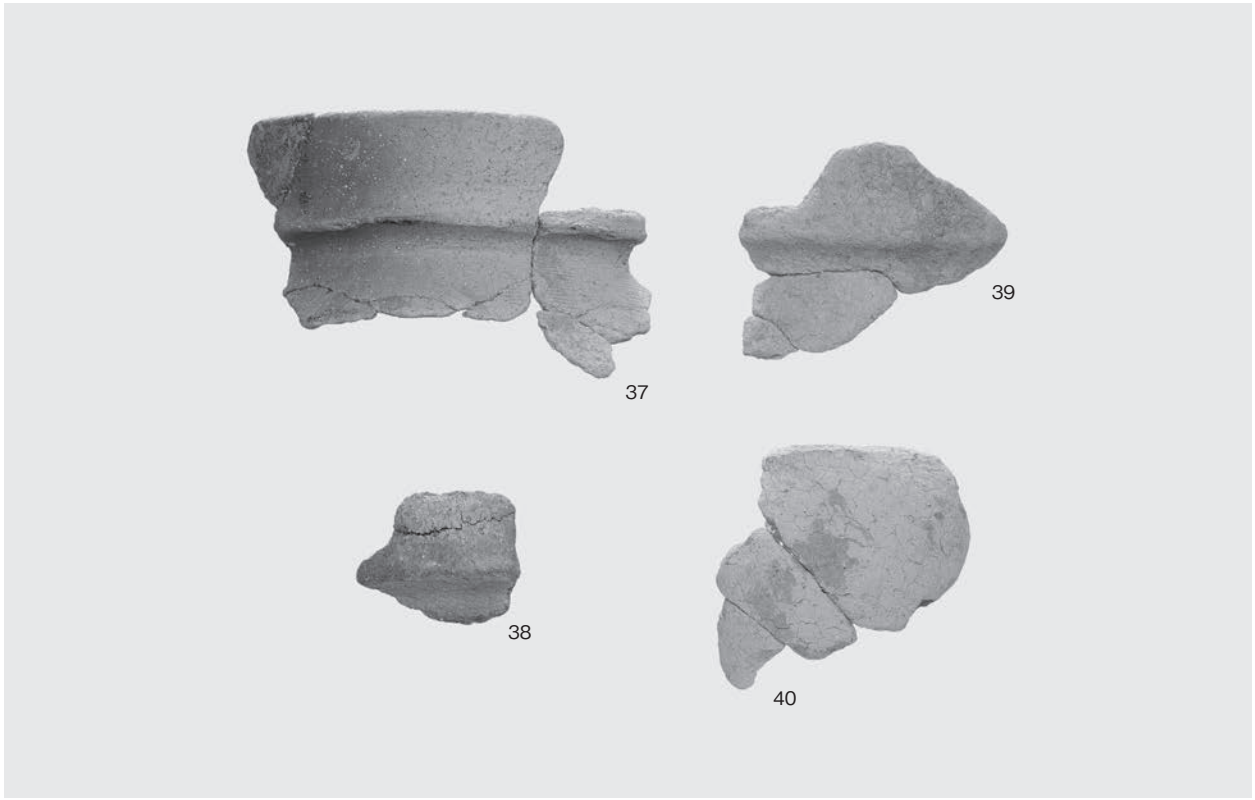
4区SS4−2出土遺物（1）

図版116

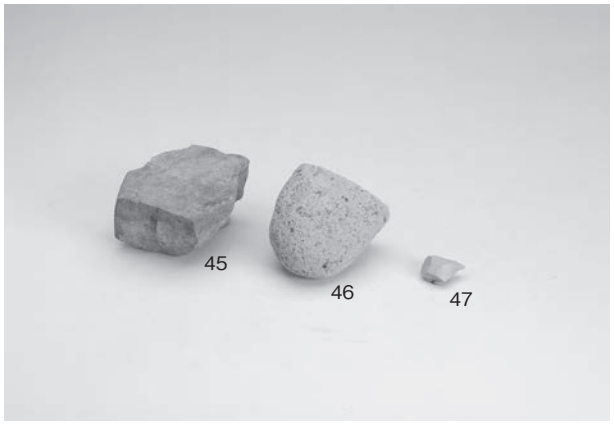
4区SS4−2出土遺物（2）



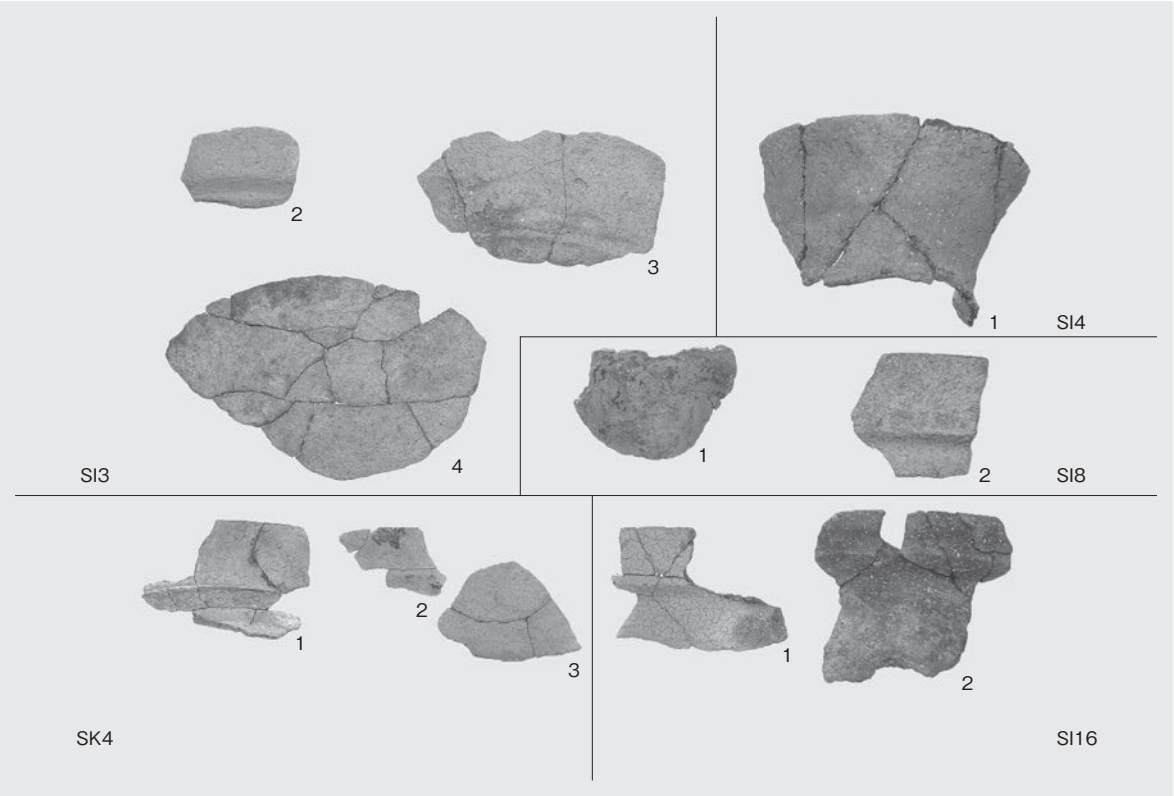
4区SS4−2出土遺物（3）



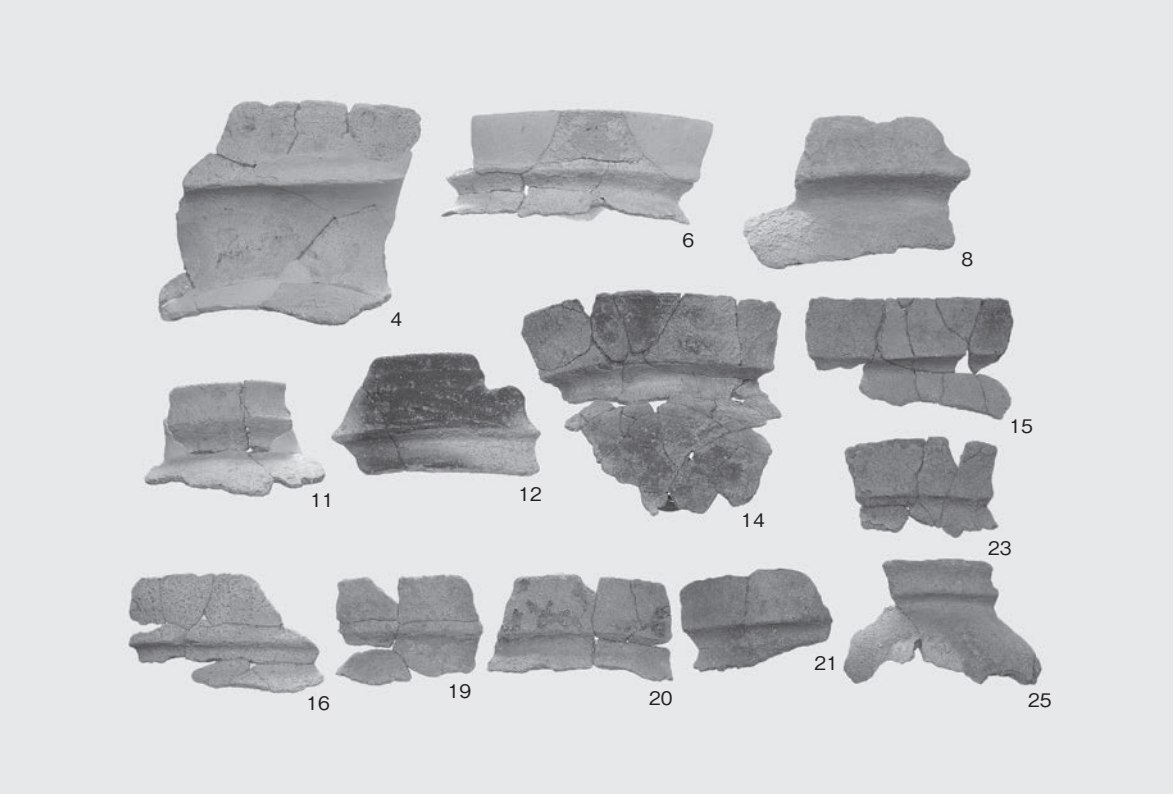
4区SS4−1出土遺物（1）



4区SS4−1出土遺物（2）



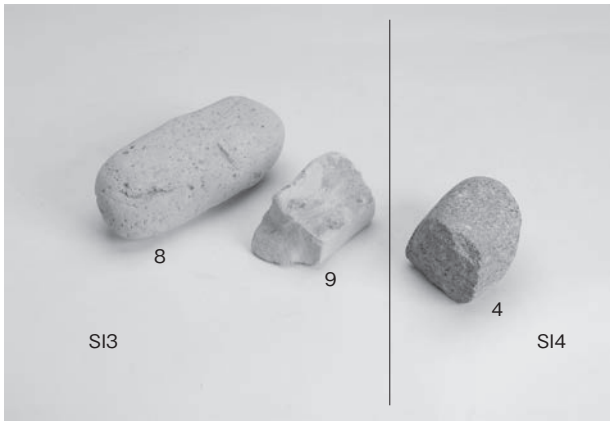
6区SI３・４・８・16、SK４出土遺物



6区SI７出土遺物（１）

図版118

６区SI３出土遺物



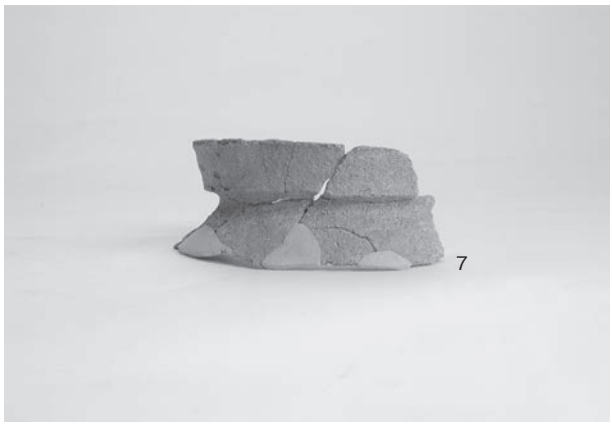
６区SI３・４出土遺物

６区SI７出土遺物（２）

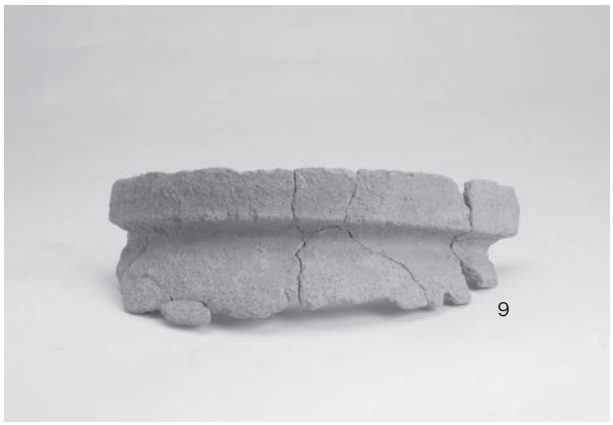
６区SI７出土遺物（３）

６区SI７出土遺物（４）

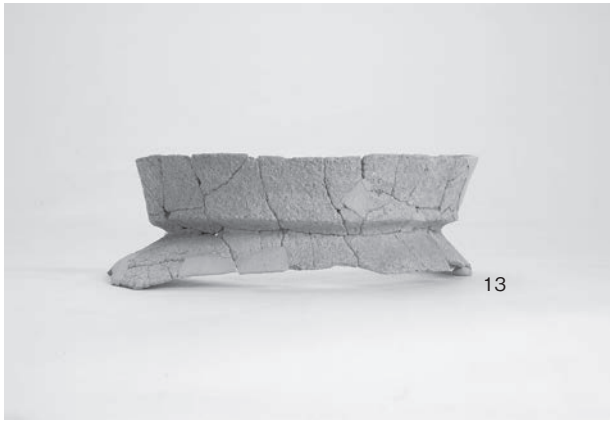
６区SI７出土遺物（５）

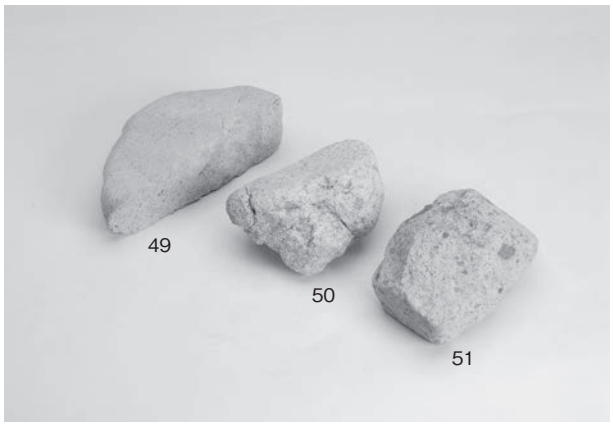


６区SI７出土遺物（６）



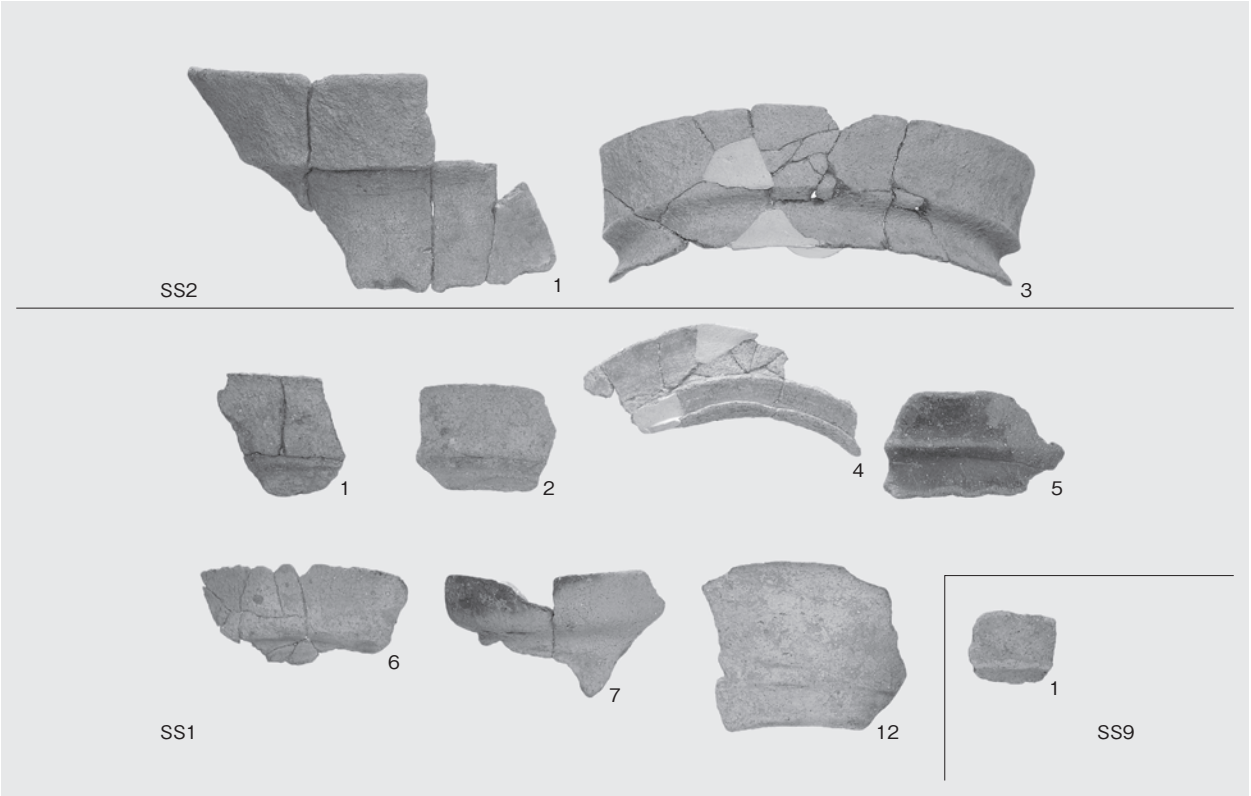
６区SI７出土遺物（７）



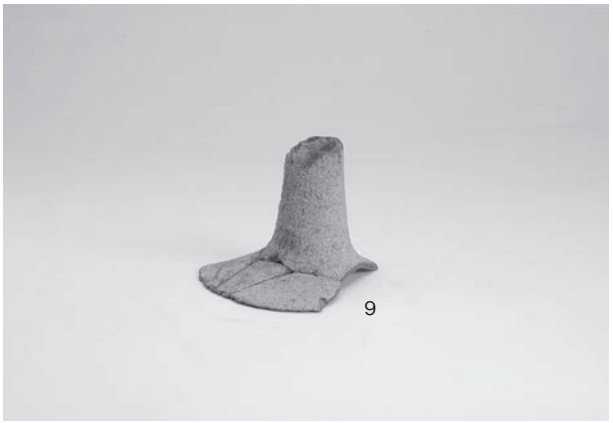


6区SI7出土遺物（8）

図版120

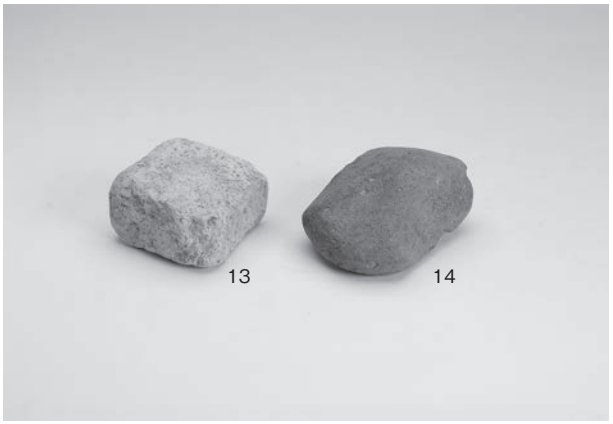


４区SS１・２・９出土遺物



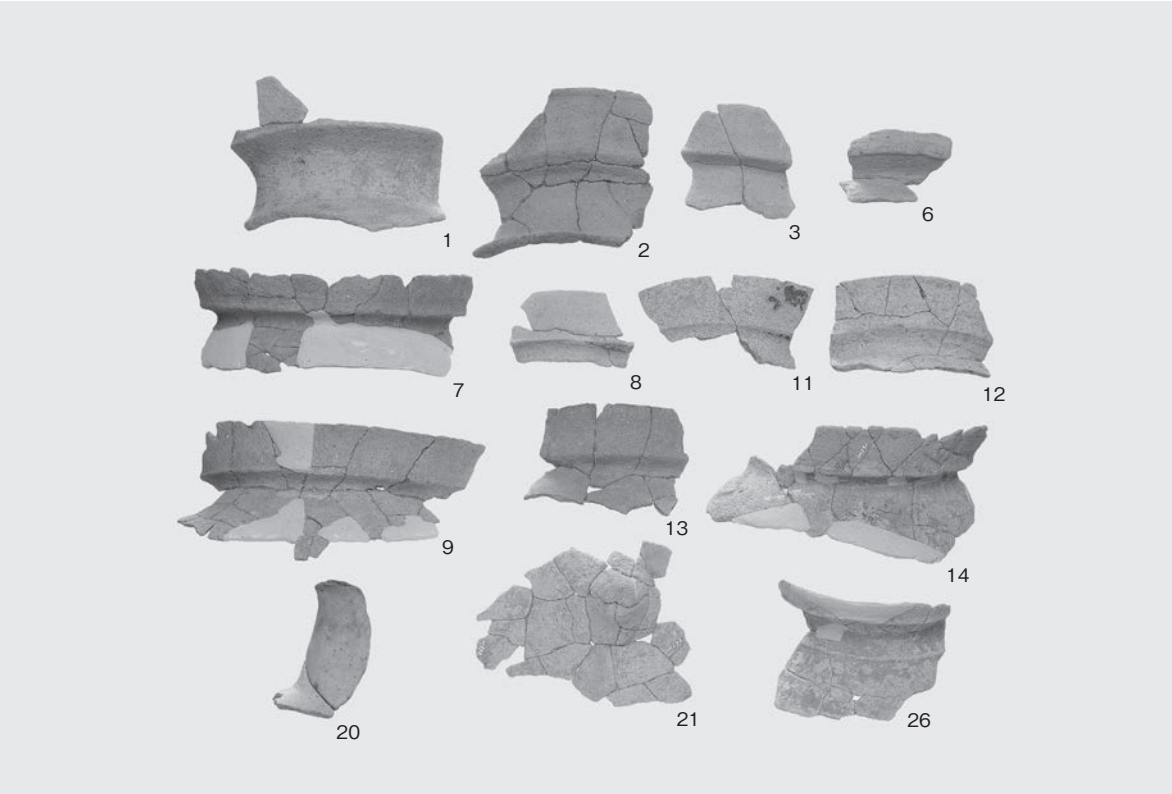
４区SS２出土遺物（１）

４区SS２出土遺物（２）

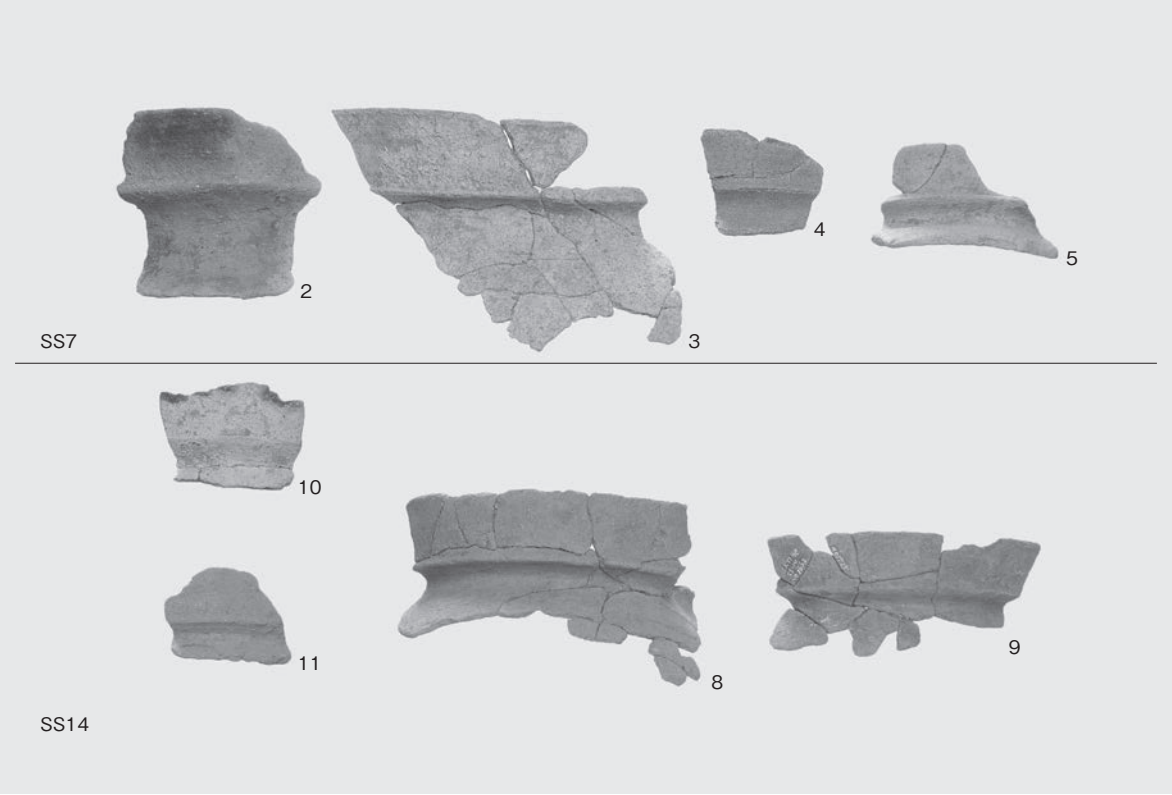


４区SS２出土遺物（３）

４区SS３出土遺物



4区SS６出土遺物（１）



4区SS７・14出土遺物

図版122

4区SS6出土遺物（2）

4区SS7出土遺物

4区SS14出土遺物

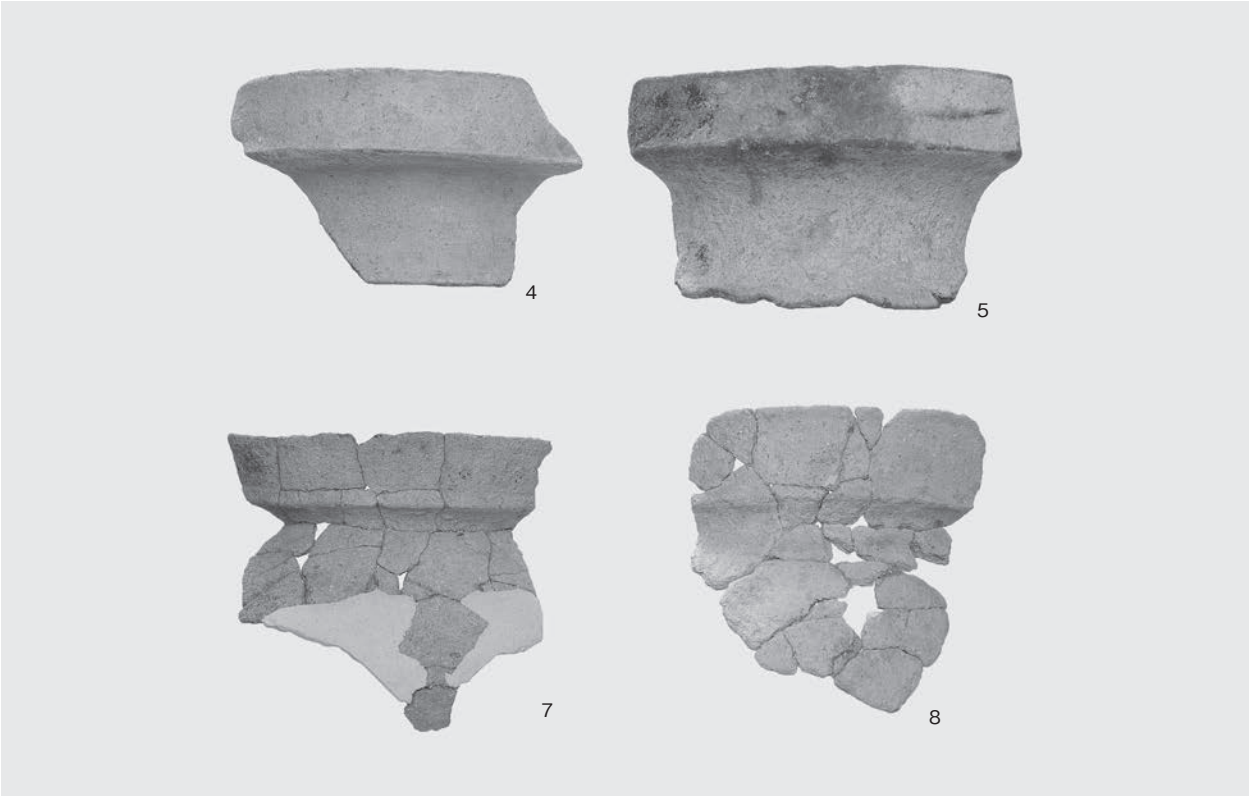
4区SK3出土遺物

4区SK4出土遺物（1）

4区SK4出土遺物（2）

4区SK4出土遺物（3）

4区SK4出土遺物（4）



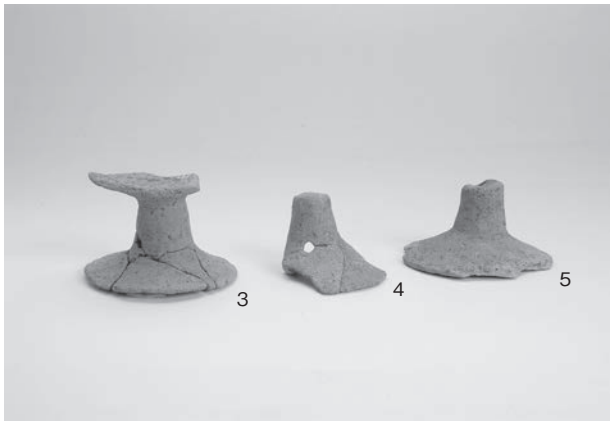
4区SK4出土遺物（5）

4区SK4出土遺物（6）

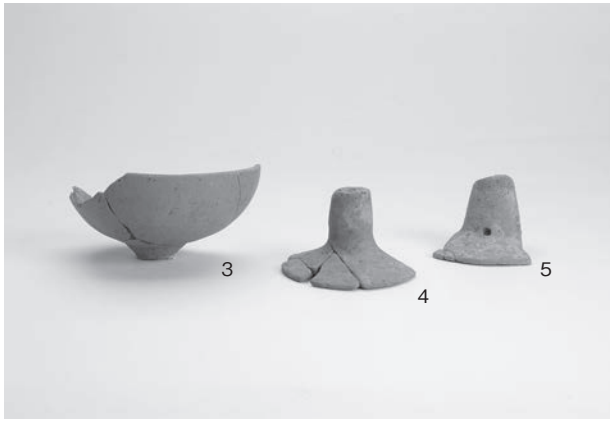
2区焼土3出土遺物

図版124

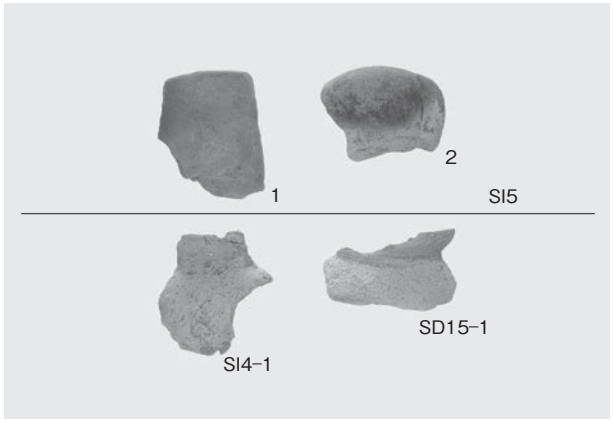
２区SI１出土遺物（１）



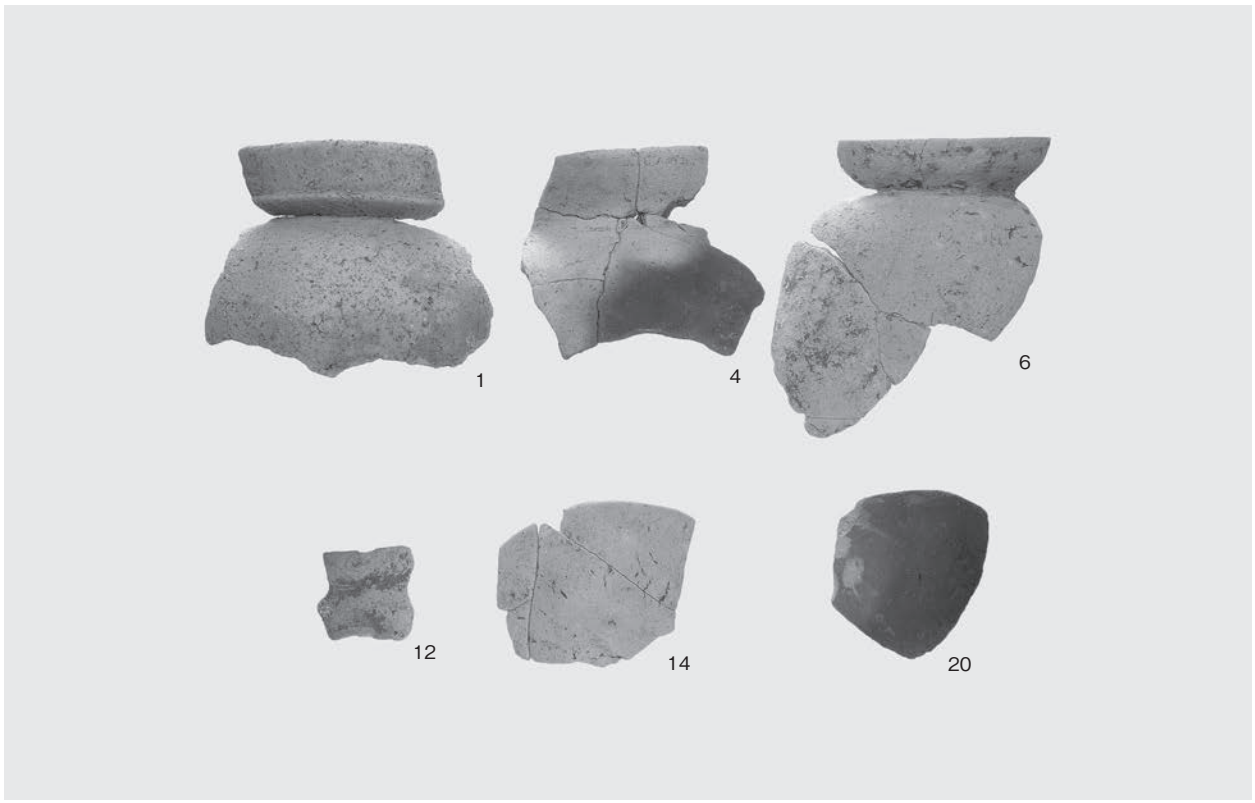
２区SI１出土遺物（２）



２区SI５出土遺物



２区SI４・５、SD15出土遺物

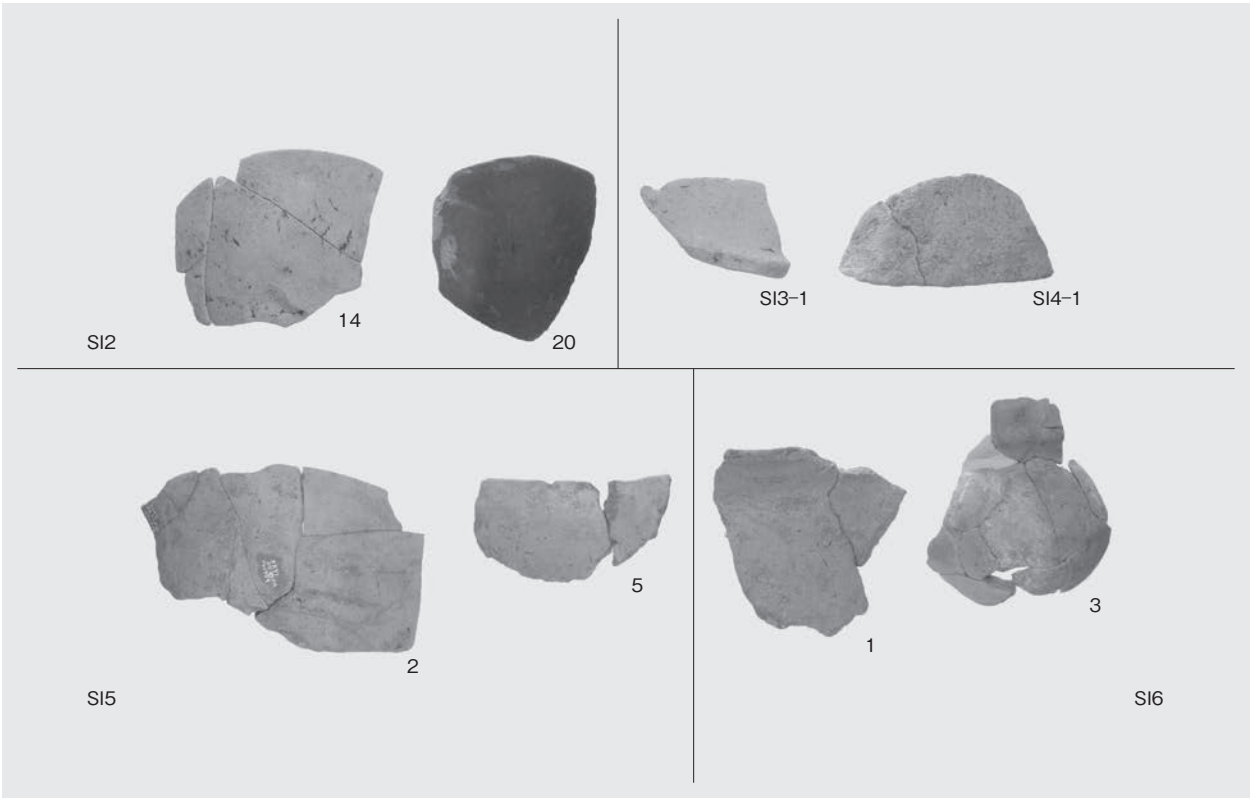


３区SI２出土遺物（１）

3区SI2出土遺物（2）

3区SI2出土遺物（3）

図版126



3区SI２～６出土遺物

3区SI３出土遺物

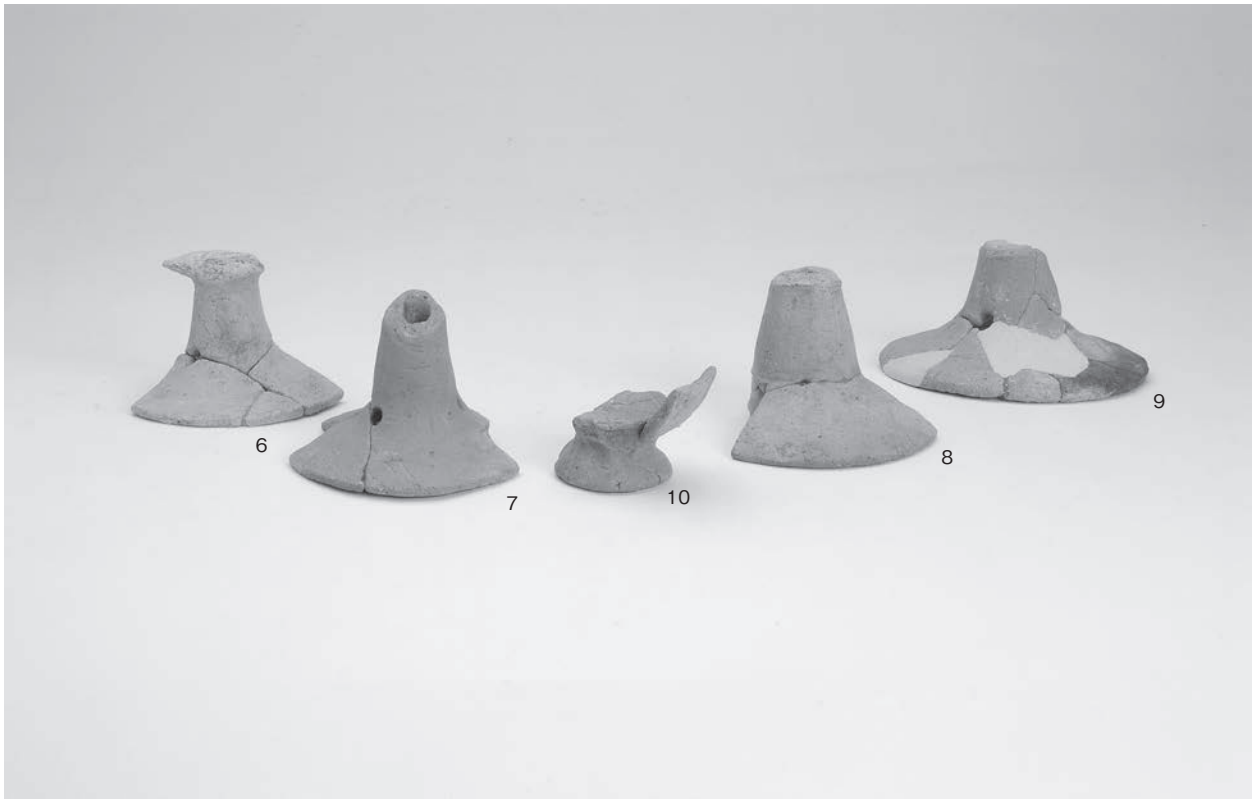
3区SI５出土遺物（１）

3区SI５出土遺物（２）

3区SI５出土遺物（３）

3区SI6出土遺物（1）

3区SI6出土遺物（2）



3区SI6出土遺物（3）

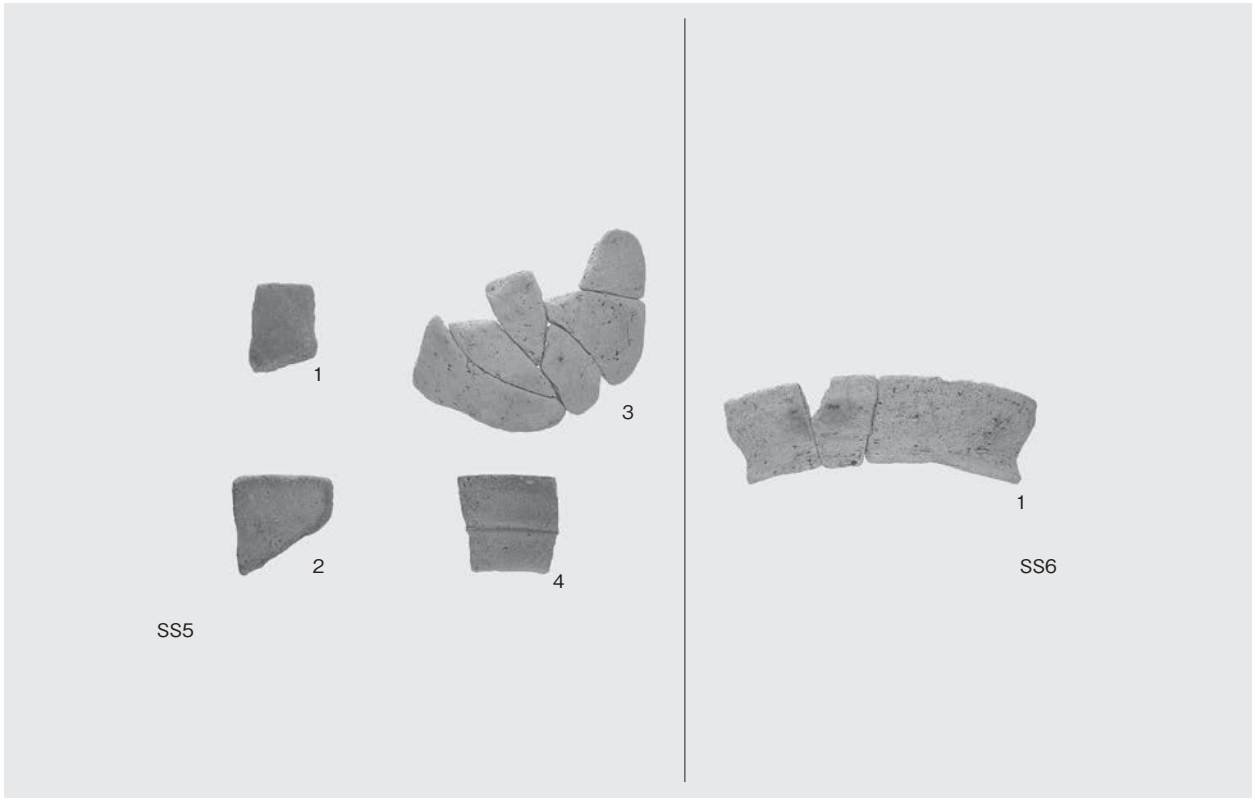
3区SI7出土遺物（1）

3区SI7出土遺物（2）

図版128

３区SI７出土遺物（３）

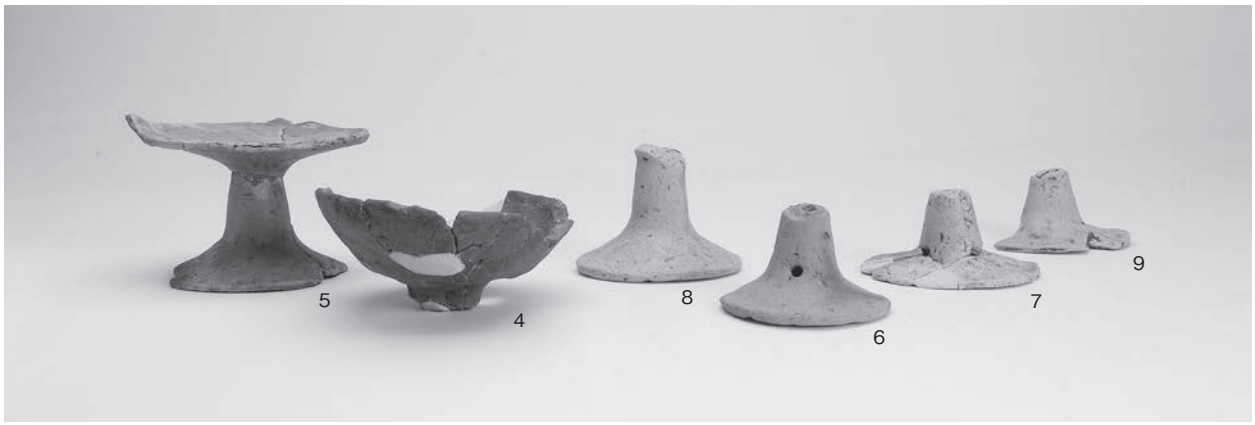
３区SI７出土遺物（４）



３区SS５・６出土遺物

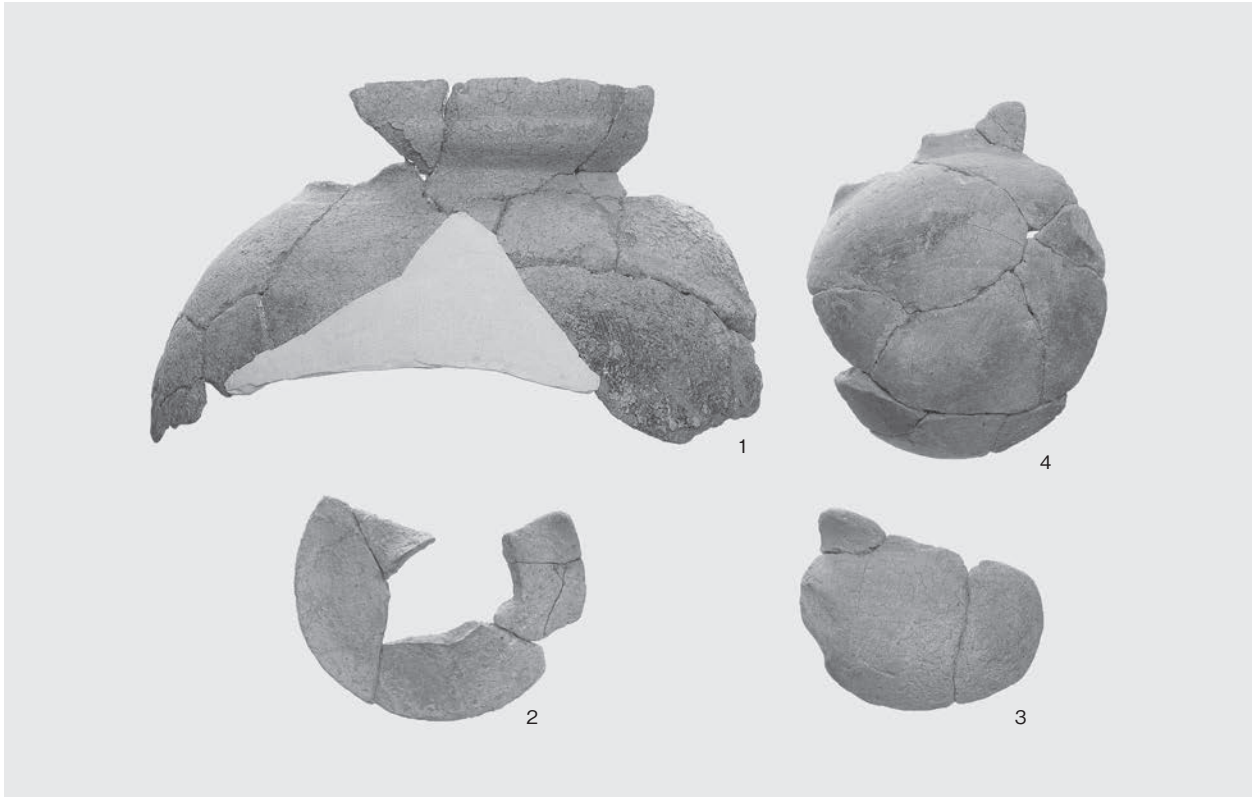
３区SI９出土遺物

３区SI10出土遺物（１）



3区SI10出土遺物（2）

3区SS6出土遺物



4区SS20出土遺物

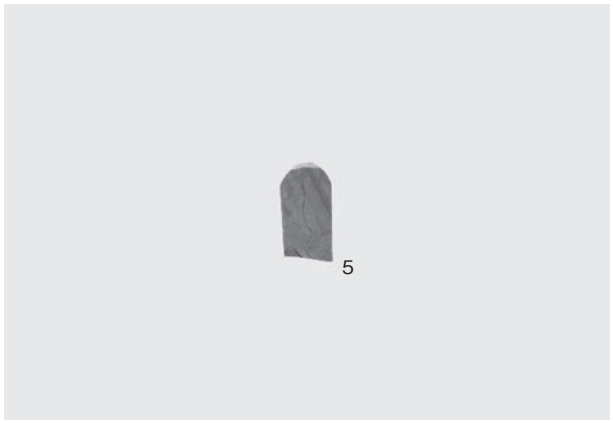
図版130

4区SS33出土遺物（1）

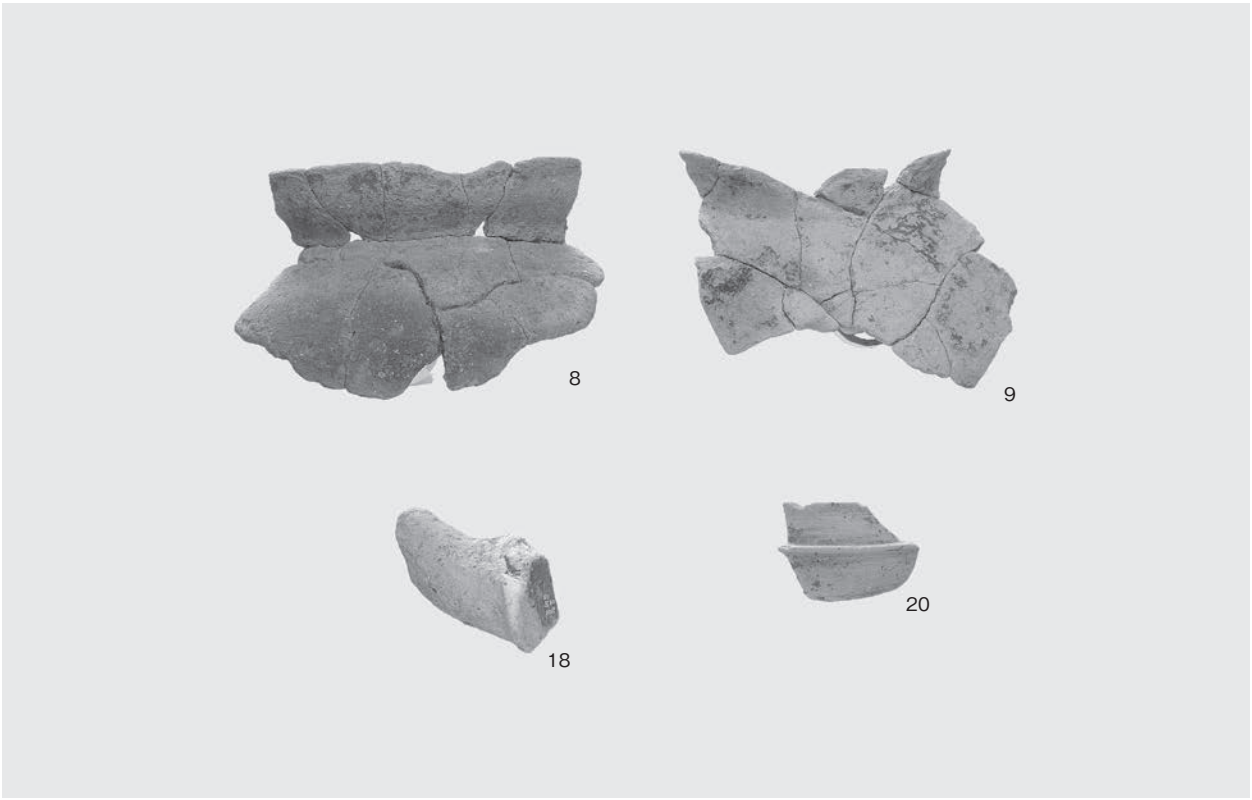
4区SS33出土遺物（2）

4区SS33出土遺物（3）

5区SI 1 A出土遺物（1）



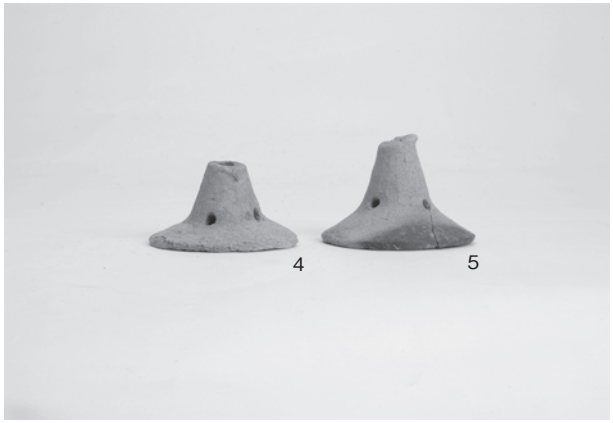
5区SI 1 A出土遺物（2）



5区SI１B出土遺物

図版132

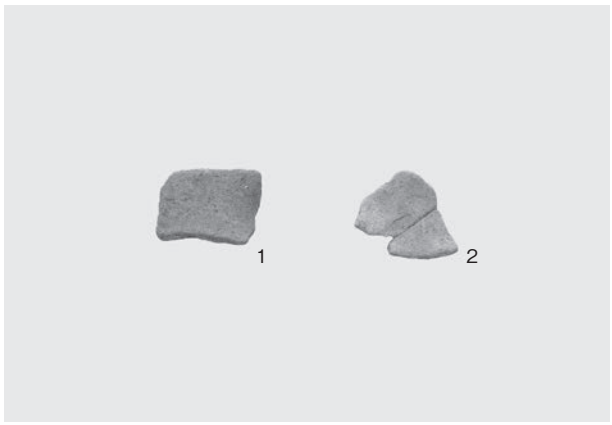
6区SI22出土遺物（1）



6区SI22出土遺物（2）

2区SS1出土遺物（1）

2区SS1出土遺物（2）



6区SI24出土遺物（1）

6区SI24出土遺物（2）

6区SI24出土遺物（3）

3区SK53出土遺物

6区SK30出土遺物（1）

6区SK30出土遺物（2）

6区SK13出土遺物

図版134

6区横穴墓出土遺物（1）

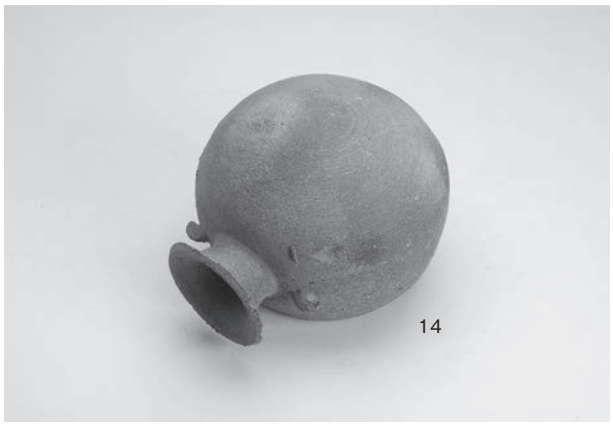
9

10

11

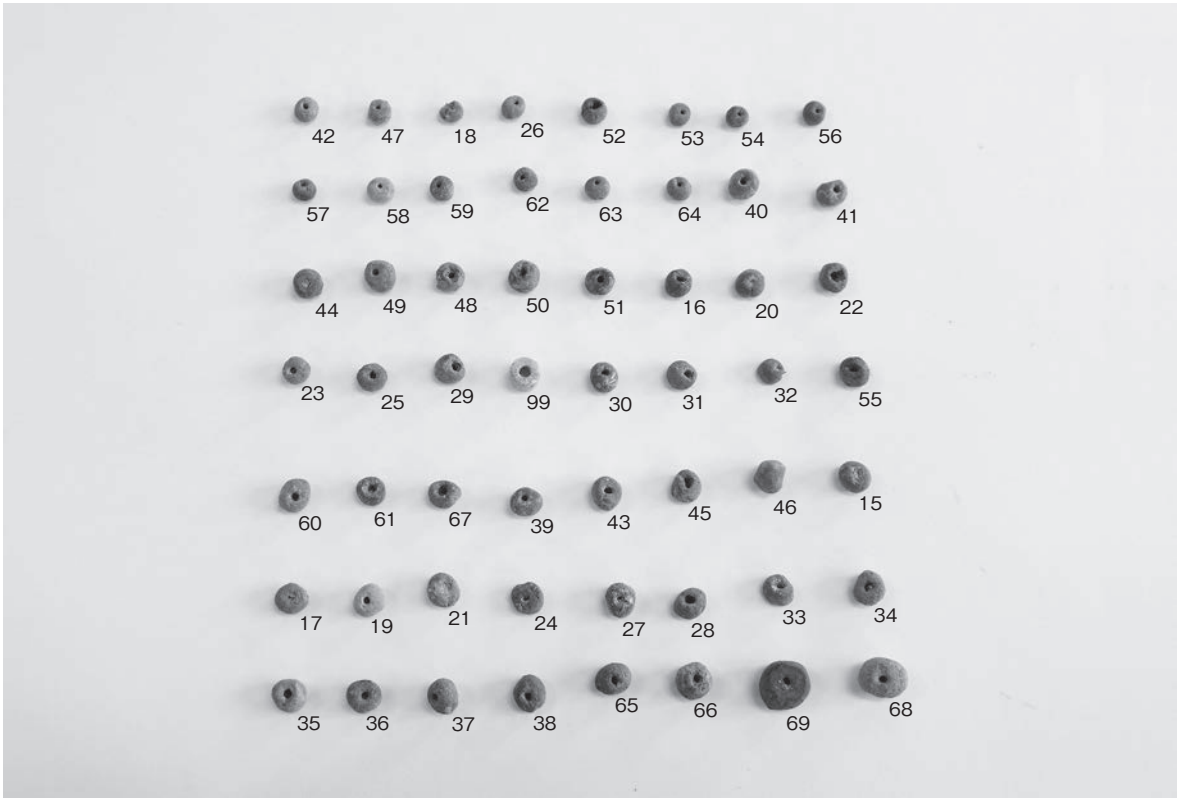
12

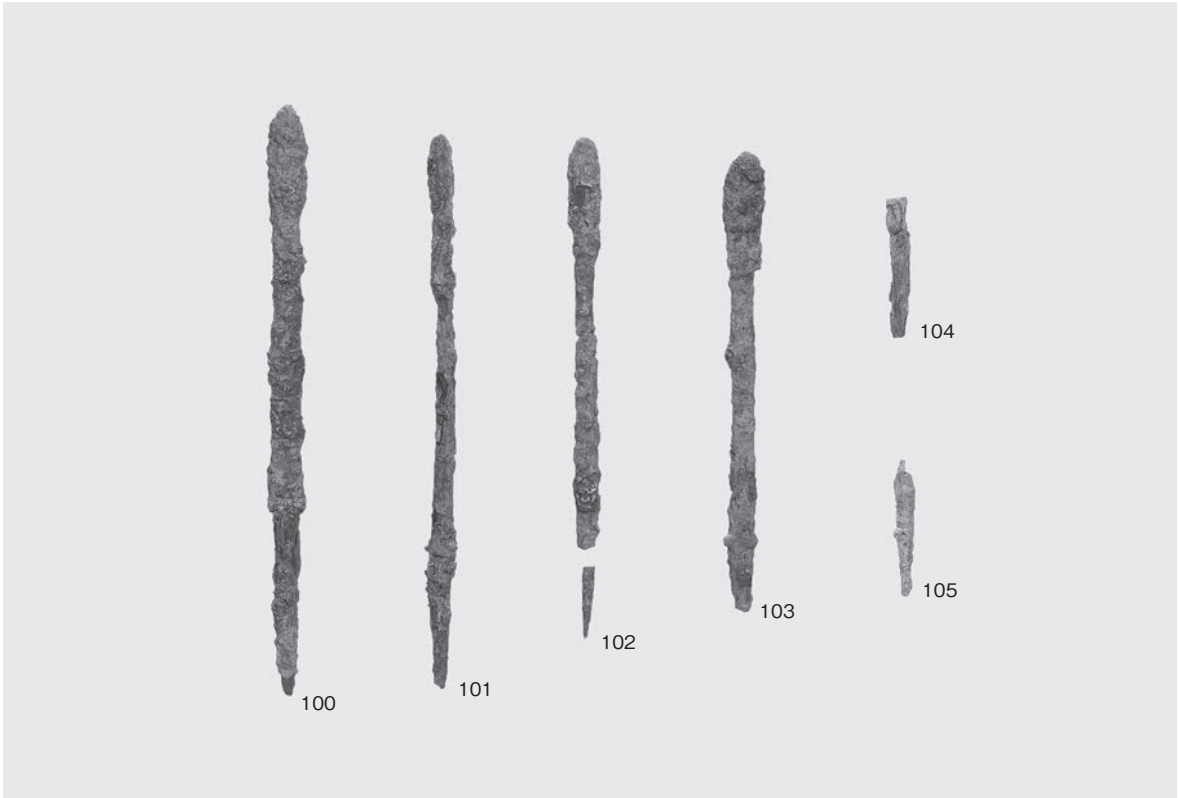
13


14

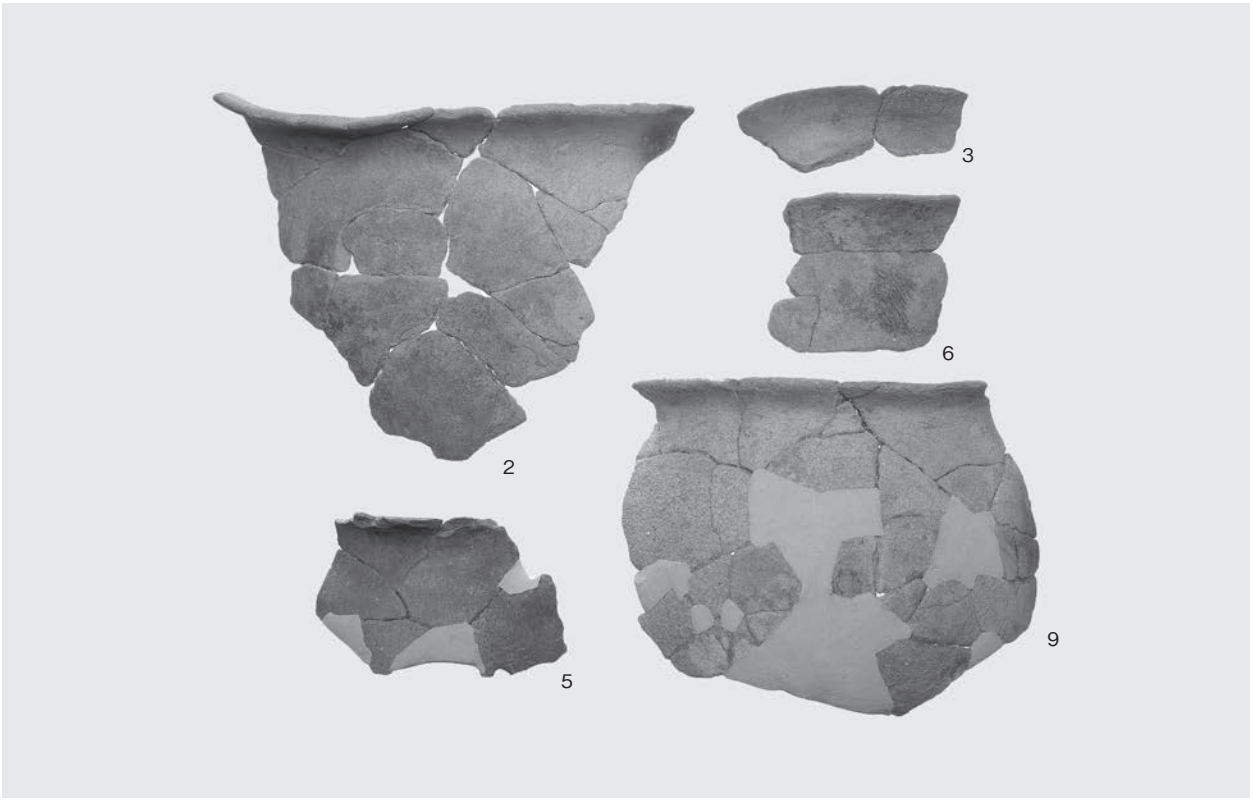
6区横穴墓出土遺物（2）

図版136



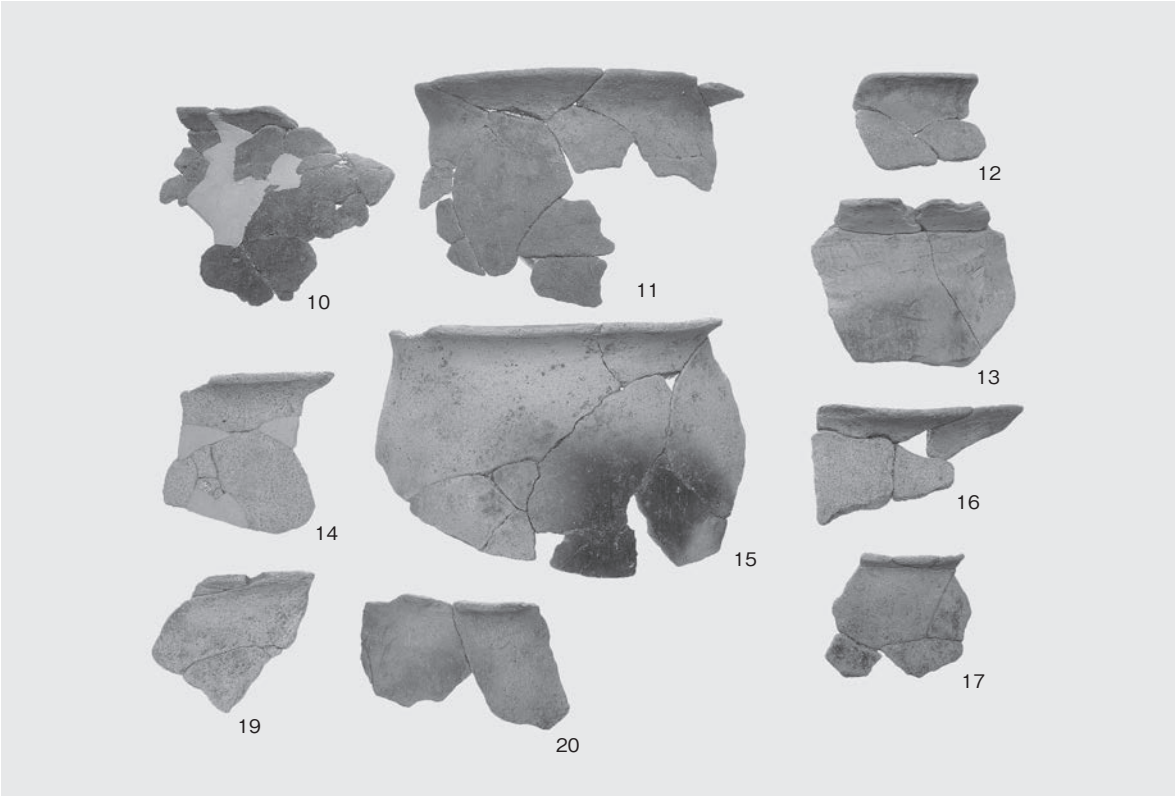


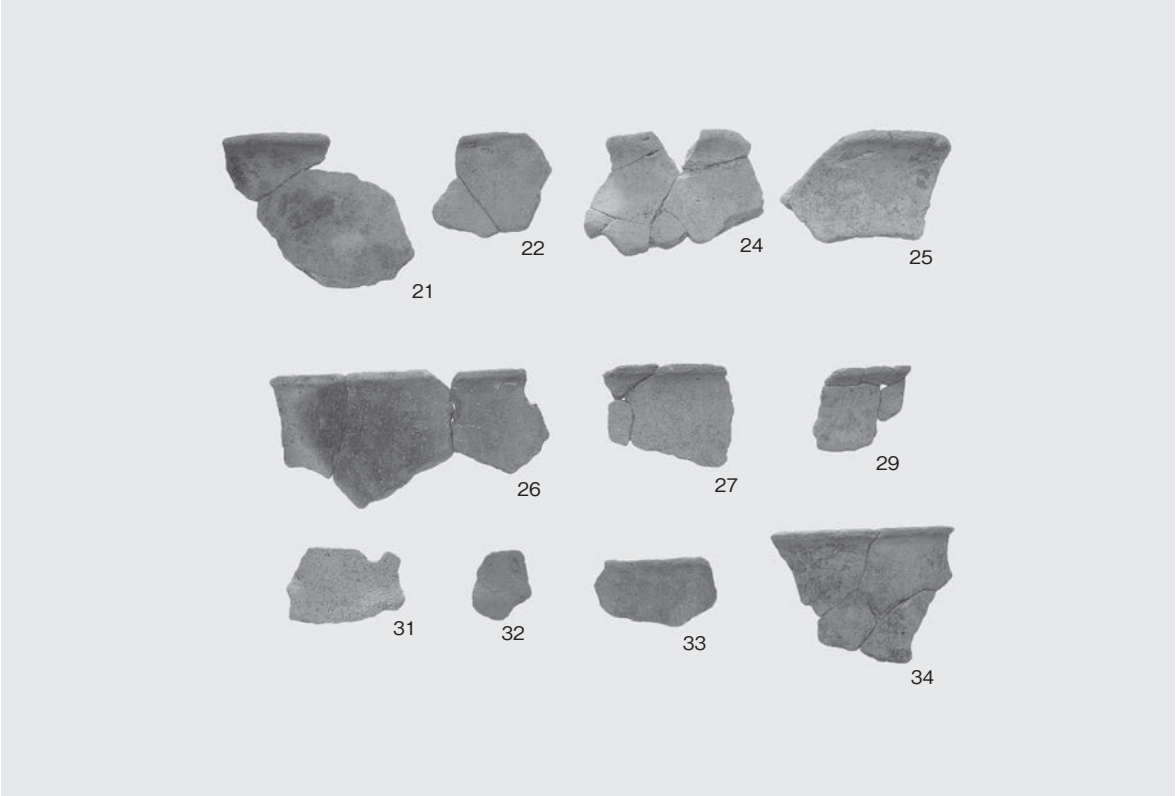
6区横穴墓出土遺物（3）



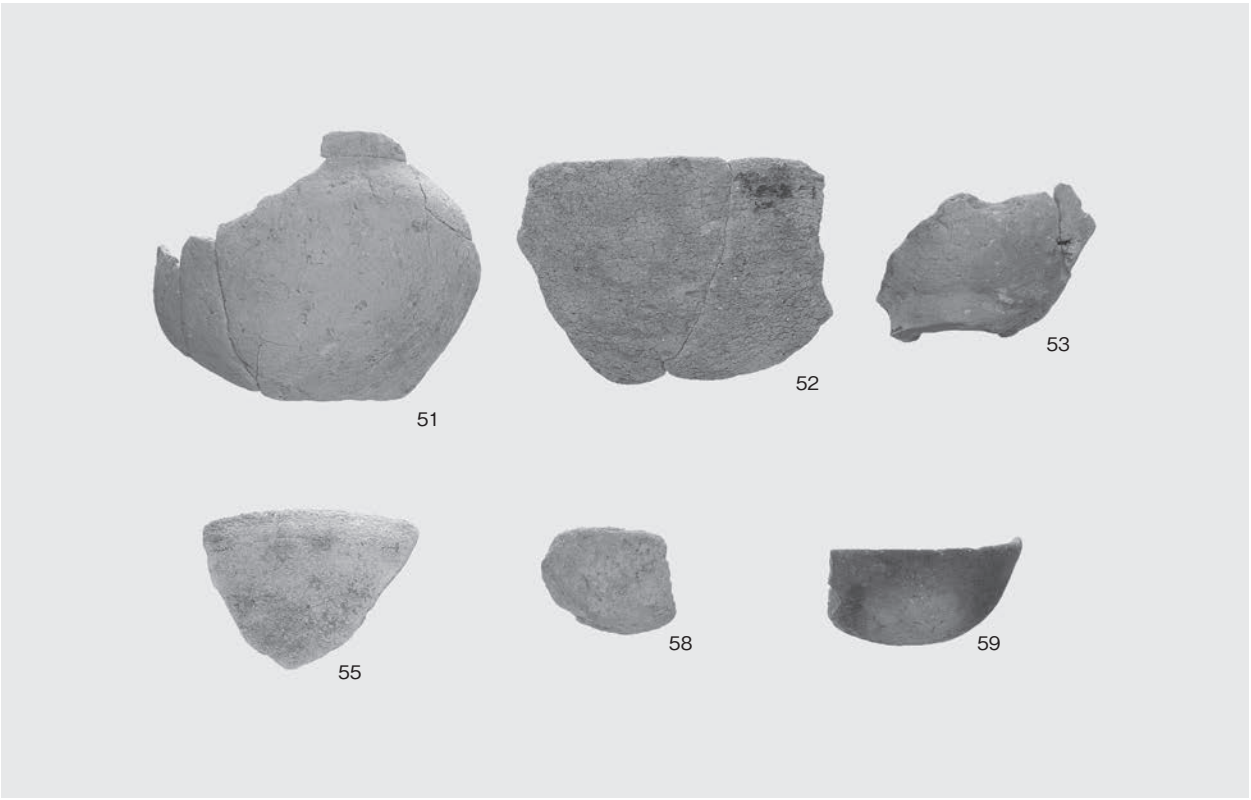
4区SS29出土遺物（1）

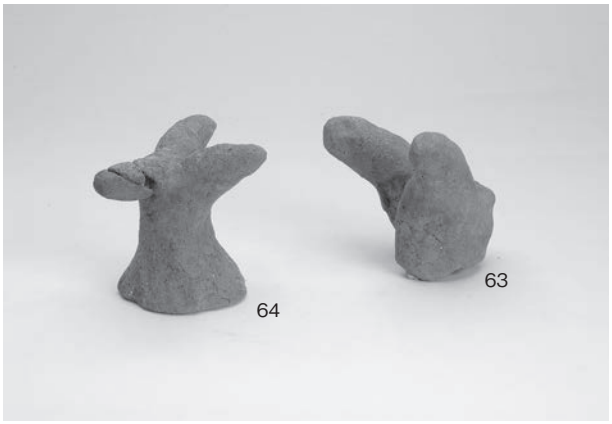
図版138





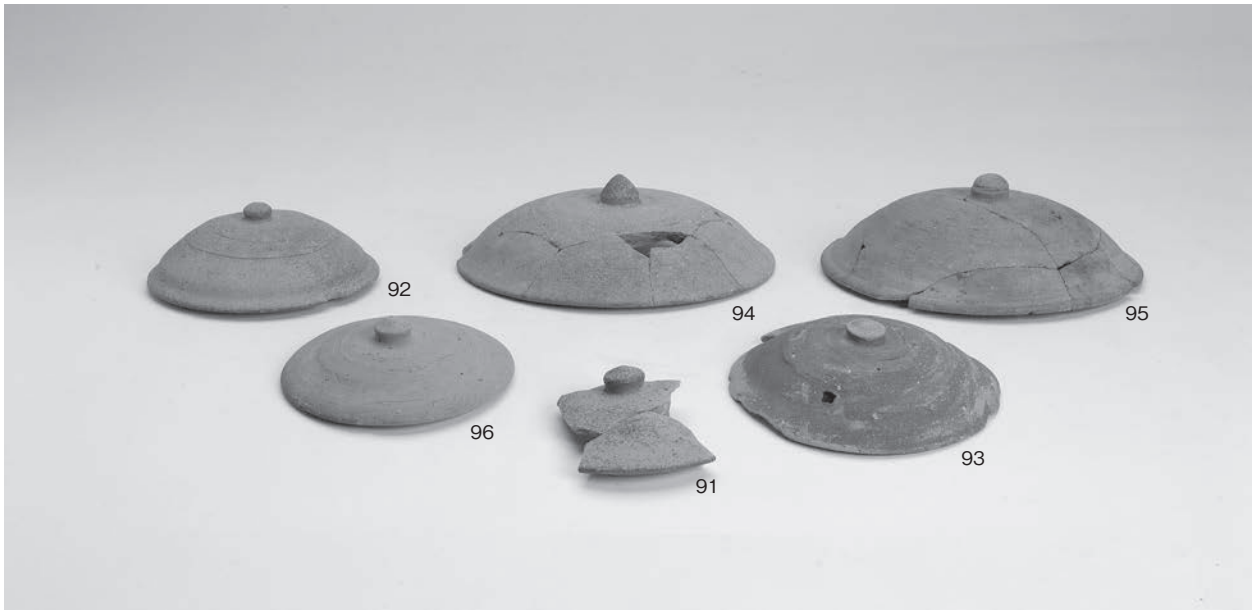
4区SS29出土遺物（2）

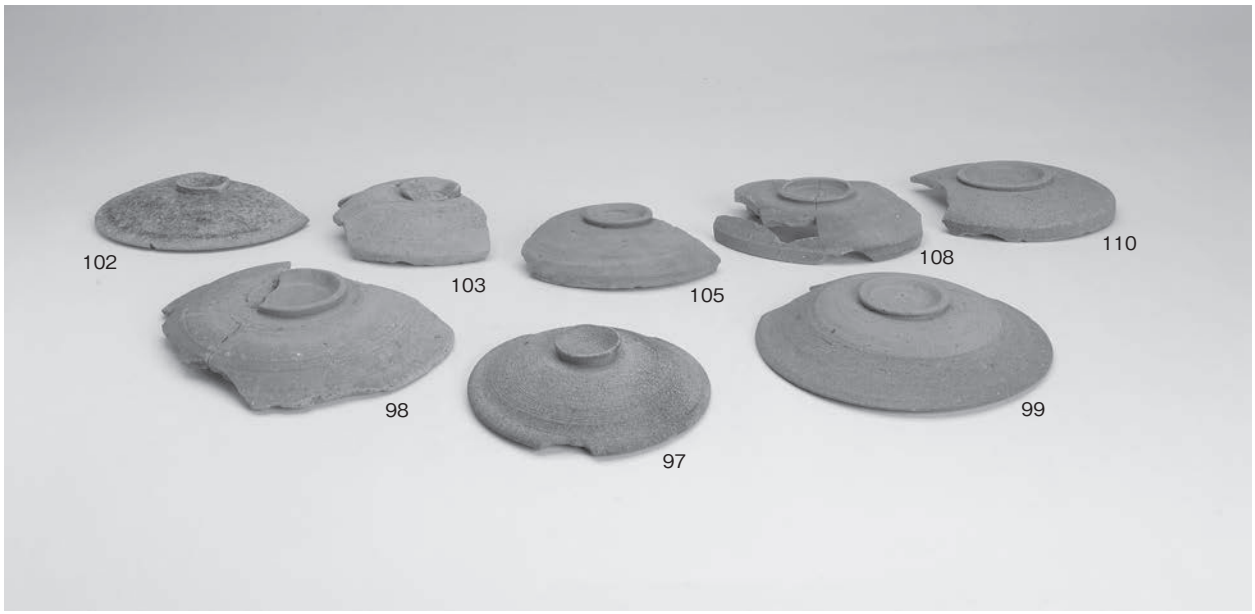




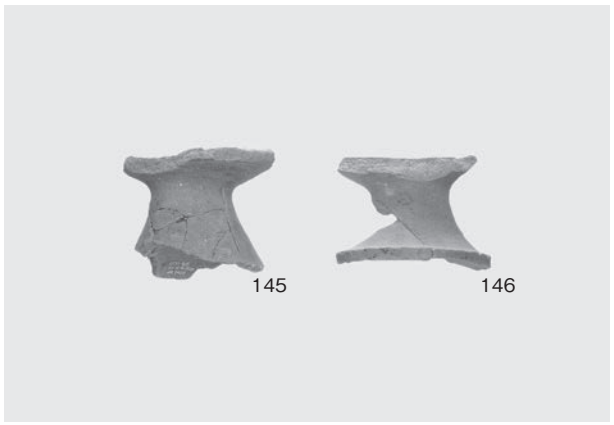
4区SS29出土遺物（3）

図版140



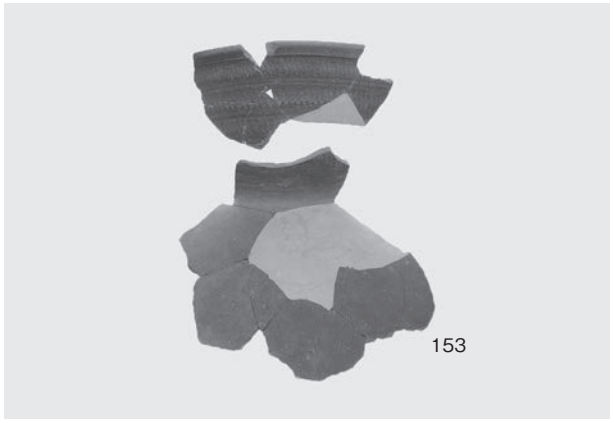


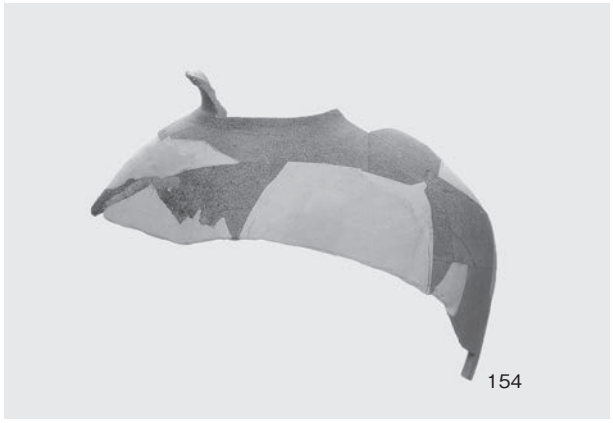
4区SS29出土遺物（4）



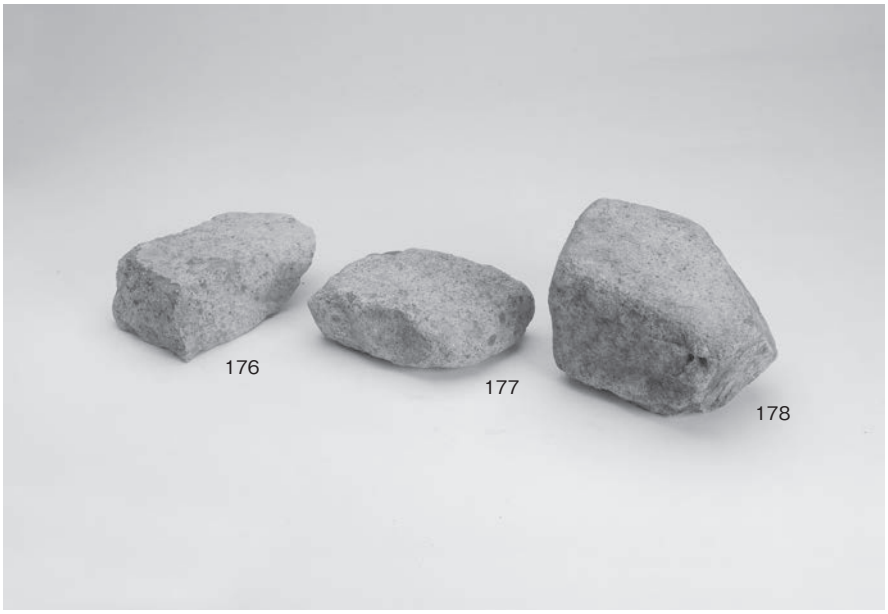
4区SS29出土遺物（5）

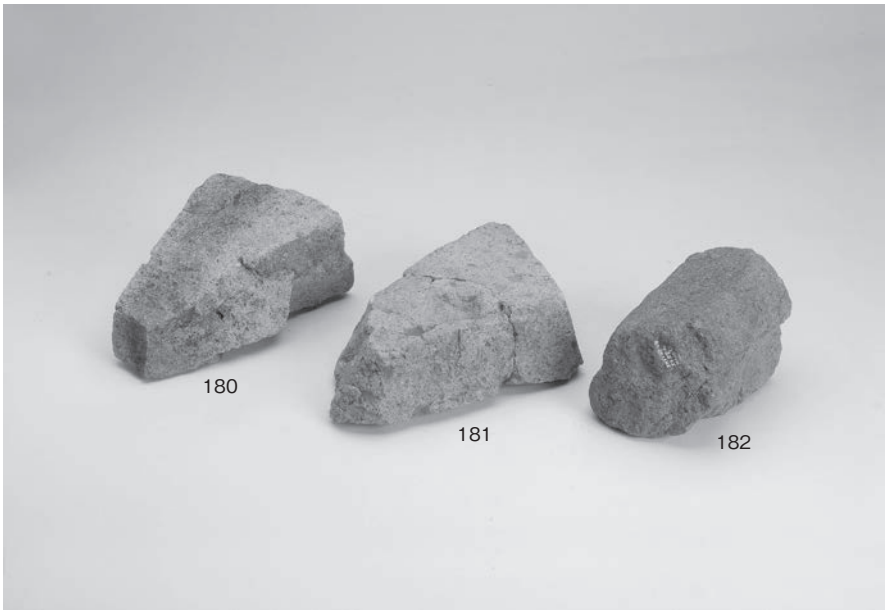
図版142





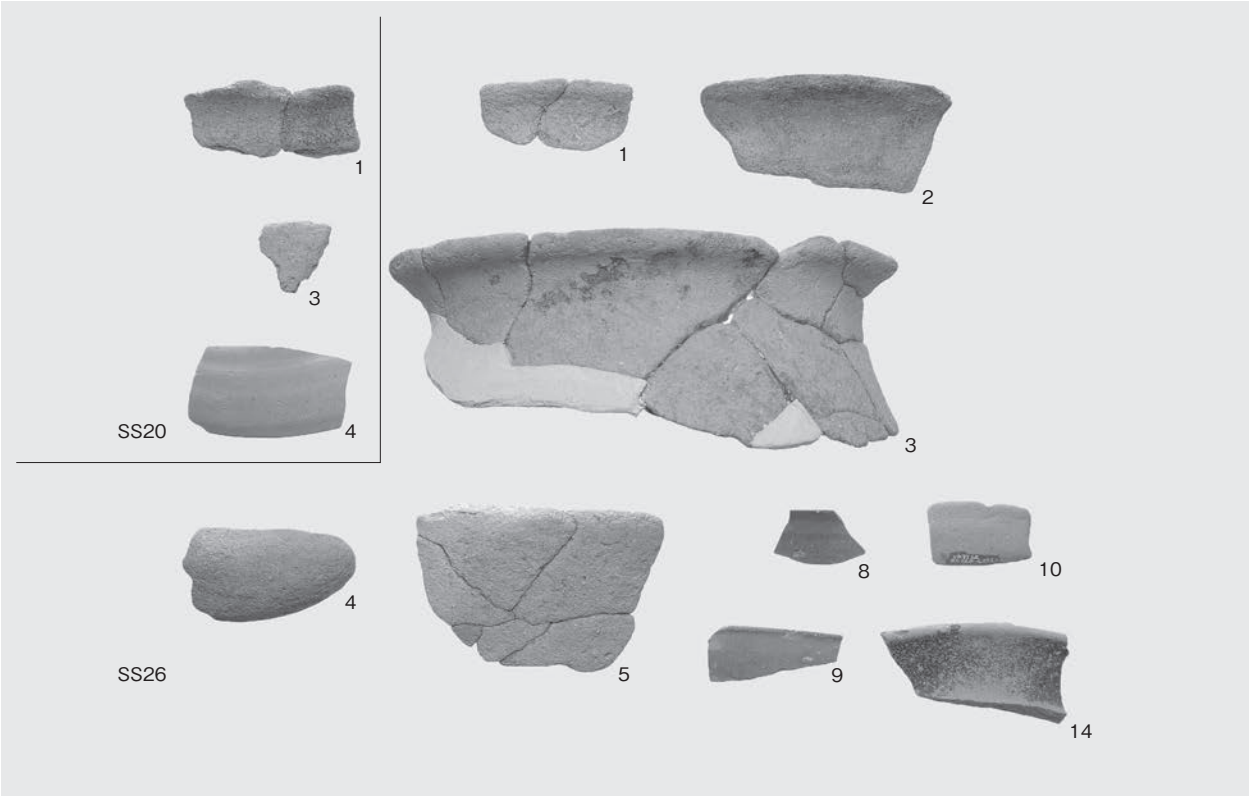
4区SS29出土遺物（6）





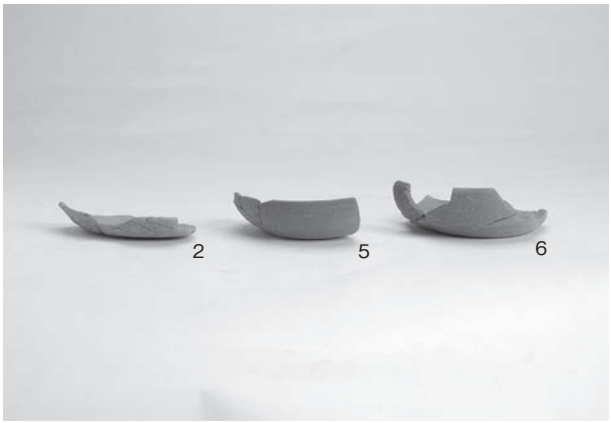
4区SS29出土遺物（7）

図版144



6区SS20・26出土遺物

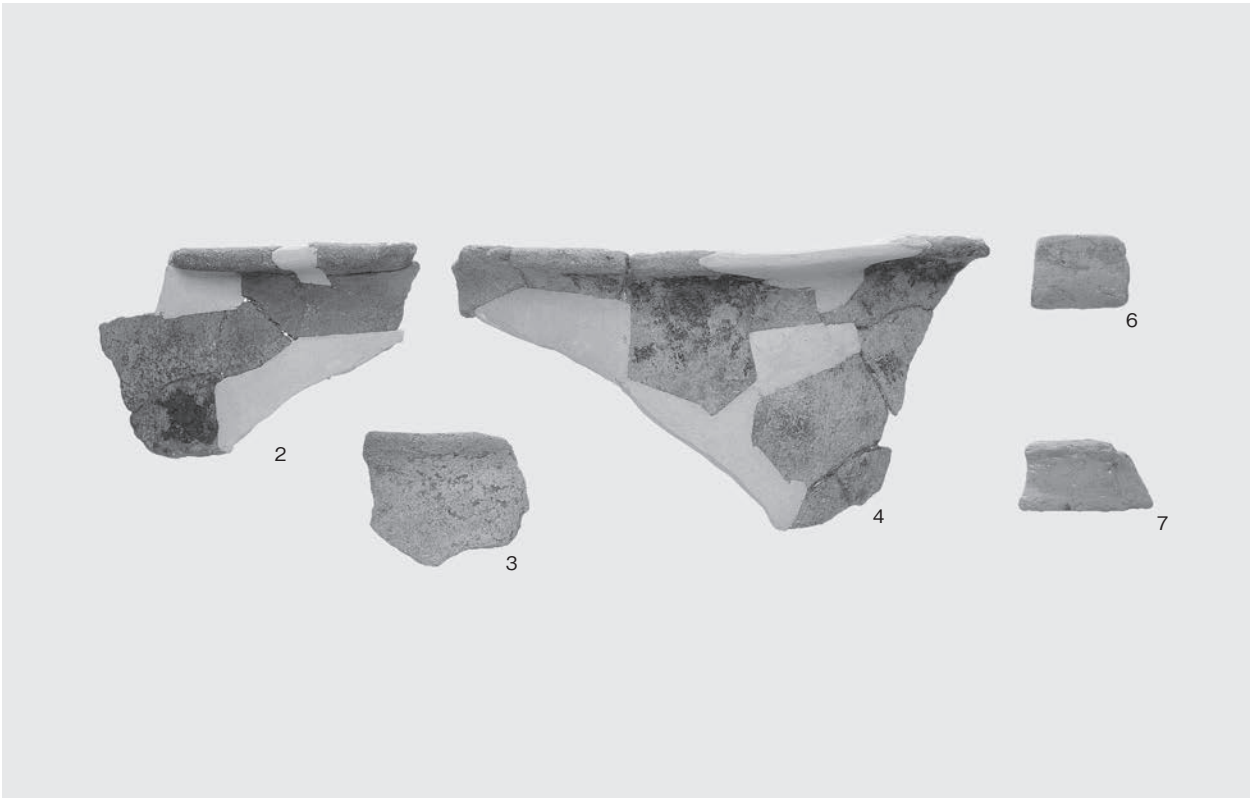
6区SS５出土遺物

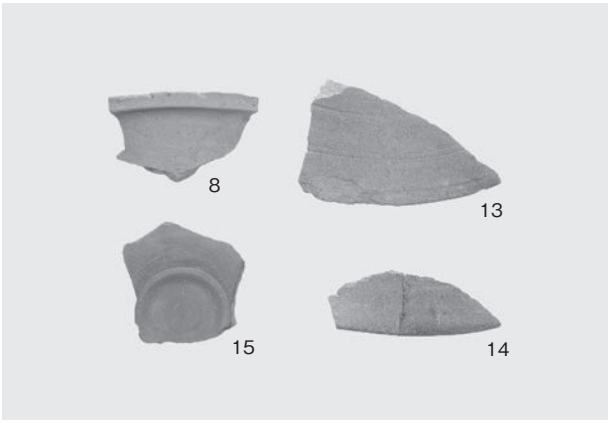


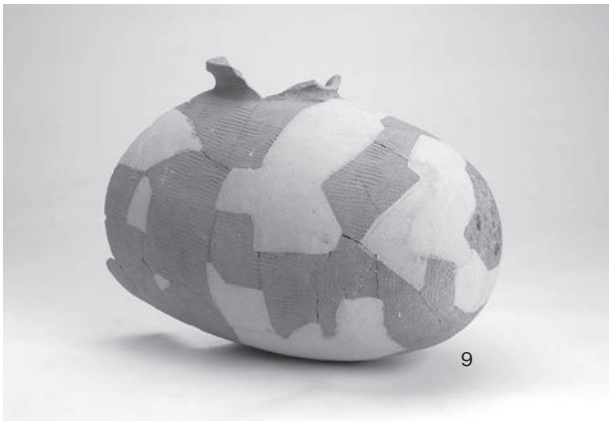
6区SS20出土遺物（１）

6区SS20出土遺物（２）

6区SS21出土遺物

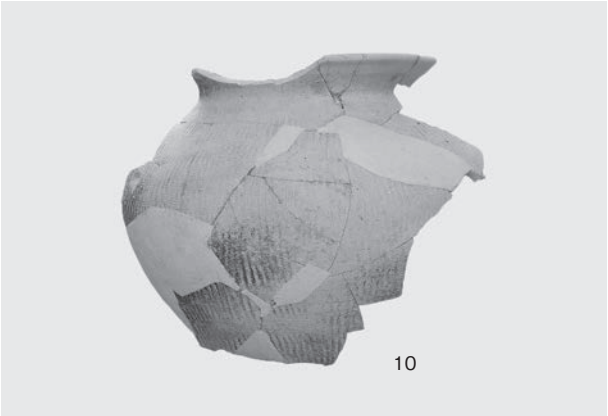




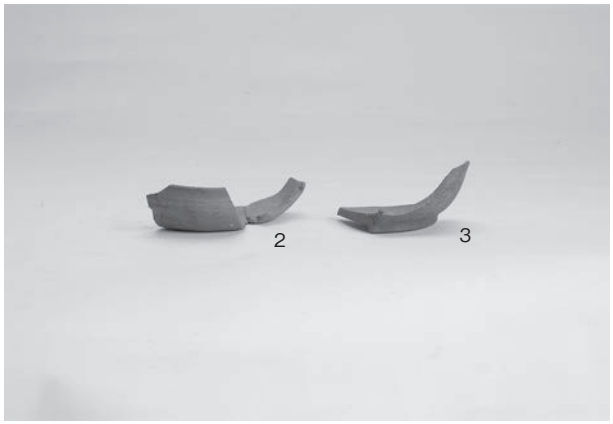


6区SS22出土遺物（1）

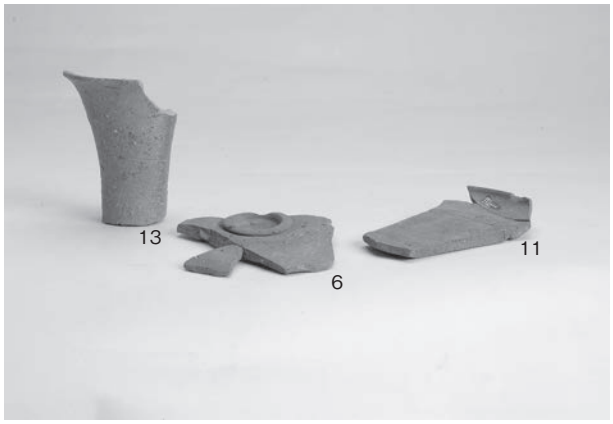
図版146



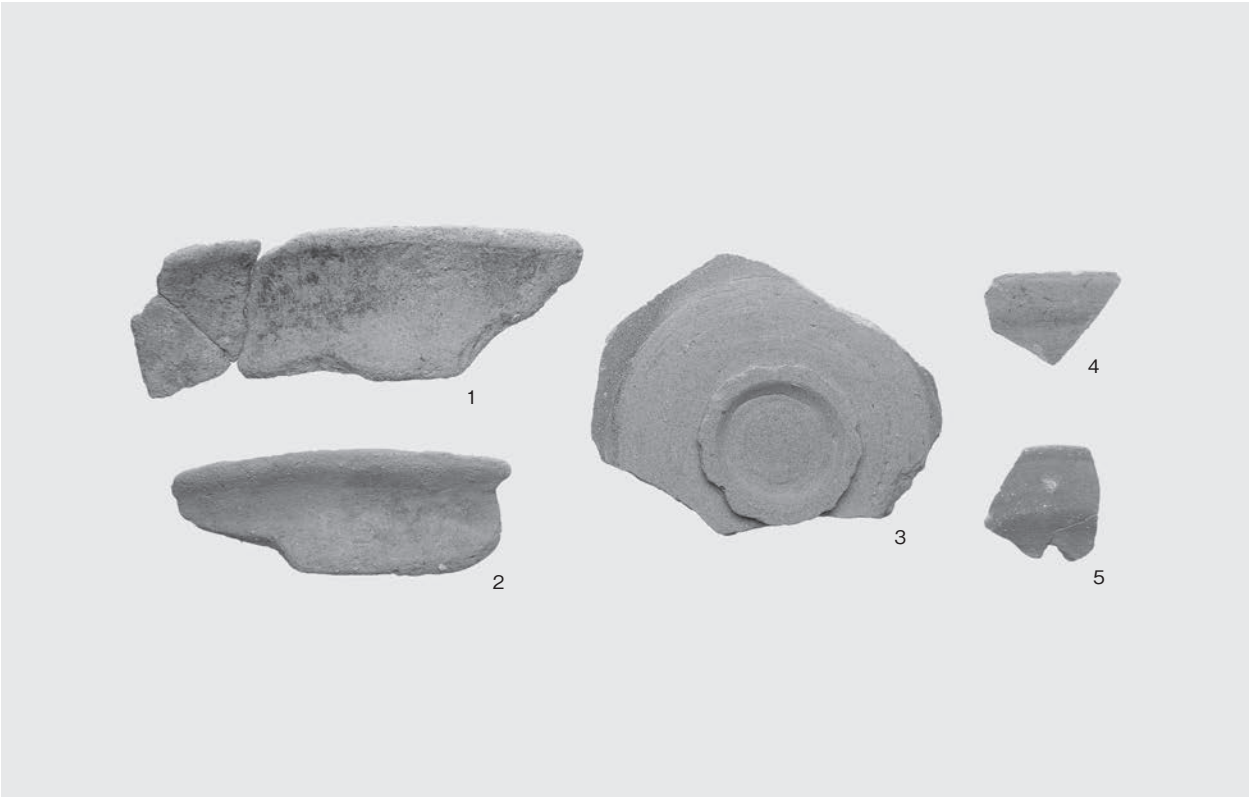
6区SS22出土遺物（2）



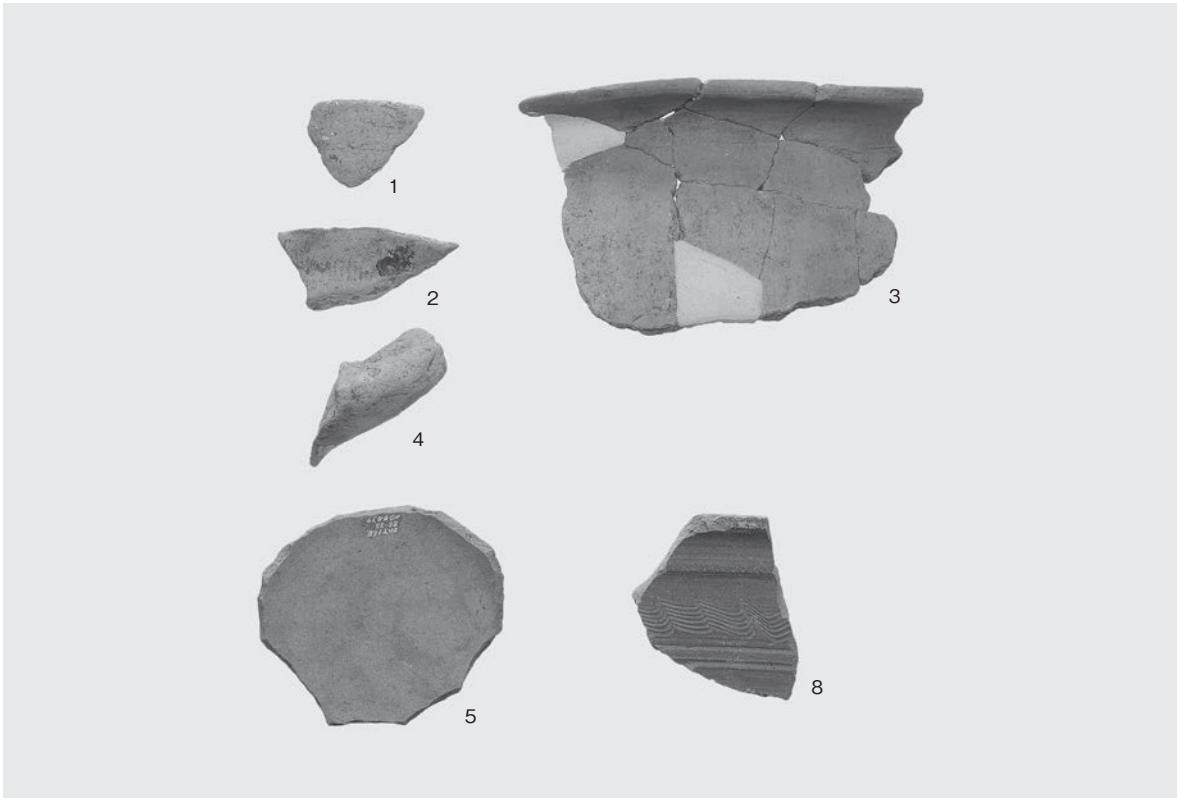
6区SS25出土遺物



6区SS26出土遺物



6区SS32出土遺物



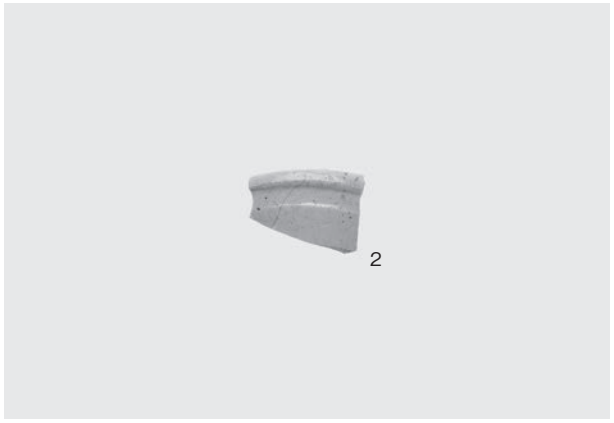
6区SS33出土遺物

1区SK6出土遺物

図版148

３区SS１−１出土遺物

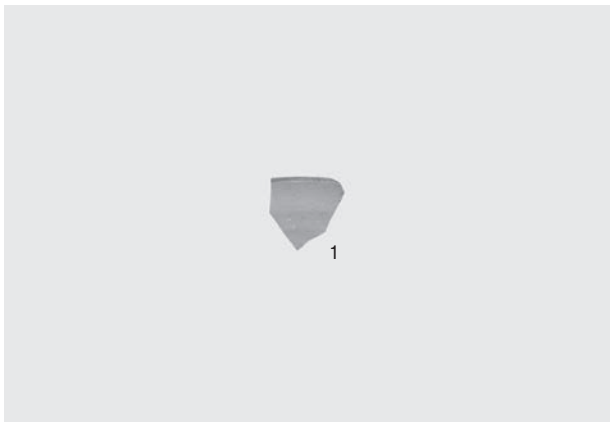
３区SS３出土遺物（１）



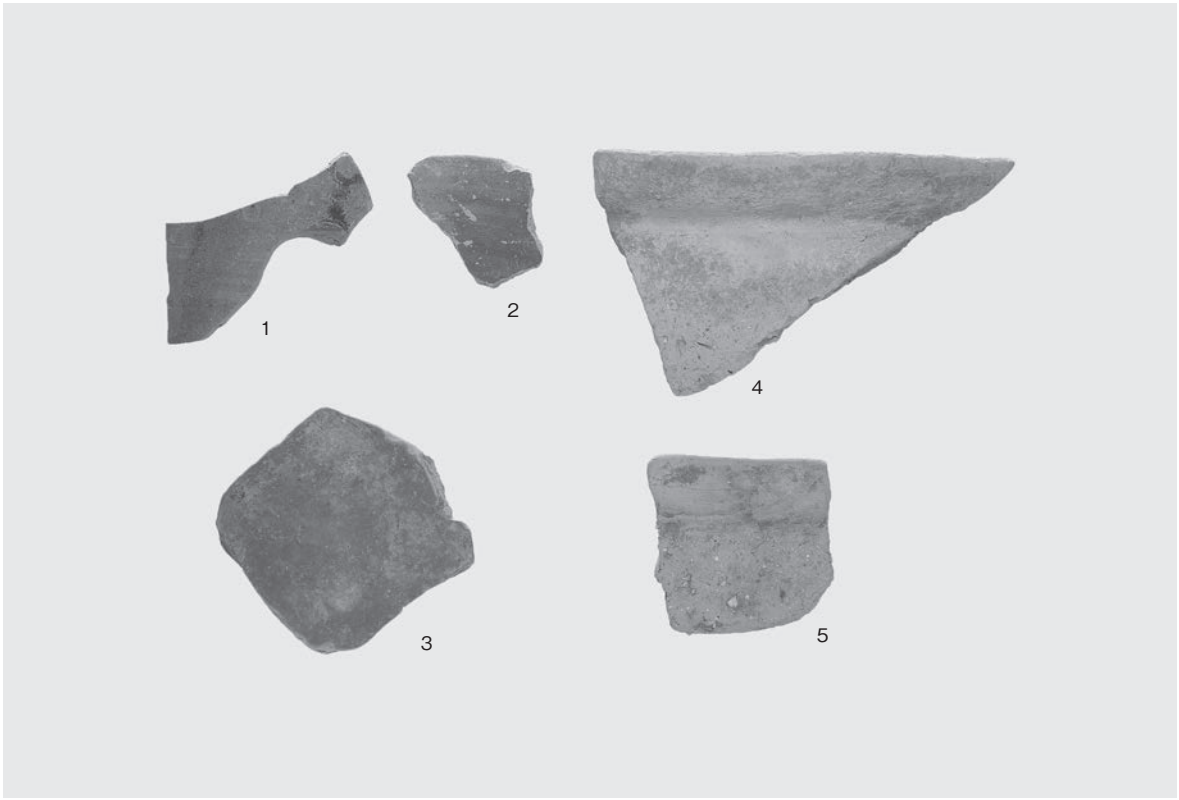
３区SS３出土遺物（２）

３区SS３出土遺物（３）

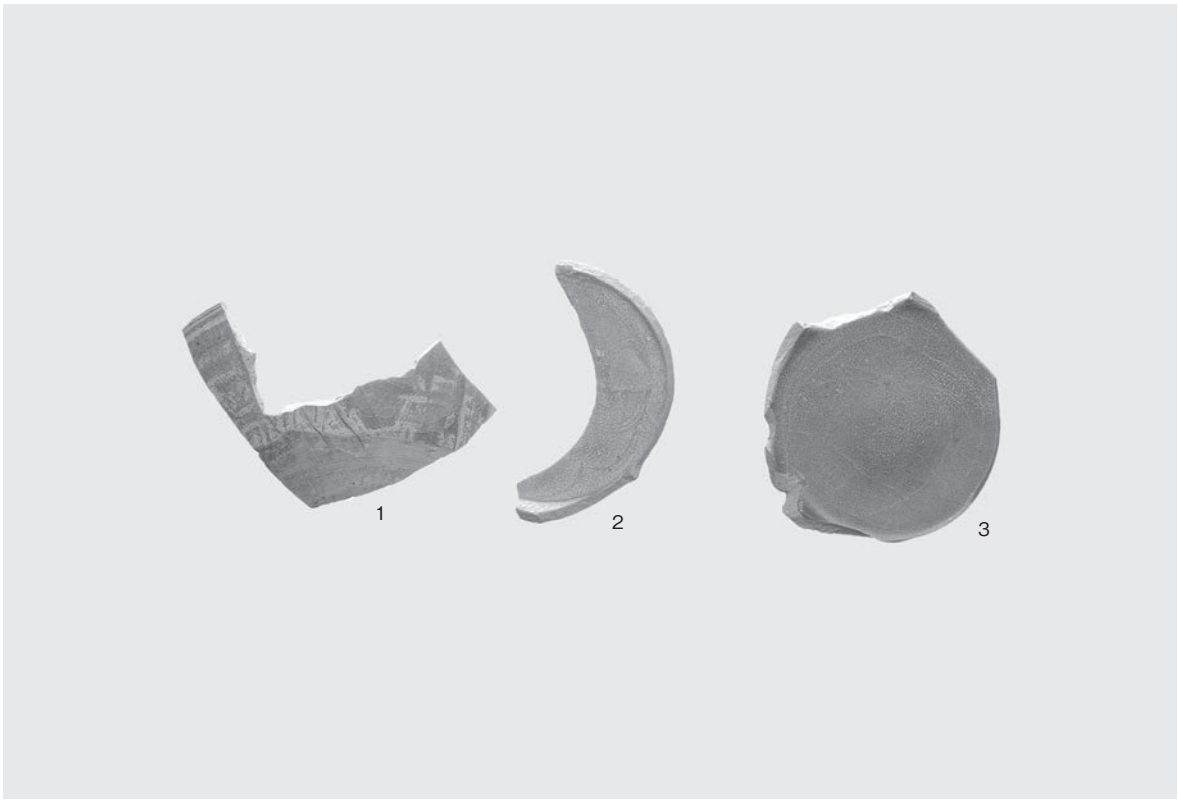
３区SS３出土遺物（４）



６区SS14出土遺物

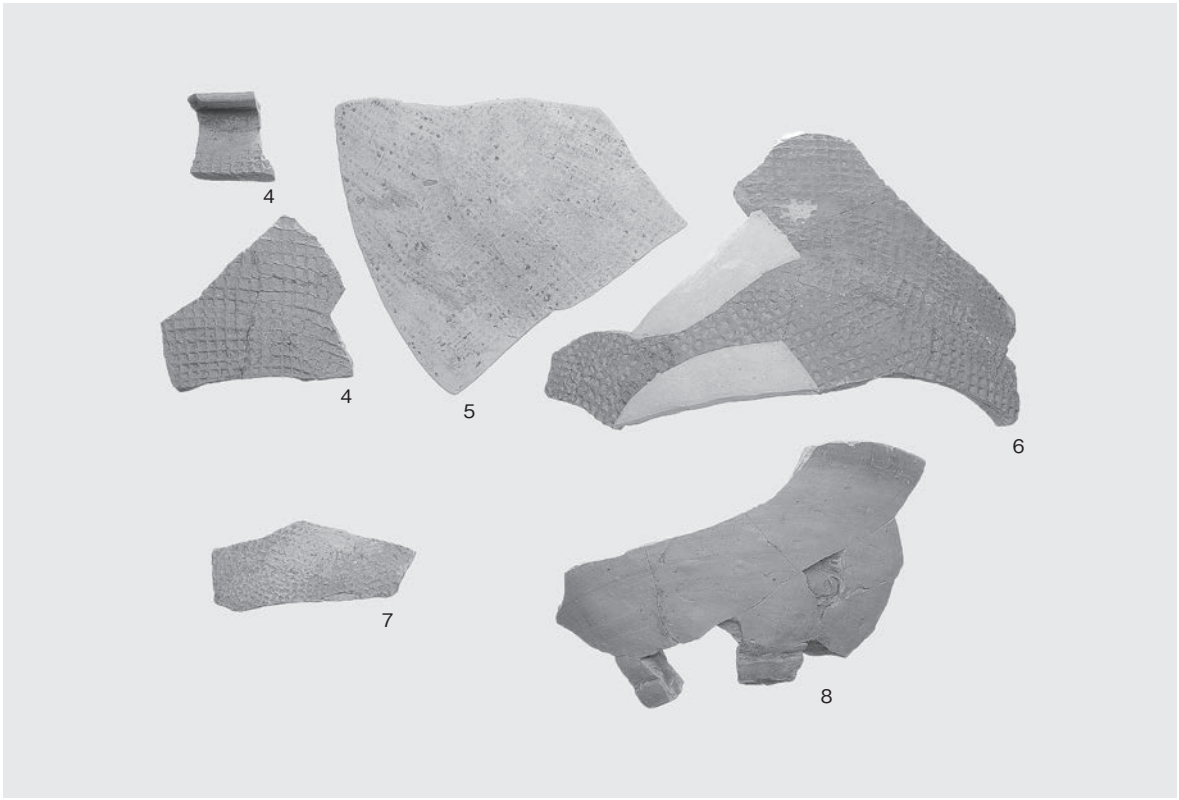


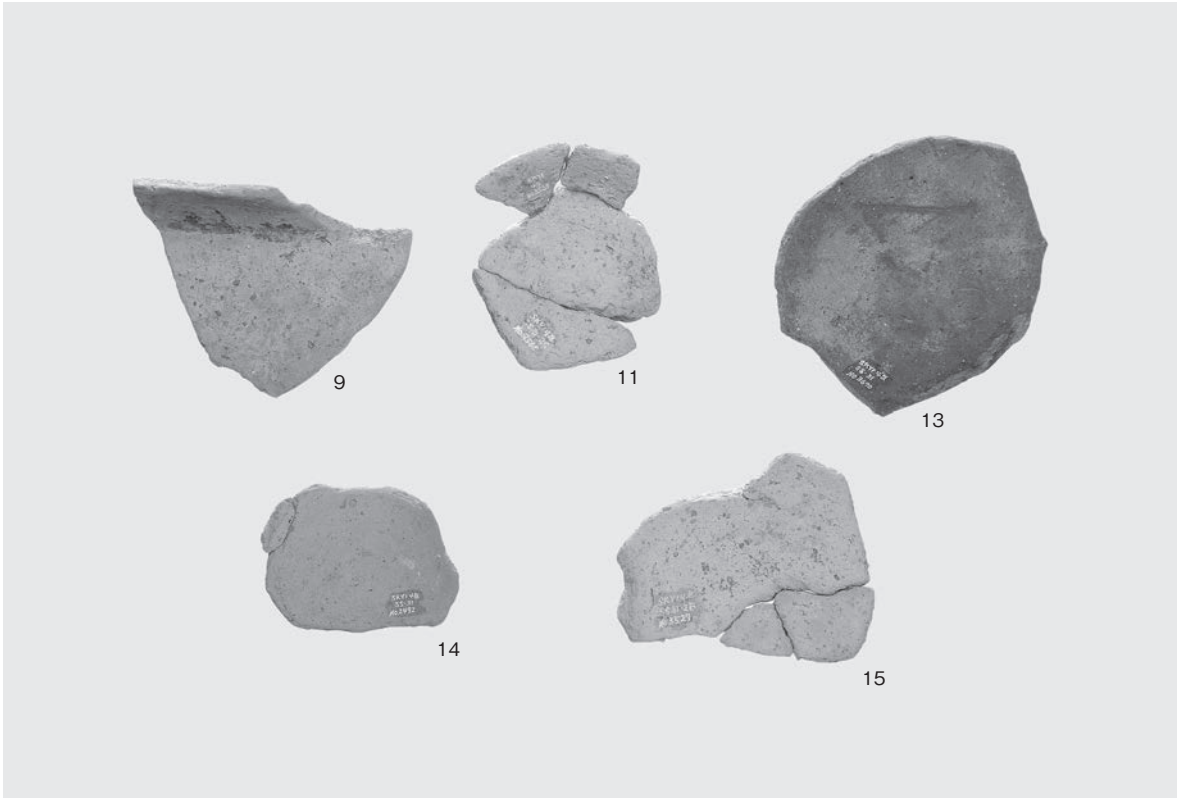
4区SS30出土遺物



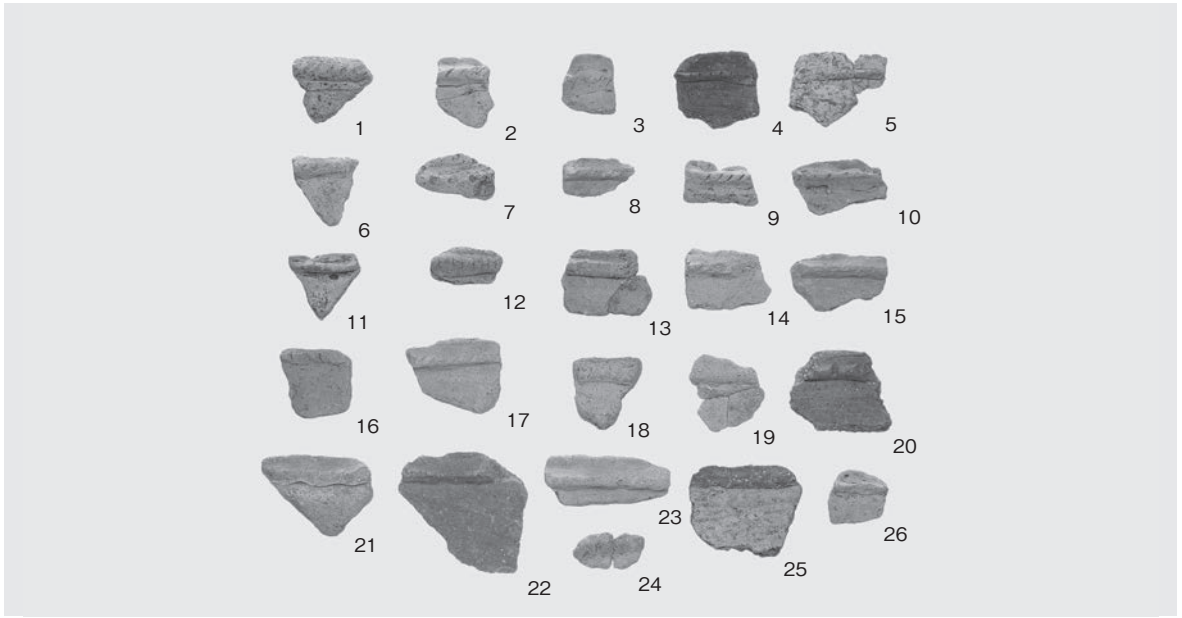
4区SS31出土遺物（1）

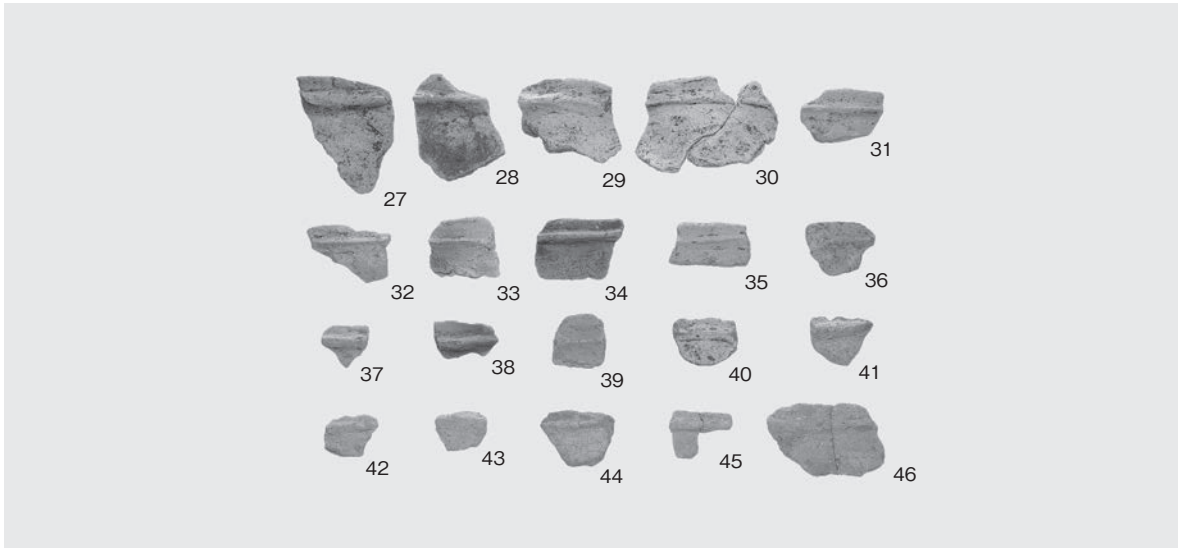
図版150

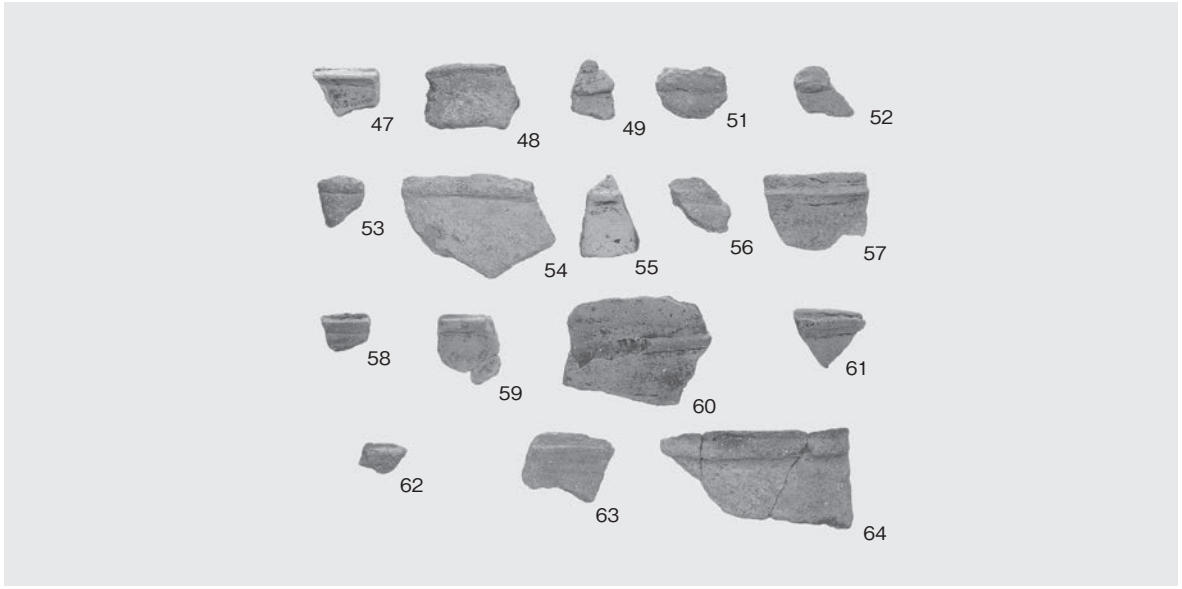




4区SS31出土遺物（2）

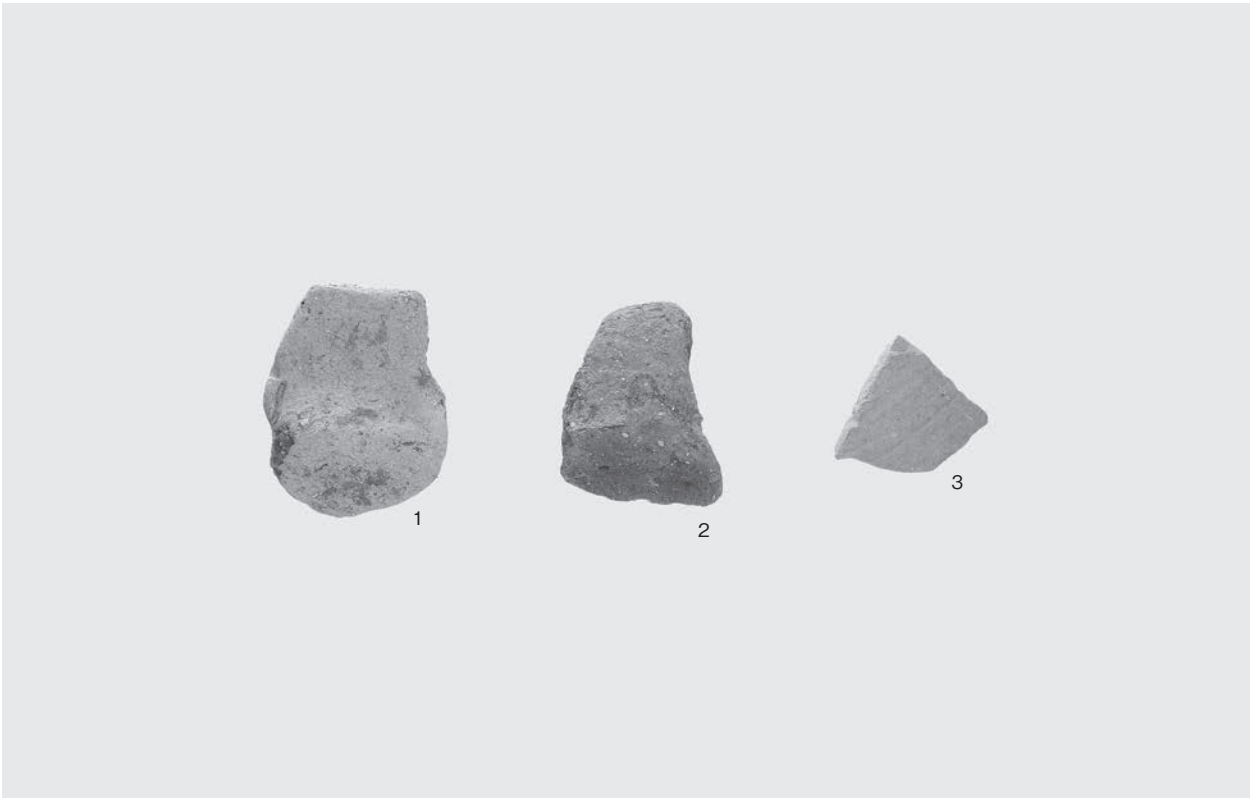

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26

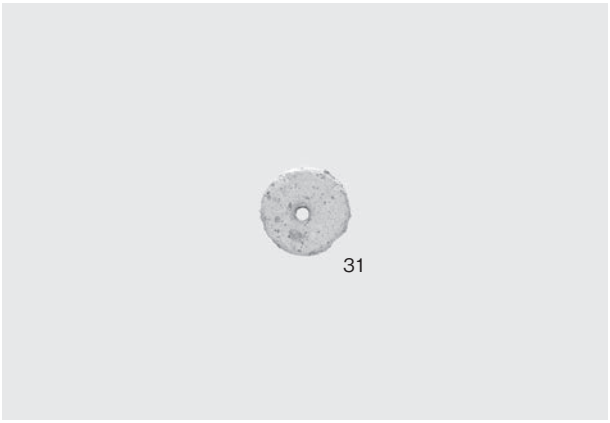

27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46


47
48
49
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64

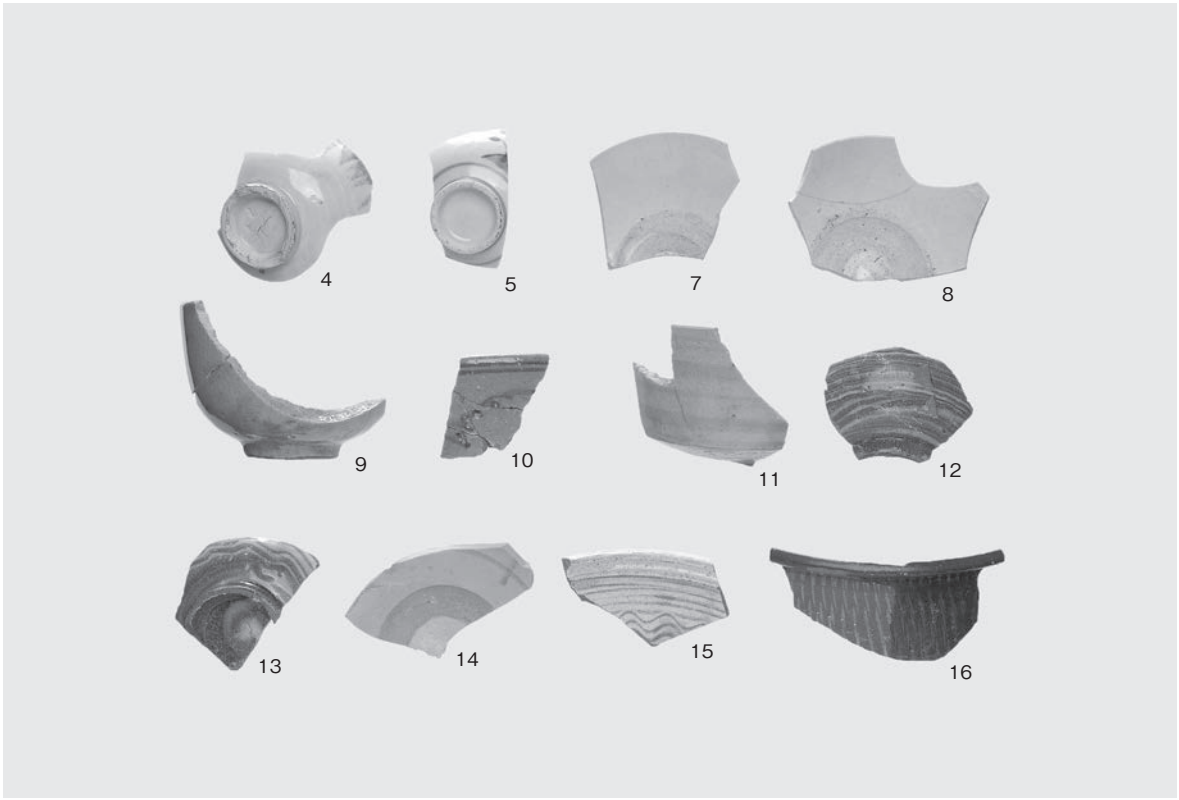
突帯文土器

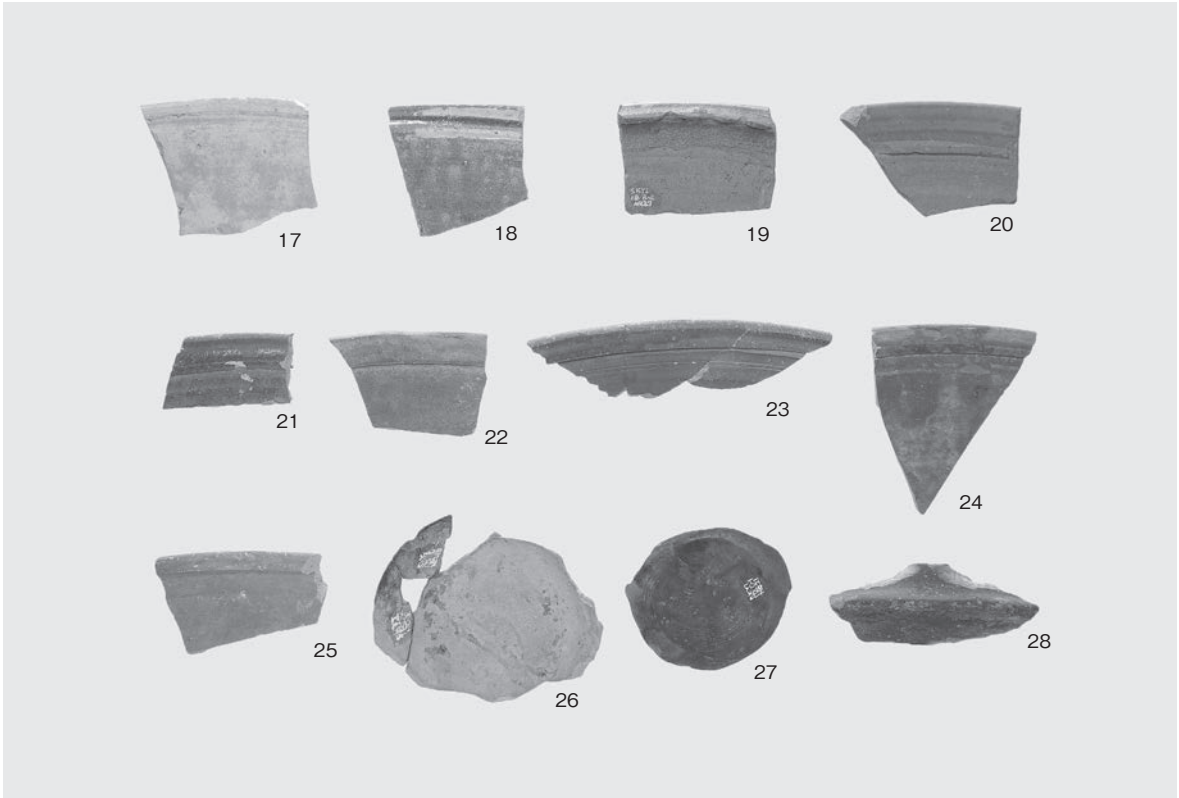
図版152





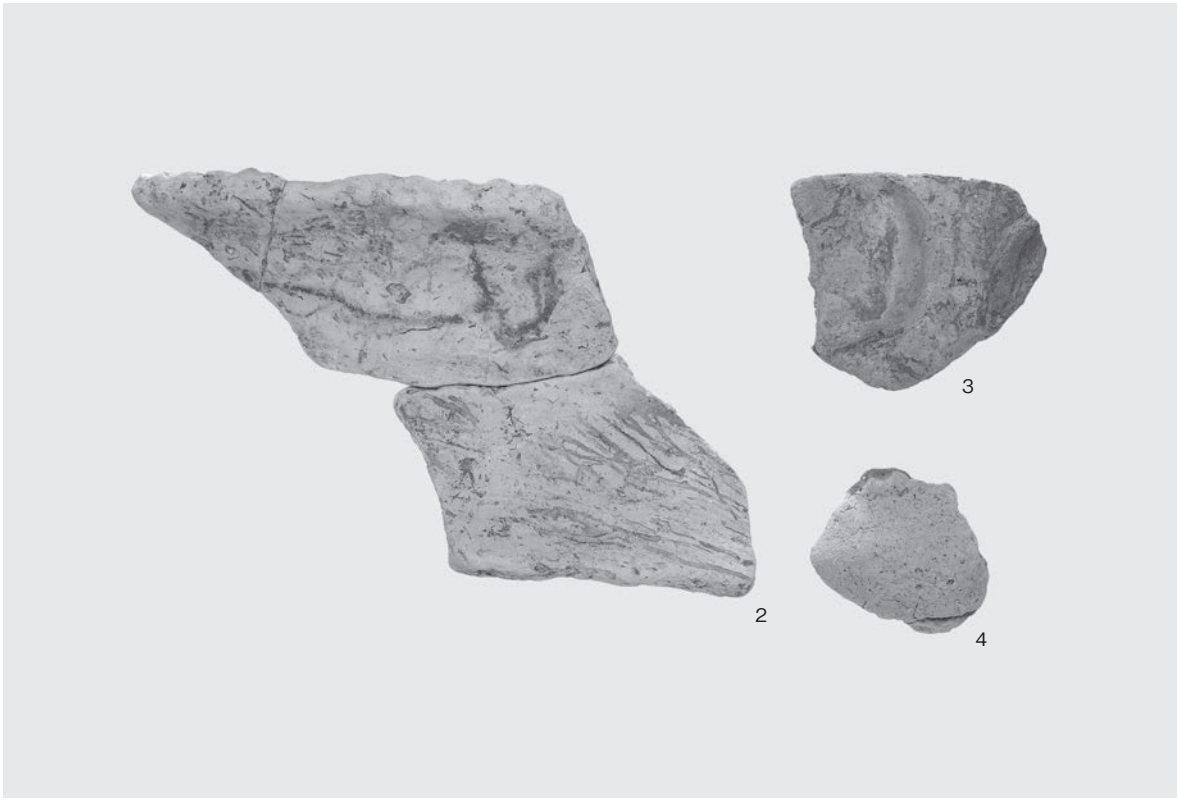
1区遺構外出土遺物（1）

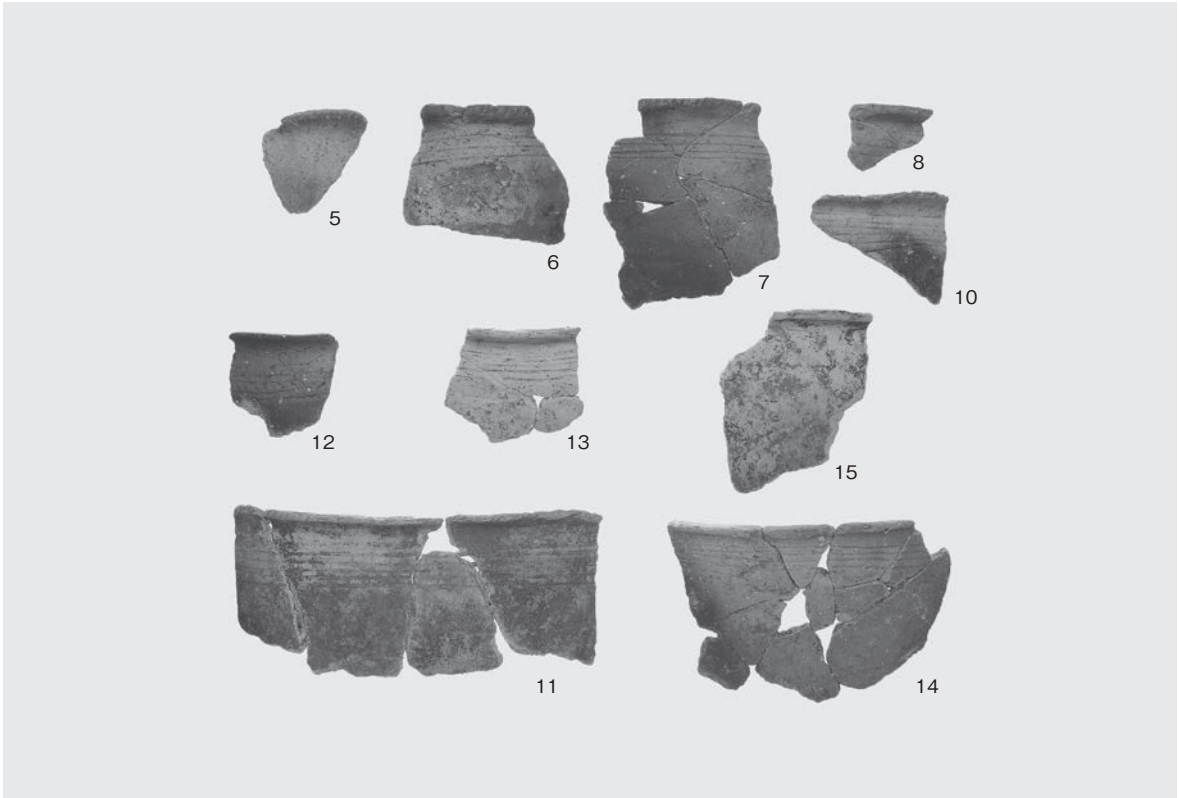




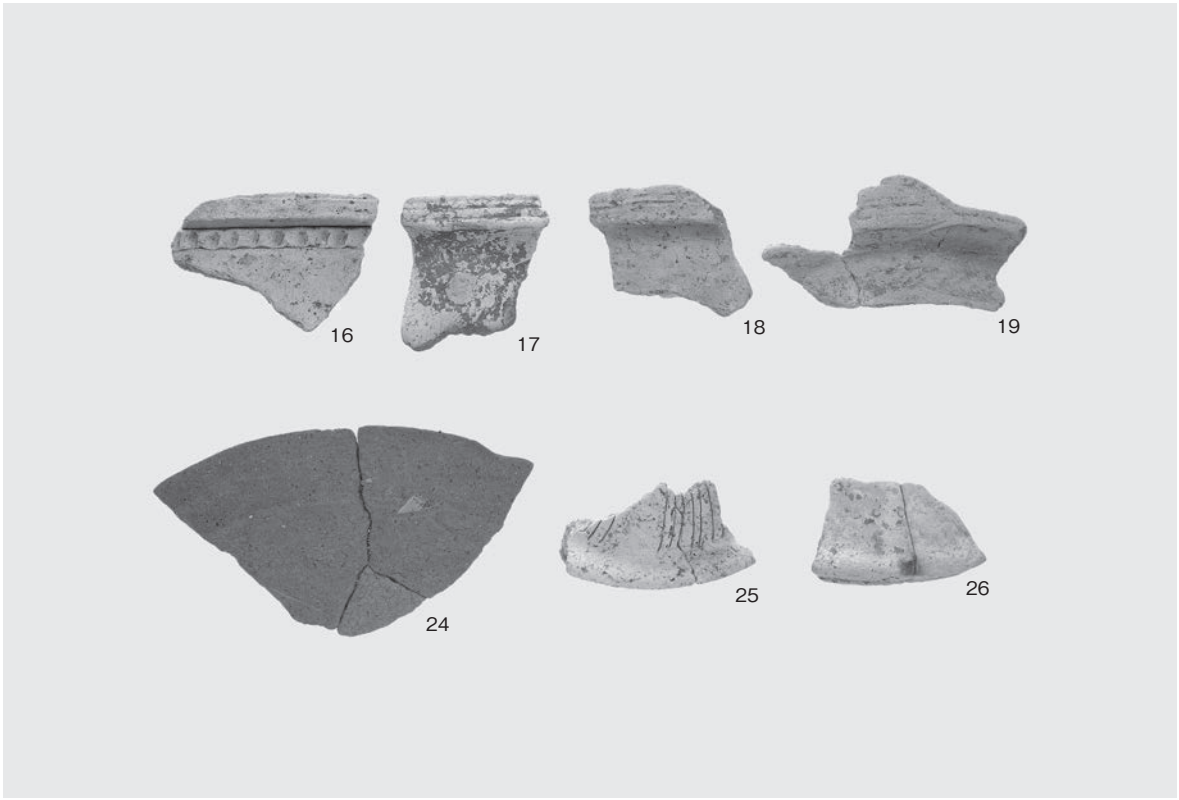
1区遺構外出土遺物（2）

図版154



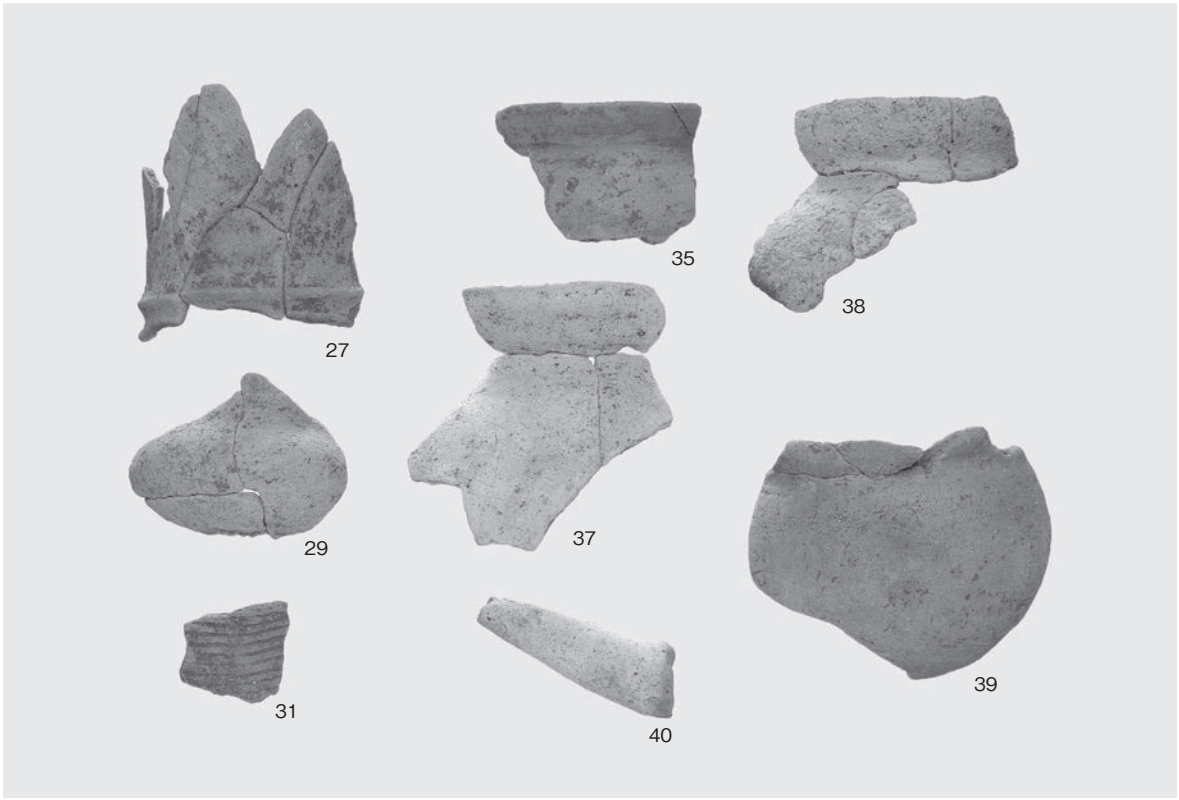


２区遺構外出土遺物（１）



２区遺構外出土遺物（２）

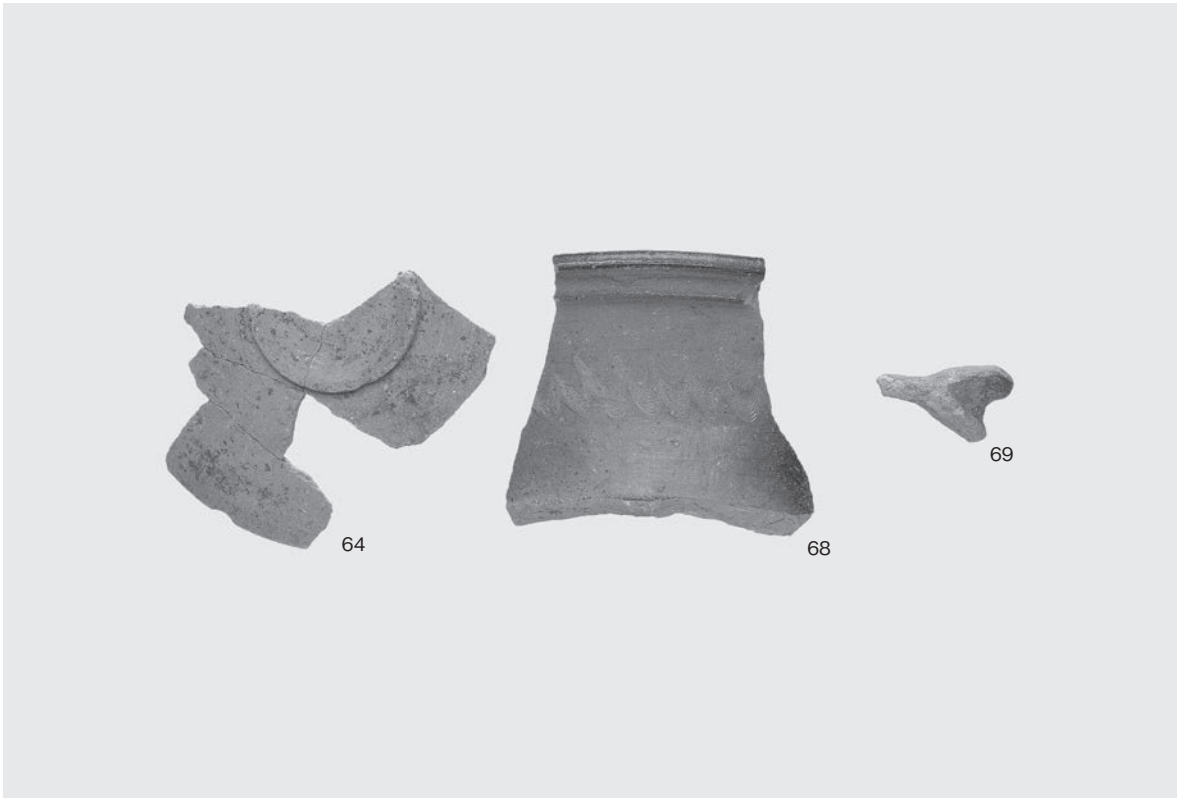
図版156

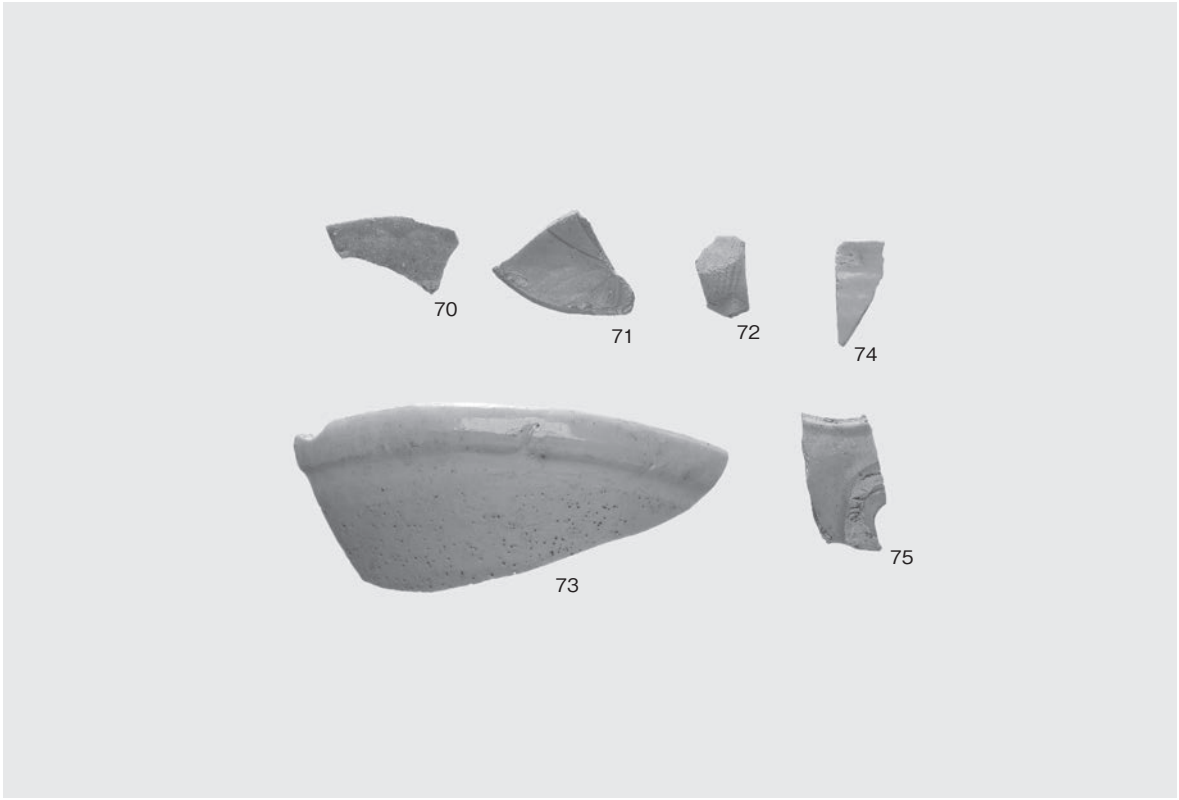


２区遺構外出土遺物（３）

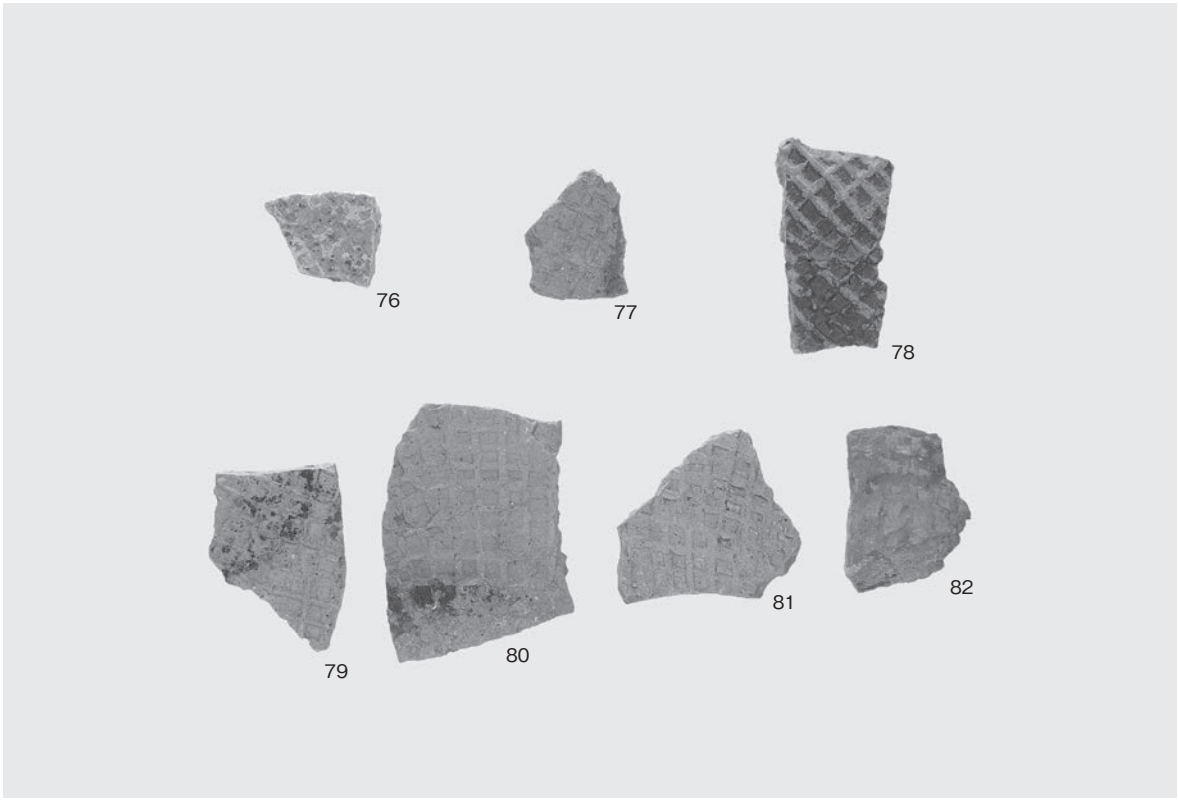
２区遺構外出土遺物（４）

図版158



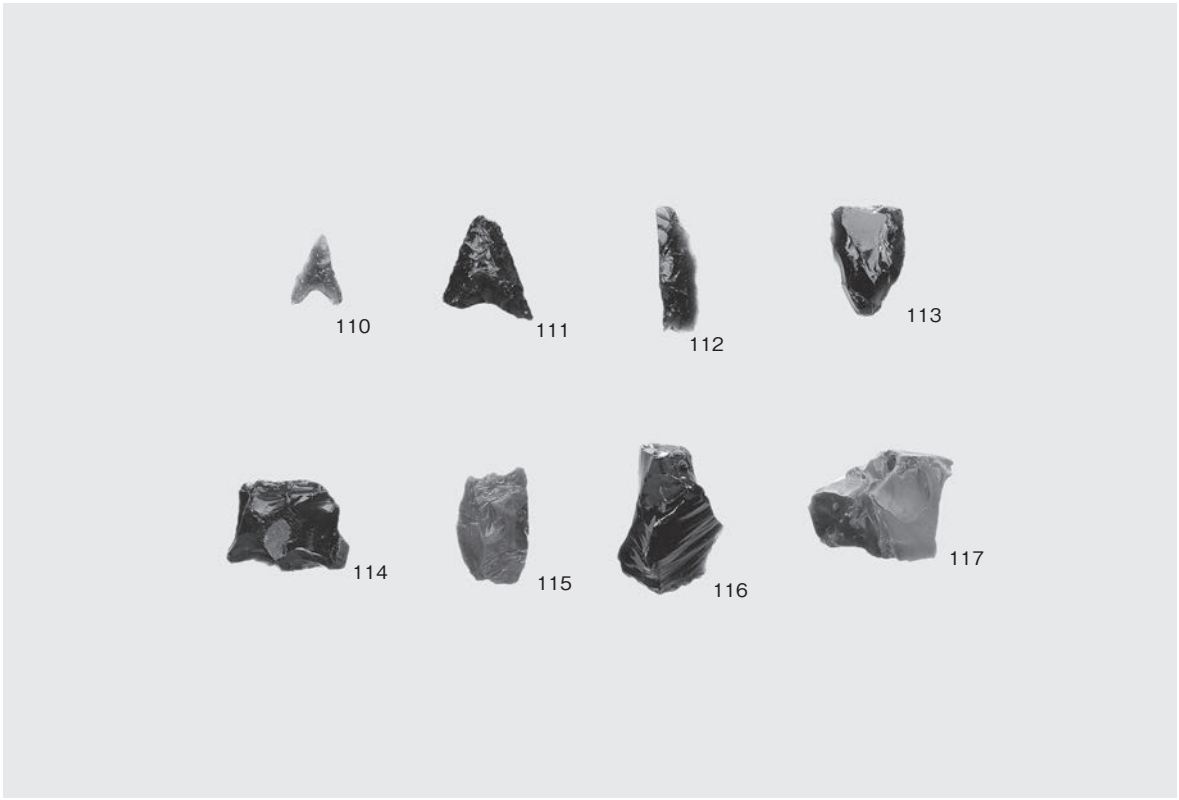


２区遺構外出土遺物（５）

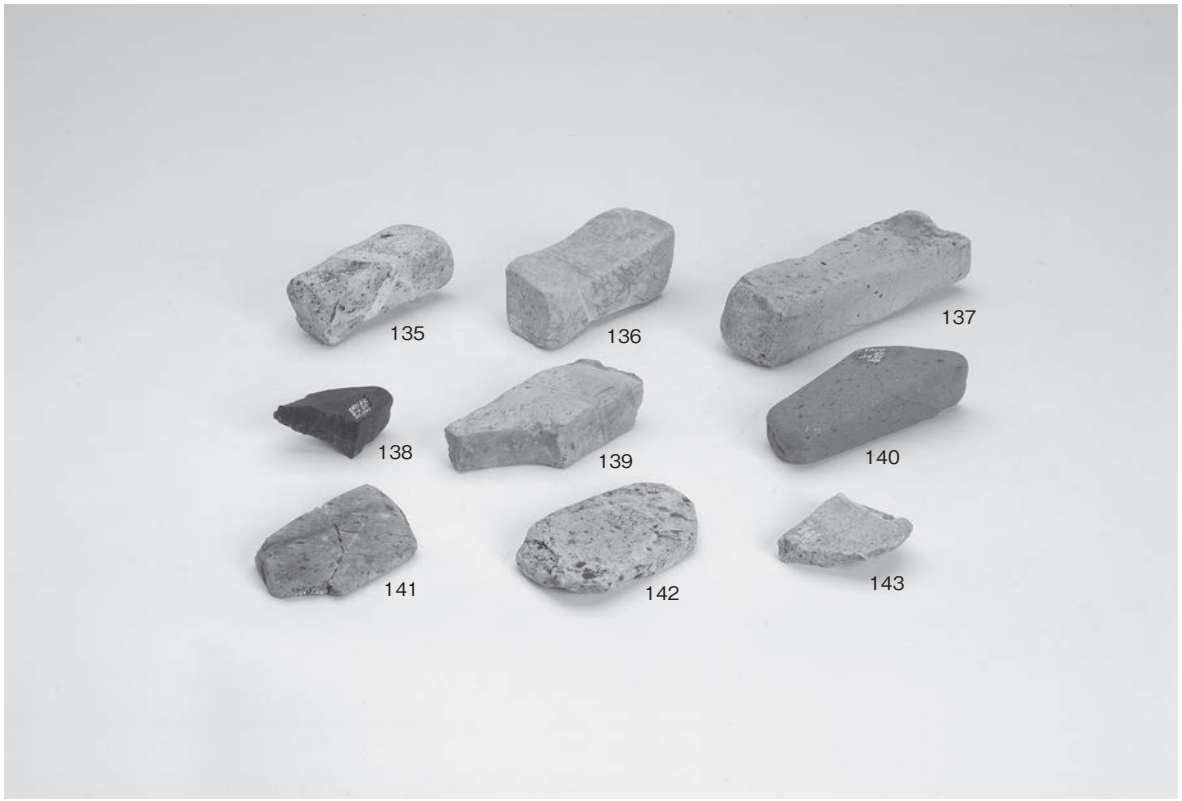


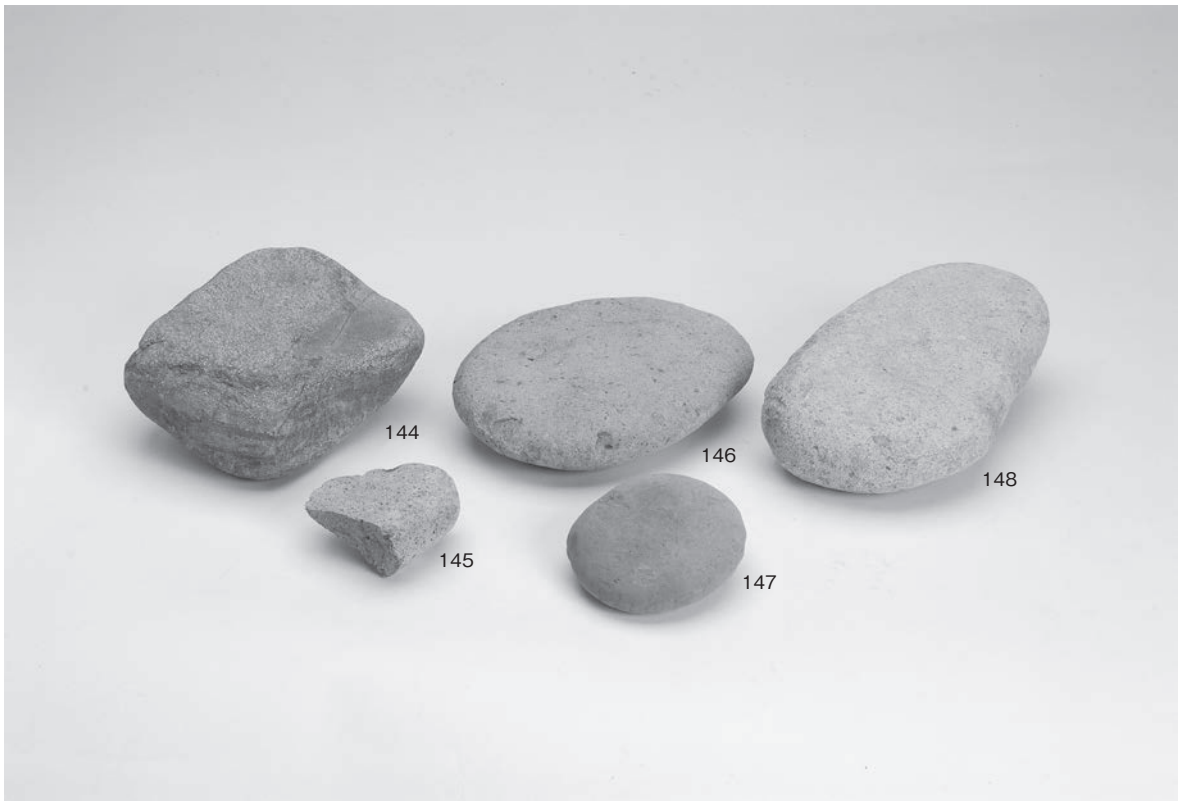
２区遺構外出土遺物（６）

図版160



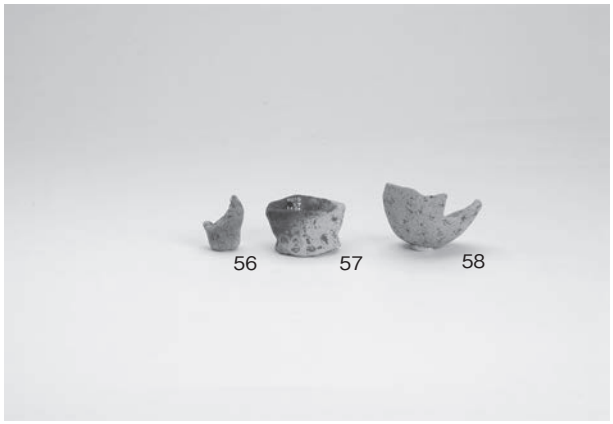
２区遺構外出土遺物（７）

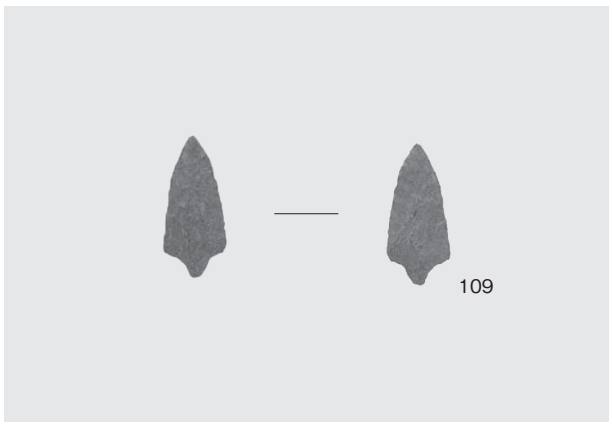


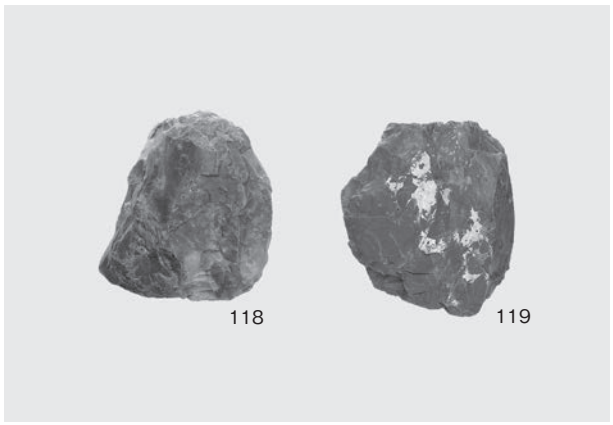


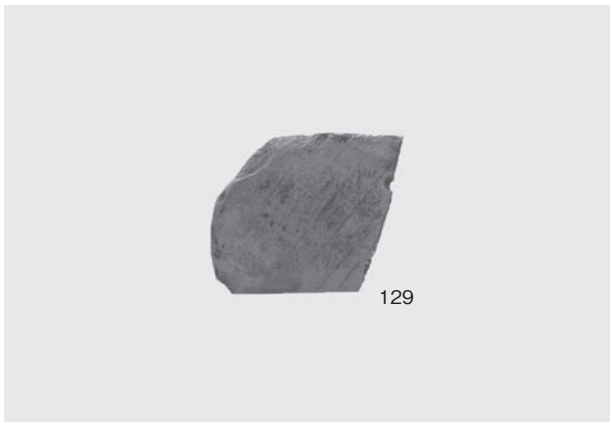
２区遺構外出土遺物（８）

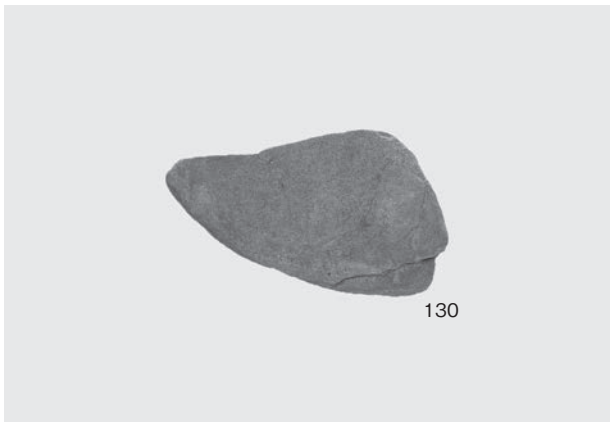
図版162



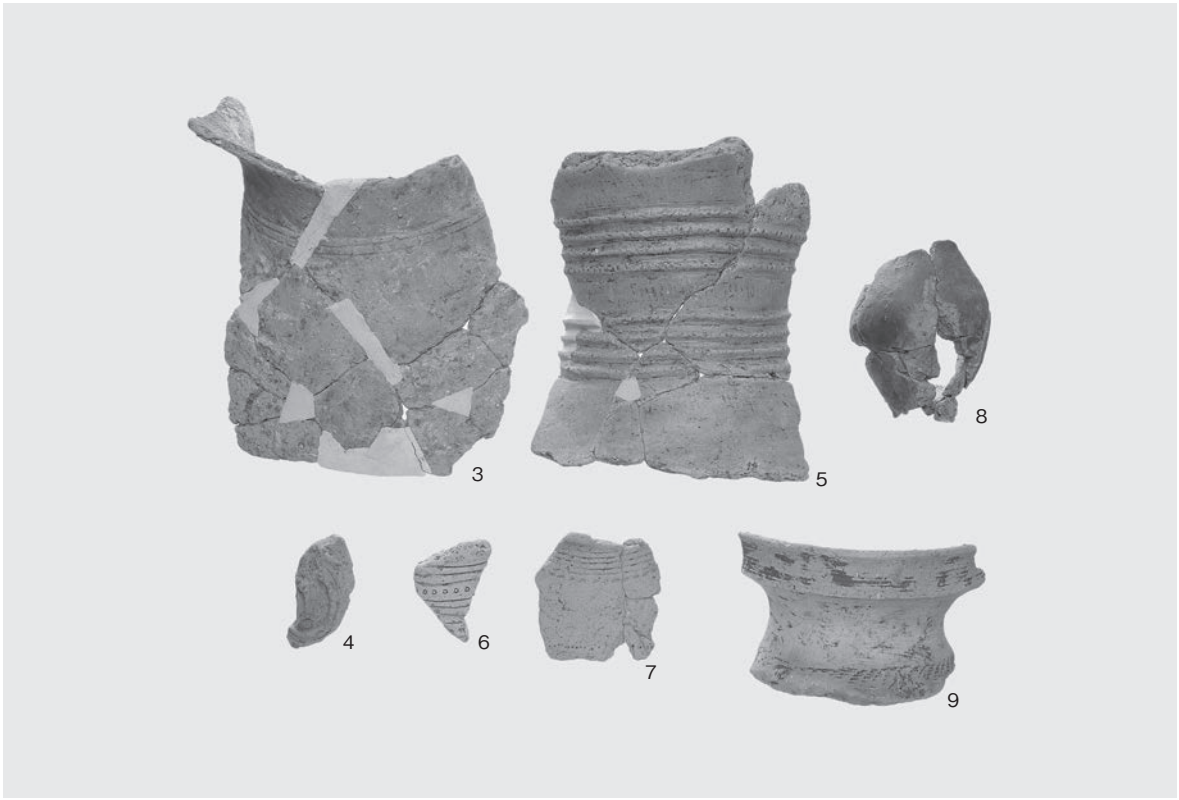


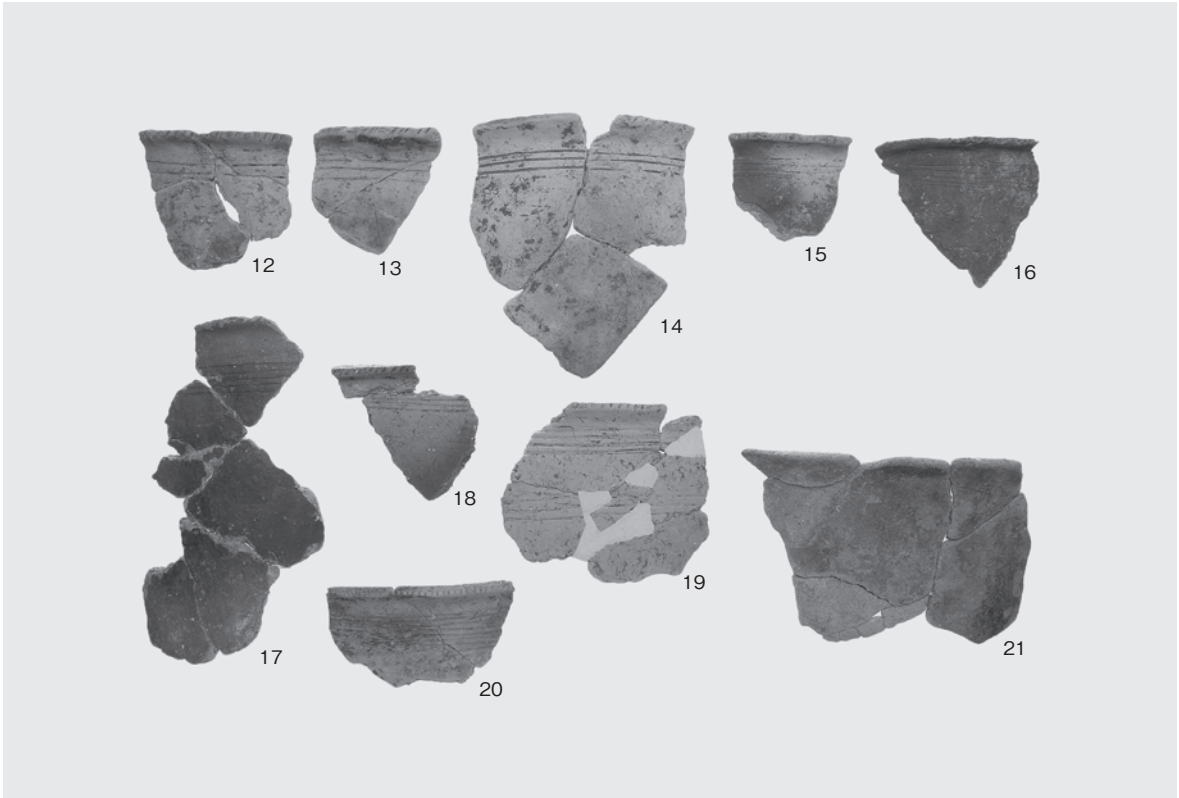






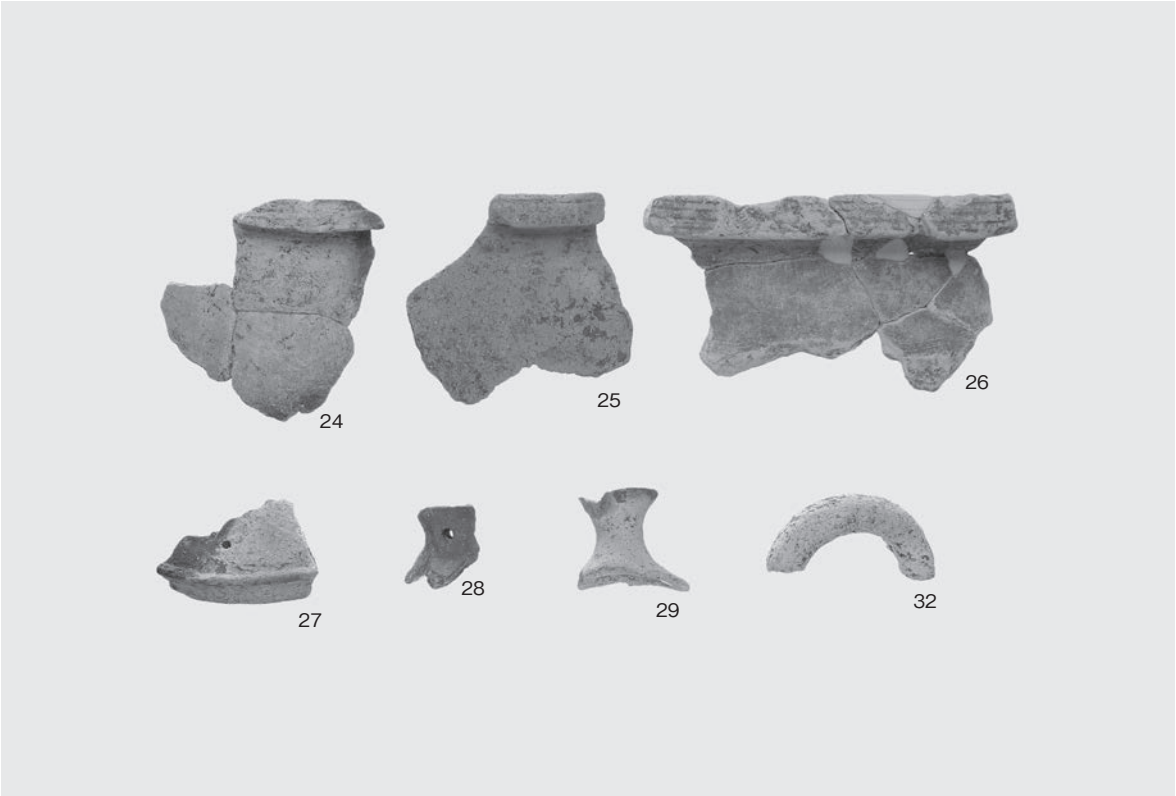
2区遺構外出土遺物（9）

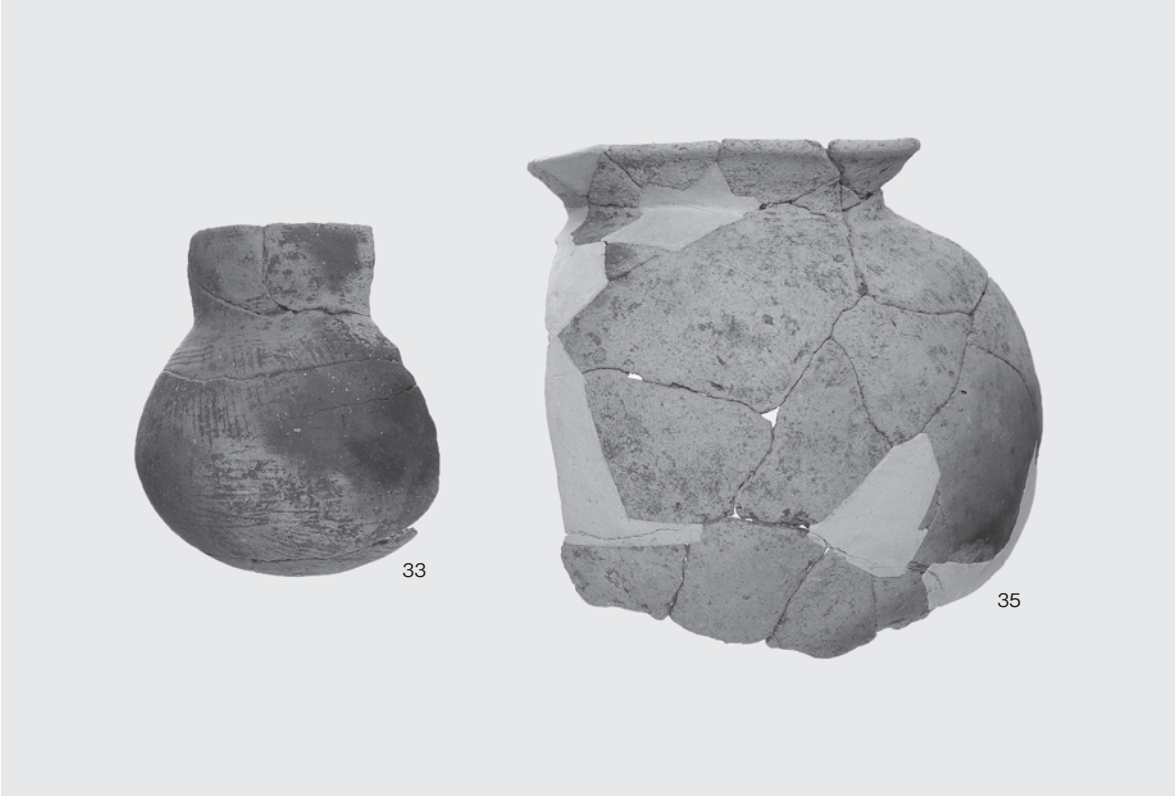




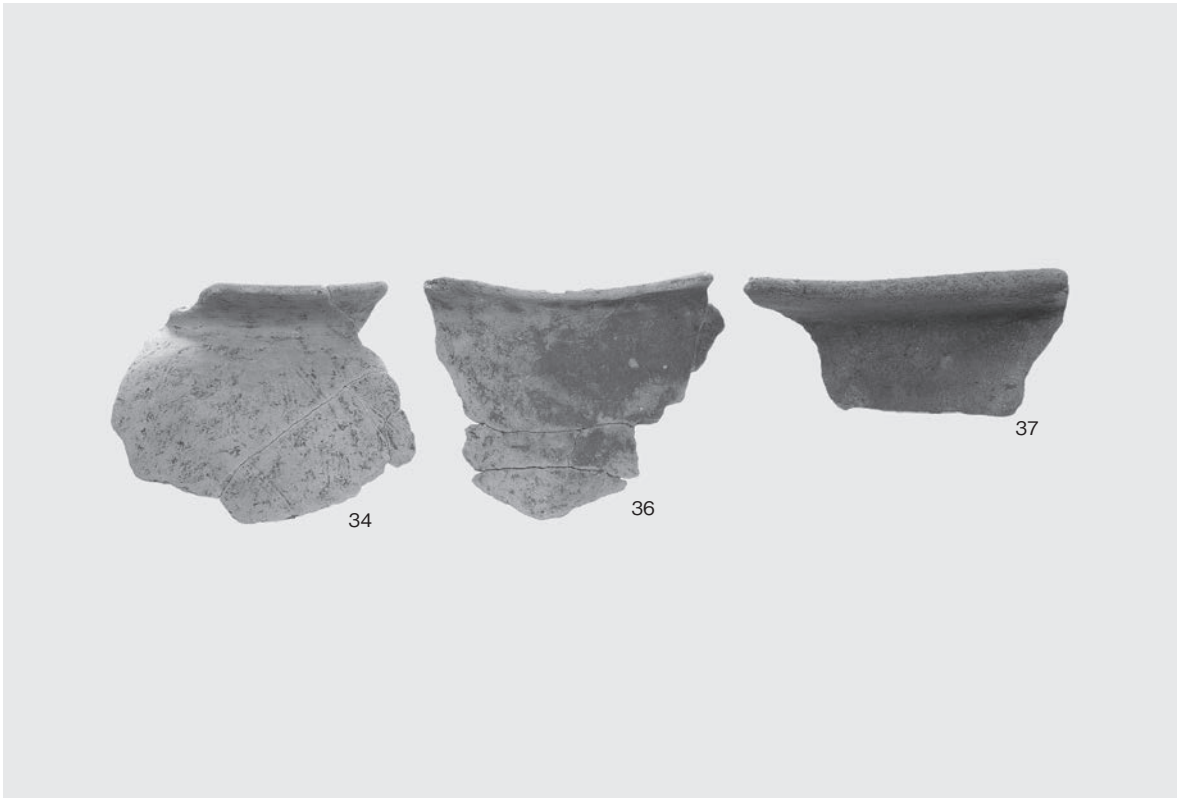
3区遺構外出土遺物（1）

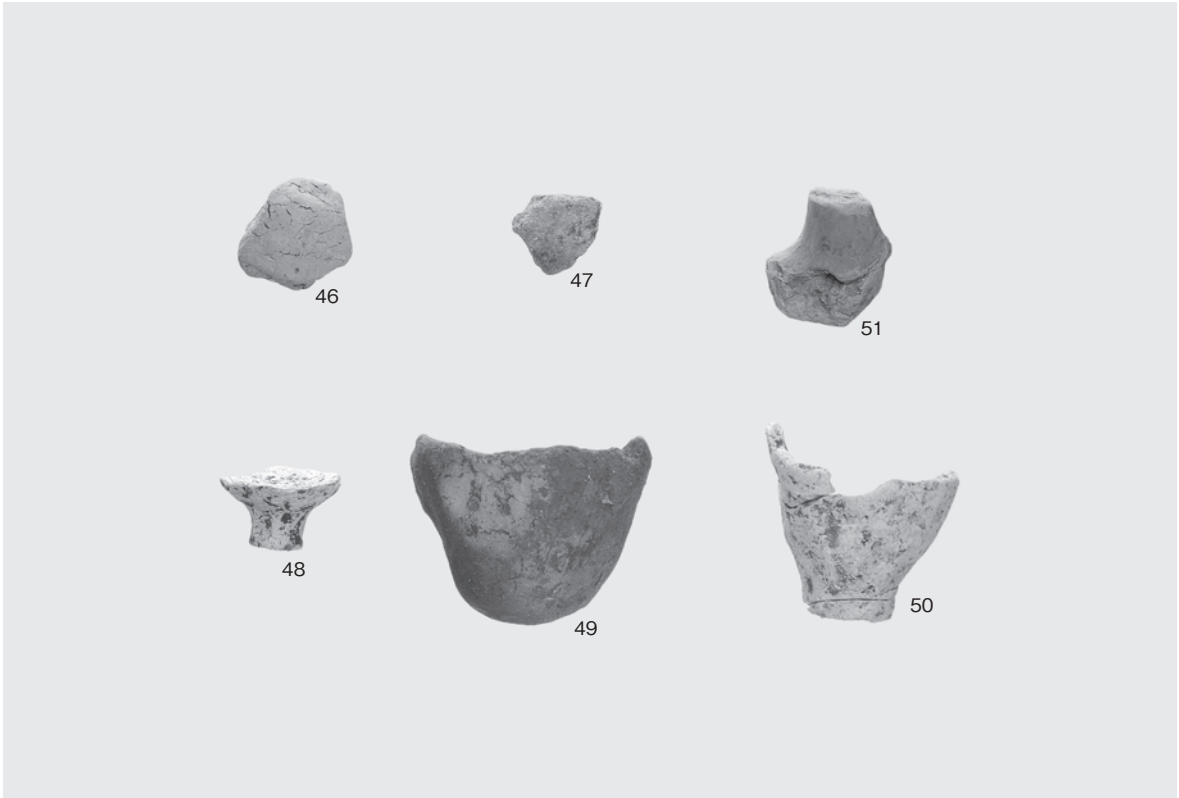
図版164





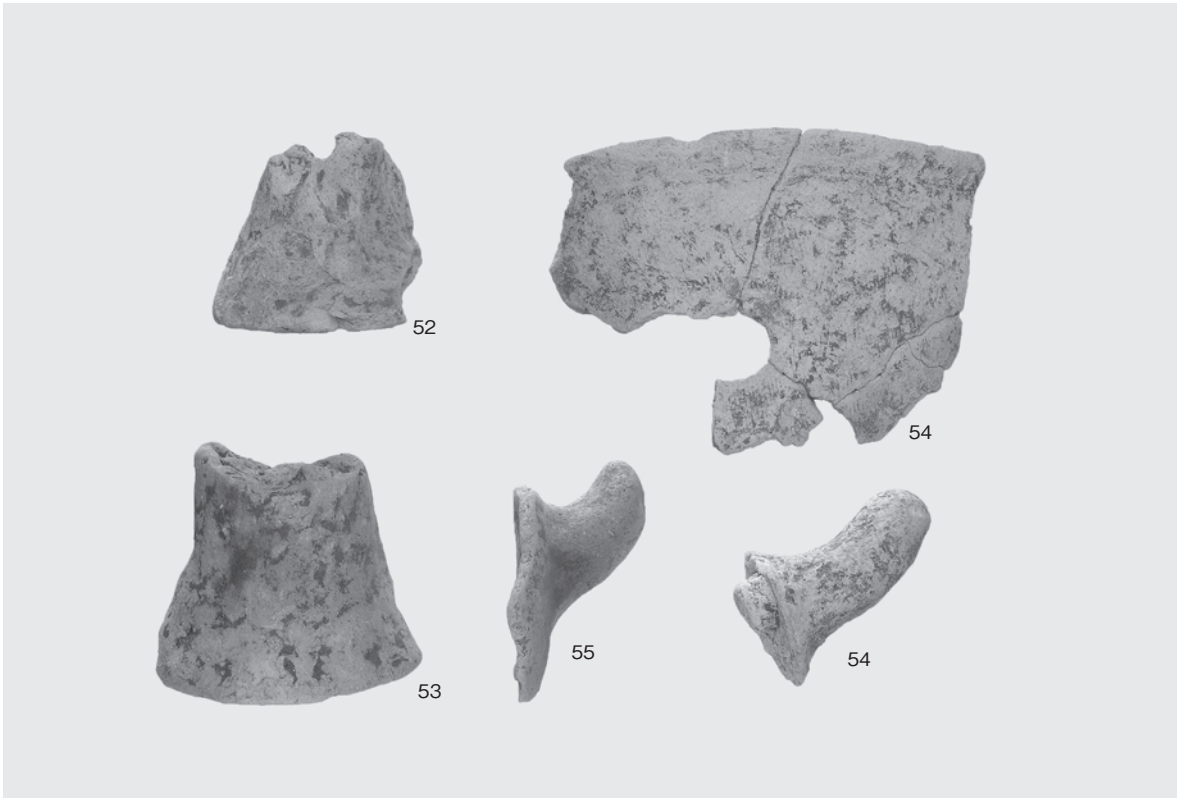
3区遺構外出土遺物（2）

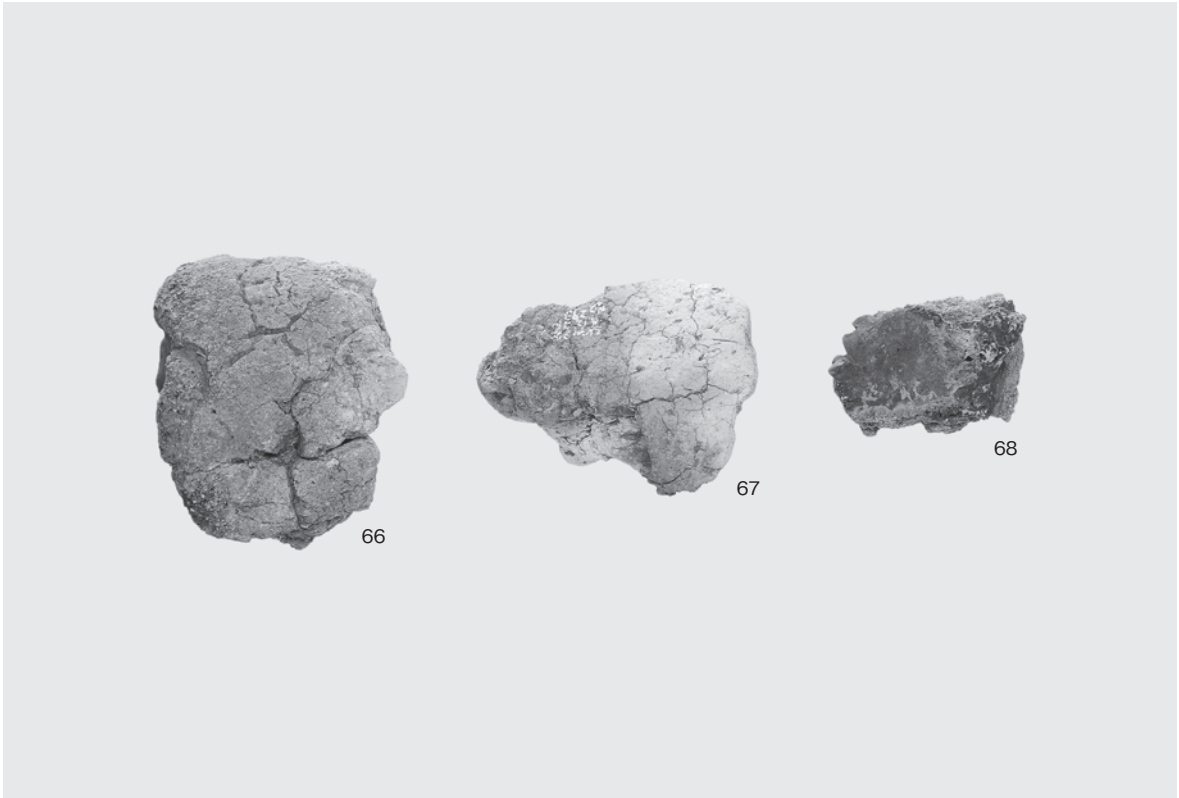




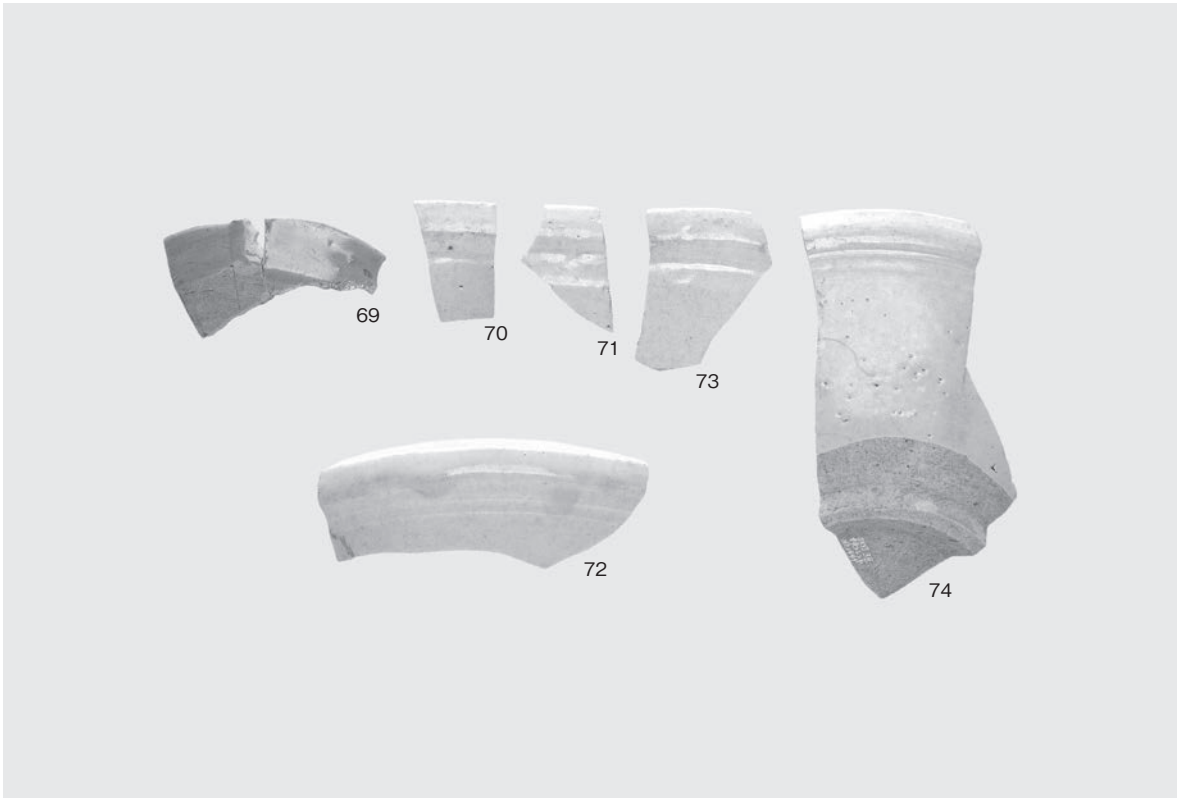
3区遺構外出土遺物（3）

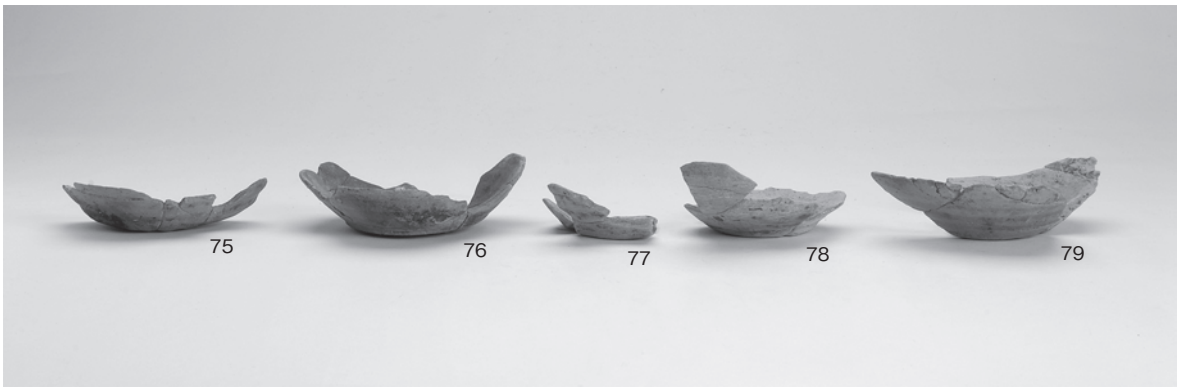
図版166

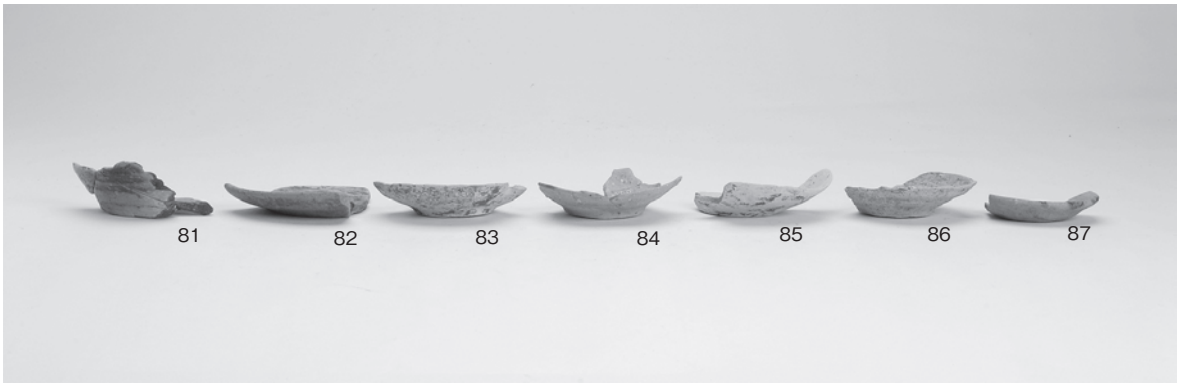




3区遺構外出土遺物（4）

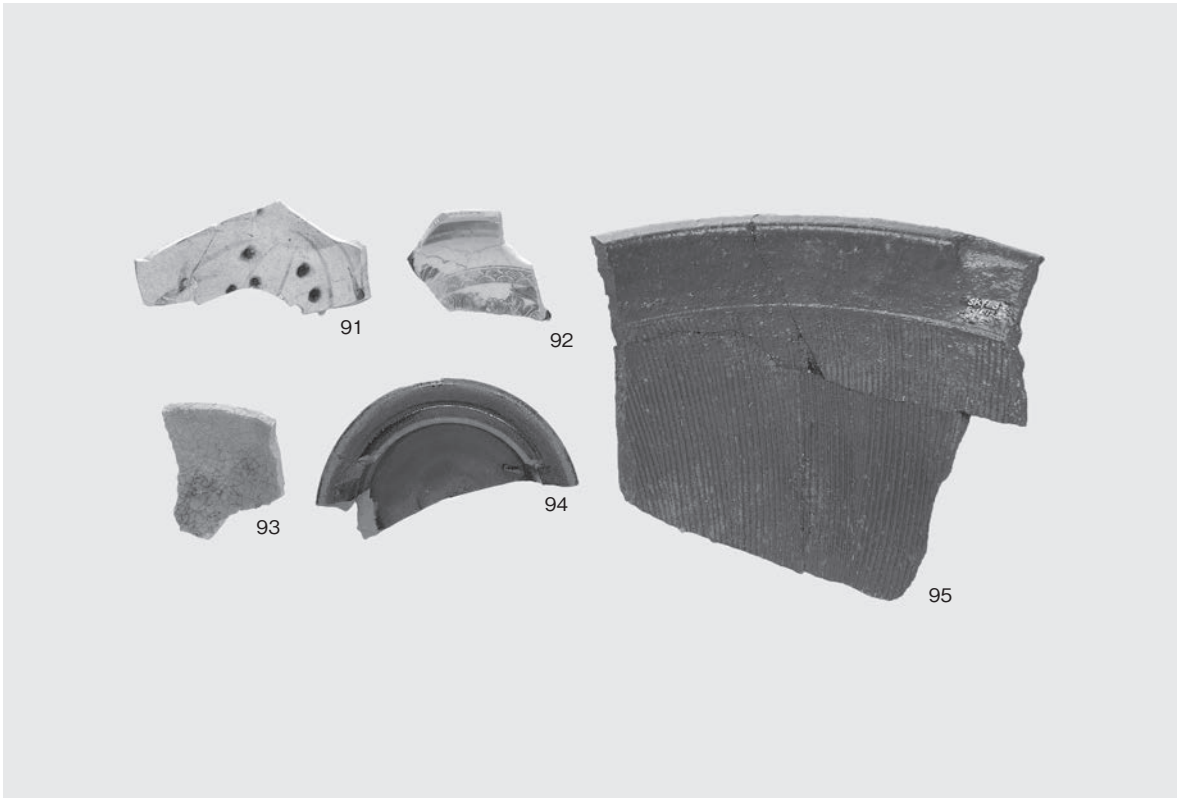


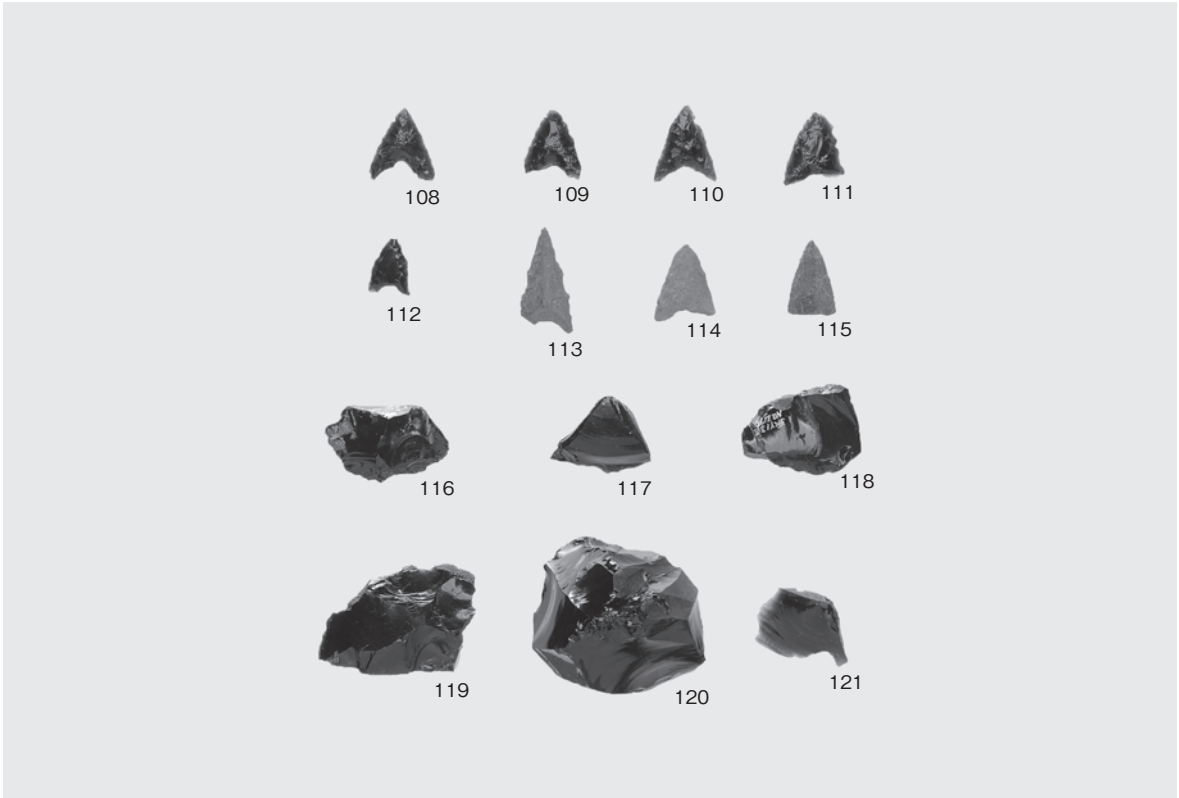




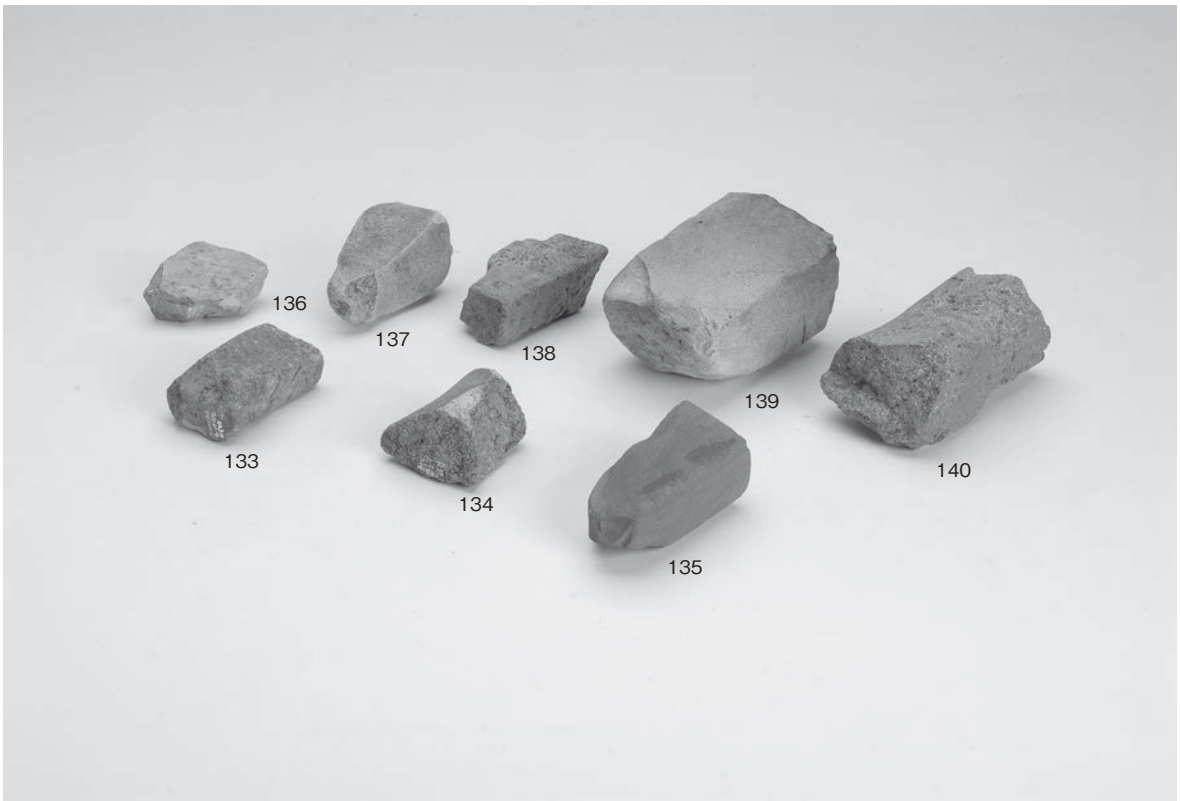
3区遺構外出土遺物（5）

図版168



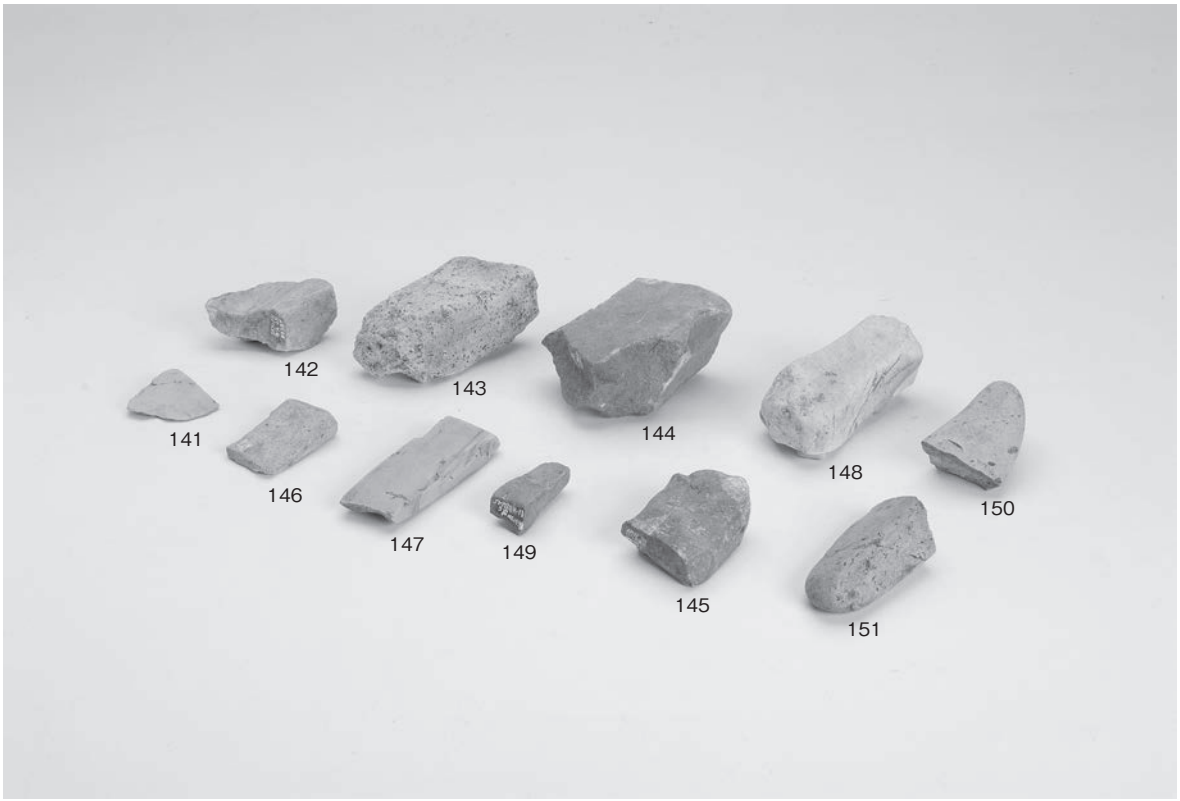


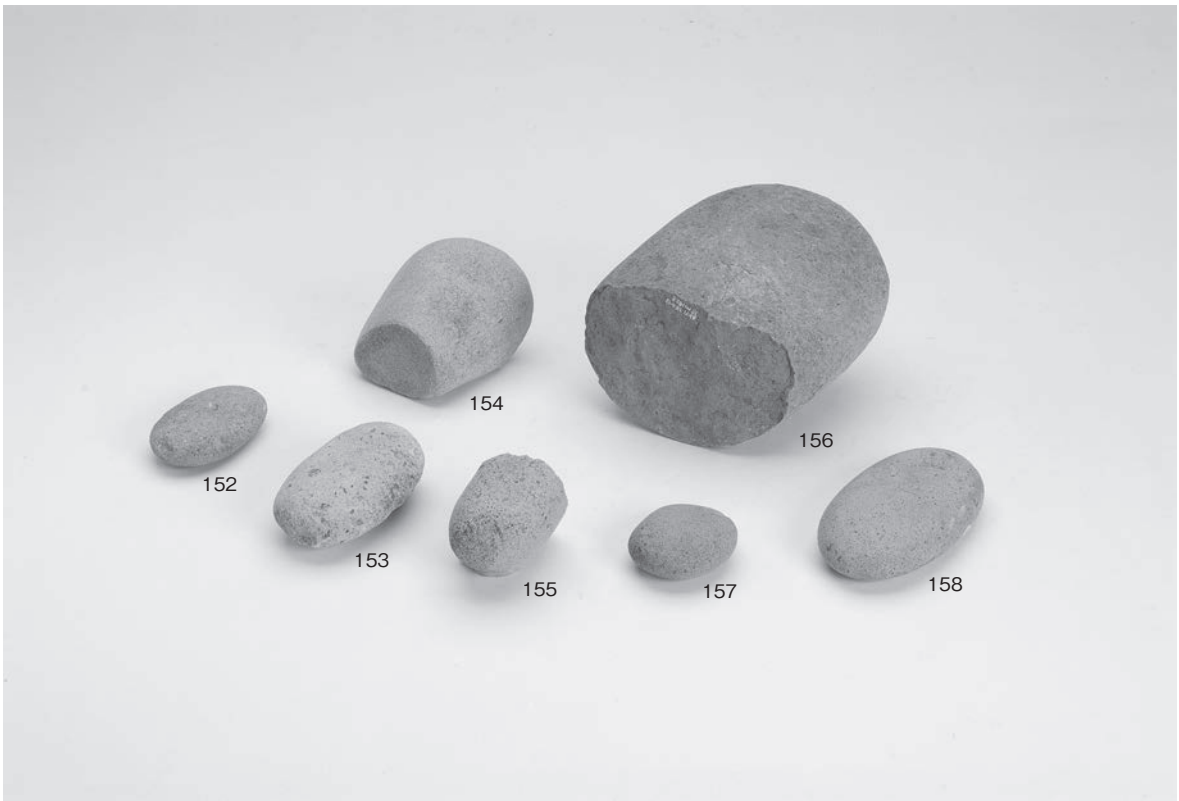
3区遺構外出土遺物（6）



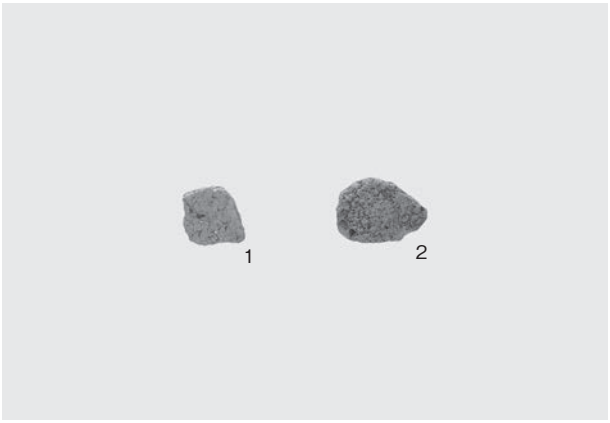
3区遺構外出土遺物（7）

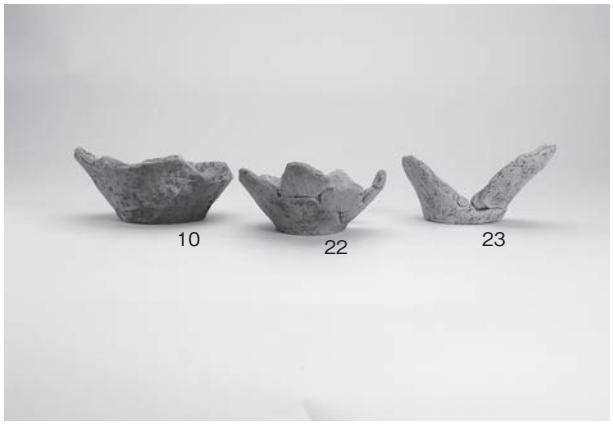
図版170

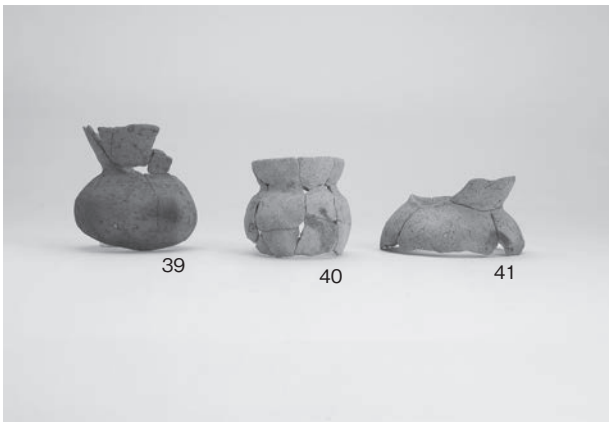




3区遺構外出土遺物（8）

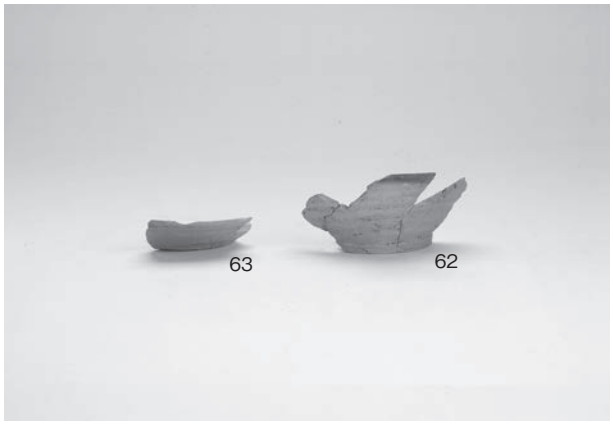


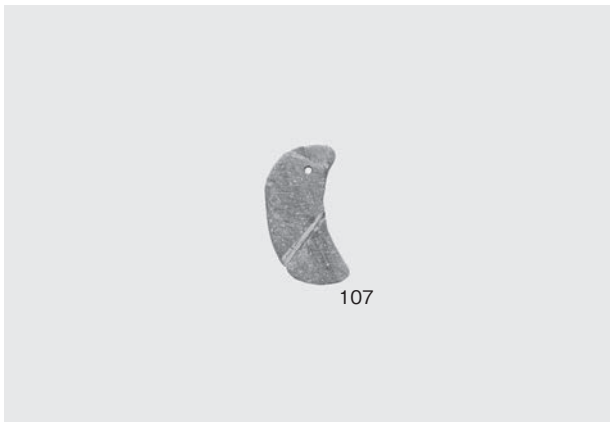


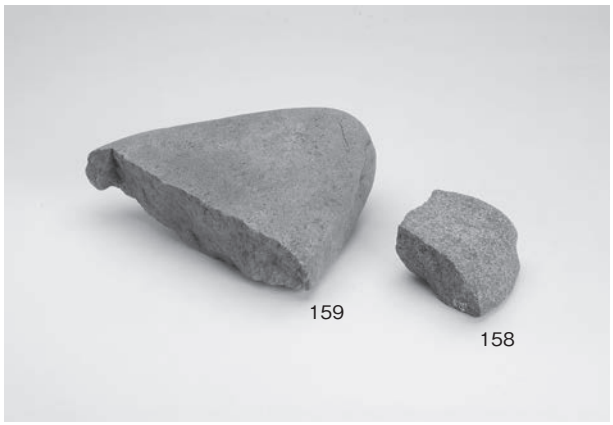


３区遺構外出土遺物（９）

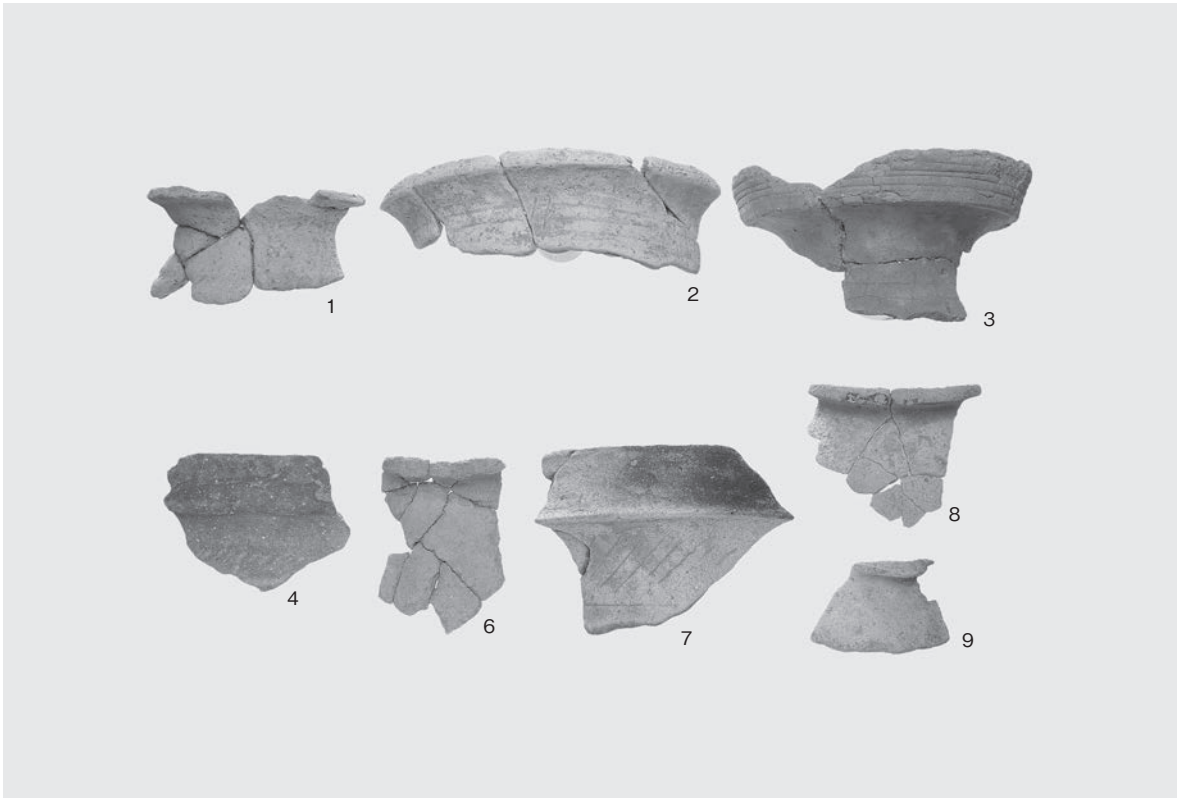
図版172

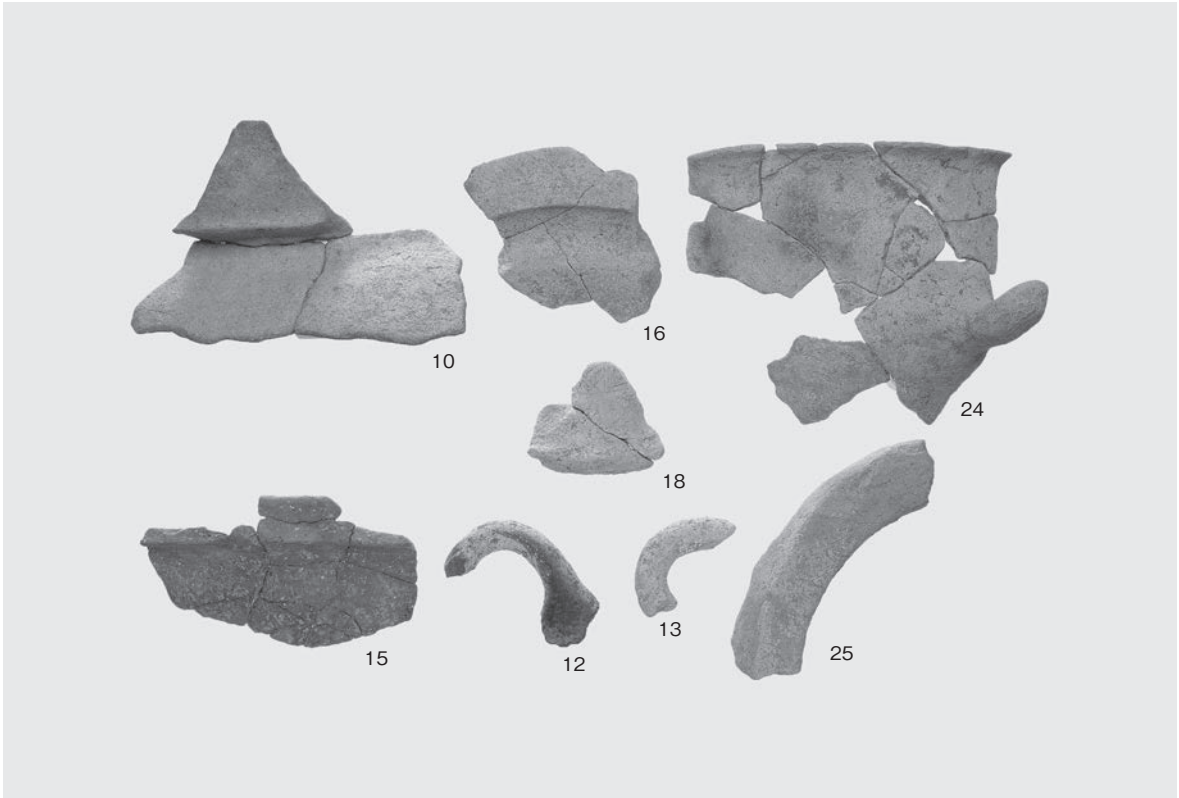






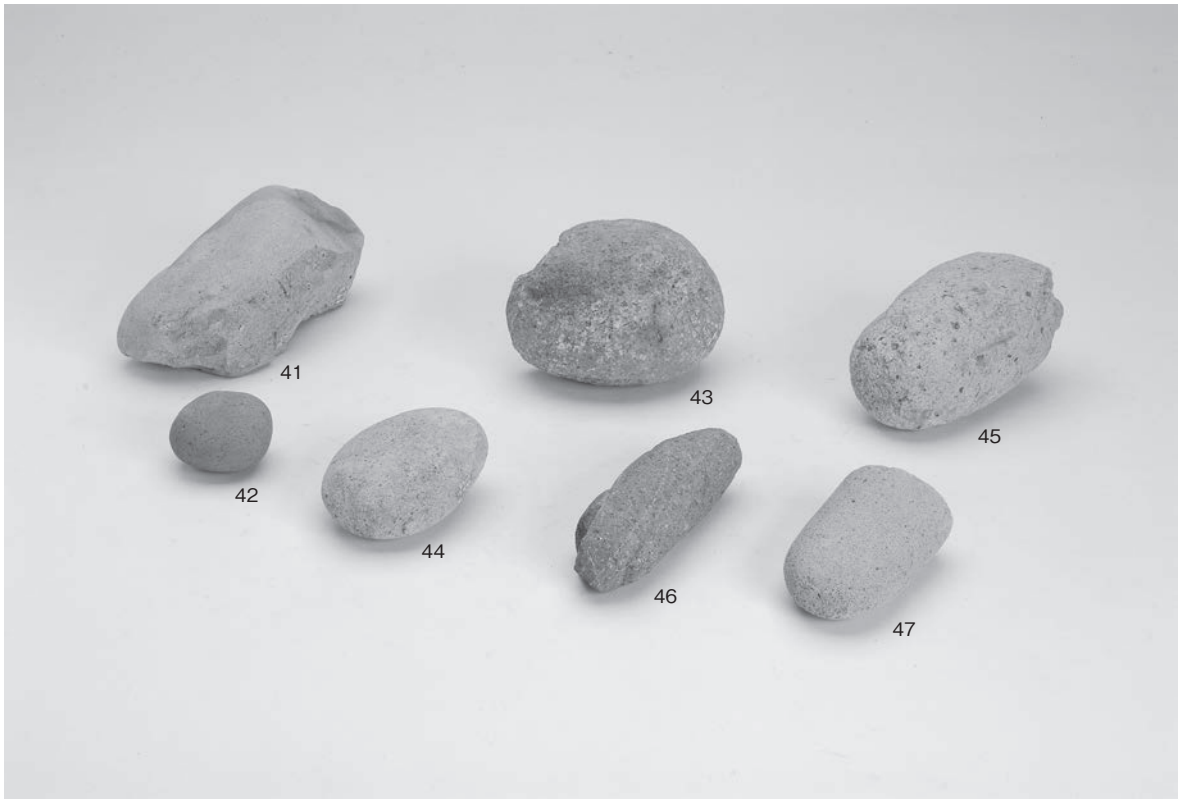
3区遺構外出土遺物（10）

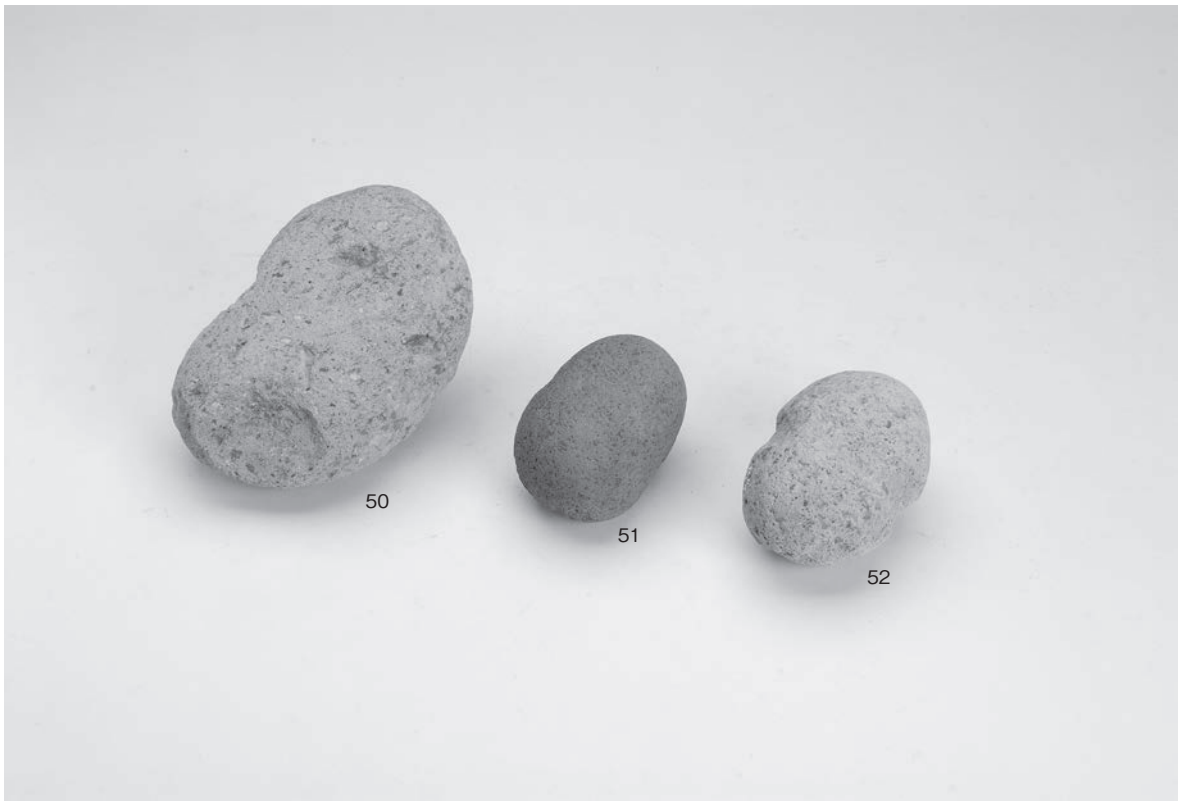




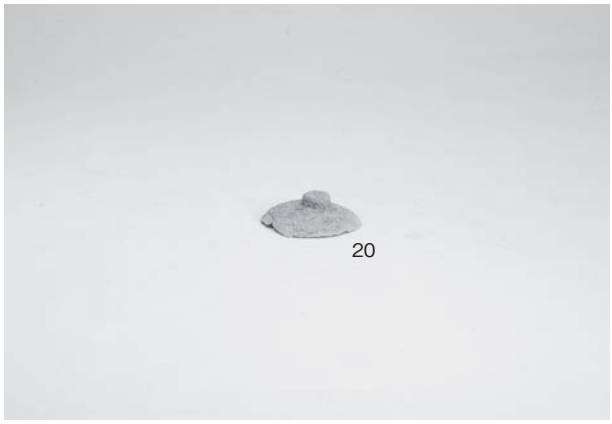
4区遺構外出土遺物（1）

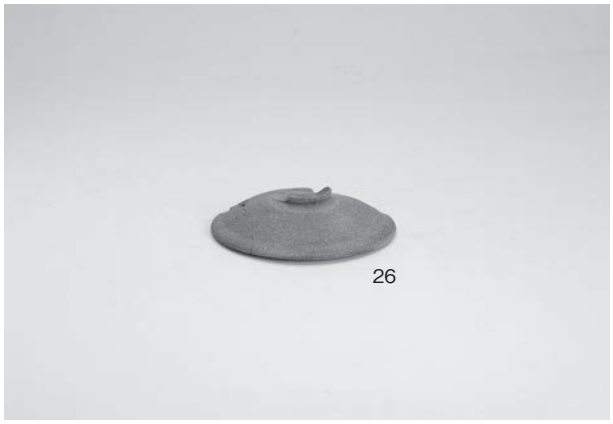
図版174

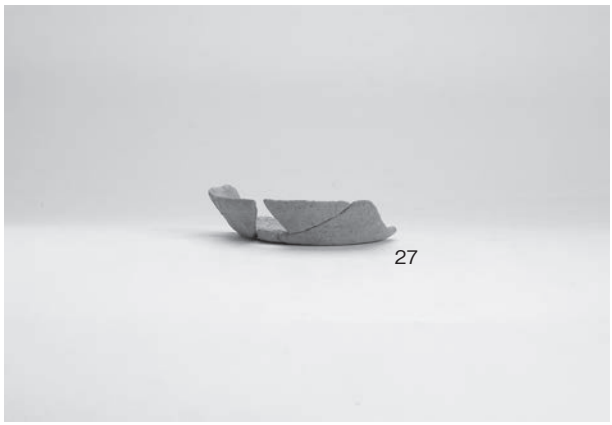


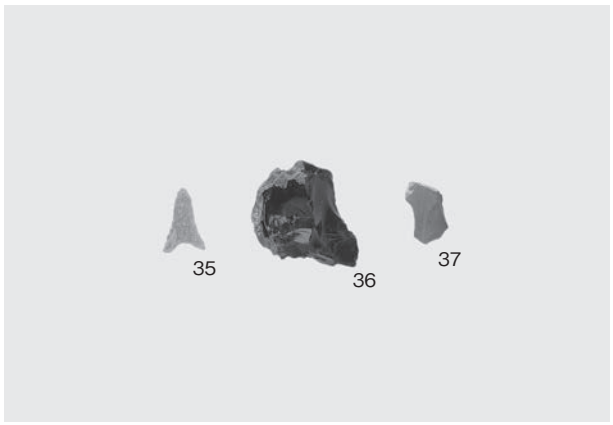


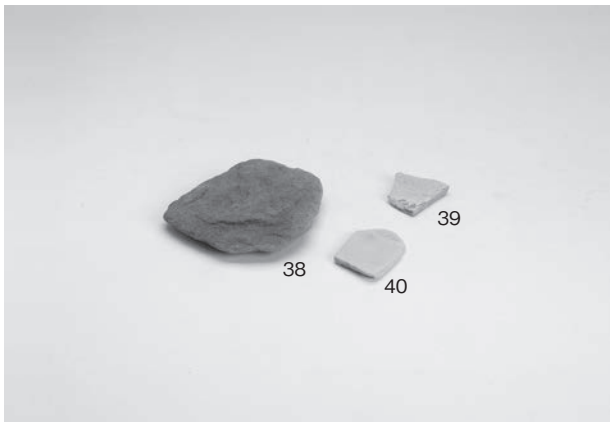
4区遺構外出土遺物（2）

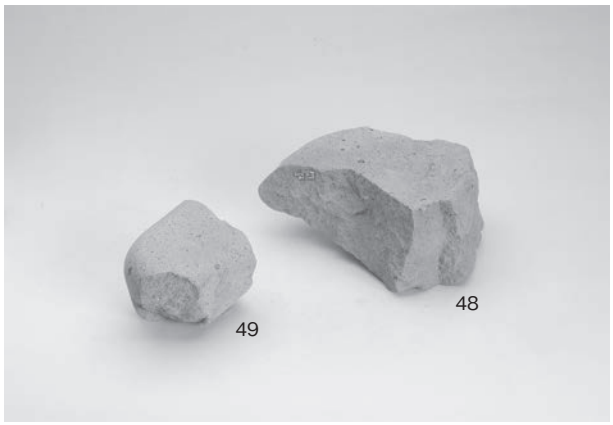






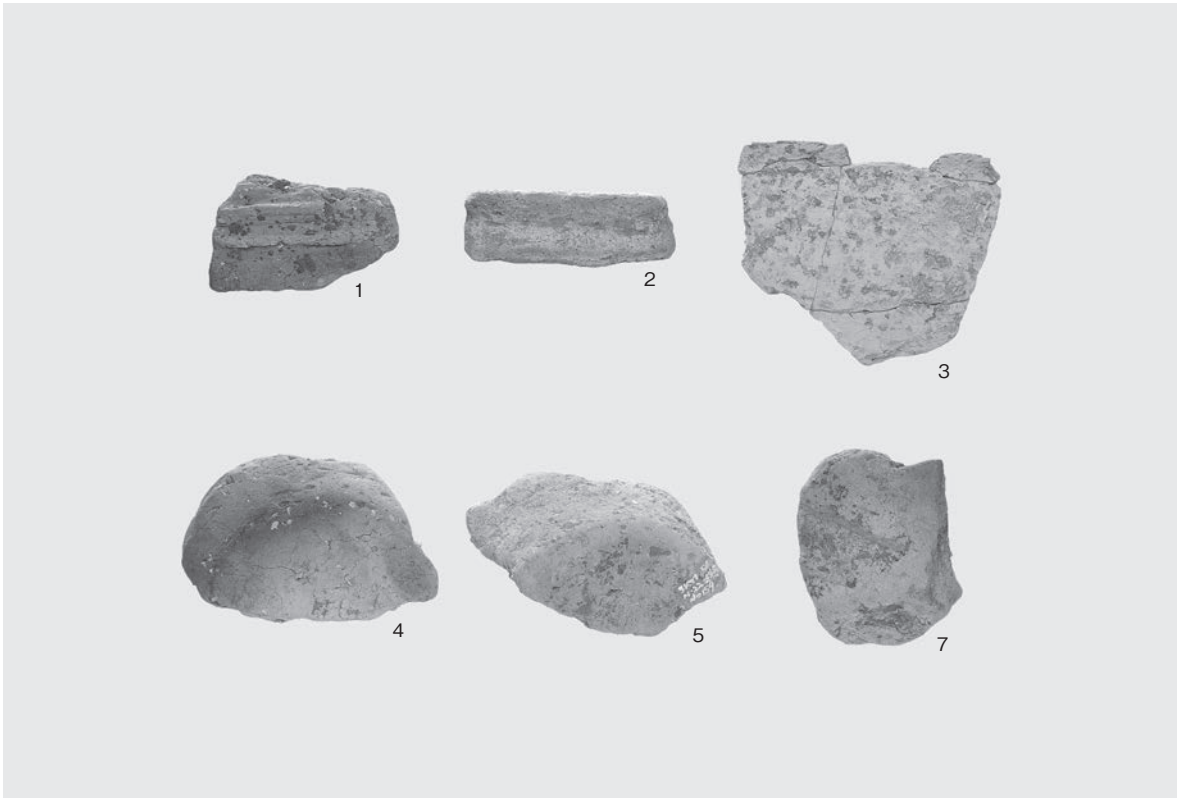


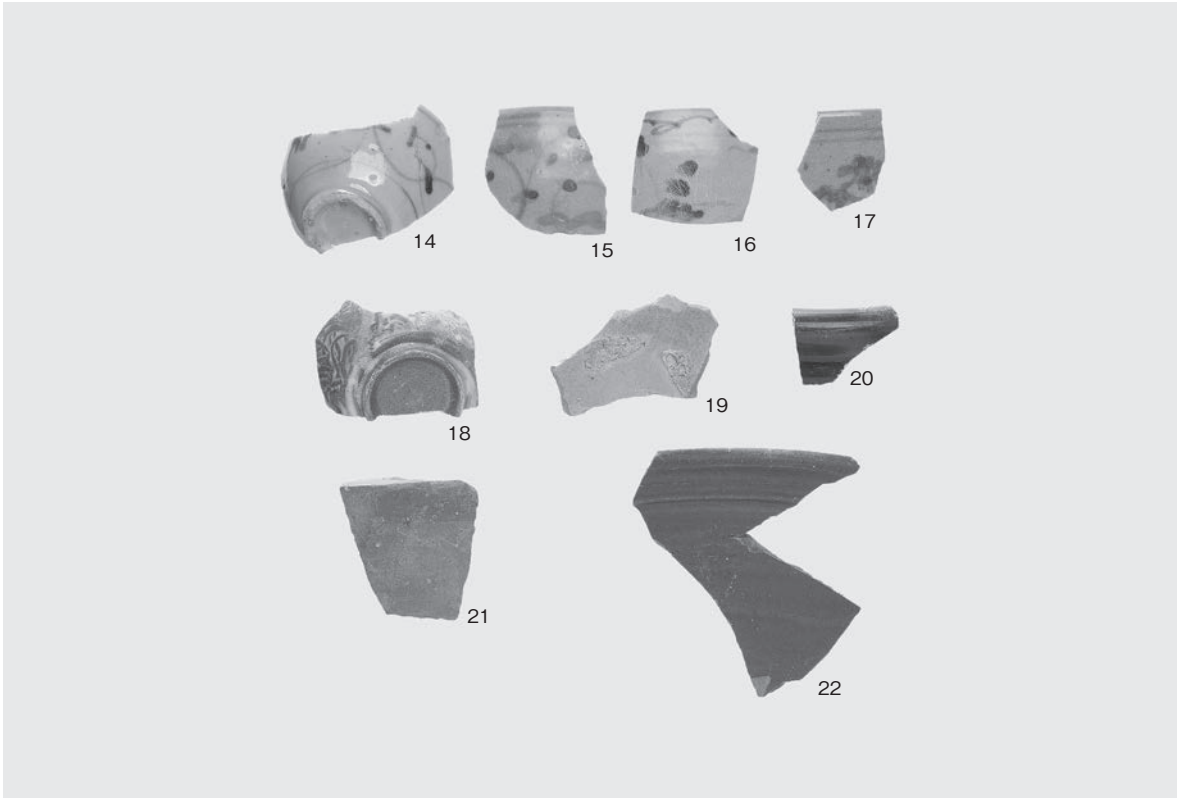




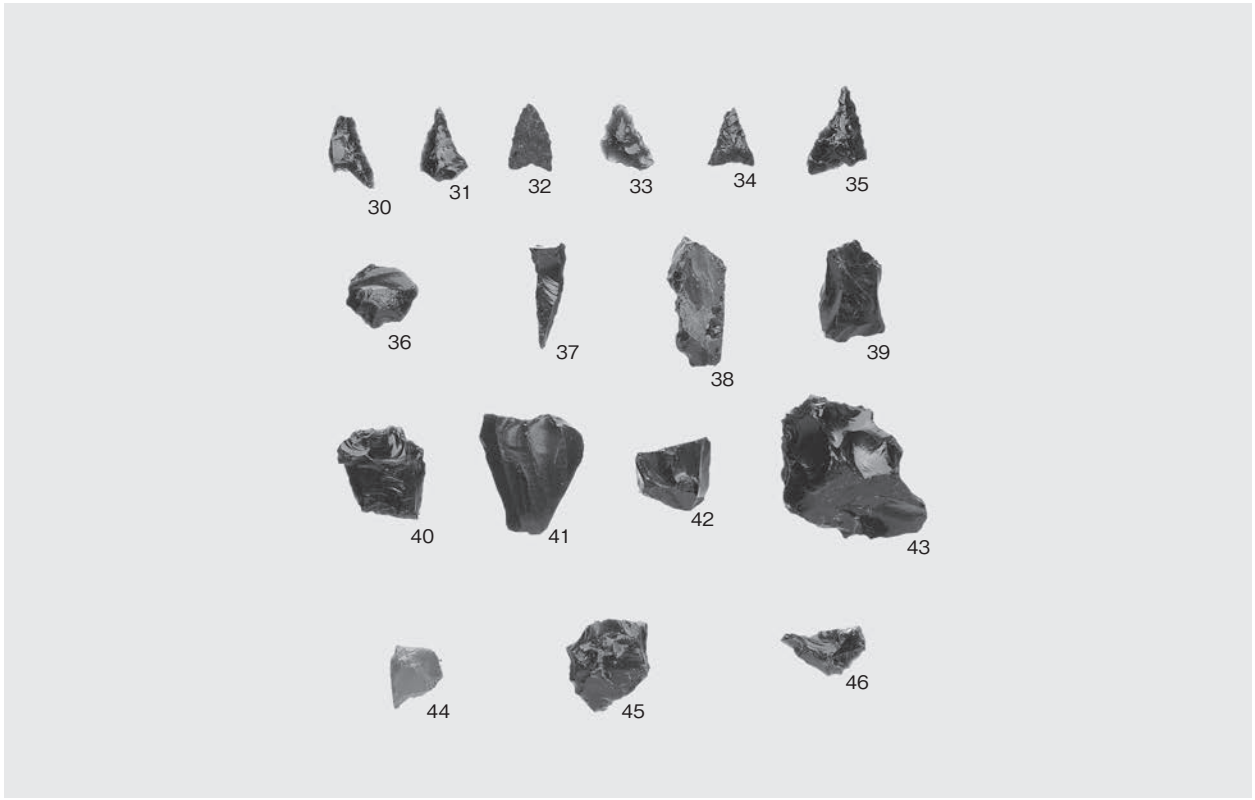
4区遺構外出土遺物（3）

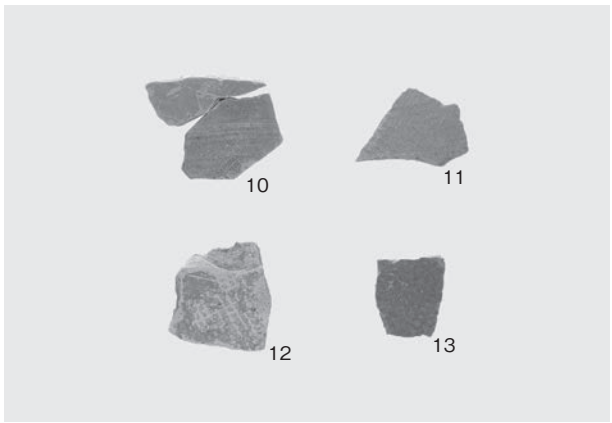
図版176

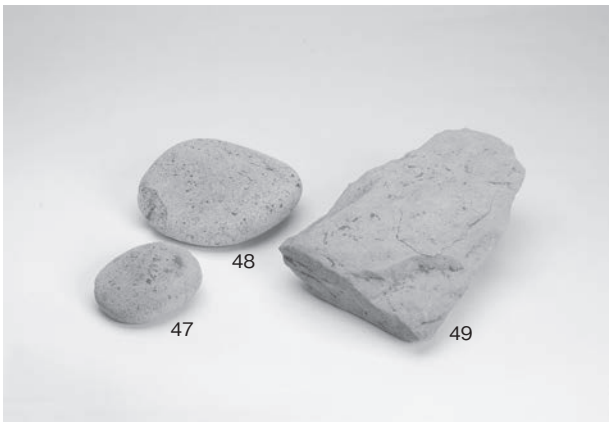


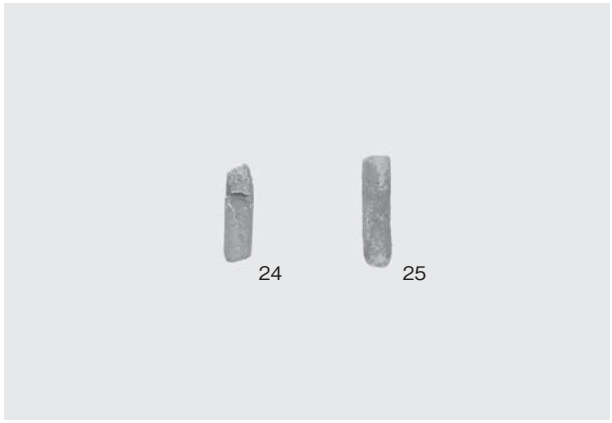


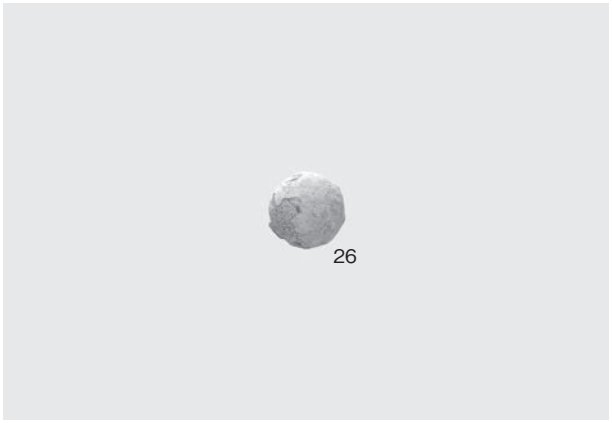
5区遺構外出土遺物（1）


30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46


10
11
12
13

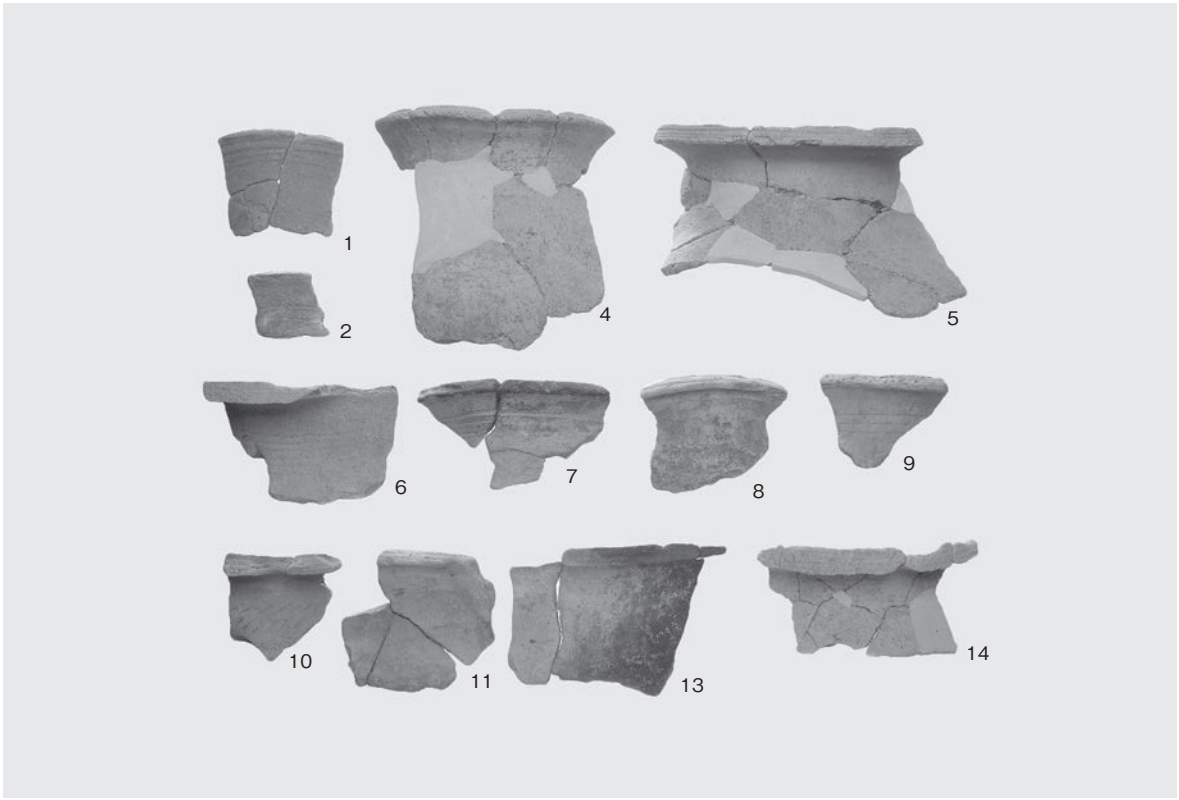

48
47
49

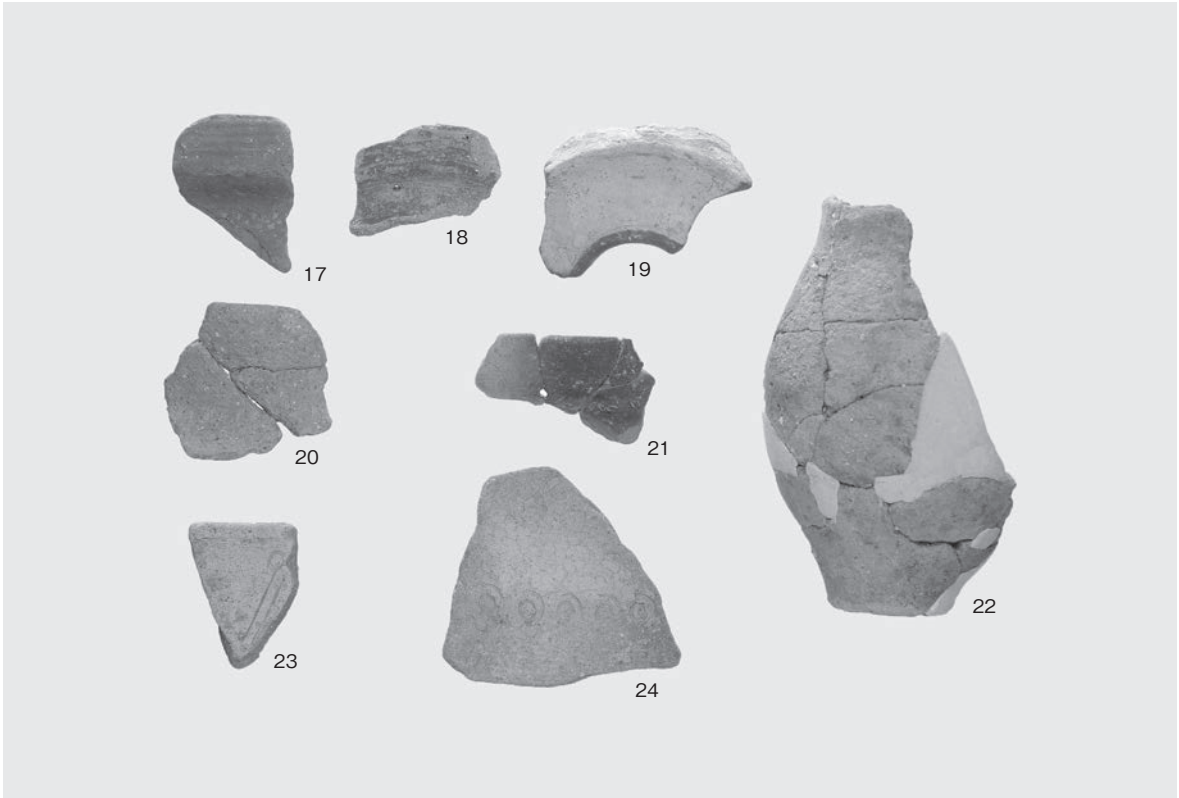

24
25


26

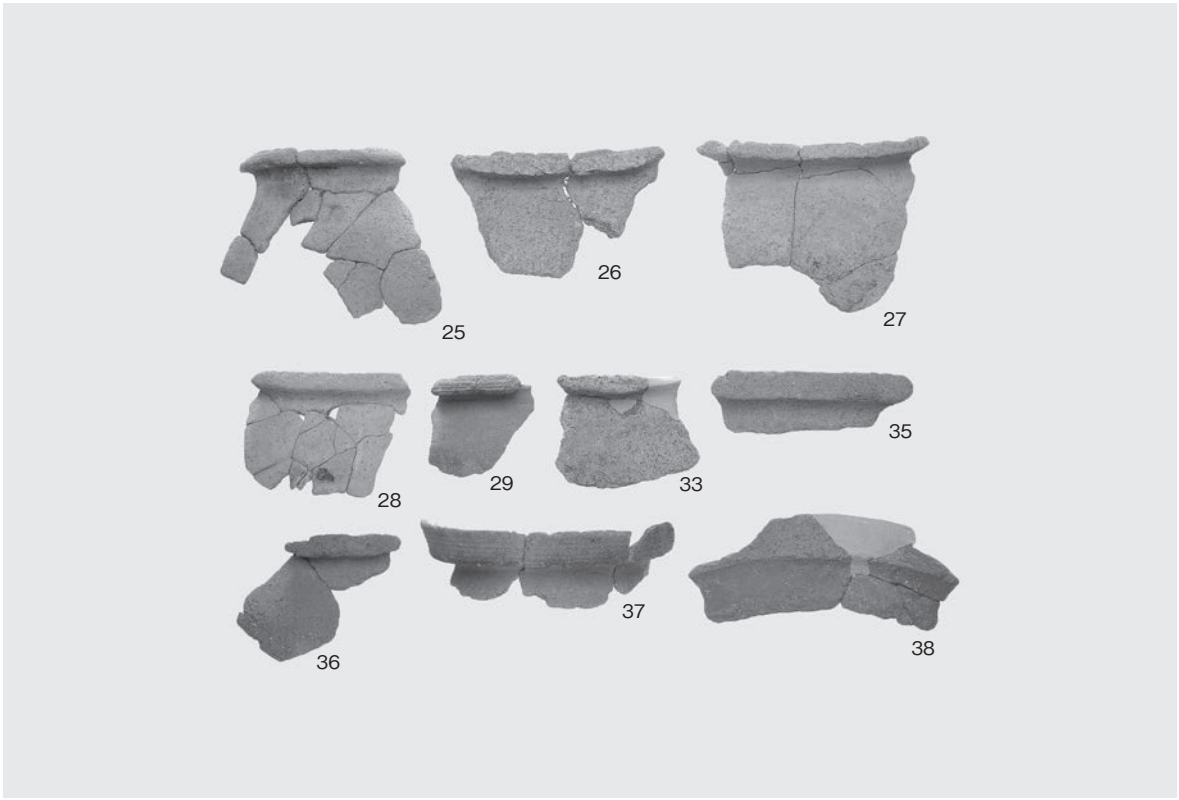
5区遺構外出土遺物（2）

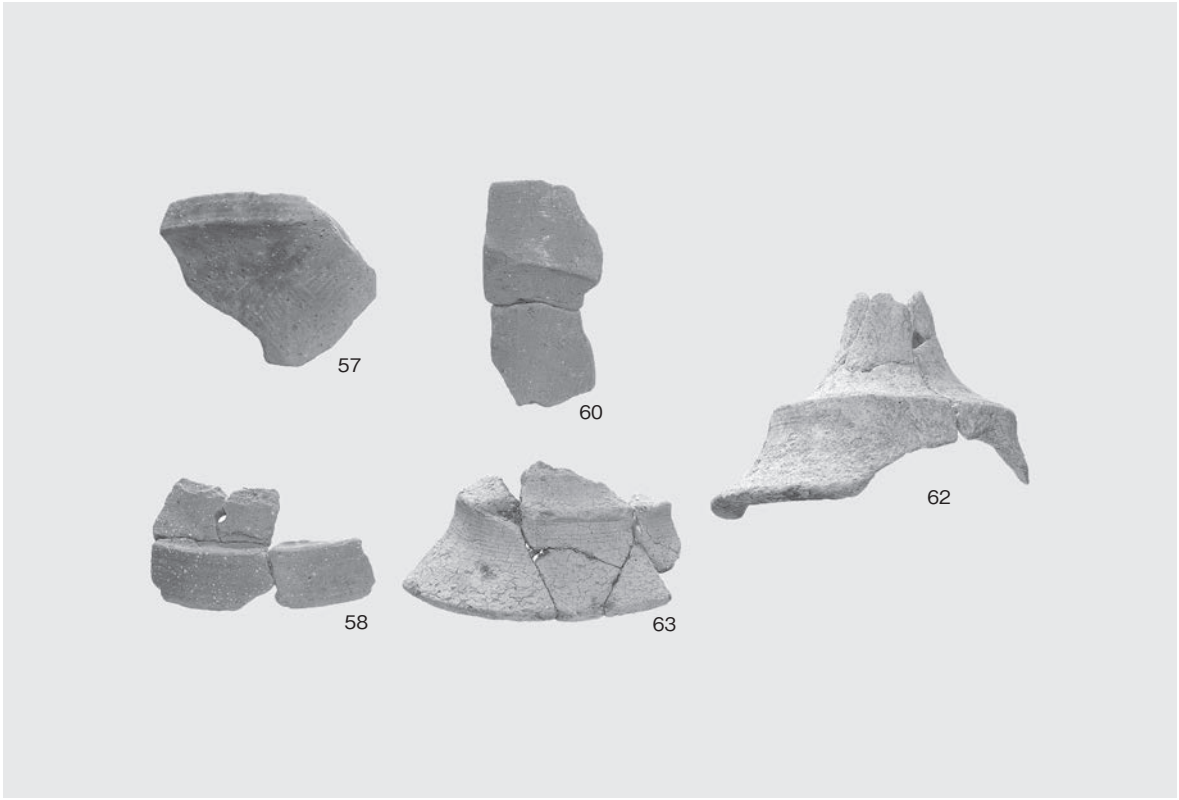
図版178





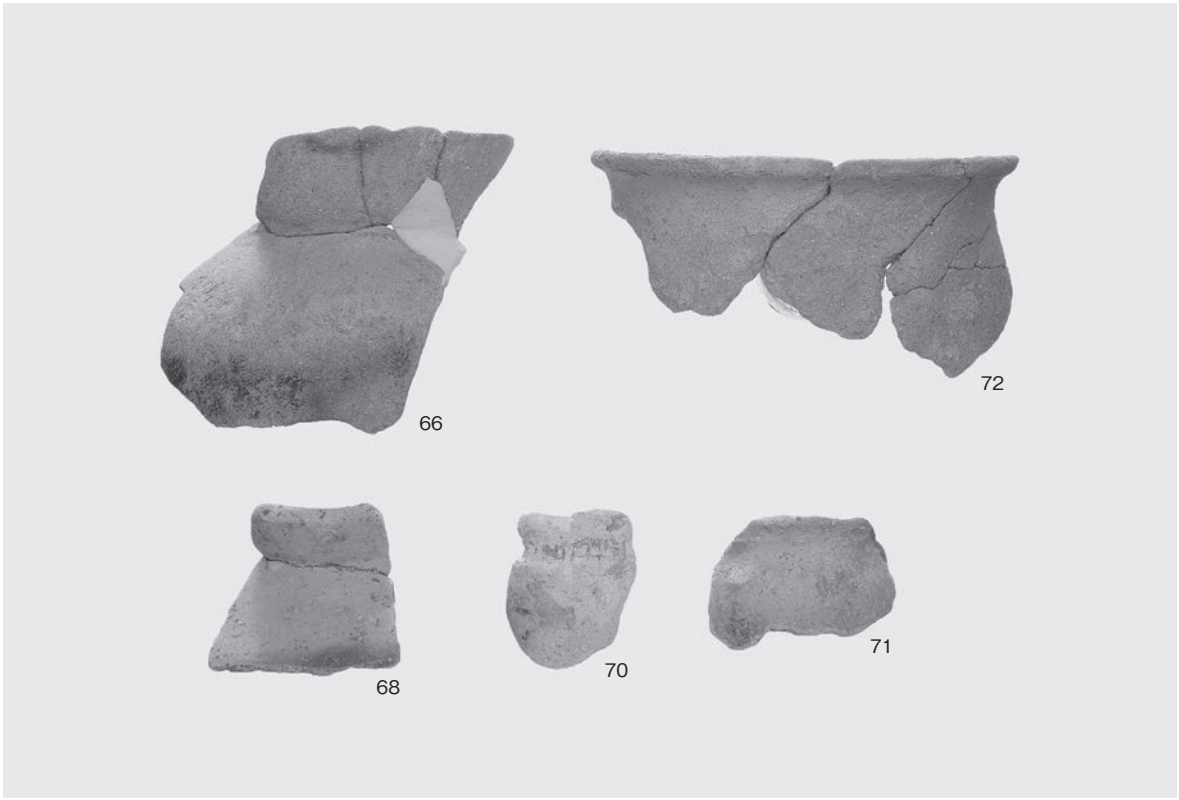
6区遺構外出土遺物（1）



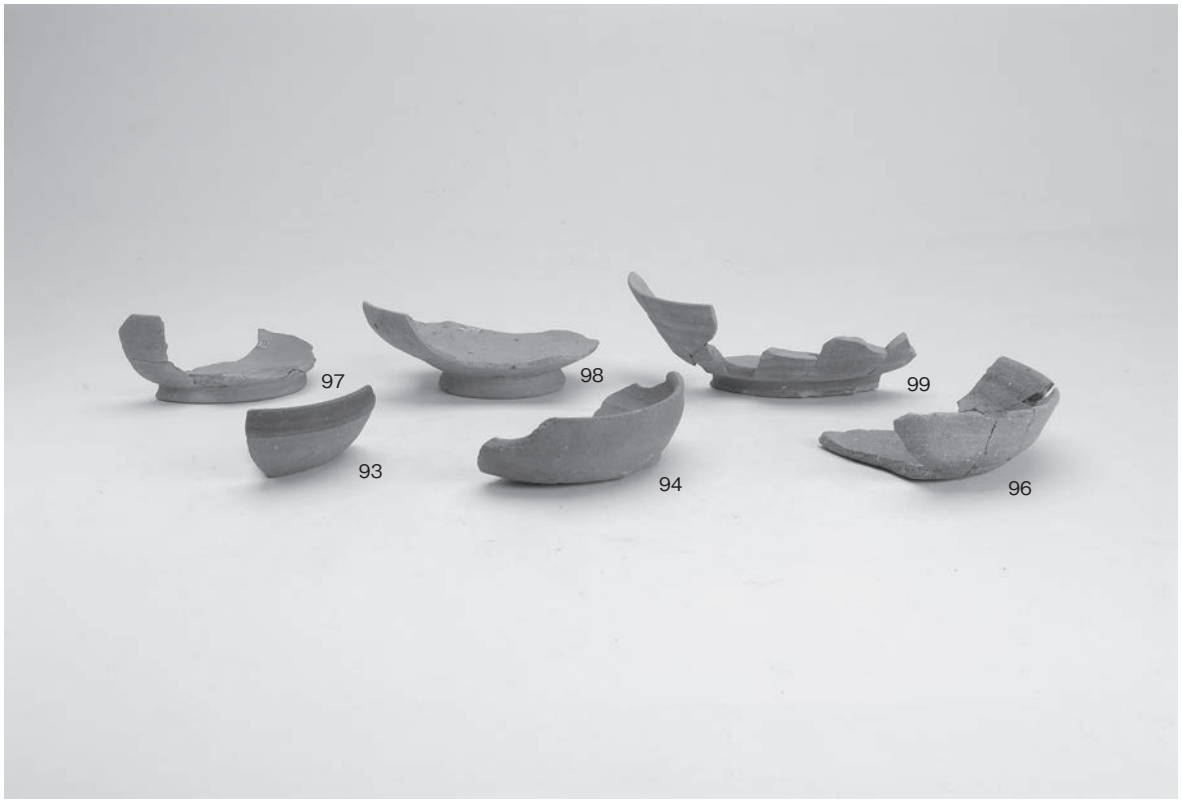


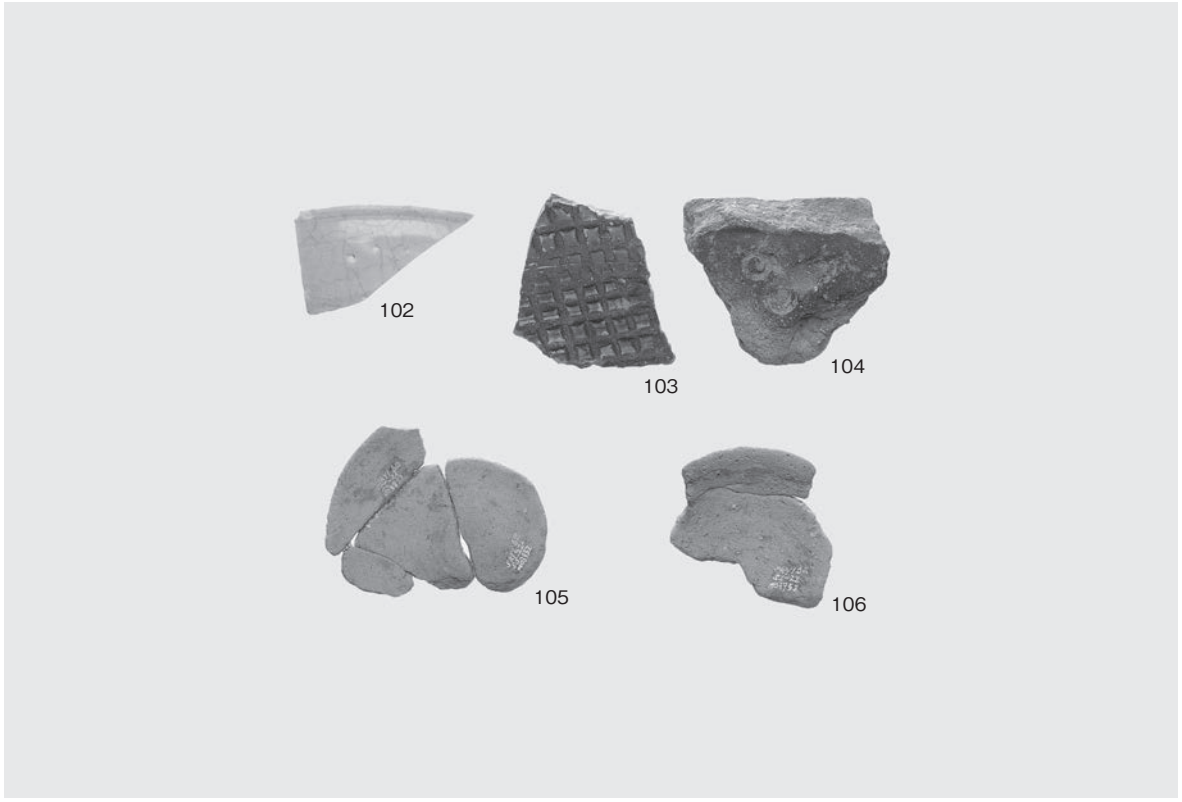
6区遺構外出土遺物（2）

図版180



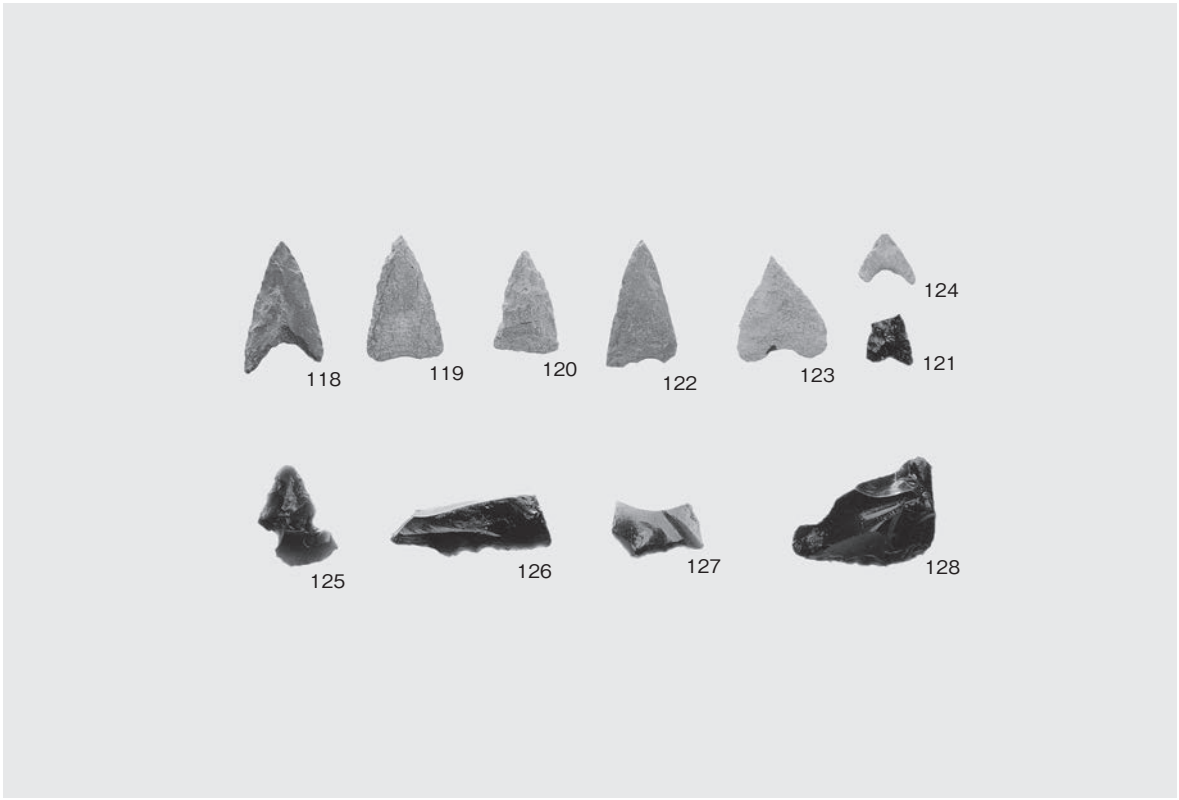
6区遺構外出土遺物（3）

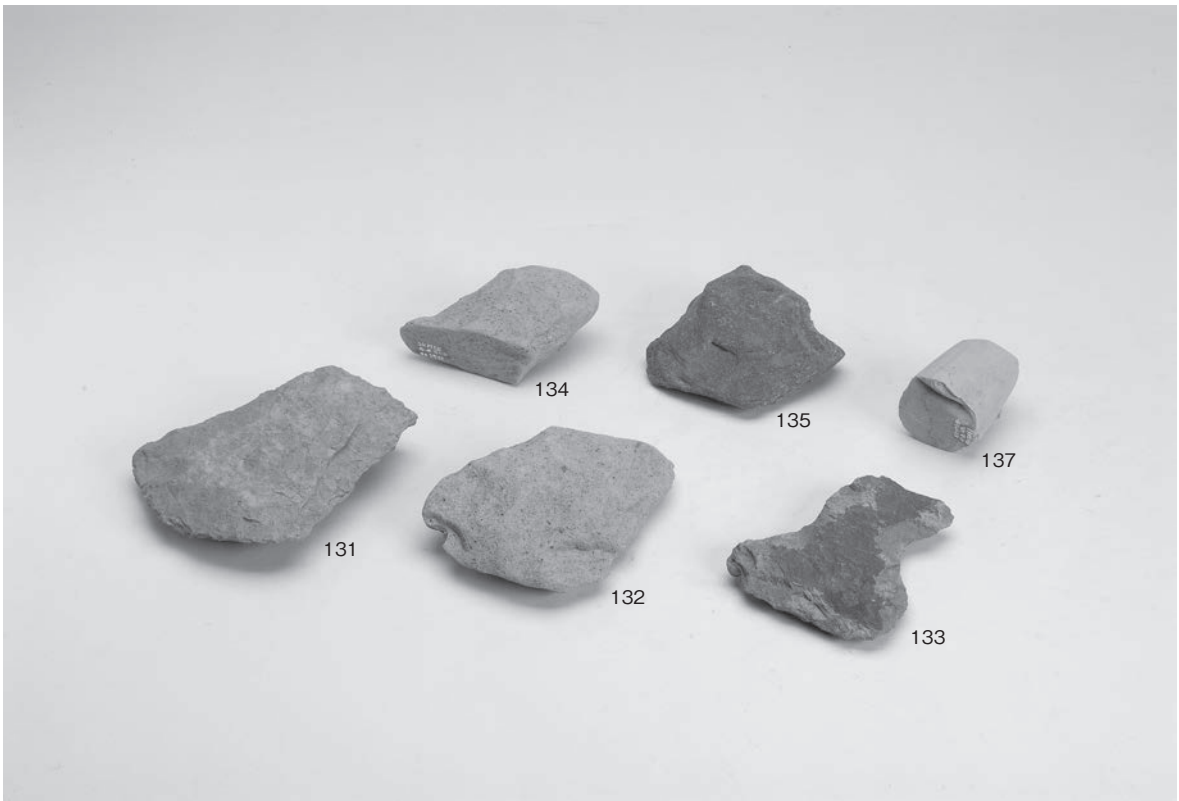




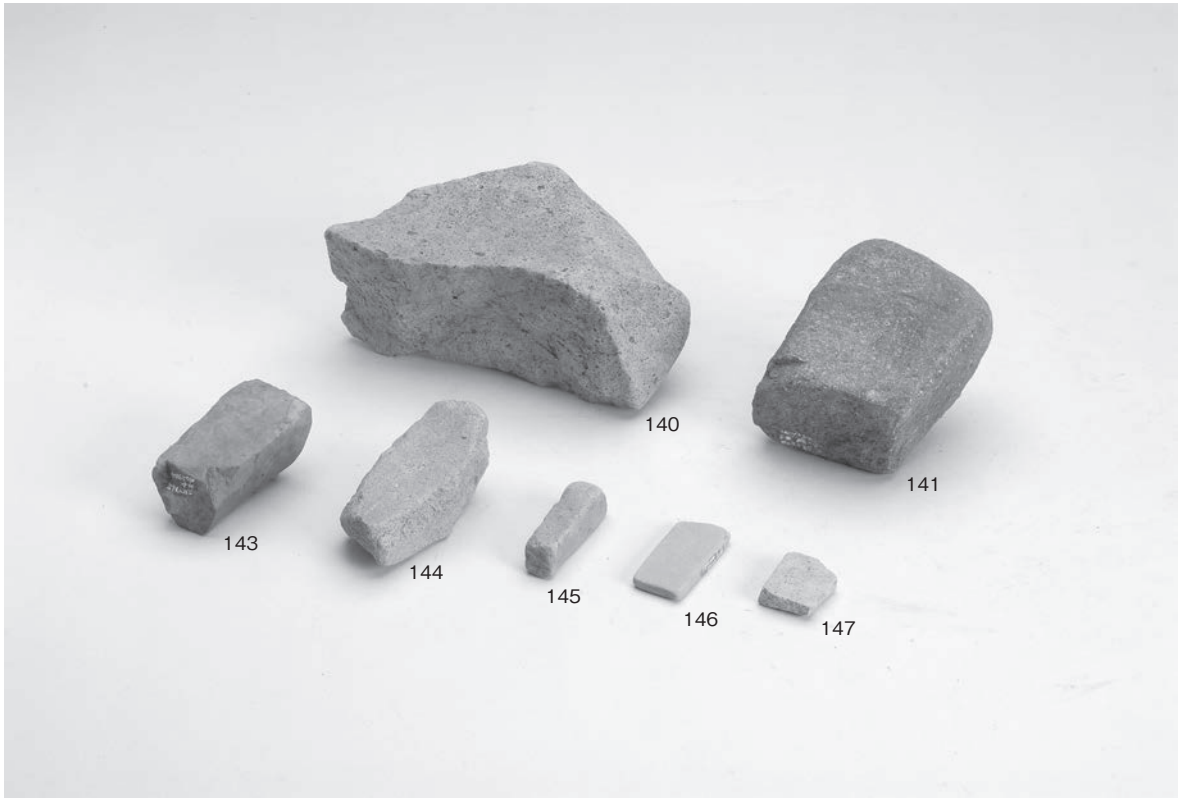
6区遺構外出土遺物（4）

図版182



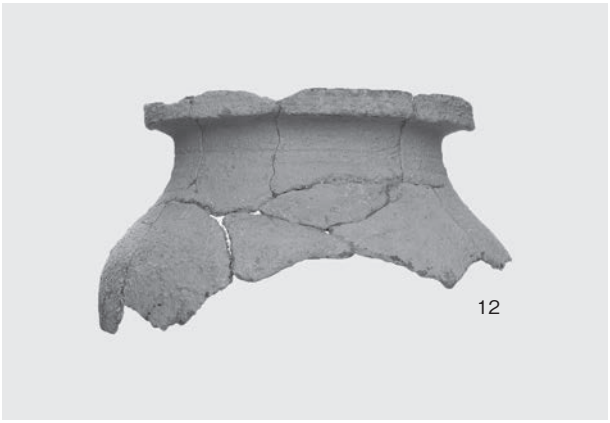


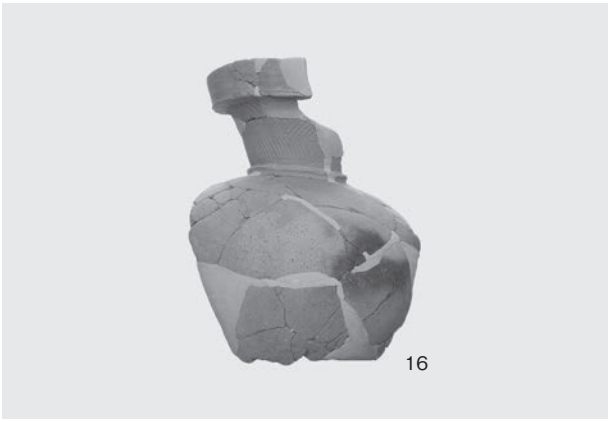
6区遺構外出土遺物（5）



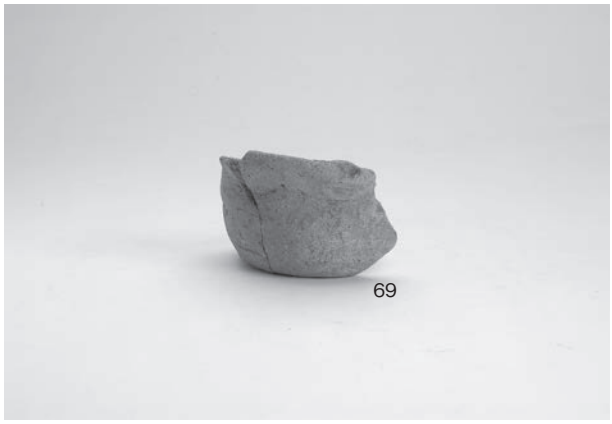
6区遺構外出土遺物（6）

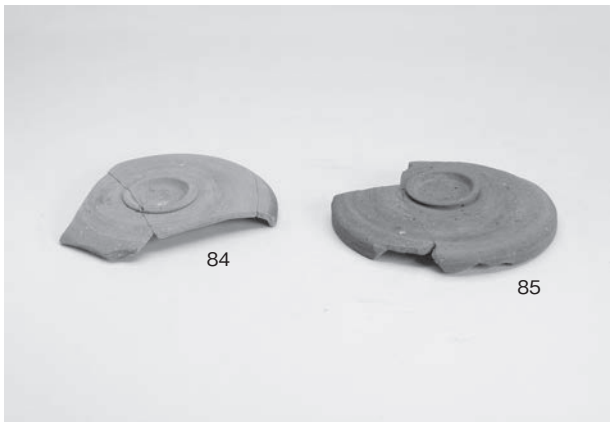
図版184

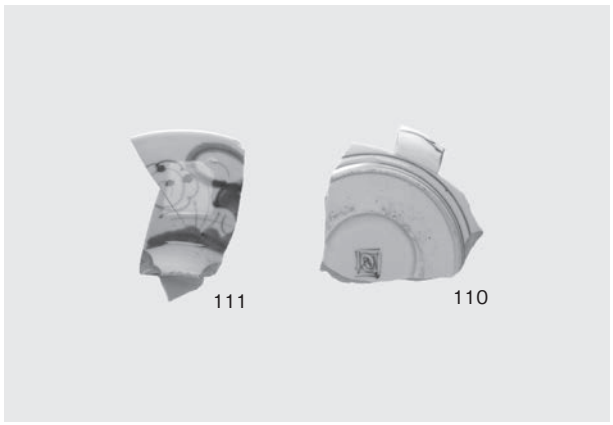




6区遺構外出土遺物（7）

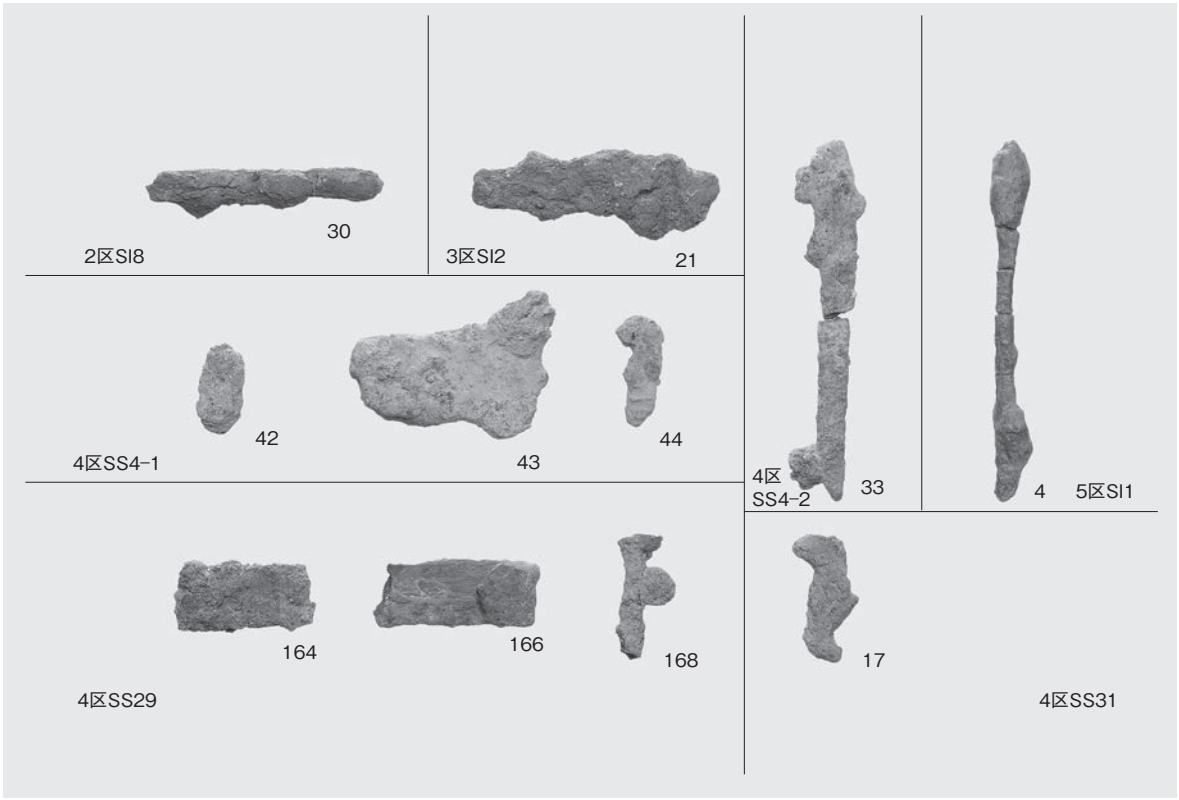




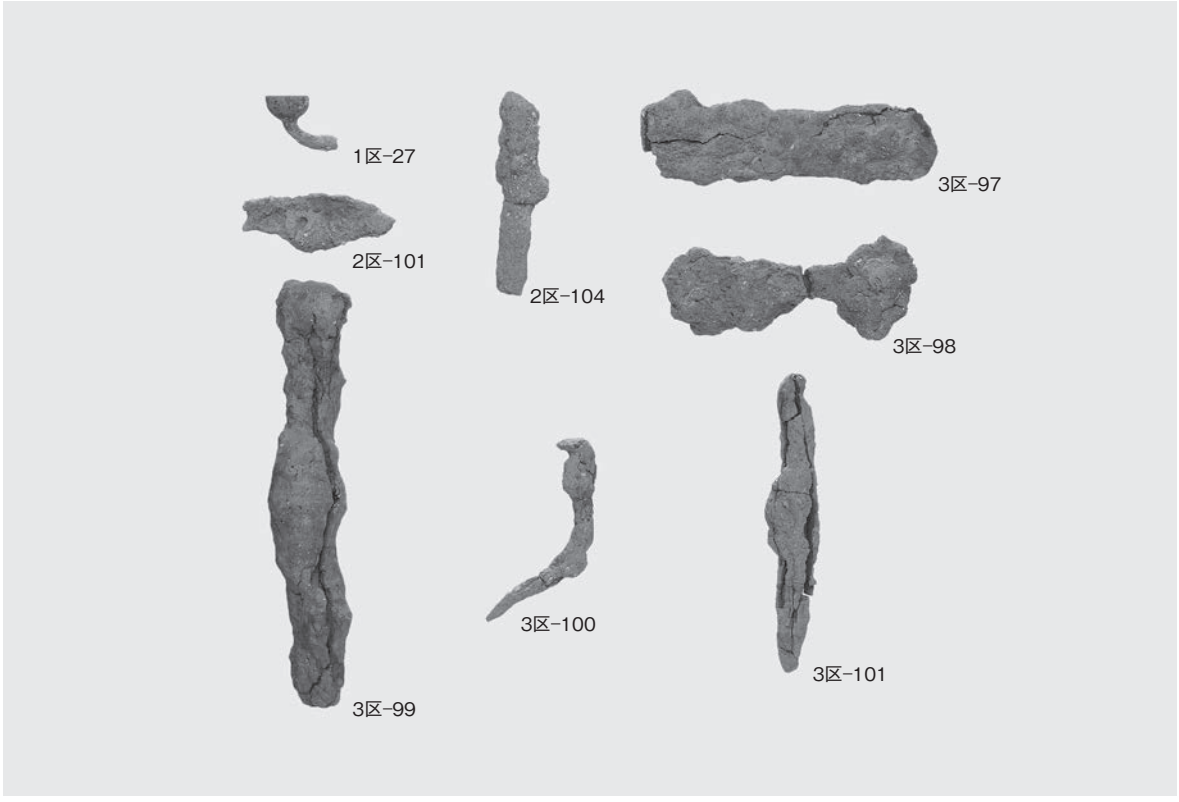


6区遺構外出土遺物（8）

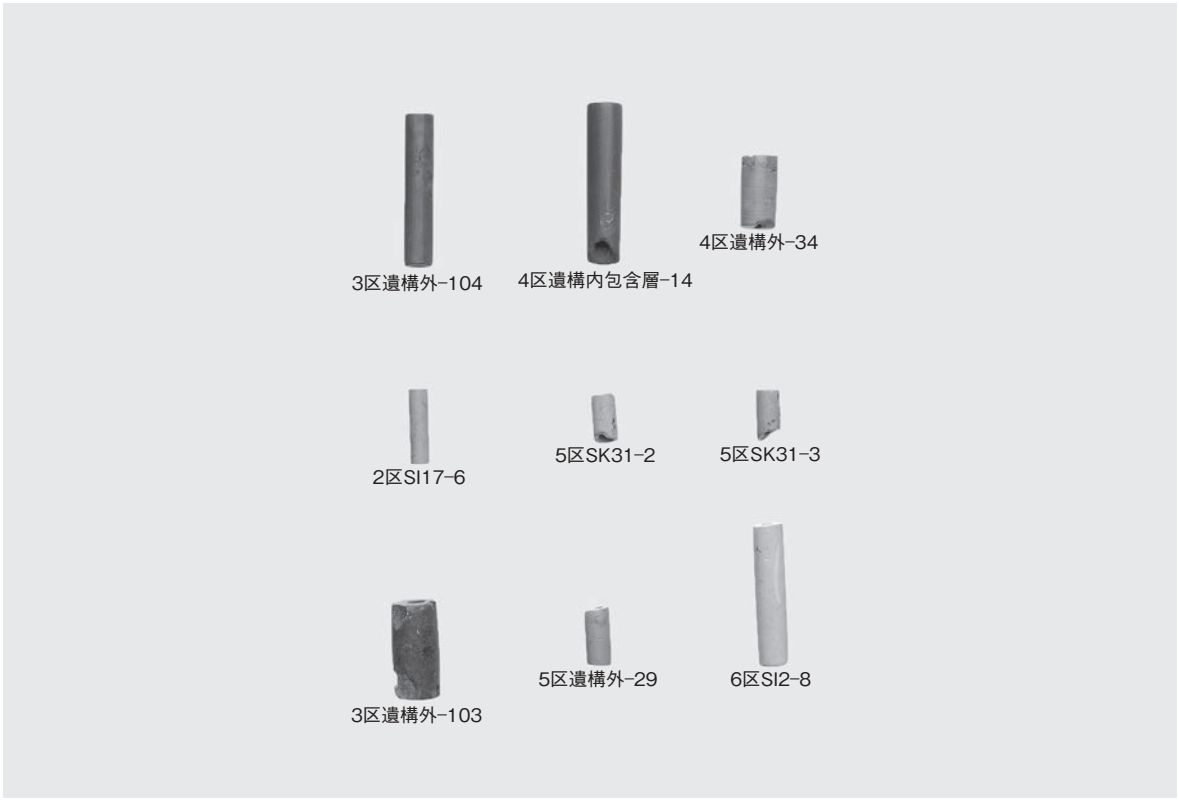
図版186



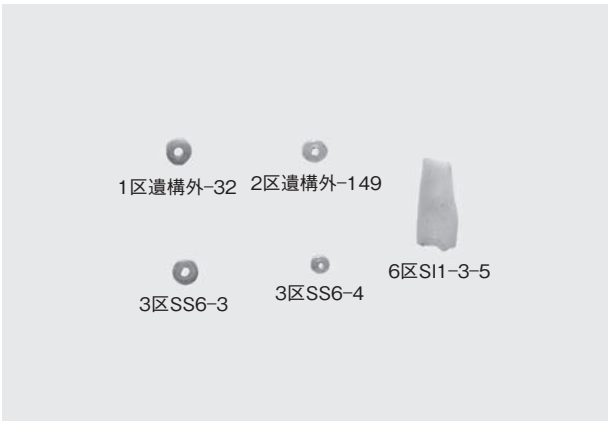
遺構内出土鉄器



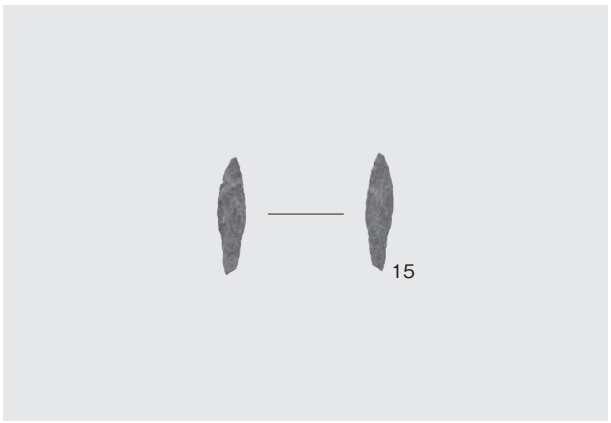
遺構外出土鉄器



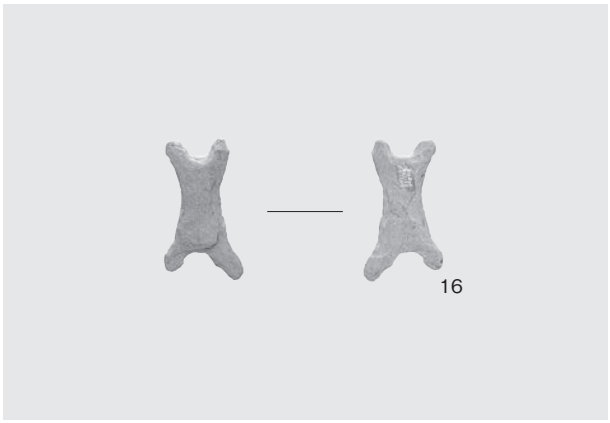
管玉



ガラス玉

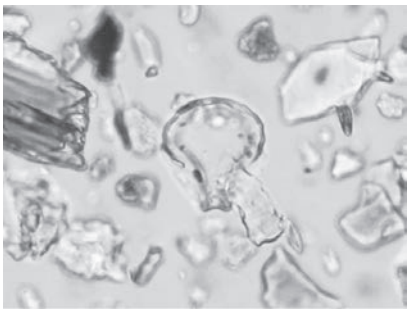


４区遺構内包含層出土遺物（１）

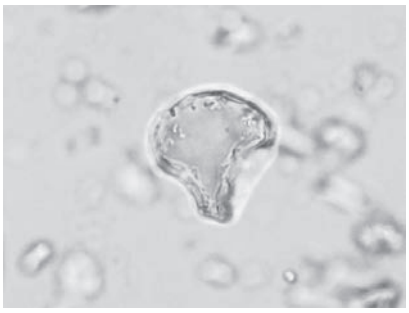


４区遺構内包含層出土遺物（２）

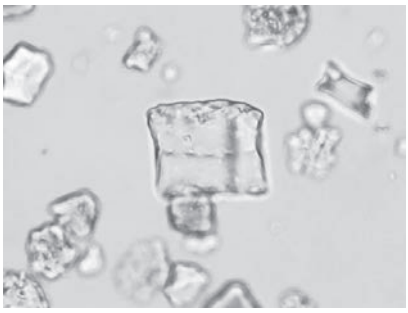
図版188



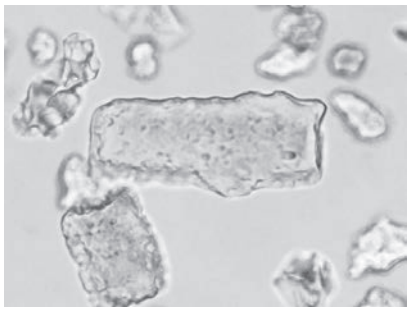
イネ
試料１



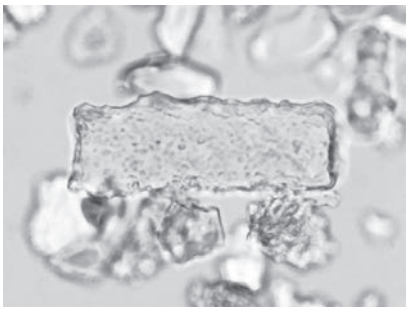
イネ
試料１



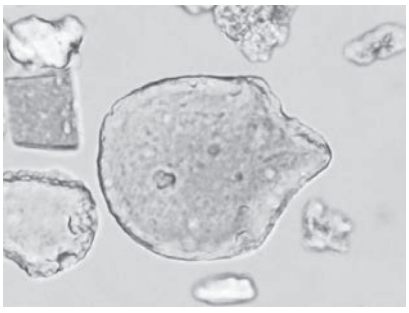
イネ（側面）
試料１



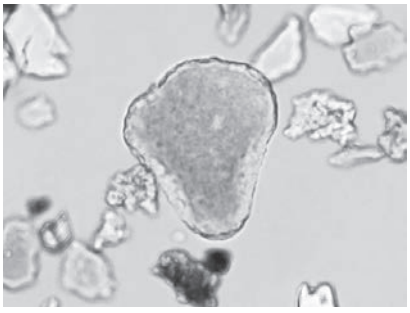
キビ族型
試料４



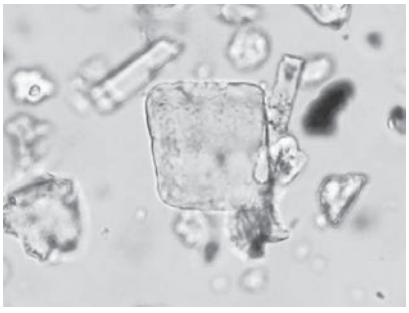
キビ族型
試料４



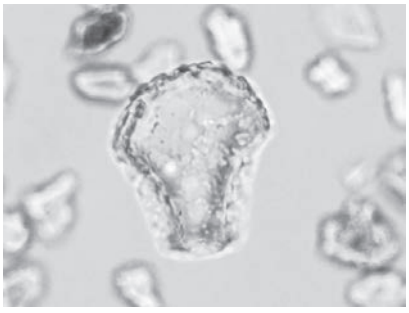
ヨシ属
試料４



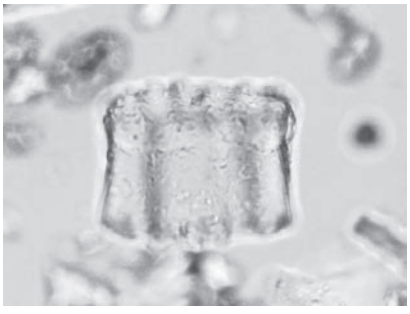
ススキ属型
試料４



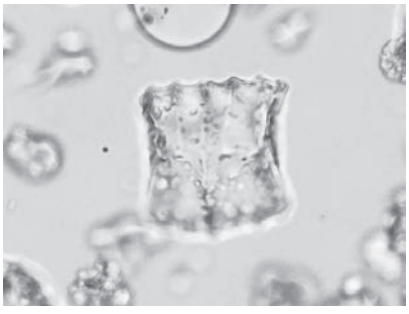
ウシクサ族Ａ
試料１



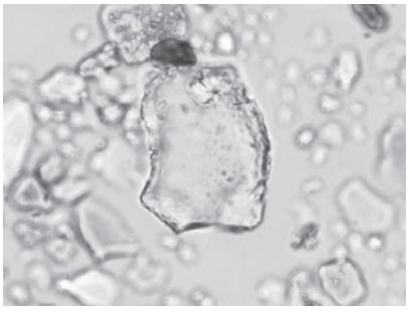
メダケ節型
試料４



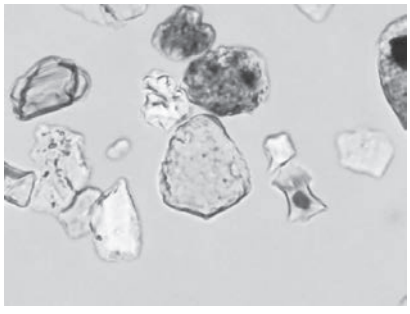
ネザサ節型
試料２



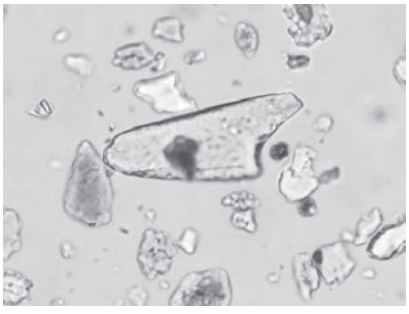
ネザサ節型
試料３



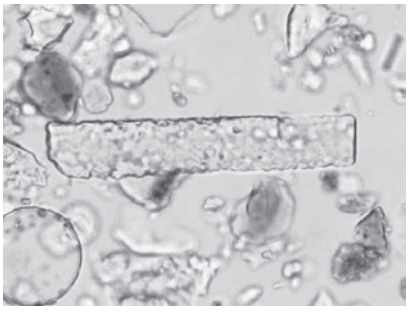
チマキザサ節型
試料１



ミヤコザサ節型
試料４



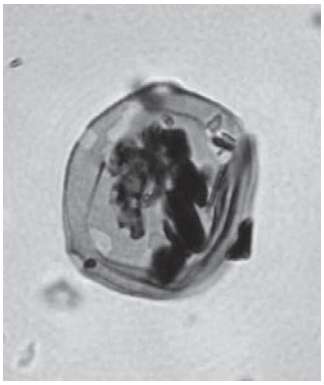
表皮毛起源
試料１

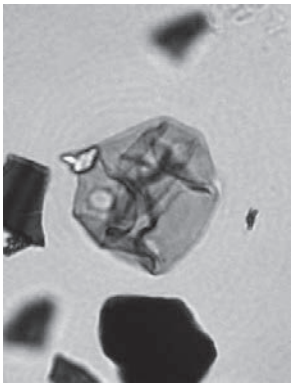


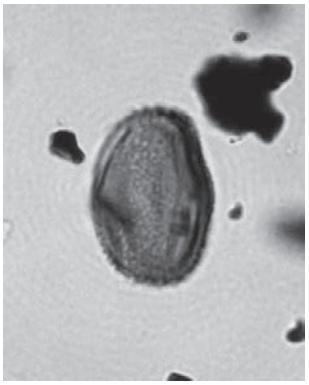
棒状珪酸体
試料１

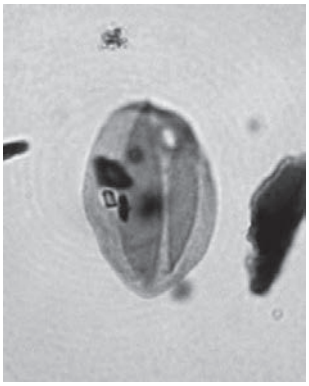
50 μ m

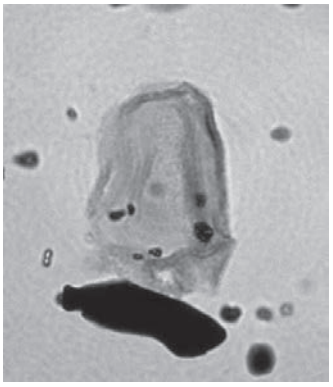
境矢石遺跡のプラント・オパール顕微鏡写真

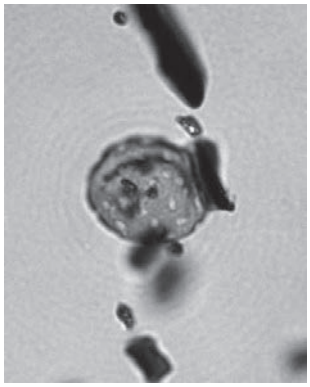

1　クマシデ属ーアサダ

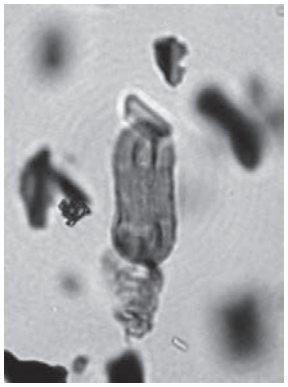

2　エノキ属ームクノキ

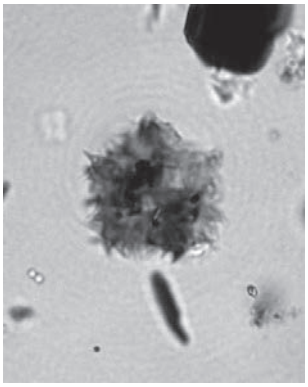

3　ウコギ科

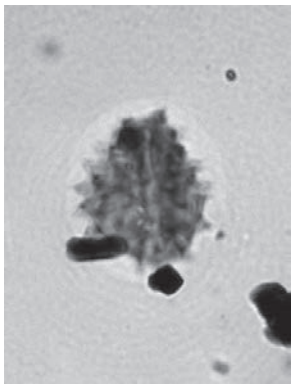

4　イネ科

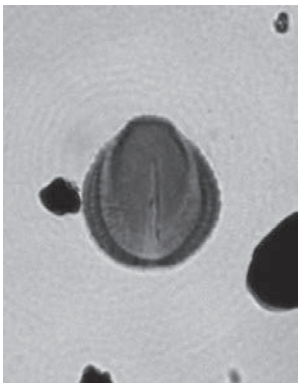

5　イネ科

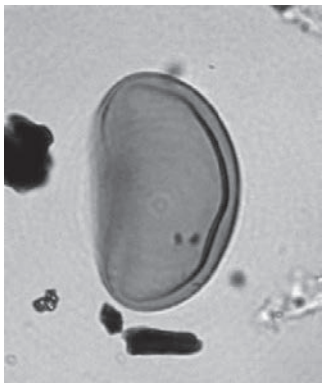

6　アカザ科ーヒユ科

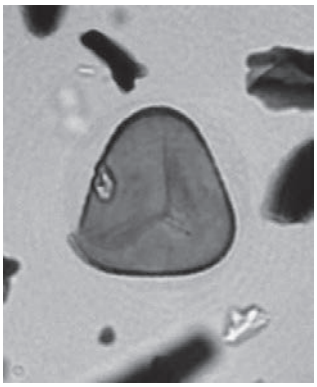

7　セリ亜科


8　タンポポ亜科


9　キク亜科


10　ヨモギ属

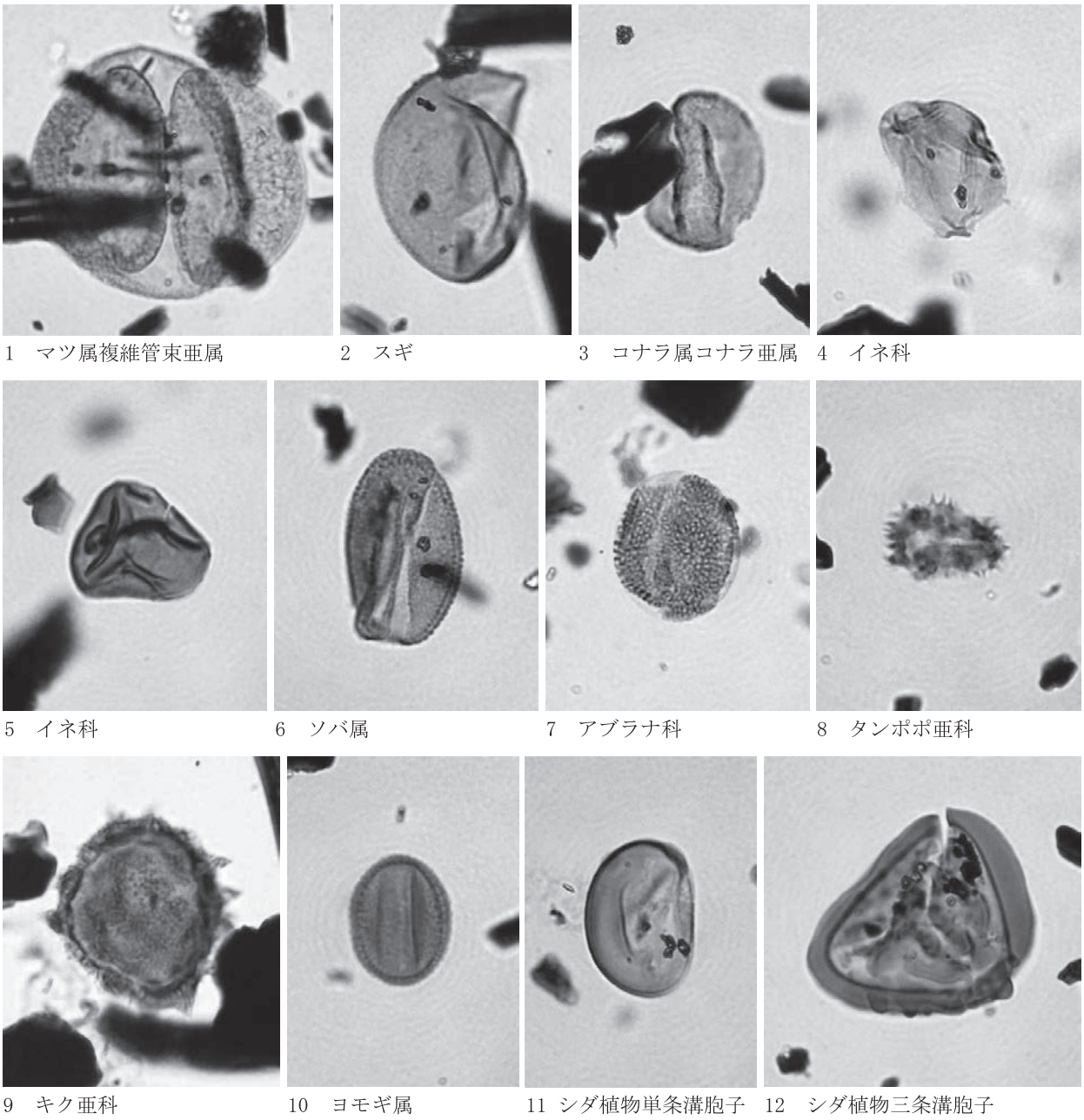

11　シダ植物単条溝胞子


12　シダ植物三条溝胞子

10 μm

境矢石遺跡の花粉・胞子顕微鏡写真

図版190



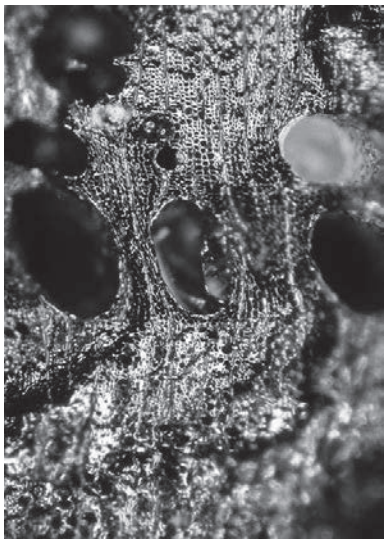
1　マツ属複維管束亜属　2　スギ　3　コナラ属コナラ亜属　4　イネ科

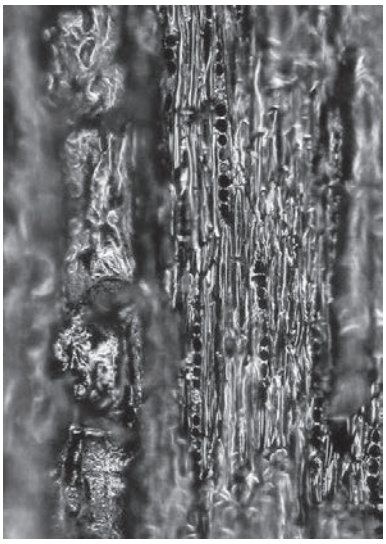
5　イネ科　6　ソバ属　7　アブラナ科　8　タンポポ亜科

9　キク亜科　10　ヨモギ属　11　シダ植物単条溝胞子　12　シダ植物三条溝胞子

10 μm

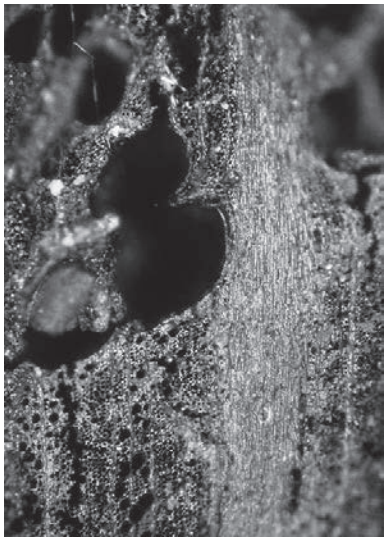
境矢石遺跡３区SD11の花粉・胞子顕微鏡写真

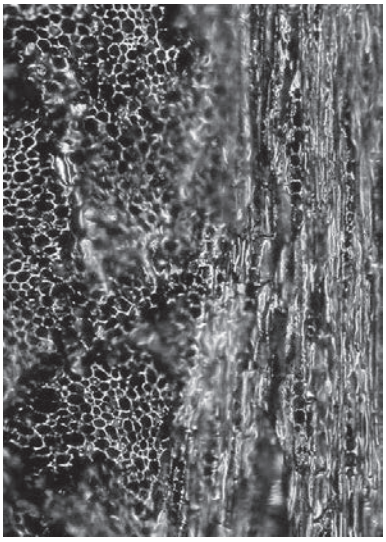




横断面 ：0.4㎜　放射断面 ：0.2㎜　接線断面 ：0.2㎜

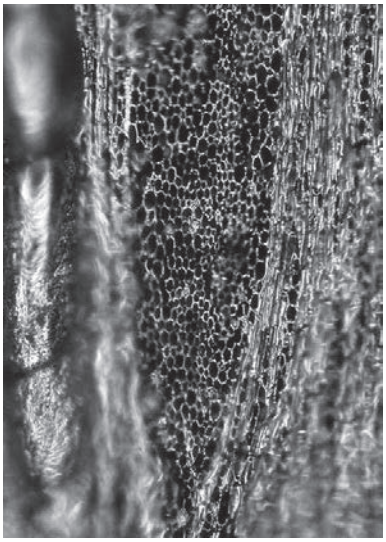
１．１　２区　P314　クリ





横断面 ：0.4㎜　放射断面 ：0.2㎜　接線断面 ：0.2㎜

２．２　３区　P114　コナラ属コナラ節

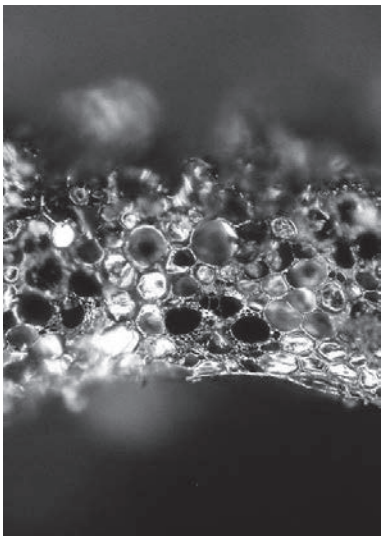


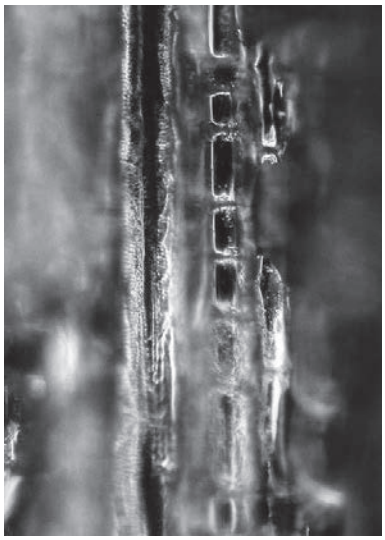
横断面 ：0.4㎜　放射断面 ：0.2㎜　接線断面 ：0.2㎜

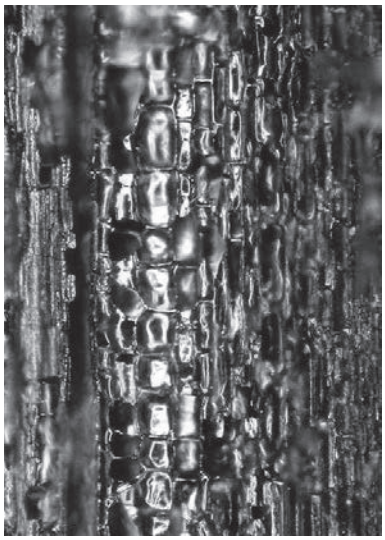
３．４　３区　ＳＩ５　コナラ属クヌギ節

境矢石遺跡２・３区の炭化材顕微鏡写真（１）

図版192



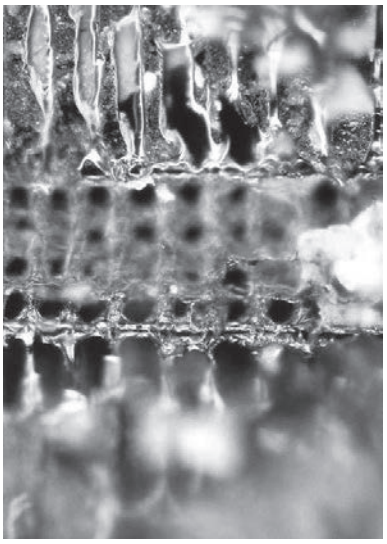
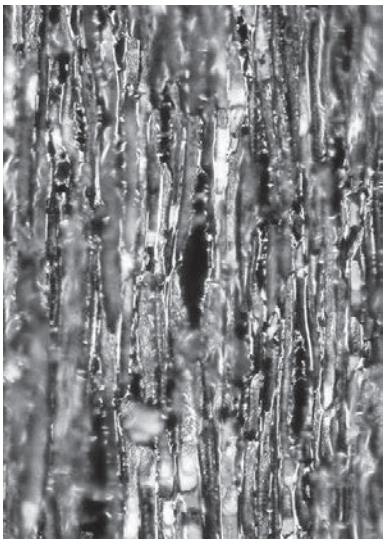




横断面 ━━━━━━━━ ： 0.2mm　放射断面━━━━━━━━ ： 0.1mm　接線断面━━━━━━━━ ： 0.1mm

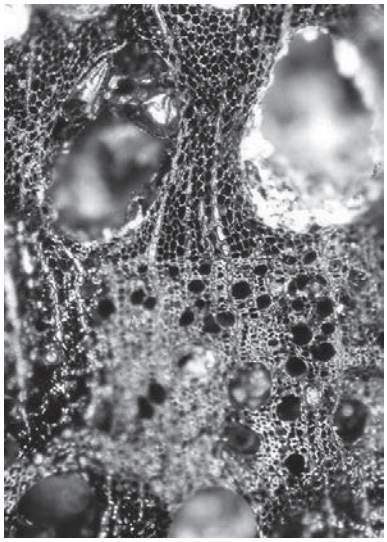
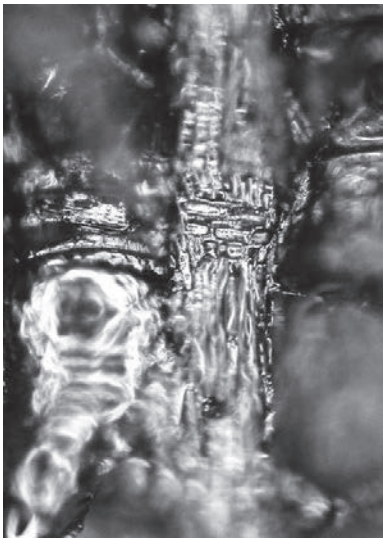
４．３　３区　SS3炉　草本

境矢石遺跡２・３区の炭化材顕微鏡写真（２）

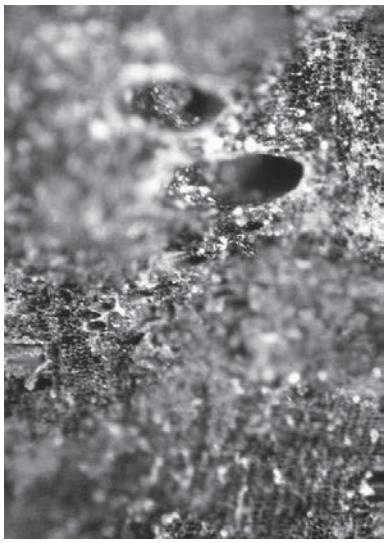
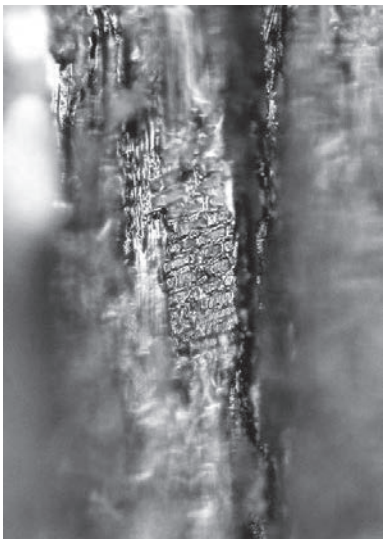
横断面 ——— ： 0.2mm　放射断面 ——— ： 0.1mm　接線断面 ——— ： 0.2mm

１．No.３　４区 SK4　1403　マツ属複維管束亜属

横断面 ——— ： 0.4mm　放射断面 ——— ： 0.2mm　接線断面 ——— ： 0.2mm

２．No.13　６区 SS11　2600　クリ

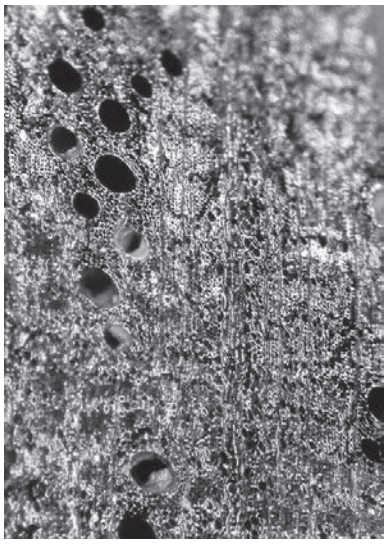



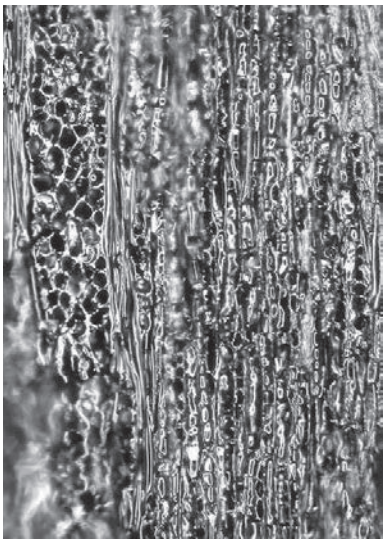
横断面 ——— ： 0.4mm　放射断面 ——— ： 0.2mm　接線断面 ——— ： 0.2mm

３．No.９　６区 SI7　520　シイ属

境矢石遺跡４・６区の炭化材顕微鏡写真（１）

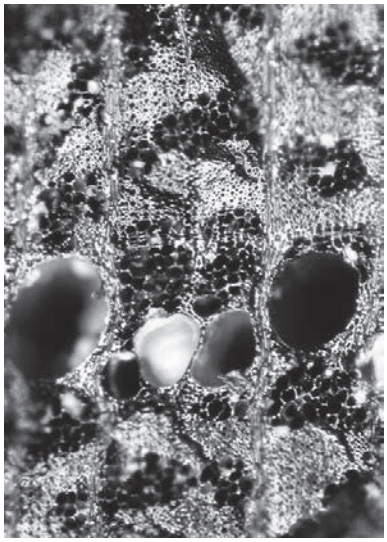
図版194

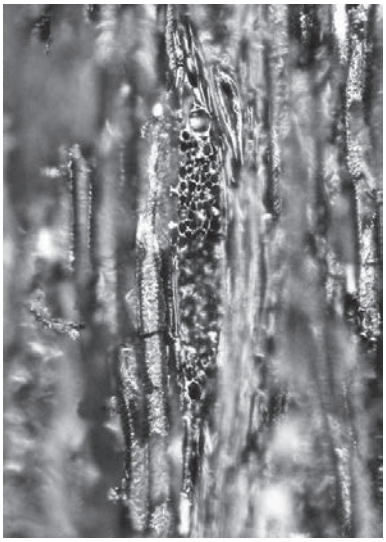




横断面 ——— : 0.4mm　放射断面 ——— : 0.2mm　接線断面 ——— : 0.2mm

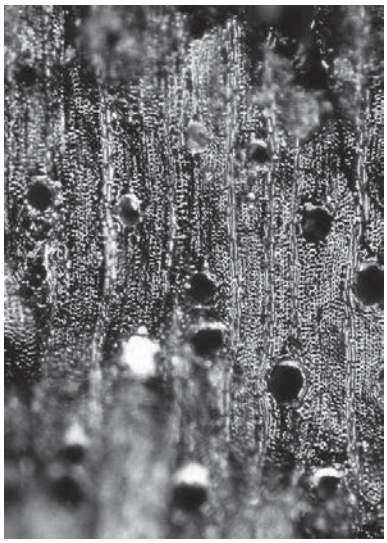
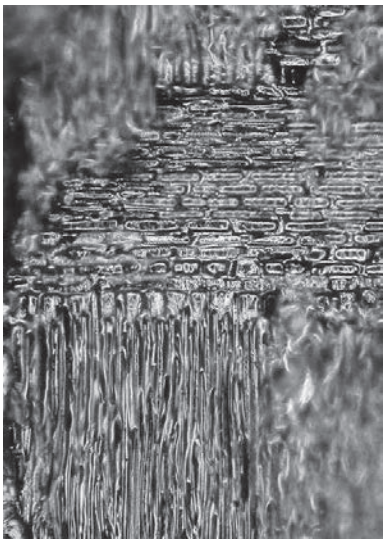
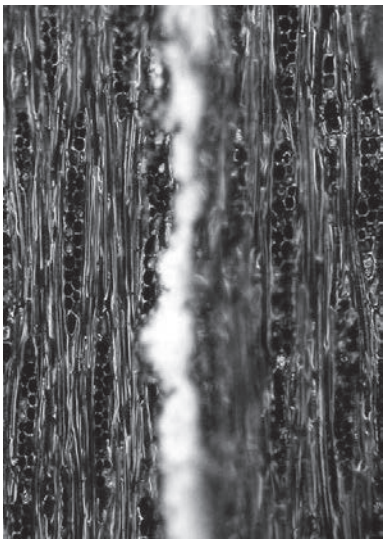
４．No.１　４区 SS4　198　コナラ属アカガシ亜属





横断面 ——— : 0.4mm　放射断面 ——— : 0.2mm　接線断面 ——— : 0.2mm

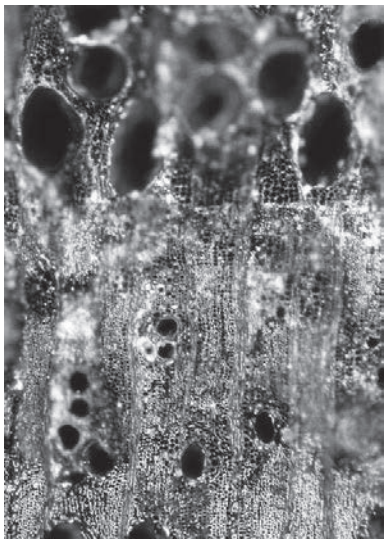
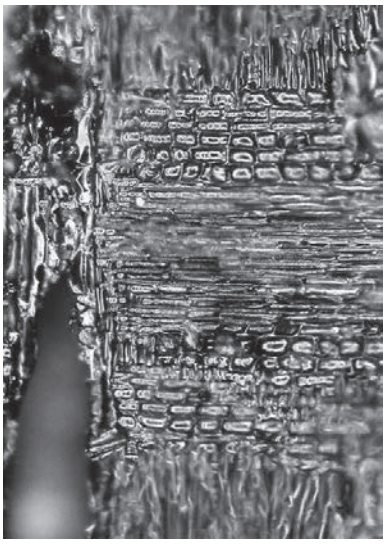
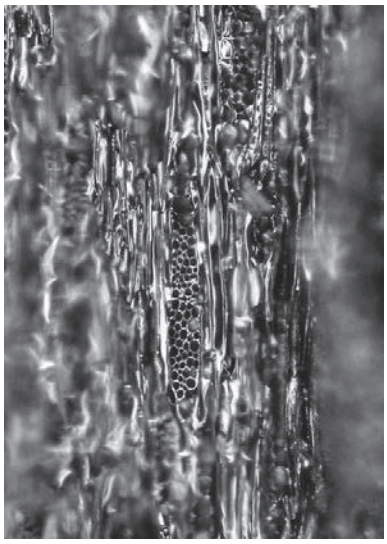
５．No.５　６区 SI1-2　226　ケヤキ

横断面 ——— : 0.4mm　放射断面 ——— : 0.2mm　接線断面 ——— : 0.2mm

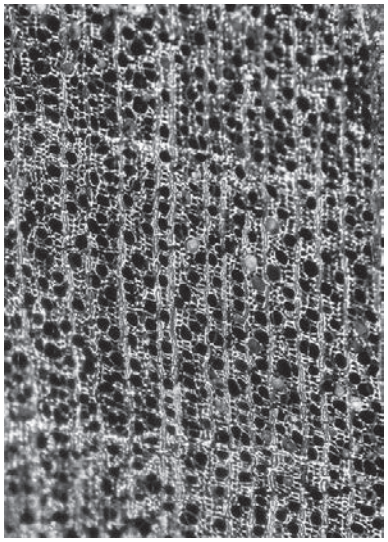
６．No.10　６区 SI10下層　2442　クスノキ科

境矢石遺跡４・６区の炭化材顕微鏡写真（２）

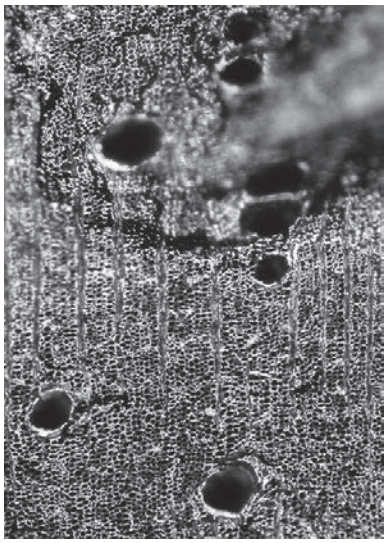
横断面 ——— ： 0.4mm　放射断面 ——— ： 0.2mm　接線断面 ——— ： 0.2mm

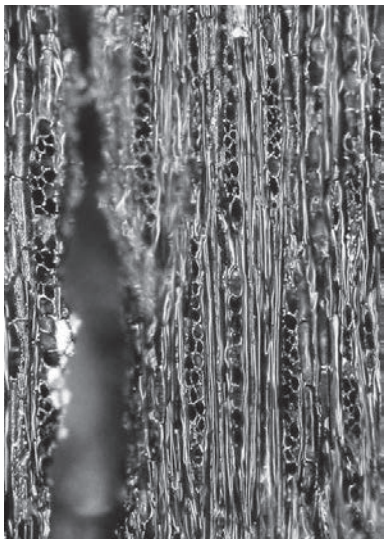
７．No.６　６区 SI2床直　378　ケンポナシ属



横断面 ——— ： 0.4mm　放射断面 ——— ： 0.1mm　接線断面 ——— ： 0.2mm

８．No.２　４区 SS24　3360　サカキ



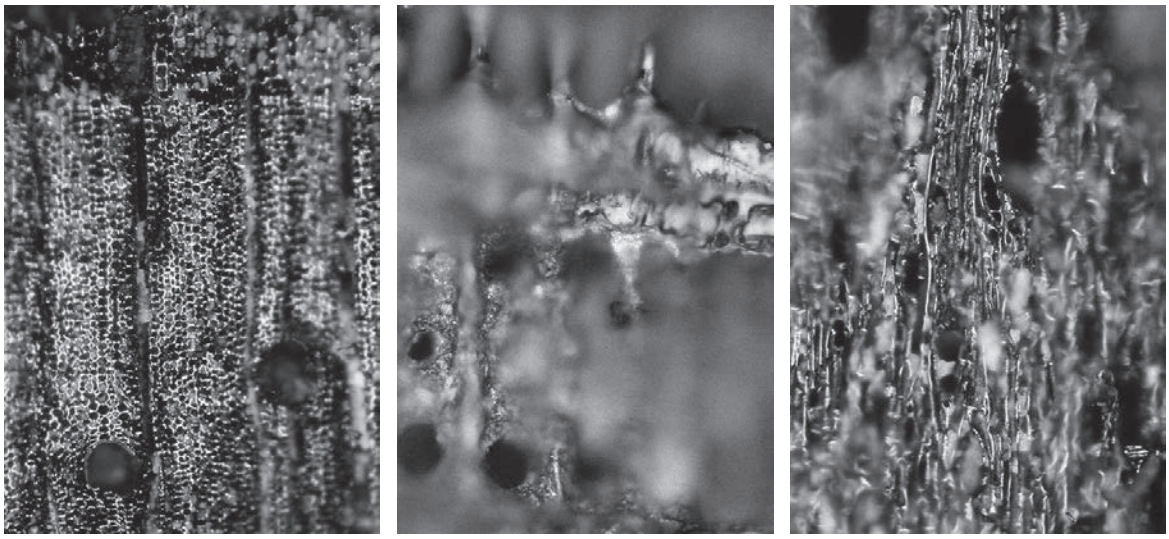


横断面 ——— ： 0.4mm　放射断面 ——— ： 0.2mm　接線断面 ——— ： 0.2mm

９．No.11　６区 SI10上層　2188　カキノキ属

境矢石遺跡４・６区の炭化材顕微鏡写真（３）

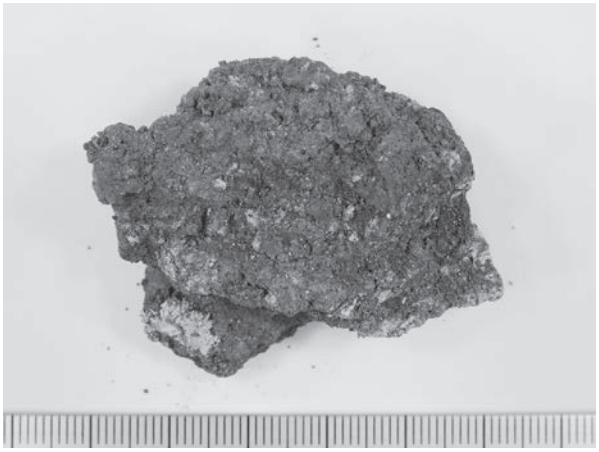
図版196



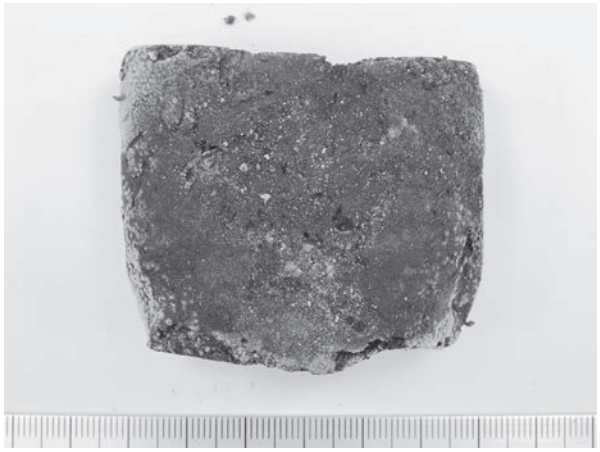
横断面 ―――― ： 0.4㎜　放射断面 ―――― ： 0.04㎜　接線断面 ―――― ： 0.2㎜

４区　ＳＫ４　炭化材　アカマツ

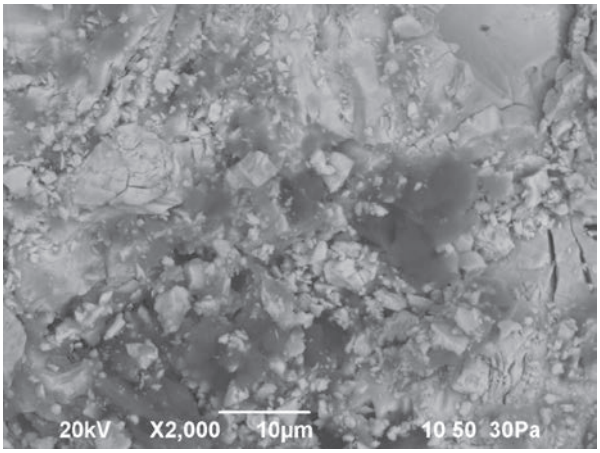
境矢石遺跡４区SK４の炭化材顕微鏡写真



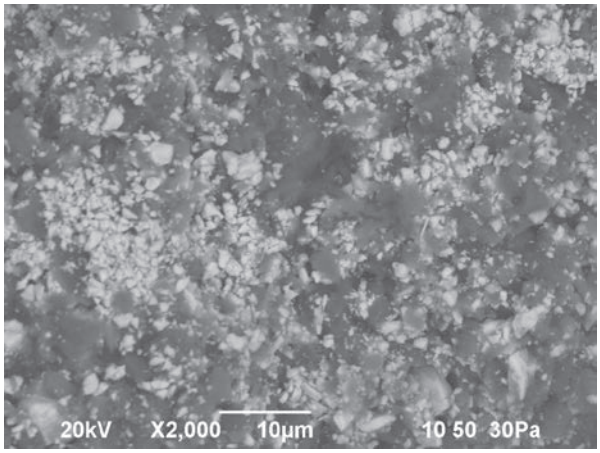
1．5区SK4 試料



2．5区SK12 試料



3．5区SK4 赤色物質のSEM像（反射電子立体像）



4．5区SK12 赤色物質のSEM像（反射電子立体像）

試料の外観、赤色物質のSEM像

図版198

1　コナラ属堅果（4区SS29）

2　カキノキ種子
（6区横穴墓墓室内）

3　同左

5.0mm

4　ハイノキ属核
（6区横穴墓前庭部）

5　ササゲ属炭化子葉（4区SS18-2）

6　同左

1.0mm

境矢石遺跡の種実

報 告 書 抄 録

ふりがな	さかいやいしいせき
書名	境矢石遺跡
副書名	一般国道180号（南部バイパス）道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	Ⅴ
シリーズ名	一般財団法人米子市文化財団埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	6
編著者名	高橋浩樹　濵野浩美　小原貴樹　佐伯純也
編集機関	一般財団法人 米子市文化財団 埋蔵文化財調査室
所在地	〒683-0011　鳥取県米子市福市281番地　　TEL・FAX　0859-26-0455 eメールアドレス　yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp
発行年月日	西暦2015年３月27日　　平成27年３月27日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
境矢石遺跡	鳥取県西伯郡南部町境	31389	南部町650	35度22分53秒	133度20分30秒	2010年３月15日～2010年３月30日	900㎡	道路建設工事
						2010年４月21日～2011年３月29日	8,700㎡	
						2011年４月13日～2012年３月30日	5,800㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
境矢石遺跡		縄文時代	陥穴	縄文土器、石器	
	墳墓	弥生時代前期～中期	土壙墓 木棺墓 溝状土壙 弧状溝 土壙 石列 貯蔵穴 土坑 土器溜	弥生土器、土錘、石器、管玉、管玉状石製品	
	集落跡	弥生時代後期	竪穴建物 段状遺構 掘立柱建物 木棺墓 土坑 溝状遺構	弥生土器、石器、碧玉製管玉、鉄器、ガラス製管玉	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
境矢石遺跡	集落跡	古墳時代前期	竪穴建物 段状遺構 竈	土師器、石器、鉄器、翡翠製勾玉	
		古墳時代中期	竪穴建物 段状遺構 土　坑 溝状遺構	土師器、須恵器、石器、鉄器、滑石製臼玉、ガラス製小玉	
			竪穴建物 木棺墓 土壙墓 横穴墓 版築状遺構	土師器、須恵器、石器、鉄器、臼玉、土玉、耳環	
		古　　代	段状遺構 掘立柱建物 柵　列 土　坑 溝状遺構	土師器、須恵器、石器、鉄器、製塩土器、土馬、鞴羽口	
		中　近　世	段状遺構 掘立柱建物 溝状遺構	土師質土器、須恵器、石器、鉄器、陶磁器、銭貨、煙管	

要　　約

境矢石遺跡は、鳥取・島根県境の母塚山（標高272m）から北東へのびる丘陵からさらに南東に派生する支丘陵の先端と、この支丘陵を開折する谷部に位置する。

調査の結果、縄文時代から近世の遺構と遺物を検出した。

縄文時代は、丘陵部と谷部で陥穴を検出し、丘陵部と谷部とでは平面形態や底面ピットの有無に違いがある。

弥生時代前期から中期は、木棺墓91基、土壙墓４基、石囲墓１基、墳墓関連の遺構と考えられる溝状土壙、弧状溝、土壙などを検出した。墓域は東西160m、南北55mを測り、基数のうえでも山陰最大級の集団墓地といえる。

弥生時代後期から古墳時代中期には集落が形成される。丘陵部では、斜面を削平、造成した段状遺構内に竪穴建物や掘立柱建物などが構築される。弥生時代後期から古墳時代前期にかけては、集落は、弥生時代前期から中期の墓域を避けるように形成されるが、古墳時代中期になると、弥生時代前期から中期の墓域と重複するように竪穴建物が構築され、墓域としての意識が失われる。

古墳時代後期になると、集落の形成は断絶し、その後墓域となる。木棺墓、土壙墓、横穴墓が構築されるが、古墳は認められない。

古代になると、再び集落が形成されるようになり、丘陵部では、斜面を削平、造成した段状遺構内に掘立柱建物などが構築される。

中世には、小規模な集落が形成され、中国産の陶器、青磁、白磁が出土しており、遺跡の性格を考えるうえでは興味深い資料である。

一般財団法人米子市文化財団埋蔵文化財発掘調査報告書６

一般国道180号（南部バイパス）道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ

鳥取県西伯郡南部町

境矢石遺跡

２０１５年３月

編集・発行　一般財団法人　米子市文化財団

〒683-0011　鳥取県米子市福市281番地

ＴＥＬ　０８５９―２６―０４５５

印　　刷　　勝美印刷株式会社